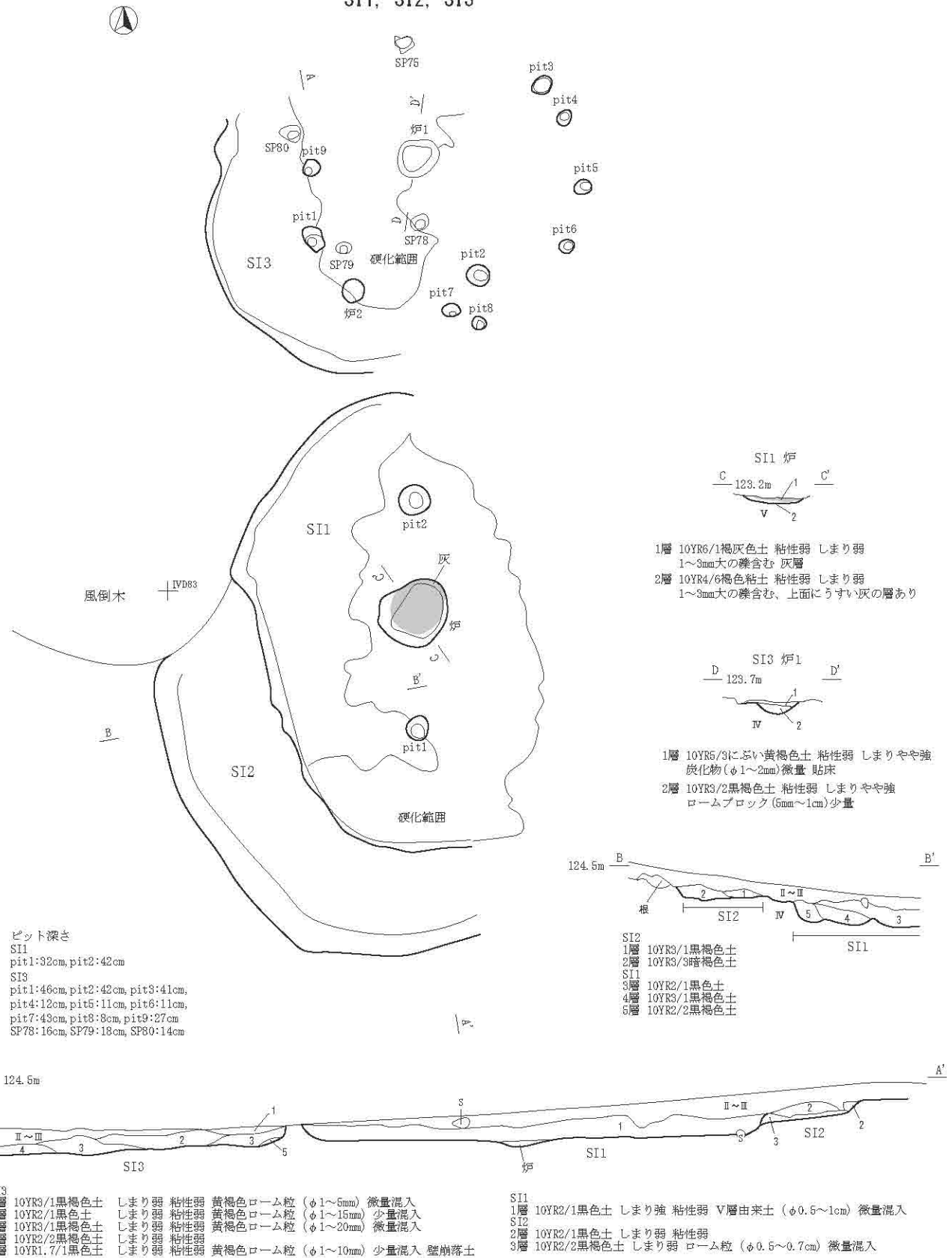
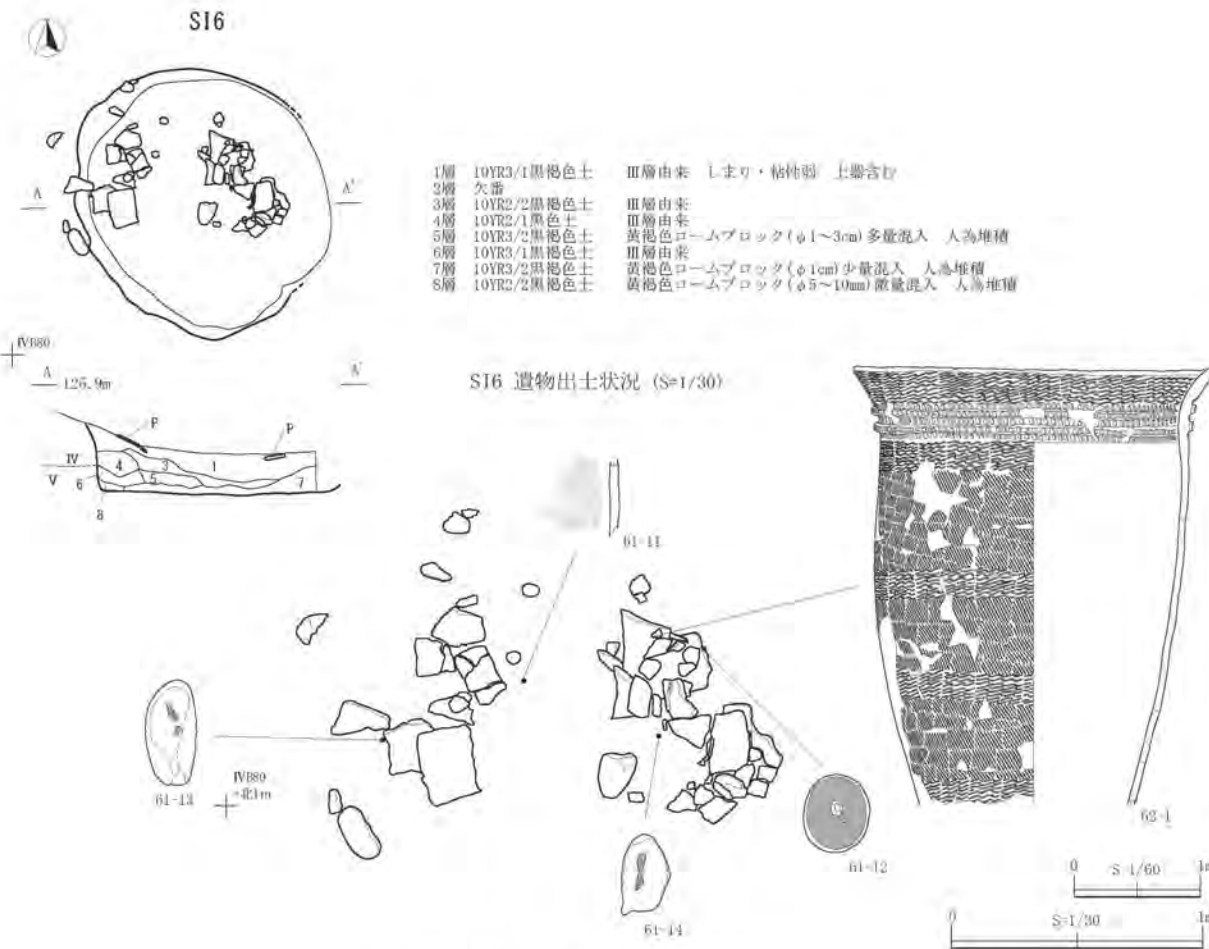
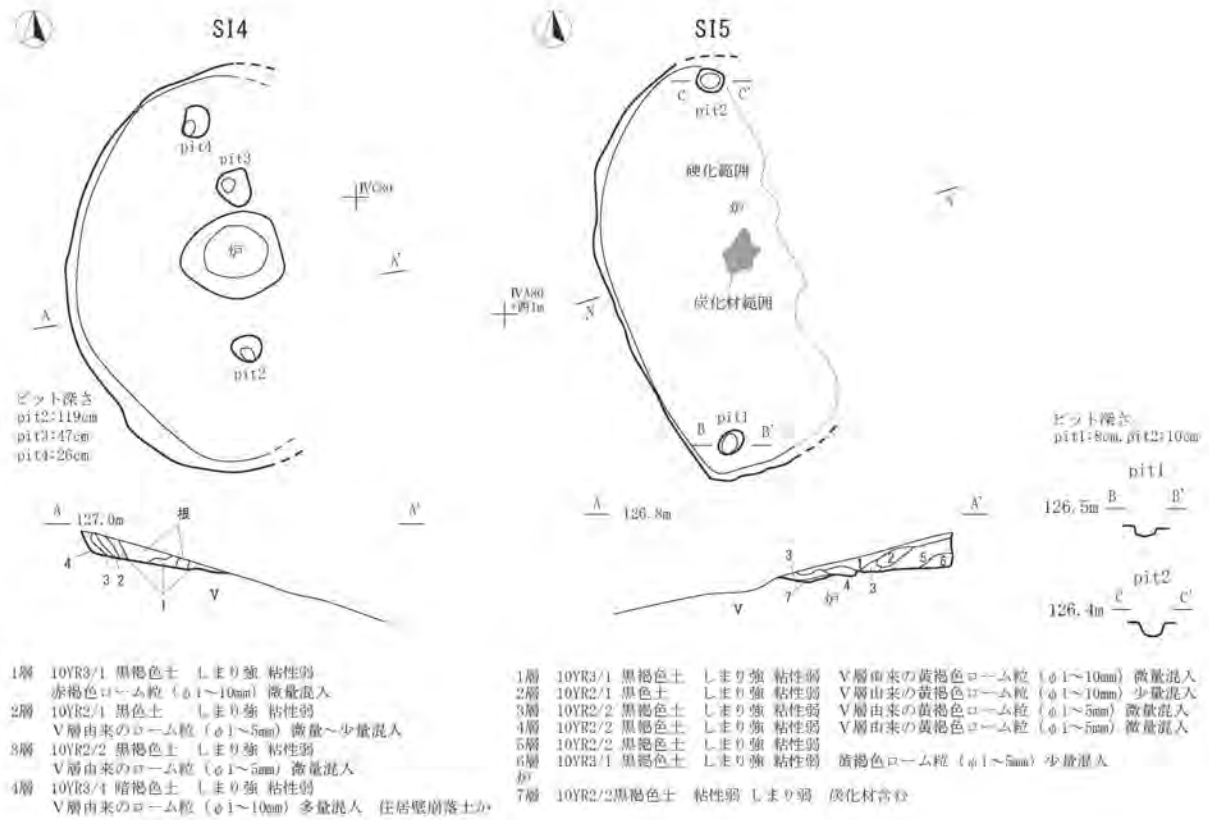


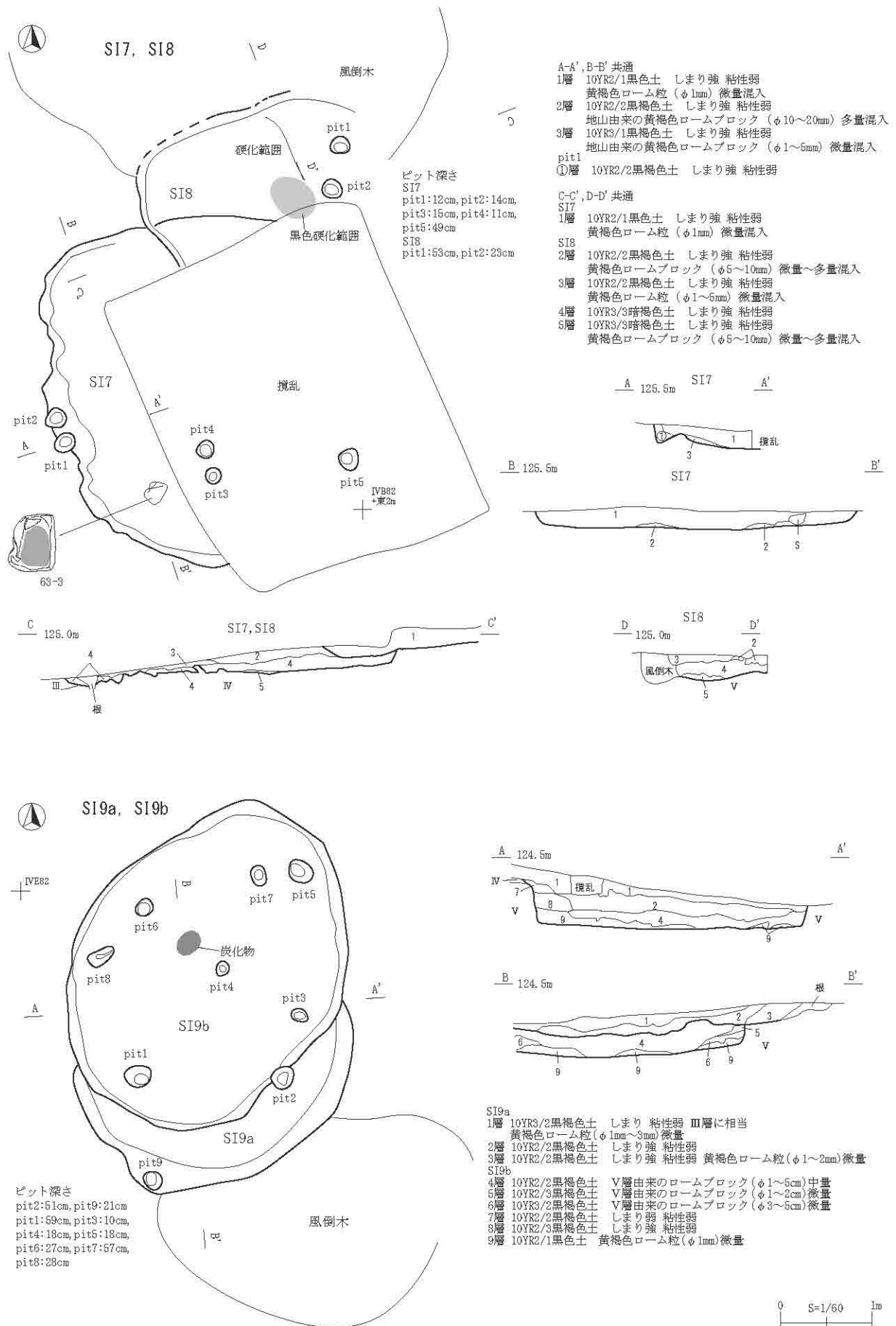
SI1, SI2, SI3



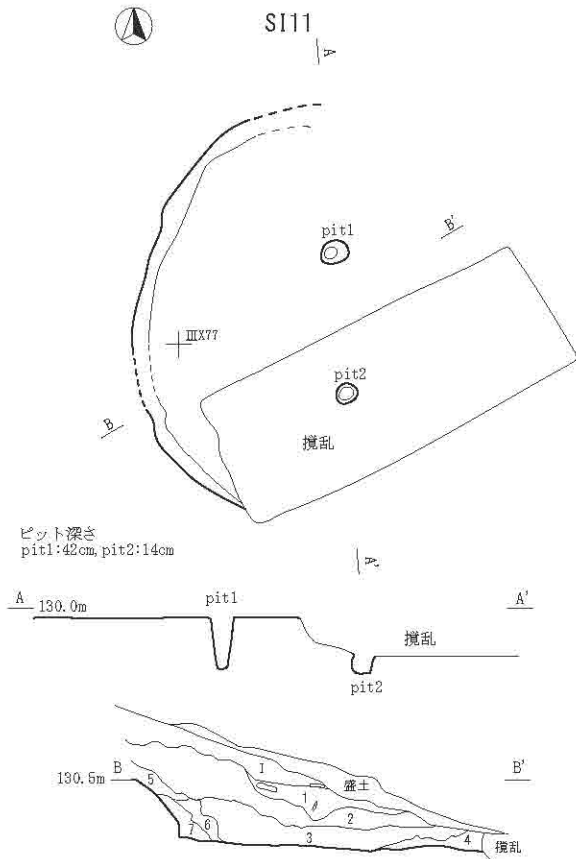
第7図 遺構図1 (SI1~SI3)



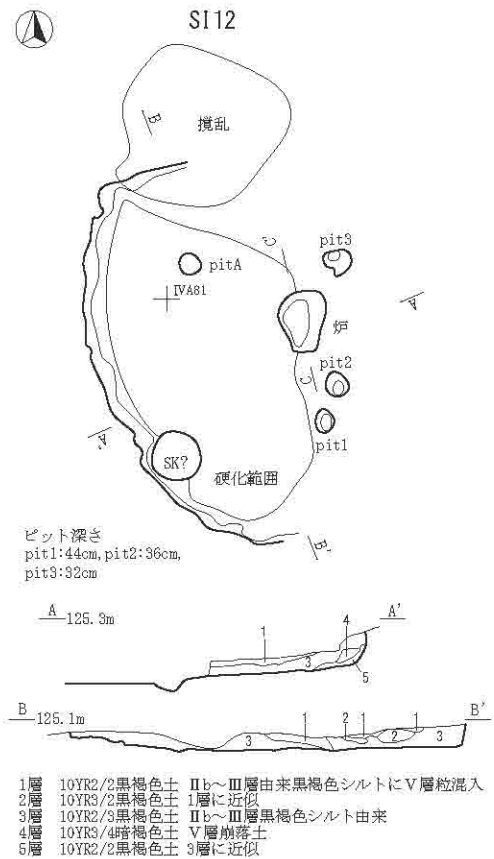
第8図 遺構図2 (SI4~SI6)



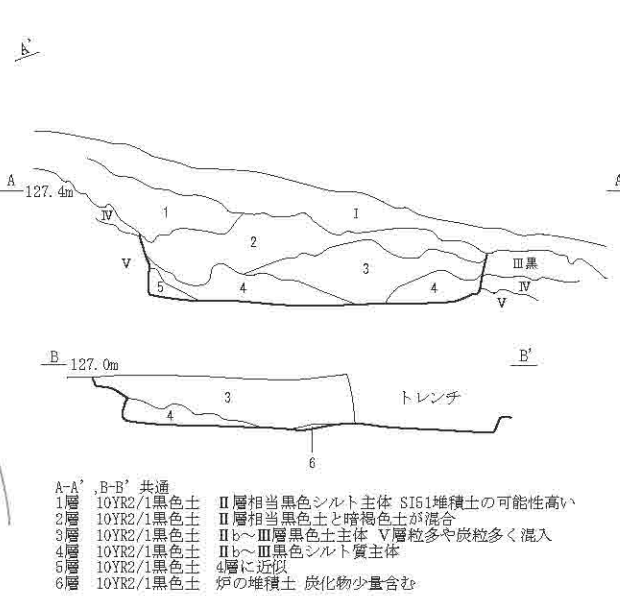
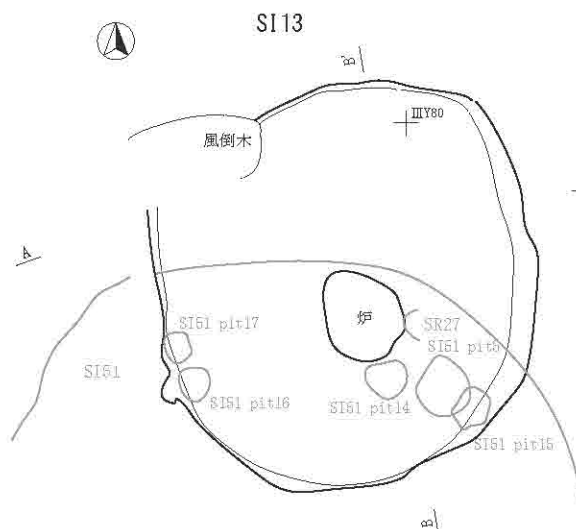
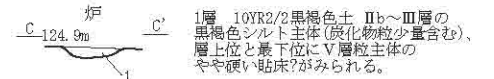
第9図 遺構図3 (SI7, SI8, SI9a, SI9b)



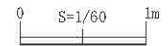
- 1層 10YR3/2黒褐色土 II a類似層相当粘土主体 前期土器片含む
 2層 10YR3/2黒褐色土 II b層黒褐色シルト主体 炭粒・VI層粘土粒含む
 3層 10YR3/2黒褐色土 II b層黒褐色土にVI層小塊・粒が混入 やや締まる
 4層 10YR2/3黒褐色土 II b層黒褐色シルト主体
 5層 10YR2/2黒褐色土 III層黒色土とII b層黒褐色土混合 崩落土?
 6層 10YR2/2黒褐色土 5層に近似しやや黒い
 7層 10YR3/2黒褐色土 3層に近似
- ※全体に人為的埋め戻し。3層以下と2層より上で堆積時期が異なる可能性がある。



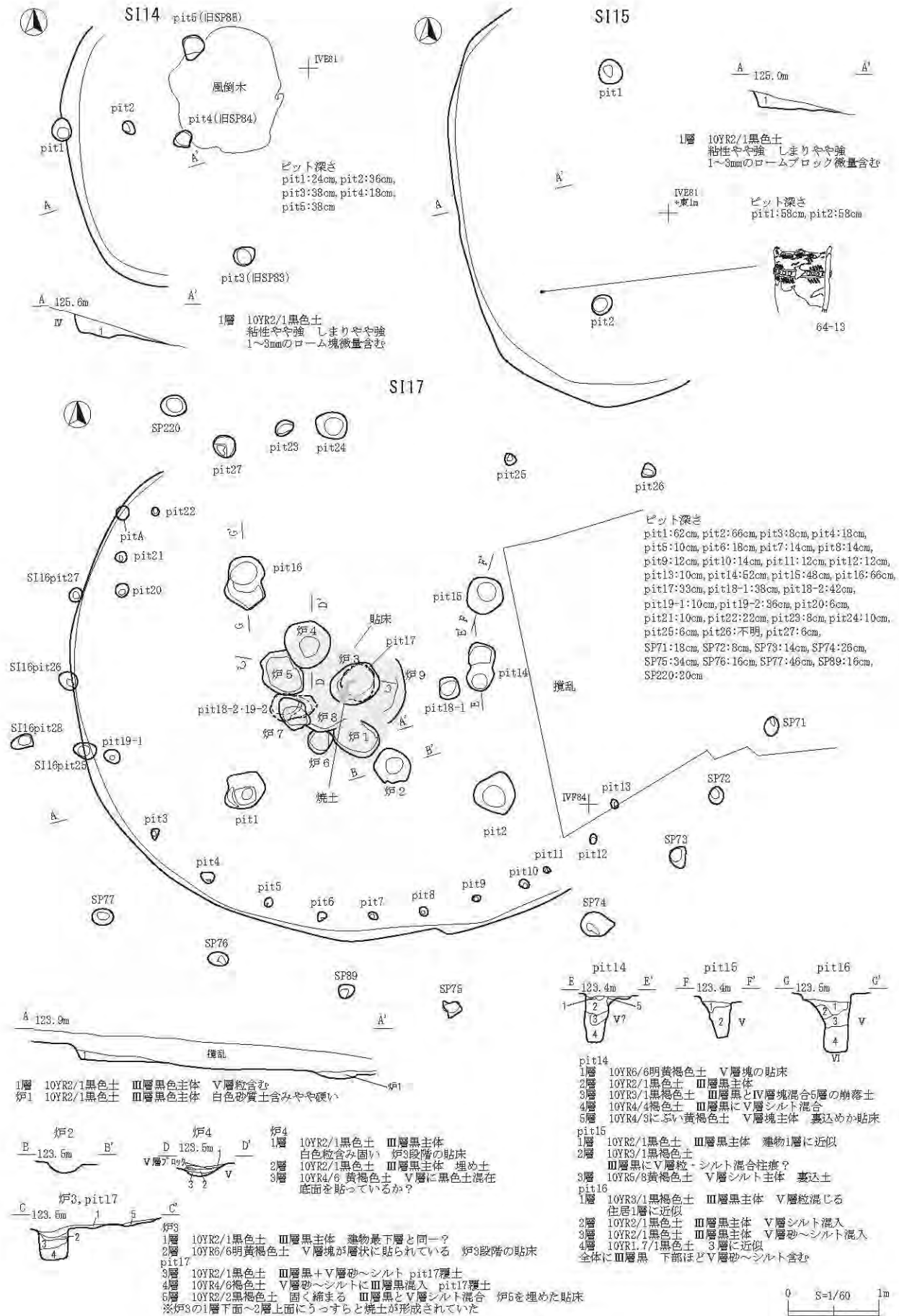
- 1層 10YR2/2黒褐色土 II b~III層由来黒褐色シルトにV層粒混入
 2層 10YR3/2黒褐色土 1層に近似
 3層 10YR2/3黒褐色土 II b~III層黒褐色シルト由来
 4層 10YR3/4暗褐色土 V層崩落土
 5層 10YR2/2黒褐色土 3層に近似



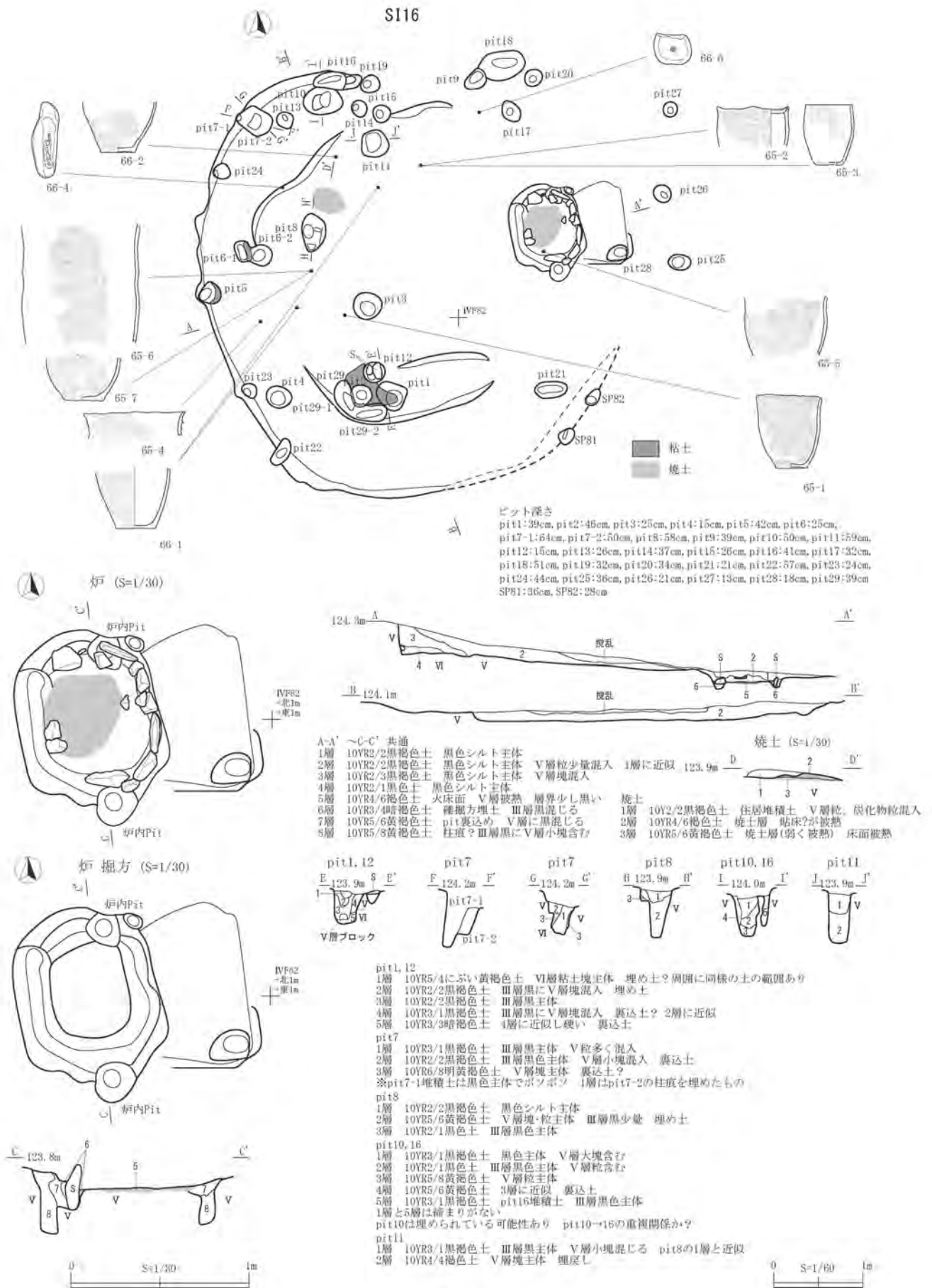
- A-A', B-B' 共通
 1層 10YR2/1黒色土 II層相当黒色シルト主体 SI161堆積土の可能性高い
 2層 10YR2/1黒色土 II層相当黒色土と暗褐色土が混合
 3層 10YR2/1黒色土 II b~III層黒色土主体 V層粒多や炭粒多く混入
 4層 10YR2/1黒色土 II b~III層黒色シルト質主体
 5層 10YR2/1黒色土 4層に近似
 6層 10YR2/1黒色土 炉の堆積土 炭化物少量含む



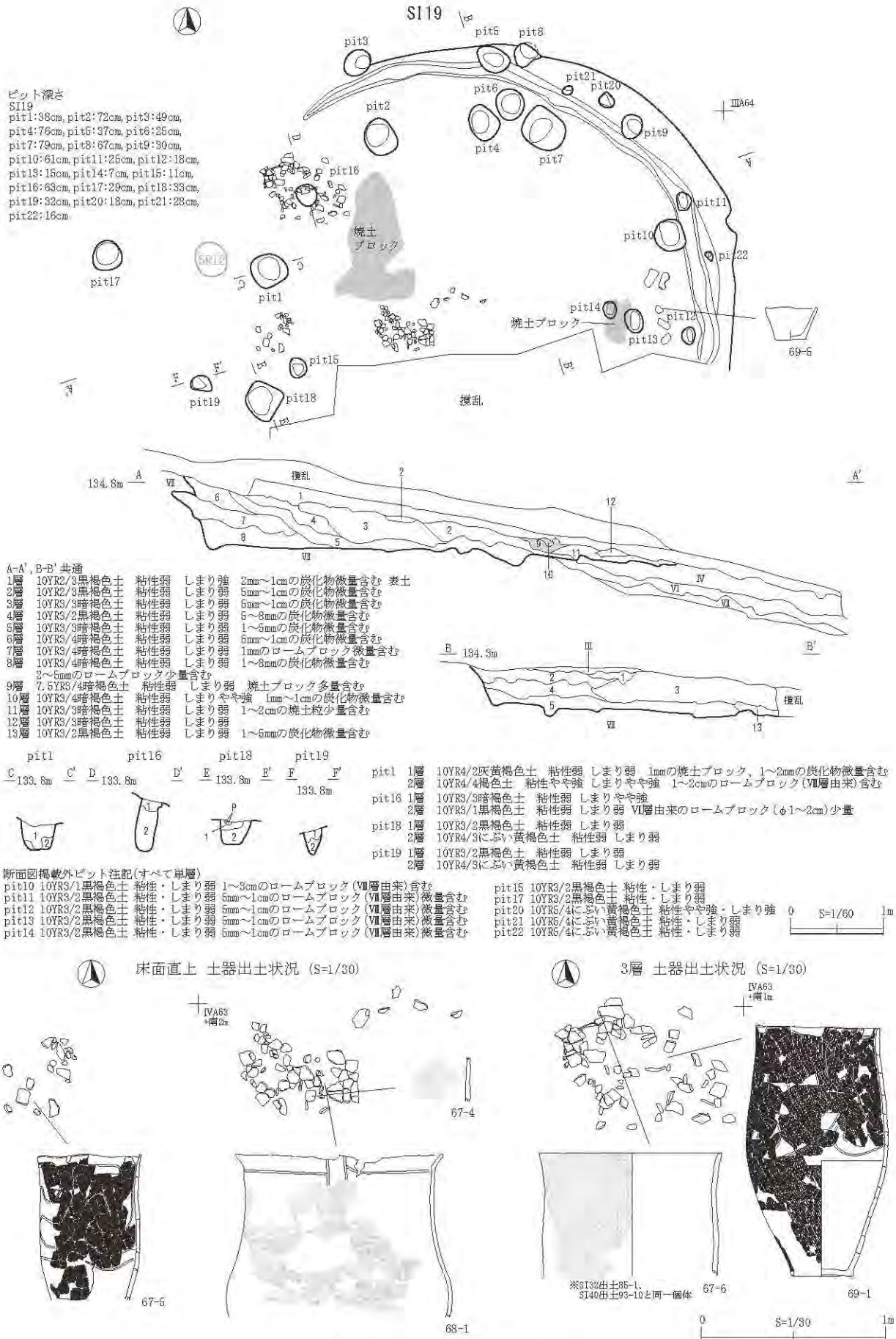
第10図 遺構図4 (SI11~SI13)



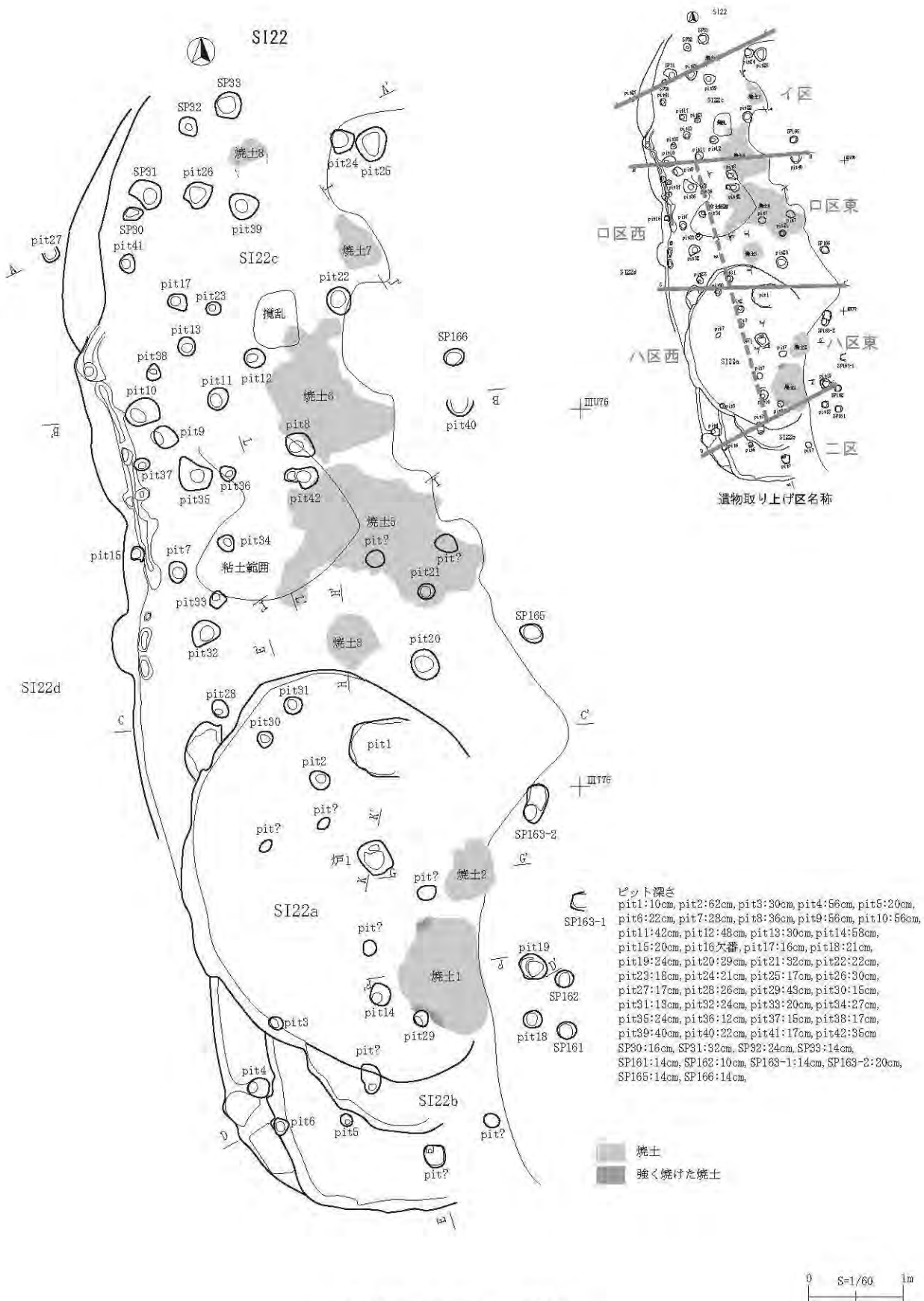
第11図 遺構図5 (SI14, SI15, SI17)



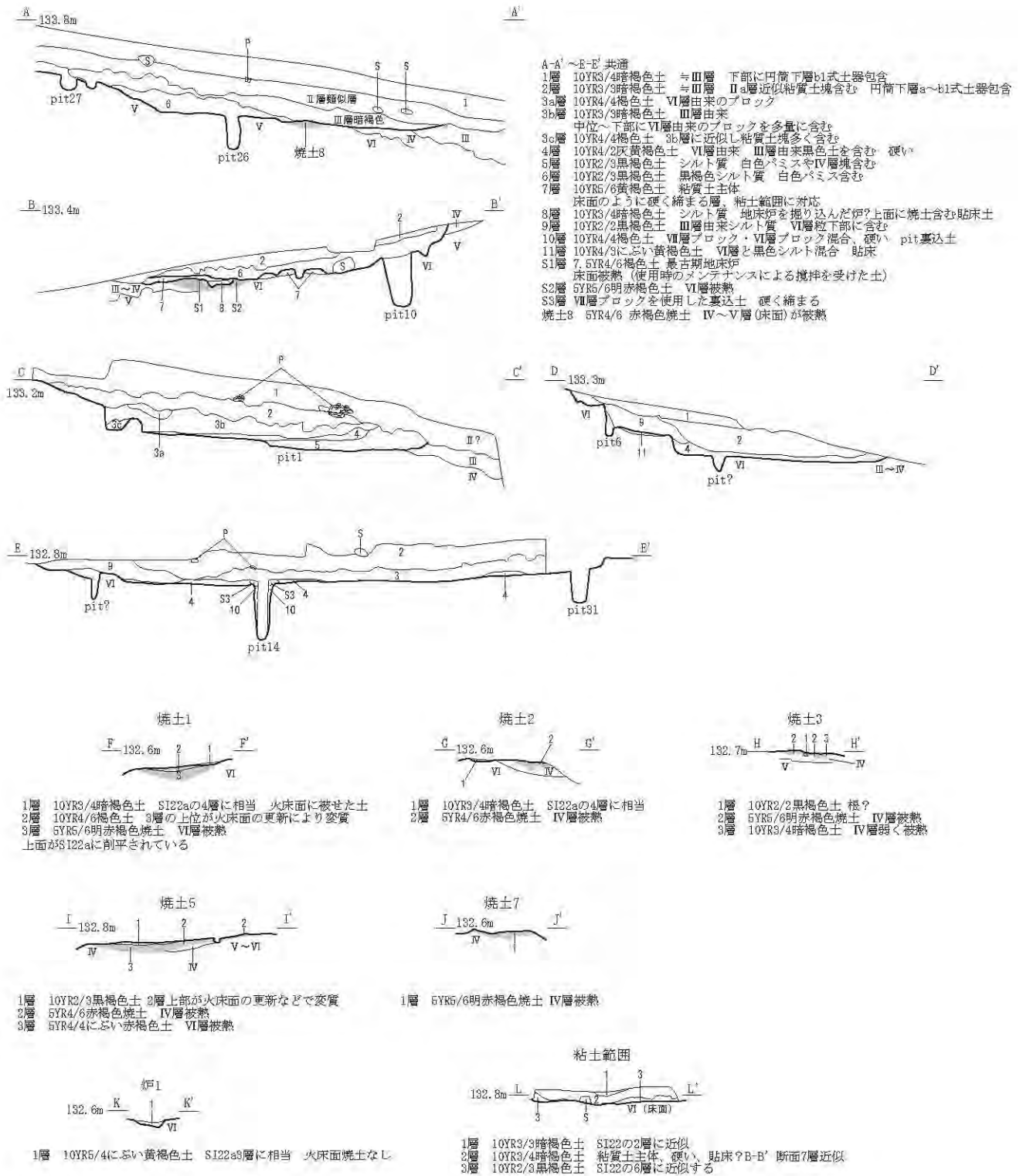
第12図 遺構図6 (SI16)



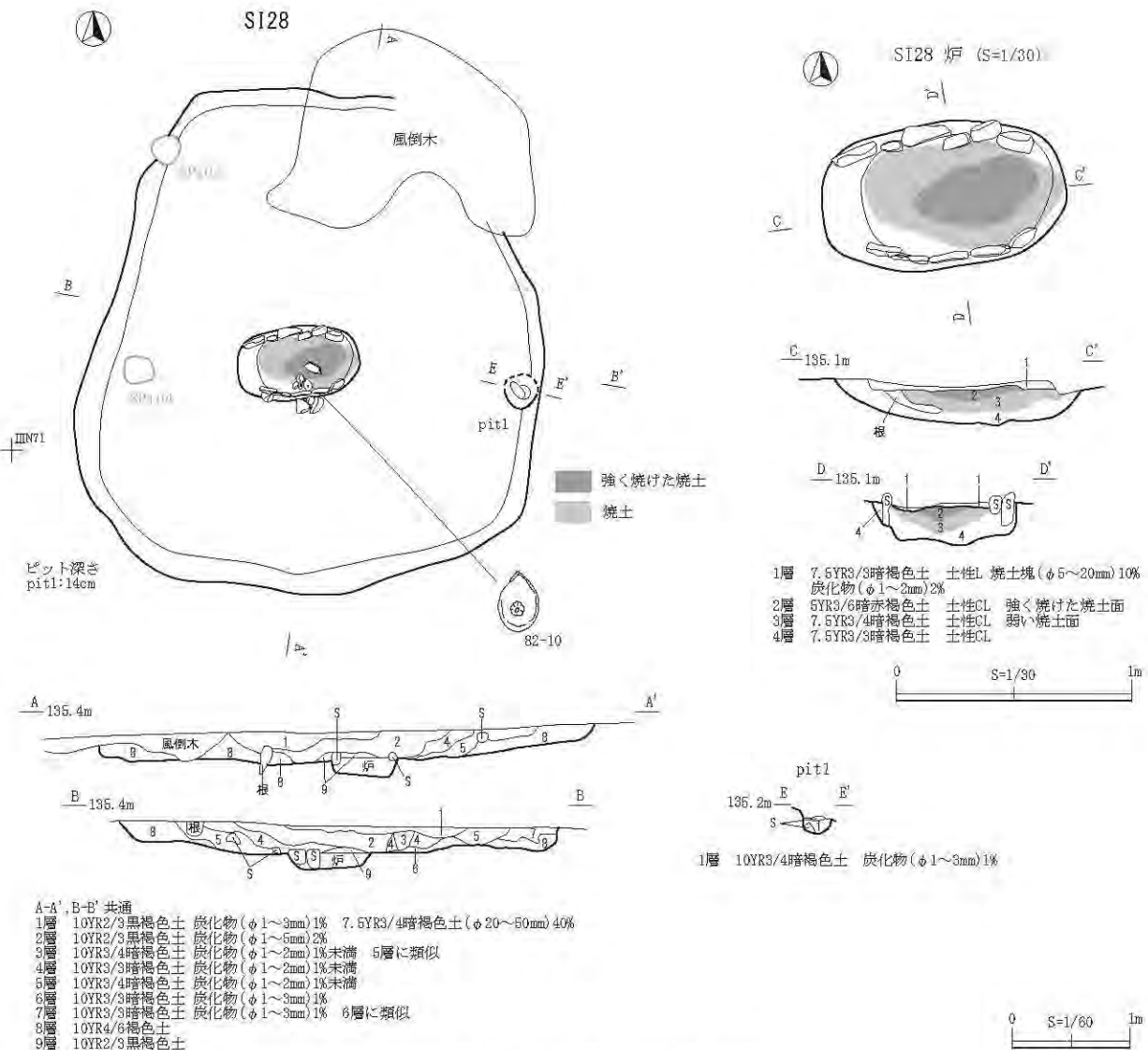
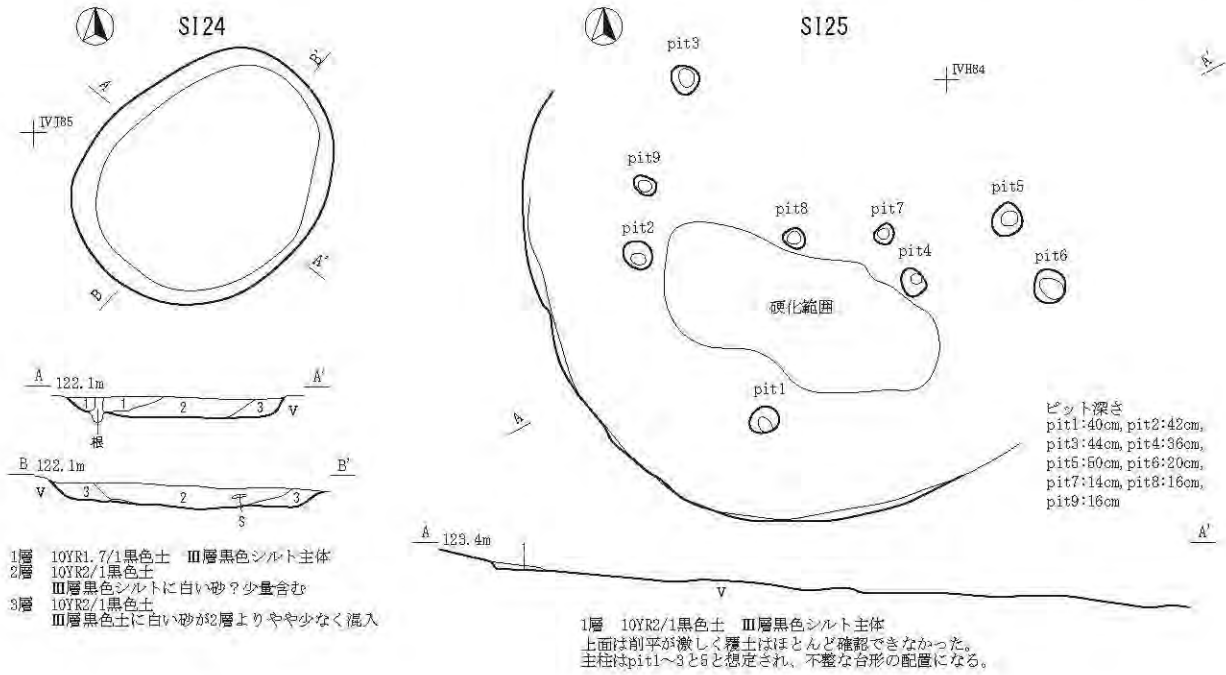
第14図 遺構図8 (SI19)



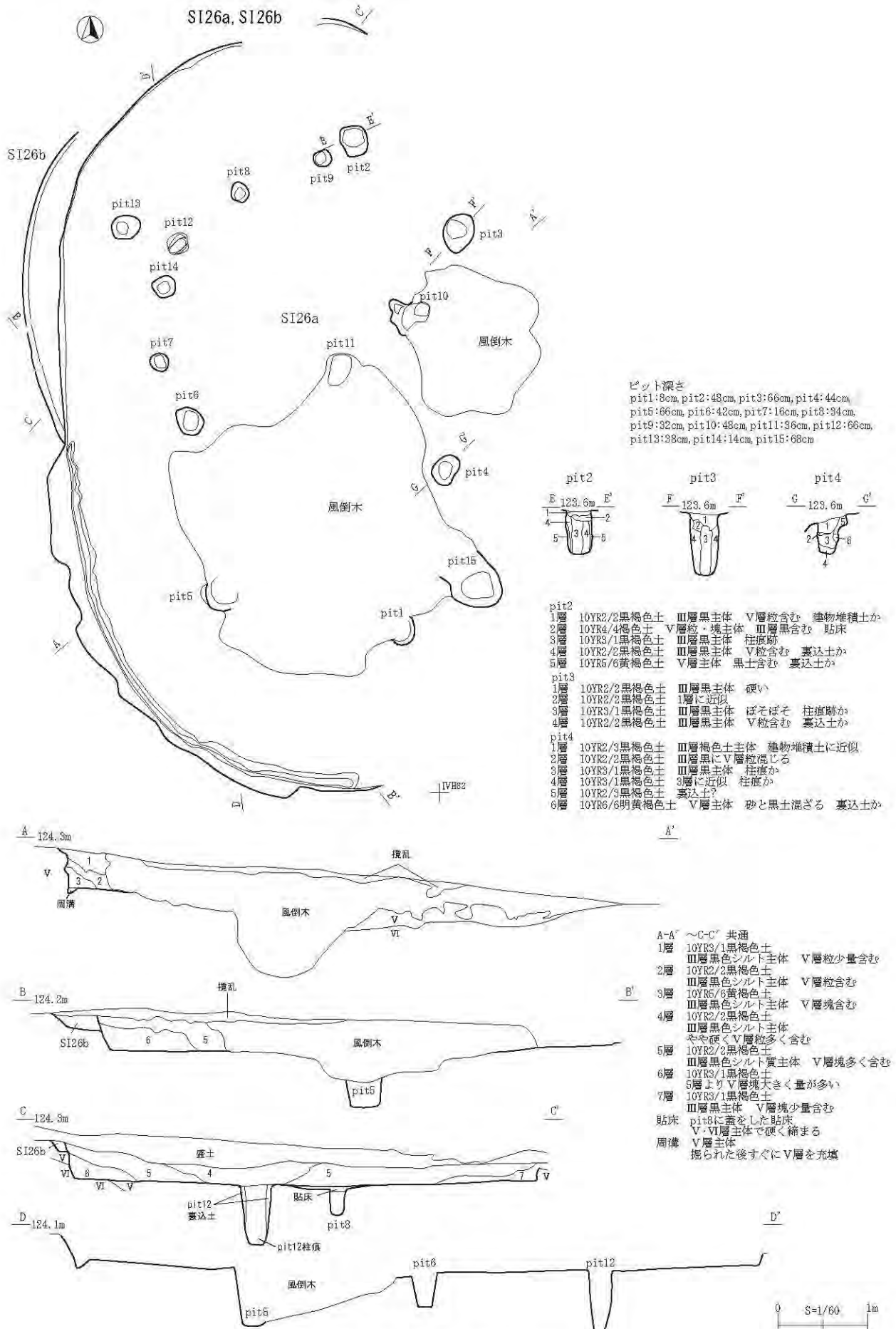
第15図 遺構図9 (SI22)



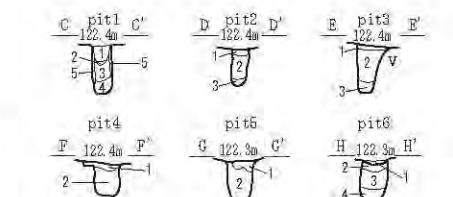
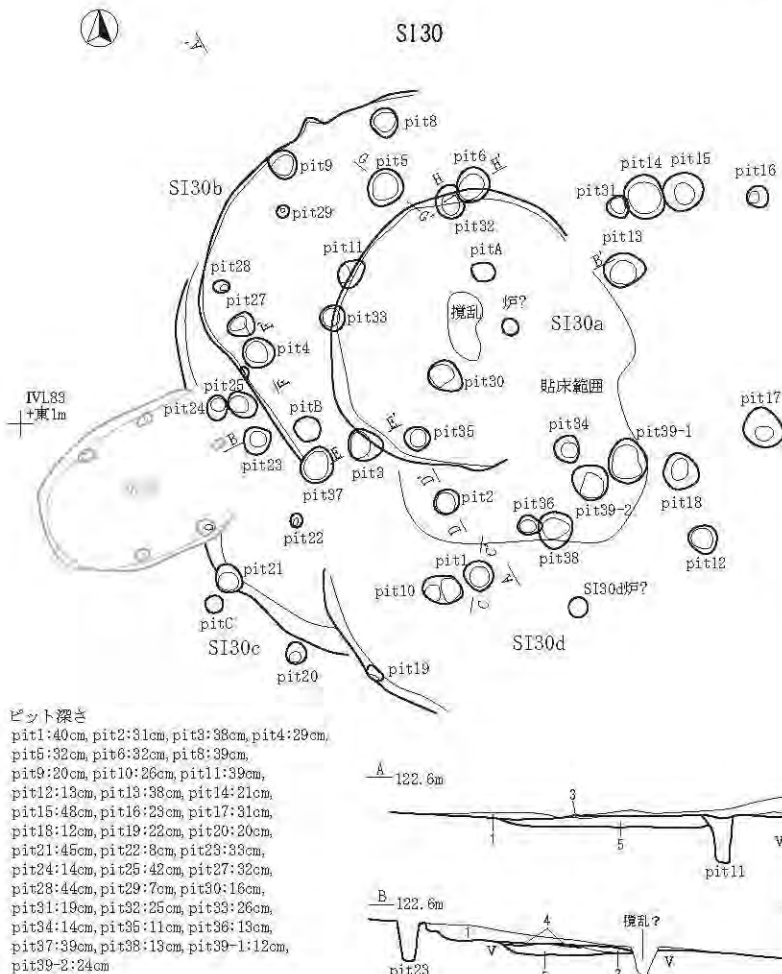
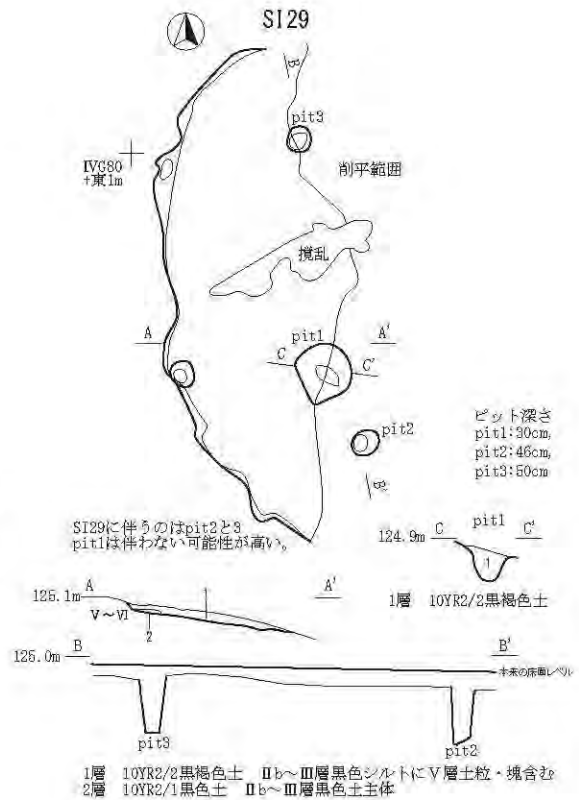
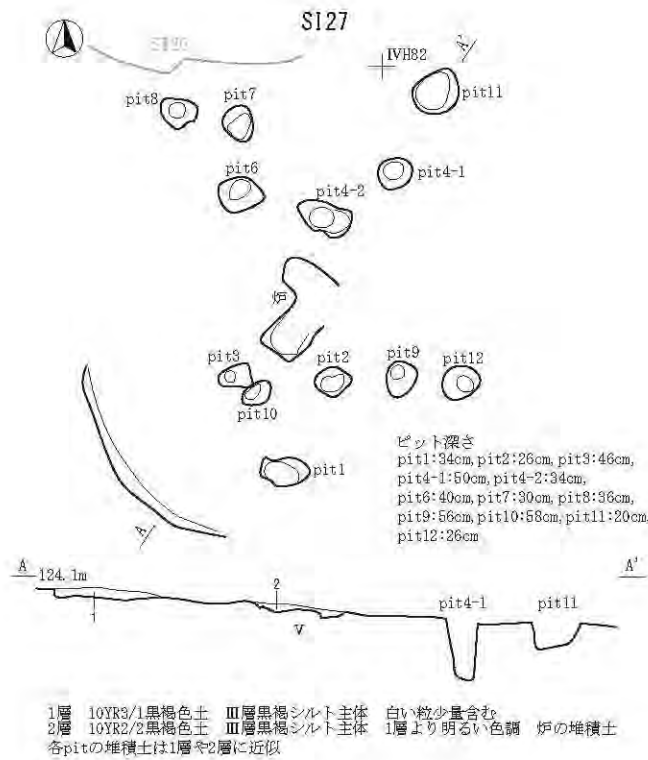
第16図 遺構図10 (SI22)



第18図 遺構図12 (SI24, SI25, SI28)



第19図 遺構図13 (SI26a, SI26b)



pit1 ※貼床より上から掘り込み
 1層 10YR2/1黒色土 III層黒主体 粘りなし
 2層 10YR5/6黄褐色土 V層塊主体 崩落土
 3層 10YR3/2黒褐色土 III層黒主体 V層塊含む
 4層 10YR2/1黒色土 砂主体
 5層 10YR5/6黄褐色土 III層黒+V-VI層土 裏込土
 1~4層は柱痕に流れ込んだ土

pit2
 1層 10YR3/1黒褐色土 III層黒主体 貼床
 2層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体 V層塊含む 粘りなし
 3層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体 V層粒含む

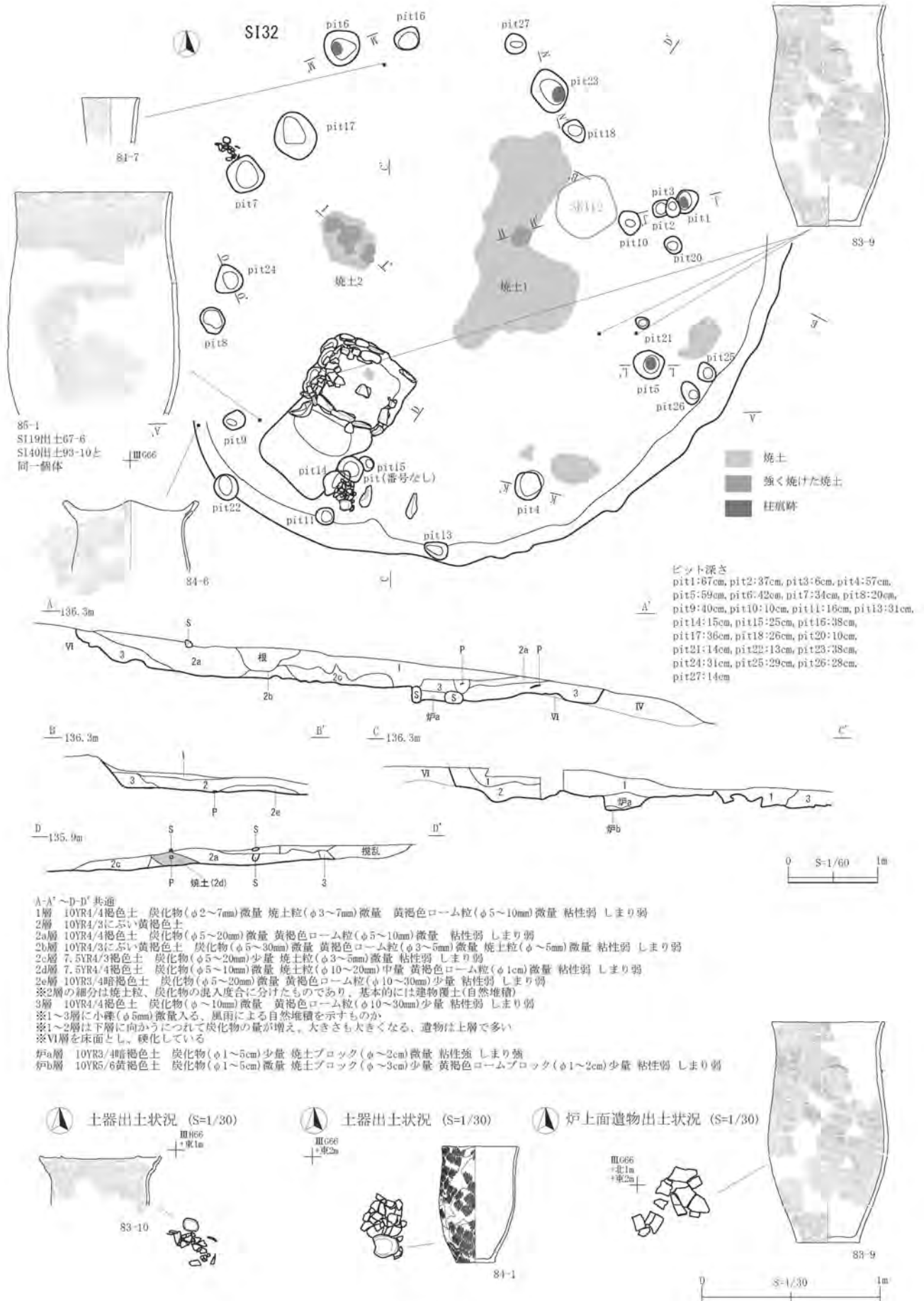
pit3
 1層 10YR3/1黒褐色土 III層黒主体
 V層層状に貼られ硬く縮まった貼床
 2層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体 V層塊含む 粘りなし
 3層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体 V層粒含む

pit4
 1層 10YR3/1黒褐色土 III層黒主体
 V層層状に貼られ硬く縮まった貼床
 2層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体 V層塊含む 粘りなし

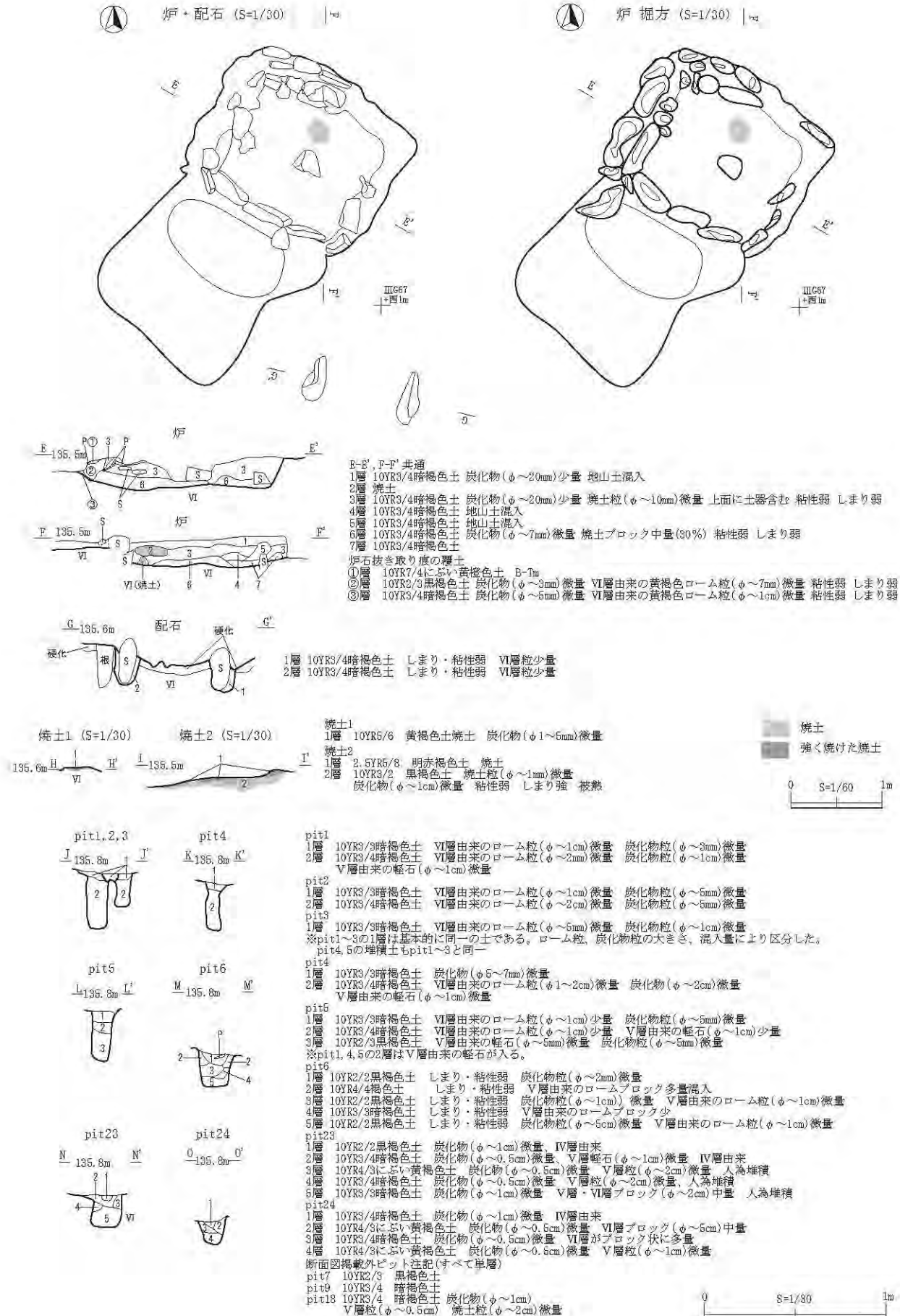
pit5
 1層 10YR2/2黒褐色土 貼床土
 2層 10YR3/1黒褐色土 III層黒主体 V層粒含む

pit6
 1層 10YR2/2黒褐色土 III層黒 SI30b堆積土1層
 2層 10YR3/1黒褐色土 貼床土 硬く縮まる
 3層 10YR2/1黒色土 III層黒主体 V層粒含む
 4層 10YR2/2黒褐色土 V層粒多く混入

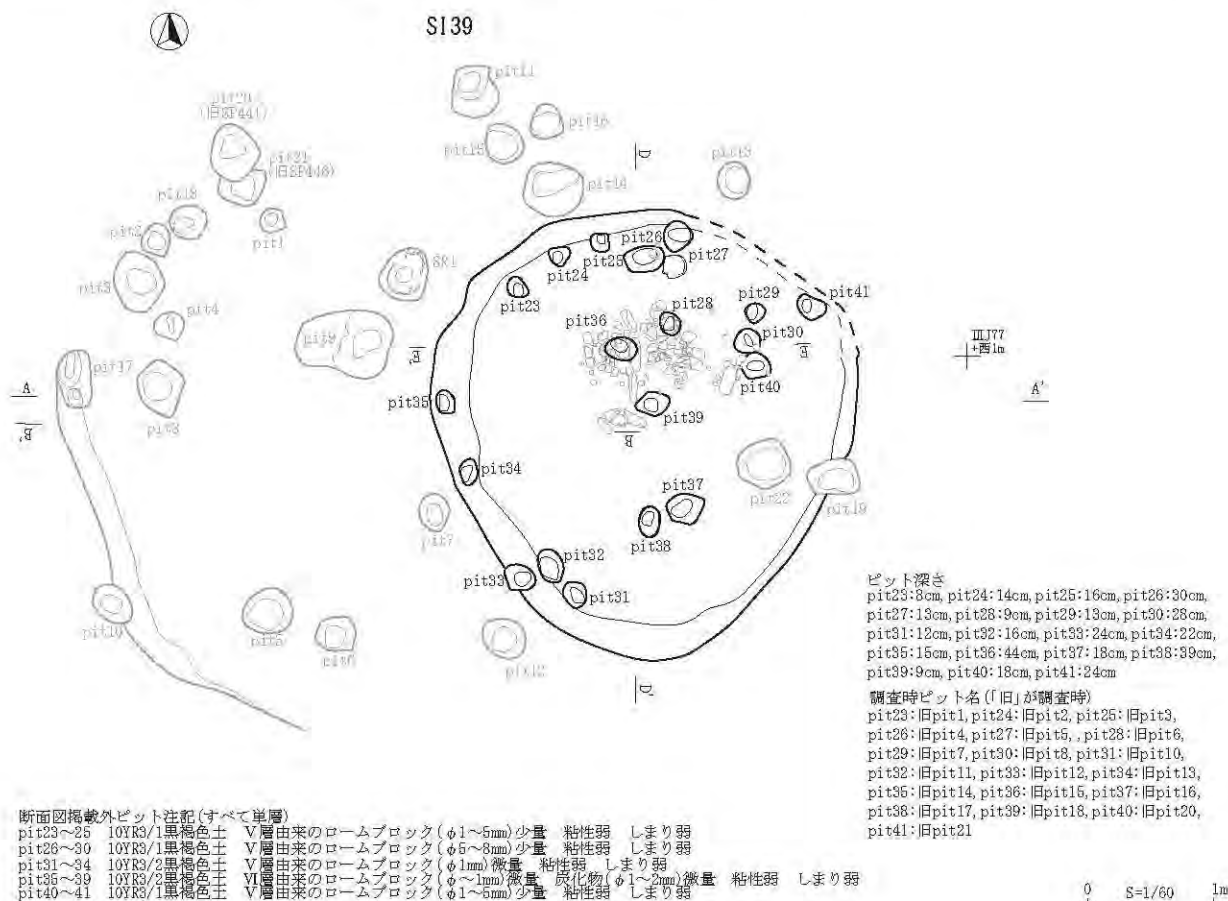
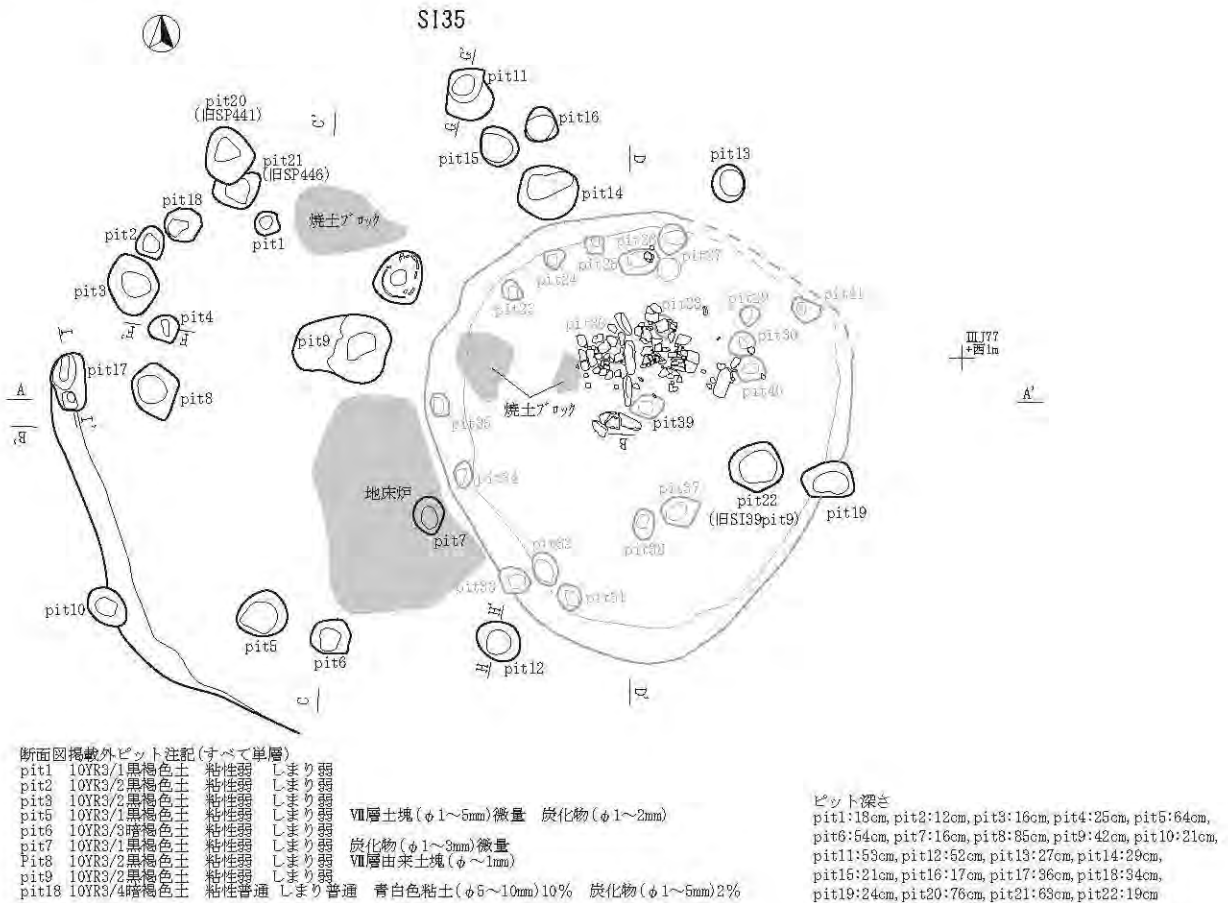
第20図 遺構図14 (SI27, SI29, SI30)



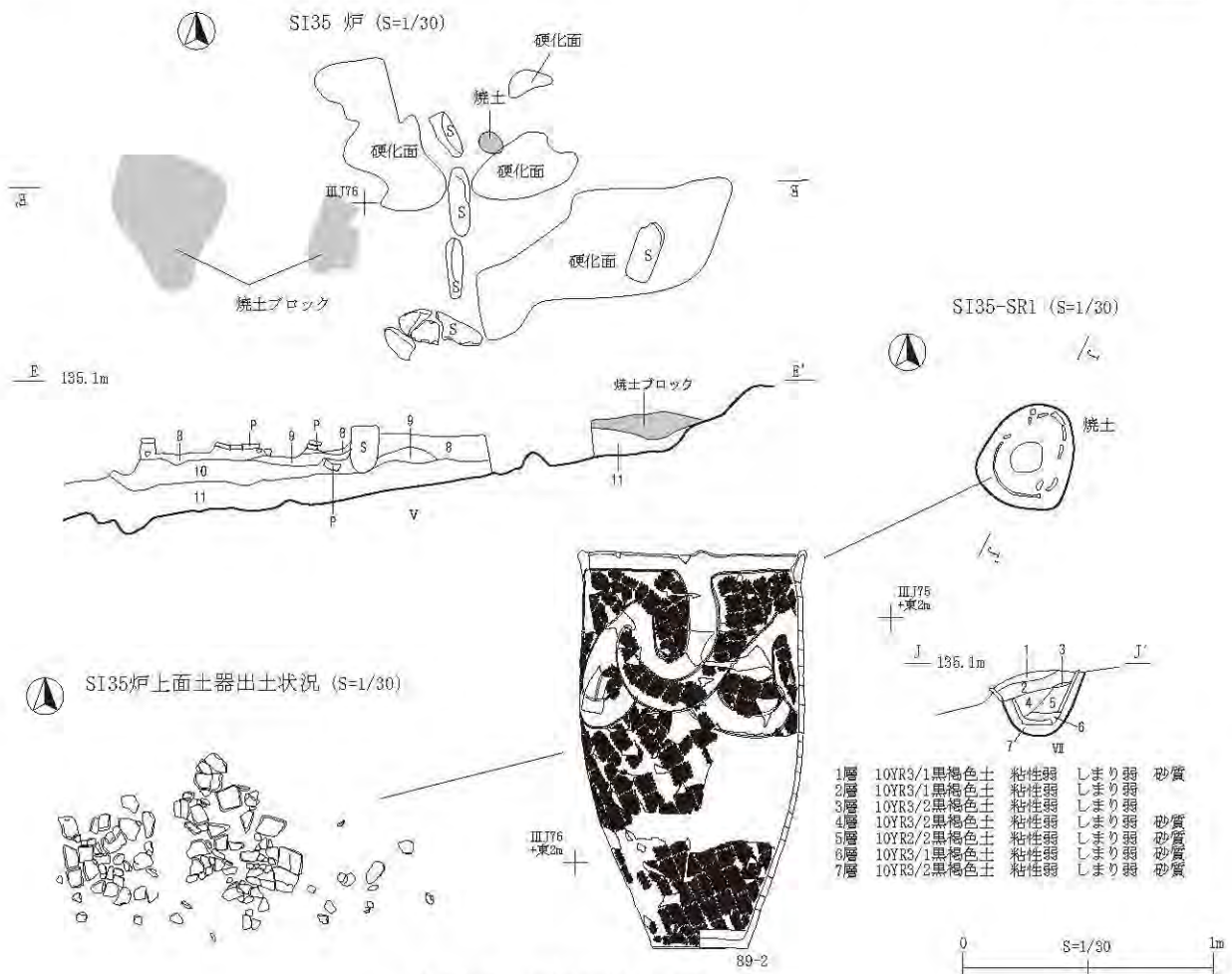
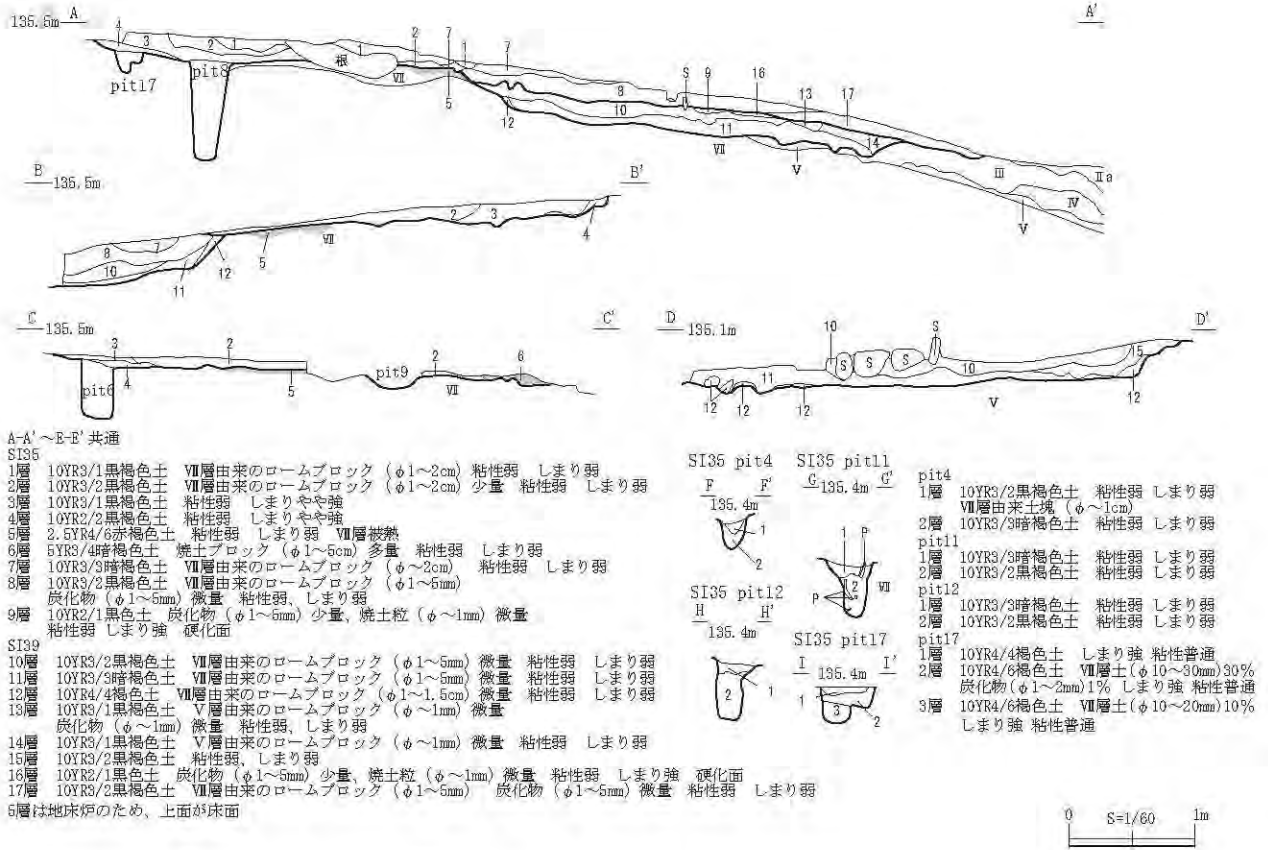
第21図 遺構図15 (SI32)



第22図 遺構図16 (S132)



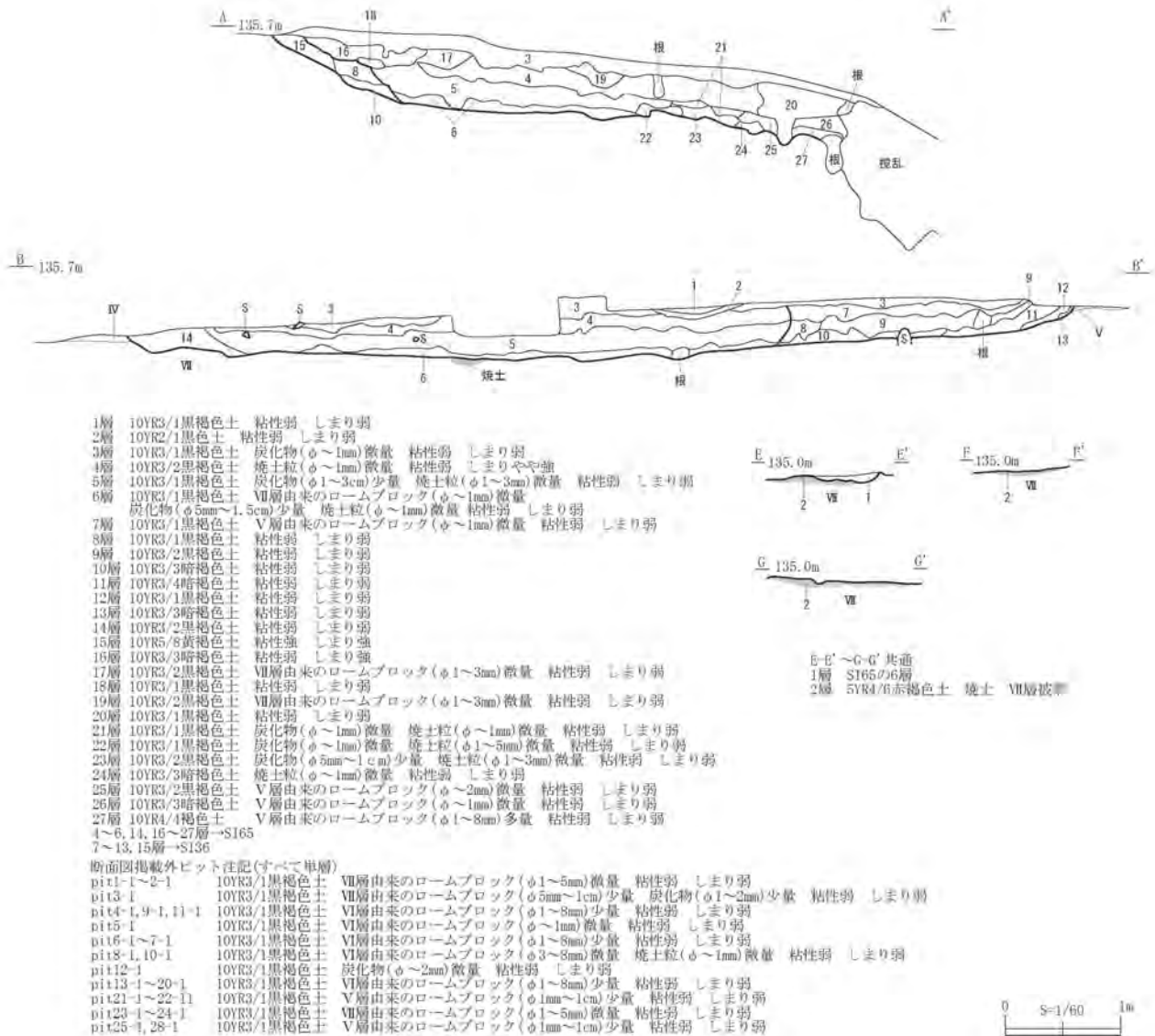
第23図 遺構図17 (S135, S139)



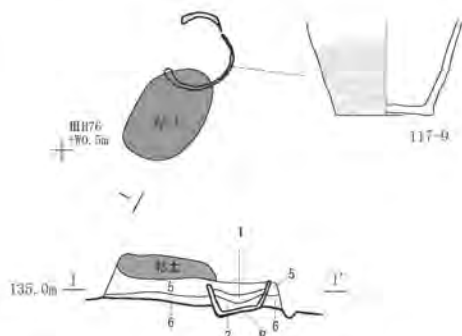
第24図 遺構図18 (SI35, SI39)



第25図 遺構図19 (SI36, SI65)

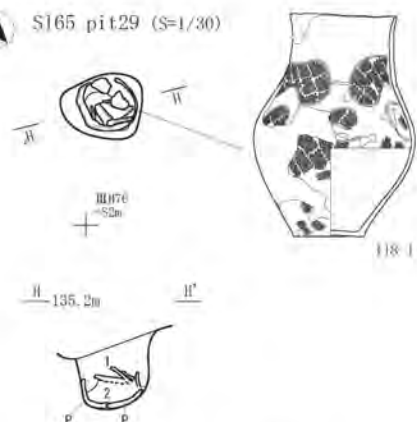


SI165粘土・土器出土状況 (S=1/30)

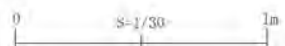


- 1層 10YR5/6明黄褐色土 粘性やや強、しまりやや強 焼土少
 2層 10YR2/1黒色土 粘性やや強、しまりやや強
 5層 建物覆土5層と同じ
 6層 建物覆土6層と同じ

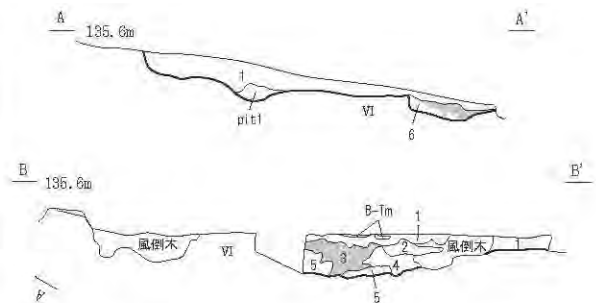
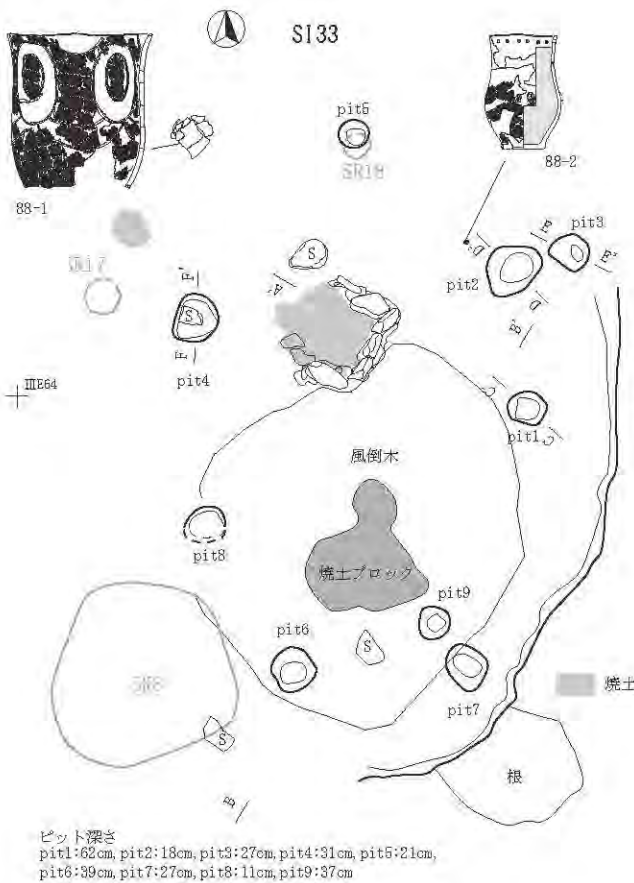
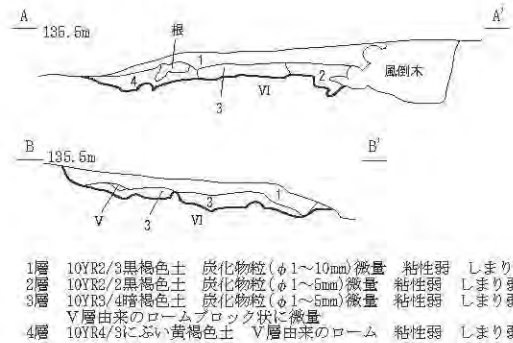
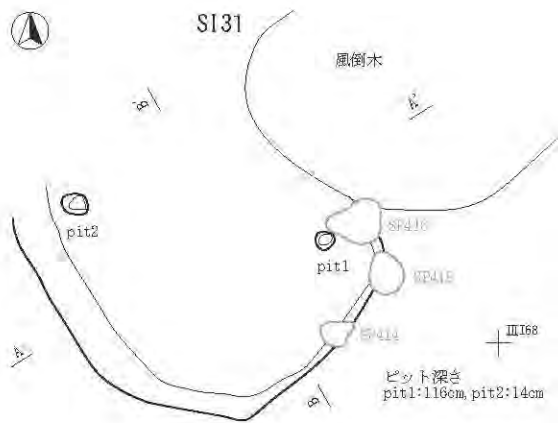
SI165 pit29 (S=1/30)



- 1層 10YR3/1黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 2層 10YR5/6黄褐色土 粘性弱 しまり弱



第26図 遺構図20 (SI36, SI65)



A-A', B-B' 共通

1層 10YR3/4暗褐色土 しまり弱, 粘性弱 炭化物粒(φ5mm)微量
B-Tmブロック状に入る

VI層由来のローム粒(φ2~5mm)微量 IV層由来の暗褐色土

2層 10YR3/3暗褐色土 VI層由来のローム粒(φ1~3mm)微量
住居床面(IV層由来の土)

3層 10YR4/4褐色土 しまり弱・粘性弱 焼土層
炭化物粒(φ1~2mm)微量

4層 10YR3/3暗褐色土 しまり弱・粘性弱 炭化物粒(φ1~2mm)微量

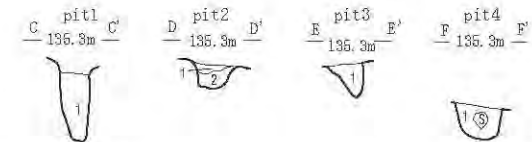
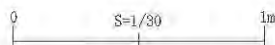
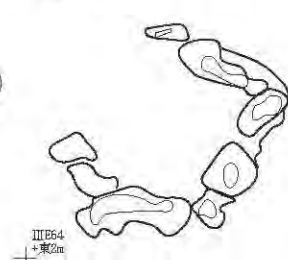
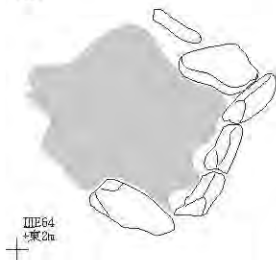
5層 10YR3/4暗褐色土 しまり弱・粘性弱 炭化物粒(φ0.5~1cm)微量

6層 10YR3/3暗褐色土

※2~6層は風倒木の影響により攪乱を受けている。

炉 (S=1/30)

炉 掘方 (S=1/30)



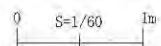
pit1 1層 10YR5/4暗褐色土
VI層由来のローム粒(φ~2cm)微量 炭化物(φ~5mm)微量

pit2 1層 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性弱
炭化物粒(φ1mm)微量 VI層由来のロームブロック(φ1cm)微量

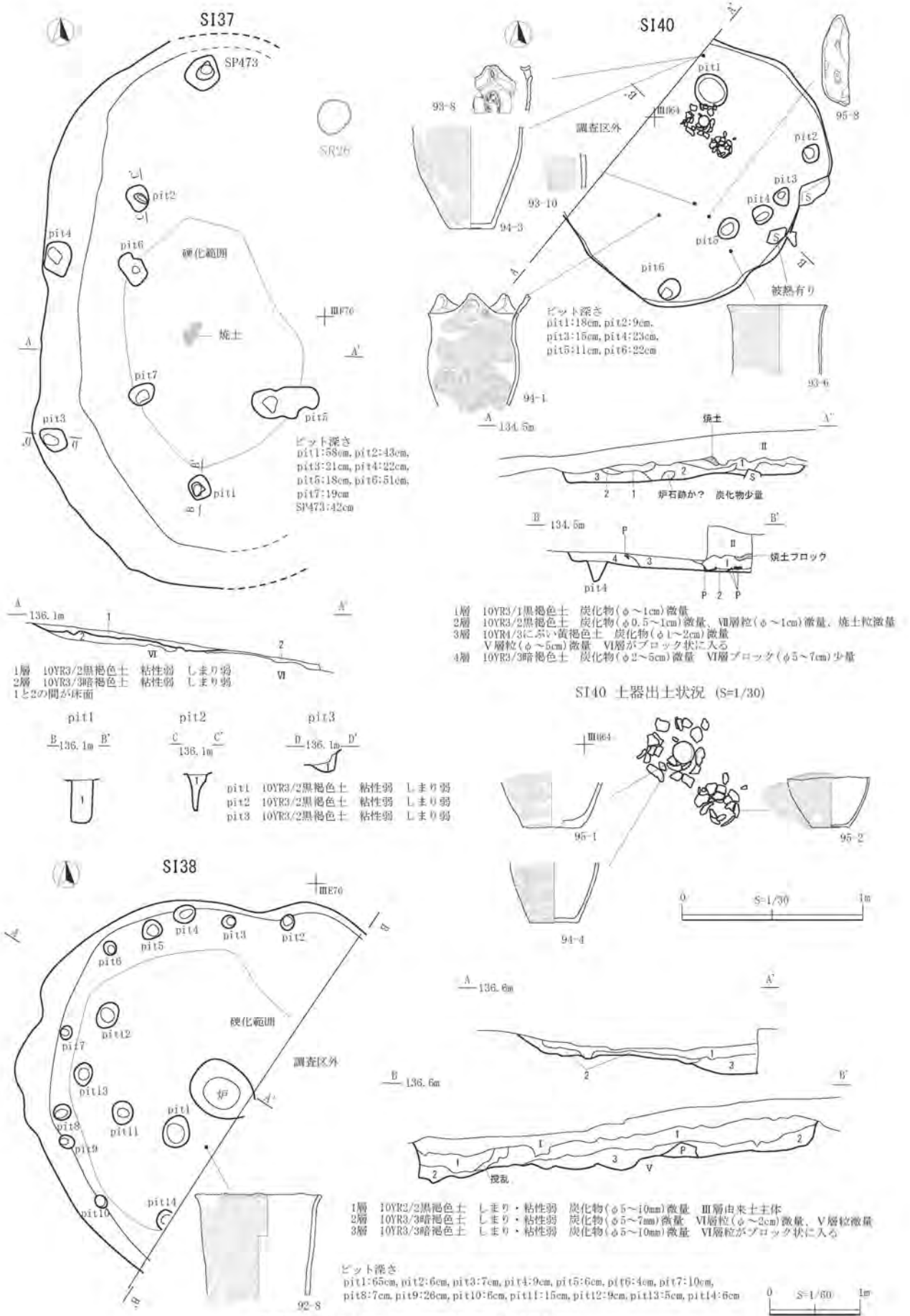
2層 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性弱
炭化物粒(φ1mm)微量 VI層由来のロームブロック(φ1cm)微量

pit3 1層 10YR3/4暗褐色土

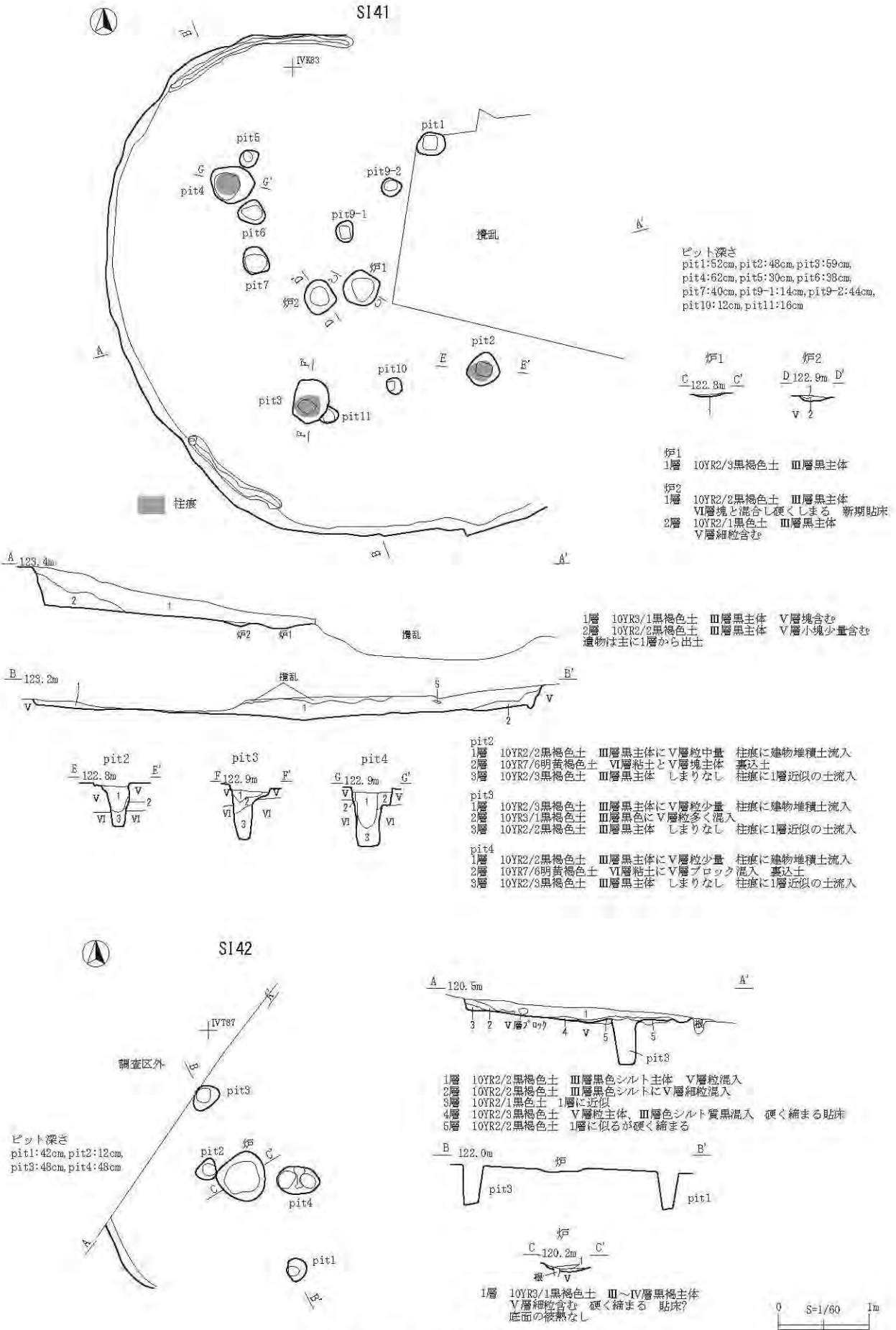
pit4 1層 10YR3/4暗褐色土



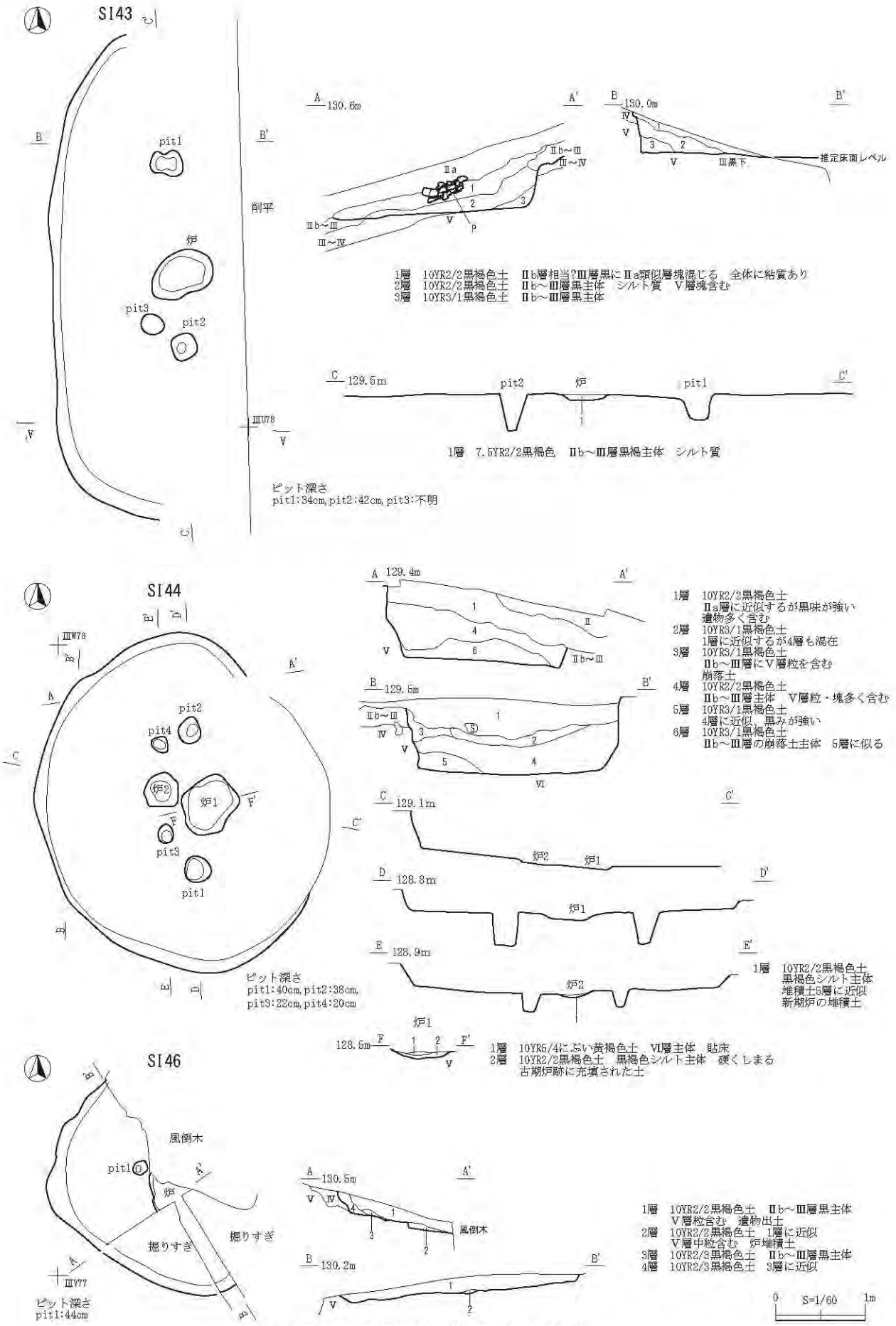
第27図 遺構図21(SI31, SI33)



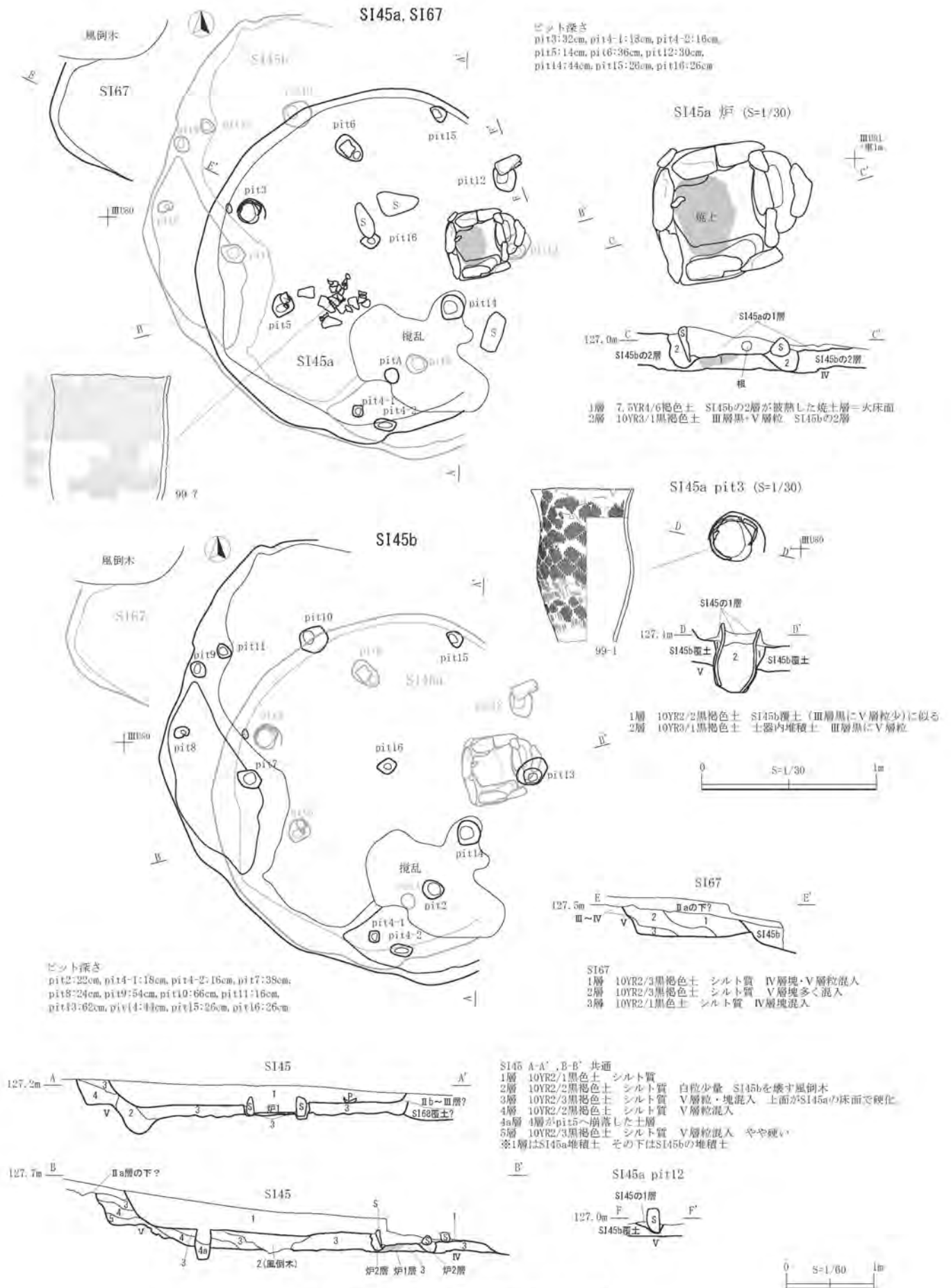
第28図 遺構図22 (SI137, SI138, SI140)



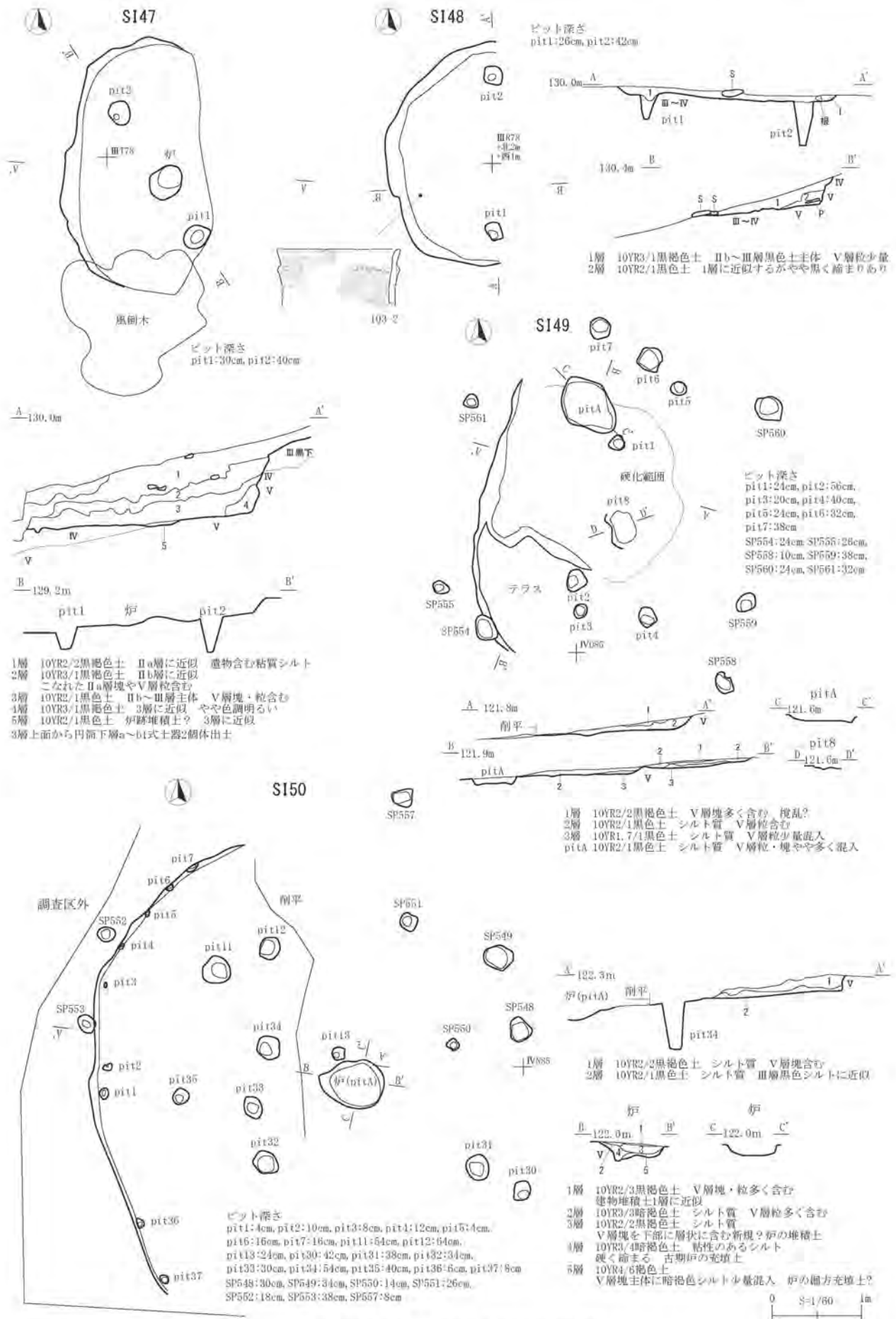
第29図 遺構図23 (SI41, SI42)



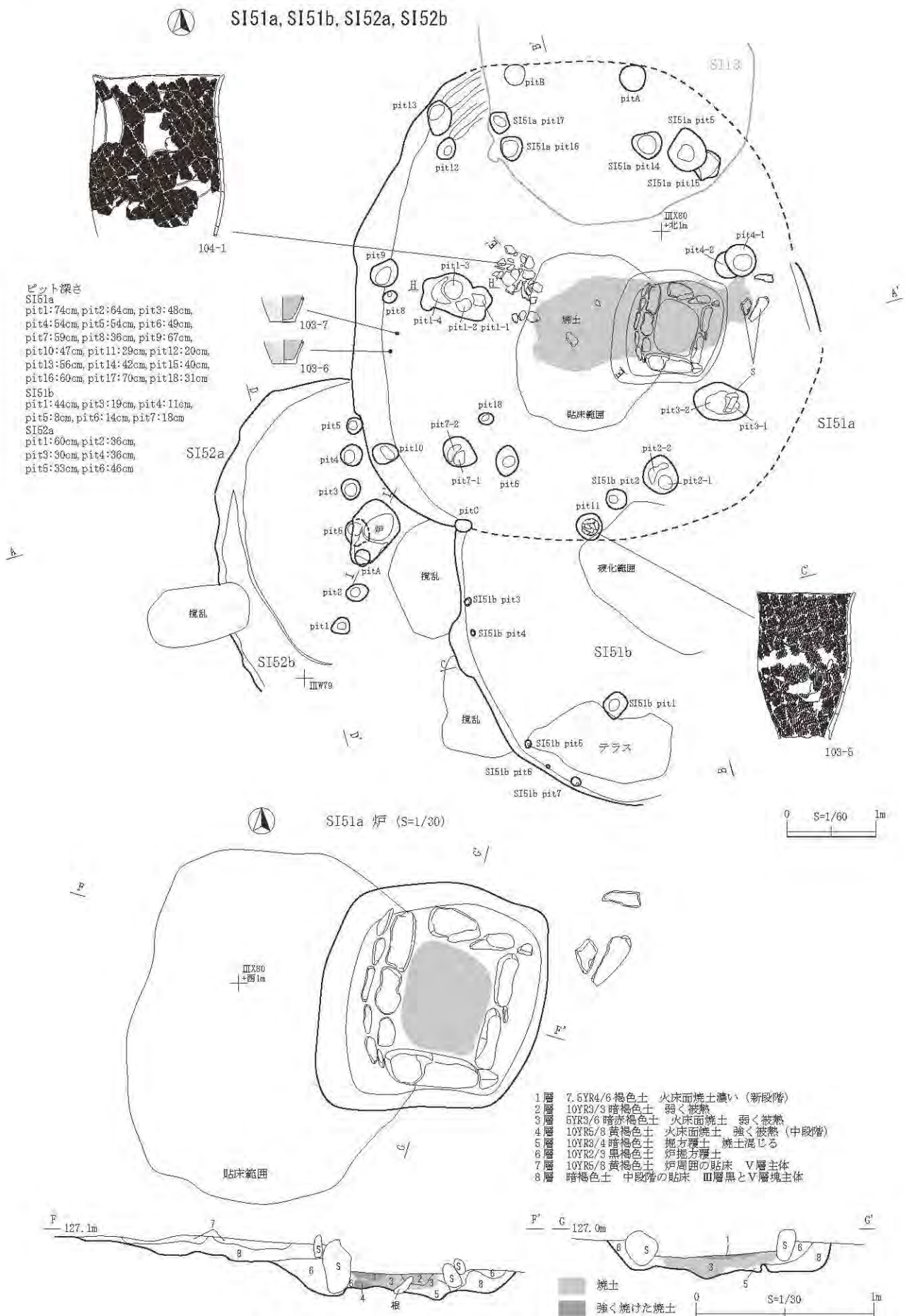
第30図 遺構図24 (SI143, SI144, SI146)

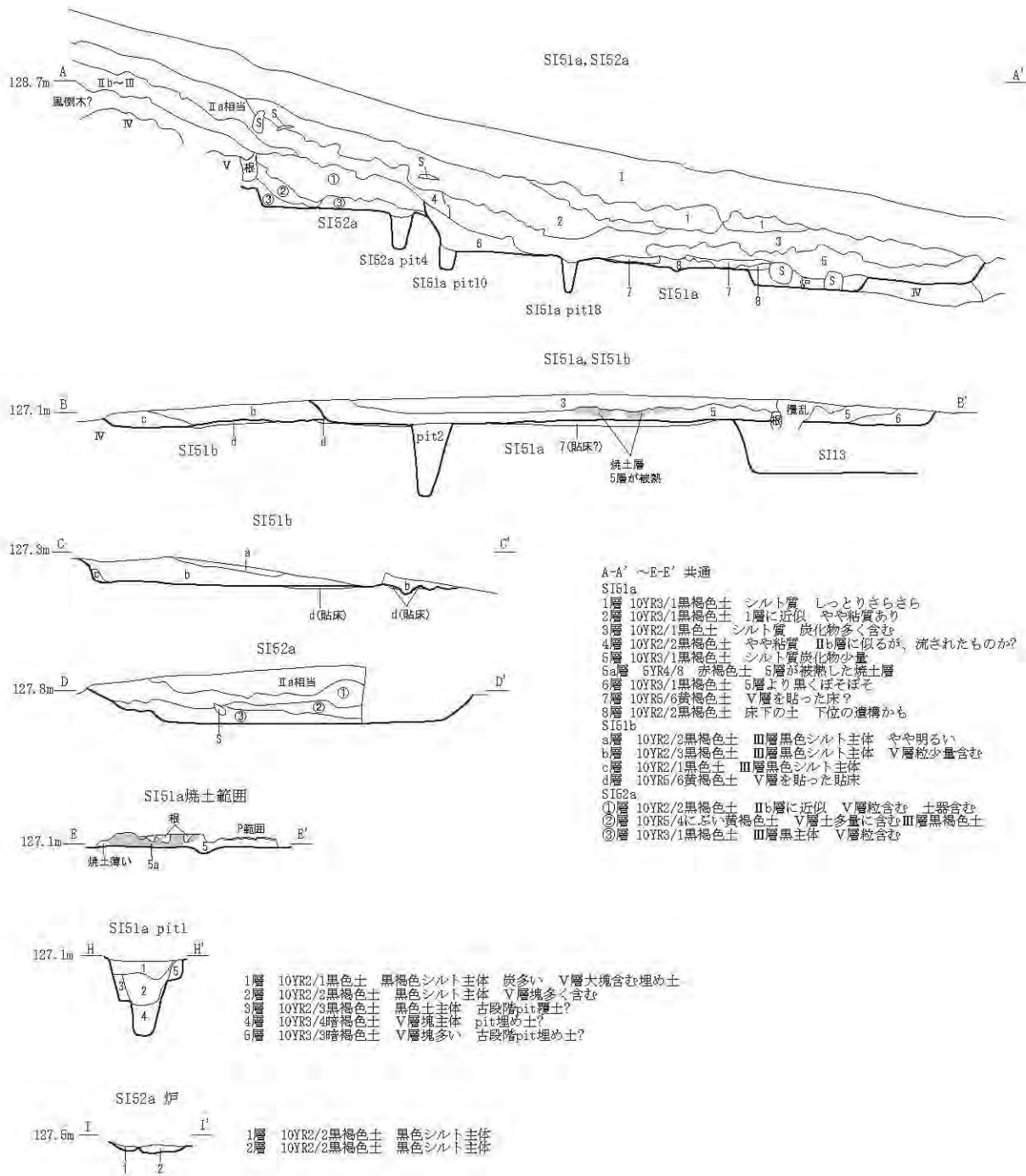


第31図 遺構図25 (SI45a, SI45b, SI67)

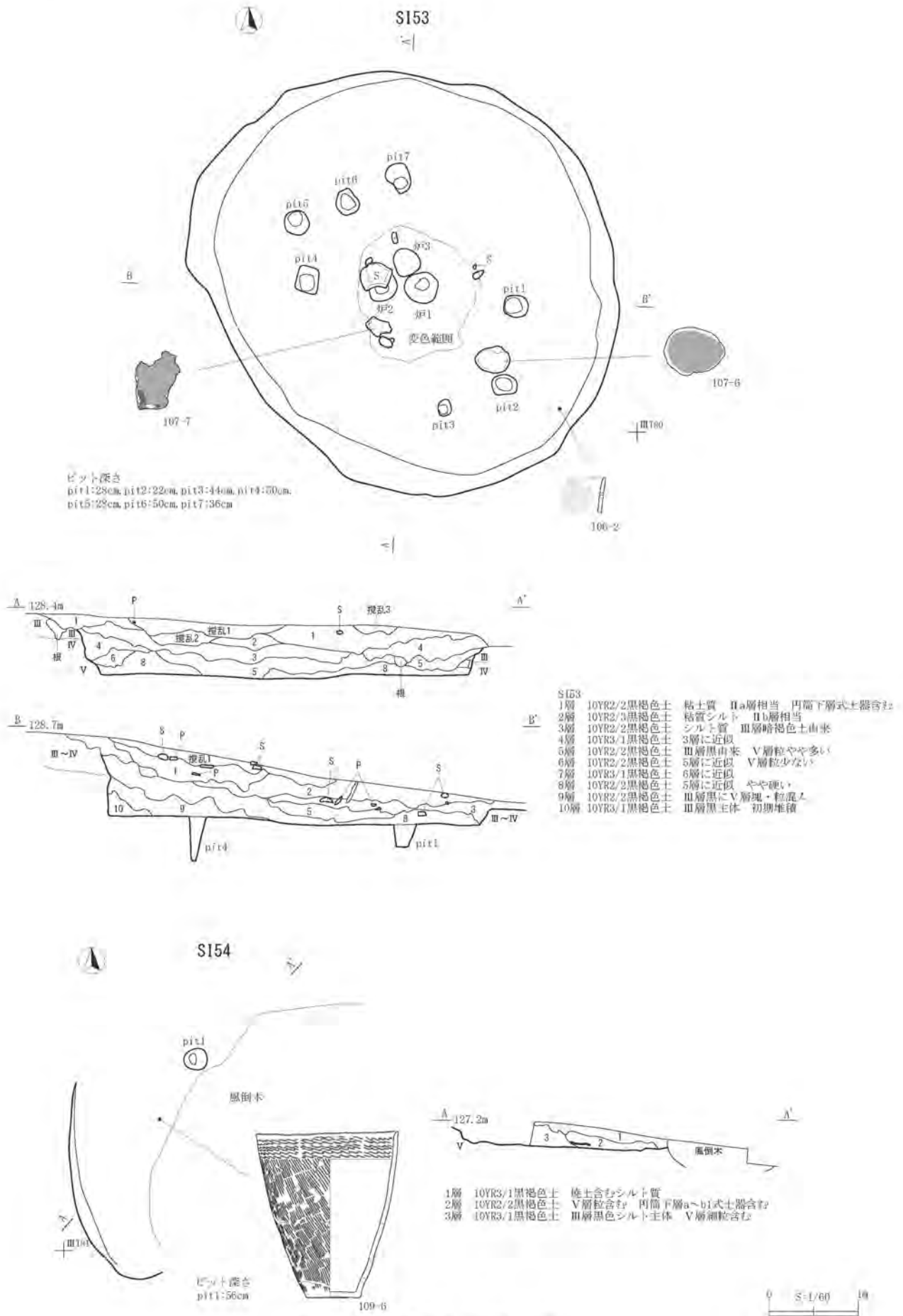


第 32 図 遺構図 26 (S147 ~ S150)

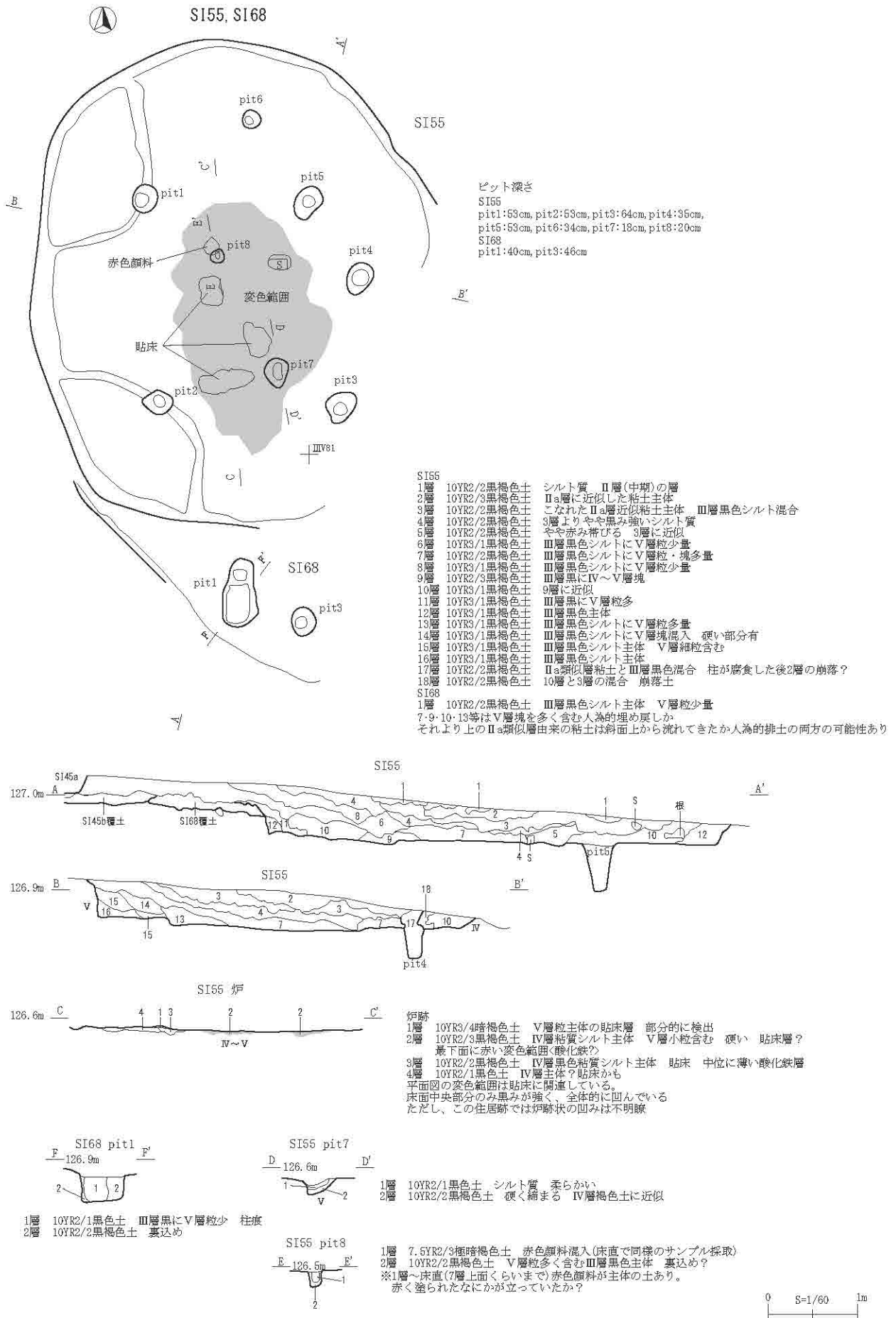




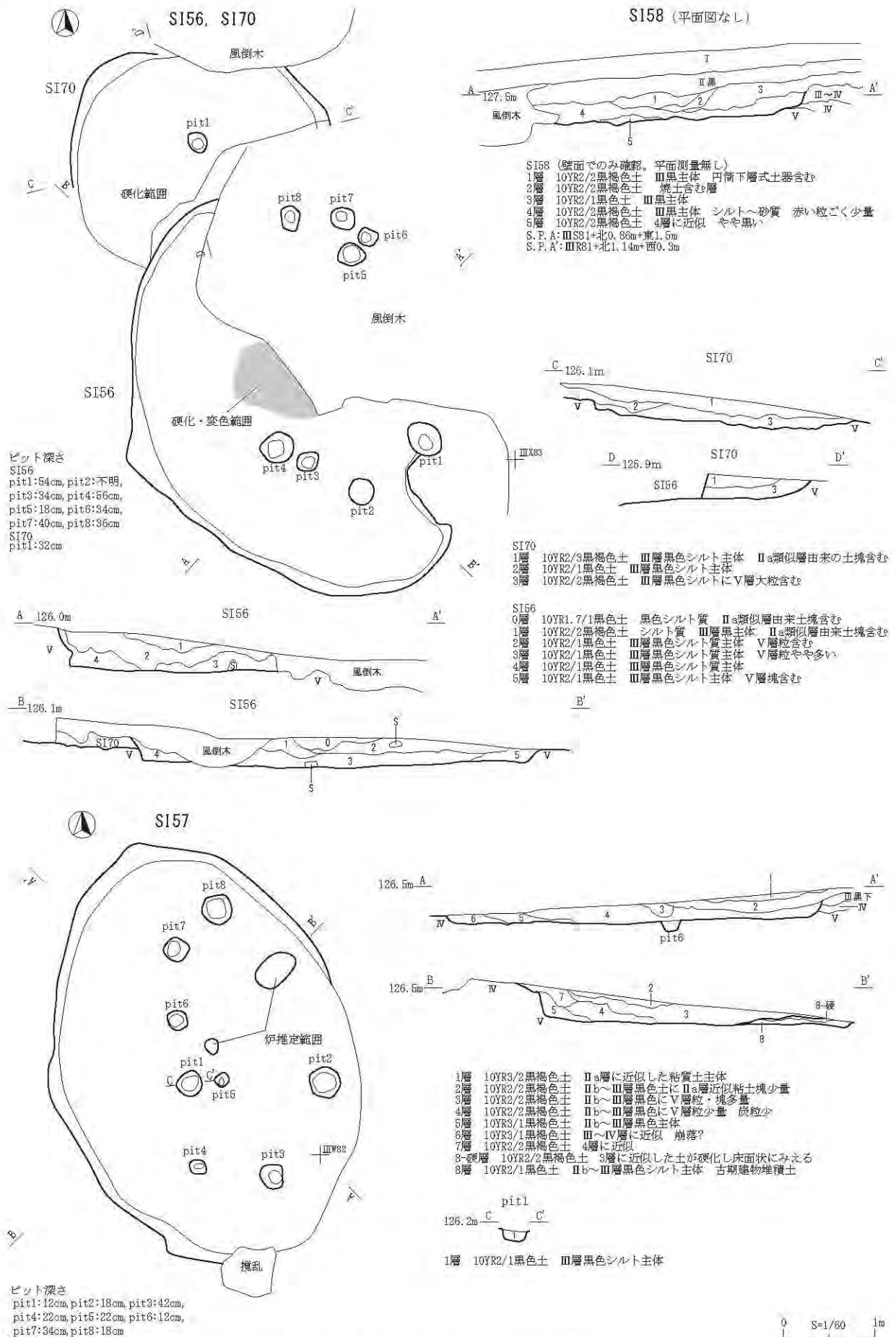
第34図 遺構図28 (SI51a, SI51b, SI52a, SI52b)



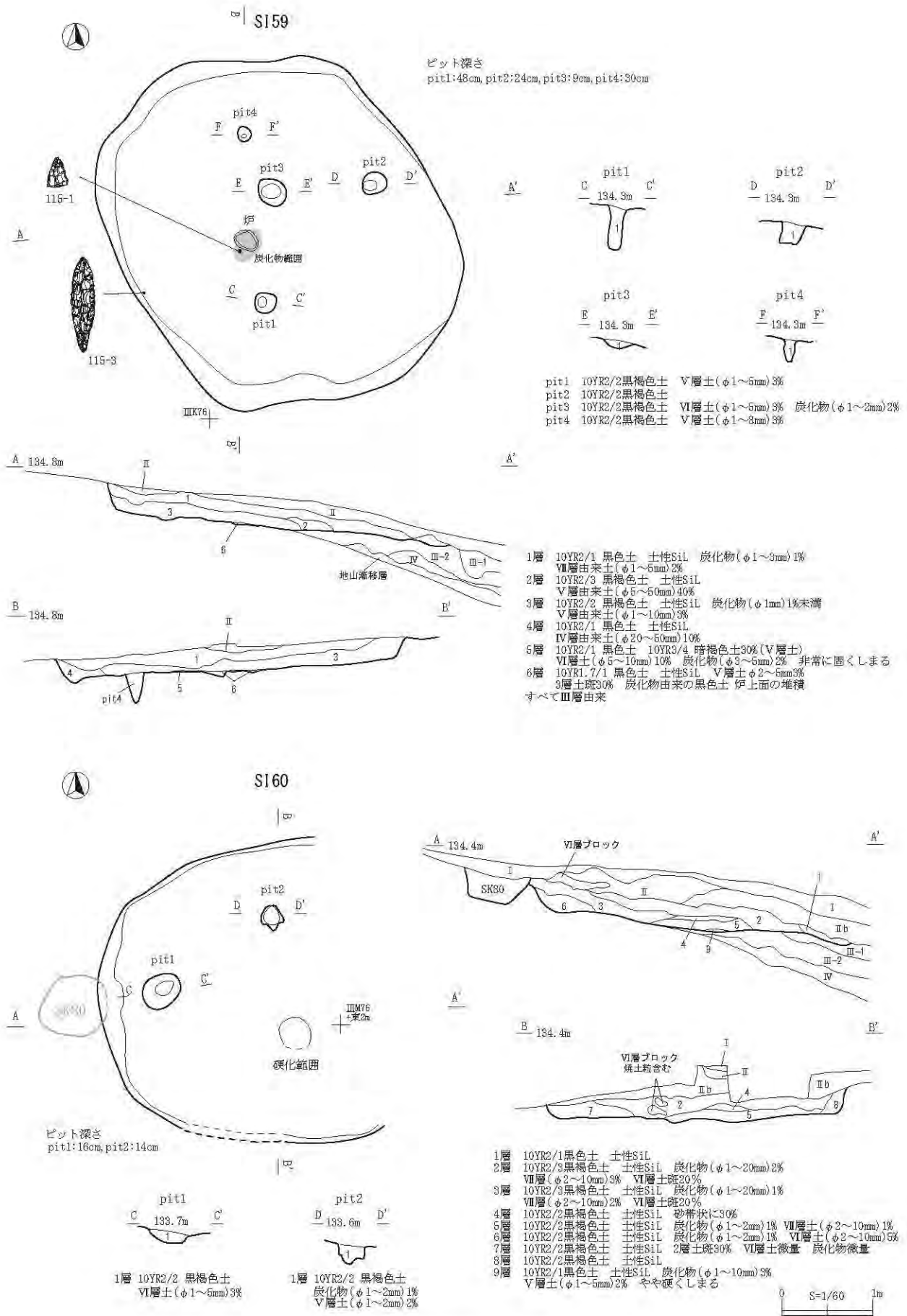
第35図 遺構図29 (S153, S154)



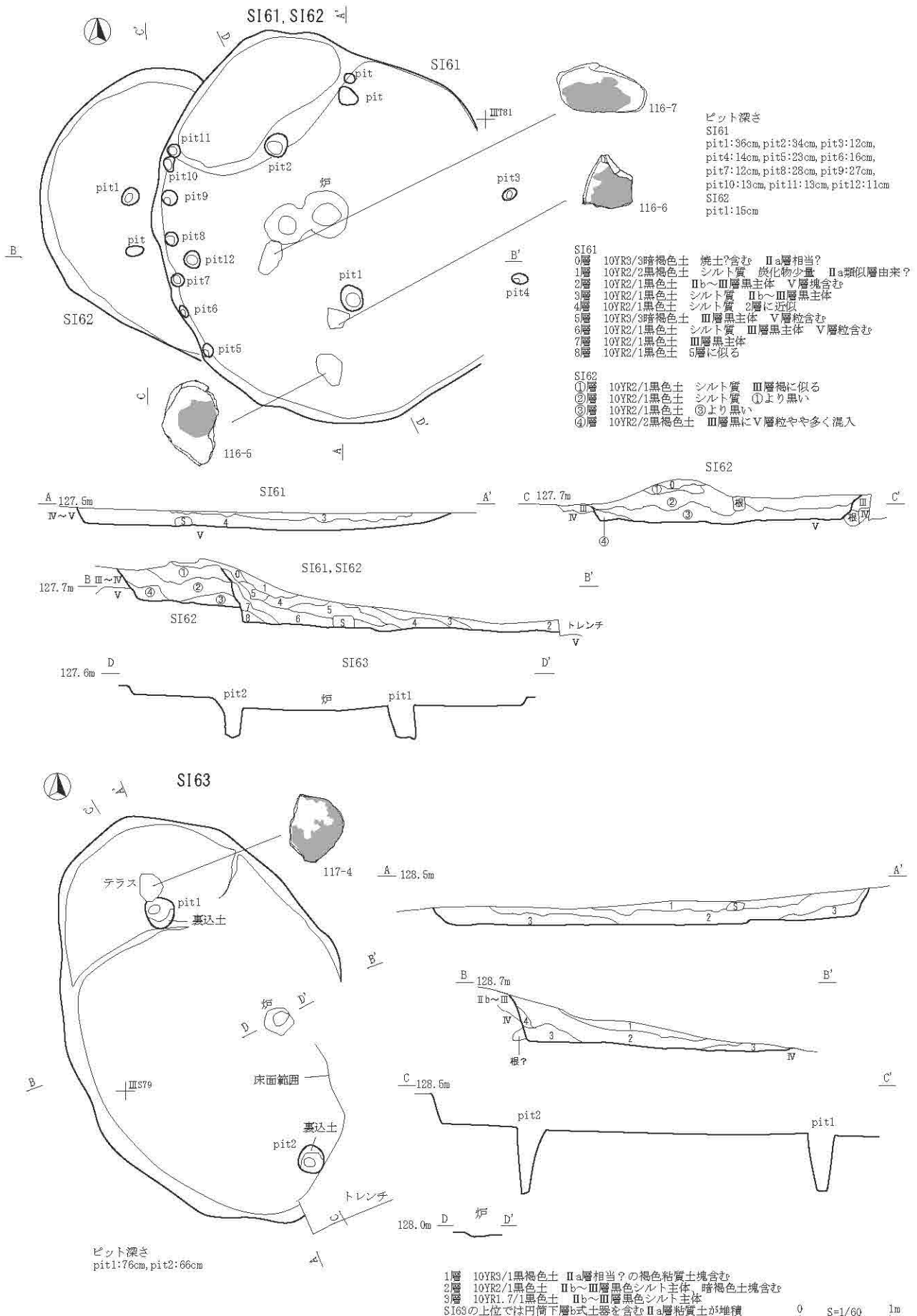
第36図 遺構図30 (SI55, SI68)



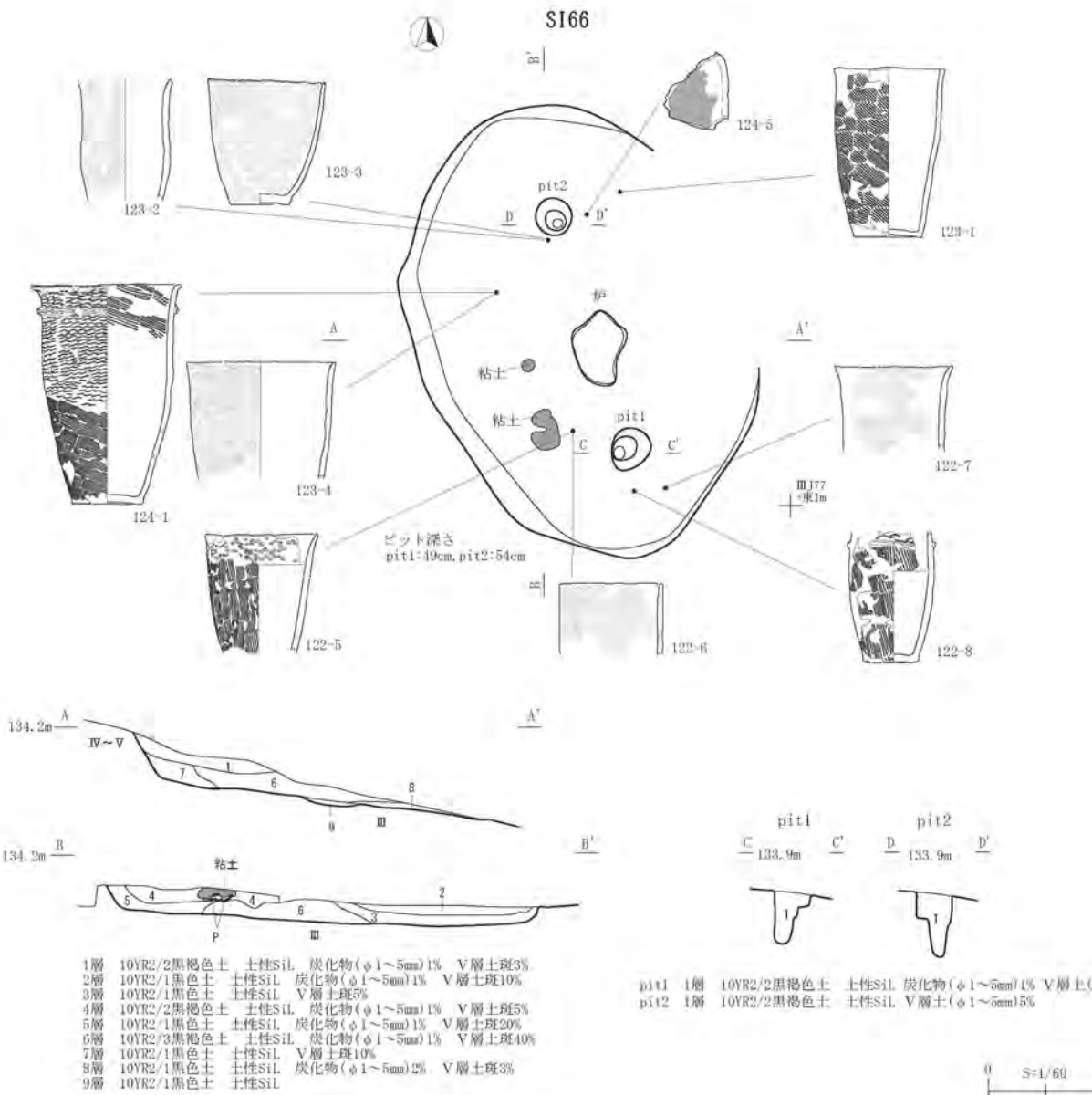
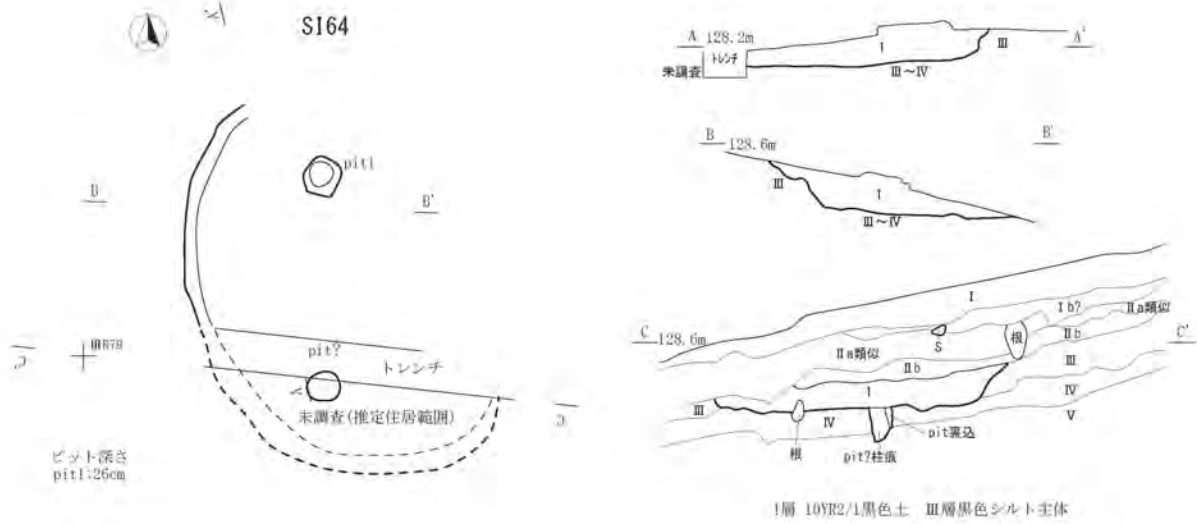
第37図 遺構図31 (SI56~SI58, SI70)



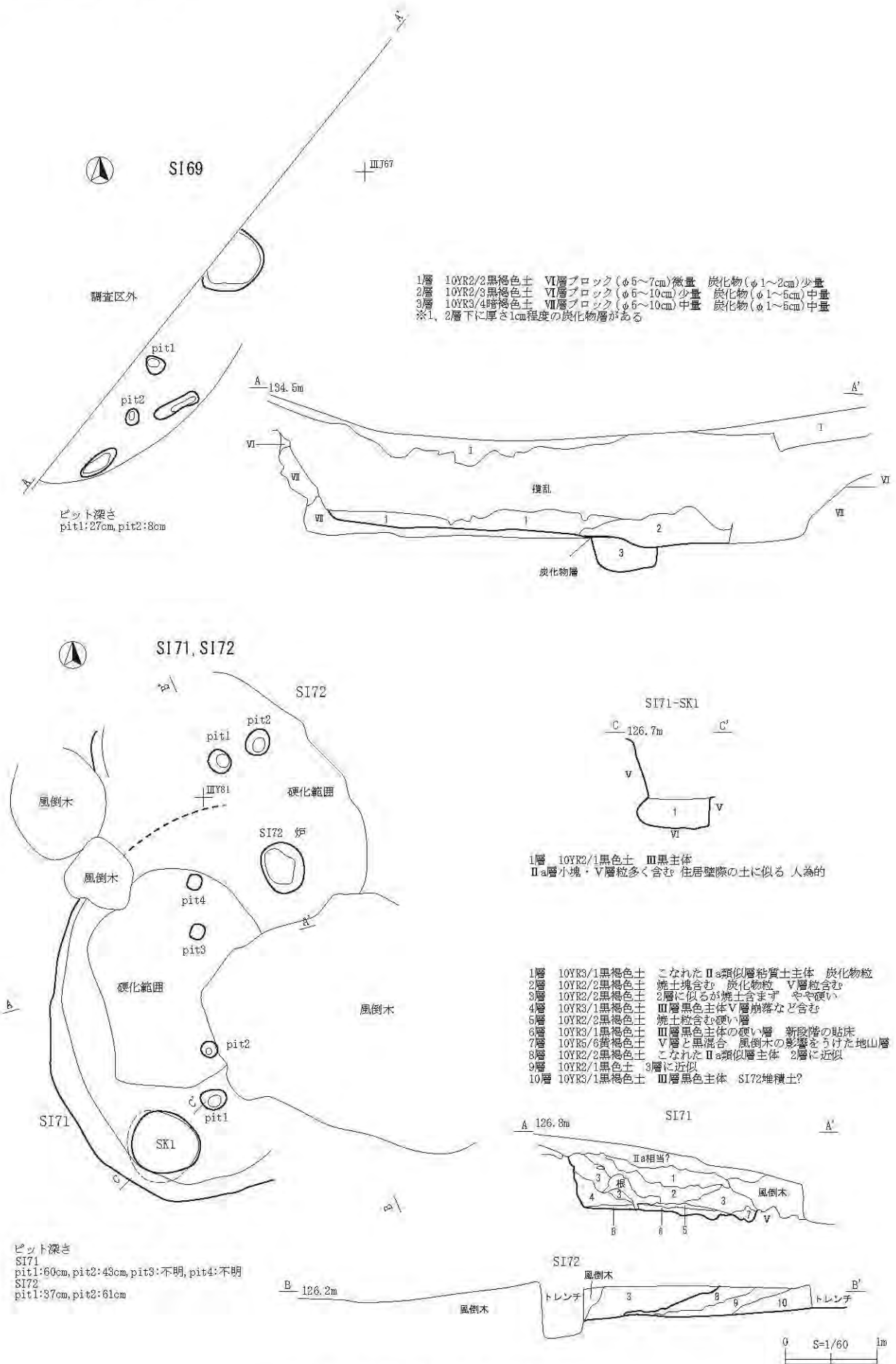
第38図 遺構図32 (SI59, SI60)



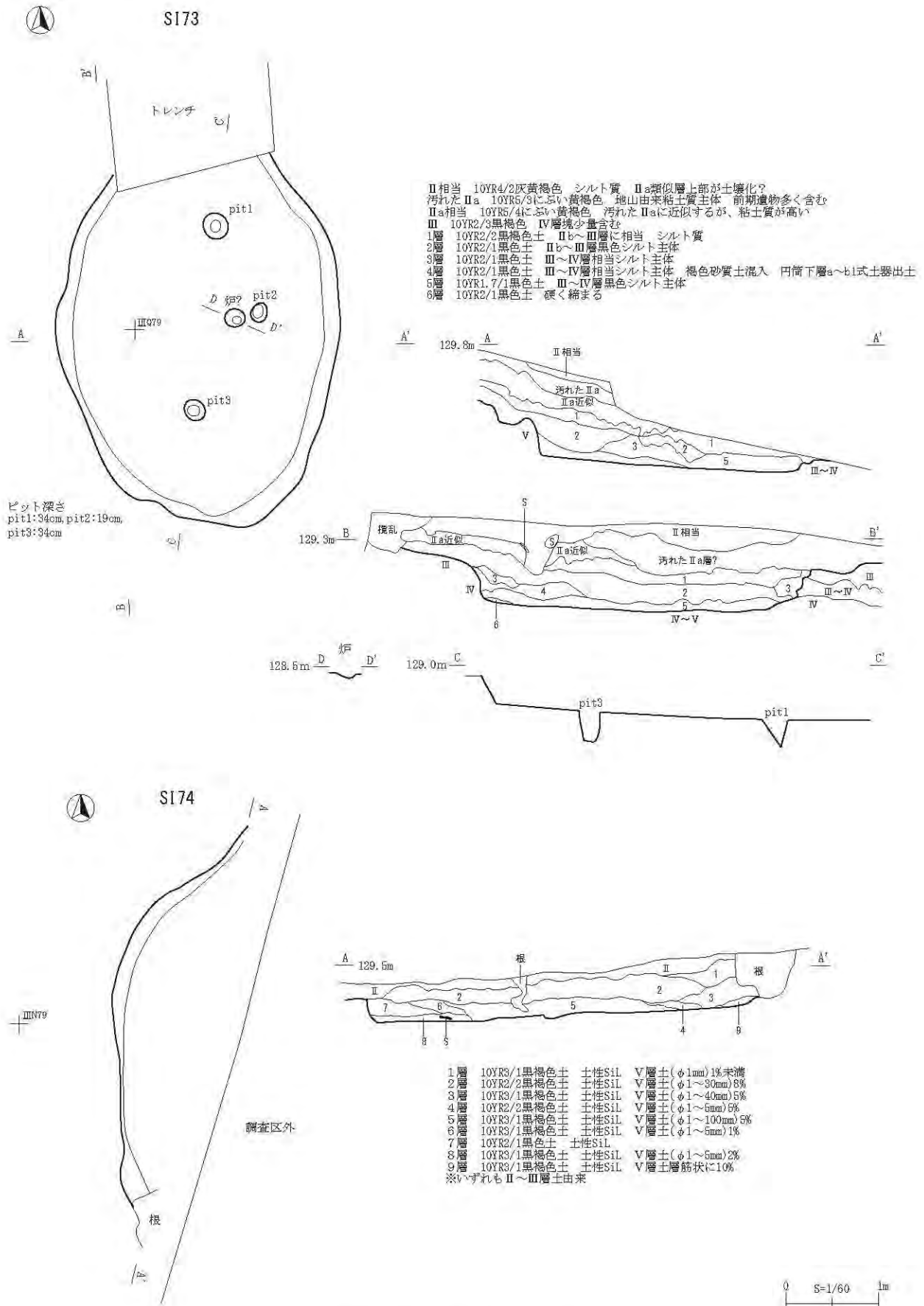
第39図 遺構図33 (SI61~SI63)



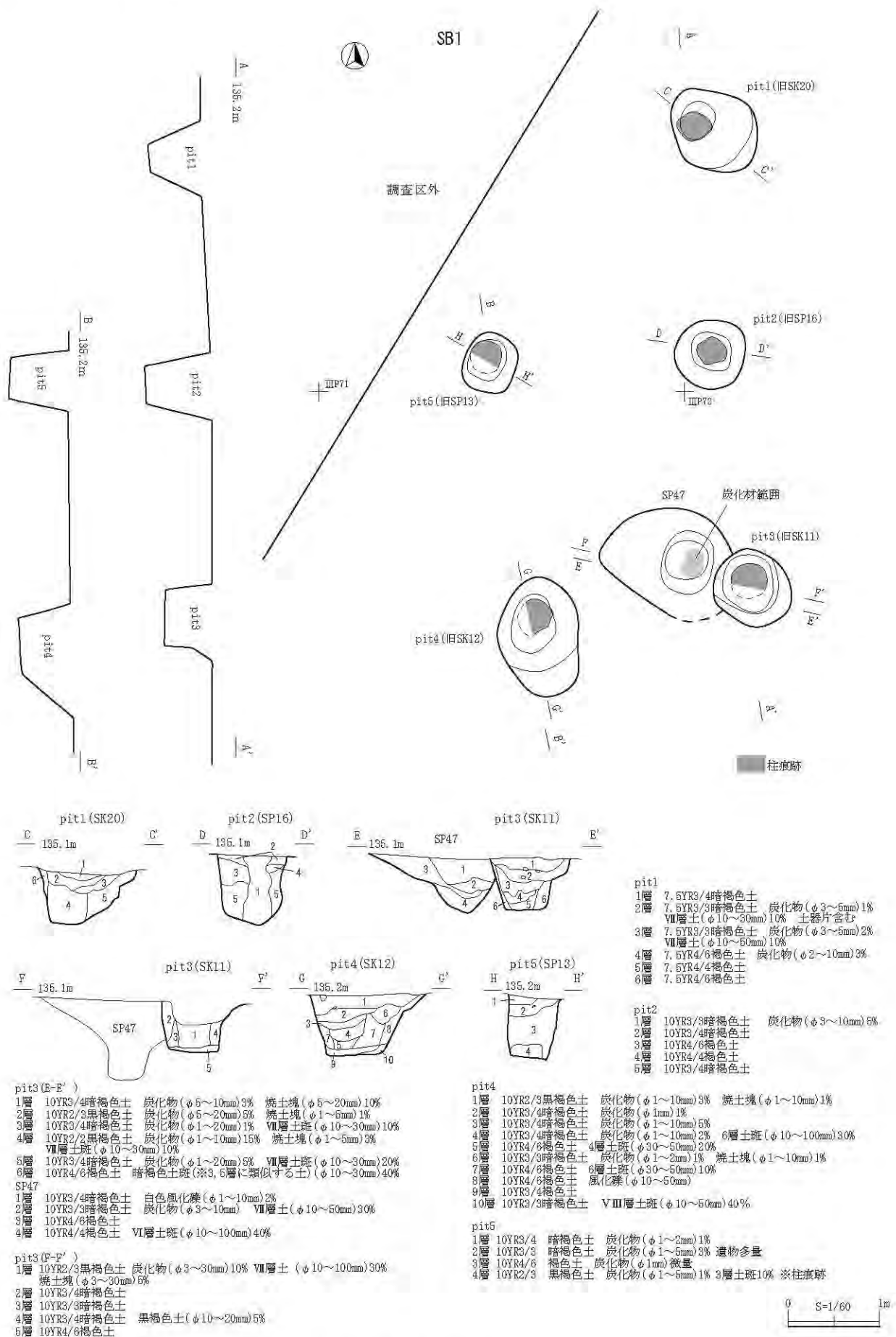
第40図 遺構図34 (SI164, SI166)



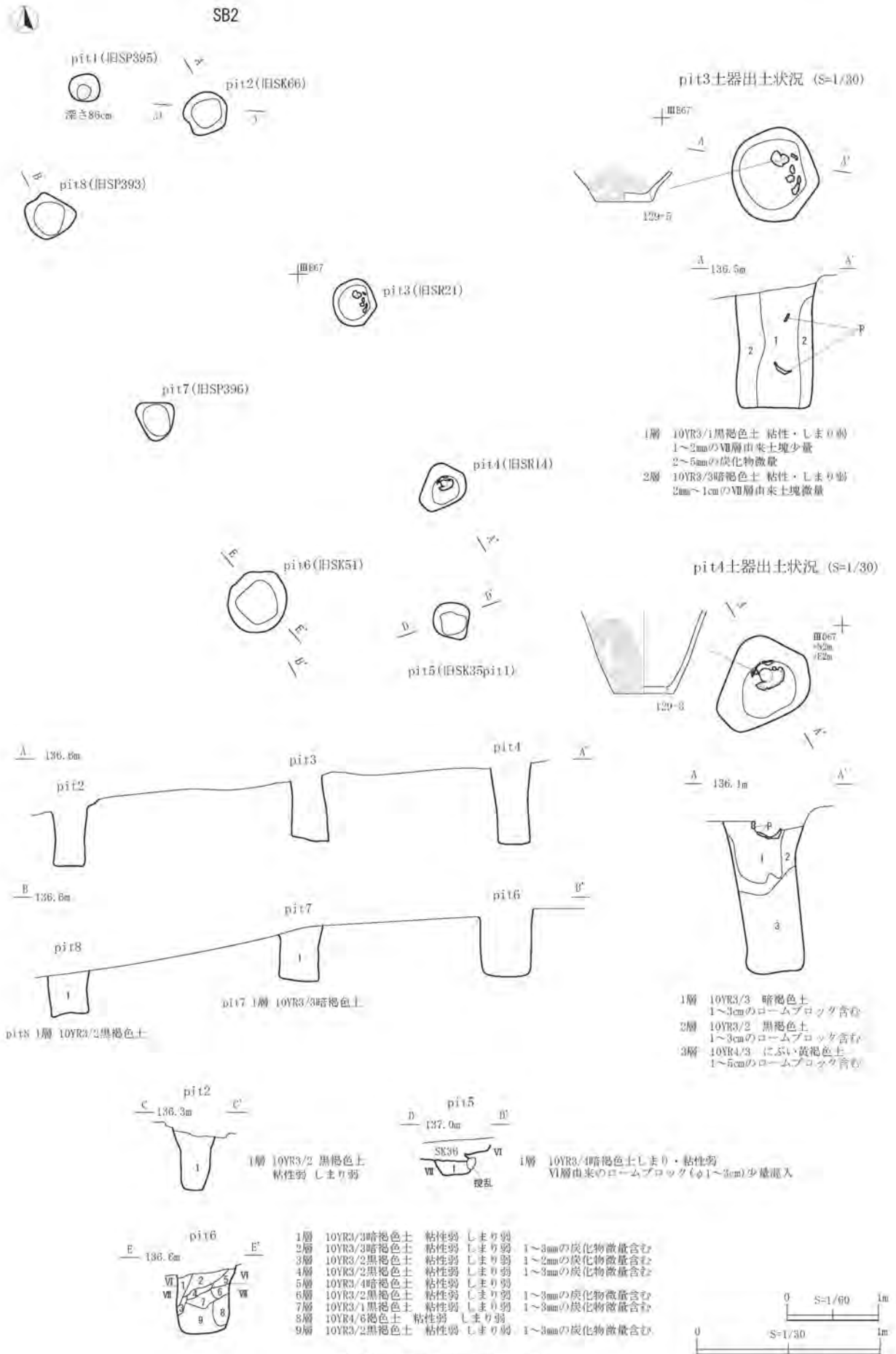
第41図 遺構図35 (SI69, SI71, SI72)



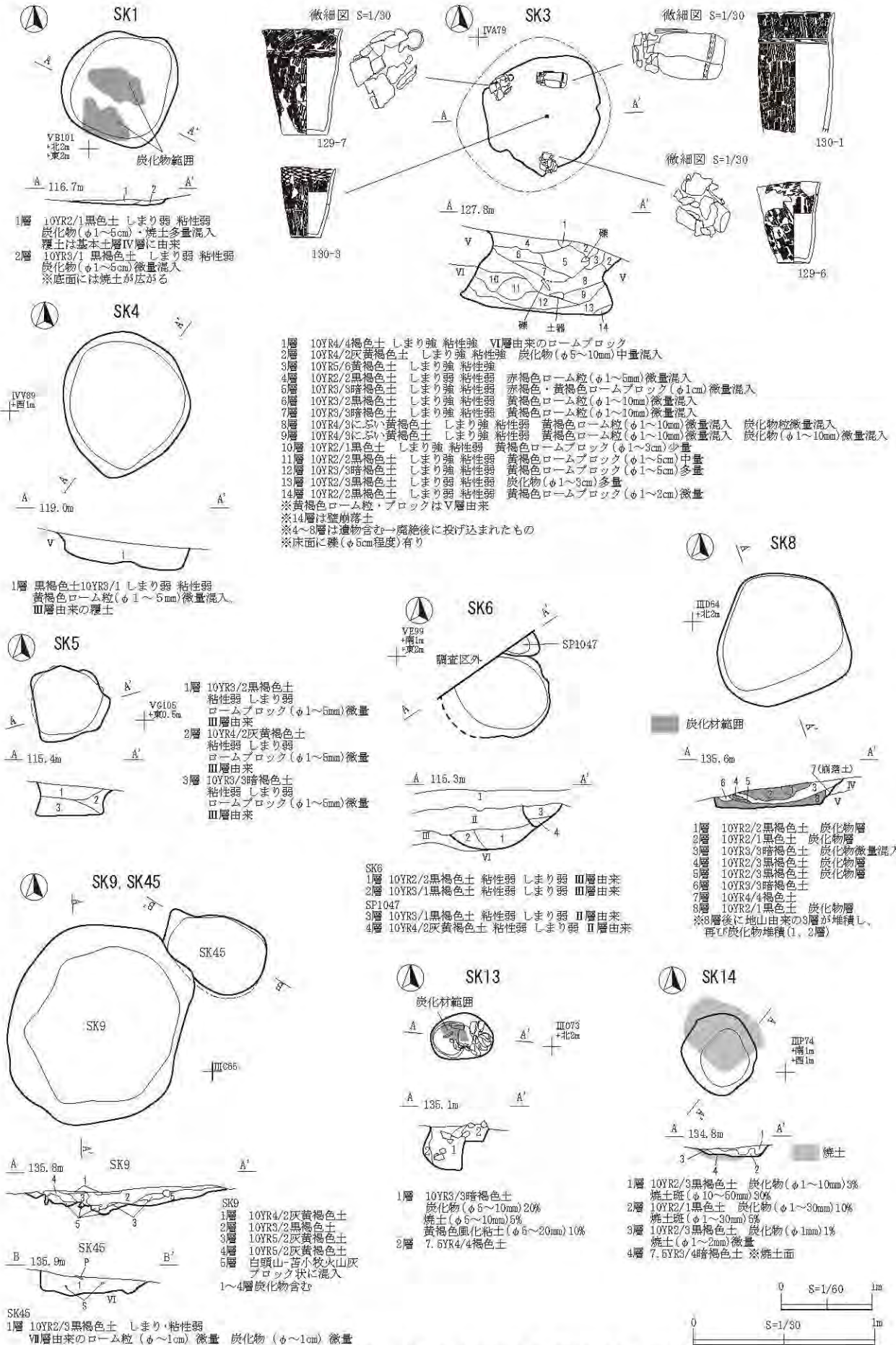
第42図 遺構図36 (SI73, SI174)



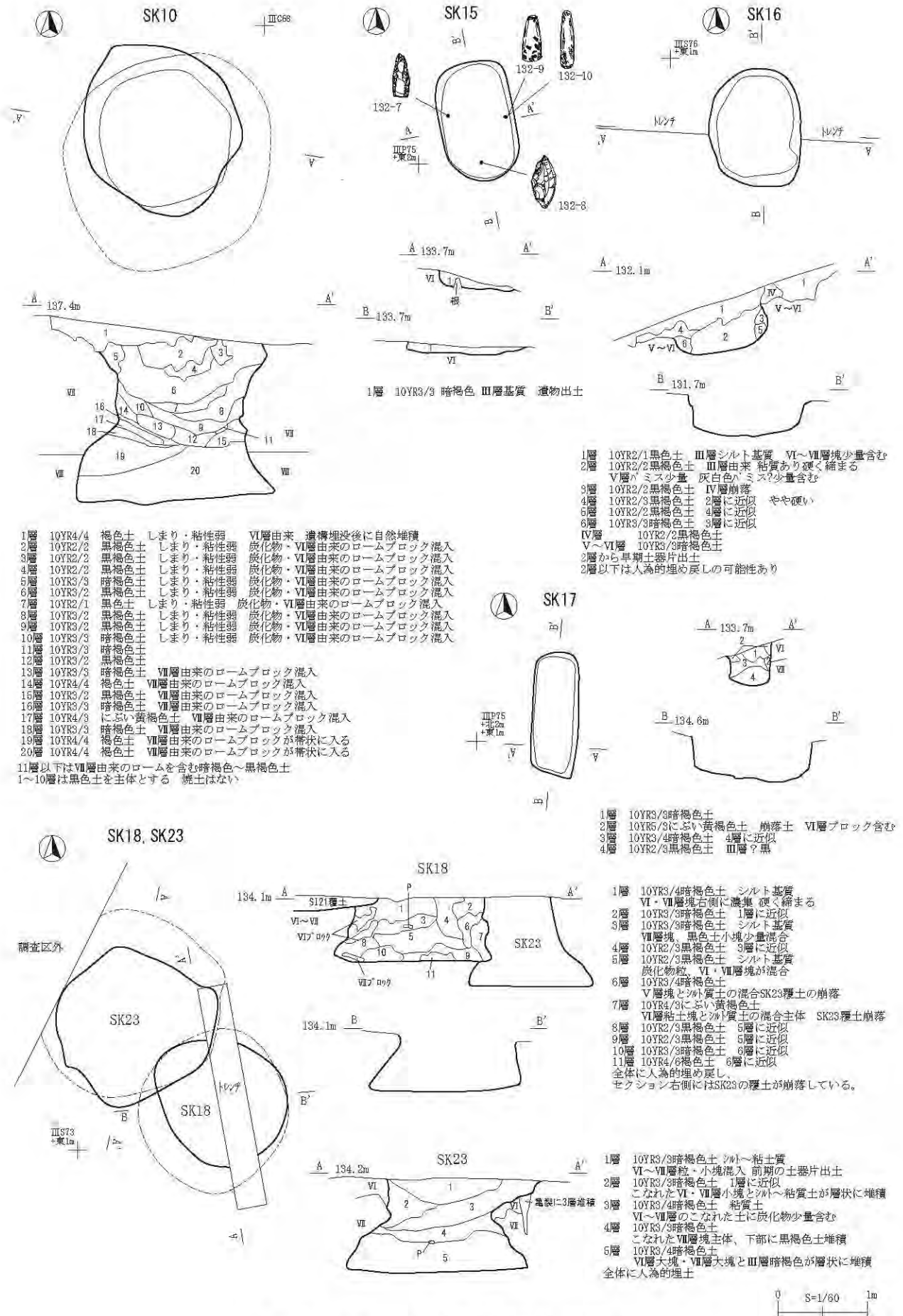
第43図 遺構図37 (SB1)



第44図 遺構図38 (SB2)



第45図 遺構図39 (SK1, SK3~SK6, SK8, SK9, SK13, SK14, SK45)



- 1層 10YR4/4 褐色土 しまり・粘性弱 VI層由来 遺構埋設後に自然堆積
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 6層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 8層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 9層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 10層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 11層 10YR3/3 暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 12層 10YR3/2 黒褐色土 しまり・粘性弱 炭化物・VI層由来のロームブロック混入
 - 13層 10YR3/3 暗褐色土 VII層由来のロームブロック混入
 - 14層 10YR4/4 褐色土 VII層由来のロームブロック混入
 - 15層 10YR3/2 黒褐色土 VII層由来のロームブロック混入
 - 16層 10YR3/3 暗褐色土 VII層由来のロームブロック混入
 - 17層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 VII層由来のロームブロック混入
 - 18層 10YR3/3 暗褐色土 VII層由来のロームブロック混入
 - 19層 10YR4/4 褐色土 VII層由来のロームブロックが帯状に入る
 - 20層 10YR4/4 褐色土 VII層由来のロームブロックが帯状に入る
- 11層以下はVII層由来のロームを含む暗褐色～黒褐色土
1～10層は黒褐色土を主体とする 凝土はない

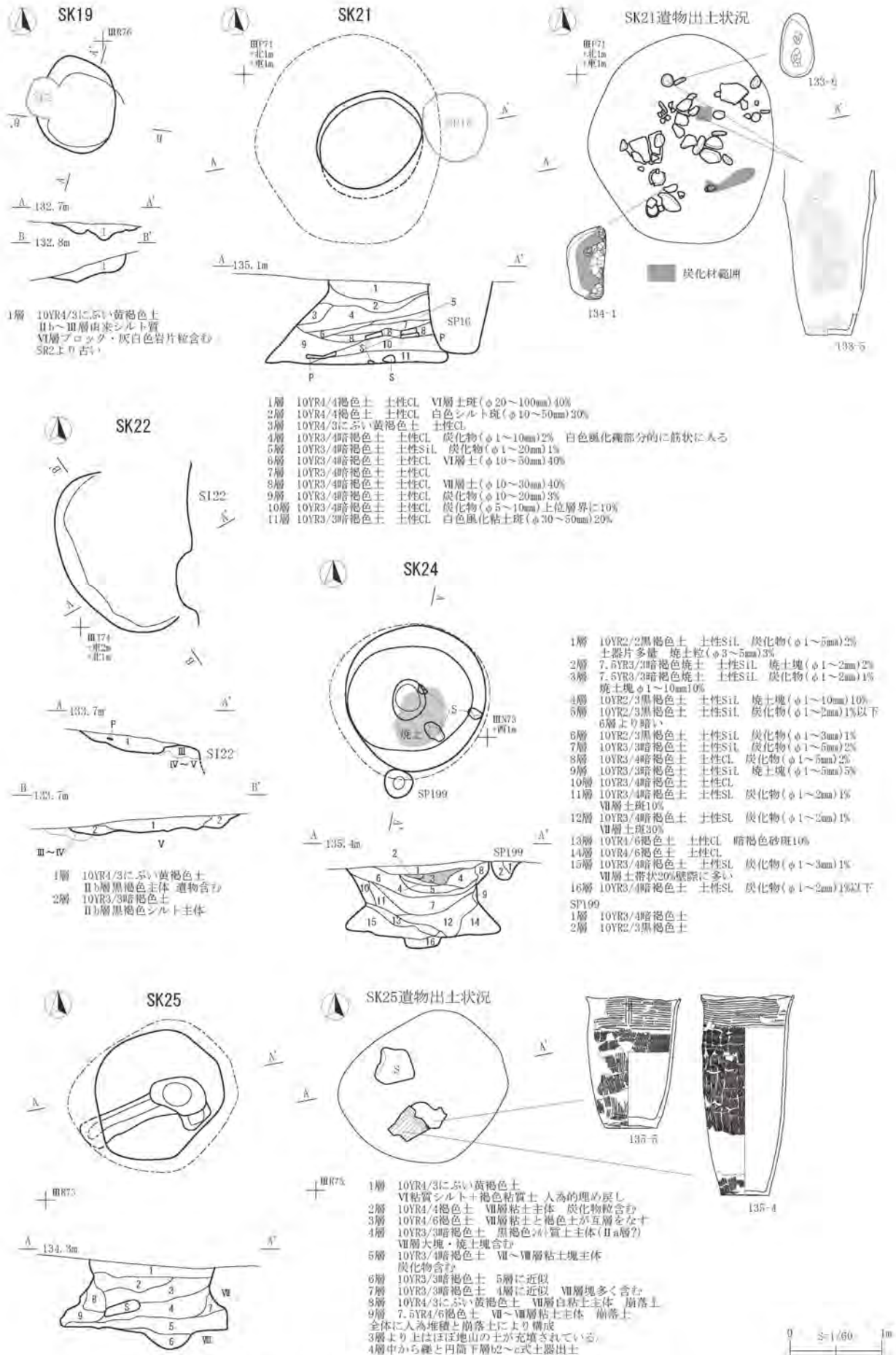
- 1層 10YR2/1 黒褐色土 III層シルト基質 VI～VII層塊少量含む
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 III層由来 粘質あり硬く締まる
- V層 灰白土少量 灰白土?少量含む
- 9層 10YR2/2 黒褐色土 IV層崩落
- 4層 10YR2/3 黒褐色土 2層に近似 やや硬い
- 6層 10YR2/2 黒褐色土 4層に近似
- 8層 10YR3/3 暗褐色土 9層に近似
- IV層 10YR2/2 黒褐色土
- V～VI層 10YR3/3 暗褐色土
- 2層から早期土器片出土
- 2層以下は人為的埋め戻しの可能性あり

- 1層 10YR3/3 暗褐色土
- 2層 10YR6/8 にぶい黄褐色土 崩落土 VI層ブロック含む
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 4層に近似
- 4層 10YR2/3 黒褐色土 III層? 黒

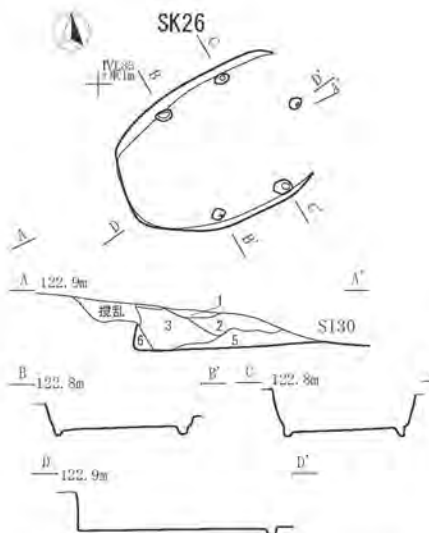
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 シルト基質 VI・VII層塊右側に濃集 硬く締まる
- 2層 10YR3/3 暗褐色土 1層に近似
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 シルト基質 VII層塊 黒色土小塊少量混入
- 4層 10YR2/3 黒褐色土 3層に近似
- 5層 10YR2/3 黒褐色土 シルト基質 炭化物粒 VI・VII層塊が混入
- 6層 10YR3/4 暗褐色土 V層塊とシルト質土の混合SK23覆土の崩落
- 7層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 VI層粘土塊とシルト質土の混合主体 SK23覆土崩落
- 8層 10YR2/3 黒褐色土 5層に近似
- 9層 10YR2/3 黒褐色土 5層に近似
- 10層 10YR3/3 暗褐色土 6層に近似
- 11層 10YR4/6 褐色土 6層に近似 全体に人為的埋め戻し、セクション右側にはSK23の覆土が崩落している。

- 1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト粘土質 VI～VII層粒・小塊混入 前期の土器片出土
- 2層 10YR3/3 暗褐色土 1層に近似 こなれたVI・VII層小塊とシルト粘土が層状に堆積
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 粘質土 VI～VII層のこなれた土に炭化物少量含む
- 4層 10YR3/3 暗褐色土 こなれたVII層塊主体、下部に黒褐色土堆積
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 VI層大塊・VII層大塊とIII層暗褐色が層状に堆積 全体に人為的埋土

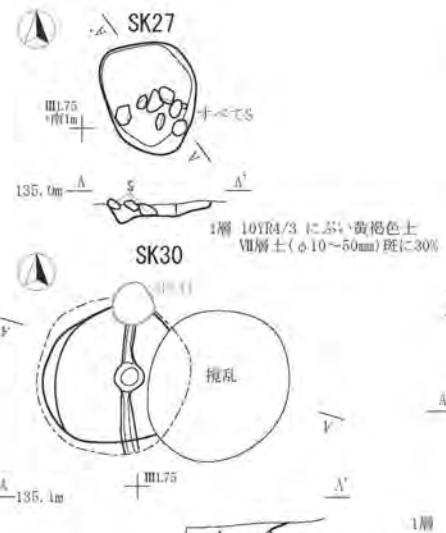
第46図 遺構図40 (SK10, SK15～SK18, SK23)



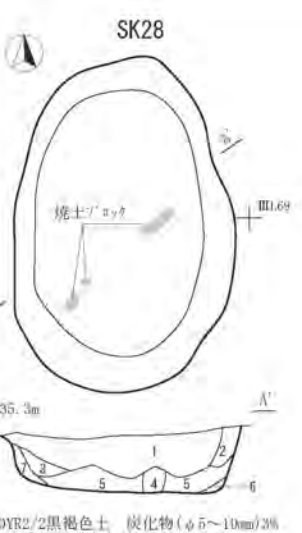
第47図 遺構図41 (SK19, SK21, SK22, SK24, SK25)



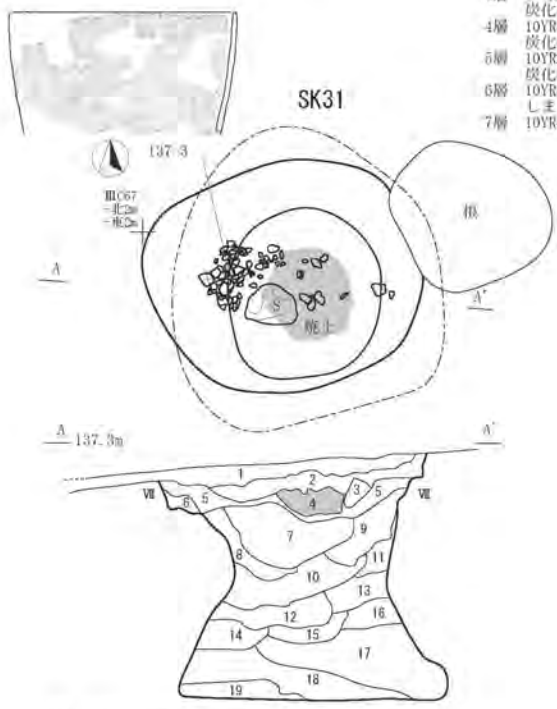
- 1層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体
- 2層 10YR3/1黒褐色土 III層黒主体 V層粒、細砂?含む
- 3層 10YR2/2黒褐色土 2層に近似 細砂?の量がやや多い
- 4層 10YR2/2黒褐色土
- 5層 3層と近似した土にV層粒やや多く含む
- 6層 10YR2/2黒褐色土 III層黒主体 混入物少ない S130との重複は不明。状況的にSKが新しいか



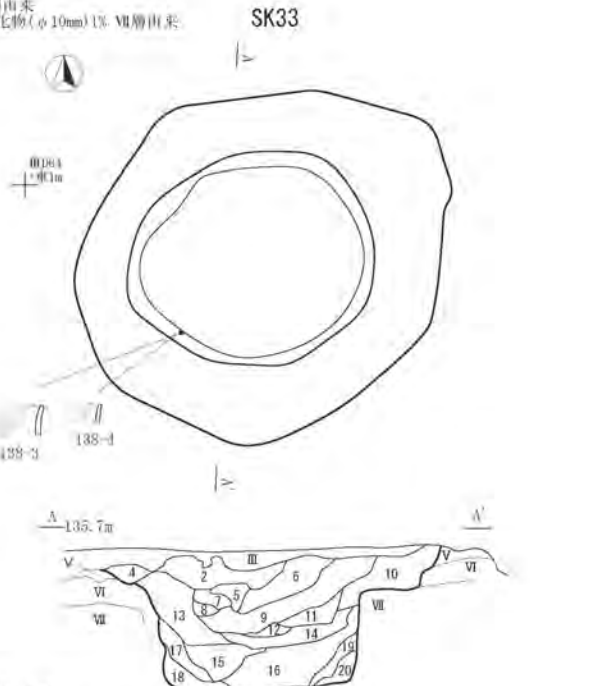
- 1層 10YR3/4暗褐色土 焼土塊(φ5~20mm)10% III~IV層由来
- 2層 10YR3/3暗褐色土 III~IV層由来
- 3層 10YR2/3黒褐色土 VI層土塊(φ5~30mm)40% 炭化物(φ1~2mm)2% III~IV層由来
- 4層 10YR4/3にぶい黄褐色土 焼土(φ3~10mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1% III~IV層由来
- 5層 10YR2/2黒褐色土 白色粘土塊(φ10~50mm)2% 炭化物(φ1~5mm)2% III層由来
- 6層 10YR4/6褐色土 III層土(φ10~20mm)3% しまりやや弱 VII層由来
- 7層 10YR4/6褐色土 炭化物(φ10mm)1% VII層由来



- 1層 10YR2/2黒褐色土 炭化物(φ5~10mm)3% 焼土塊断面中央付近(φ20~50mm)3% V層土塊(φ5~20mm)3%
- 2層 10YR3/2黒褐色土 V層土塊(φ5~30mm)3% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 3層 10YR3/4暗褐色土 V層土(φ10~50mm)20% 炭化物(φ1mm)1%未満
- 4層 10YR3/1黒褐色土 VI層土塊(φ5~30mm)20% 炭化物(φ1~2mm)2%
- 5層 10YR4/6褐色土 I層土(φ50~100mm)10% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 6層 10YR3/4暗褐色土 V層土(φ10~20mm)10% 炭化物(φ1mm)1%未満
- 7層 10YR2/3黒褐色土 VI層土塊(φ10~30mm)40% 炭化物(φ1mm)1%

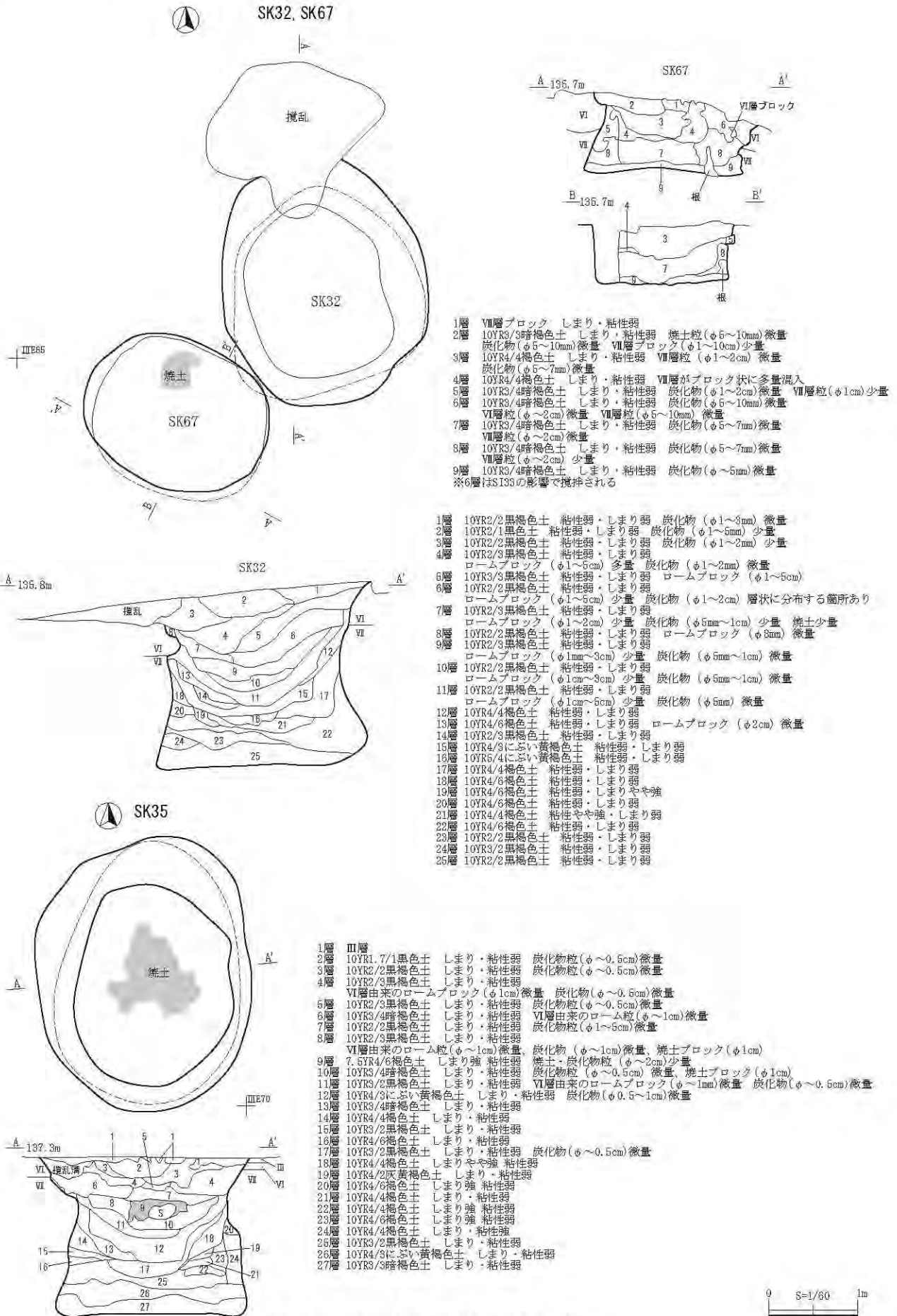


- 1層 10YR3/3暗褐色土
- 2層 10YR2/3黒褐色土 炭化物粒(φ1mm)微量
- 3層 10YR2/3黒褐色土 焼土混入 しまり・粘性弱
- 4層 5YR3/4暗赤褐色土 しまり・粘性弱 焼土層
- 5層 10YR2/2黒褐色土 炭化物粒・VI層由来土塊(φ1~5cm)微量 遺物出土 しまり・粘性弱 土器投げ込みか
- 6層 10YR3/4暗褐色土 VI層由来土塊(φ1~5cm)多量混入 壁崩落土か、しまり・粘性弱
- 7層 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性弱 しまりやや強 5~10cmのロームブロック多量含む
- 8層 10YR3/1黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 9層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまりやや強 1mmのロームブロック・炭化物微量含む
- 10層 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性弱 しまり弱 1~10mmのロームブロック少量含む 5~10mmの炭化物微量含む
- 11層 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性弱 しまりやや強 5mm~1cmのロームブロック少量含む
- 12層 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性弱 しまりやや強 1mmのロームブロック含む
- 13層 10YR5/6黄褐色土 粘性やや強 しまりやや強
- 14層 10YR4/2灰黄褐色土 粘性弱 しまり弱 1mmのロームブロック含む
- 15層 10YR4/1灰黄褐色土 粘性やや強 しまりやや強 1~2mmロームブロック含む
- 16層 10YR5/6黄褐色土 粘性やや強 しまりやや強
- 17層 10YR5/6黄褐色土 粘性弱 しまり弱 1~3mmの炭化物少量含む
- 18層 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性弱 しまり弱 1~5mmの炭化物微量含む
- 19層 10YR3/2黒褐色土 1~5mmの炭化物少量含む

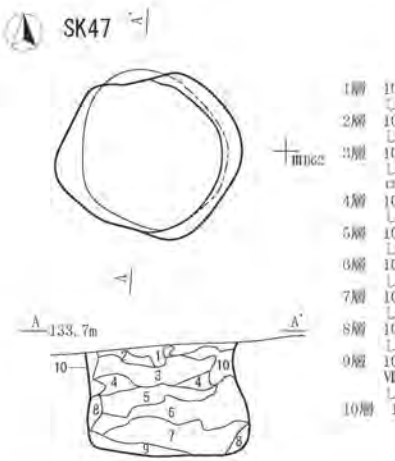
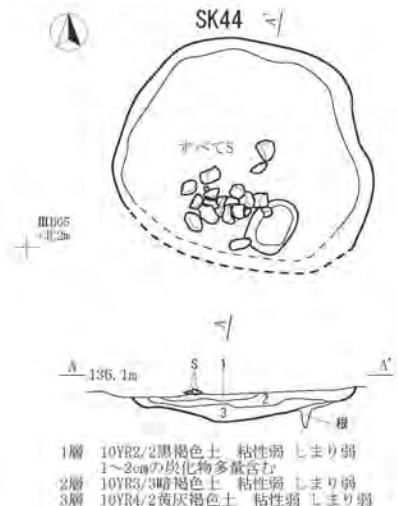
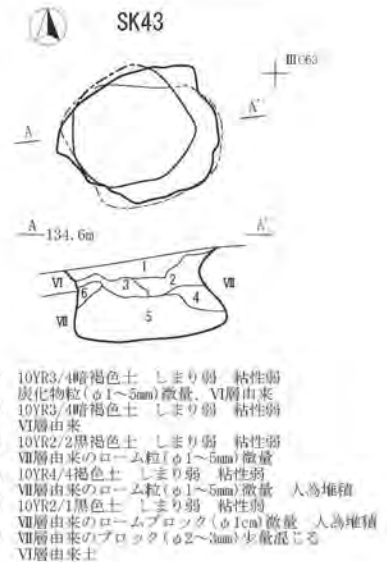
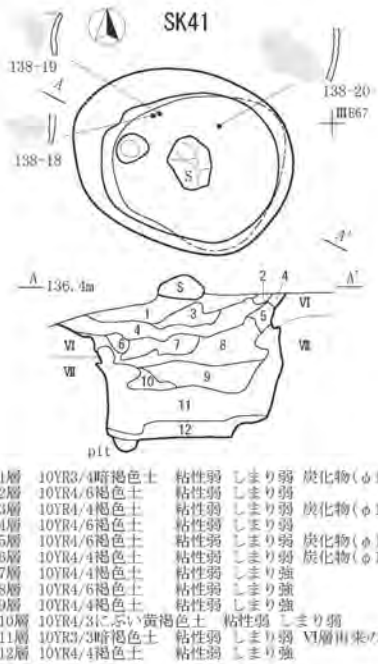
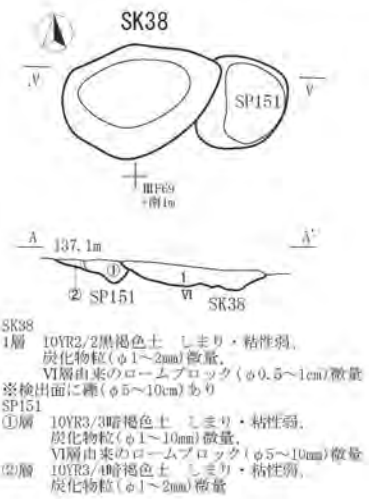
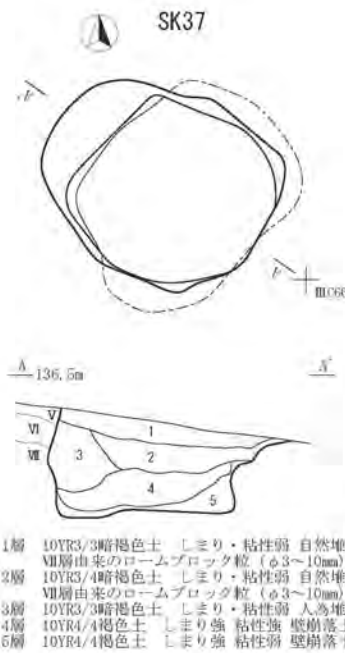


- 1層 欠番
- 2層 10YR4/6褐色土 炭化物粒(φ5~10mm)微量
- 3層 欠番
- 4層 10YR3/4暗褐色土 VII層由来のローム含む
- 5層 10YR5/6黄褐色土 VII層由来のローム含む
- 6層 10YR5/4にぶい黄褐色土 VII層由来のローム含む
- 7層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物粒(φ5~10mm)微量
- 8層 10YR4/6褐色土 炭化物粒(φ5~10mm)微量
- 9層 10YR3/4暗褐色土 炭化物粒(φ5~10mm)微量
- 10層 10YR4/6褐色土 VII層由来のローム粒(φ5~10mm)微量
- 11層 10YR5/6黄褐色土
- 12層 10YR4/6褐色土
- 13層 7.5YR4/6褐色土 VII層由来のローム含む、炭化物粒(φ1mm)微量
- 14層 10YR5/3にぶい黄褐色土 VII層由来のローム含む、炭化物粒(φ1mm)微量
- 15層 10YR4/6褐色土 VII層由来のローム含む 炭化物粒(φ1mm)微量
- 16層 7.5YR4/6褐色土 VII層由来のローム含む 炭化物粒(φ1mm)微量
- 17層 7.5YR4/6褐色土 VII層由来のローム含む 炭化物粒(φ1mm)微量 壁崩落土
- 18層 7.5YR5/6明褐色土 VII層由来のローム含む 炭化物粒(φ1mm)微量 壁崩落土
- 19層 7.5YR5/6明褐色土 VII層由来のローム含む 炭化物粒(φ1mm)微量 壁崩落土
- 20層 7.5YR4/6褐色土 VII層由来のローム含む 炭化物粒(φ1mm)微量 壁崩落土

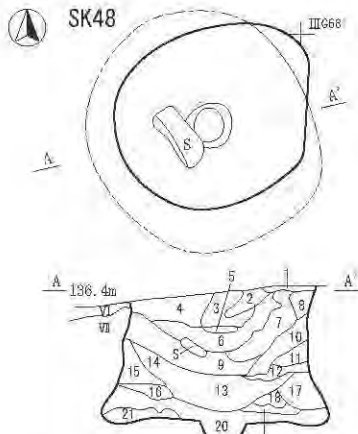
第48図 遺構図42 (SK26~SK28, SK30, SK31, SK33)



第49図 遺構図43 (SK32, SK35, SK67)



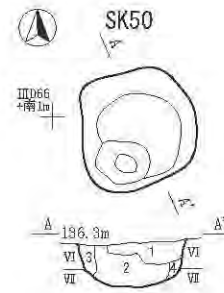
第50図 遺構図44 (SK36~SK38, SK41~SK44, SK47)



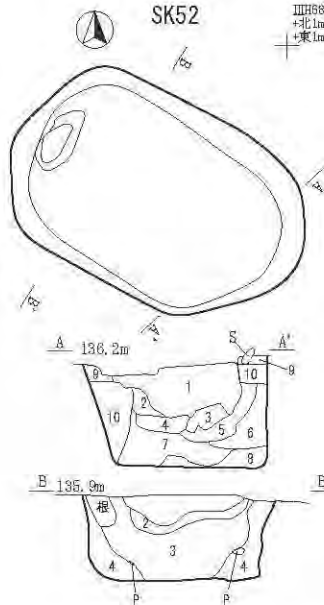
- 1層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 2層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 3層 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 4層 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 5層 10YR4/4褐色土 粘性弱 しまり弱
- 6層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 7層 10YR4/4褐色土 粘性弱 しまり弱
- 8層 10YR4/4褐色土 粘性弱 しまり弱
- 9層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 10層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 11層 10YR4/4褐色土 粘性弱 しまり弱
- 12層 10YR4/4褐色土 粘性弱 しまり弱
- 13層 10YR3/4暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 14層 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 15層 10YR2/3黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 16層 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 17層 10YR2/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 18層 10YR3/4暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 19層 10YR4/4褐色土
- 20層 10YR2/3黒褐色土 黄褐色ローム粒微量
- 21層 10YR2/2黒褐色土



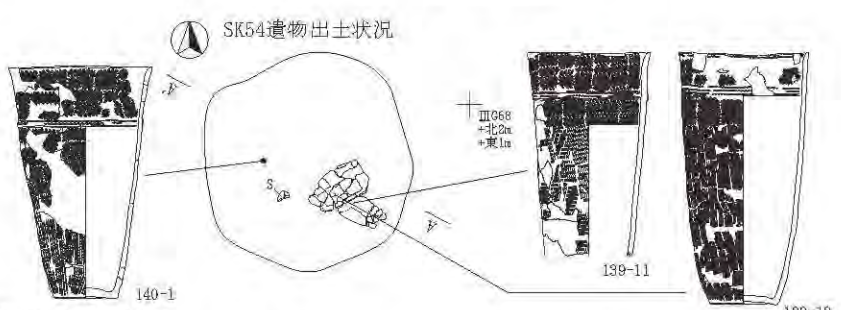
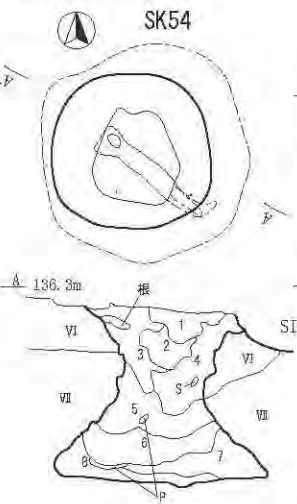
- 1層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 2層 10YR2/3黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 1cmのロームブロック少量含む



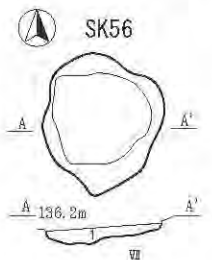
- 1層 10YR3/1黒色土 粘性弱 しまり弱
 - 2層 10YR2/1黒色土 粘性弱 しまり弱
 - 3層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 4層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 1~2mmのロームブロック(VI層由来)含む



- A-A' 断面
- 1層 10YR2/3黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 黄褐色ロームブロック(φ1~5cm)微量
 - 炭化物(φ0.5~1cm)微量
 - 上面に径15cmの円礫伴有
 - 2層 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 黄褐色ロームブロック(φ1~5cm)微量
 - 炭化物(φ0.5~1cm)微量
 - 3層 10YR2/1黒色土 粘性弱 しまり弱
 - 黄褐色ロームブロック(φ1cm)微量
 - ローム粒(φ1~5mm)微量 炭化物(φ0.5~1cm)微量
 - 4層 7.5YR4/3褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 7層由来のロームブロック(φ1~5cm)多量
 - 5層 10YR3/2黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 - V層由来のロームブロック(φ1~2cm)微量
 - 炭化物(φ0.5cm)多量
 - 6層 10YR3/3暗褐色土 粘性弱 しまり弱
 - V層由来のロームブロック(φ1~2cm)少量
 - 炭化物(φ0.5cm)多量
 - 7層 7.5YR4/4褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 7層由来のロームブロック主体
 - 8層 10YR3/4暗褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 7層由来のロームブロック(φ1~3cm)少量
 - 9層 V層由来土
 - 10層 VII層由来土
- B-B' 断面
- 1層 10YR2/3黒褐色土
 - 2層 10YR3/3暗褐色土
 - 3層 10YR2/2黒褐色土
 - 4層 10YR3/3暗褐色土



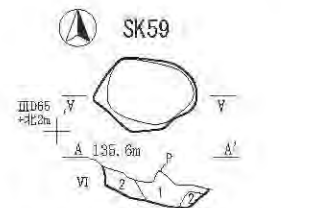
- IV層由来の土を主体とする
- 1層 10YR3/4暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~1cm)微量 V層粒(φ~2cm)微量、焼土粒(φ~5mm)微量
 - 2層 10YR4/4褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~1cm)微量 V層粒(φ~1cm)微量、VII層ブロック(φ~2cm)少量
 - 3層 7.5YR4/6褐色ローム しまり・粘性強 IV層由来土少量
 - 4層 10YR3/4暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~1cm)微量 V層粒(φ~1cm)微量
 - 5層 10YR3/4暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~2cm)微量 V層粒(φ~3cm)微量
 - 6層 10YR4/4褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~2cm)微量 V層粒(φ~1cm)微量
 - 7層 10YR4/4褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~1cm)微量 V層粒(φ~2cm)微量 VII層ブロック(φ~5cm)微量
 - 8層 10YR3/4暗褐色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ~2cm)微量 V層粒(φ~2cm)微量
- ※5~8層に1~2cmの炭化物を含む
※1~2層に立石



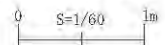
- 1層 10YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性弱
- 炭化物(φ1~2mm)微量
- 黄褐色ローム粒(φ1cm)微量



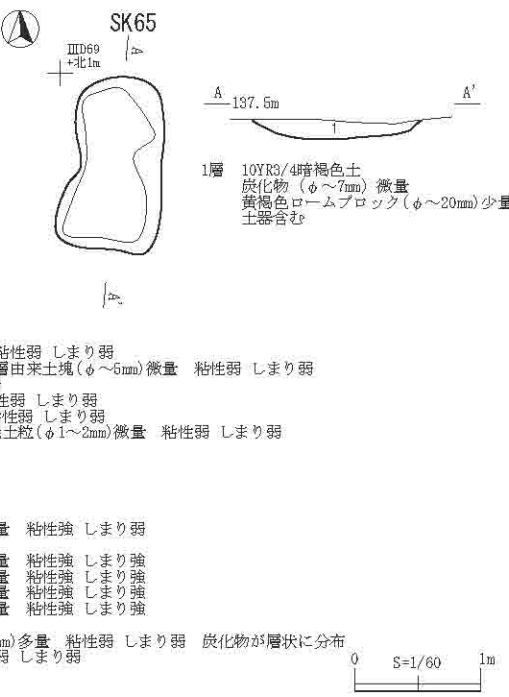
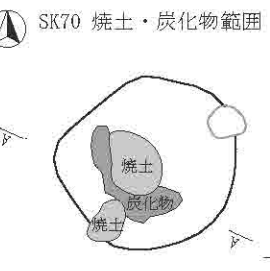
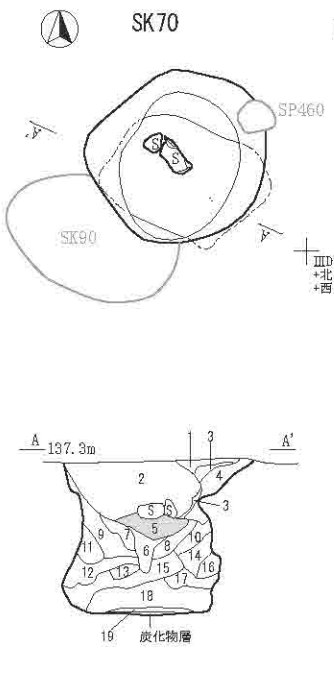
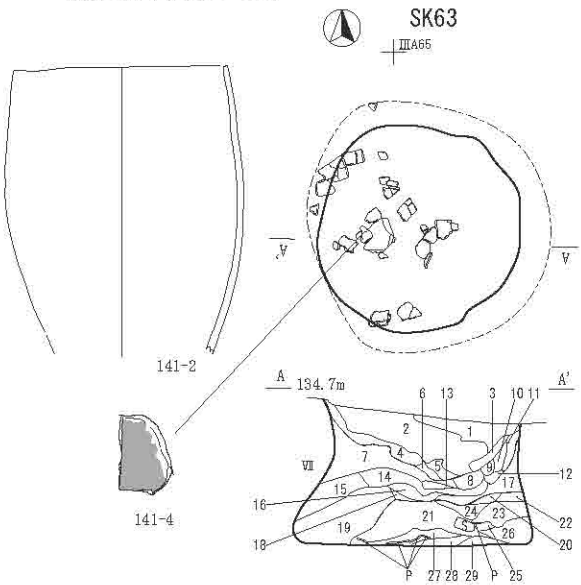
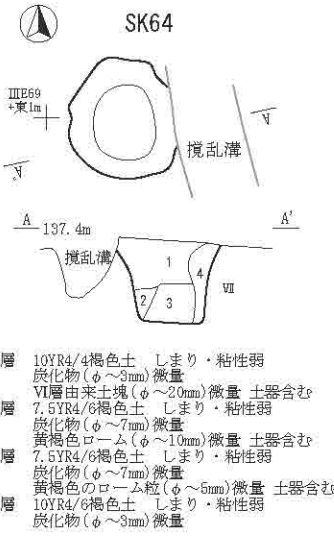
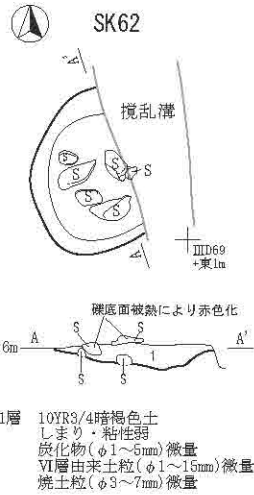
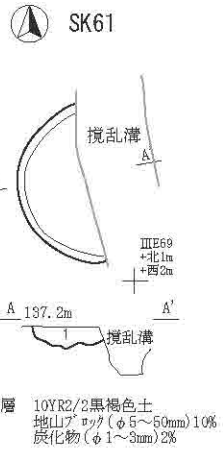
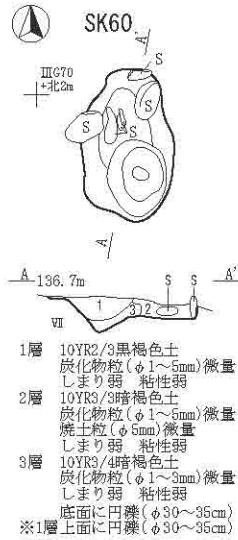
- 1層 10YR3/3暗褐色土 しまり・粘性弱
- 炭化物粒(φ1~5mm)微量
- VI層由来土塊少量混入



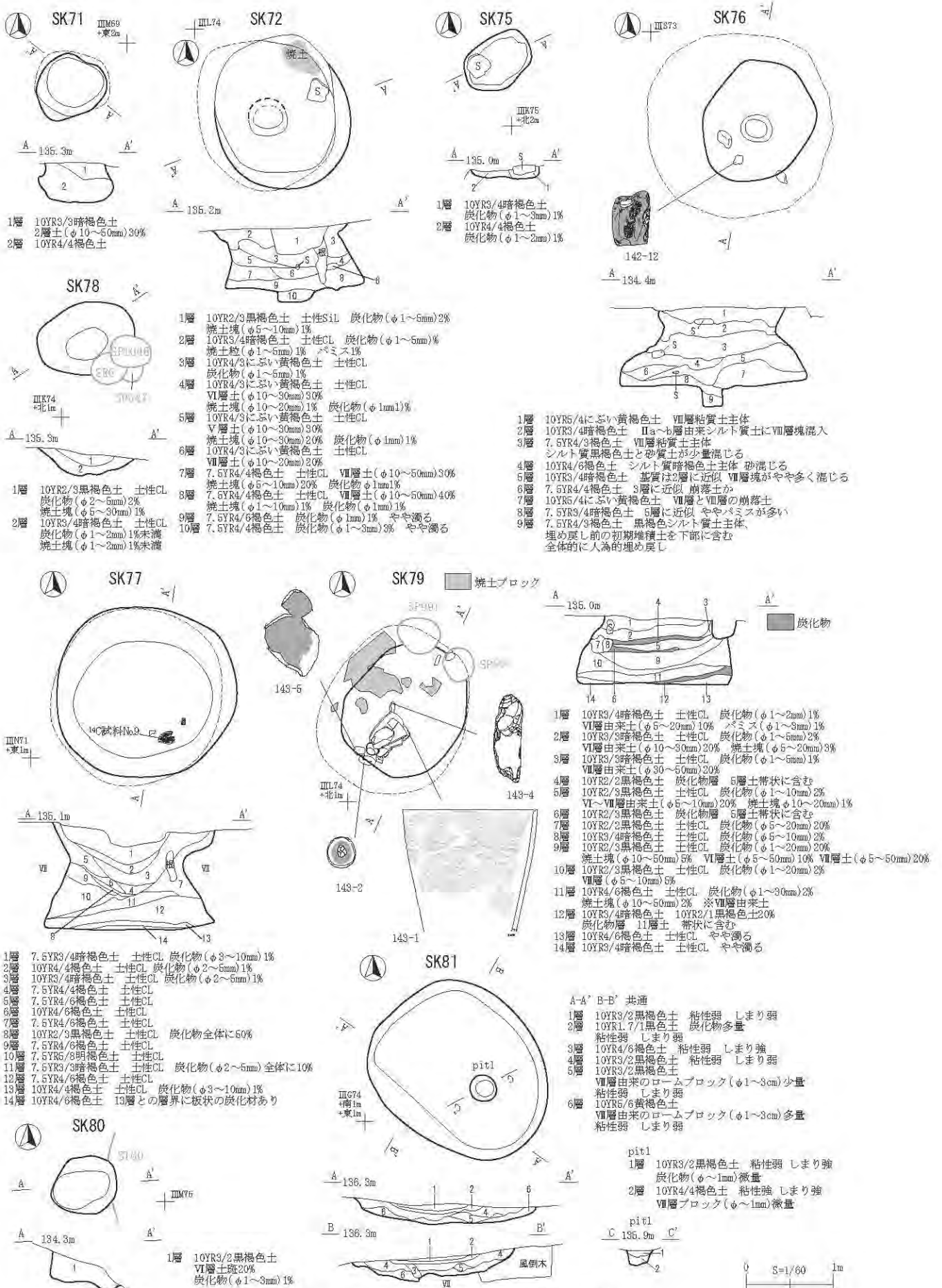
- 1層 10YR3/3暗褐色土 炭化物粒(φ0.5~1cm)微量
- VI層由来のローム粒(φ0.5~1cm)微量
- 小礫(φ2~5mm)微量 しまり弱 粘性弱
- 2層 10YR4/3に多い黄褐色土 炭化物粒(φ5~7mm)微量
- 焼土粒(φ0.5~1cm)微量
- VI層土粒(φ1~2cm)微量 しまり弱 粘性弱



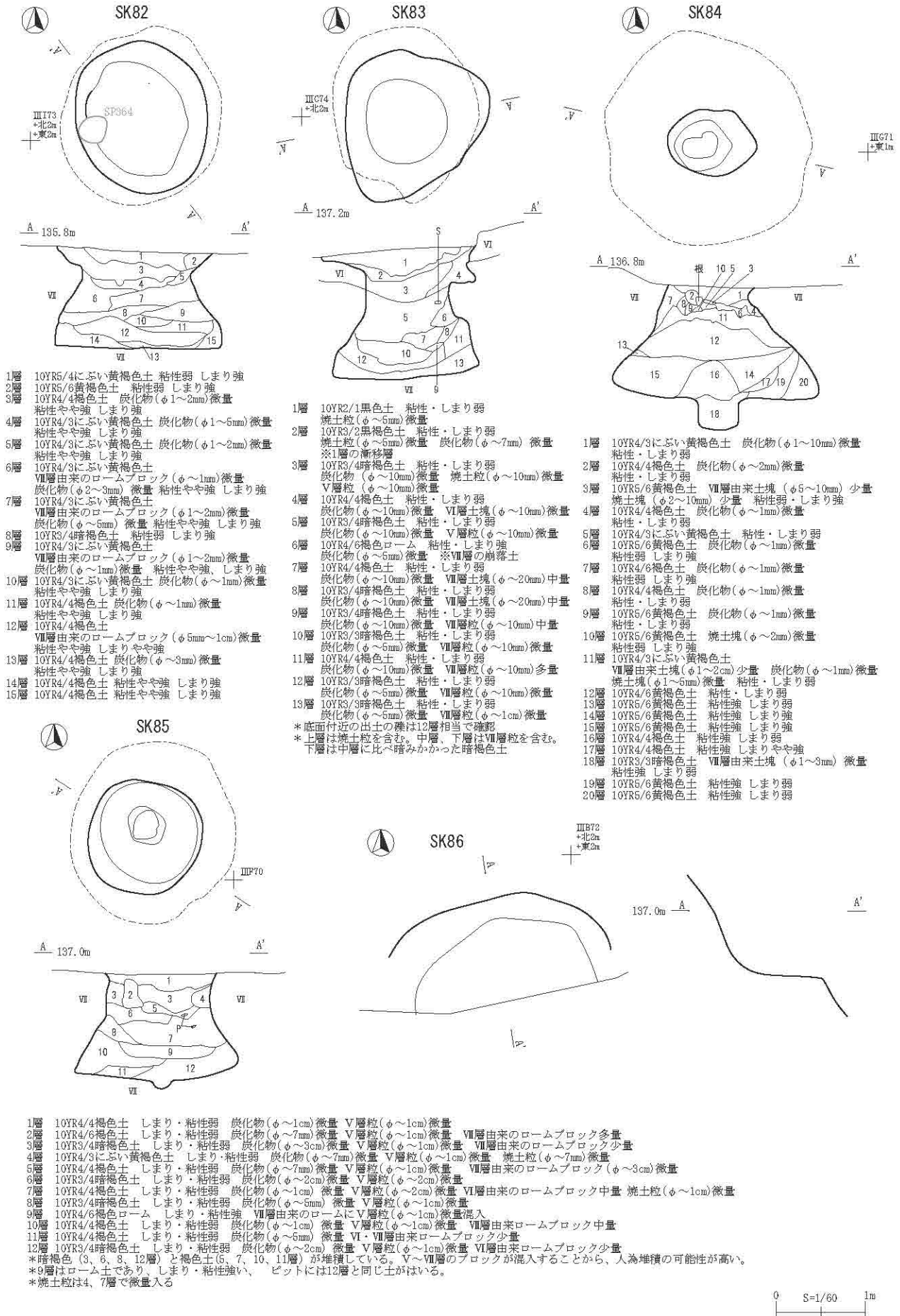
第51図 遺構図45 (SK48~SK50, SK52, SK54~SK57, SK59)



第52図 遺構図46 (SK60~SK65, SK70)



第53図 遺構図47 (SK71, SK72, SK75~SK81)

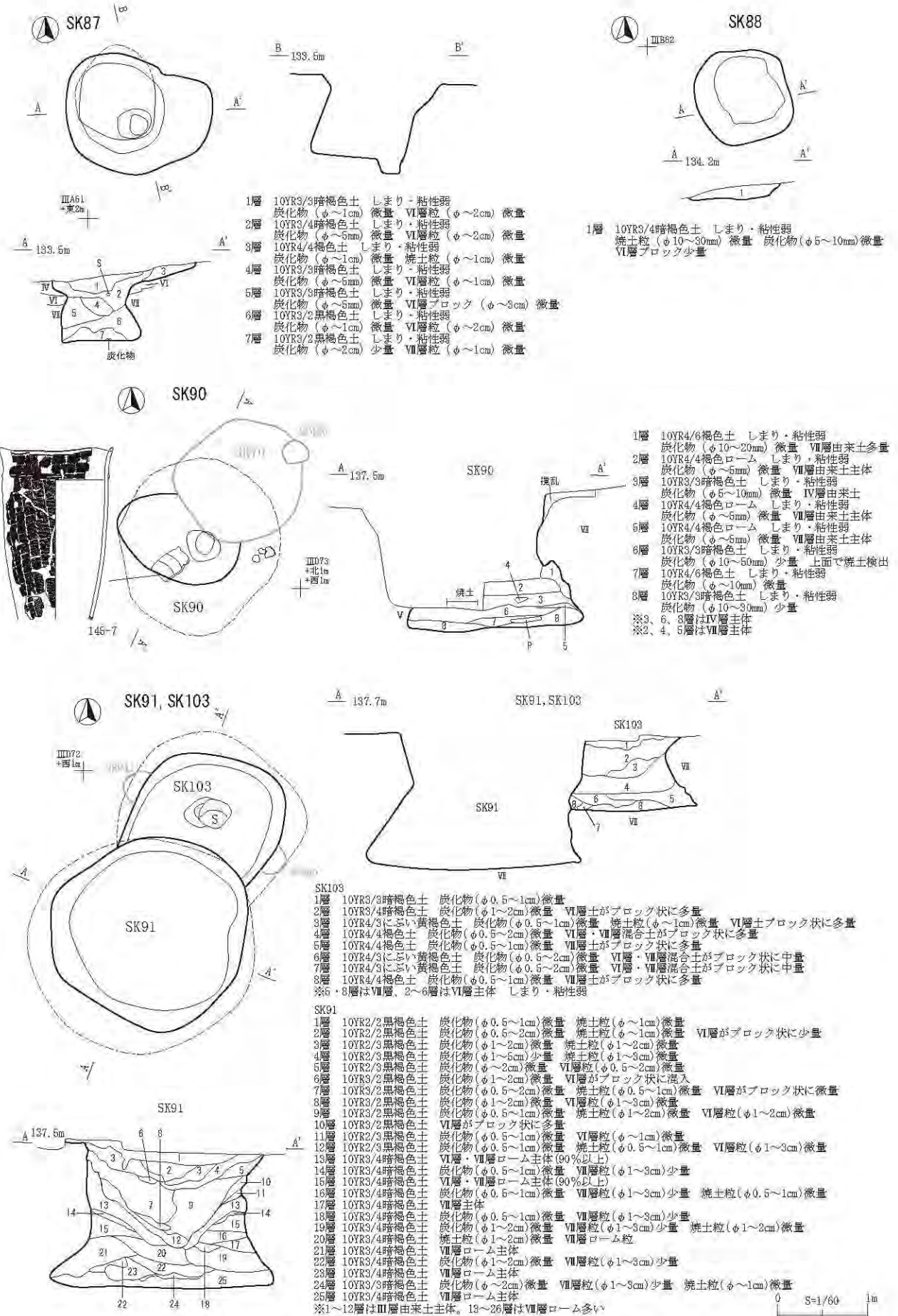


- 1層 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性弱 しまり強
- 2層 10YR5/6黄褐色土 粘性弱 しまり強
- 3層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ1~2mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 4層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ1~5mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ1~2mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 6層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ2~3mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 7層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ~5mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 8層 10YR3/4暗褐色土 粘性弱 しまり強
- 9層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ1~2mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 10層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 11層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 12層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ5mm~1cm)微量 粘性やや強 しまり強
- 13層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ~3mm)微量 粘性やや強 しまり強
- 14層 10YR4/4褐色土 粘性やや強 しまり強
- 15層 10YR4/4褐色土 粘性やや強 しまり強

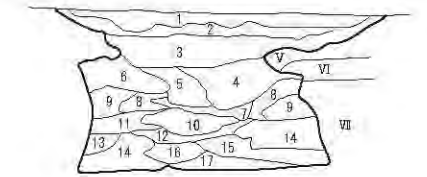
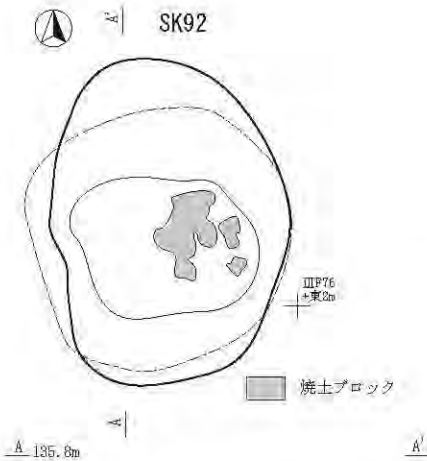
- 1層 10YR2/1黒色土 粘性・しまり弱 焼土粒(φ~5mm)微量
 - 2層 10YR3/2暗褐色土 粘性・しまり弱 焼土粒(φ~6mm)微量 炭化物(φ~7mm)微量
 - 3層 10YR3/4暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量 焼土粒(φ~10mm)微量
 - 4層 10YR4/4褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量
 - 5層 10YR3/4暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量
 - 6層 10YR4/6褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~6mm)微量
 - 7層 10YR4/4褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量
 - 8層 10YR3/4暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量
 - 9層 10YR3/4暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量
 - 10層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~6mm)微量
 - 11層 10YR4/4褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~10mm)微量
 - 12層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~6mm)微量
 - 13層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~6mm)微量
- * 底面付近の出土の礫は12層相当で確認
 * 上層は焼土粒を含む。中層、下層はVII層粒を含む。
 下層は中層に比べ暗みかかった暗褐色土

- 1層 10YR4/3にぶい黄褐色土 炭化物(φ1~10mm)微量 粘性・しまり弱
- 2層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ~2mm)微量 粘性・しまり弱
- 3層 10YR5/6黄褐色土 VII層由来土塊(φ5~10mm)少量 焼土塊(φ2~10mm)少量 粘性弱・しまり強
- 4層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性・しまり弱
- 5層 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性・しまり弱
- 6層 10YR5/6黄褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性弱 しまり強
- 7層 10YR4/6黄褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性弱 しまり強
- 8層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性・しまり弱
- 9層 10YR5/6黄褐色土 炭化物(φ~1mm)微量 粘性・しまり弱
- 10層 10YR5/6黄褐色土 焼土塊(φ~2mm)微量 粘性弱 しまり強
- 11層 10YR4/3にぶい黄褐色土 VII層由来土塊(φ1~2cm)少量 炭化物(φ~1mm)微量 焼土塊(φ1~6mm)微量 粘性・しまり弱
- 12層 10YR4/6黄褐色土 粘性・しまり弱
- 13層 10YR5/6黄褐色土 粘性強 しまり弱
- 14層 10YR5/6黄褐色土 粘性強 しまり強
- 15層 10YR5/6黄褐色土 粘性強 しまり強
- 16層 10YR4/4褐色土 粘性強 しまり弱
- 17層 10YR4/4褐色土 粘性強 しまりやや強
- 18層 10YR3/3暗褐色土 VII層由来土塊(φ1~3mm)微量 粘性強 しまり弱
- 19層 10YR5/6黄褐色土 粘性強 しまり弱
- 20層 10YR5/6黄褐色土 粘性強 しまり弱

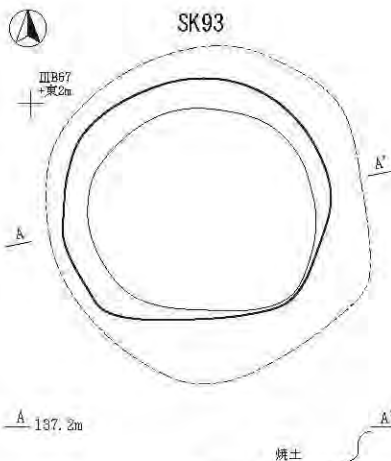
第54図 遺構図48 (SK82~SK86)



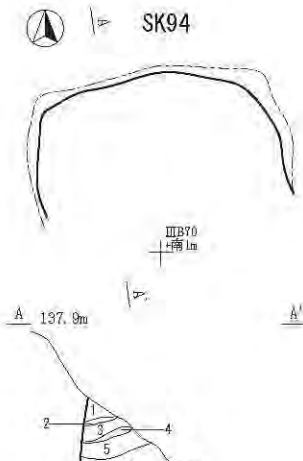
第55図 遺構図49 (SK87, SK88, SK90, SK91, SK103)



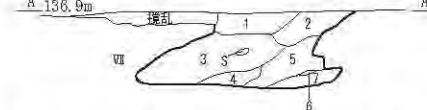
- 1層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量
- 2層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量 VII層粒(φ~1cm)微量
- 3層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~1cm)微量 VII層粒(φ~2cm)微量
- 4層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~1cm)微量 V層粒(φ~1cm)少量
- 5層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.7cm)微量 V層粒(φ~1cm)微量
- 6層 10YR3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~2cm)微量 V層ブロック混入 VII層ブロック少量混入
- 7層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量 V層粒(φ~2cm)微量
- 8層 V層ローム主体 粘性・しまり弱
- 9層 VI層ローム主体 粘性・しまり強
- 10層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量 V層粒(φ~0.7cm)微量
- 11層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 VI層ブロック混入
- 12層 10YR3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量 VII層粒(φ0.5~1cm)少量
- 13層 VII層ロームを主体とする崩落土
- 14層 VII層 VII層ブロックを主体とする人為堆積層
- 15層 10YR3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量 VII層ローム粒(φ~3cm)微量
- 16層 10YR3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量 VII層ローム粒(φ0.5~2cm)微量
- 17層 10YR3/3暗褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ~0.5cm)微量



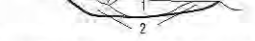
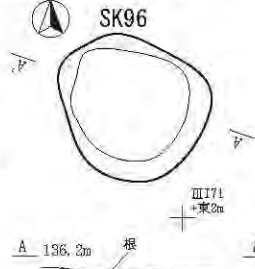
- 1層 5YR4/4に多い赤褐色土 焼土層
- 2層 10YR2/2黒褐色土 炭化物(φ2~3cm)少量 焼土粒(φ1~3cm)微量 III層
- 3層 10YR4/3に多い黄褐色土 炭化物(φ2~3cm)微量 VII層粒(φ1~2cm)微量 IV層由来
- 4層 10YR3/3暗褐色土 炭化物(φ0.5~0.7cm)微量 VII層粒(φ1~3cm)微量 IV層由来
- 5層 10YR3/3暗褐色土 炭化物(φ1~2cm)微量 VII層粒(φ1~2cm)微量 IV層由来
- 6層 10YR4/2灰黄褐色土 炭化物(φ1~2cm)微量 VI層粒(φ1~2cm)微量
- 7層 10YR4/4褐色土 VII層ブロック主体
- 8層 7.5YR4/6褐色土 VII層ブロック主体
- 9層 10YR4/2灰黄褐色土 炭化物(φ1~2cm)微量 VI層粒(φ1~2cm)微量
- 10層 10YR4/2灰黄褐色土 VII層ローム粒(φ1~3cm)中量
- 11層 7.5YR4/6褐色土 VII層ローム粒がブロック状に多量
- 12層 2.5Y4/6オリーブ褐色土 炭化物(φ1~2cm)微量 VI層粒(φ1~2cm)微量 IV層由来土
- 13層 7.5YR4/6褐色土 VII層主体の埋め土
- 14層 10YR3/3暗褐色土 炭化物(φ~2cm)微量 VII層粒(φ1~2cm)微量 IV層由来 V・VI層粒(φ0.5~2cm)微量
- 15層 10YR3/2黒褐色土 VII層の崩落土



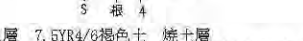
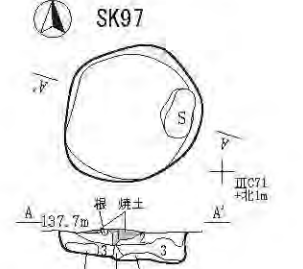
- 1層 10YR4/6褐色土 粘性・しまり弱 VII層主体
- 2層 10YR2/3黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ0.5~0.7cm)微量 IV層由来
- 3層 10YR4/6褐色土 粘性・しまり弱 VII層主体
- 4層 10YR2/2黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ0.5~0.7cm)微量 IV層由来
- 5層 10YR4/6褐色土 粘性・しまり弱 VII層主体
- 6層 10YR3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物(φ1~3cm)微量 VII層ブロック中量混入 粘性・しまり弱



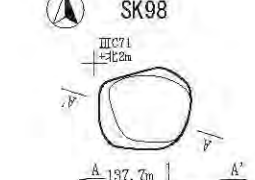
- 1層 10YR4/2灰黄褐色土 焼土粒(φ~1cm)微量 炭化物(φ~2cm)微量
- 2層 10YR4/2灰黄褐色土 焼土粒(φ~2cm)微量 炭化物(φ~1cm)微量
- 3層 10YR4/2灰黄褐色土 焼土粒(φ1~2cm)微量 炭化物(φ1~4cm)微量 円礫(φ10~15cm)微量
- 4層 5YR3/3暗赤褐色土 焼土ブロック(φ5~10cm)微量 炭化物(φ~2cm)微量
- 5層 10YR4/2灰黄褐色土 焼土粒(φ1~2cm)微量 炭化物(φ1~2cm)微量 VII層土が多量混入
- 6層 10YR4/4褐色土 VII層由来の砂質ローム
- 7層 10YR4/3に多い黄褐色土 焼土ブロック(φ~5cm)微量 炭化物(φ0.5~0.7cm)微量



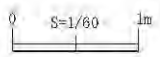
- 1層 10YR2/1黒褐色土 炭化物(φ0.5~2cm)中~多量
- 2層 10YR2/3黒褐色土 炭化物(φ1~3cm)中~多量



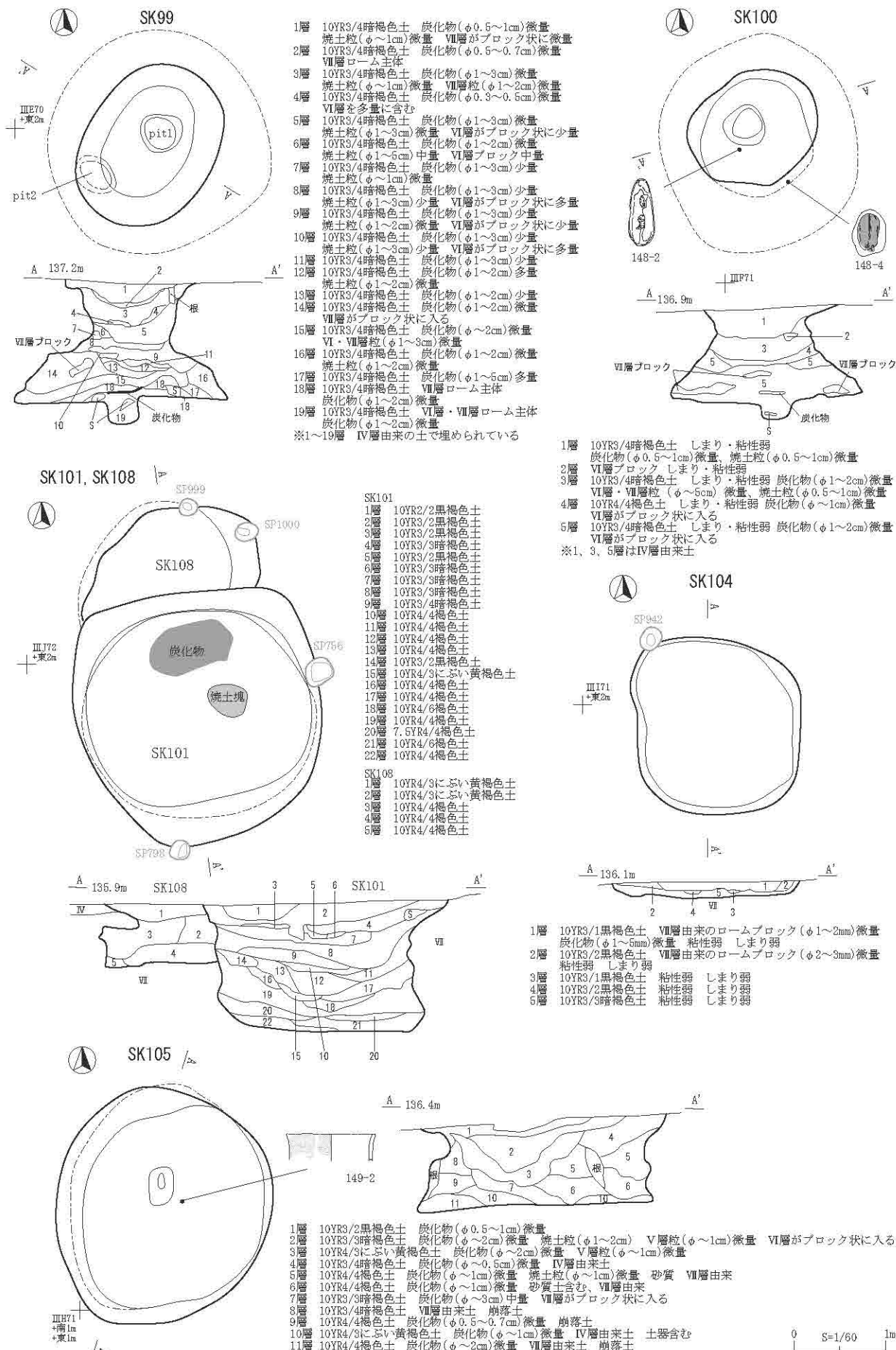
- 1層 7.5YR4/6褐色土 焼土層
- 2層 10YR3/3暗褐色土 炭化物(φ0.5~0.7cm)微量
- 3層 10YR2/3黒褐色土 焼土粒(φ~1cm)微量 炭化物(φ0.5~0.7cm)微量
- 4層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ0.5~2cm)微量 VII層がブロック状に入る



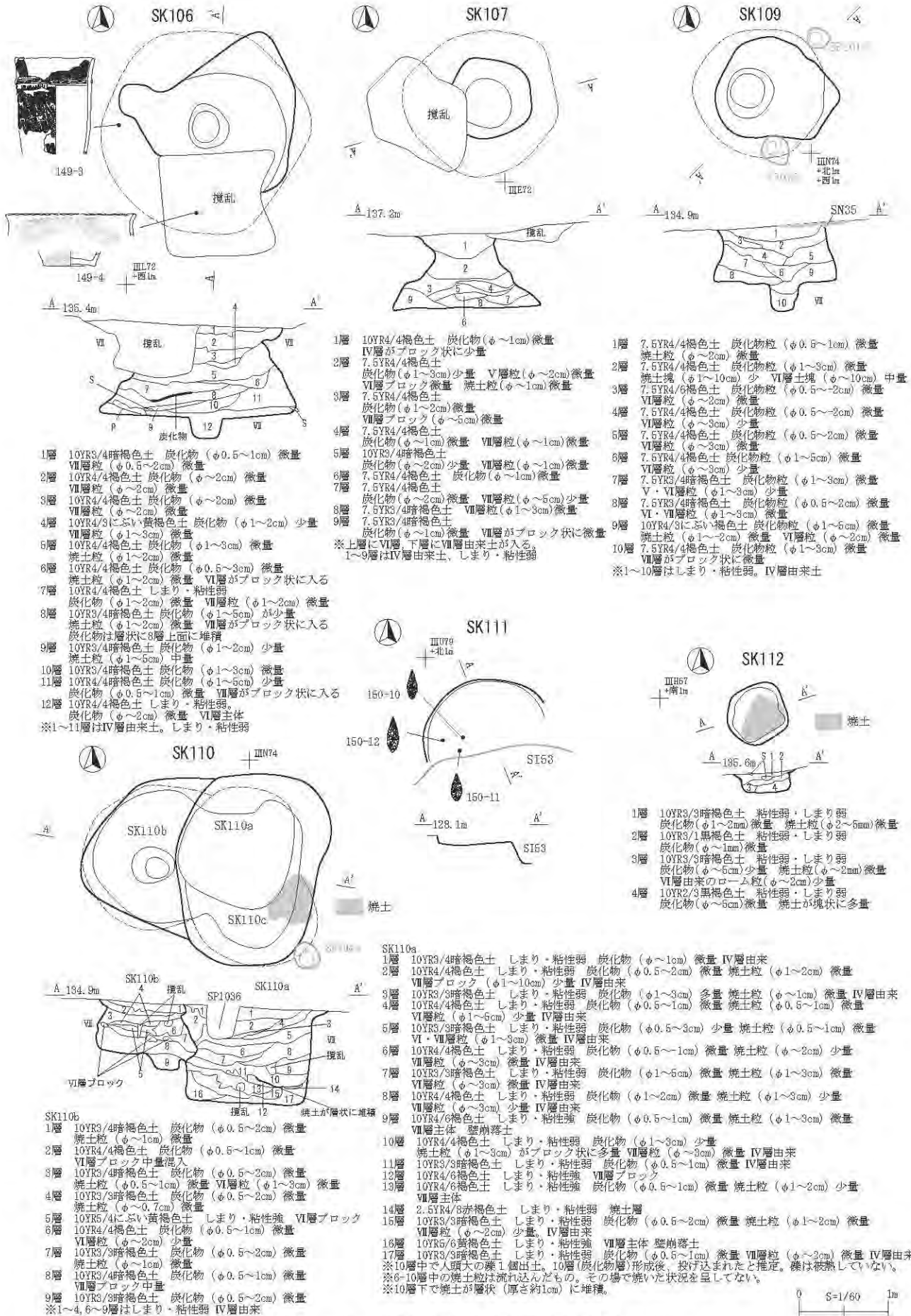
- 1層 10YR4/6褐色土 VII層由来
- 2層 10YR3/3暗褐色土 炭化物(φ0.5~1cm)微量
- 3層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ1~3cm)中量 焼土粒(φ0.5~0.7cm)微量
- 4層 10YR3/3暗褐色土 VII層粒(φ1~2cm)微量 炭化物(φ~1cm)微量



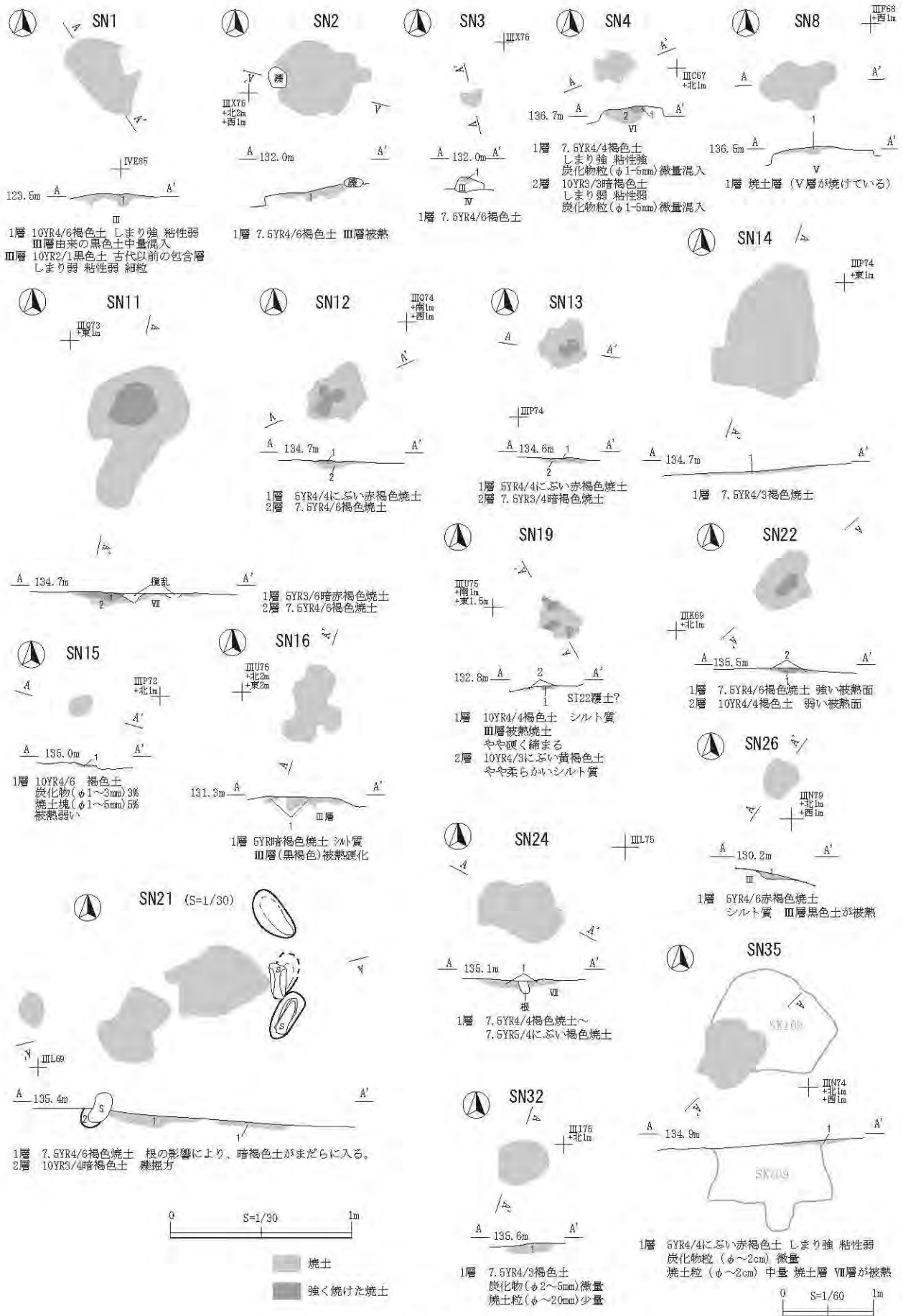
第56図 遺構図50 (SK92 ~ SK98)



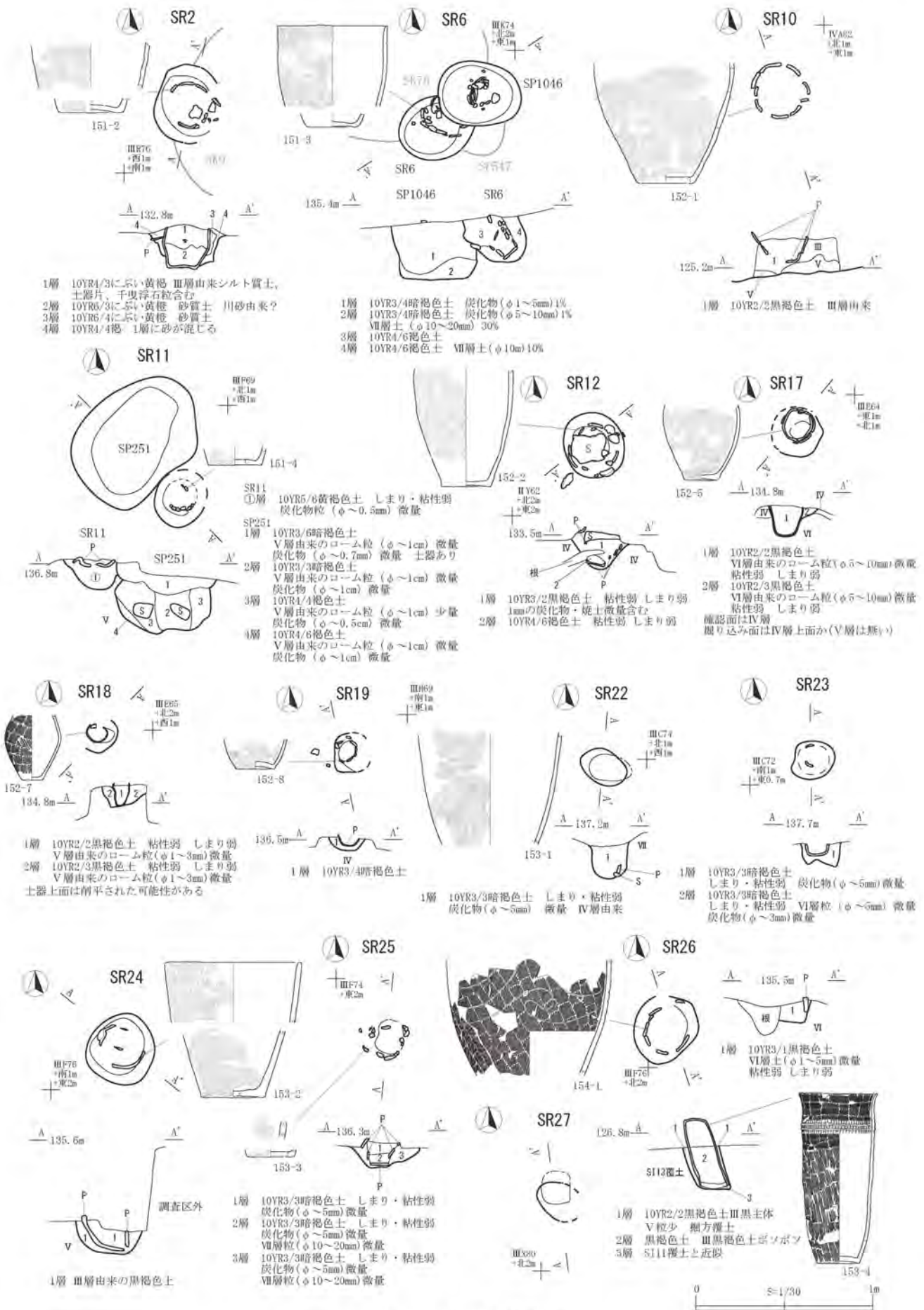
第57図 遺構図51 (SK99~SK101, SK104, SK105, SK108)



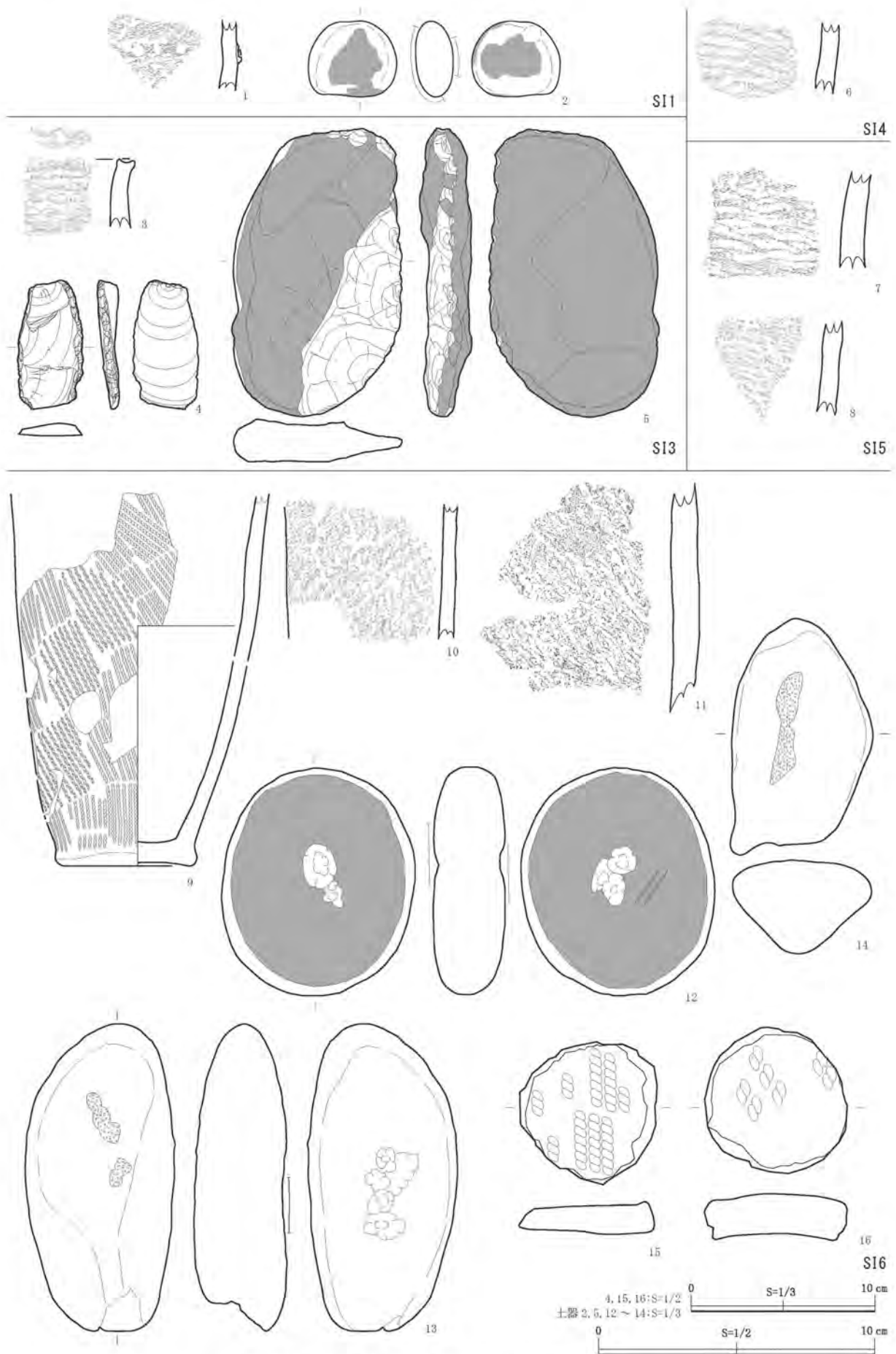
第58図 遺構図52 (SK106, SK107, SK109~SK112)



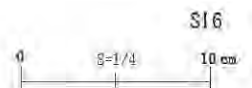
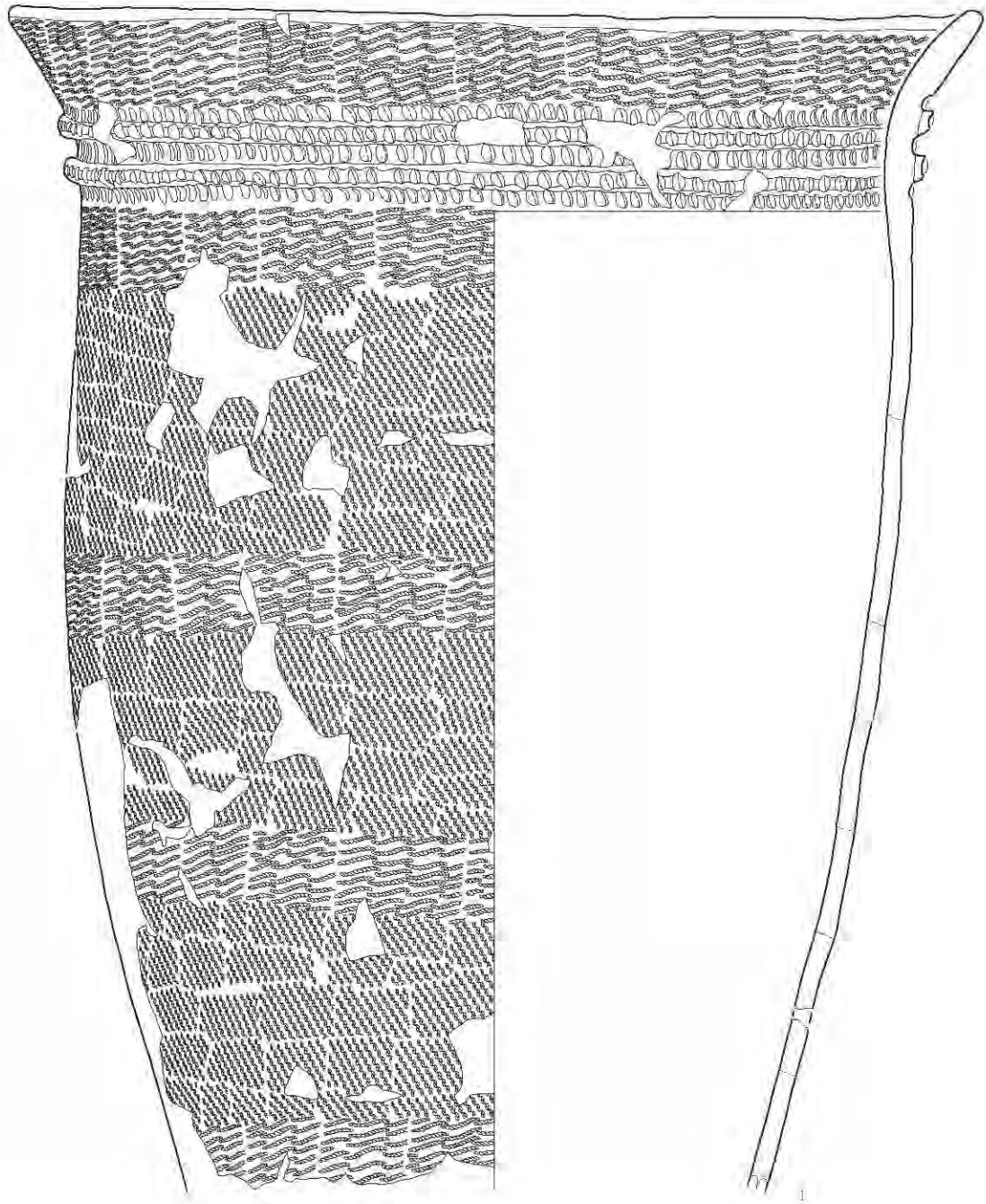
第59図 遺構図53 (SN)



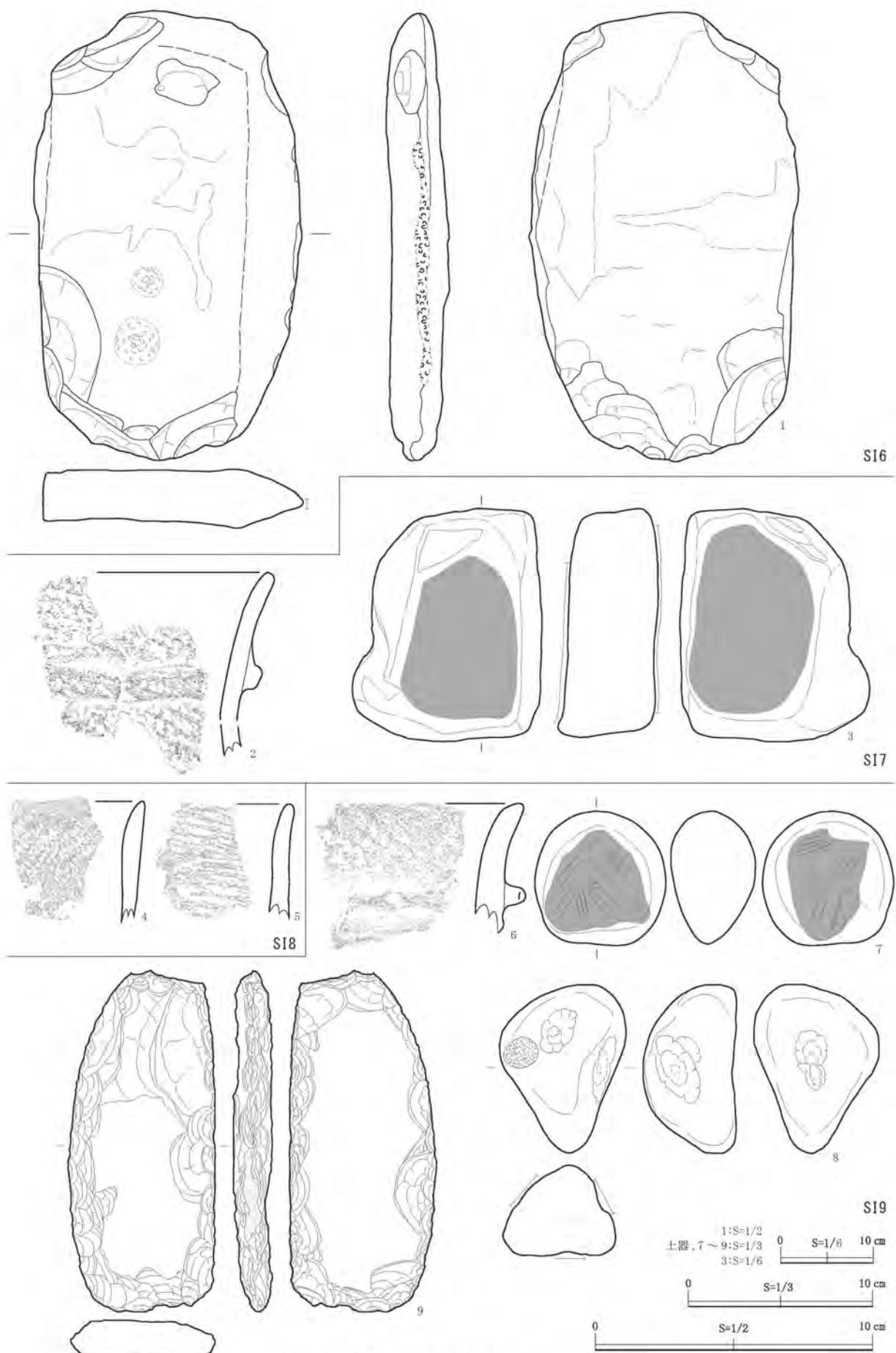
第60図 遺構図54 (SR)



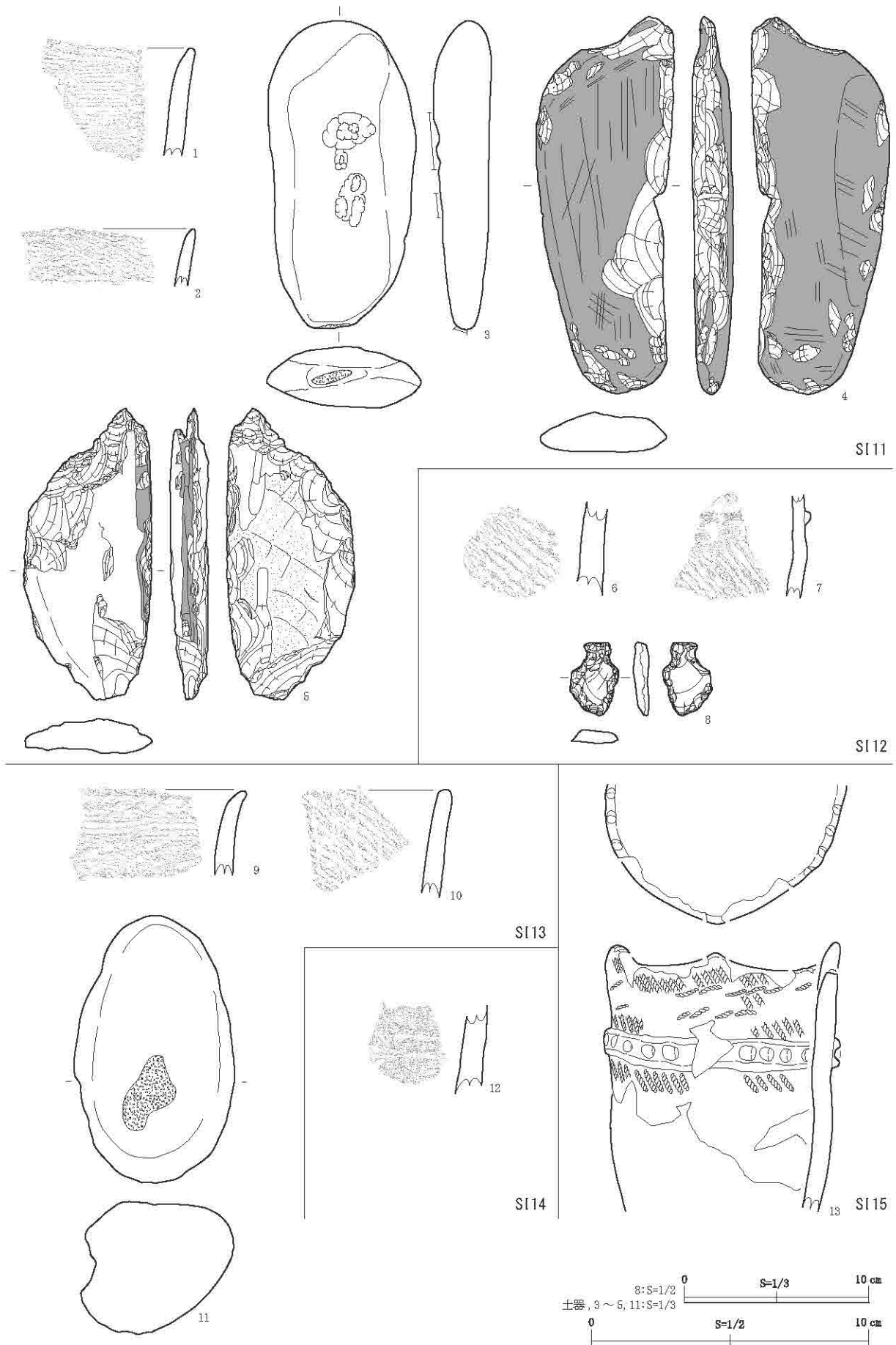
第61図 遺構内出土遺物 1 (SI1, SI3~SI6)



第62図 遺構内出土遺物2 (S16)



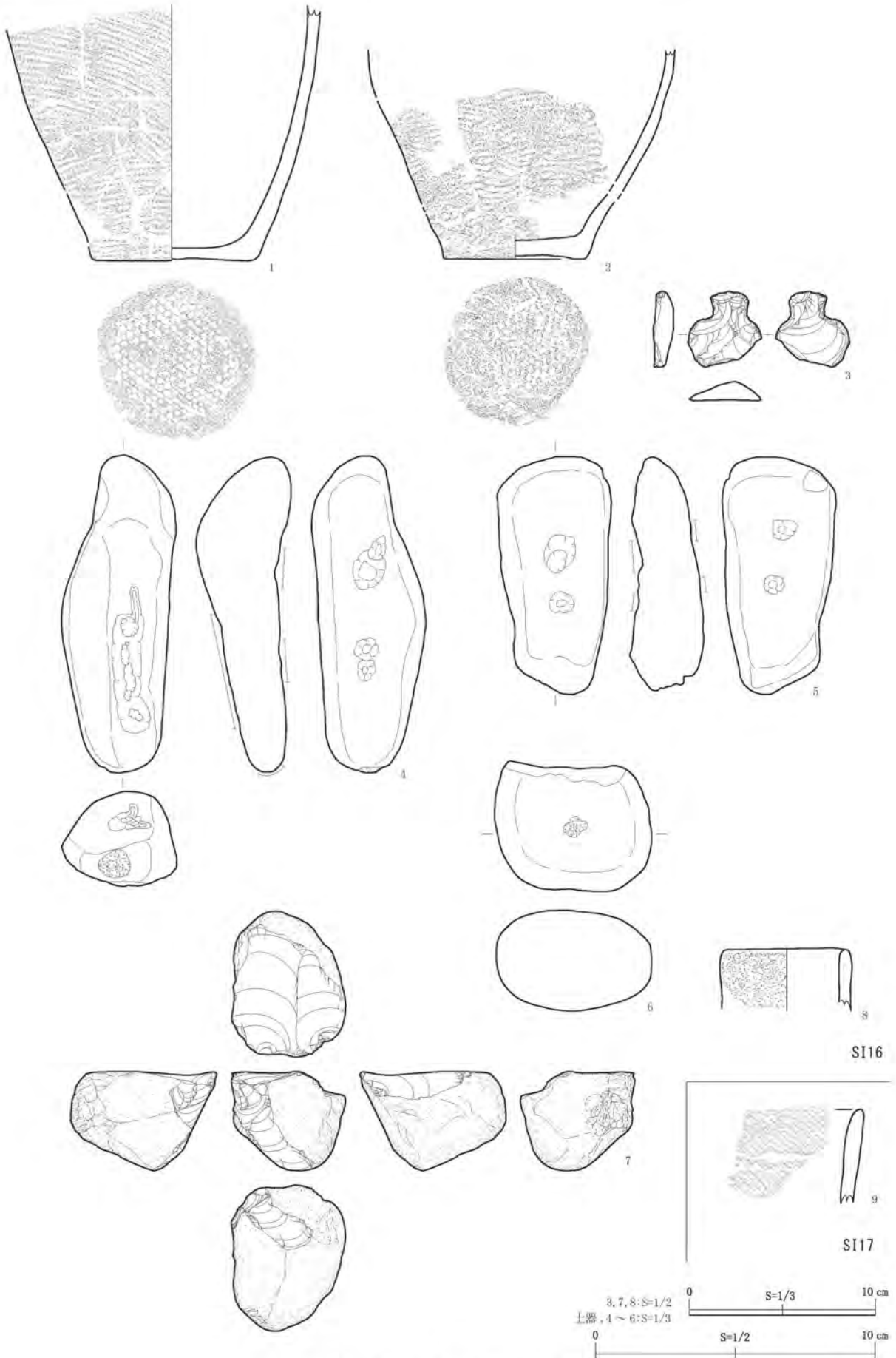
第63図 遺構内出土遺物3 (S16~S19)



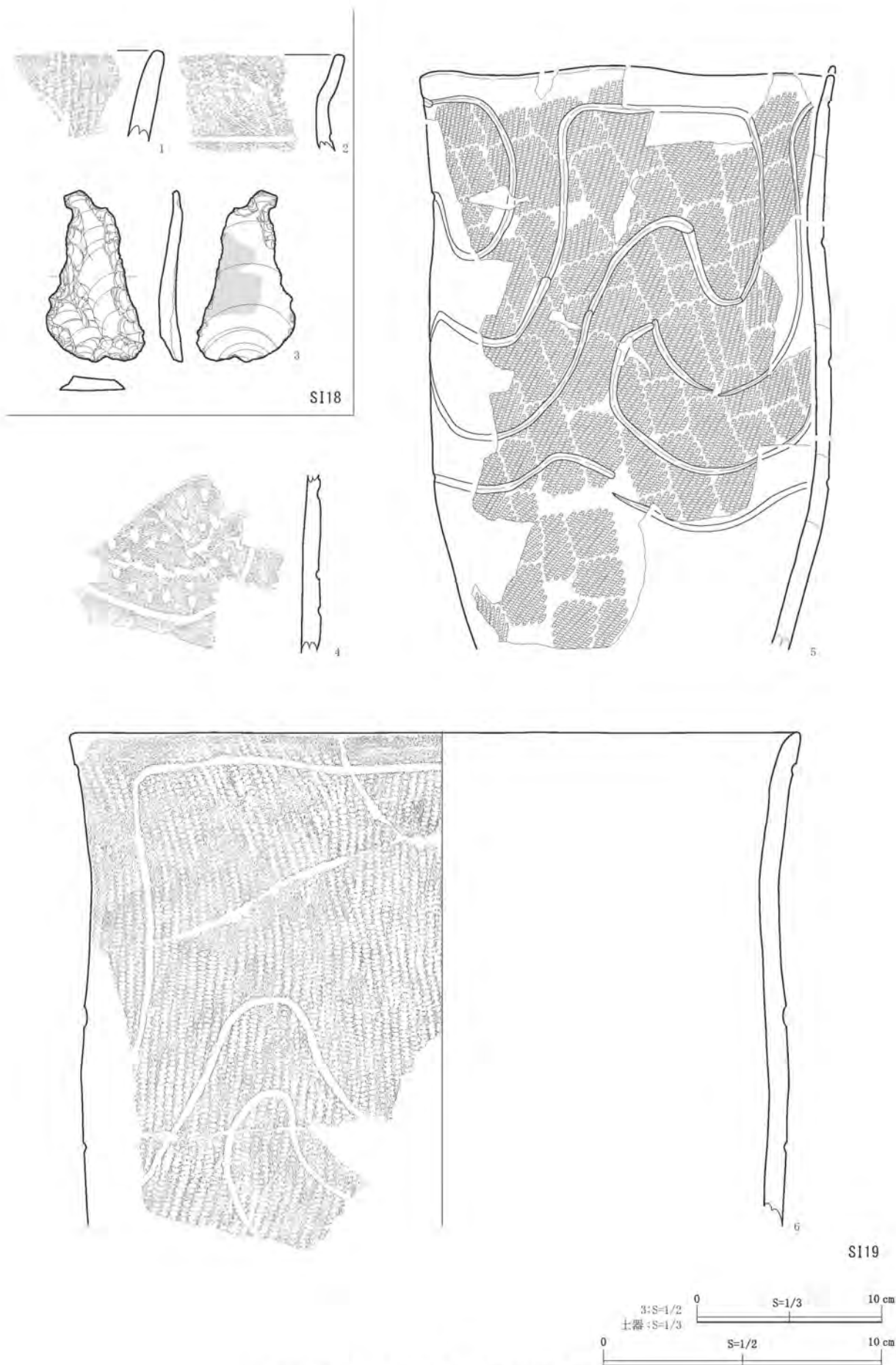
第64図 遺構内出土遺物4 (SI11~SI15)



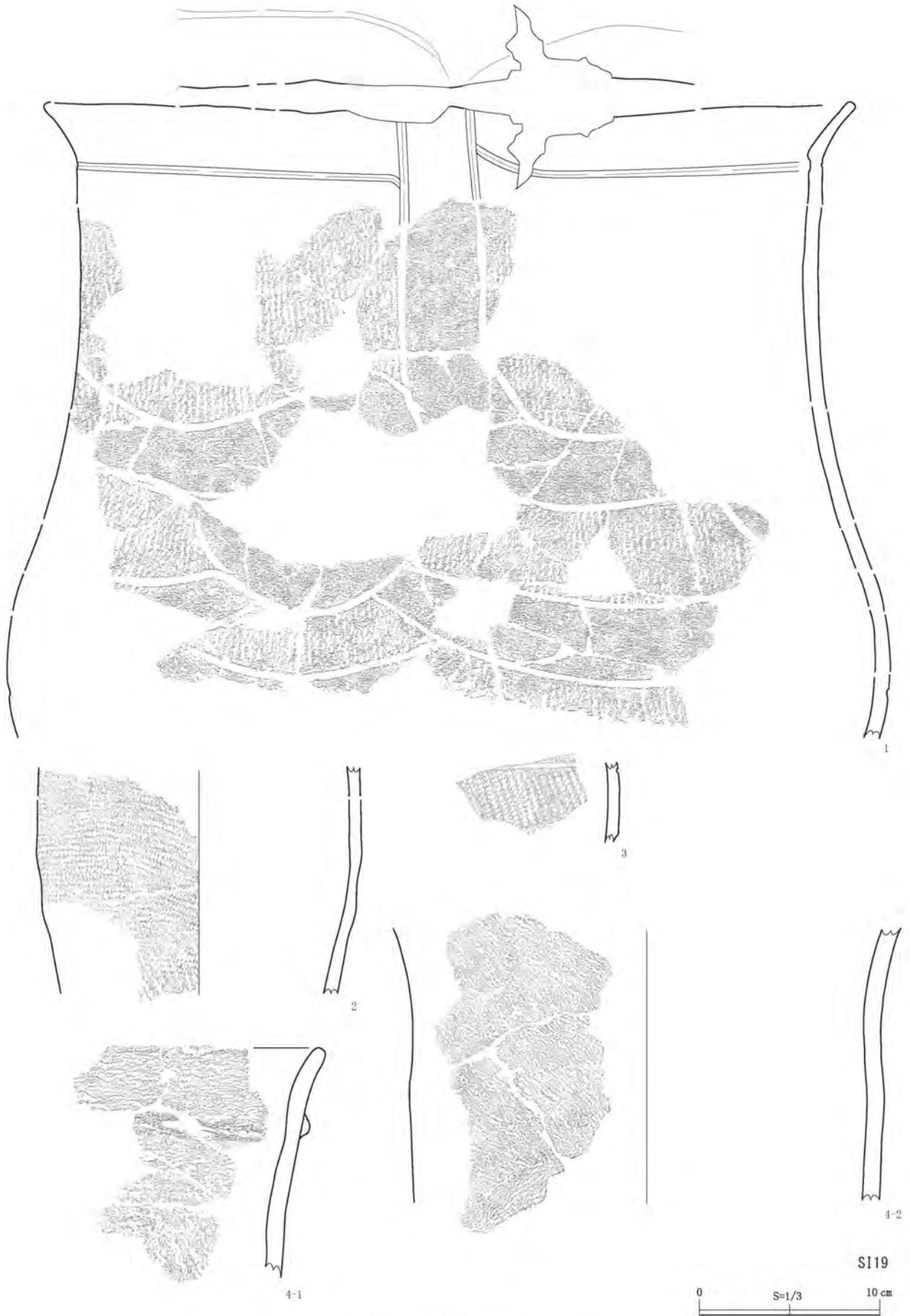
第65図 遺構内出土遺物5 (SI16)



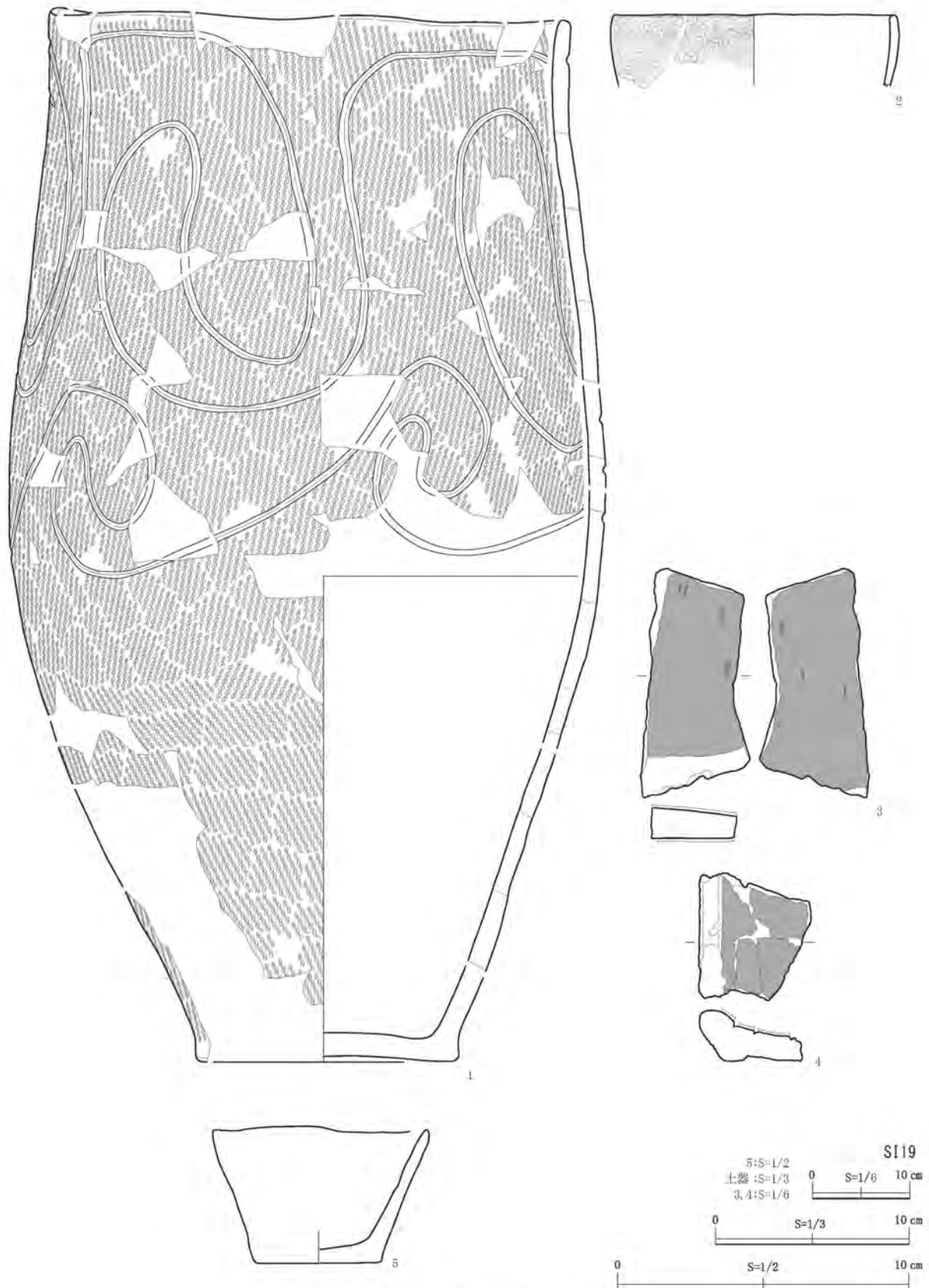
第66図 遺構内出土遺物6 (SI16, SI17)



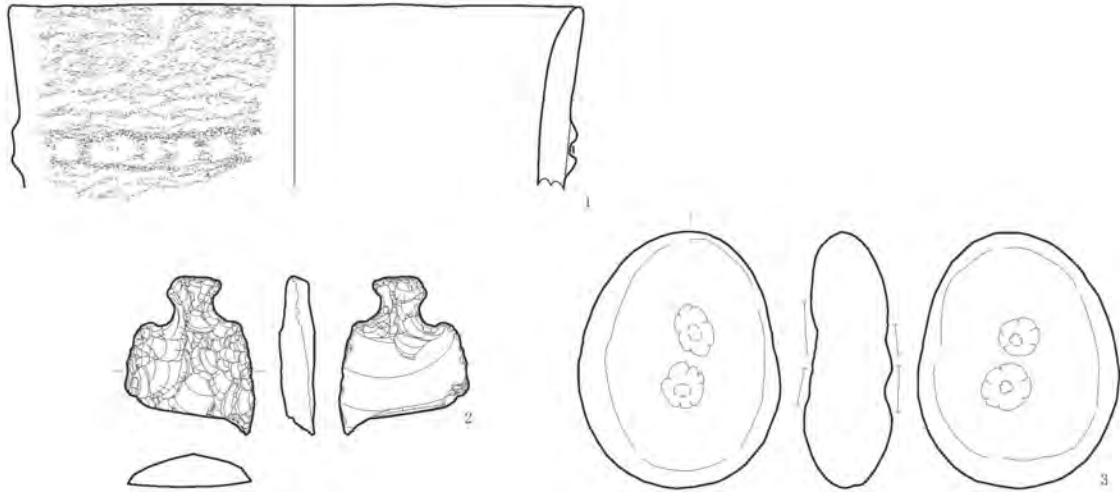
第67図 遺構内出土遺物7 (SI18, SI19)



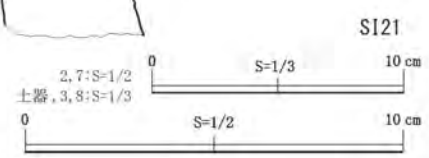
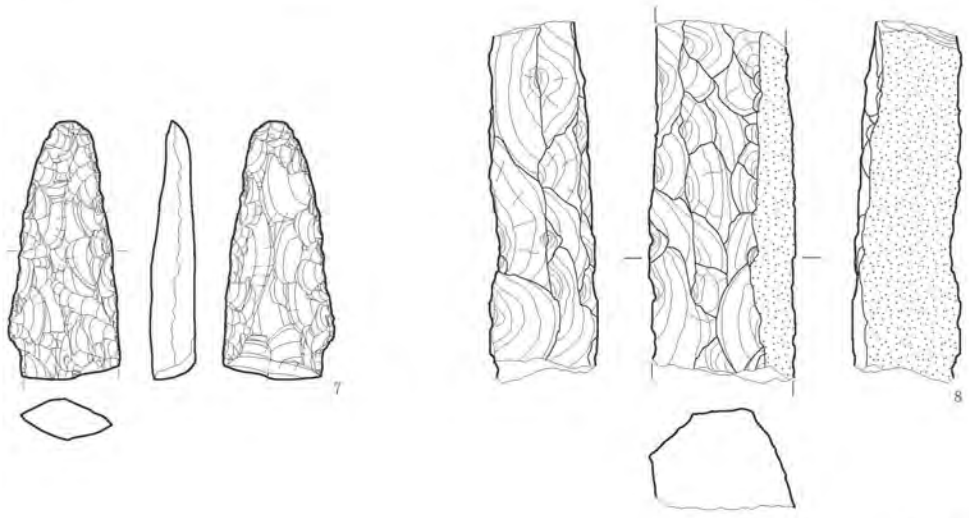
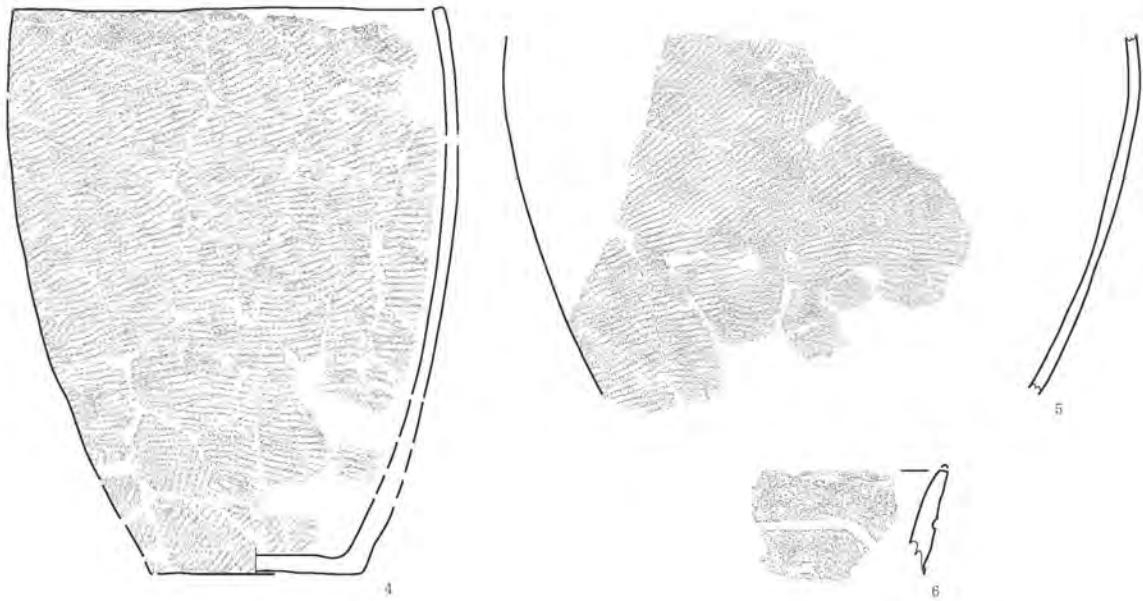
第68図 遺構内出土遺物 8 (SI19)



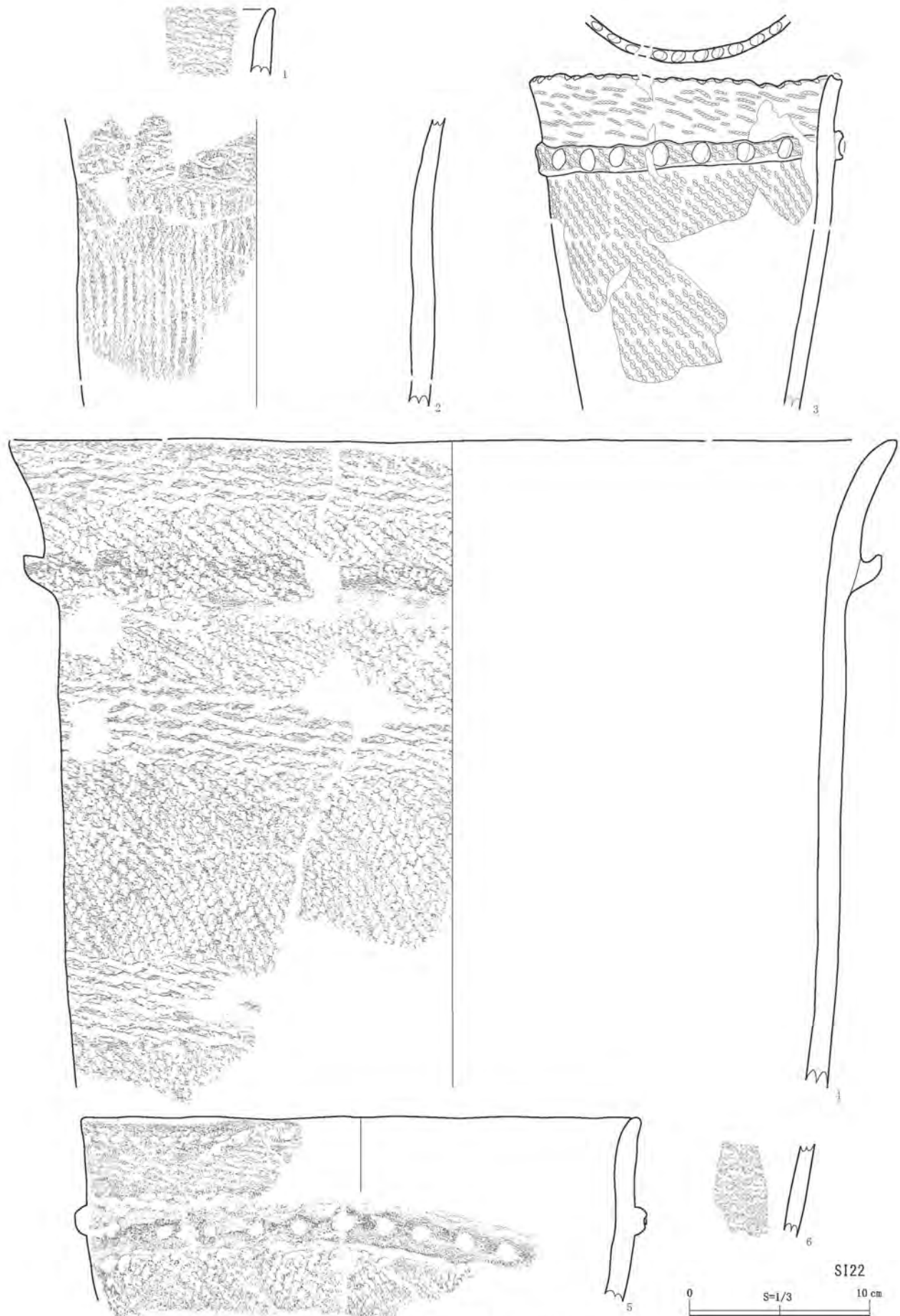
第69図 遺構内出土遺物9 (S119)



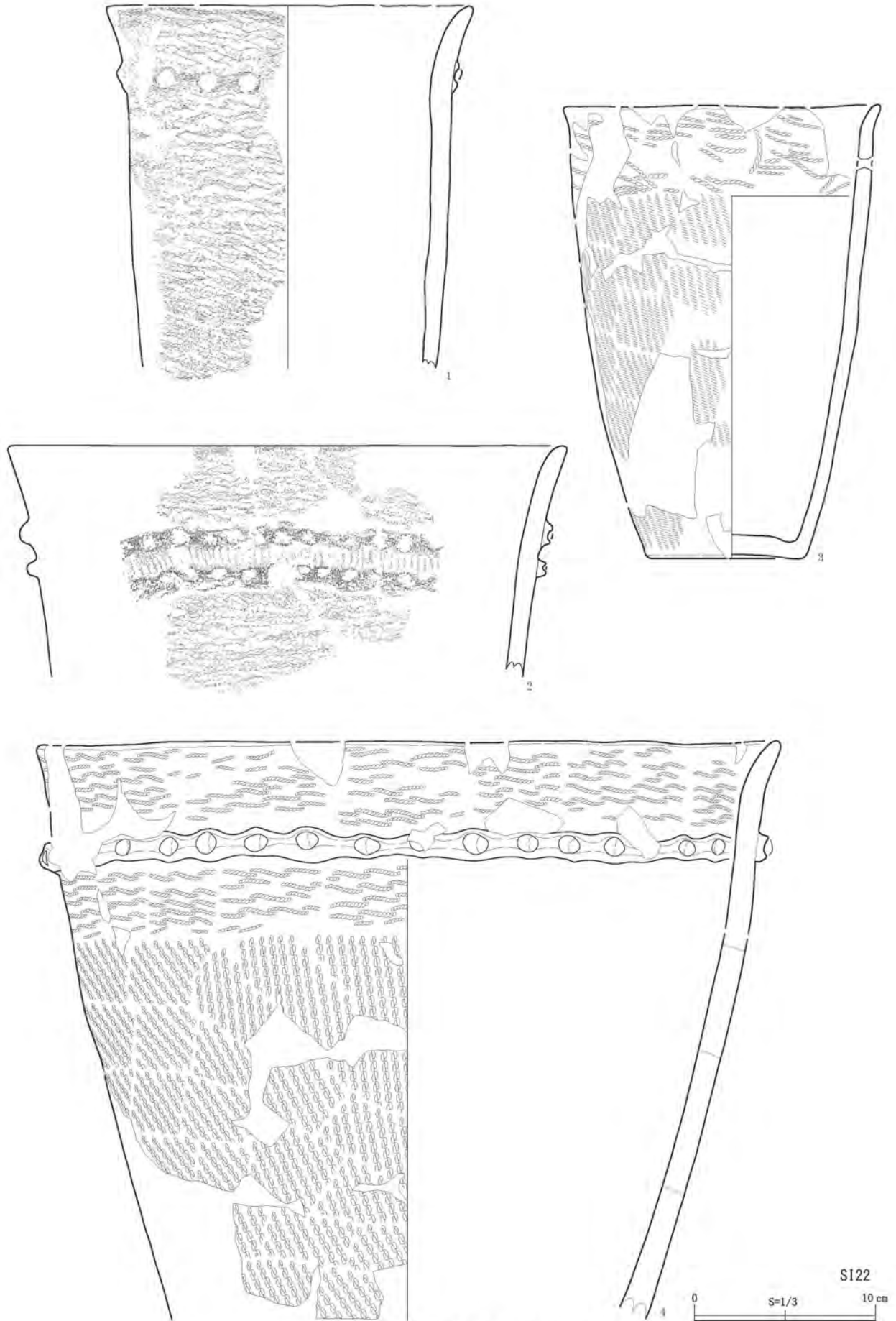
SI20



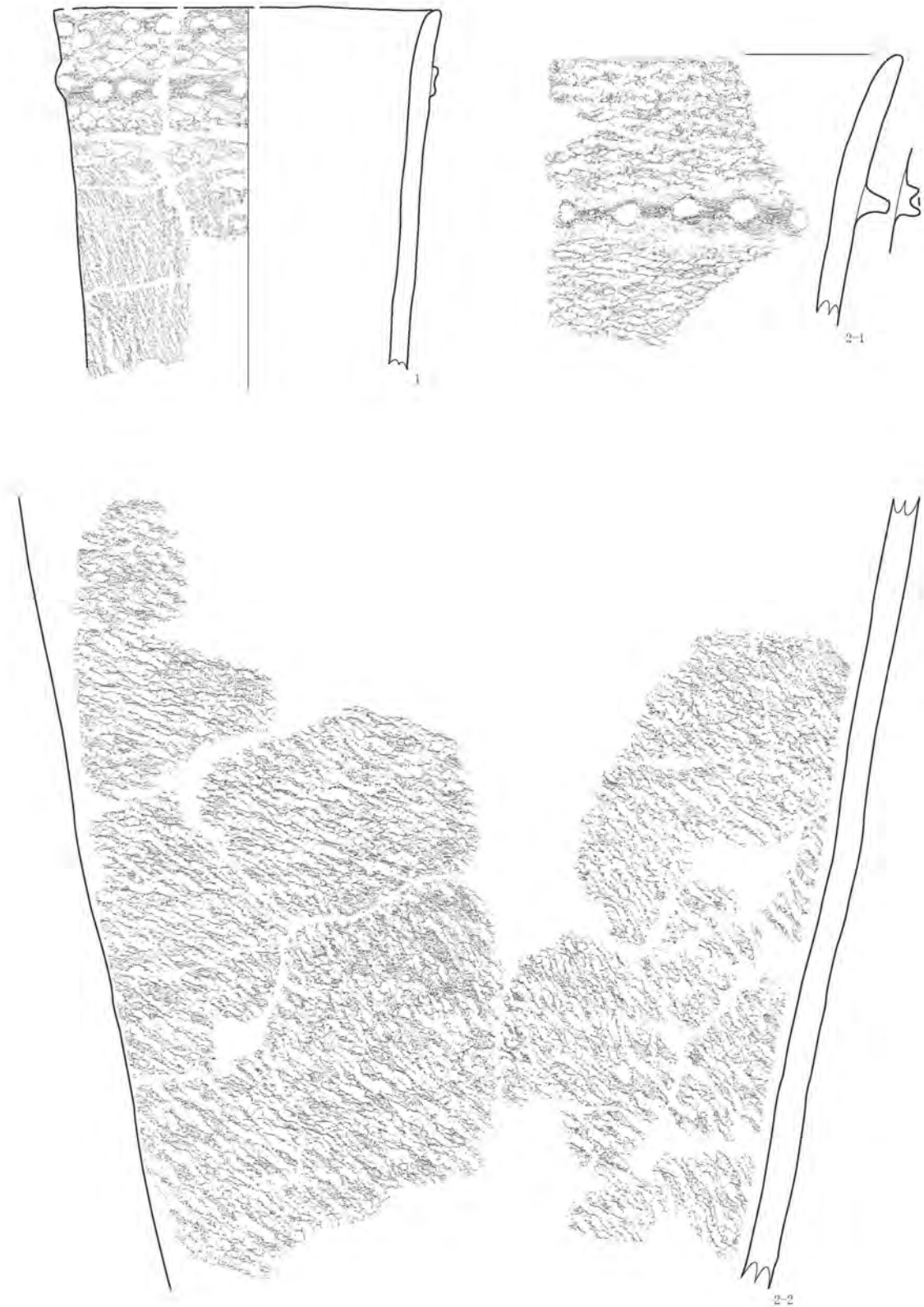
第70図 遺構内出土遺物10 (SI20, SI21)



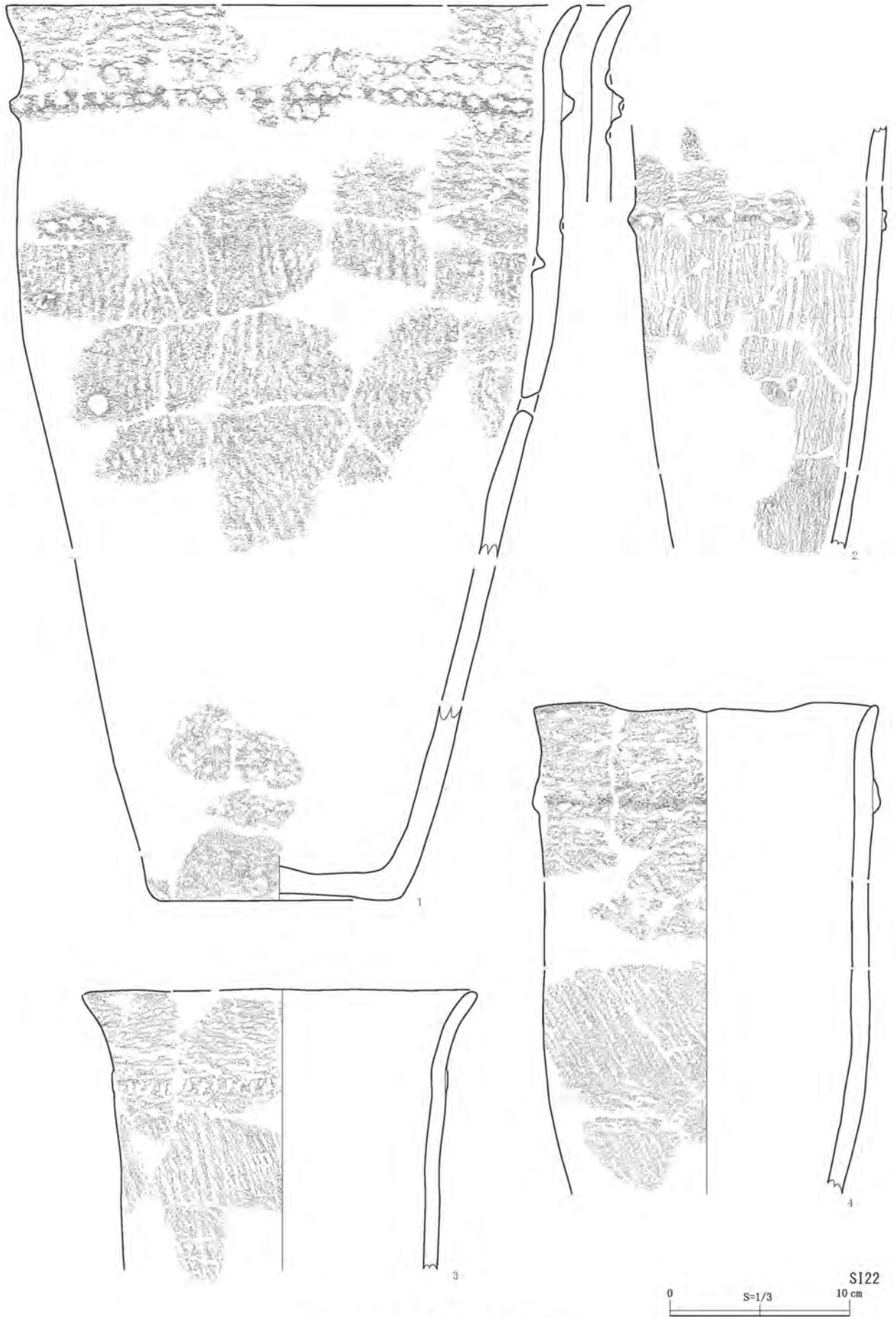
第71図 遺構内出土遺物11 (S122)



第72図 遺構内出土遺物12 (S122)



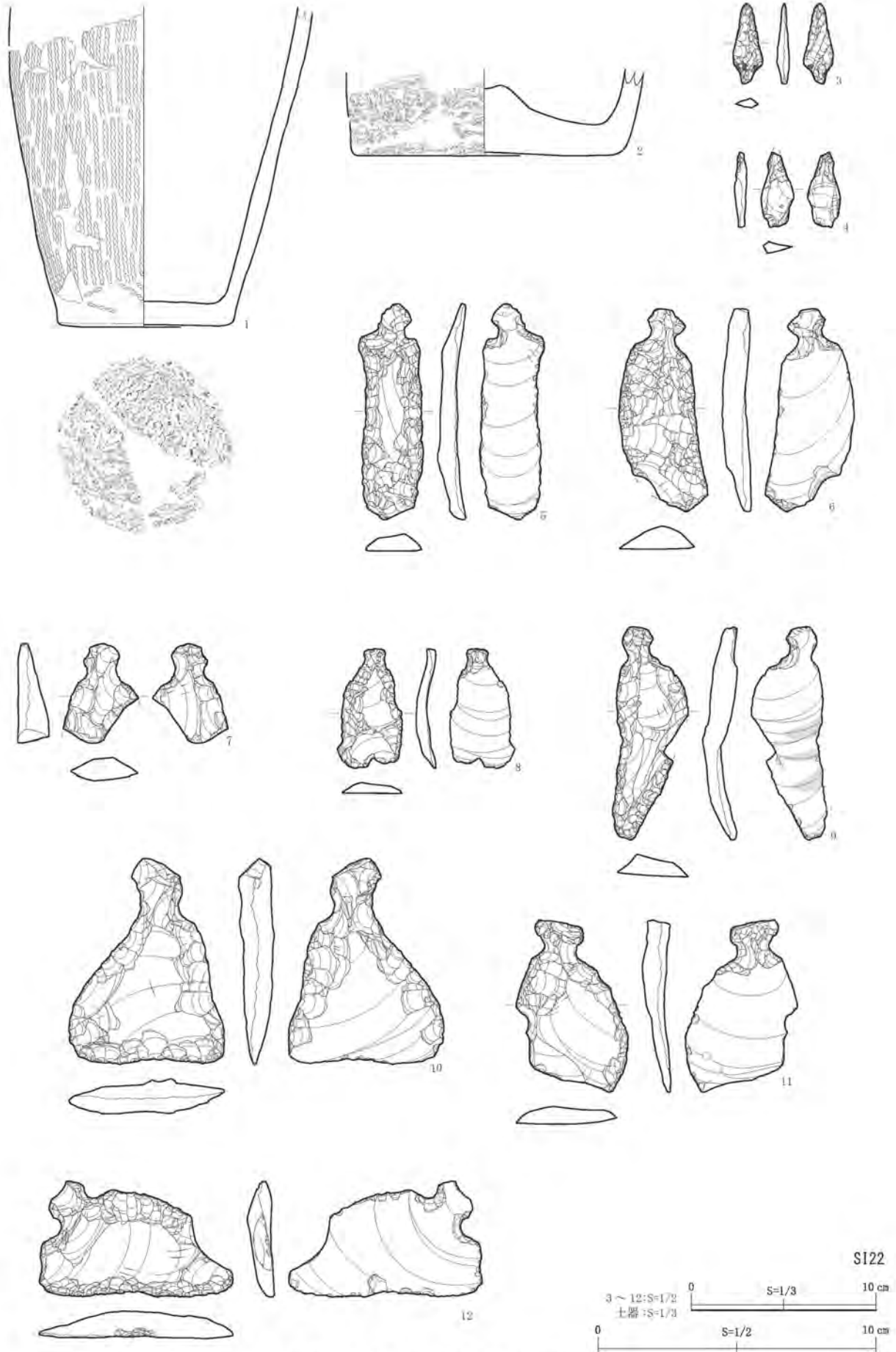
第73図 遺構内出土遺物13 (S122)



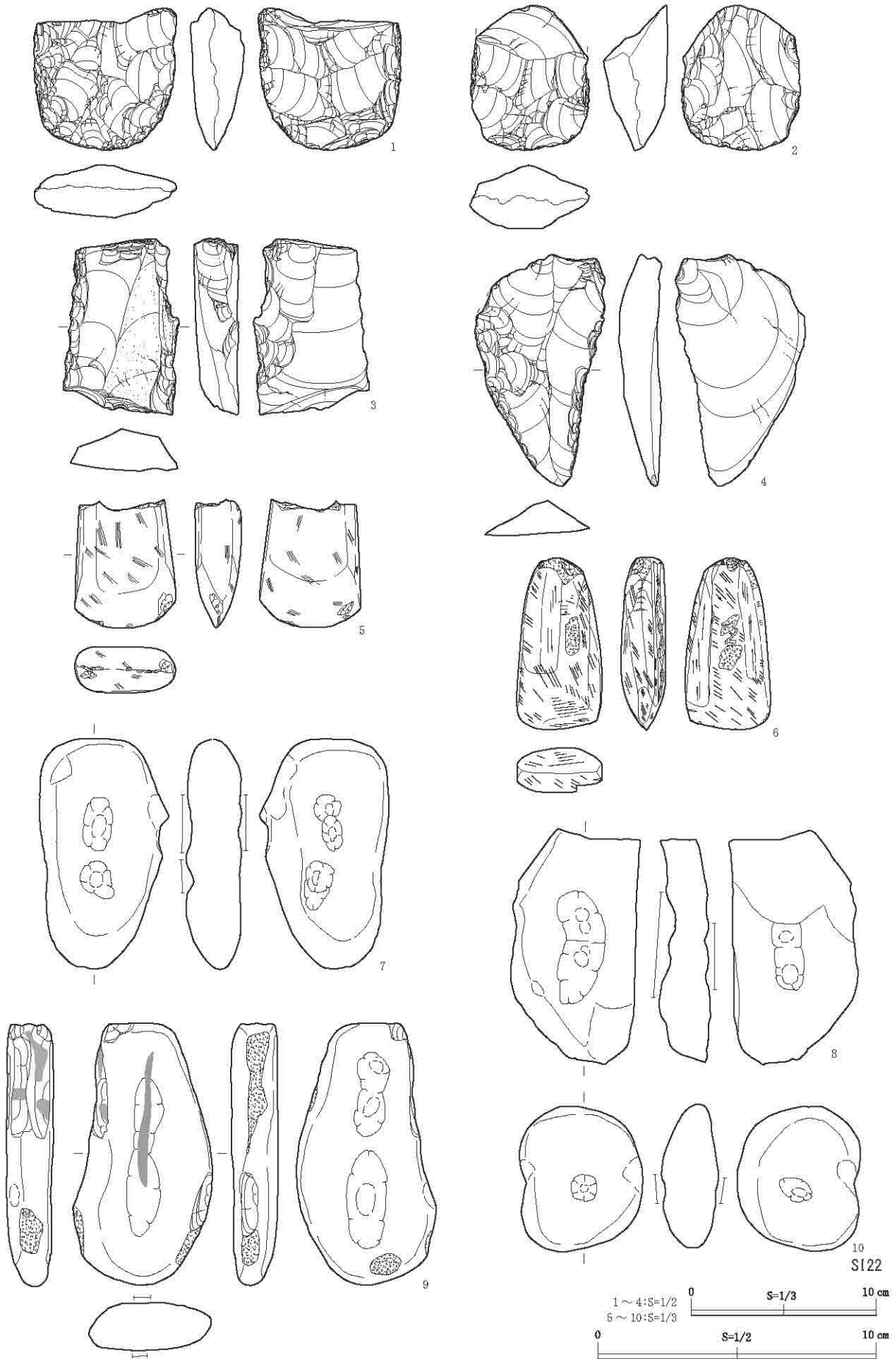
第74図 遺構内出土遺物14 (S122)



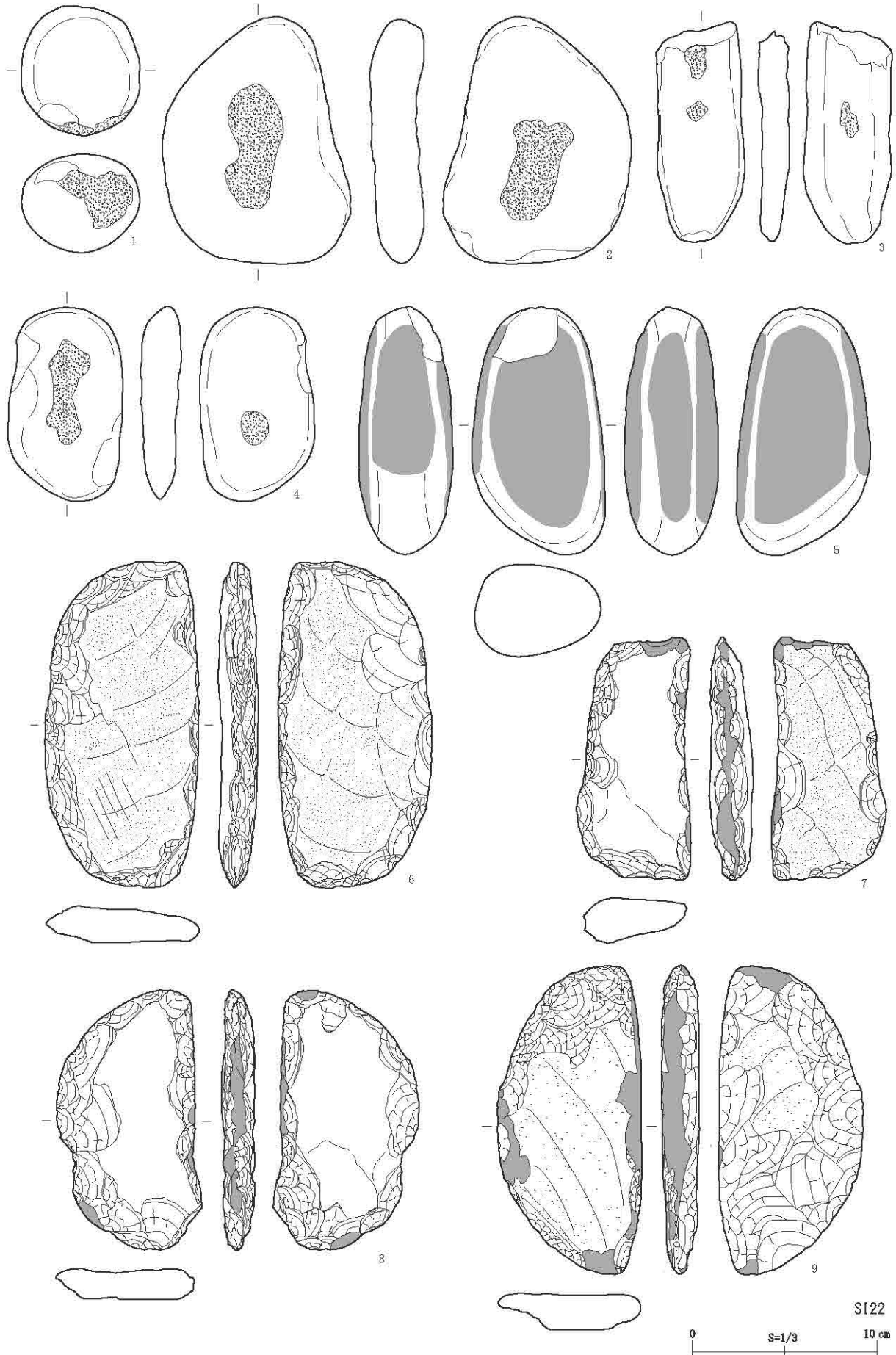
第75図 遺構内出土遺物15 (SI22)



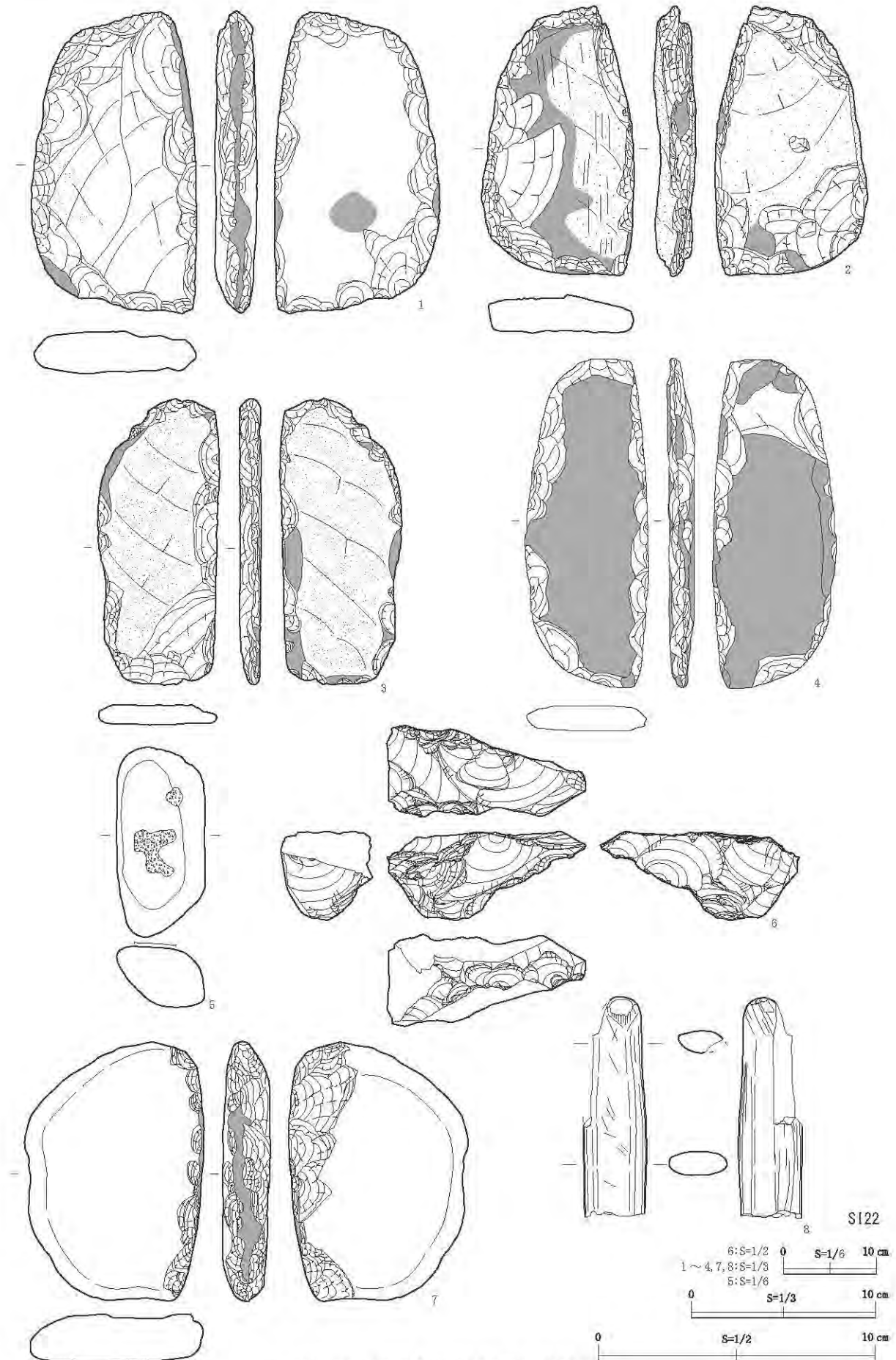
第76図 遺構内出土遺物16 (SI22)



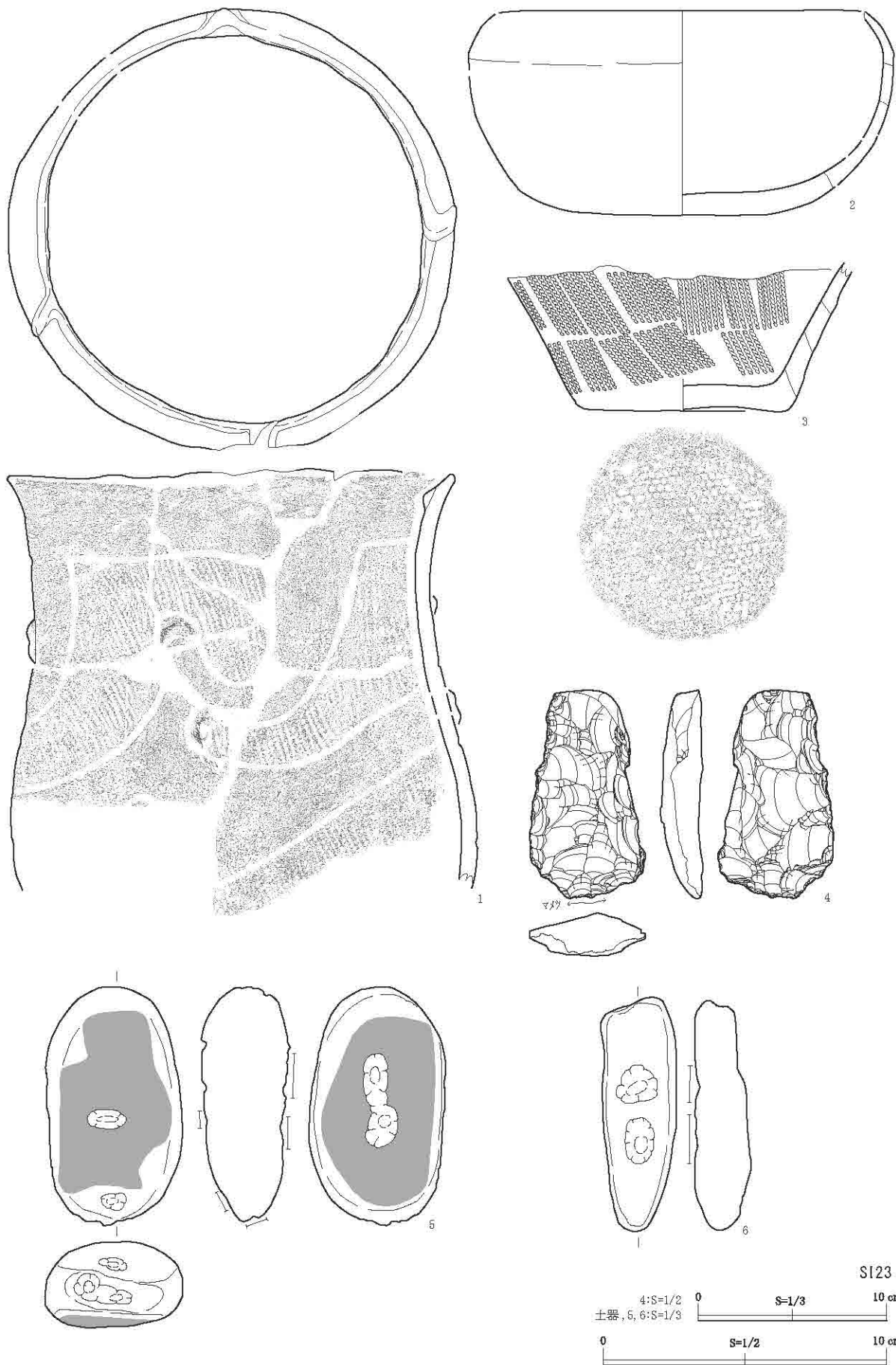
第77図 遺構内出土遺物17 (SI22)



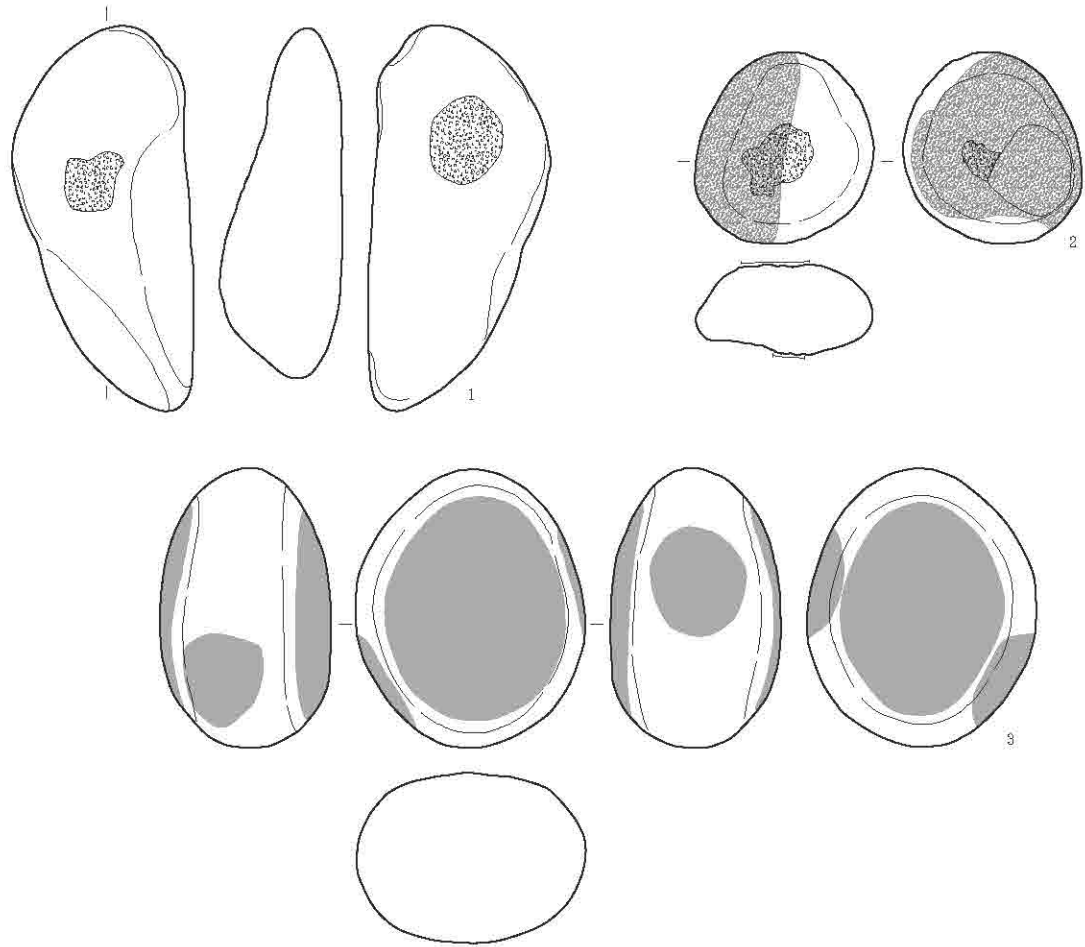
第78図 遺構内出土遺物18 (SI22)



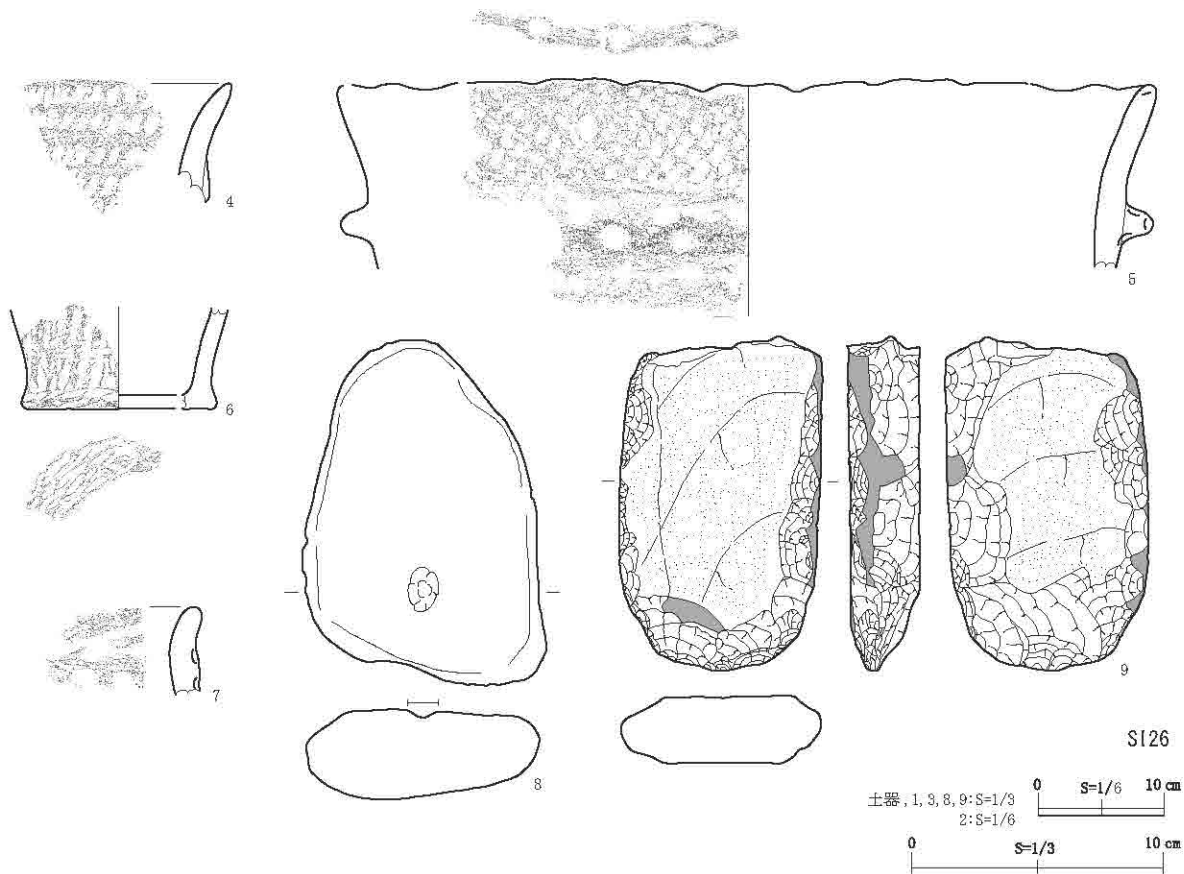
第79図 遺構内出土遺物19 (SI22)



第80図 遺構内出土遺物20 (SI23)



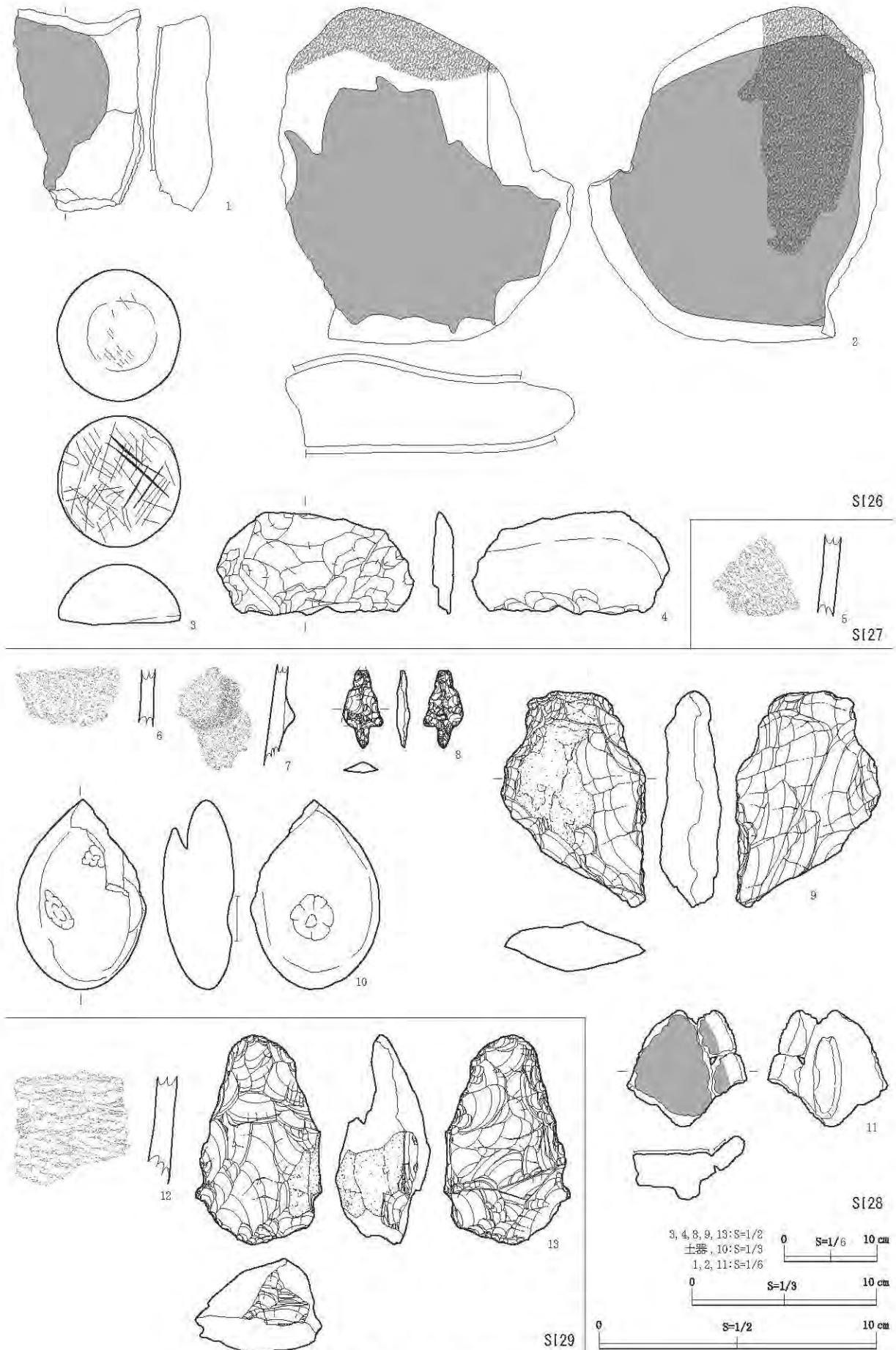
SI23



SI26

土器, 1, 3, 8, 9: S=1/3
2: S=1/6
0 S=1/6 10 cm
0 S=1/3 10 cm

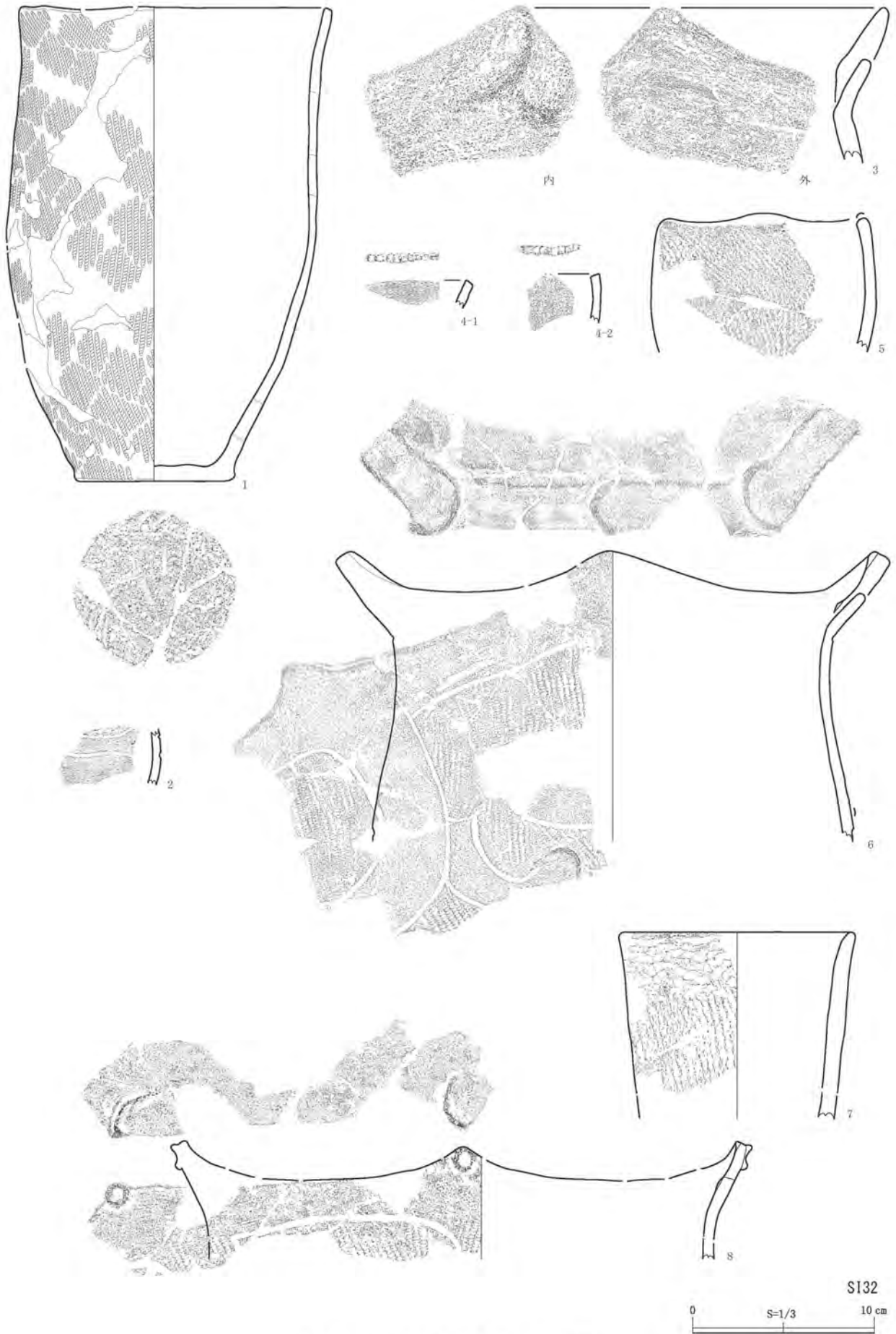
第81図 遺構内出土遺物21 (SI23, SI26)



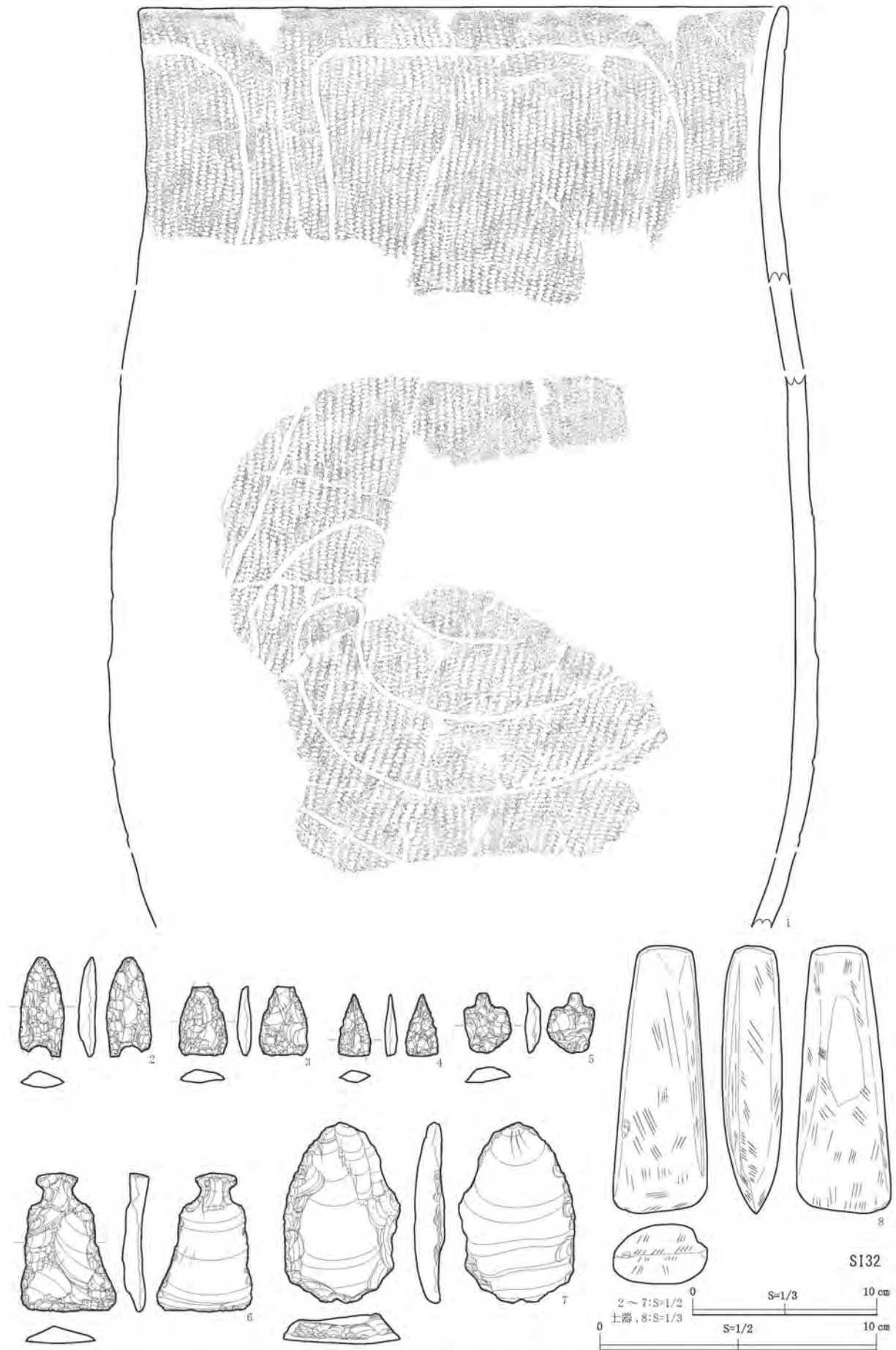
第82図 遺構内出土遺物22 (SI26~SI29)



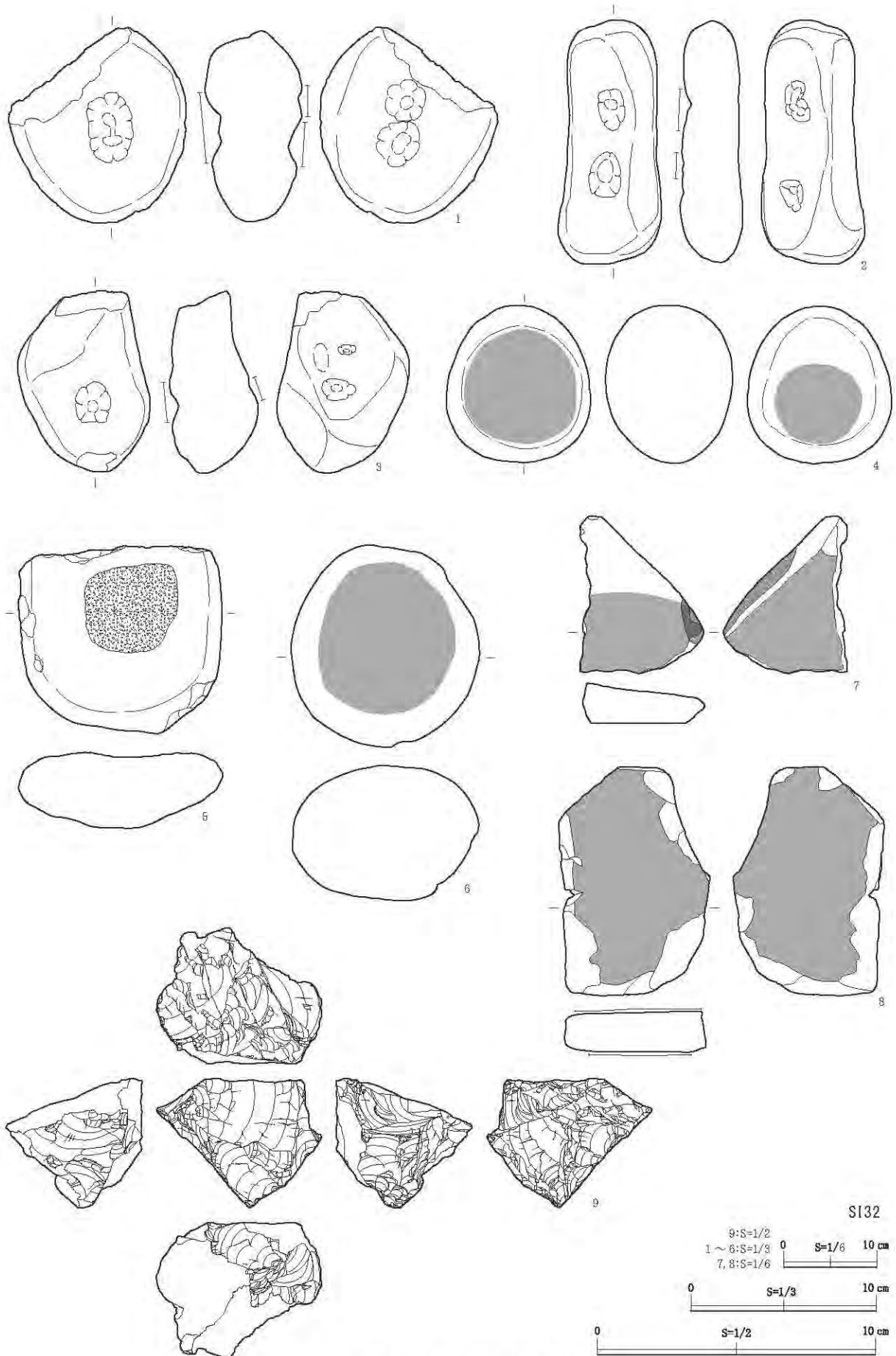
第83図 遺構内出土遺物23 (SI30 ~ SI32)



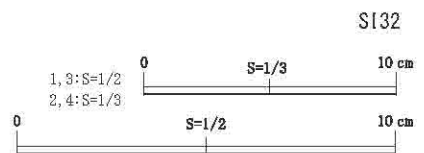
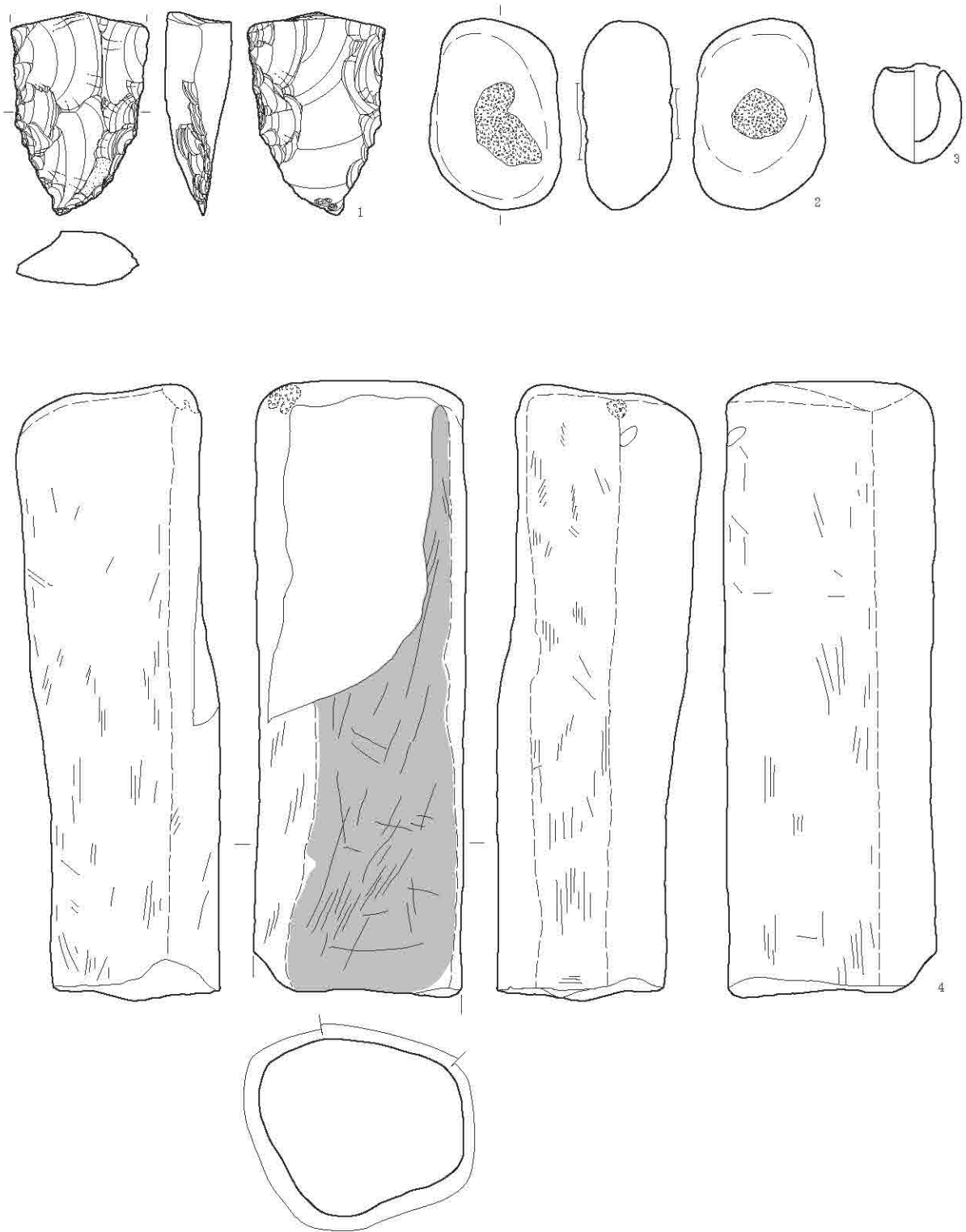
第84図 遺構内出土遺物24 (SI32)



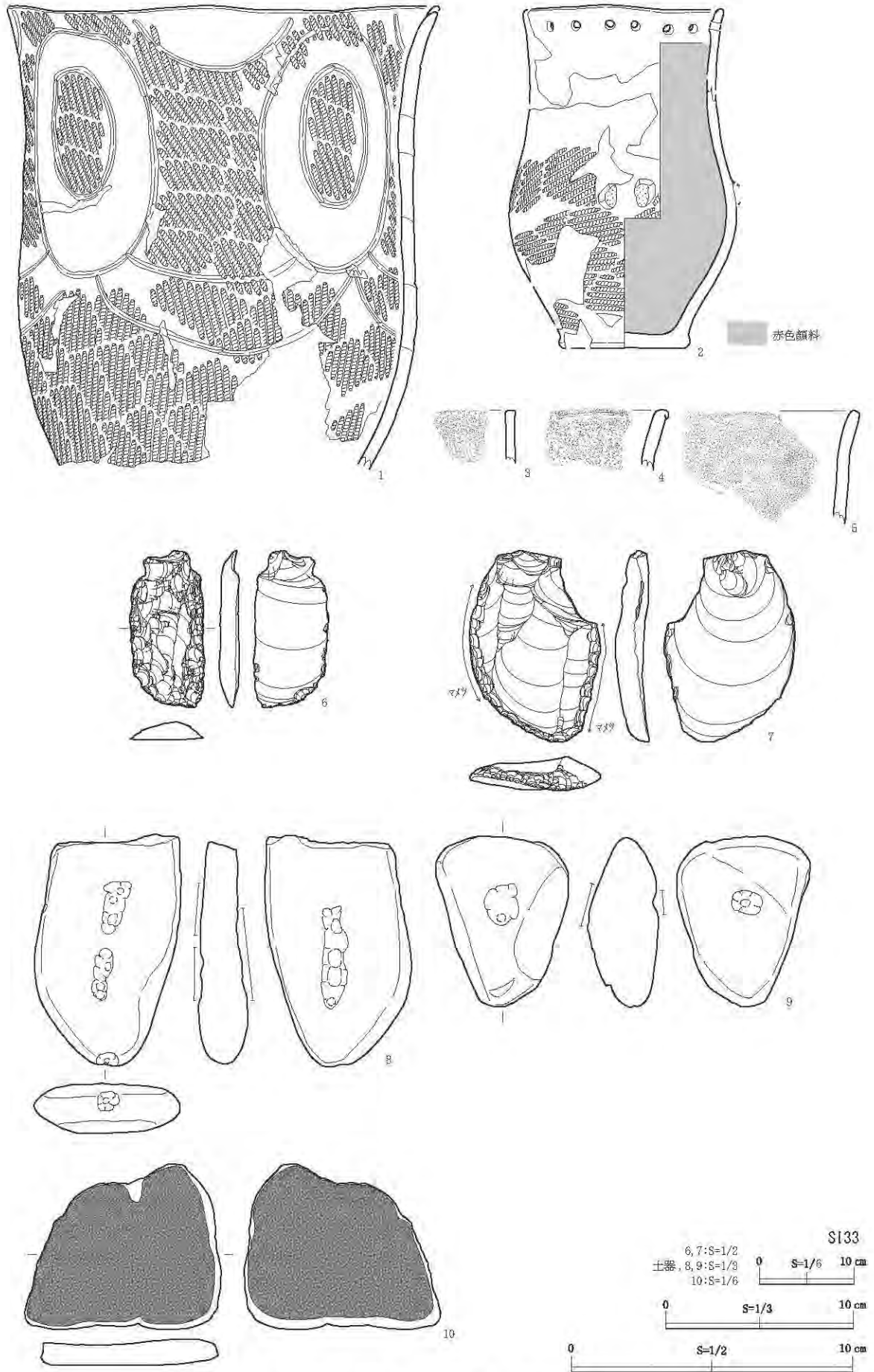
第85図 遺構内出土遺物25 (S132)



第86図 遺構内出土遺物26 (SI32)



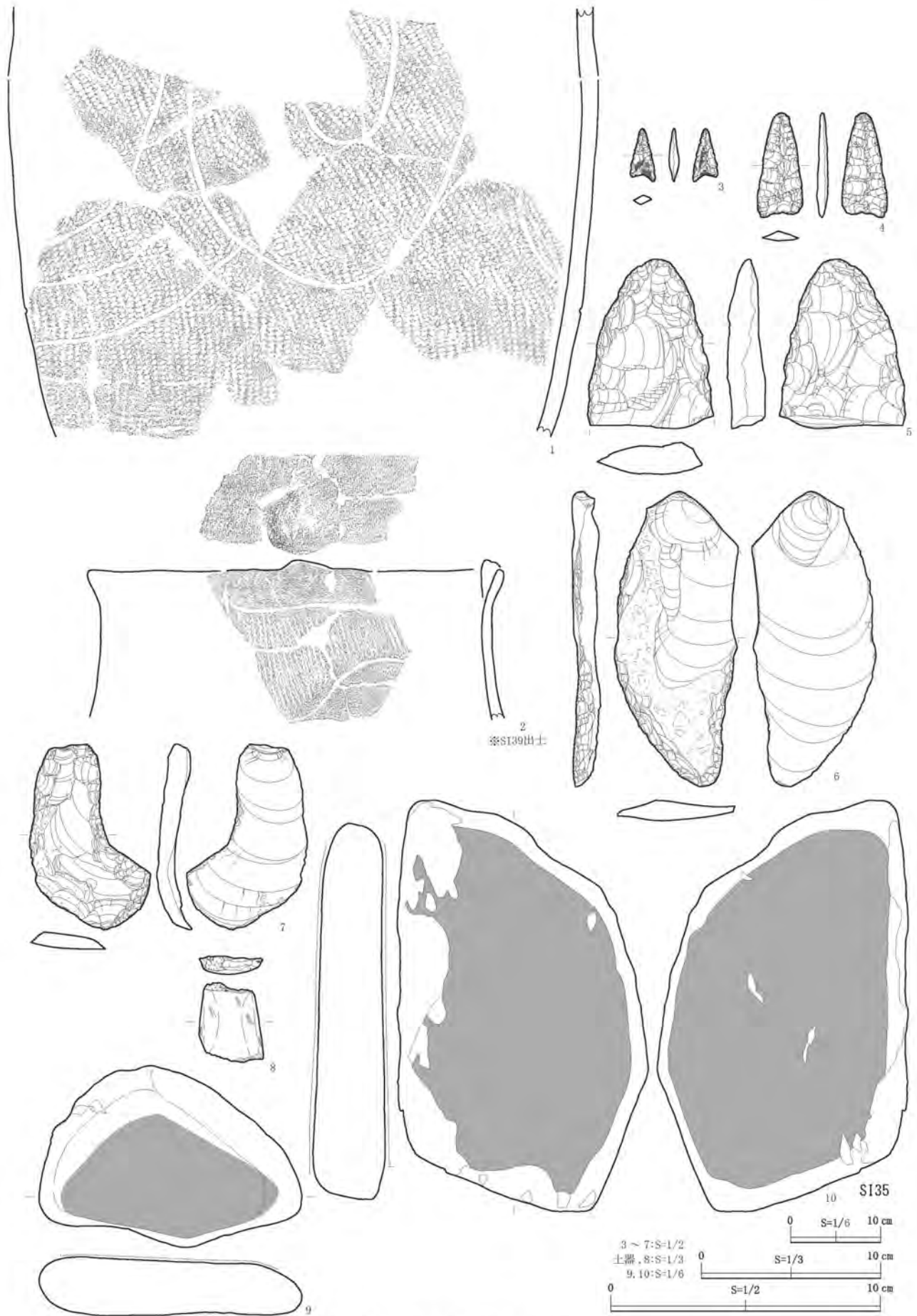
第87図 遺構内出土遺物27 (S132)



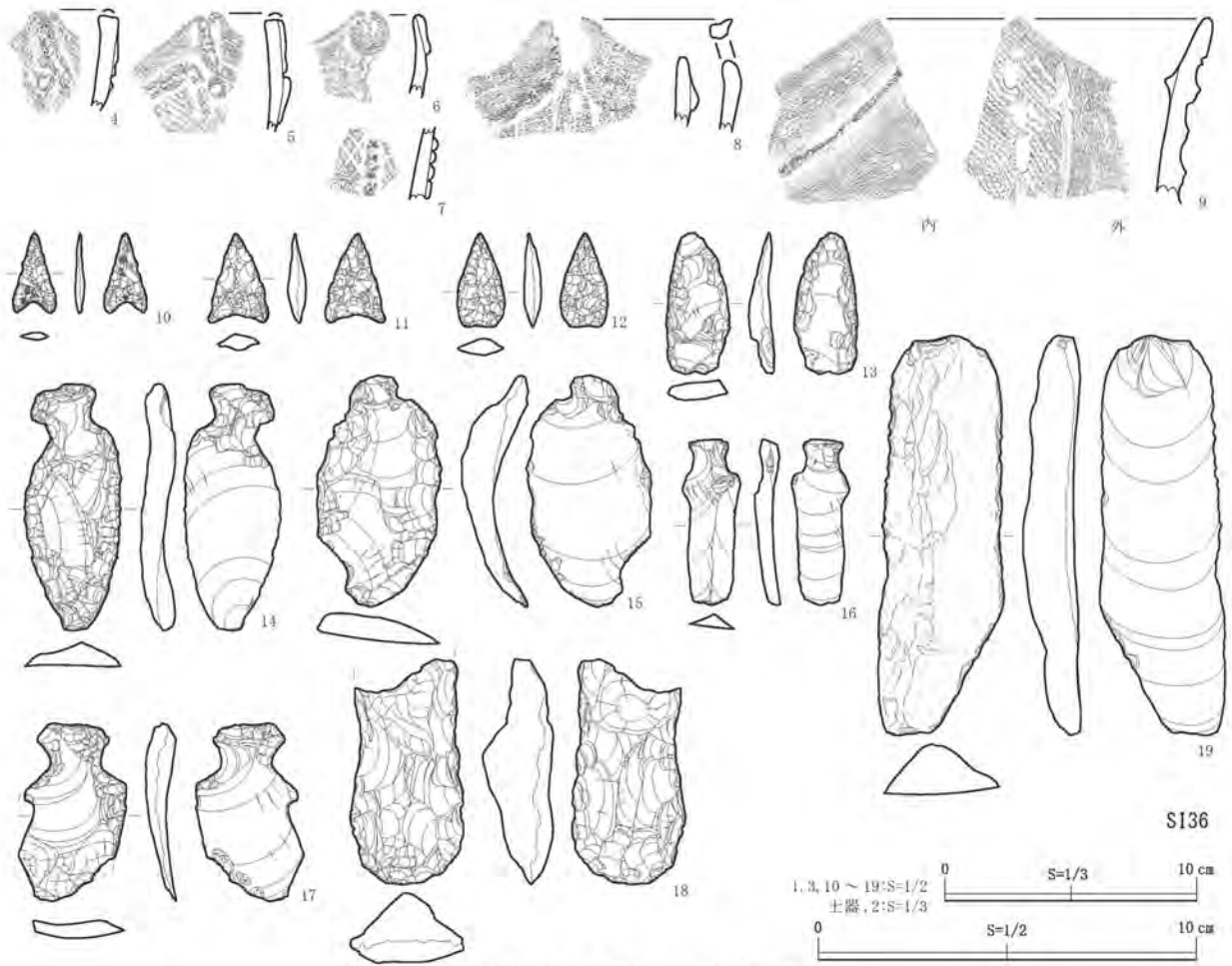
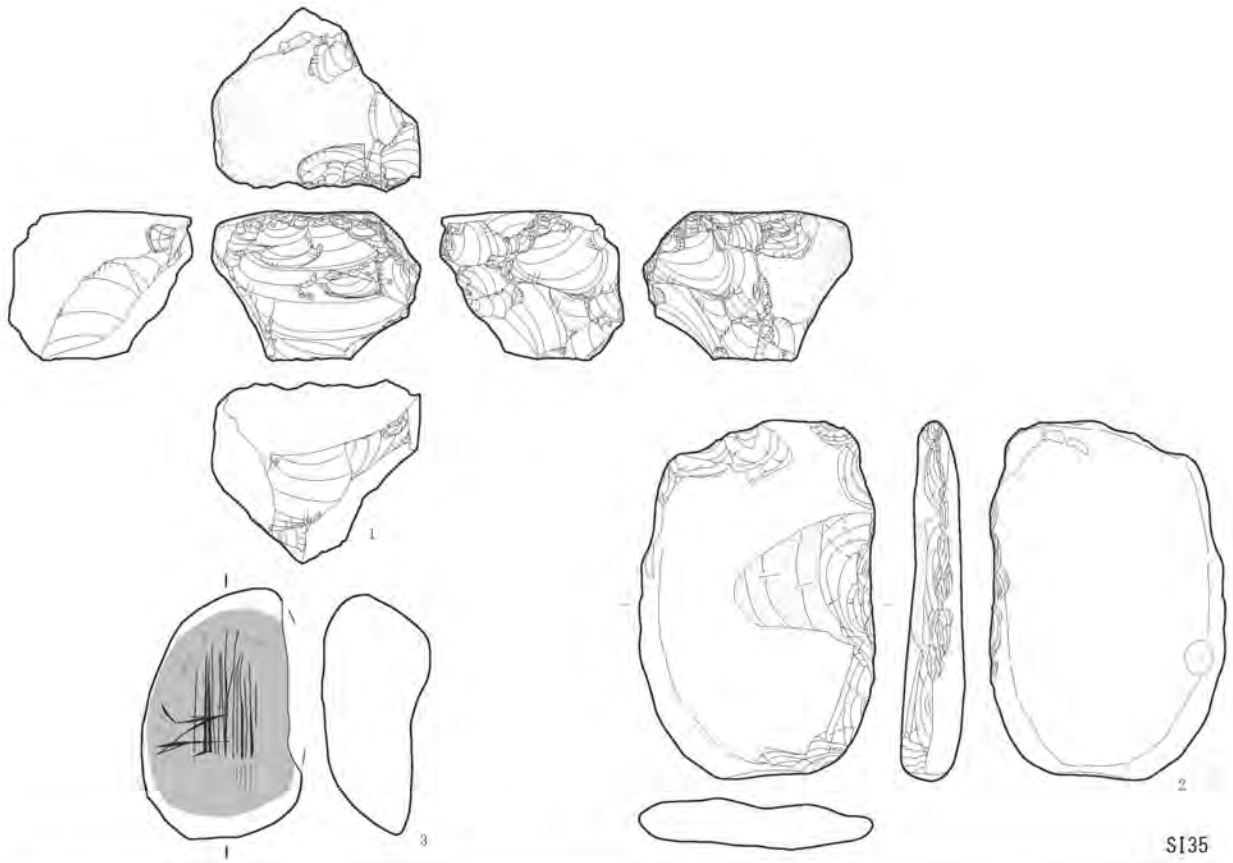
第88図 遺構内出土遺物28 (S133)



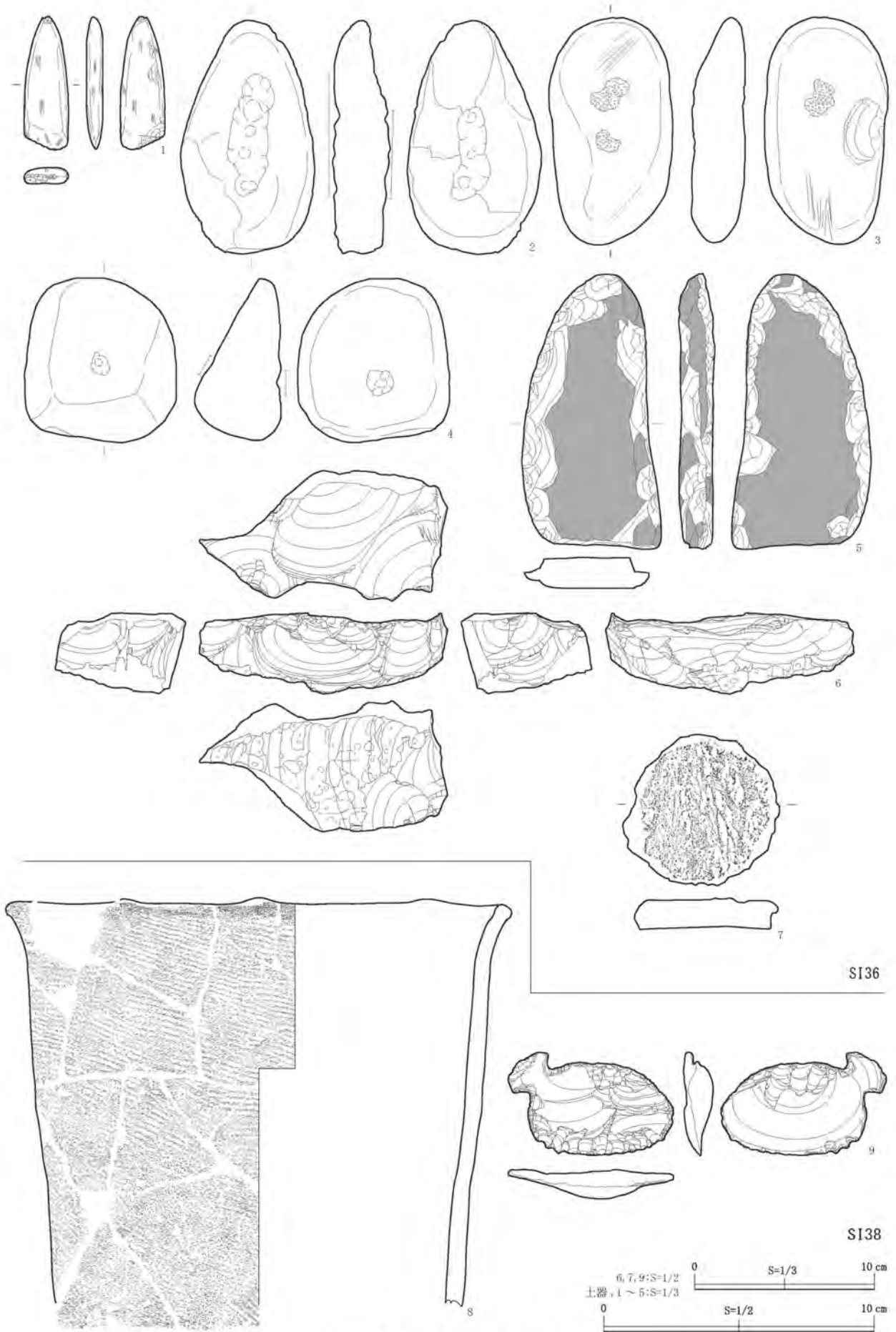
第89図 遺構内出土遺物29 (S135)



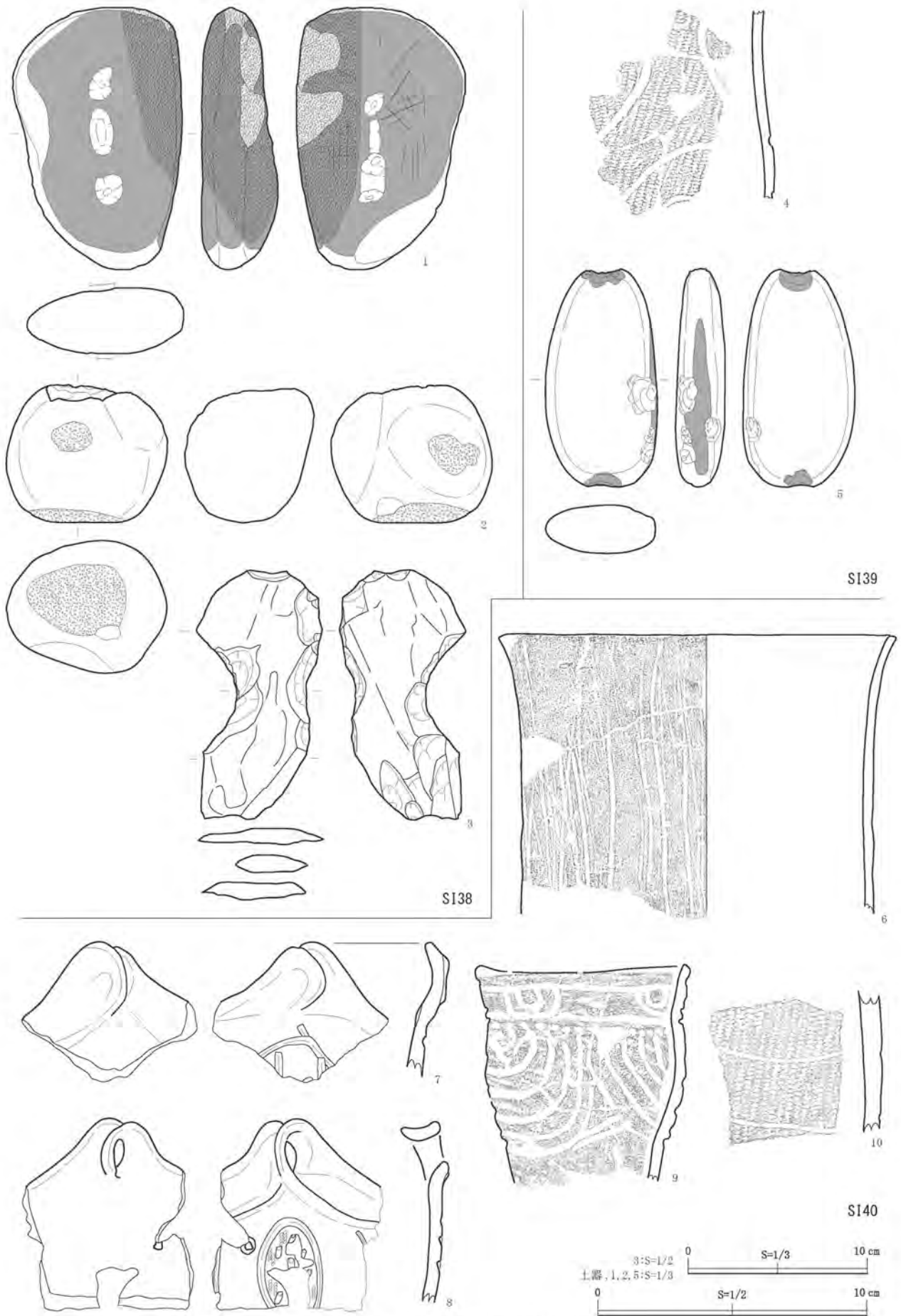
第90図 遺構内出土遺物30 (SI35)



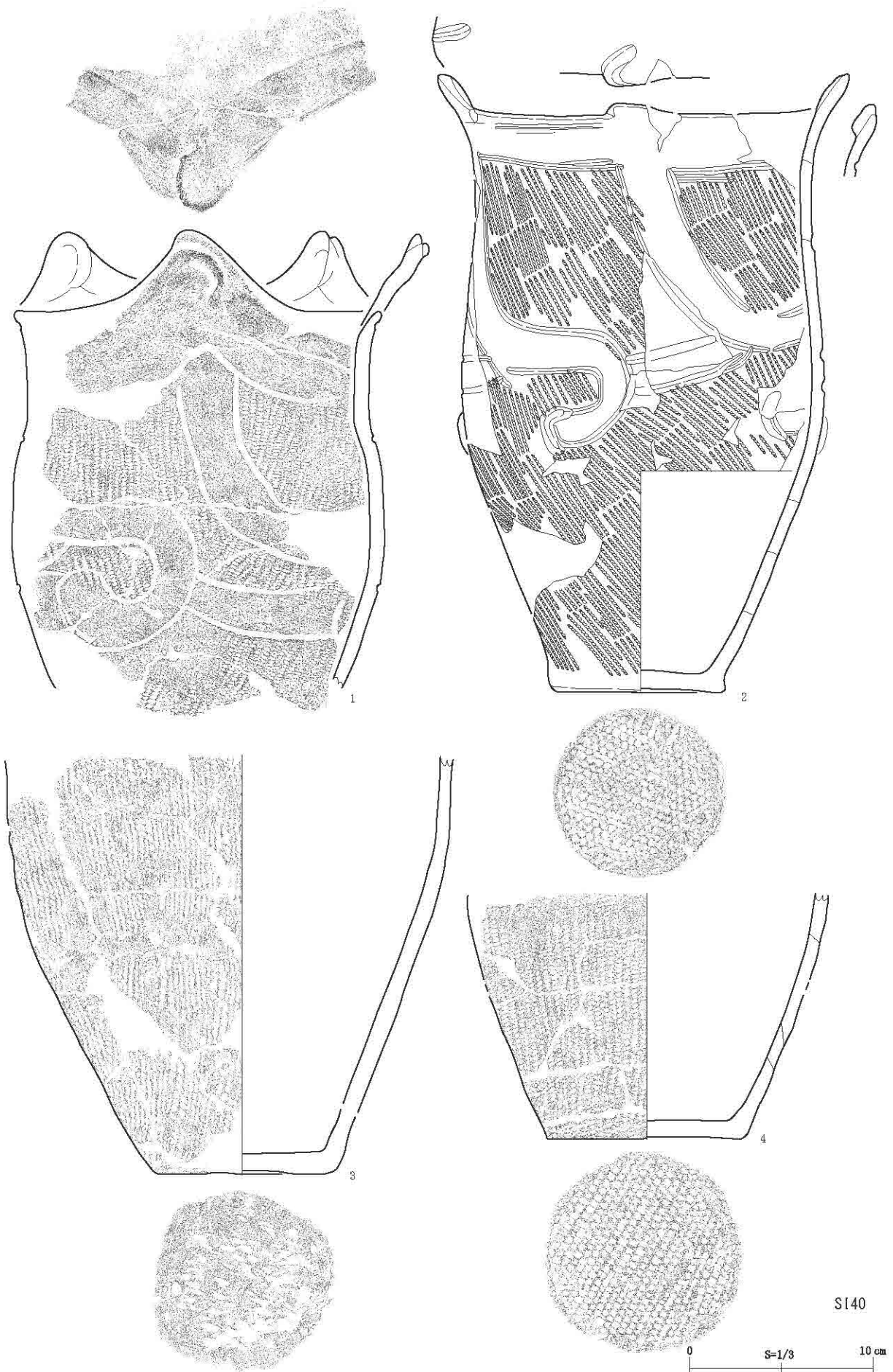
第91図 遺構内出土遺物31 (S135, S136)



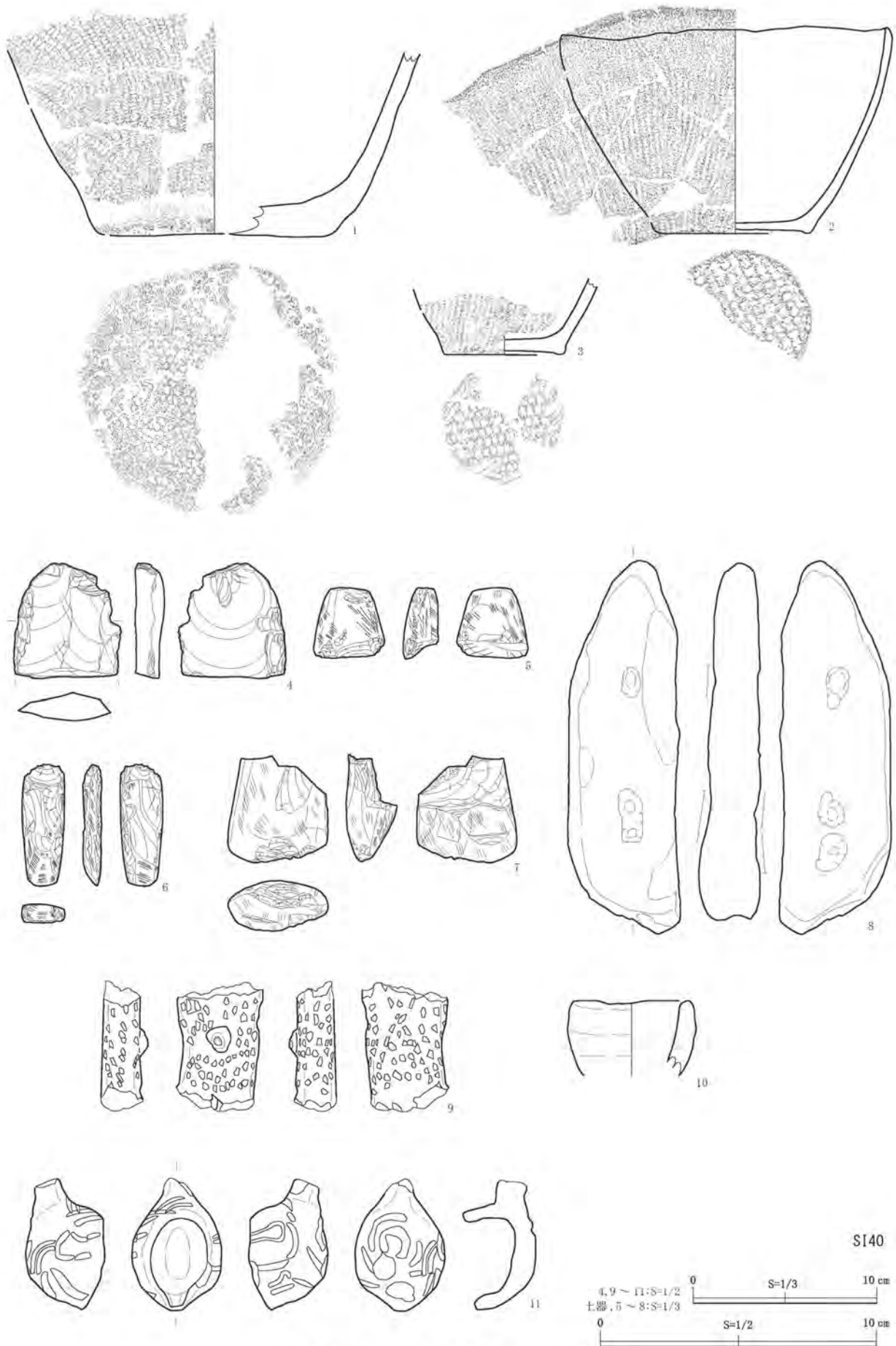
第92図 遺構内出土遺物32 (SI36, SI38)



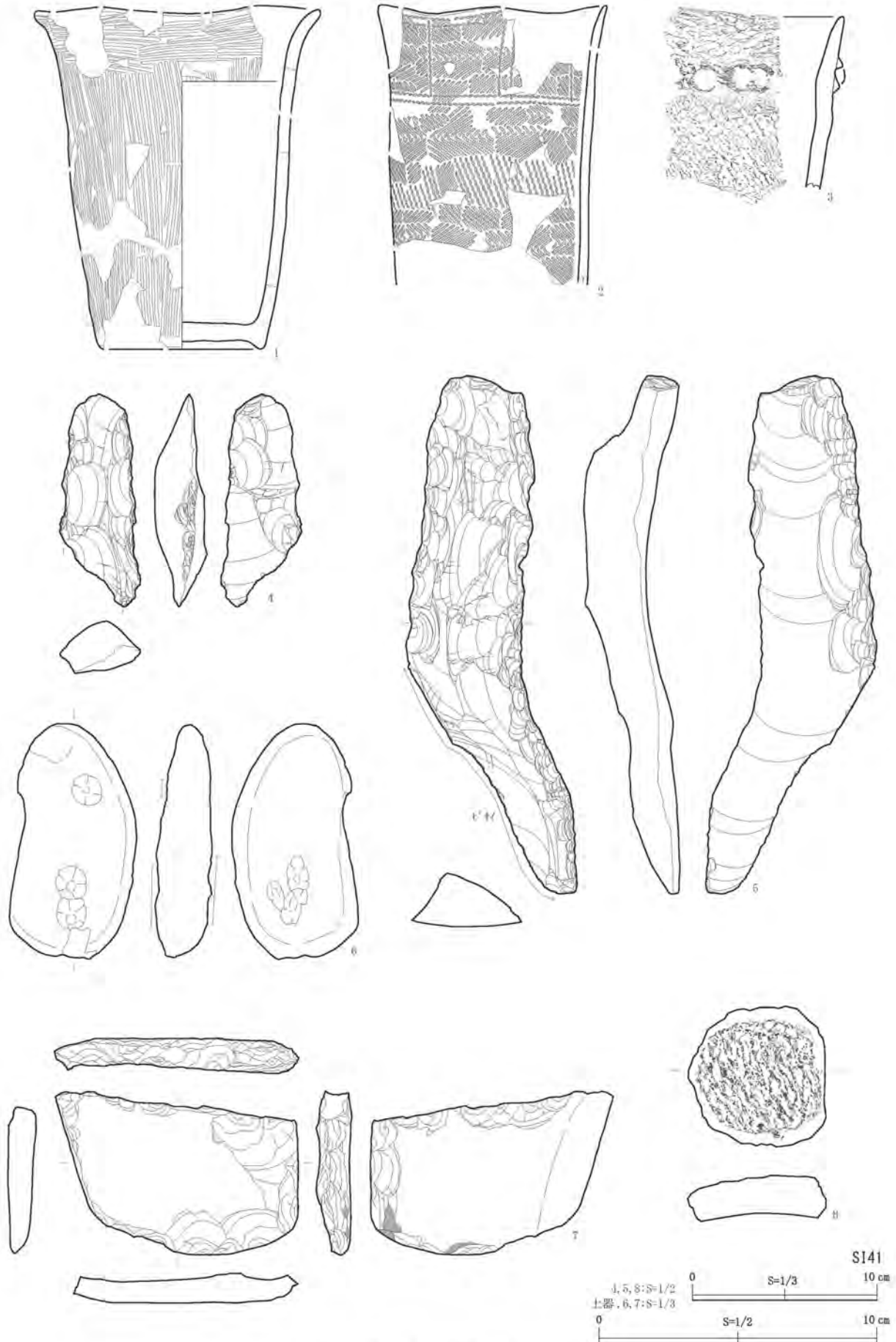
第93図 遺構内出土遺物33 (S138~S140)



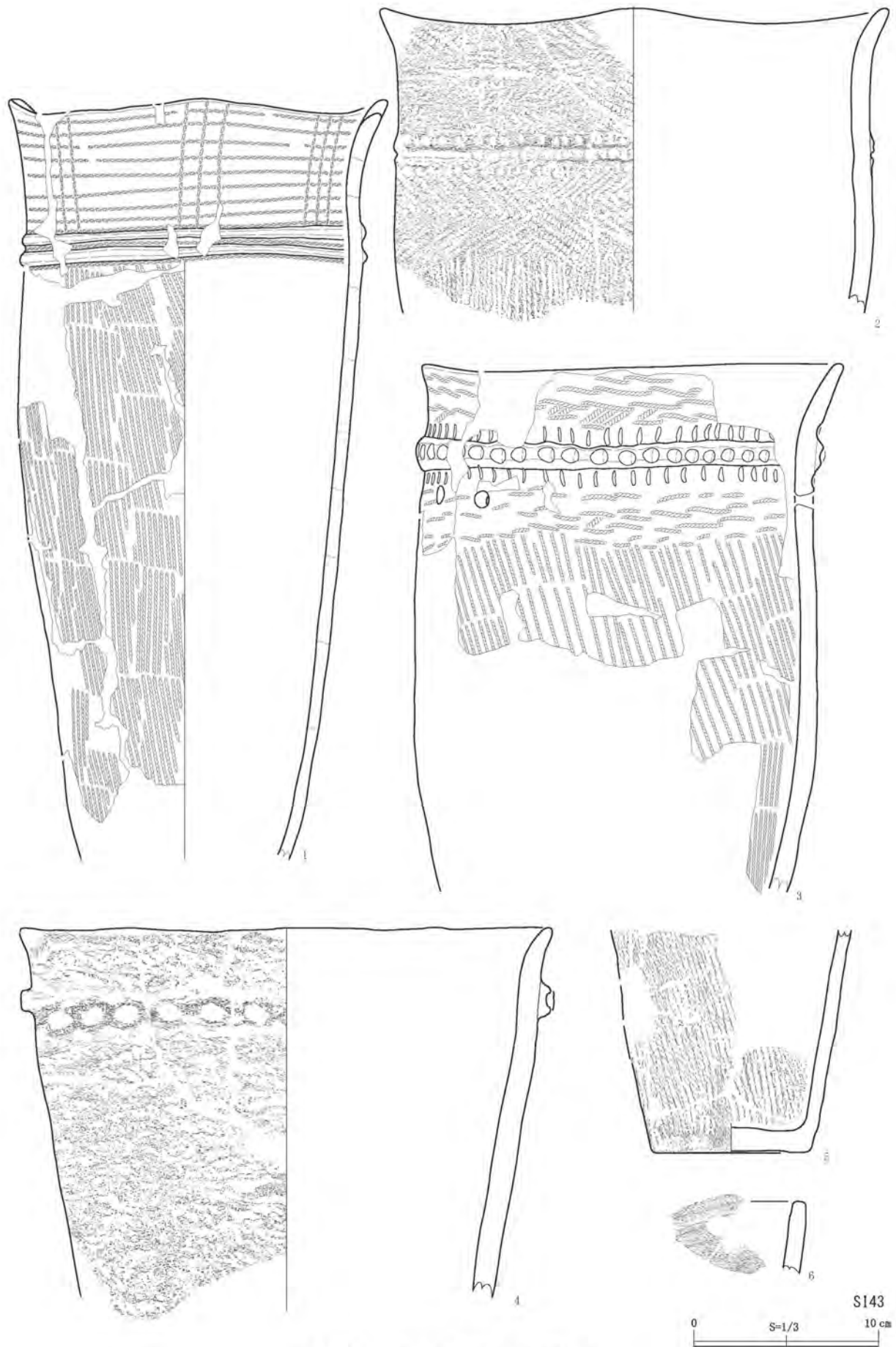
第94図 遺構内出土遺物34 (S140)



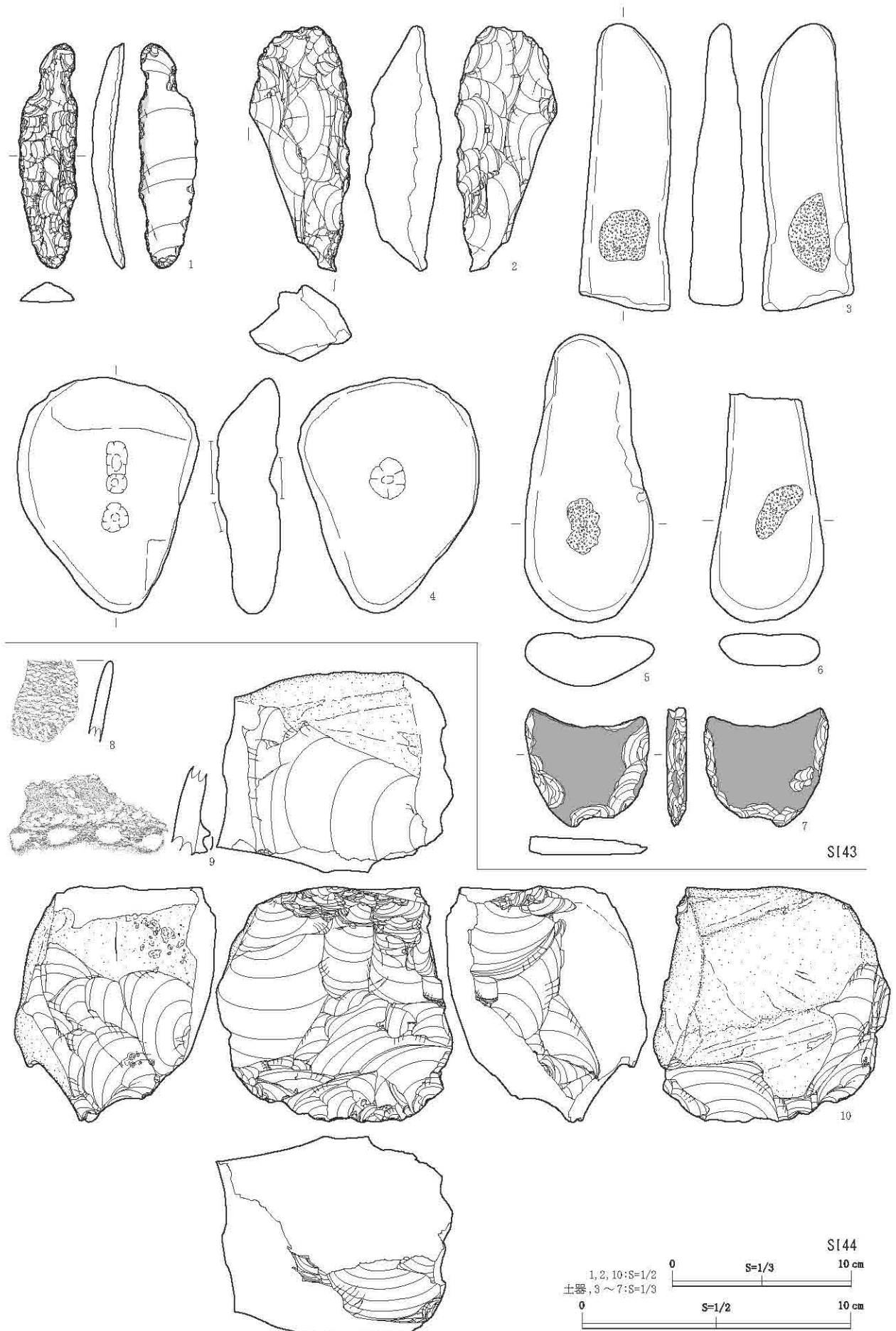
第95図 遺構内出土遺物35 (SI40)



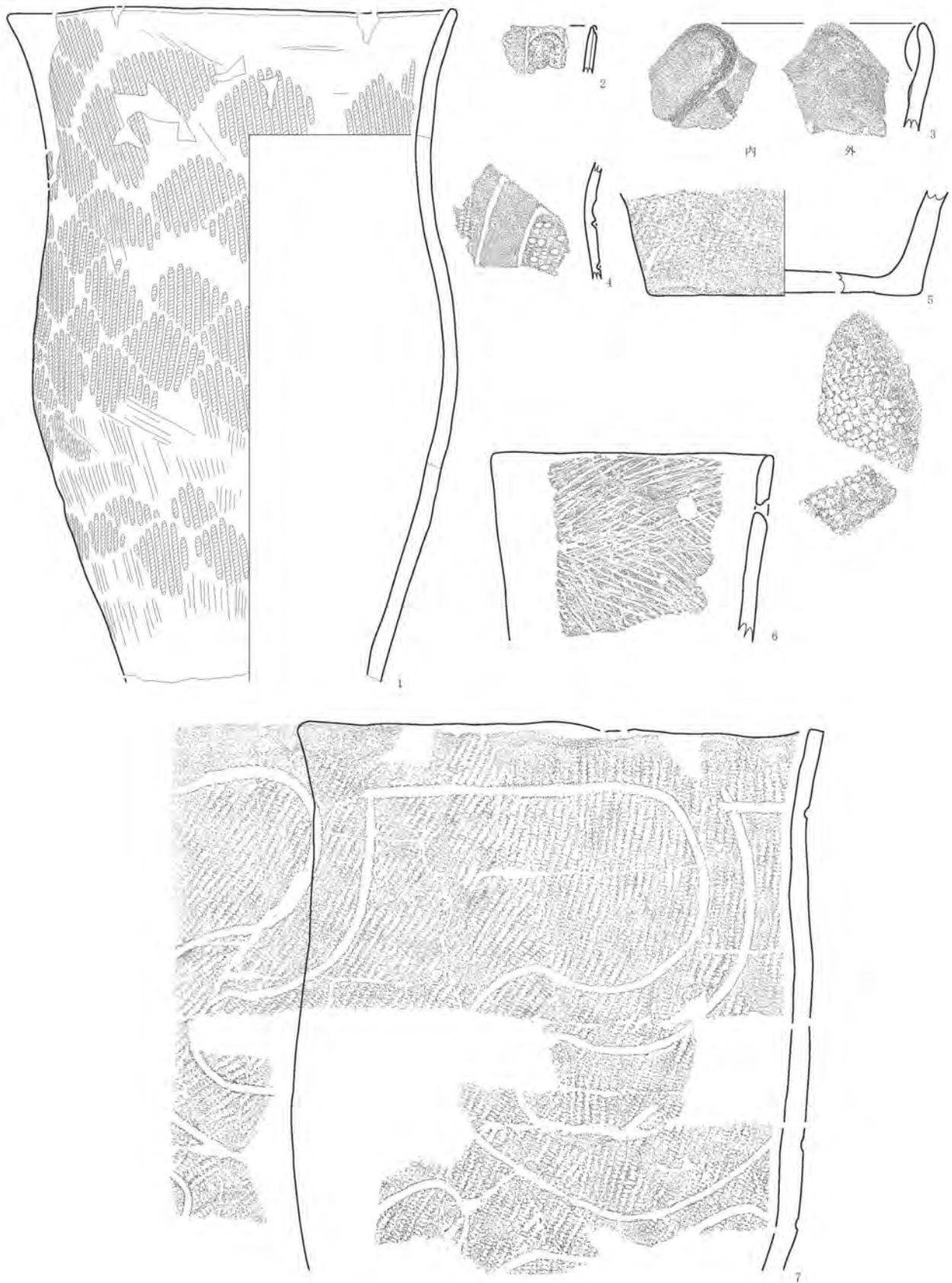
第96図 遺構内出土遺物36 (SI41)



第97図 遺構内出土遺物37 (S143)



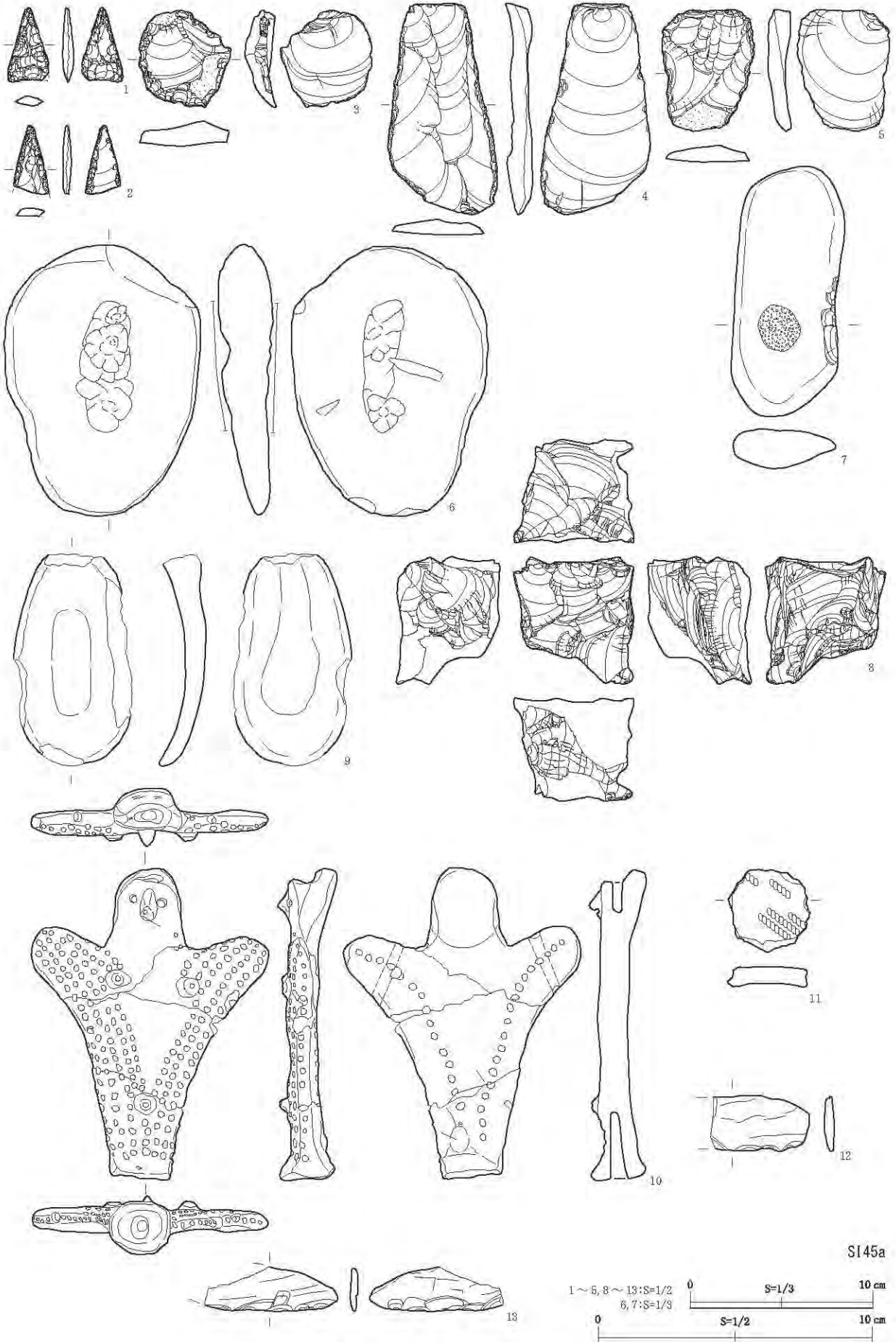
第98図 遺構内出土遺物38 (SI43, SI44)



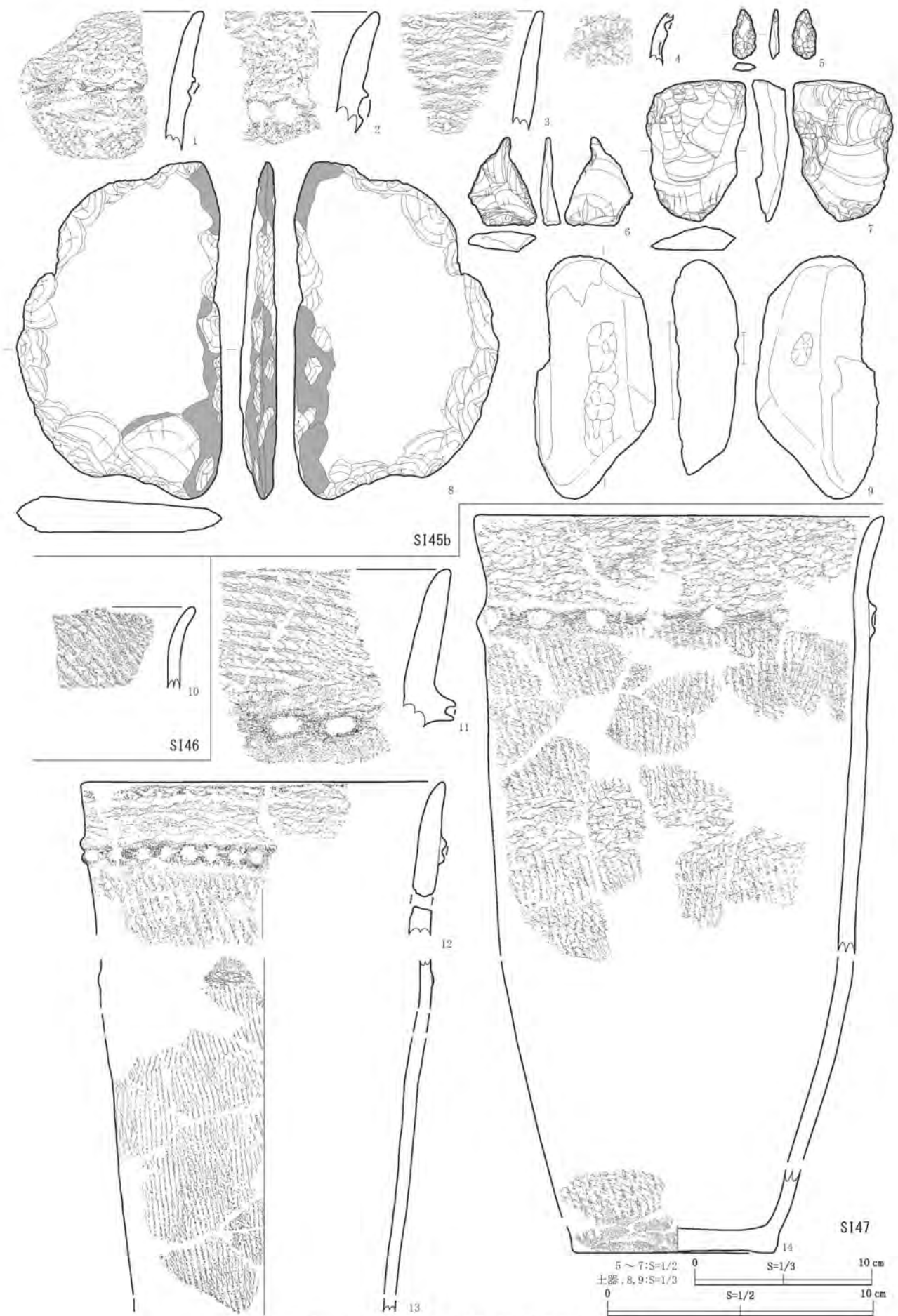
SI45a

0 S=1/3 10 cm

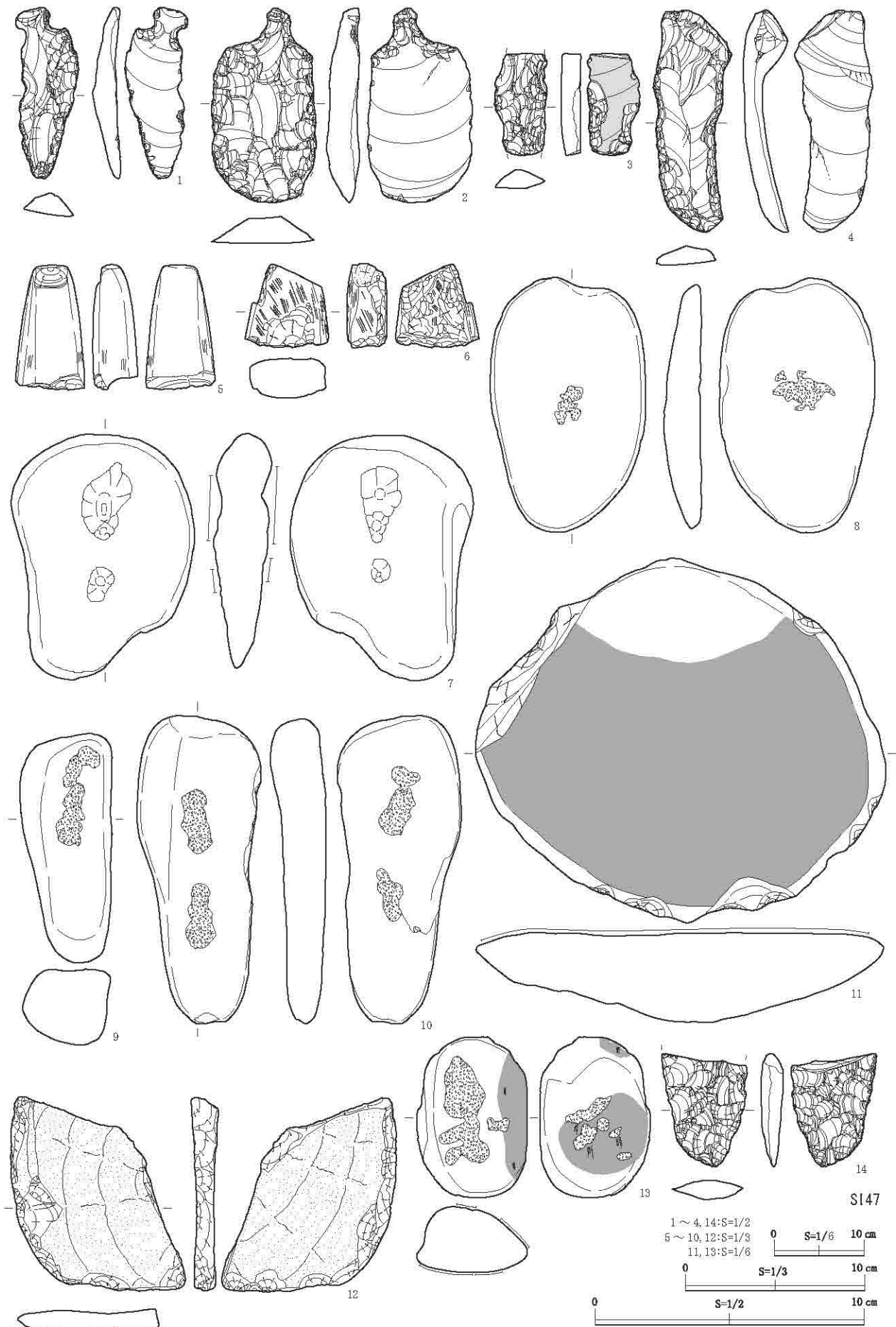
第99図 遺構内出土遺物39 (SI45a)



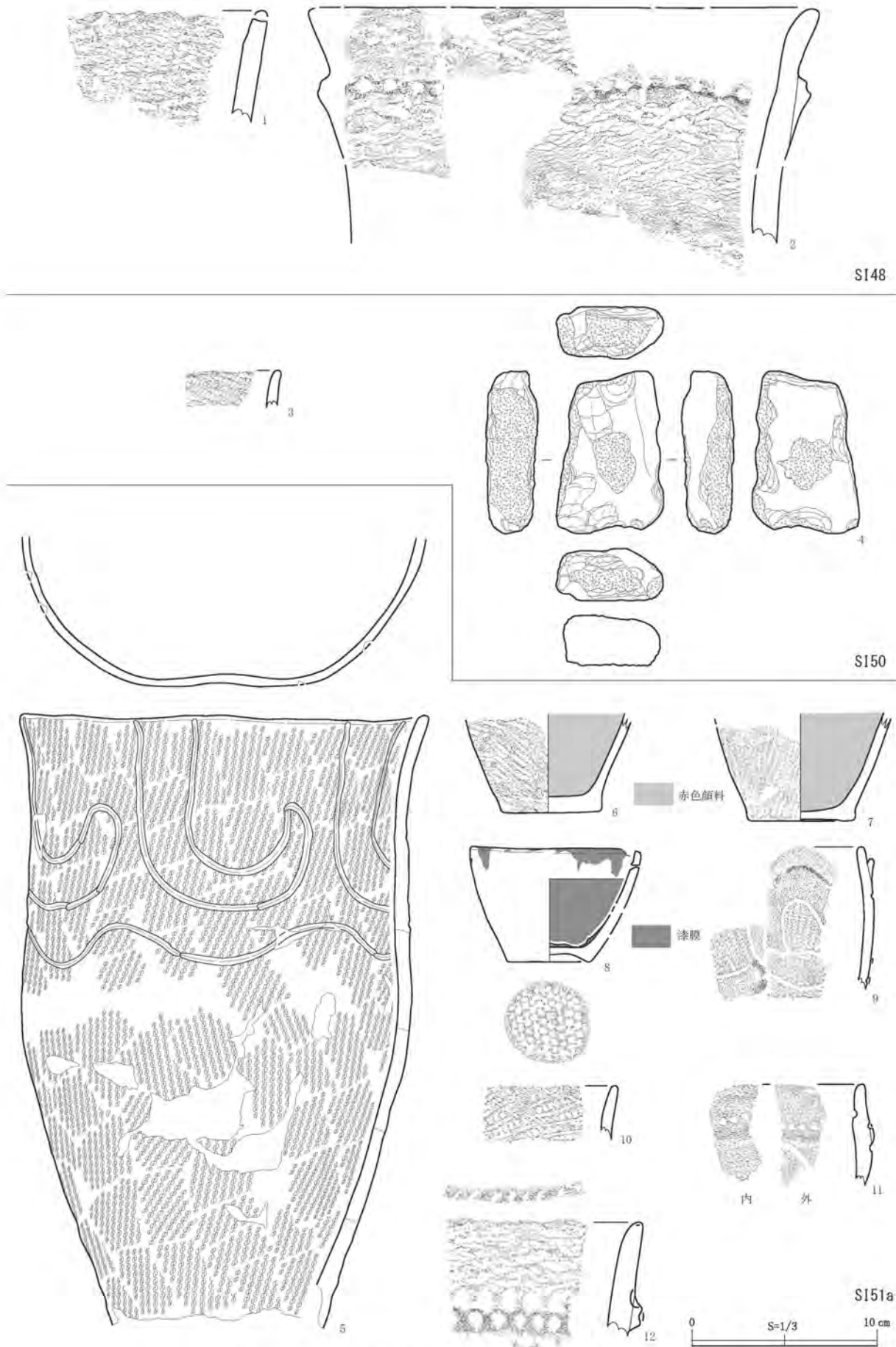
第100図 遺構内出土遺物40 (SI45a)



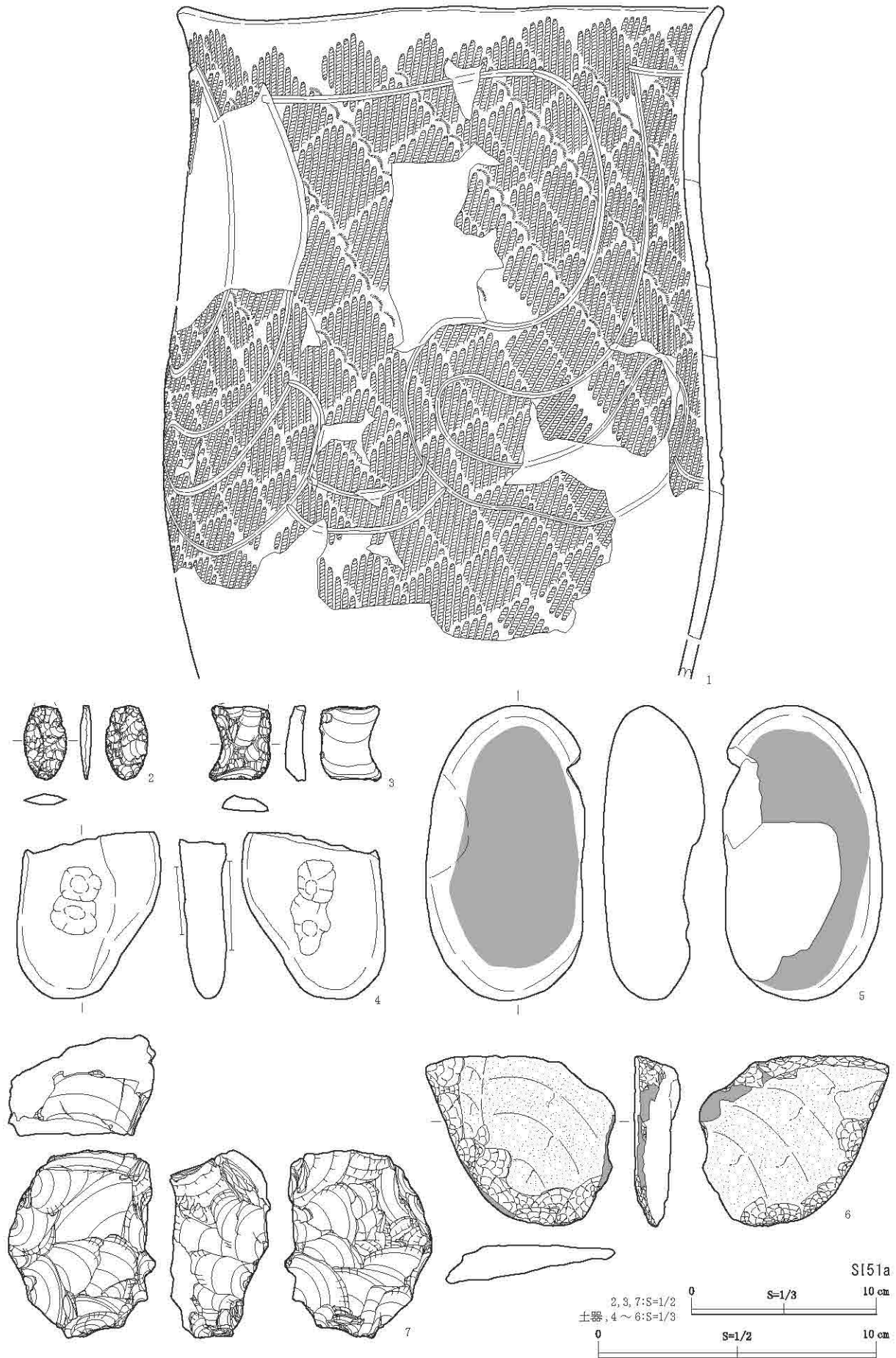
第101図 遺構内出土遺物41 (SI45b, SI46, SI47)



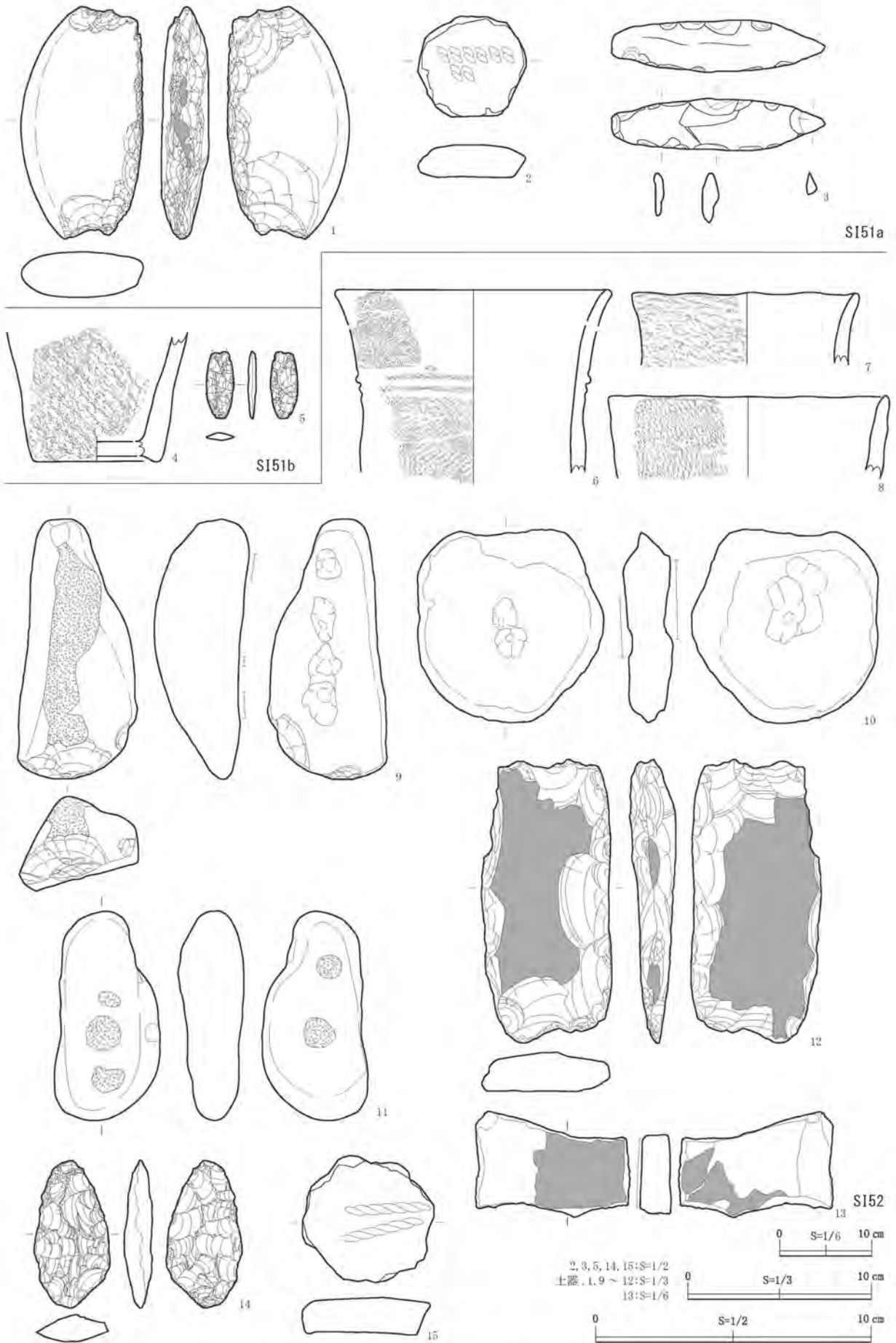
第102図 遺構内出土遺物42 (SI47)



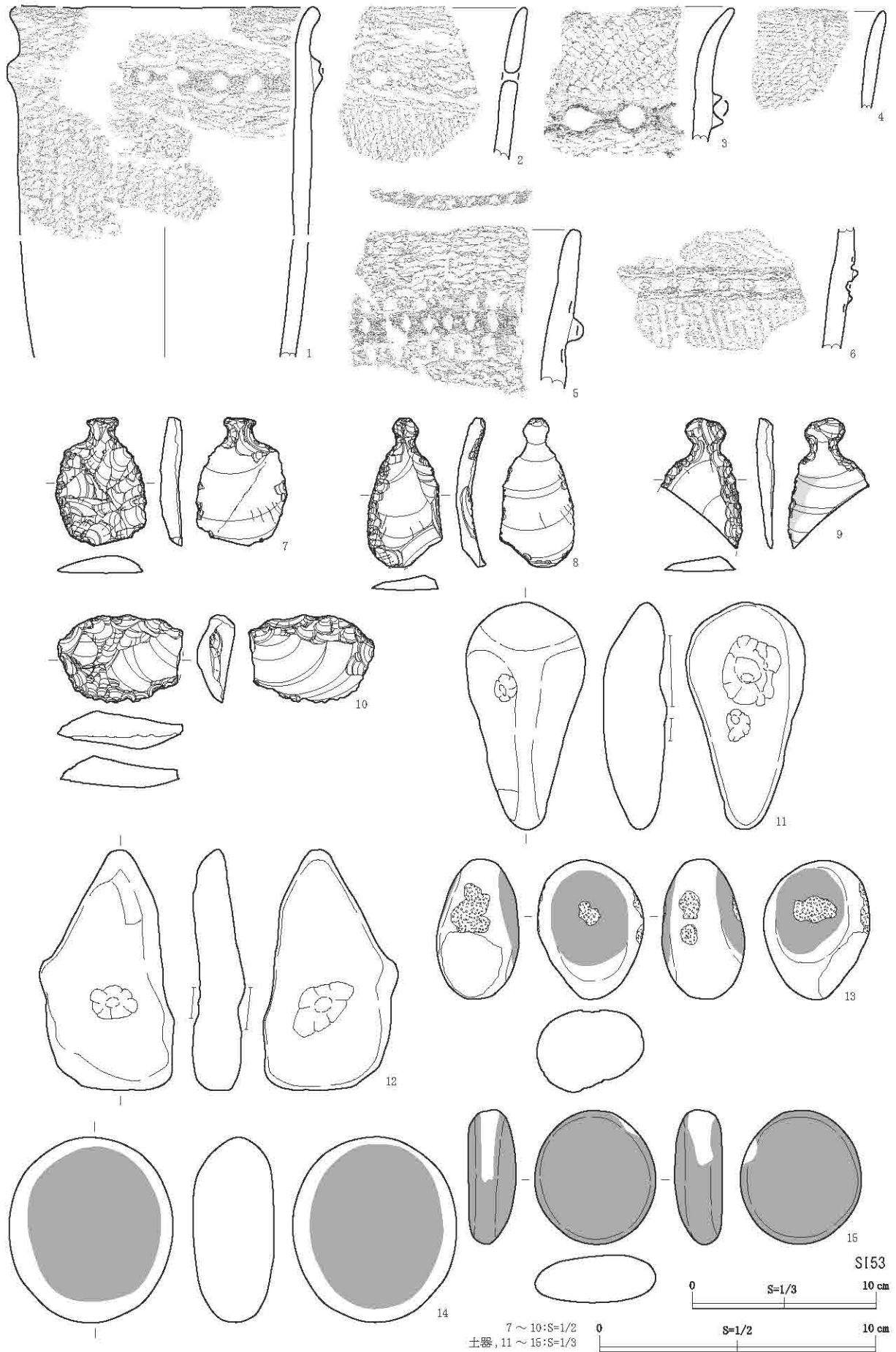
第103図 遺構内出土遺物43 (SI48, SI50, SI51a)



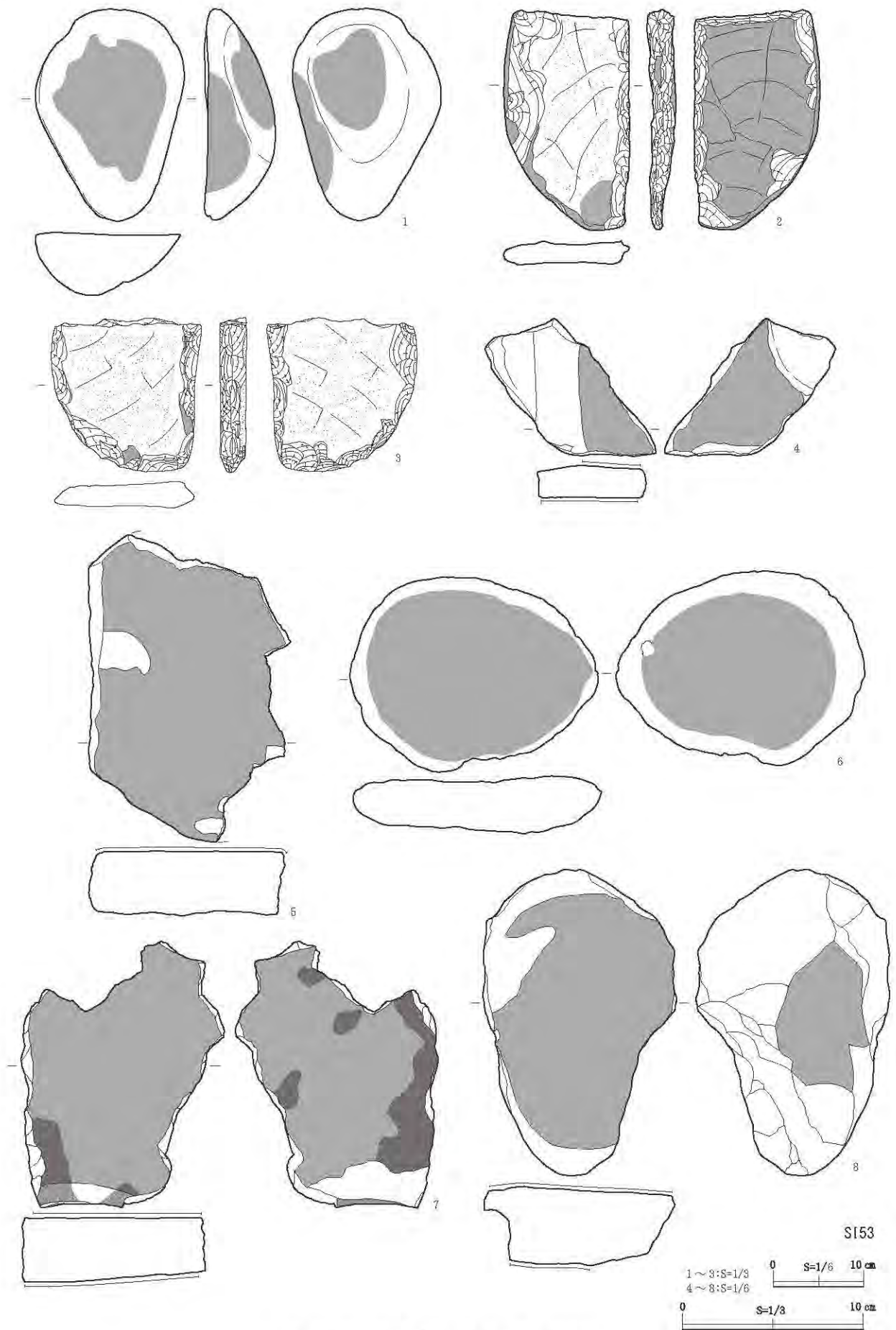
第104図 遺構内出土遺物44 (SI51a)



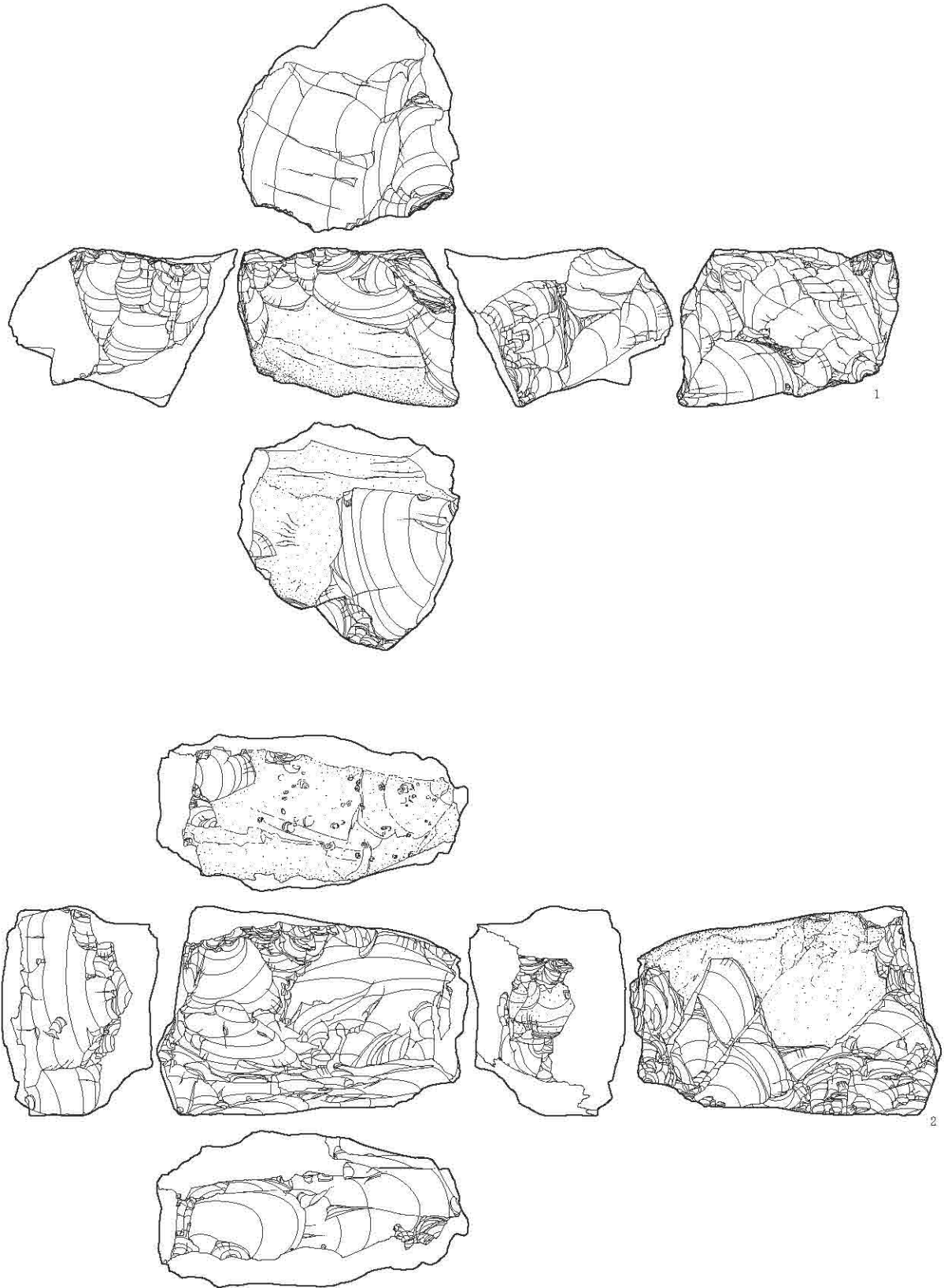
第105図 遺構内出土遺物45 (SI51a~SI52)



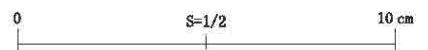
第106図 遺構内出土遺物46 (SI53)



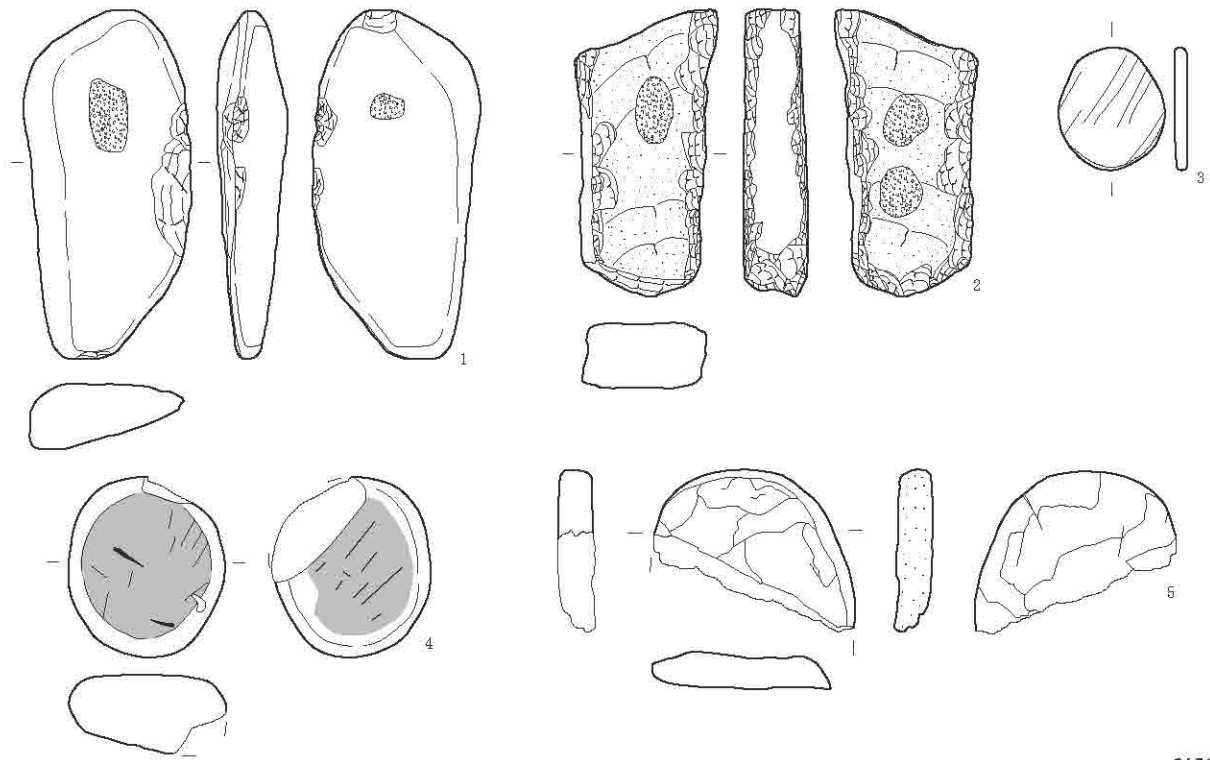
第107図 遺構内出土遺物47 (SI53)



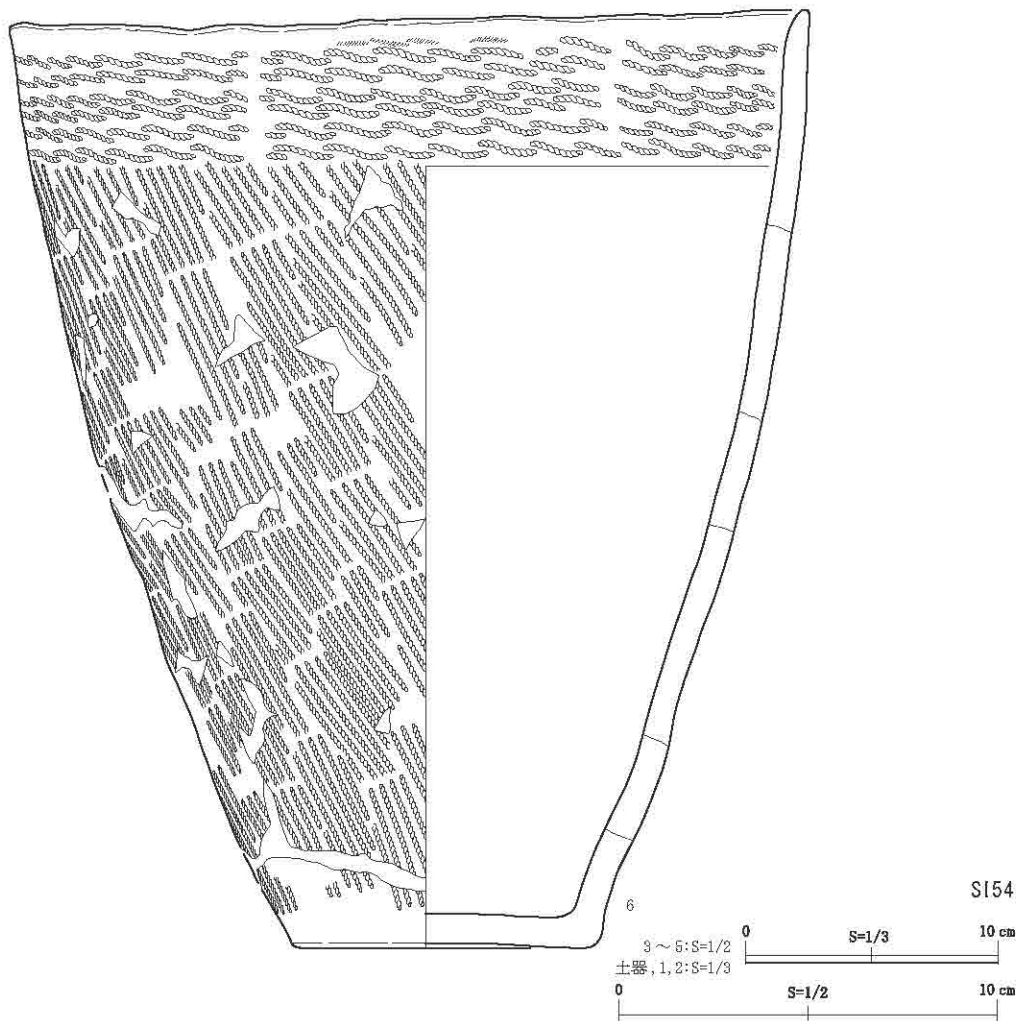
S153



第108図 遺構内出土遺物48 (S153)



SI53

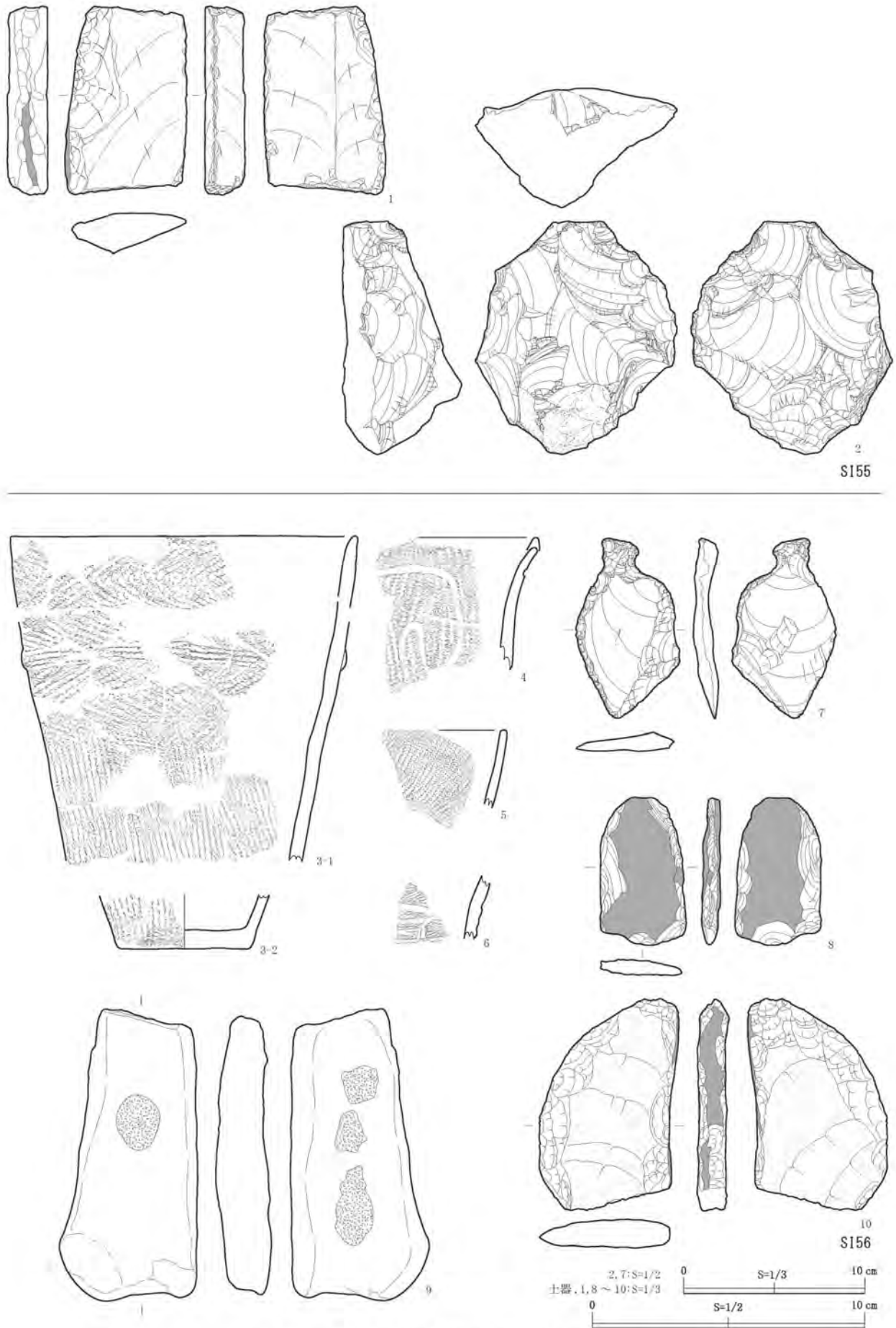


SI54

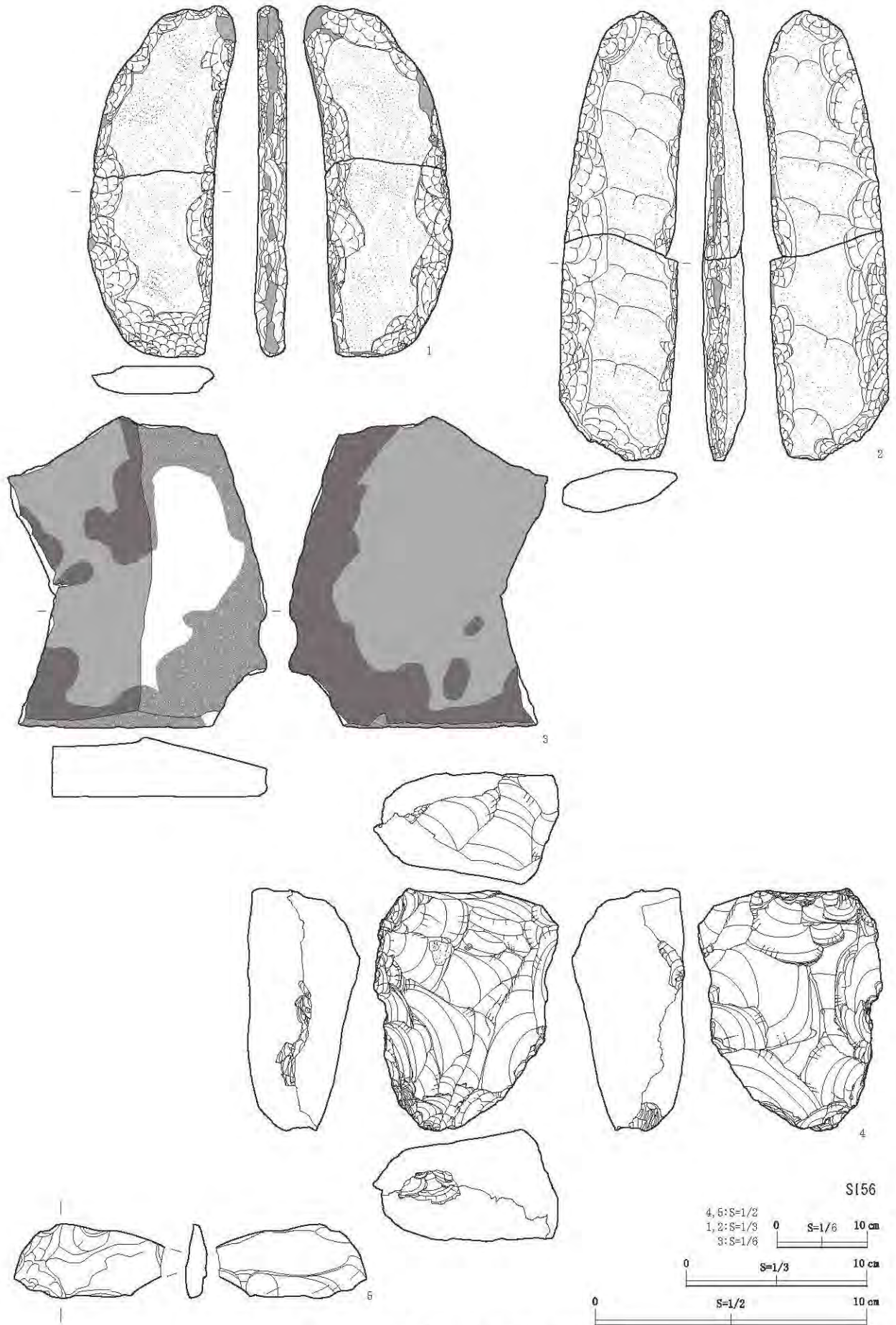
第109図 遺構内出土遺物49 (SI53, SI54)



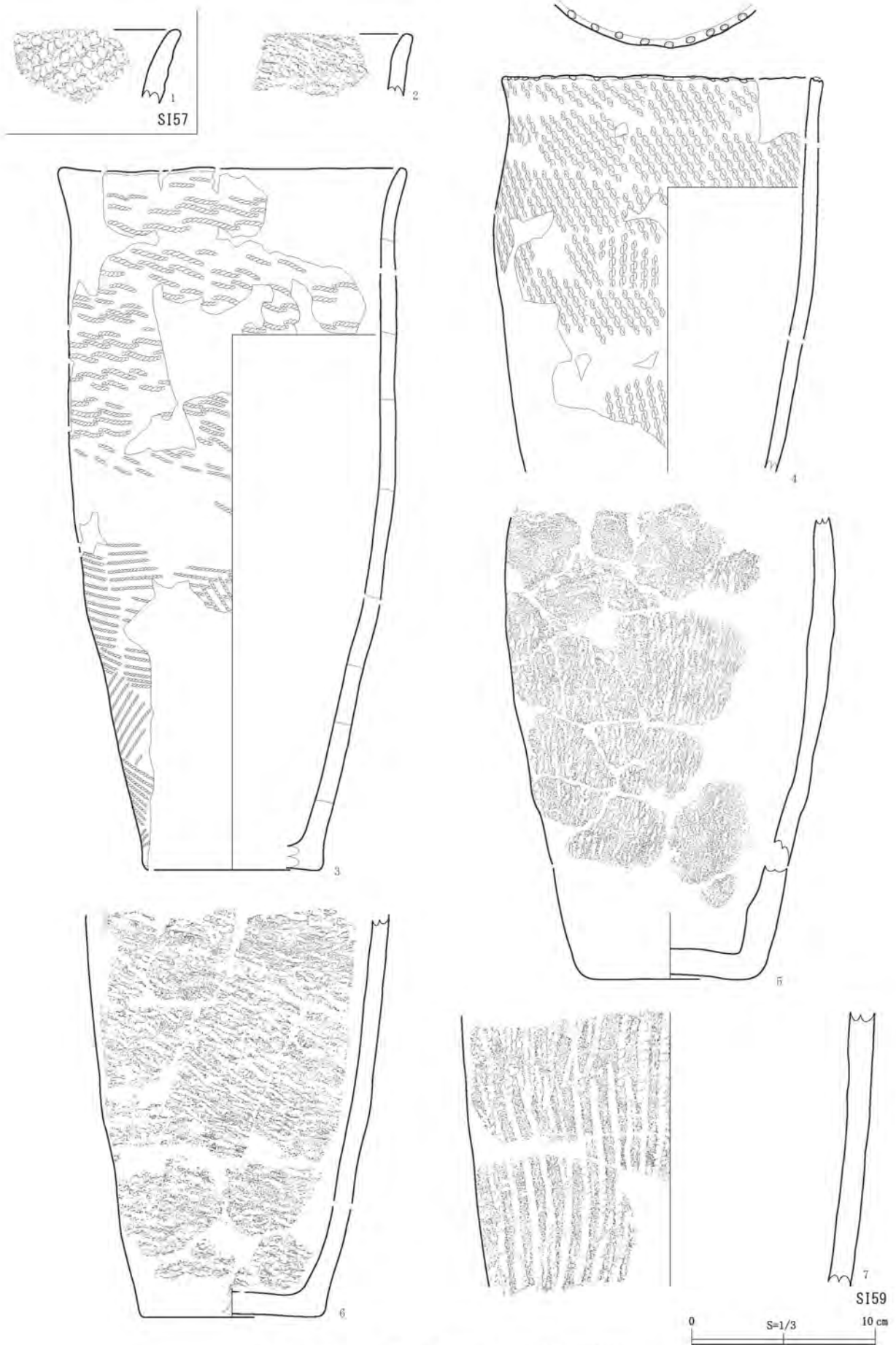
第110図 遺構内出土遺物50 (SI55)



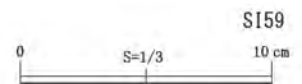
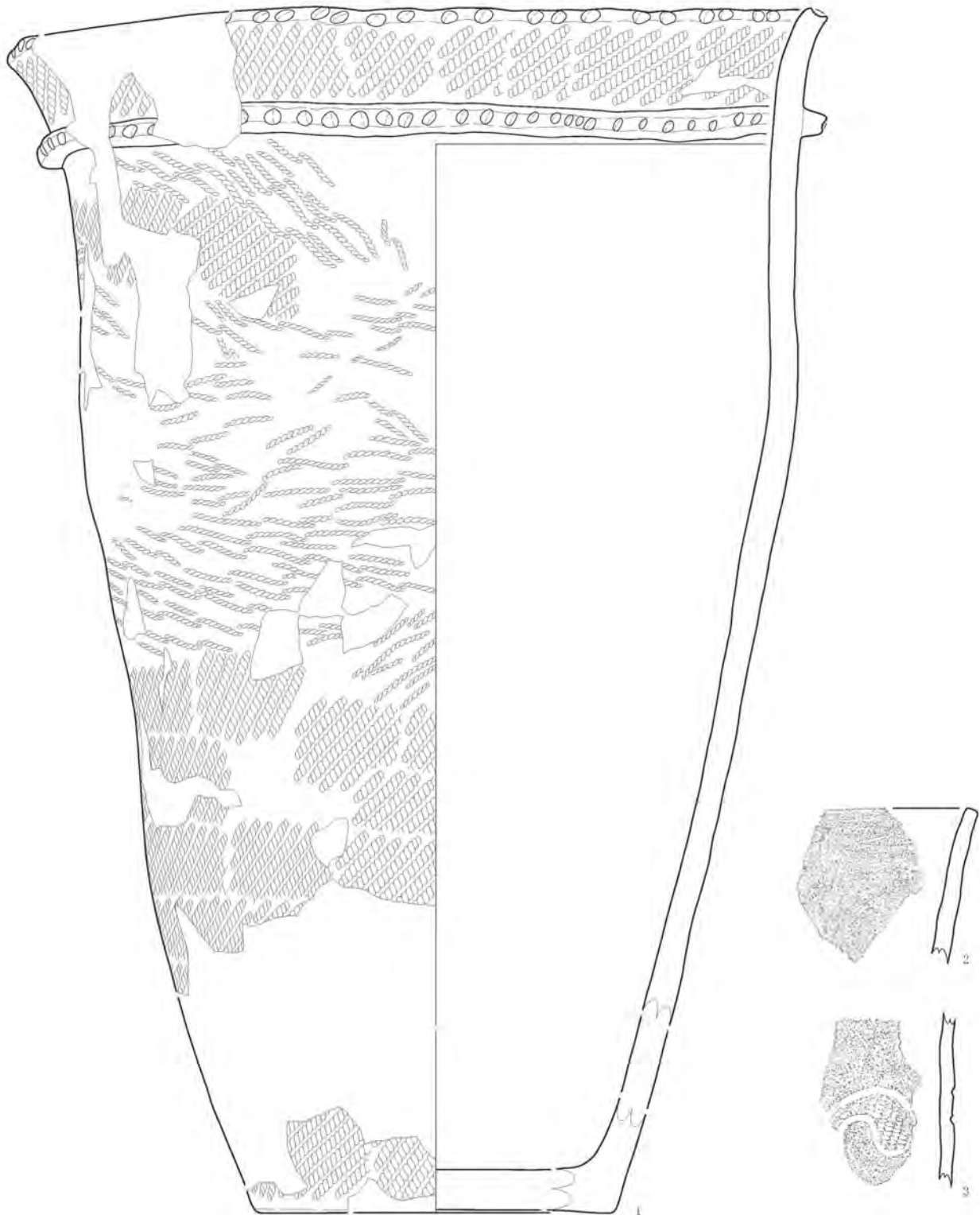
第111図 遺構内出土遺物51 (SI55, SI56)



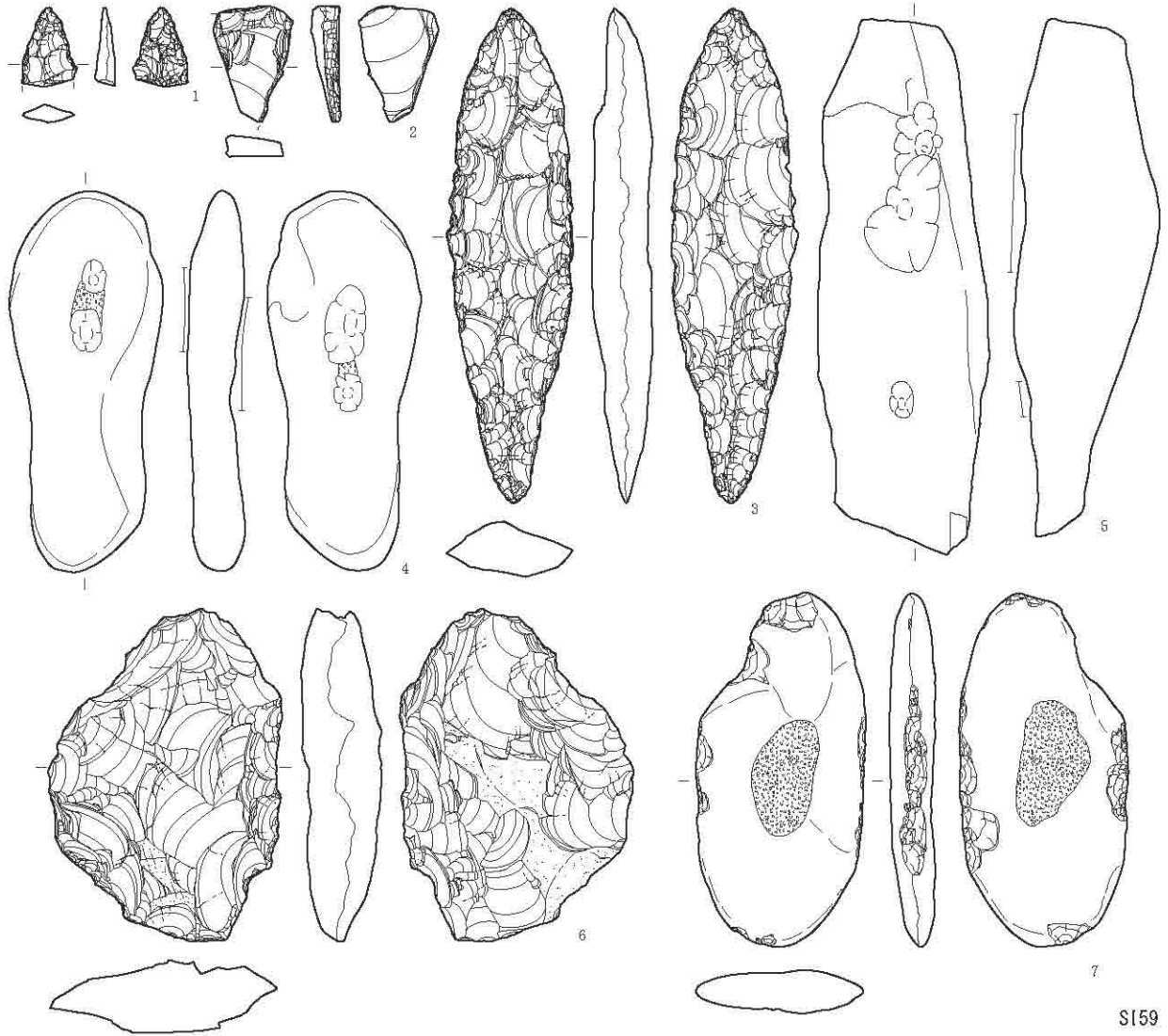
第112図 遺構内出土遺物52 (SI56)



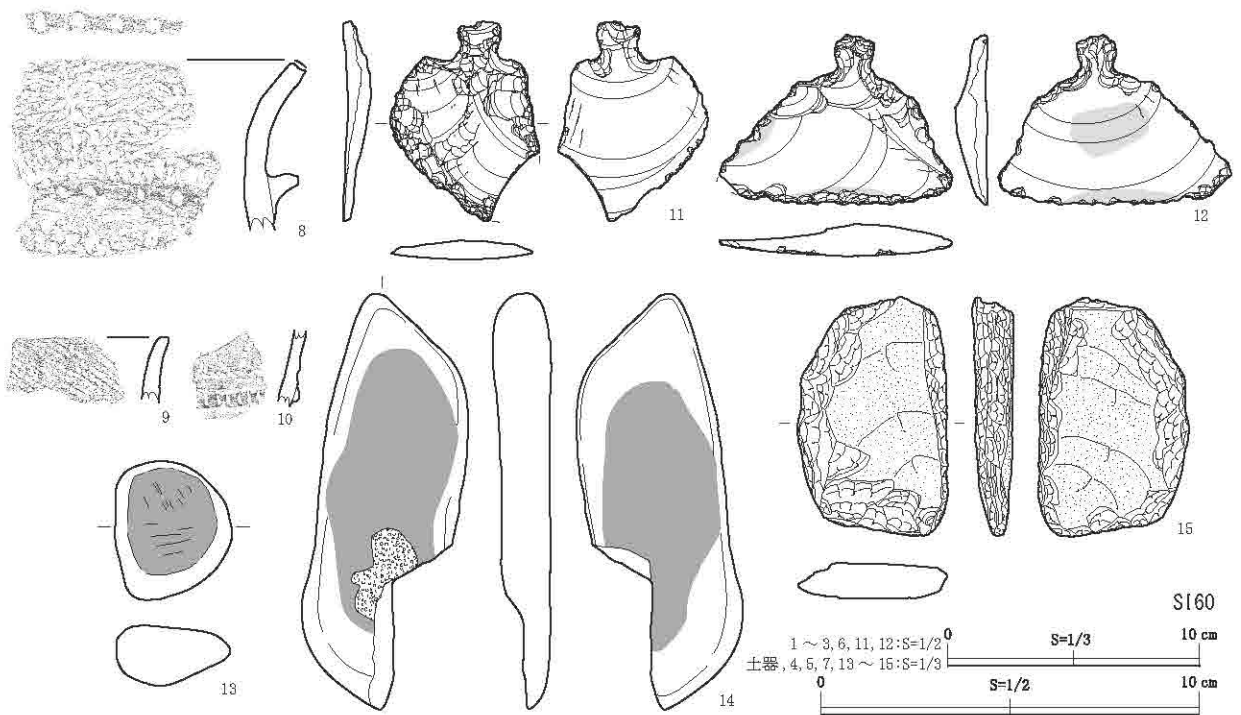
第113図 遺構内出土遺物53 (SI57, SI59)



第114図 遺構内出土遺物54 (SI59)



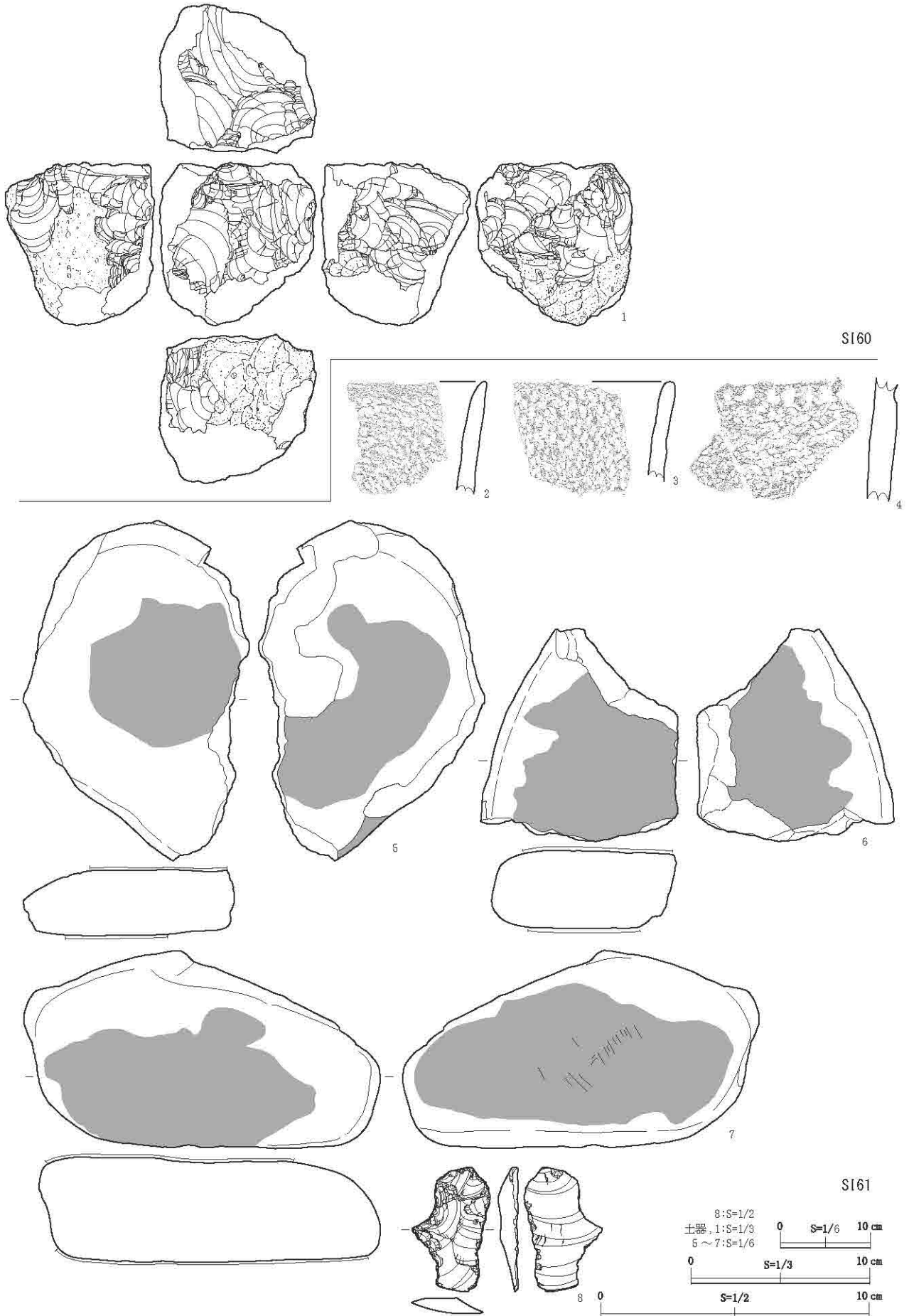
SI59



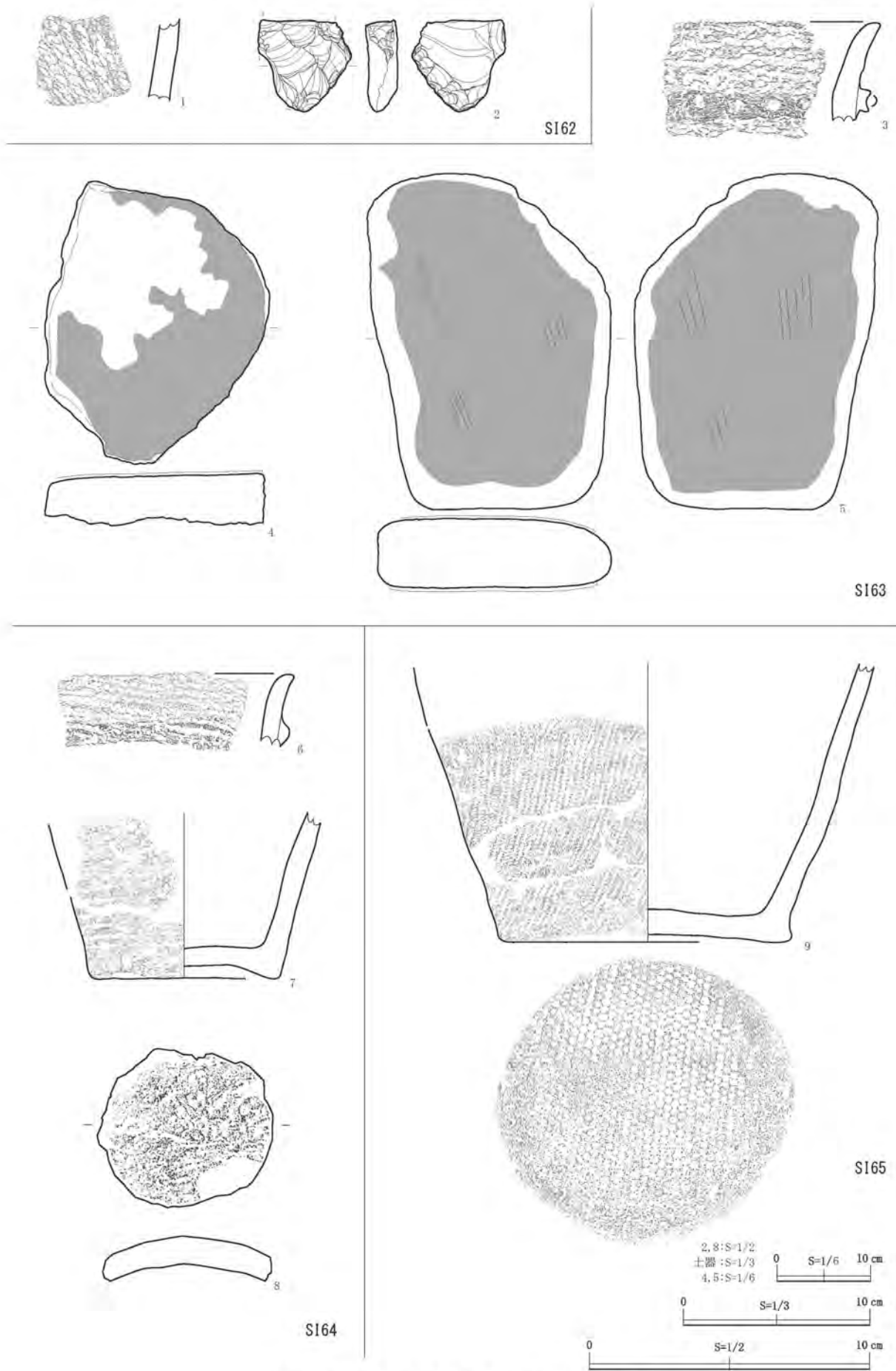
SI60

1 ~ 3, 6, 11, 12: S=1/2
 土器, 4, 5, 7, 13 ~ 15: S=1/3

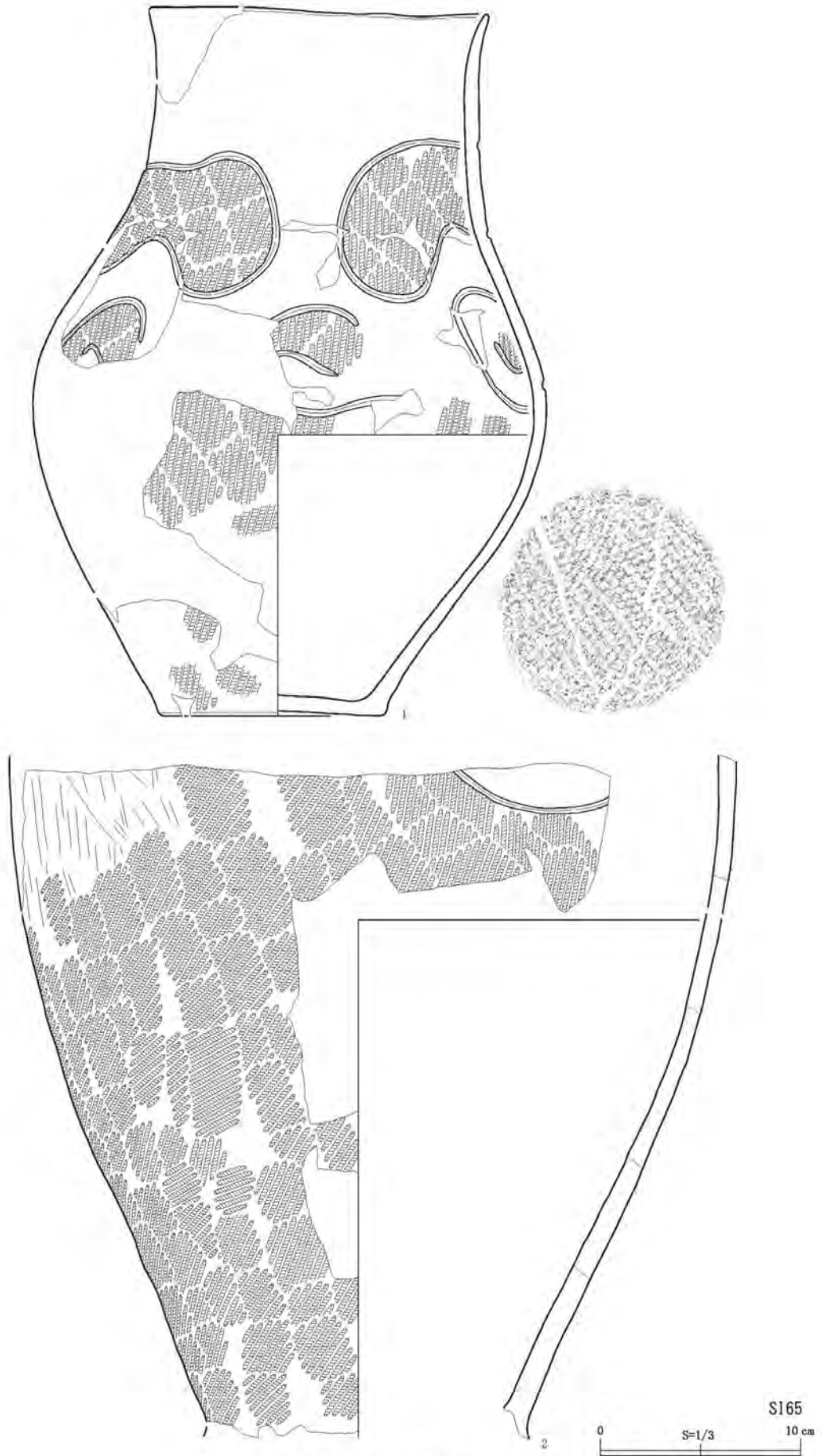
第115図 遺構内出土遺物55 (SI59, SI60)



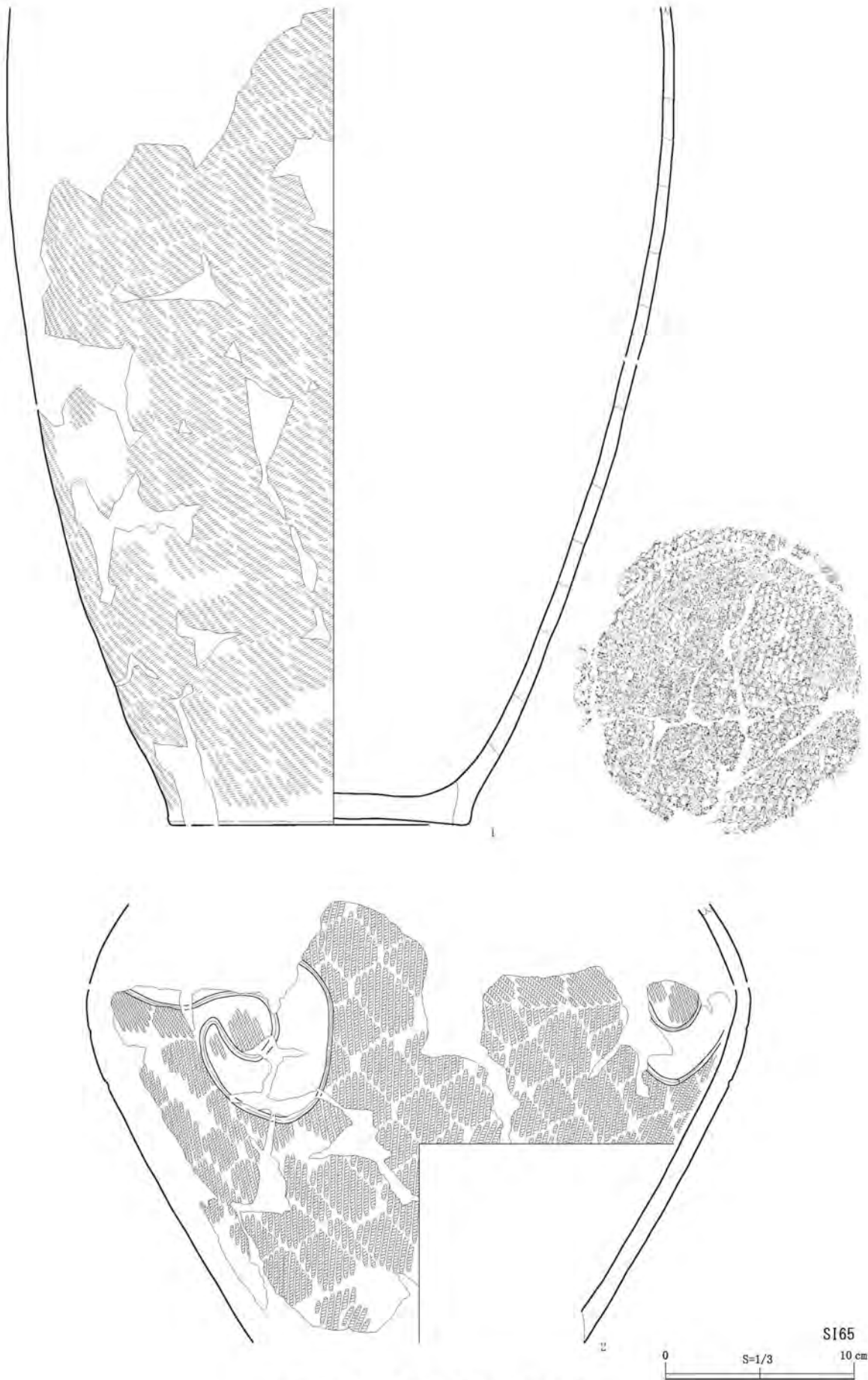
第116図 遺構内出土遺物56 (SI60, SI61)



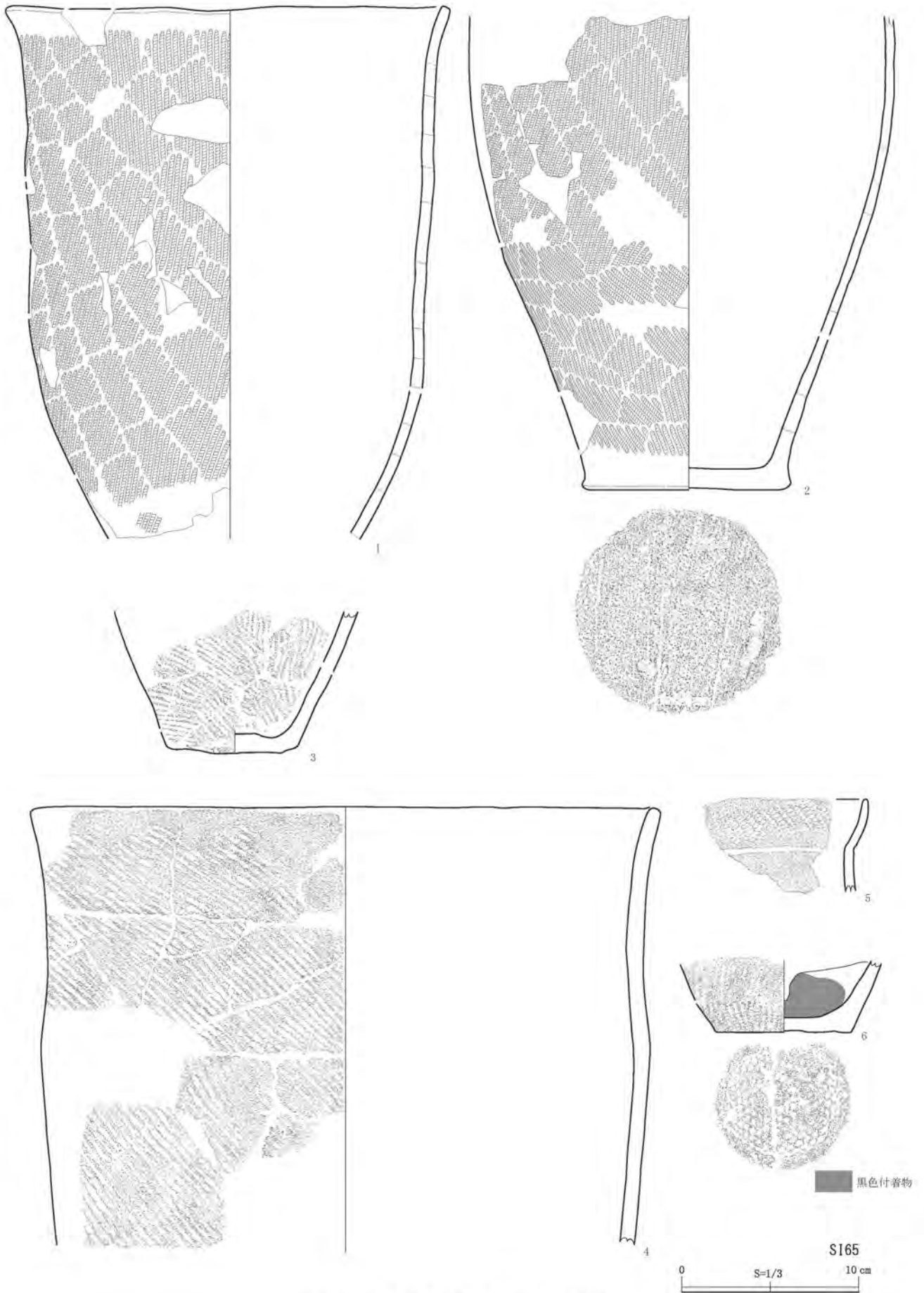
第117図 遺構内出土遺物57 (S162~S165)



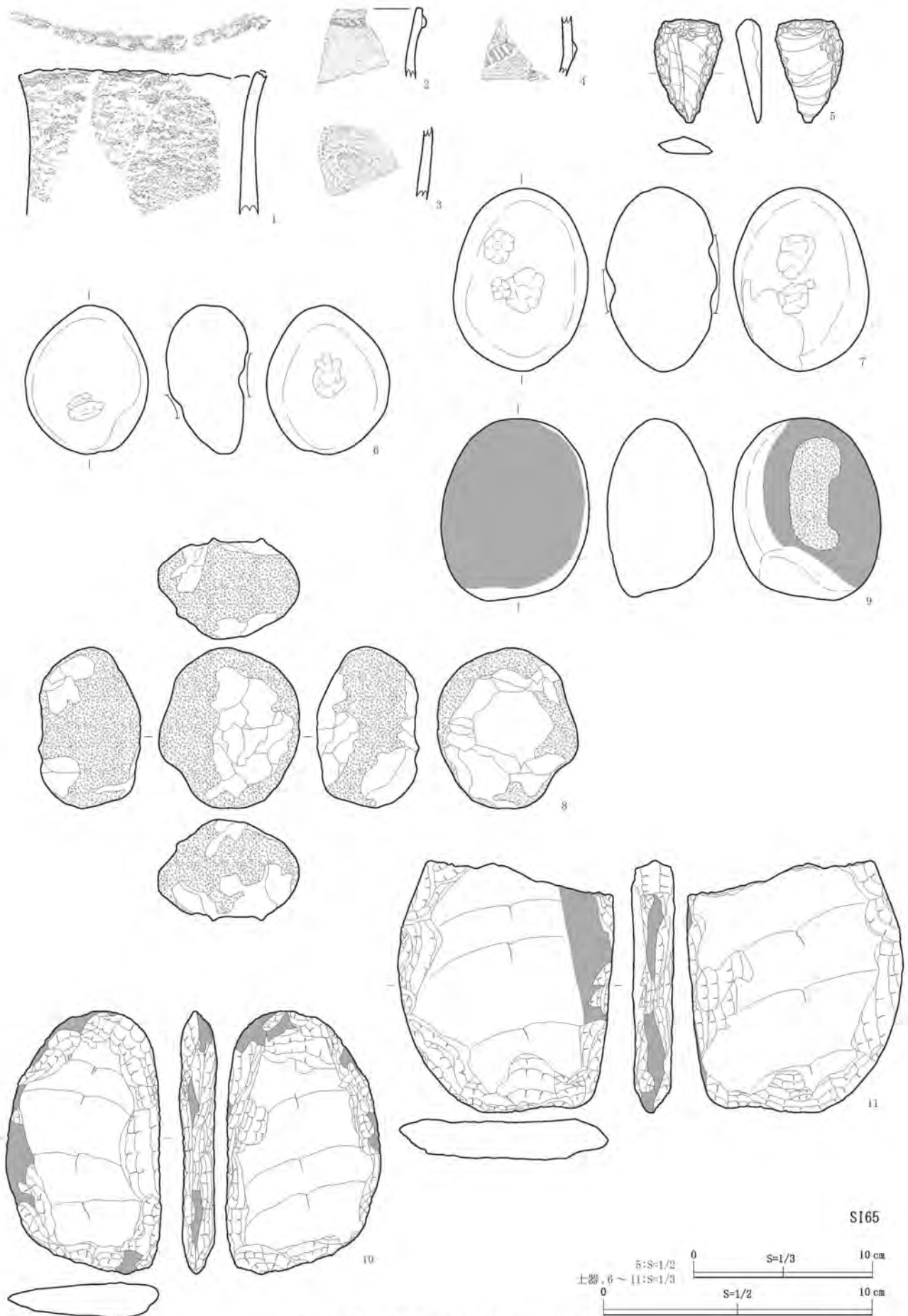
第118図 遺構内出土遺物58 (S165)



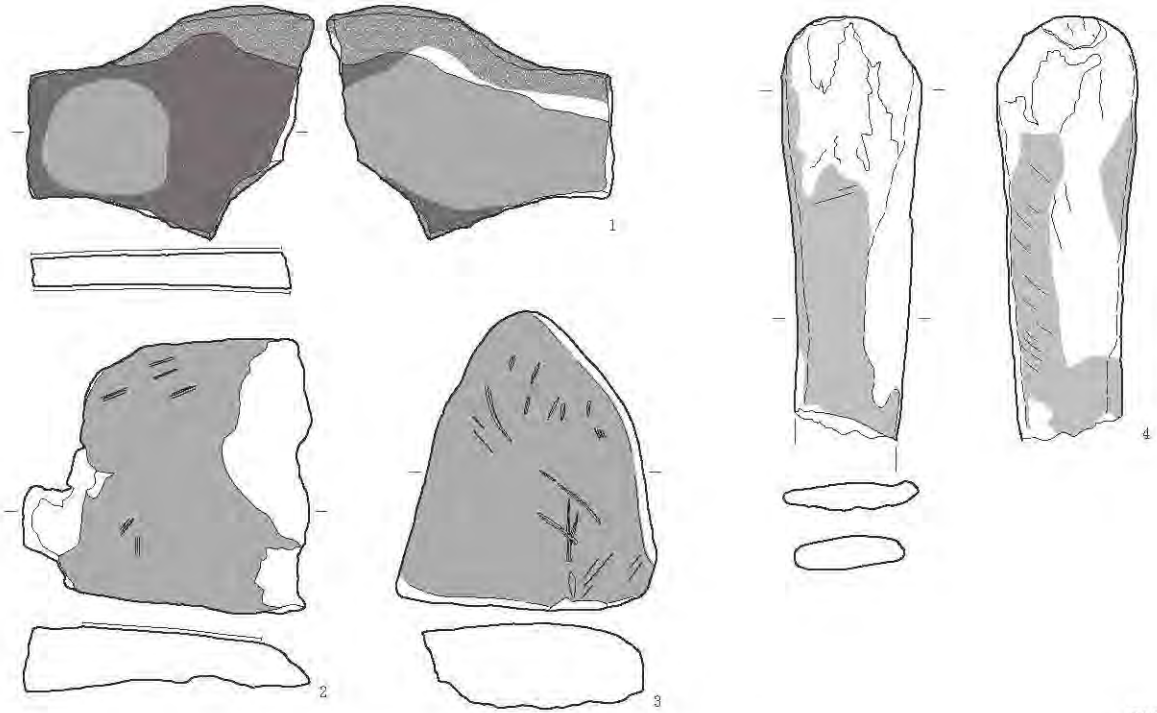
第119図 遺構内出土遺物59 (S165)



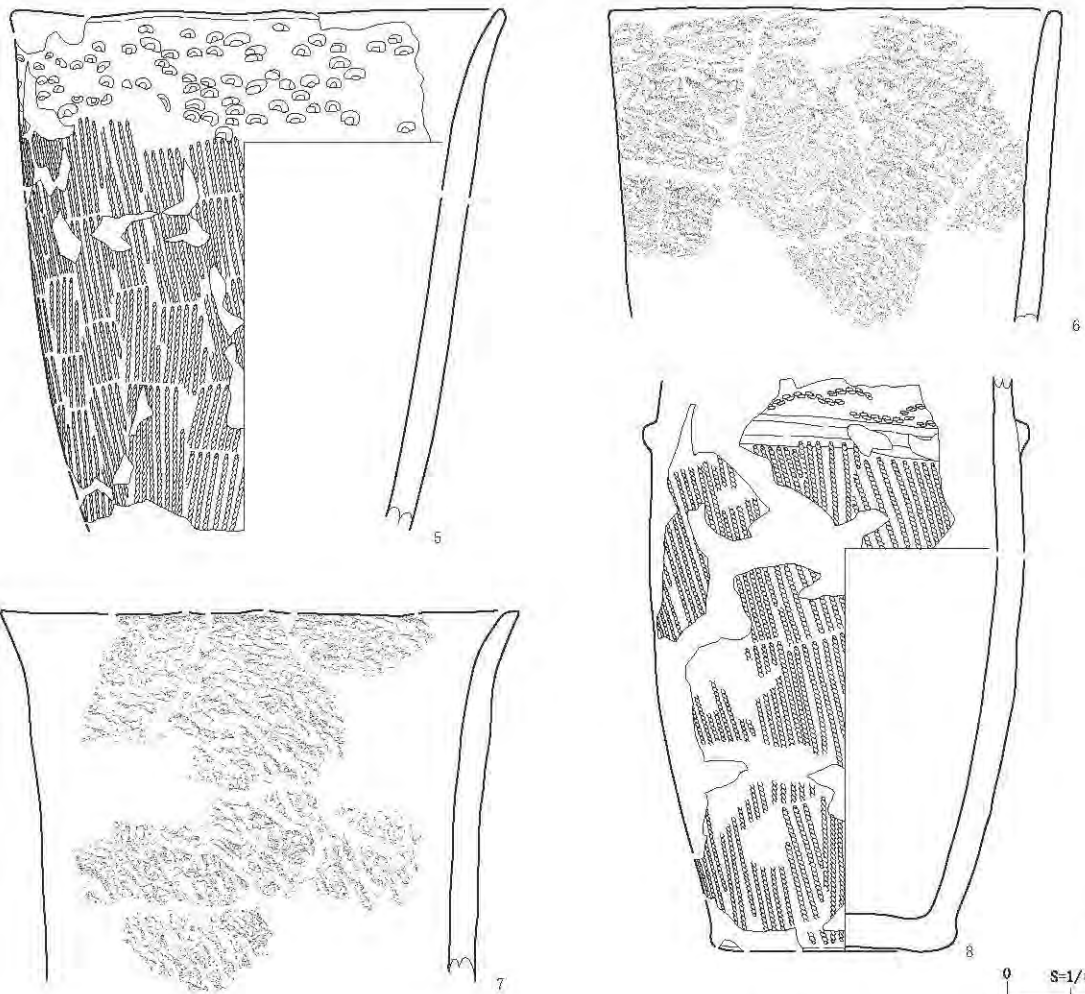
第120図 遺構内出土遺物60 (S165)



第121図 遺構内出土遺物61 (SI65)

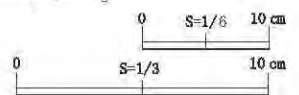


S165

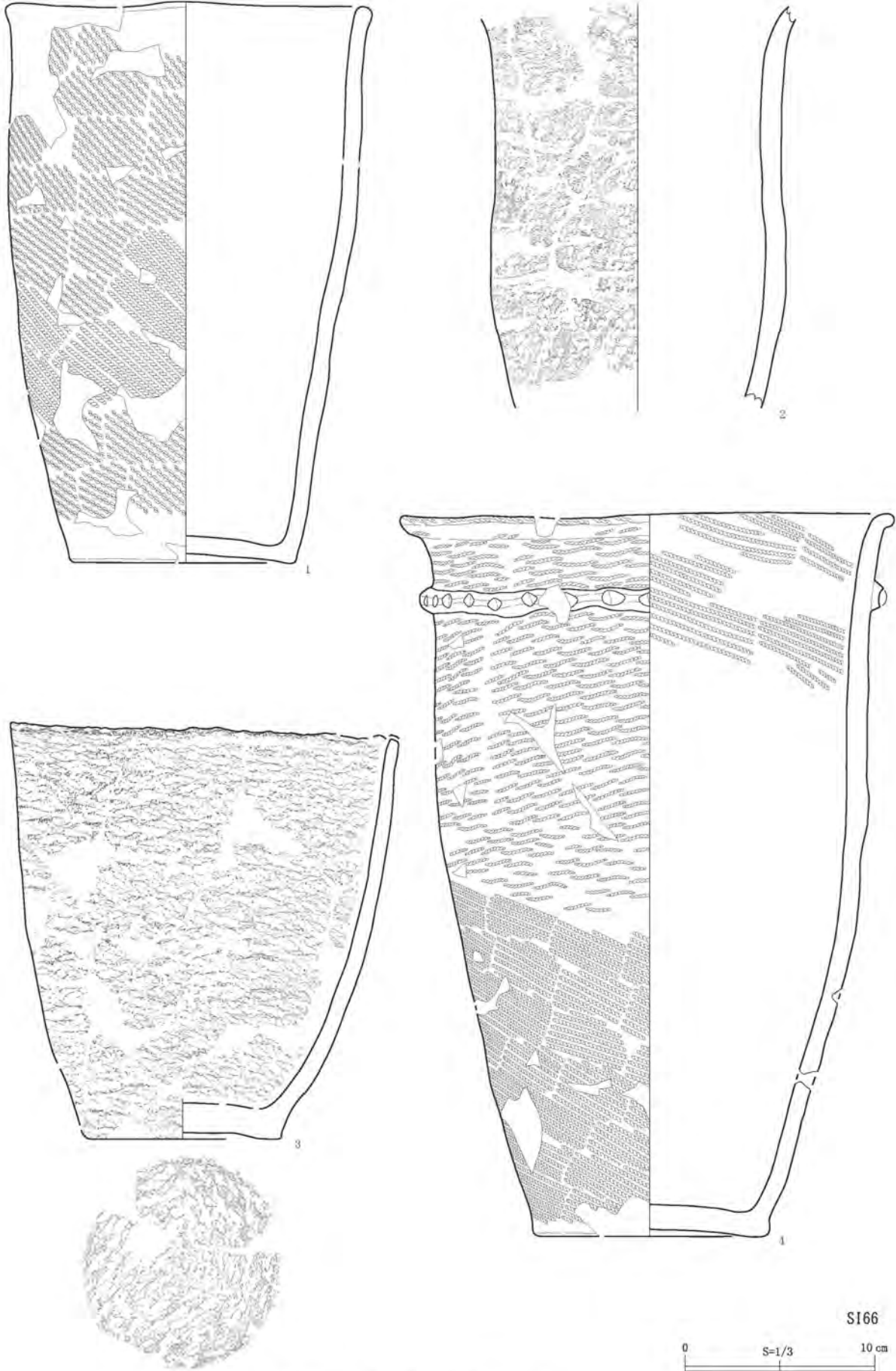


S166

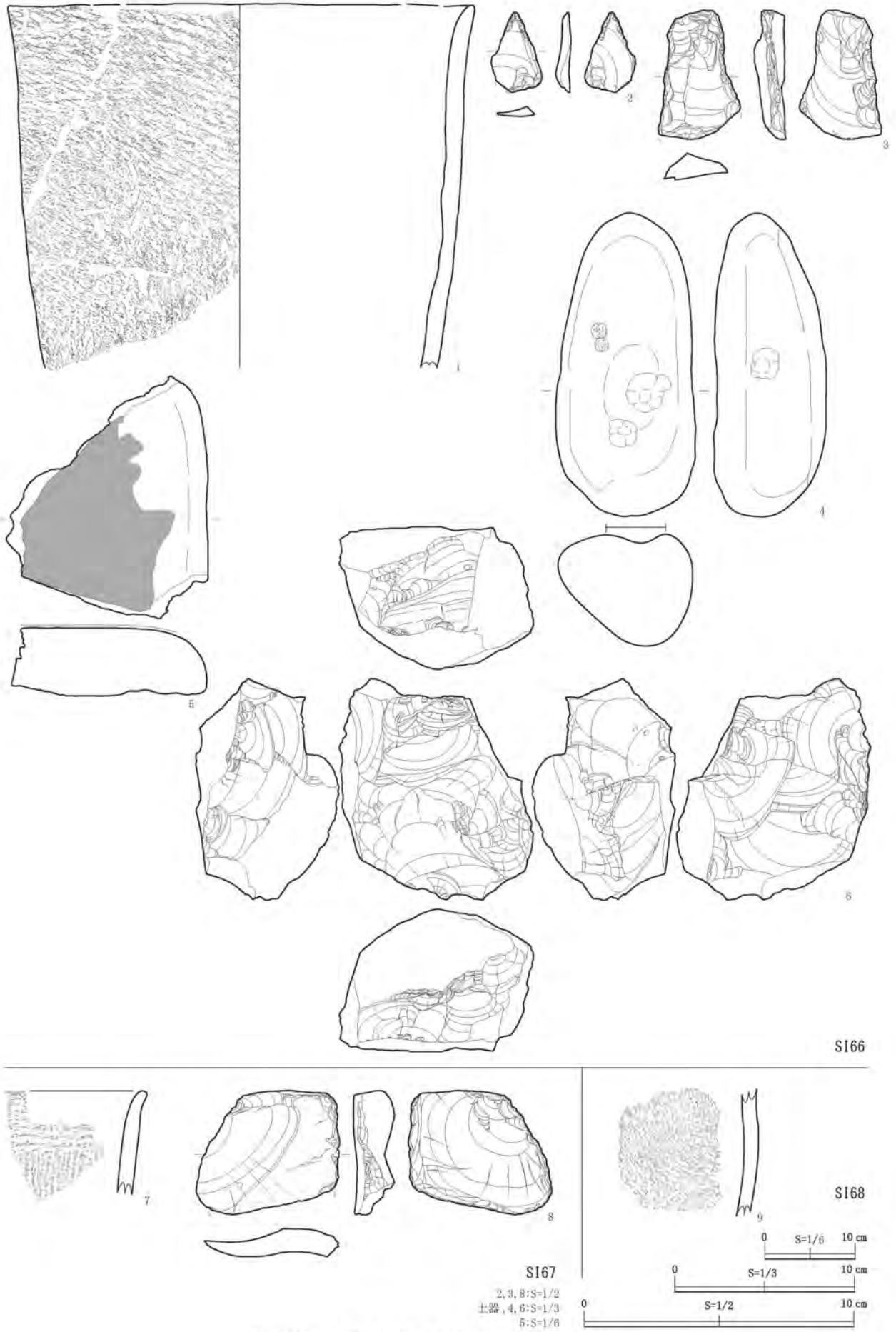
土器, 4:S=1/3
1~3:S=1/6



第122図 遺構内出土遺物62 (S165, S166)



第123図 遺構内出土遺物63 (SI66)



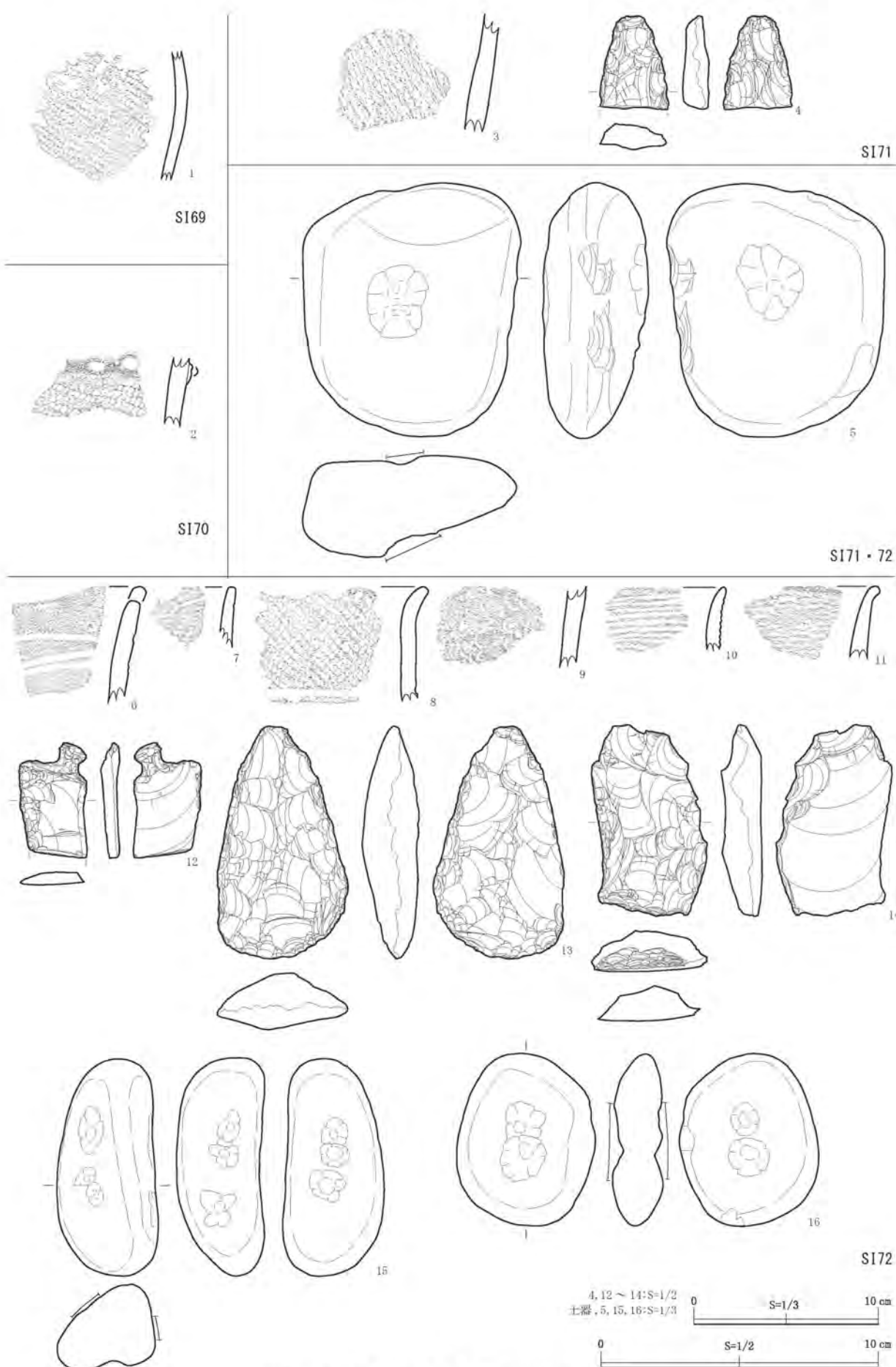
SI166

SI168

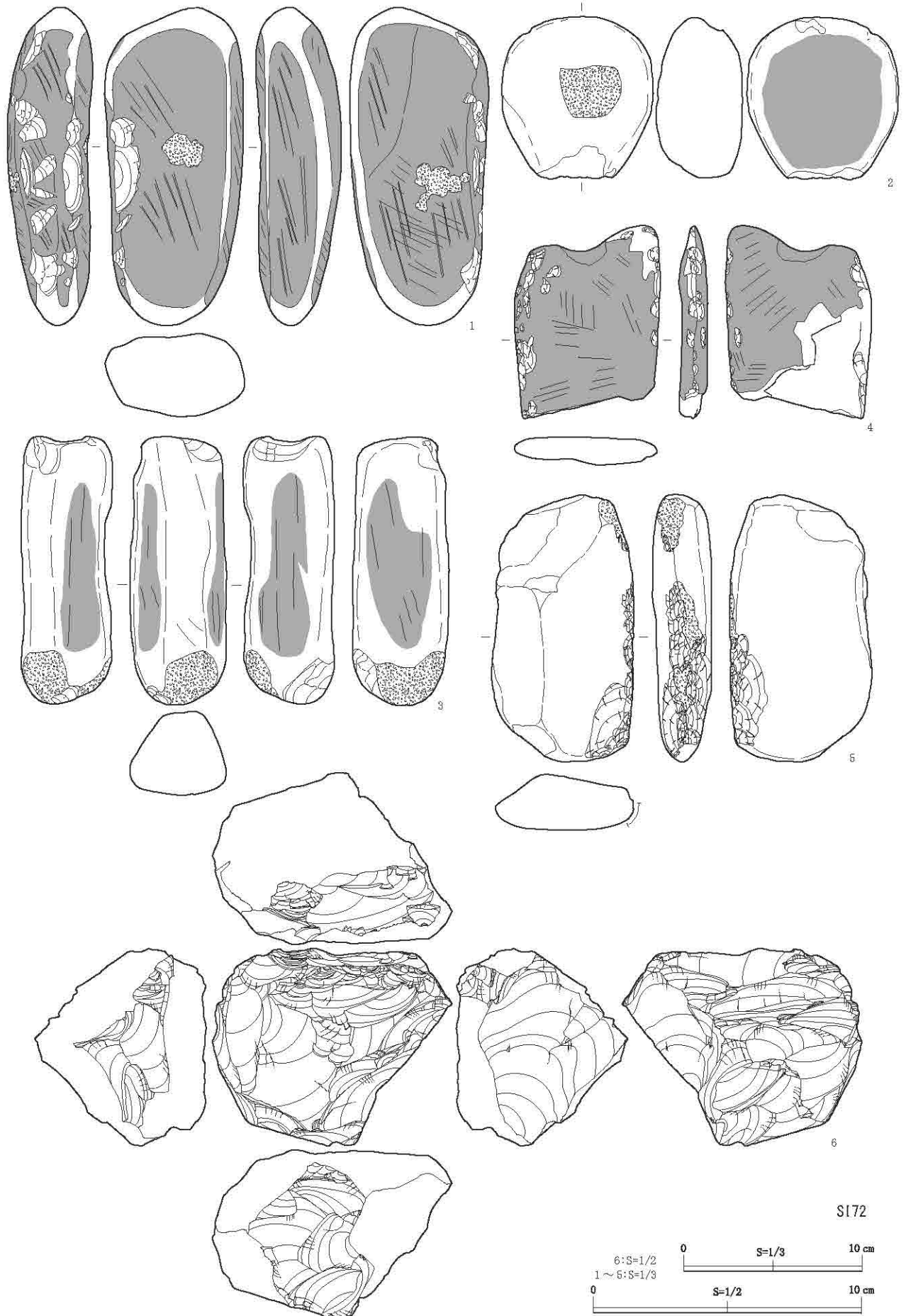
SI167

2, 3, 8: S=1/2
土器 4, 6: S=1/3
5: S=1/6

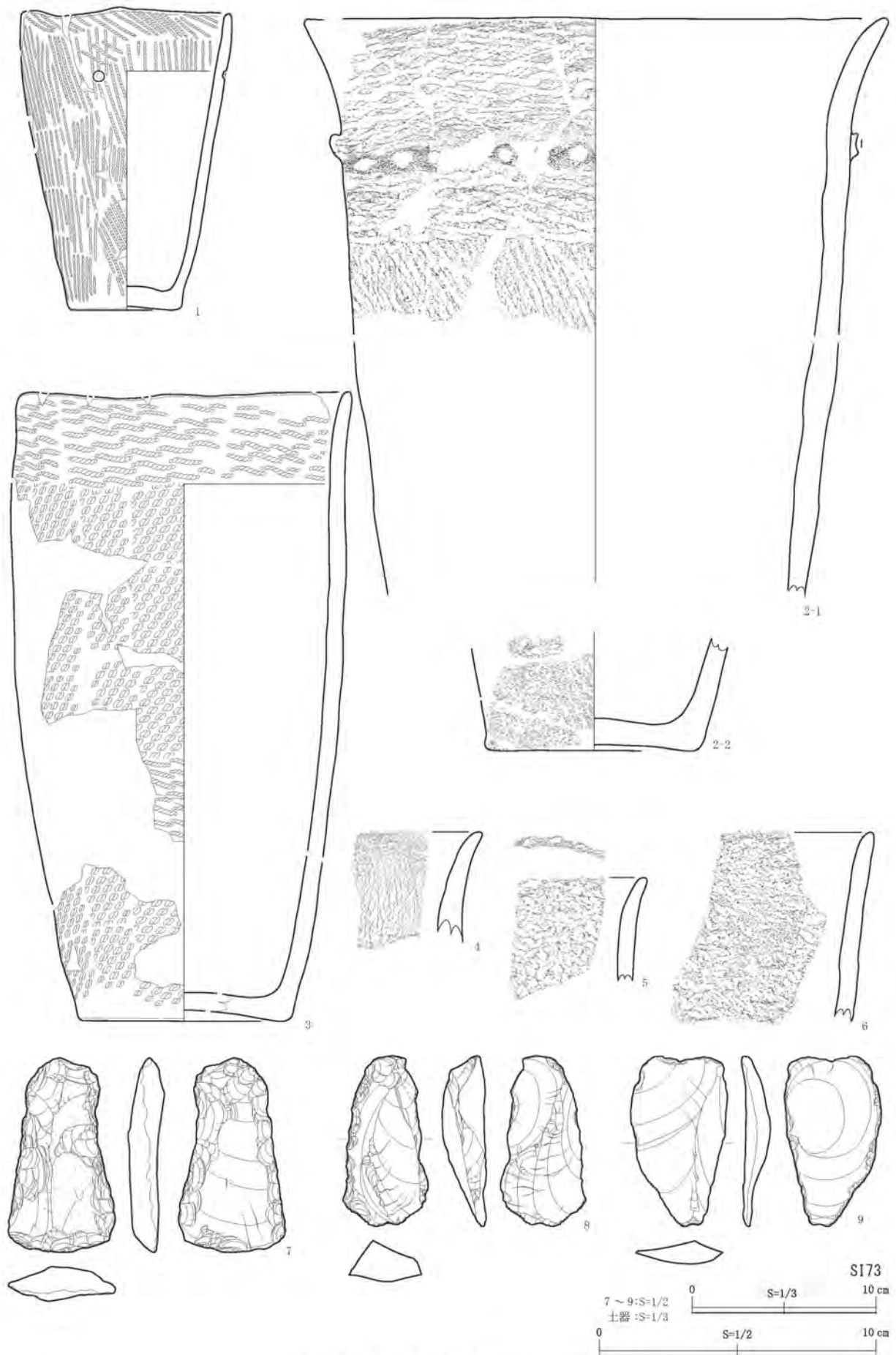
第124図 遺構内出土遺物64 (SI166~SI168)



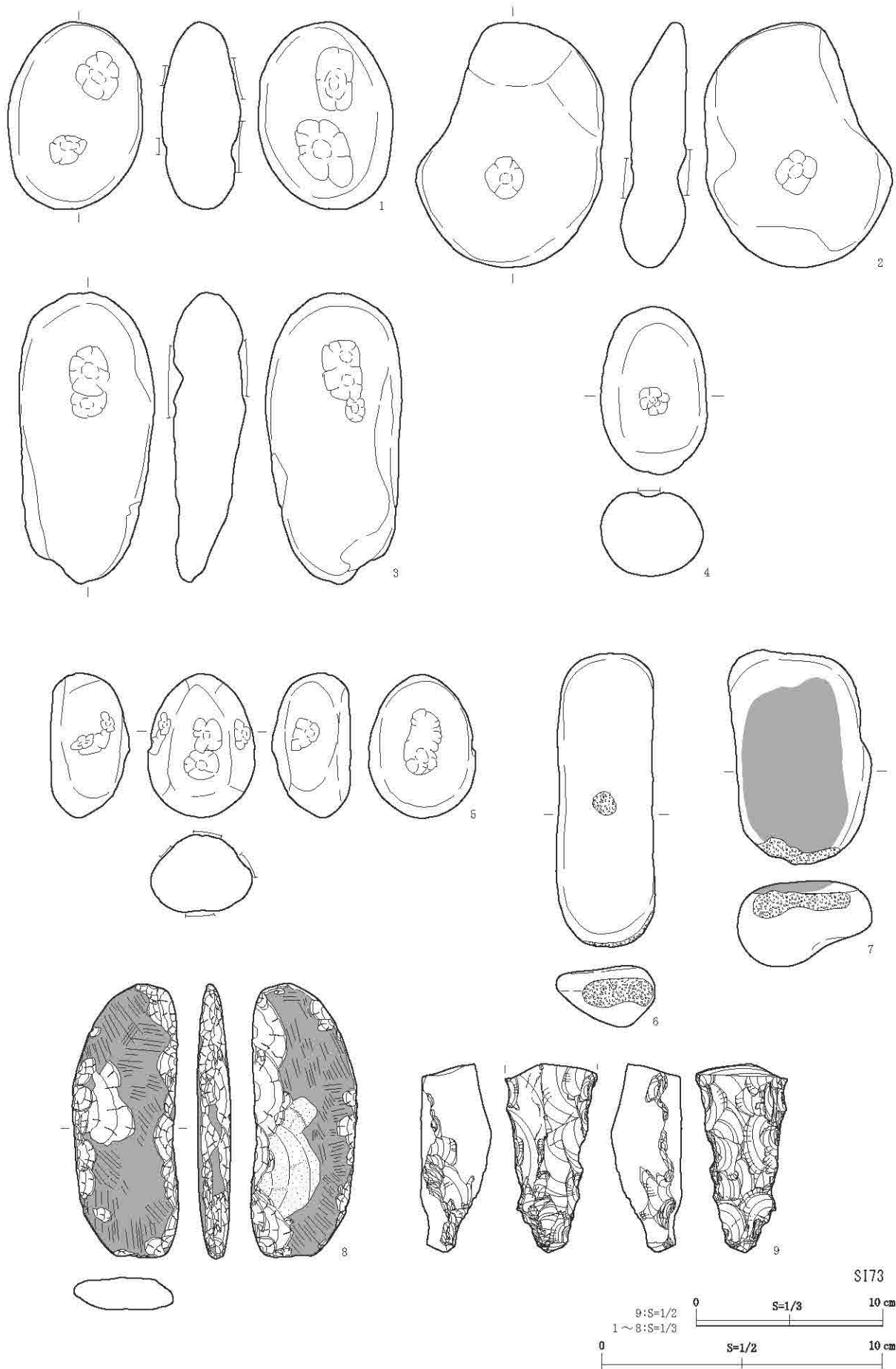
第125図 遺構内出土遺物65 (SI69~SI72)



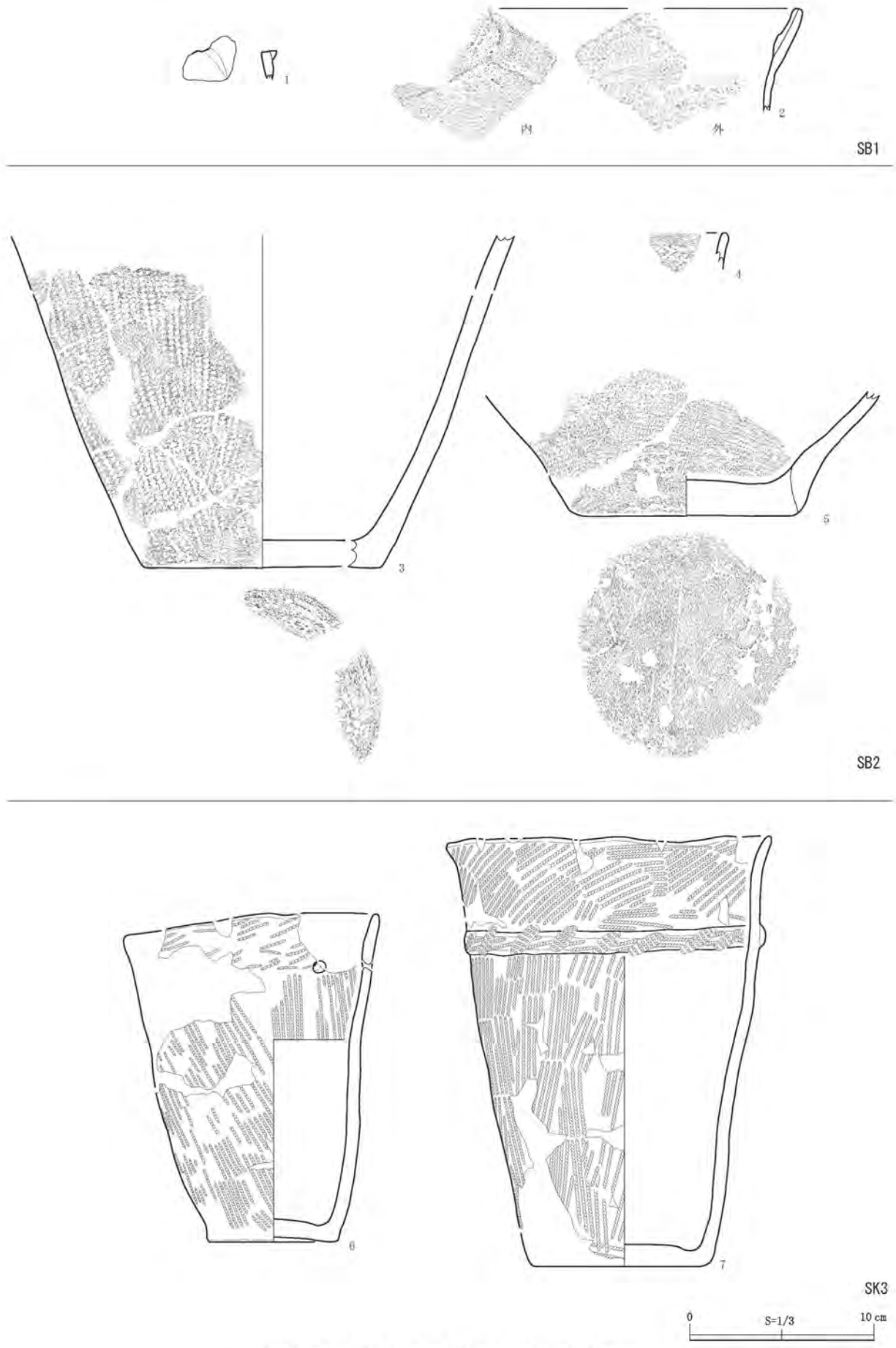
第126図 遺構内出土遺物66 (SI72)



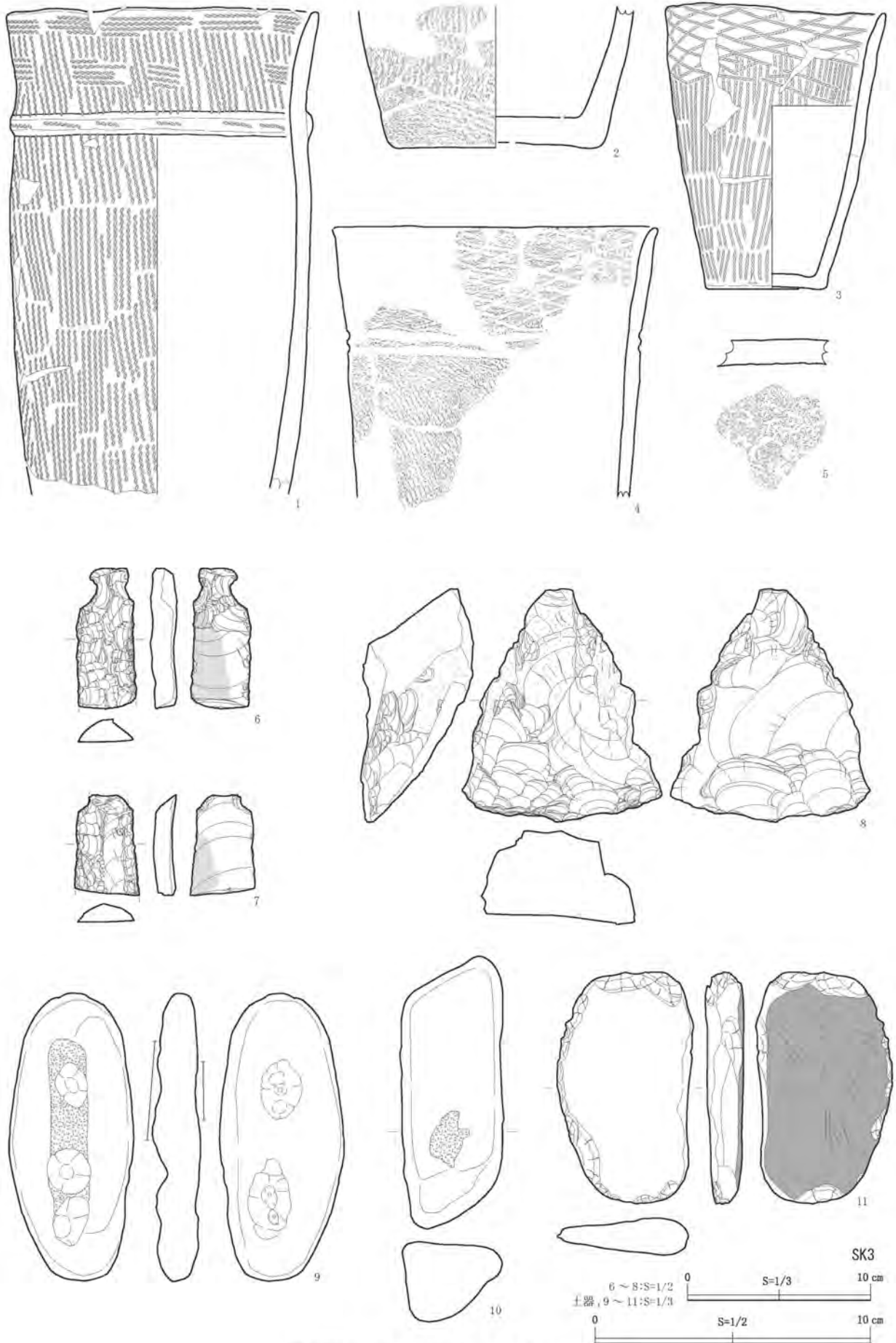
第127図 遺構内出土遺物67 (S173)



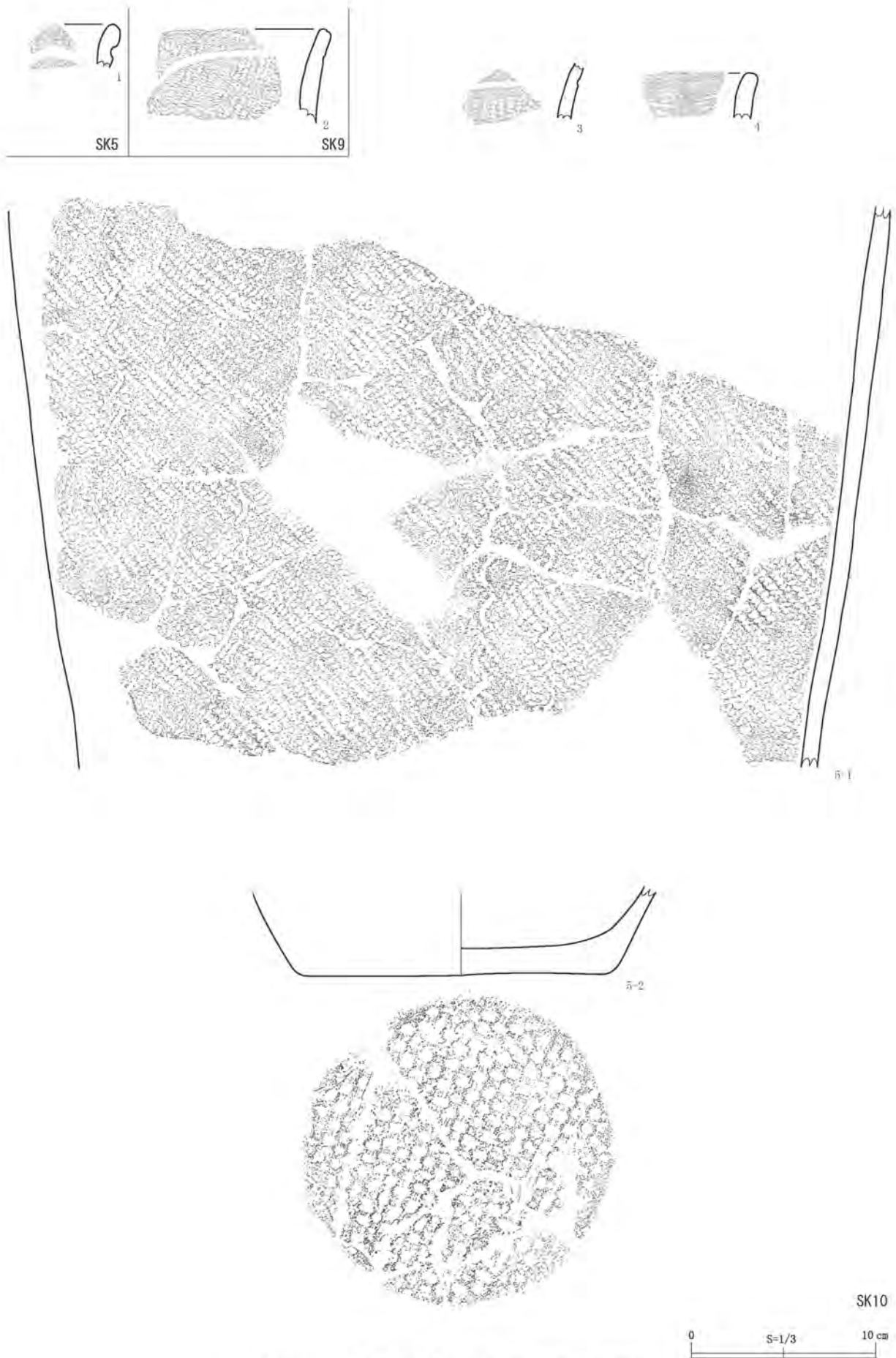
第128図 遺構内出土遺物68 (S173)



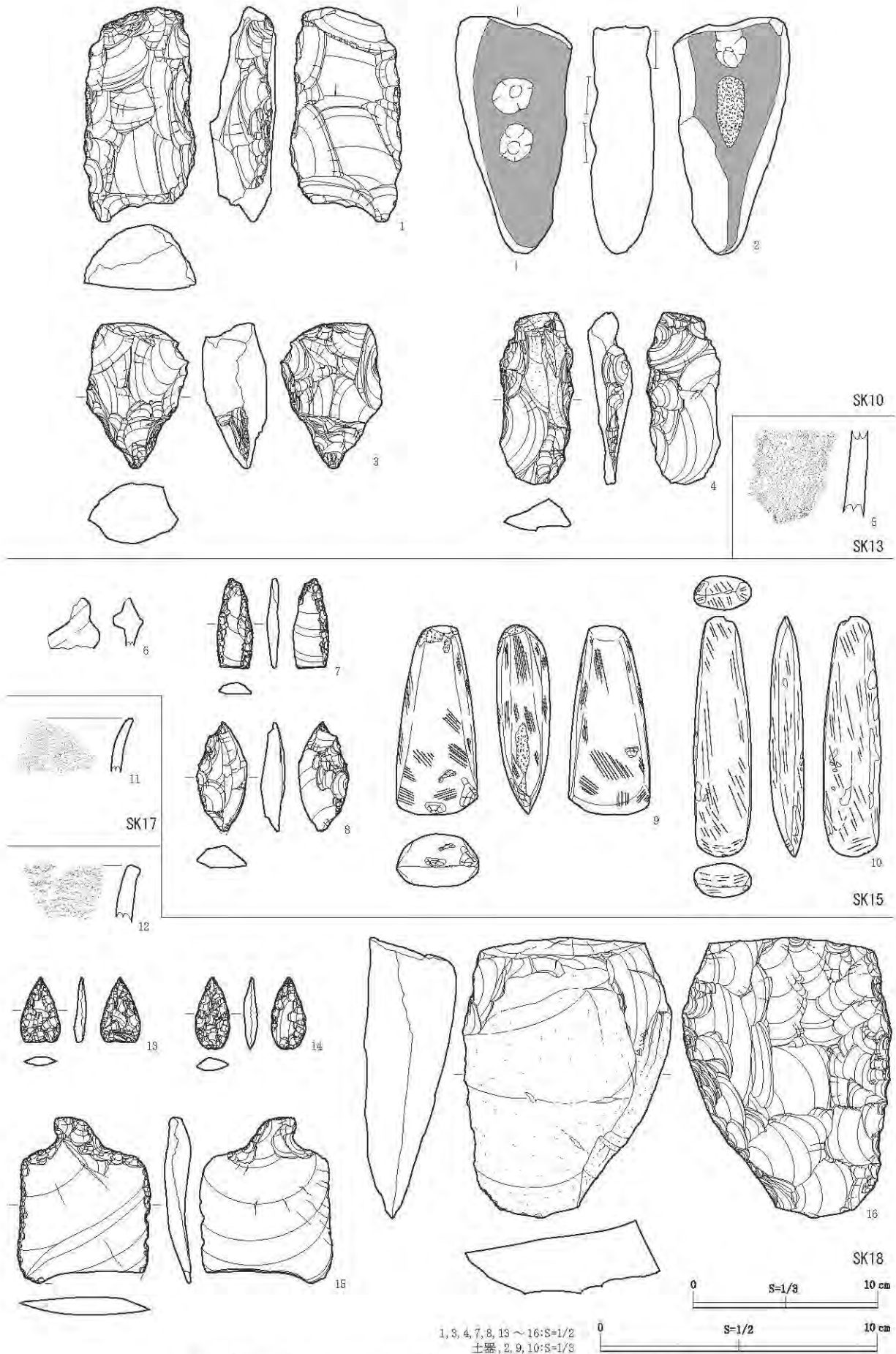
第129図 遺構内出土遺物69 (SB1, SB2, SK3)



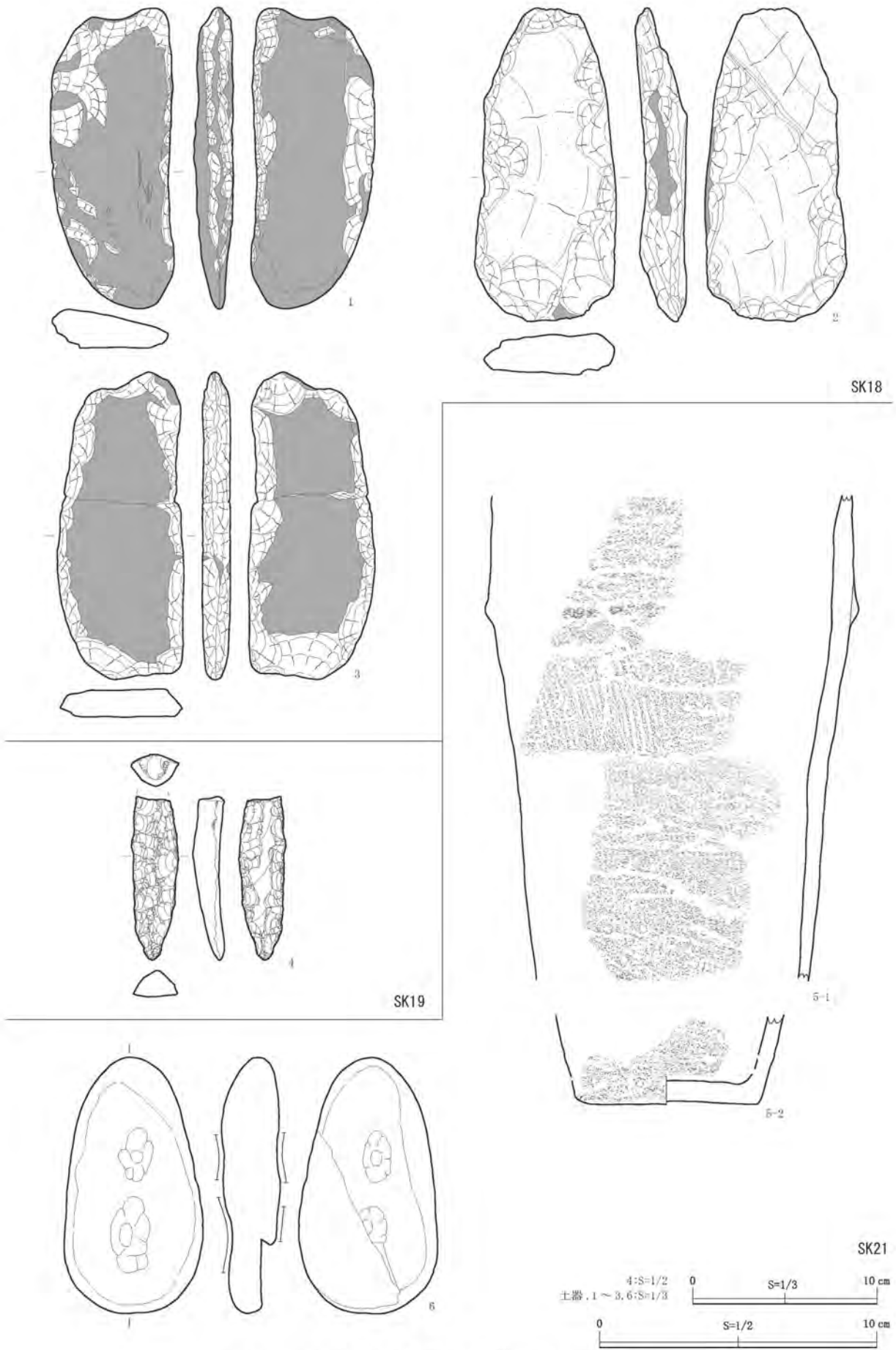
第130図 遺構内出土遺物70 (SK3)



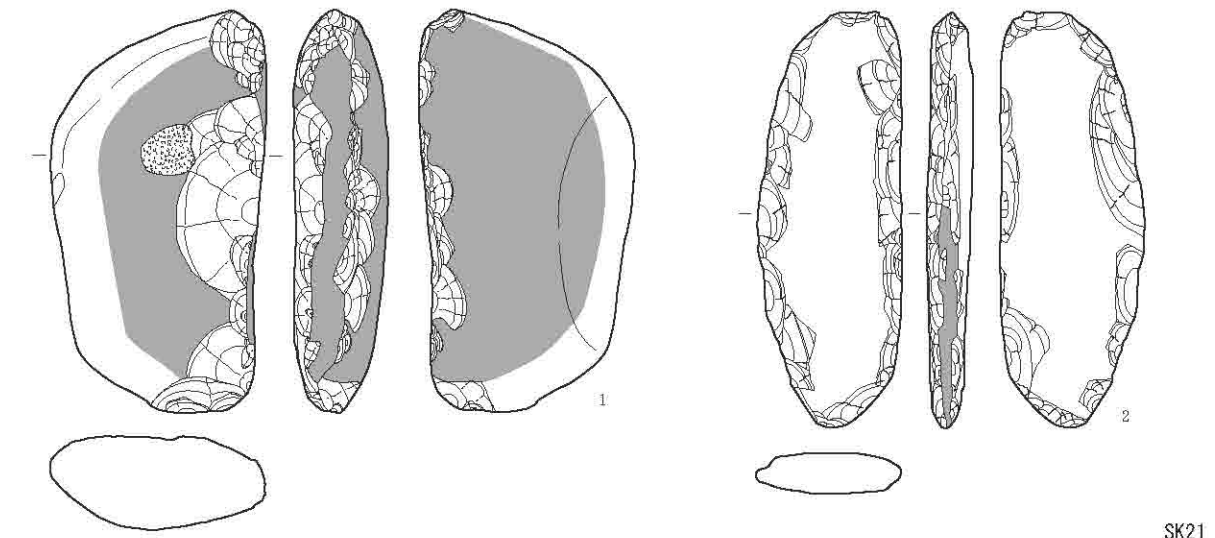
第131図 遺構内出土遺物71 (SK5, SK9, SK10)



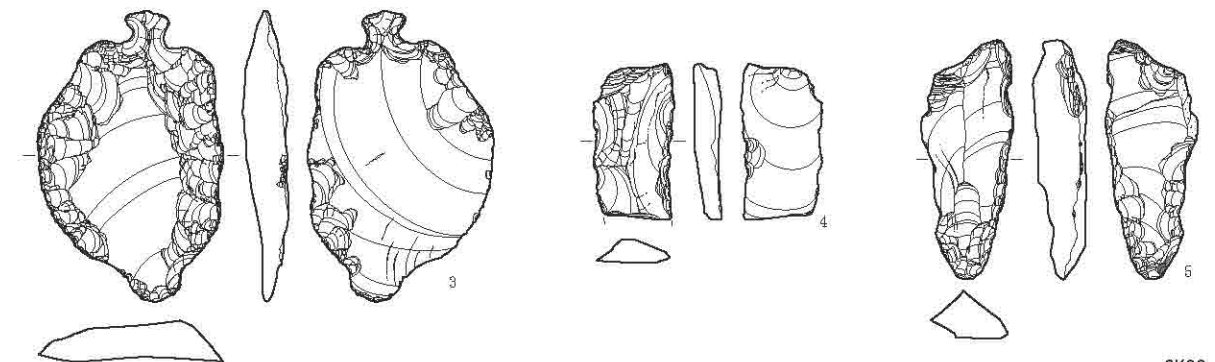
第132図 遺構内出土遺物72 (SK10, SK13, SK15, SK17, SK18)



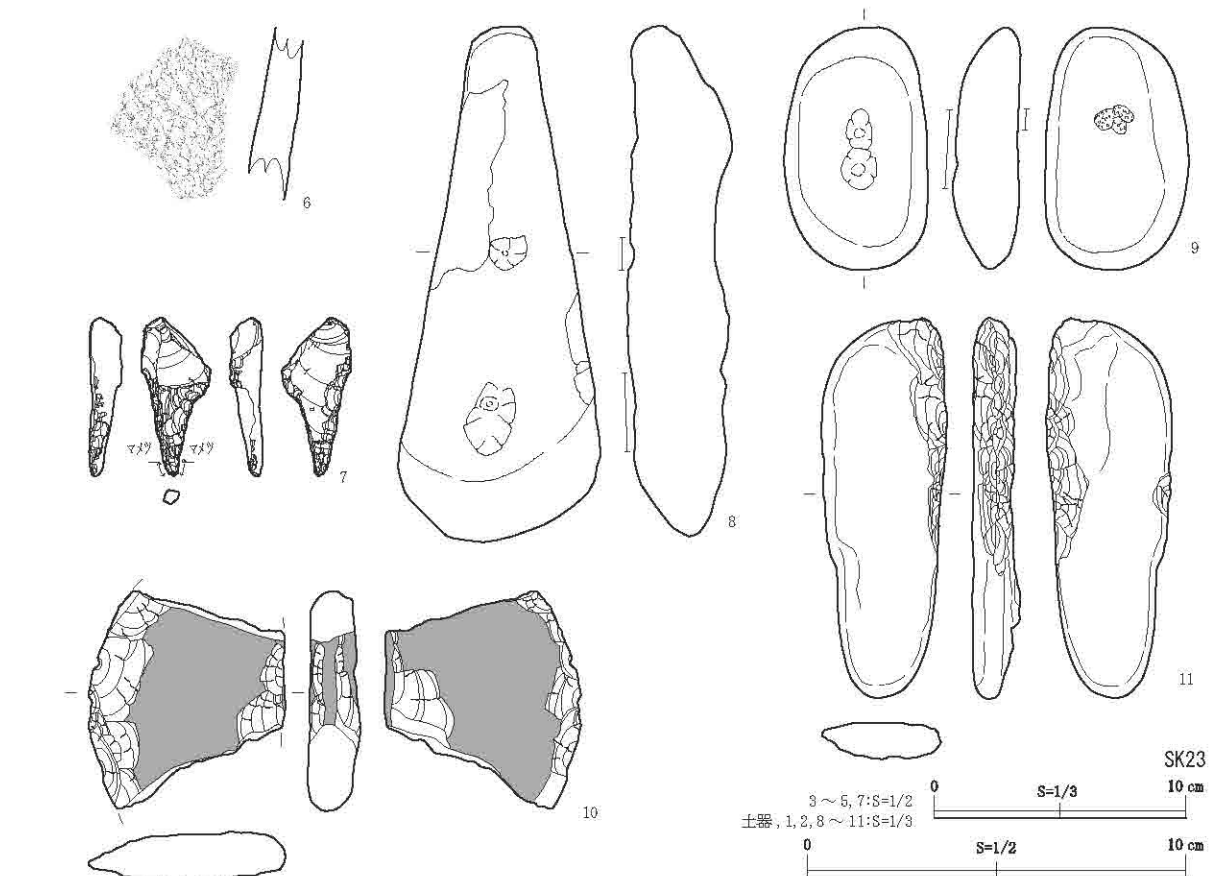
第133図 遺構内出土遺物73 (SK18, SK19, SK21)



SK21



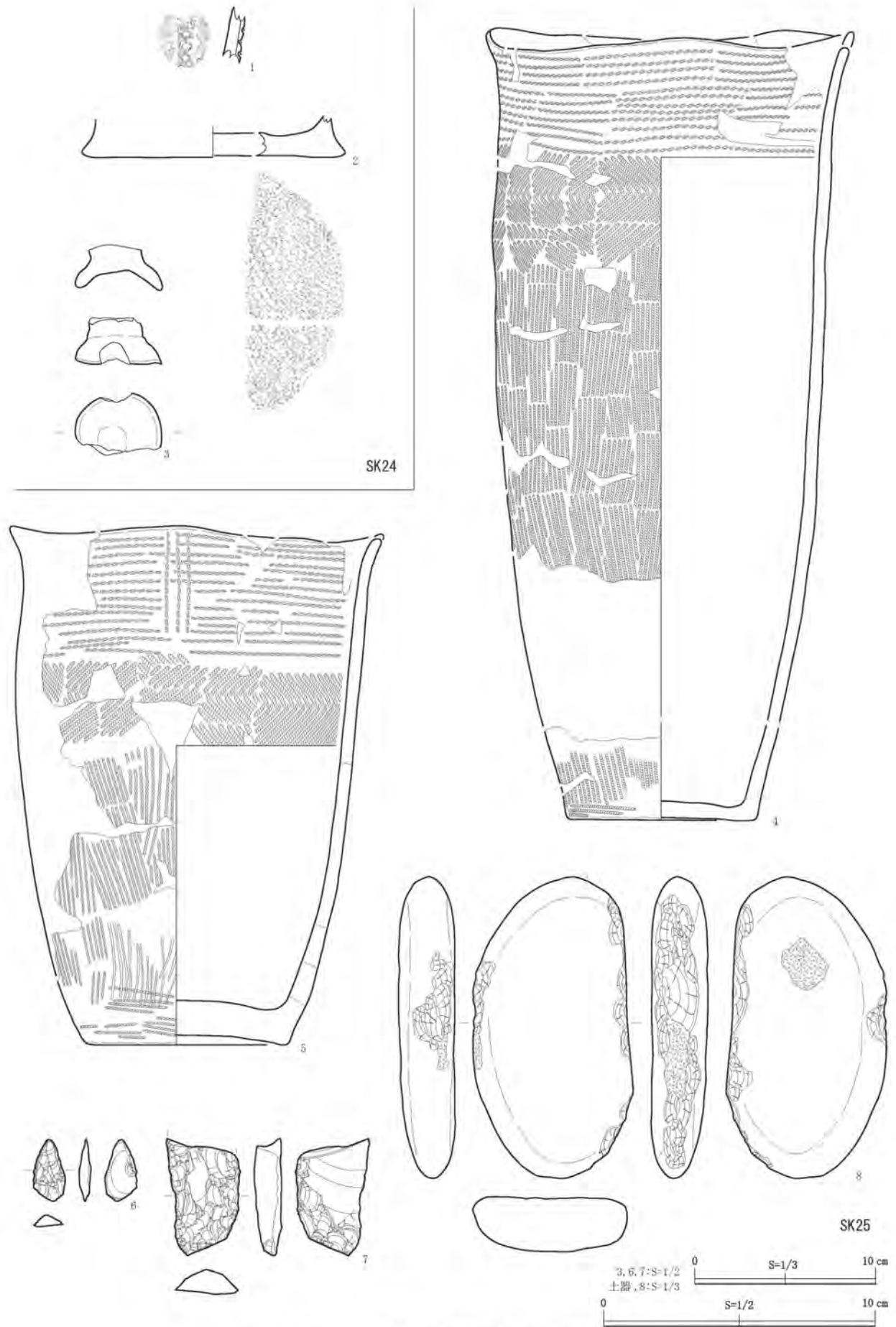
SK22



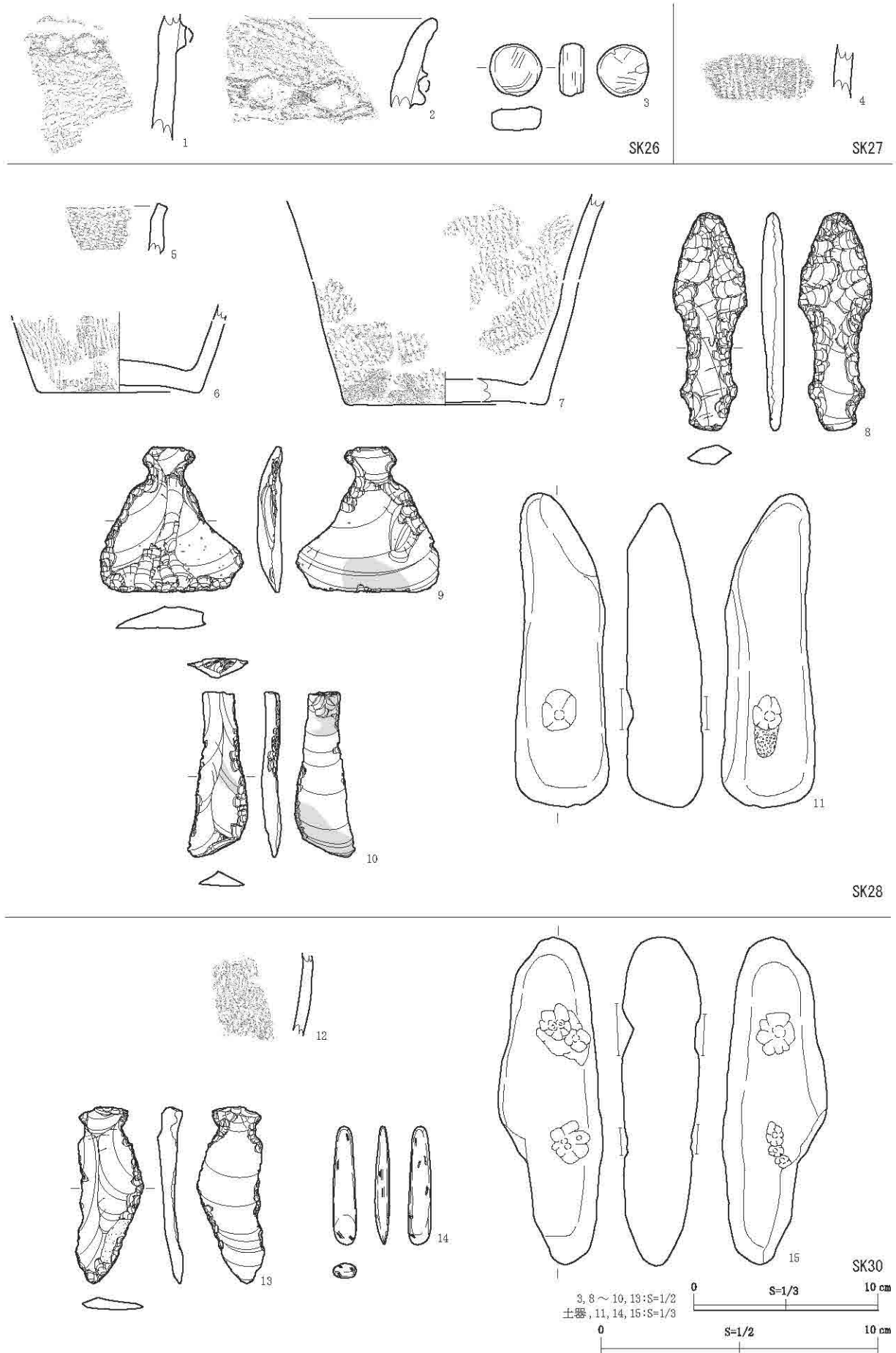
SK23

3 ~ 5, 7: S=1/2
土器, 1, 2, 8 ~ 11: S=1/3

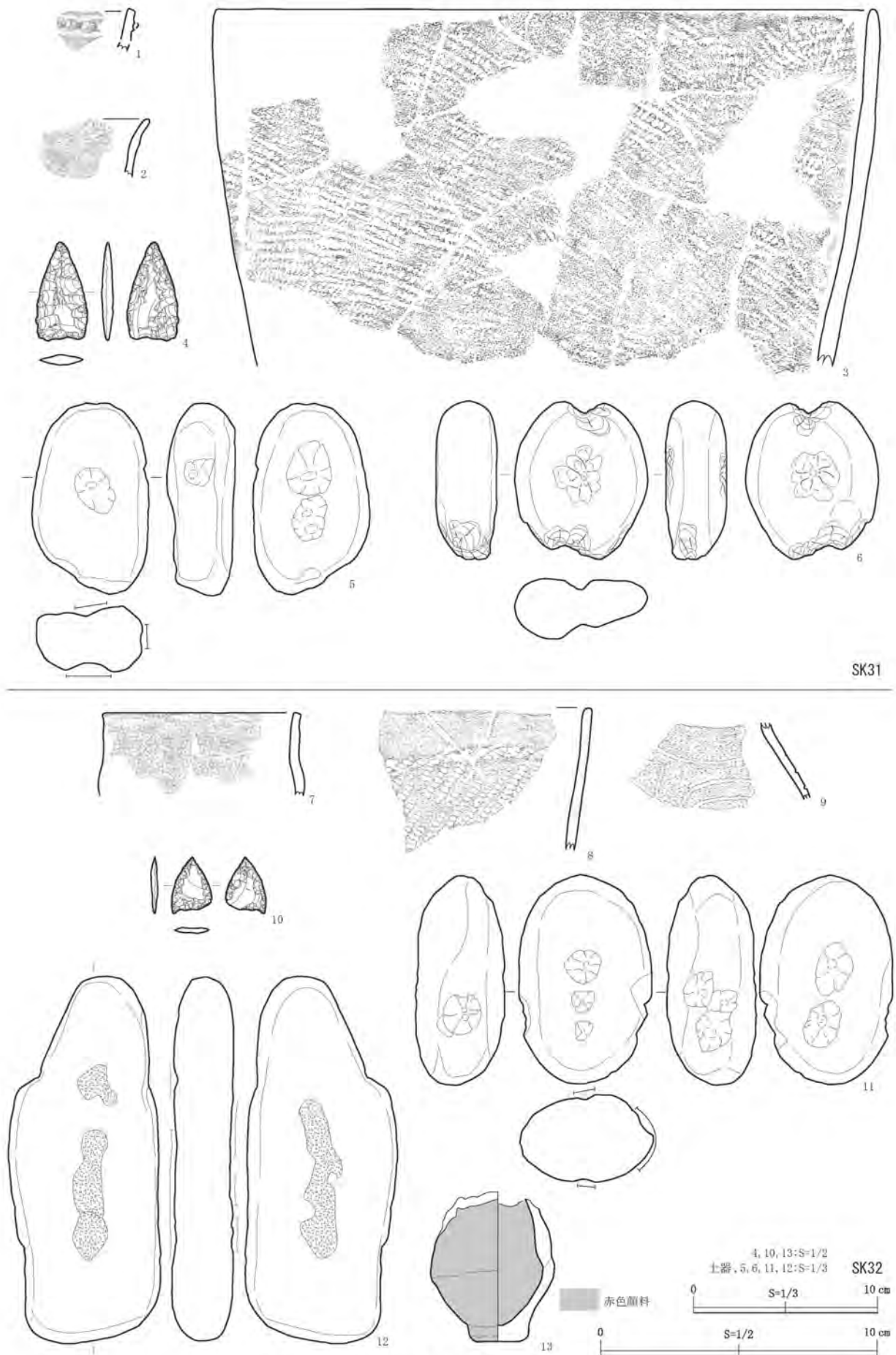
第134図 遺構内出土遺物74 (SK21~SK23)



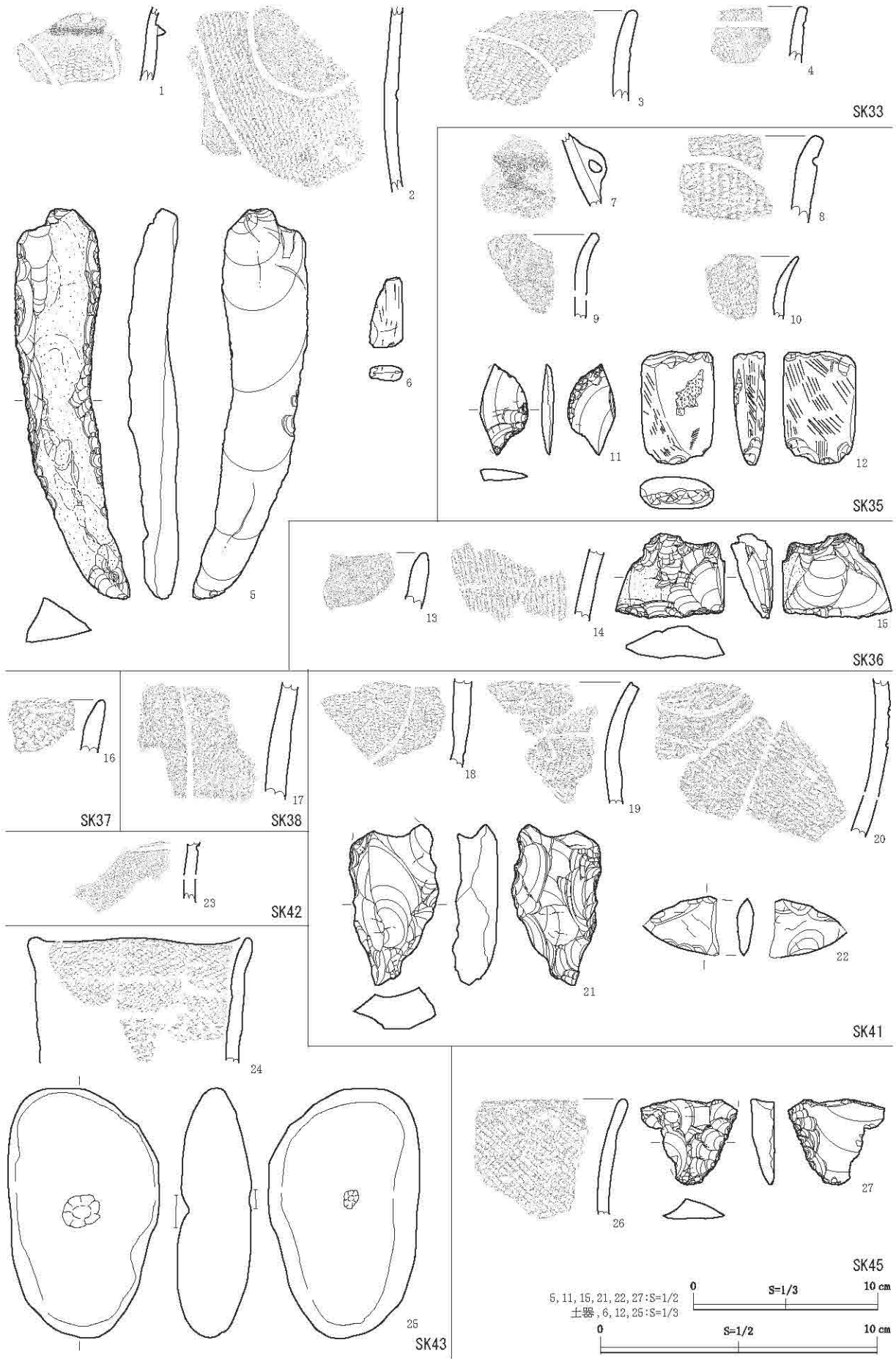
第135図 遺構内出土遺物75 (SK24, SK25)



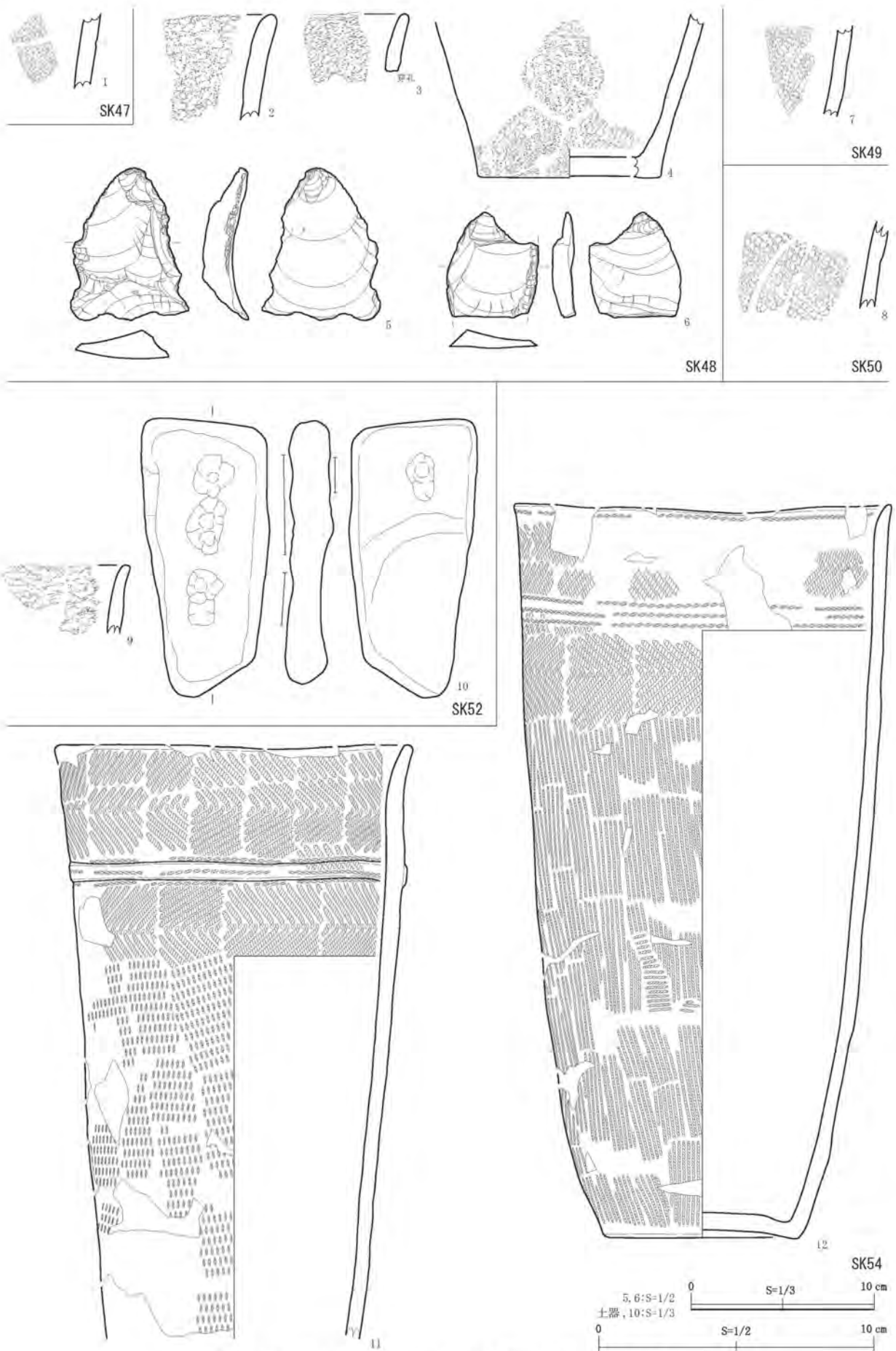
第136図 遺構内出土遺物76 (SK26~SK28, SK30)



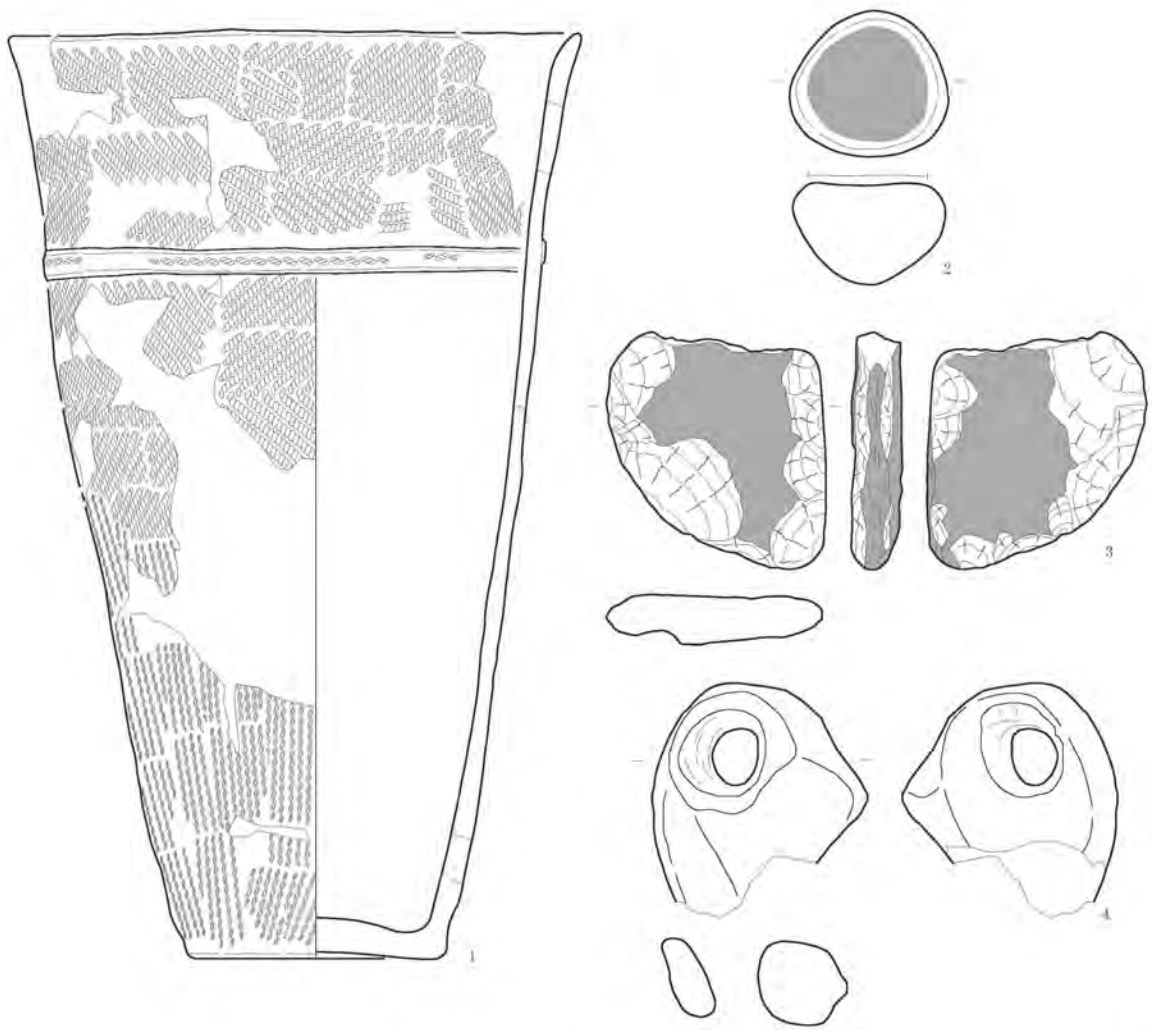
第137図 遺構内出土遺物77 (SK31, SK32)



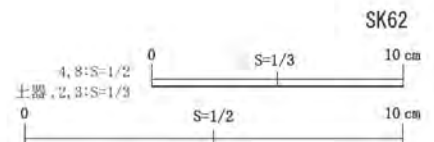
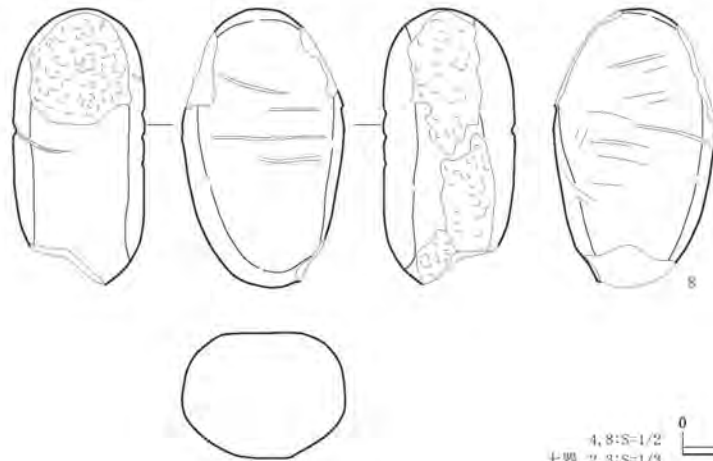
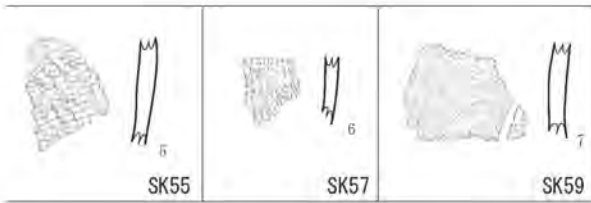
第138図 遺構内出土遺物78 (SK33, SK35~SK38, SK41~SK43, SK45)



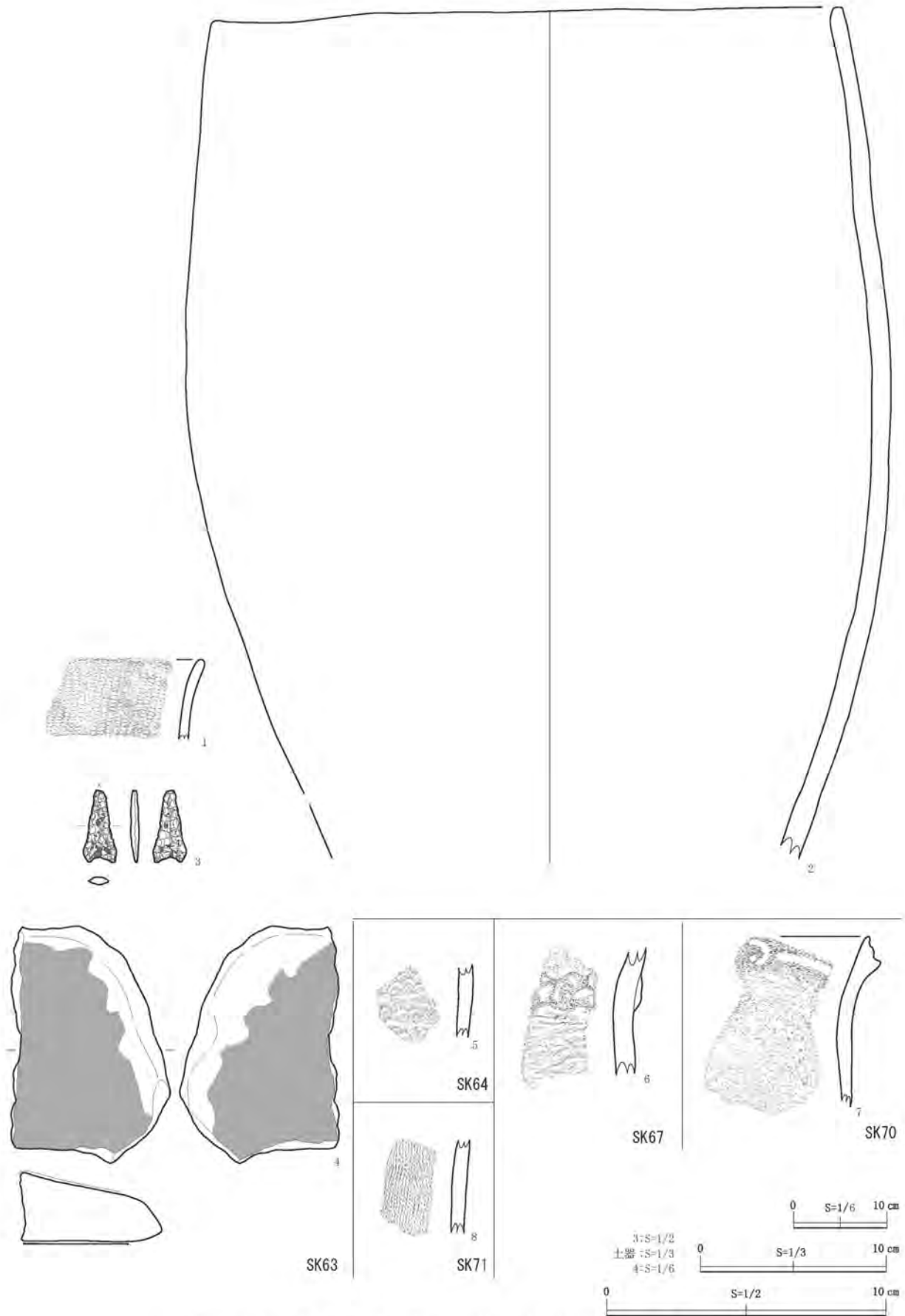
第139図 遺構内出土遺物79 (SK47~SK50, SK52, SK54)



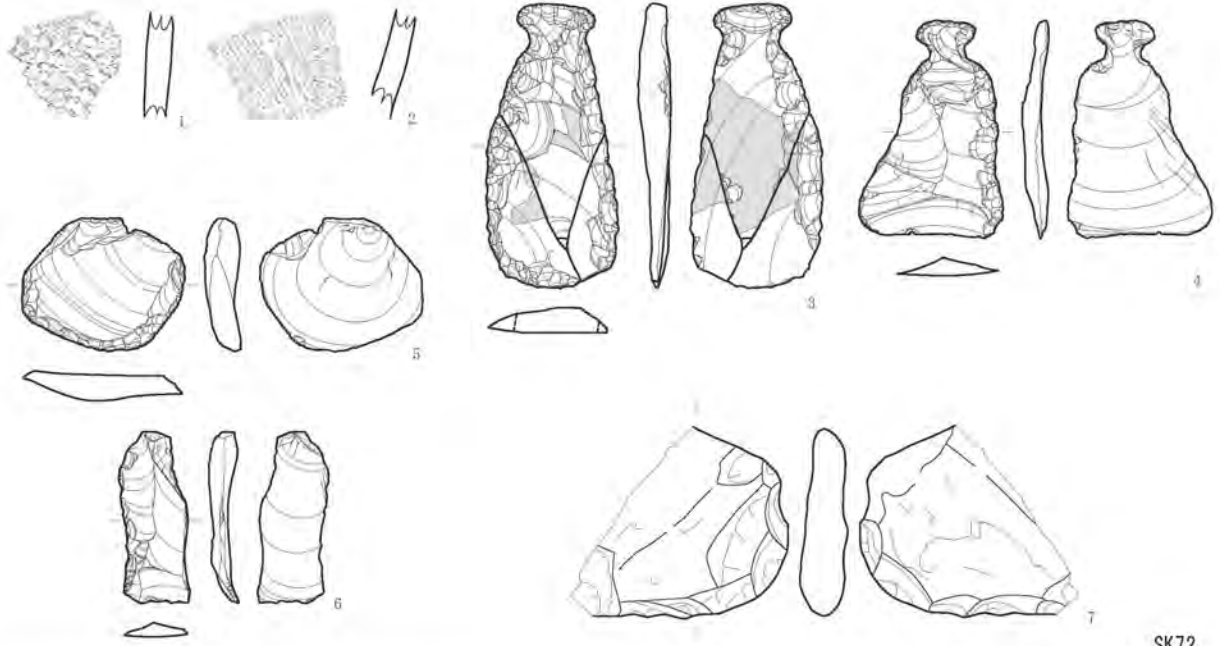
SK54



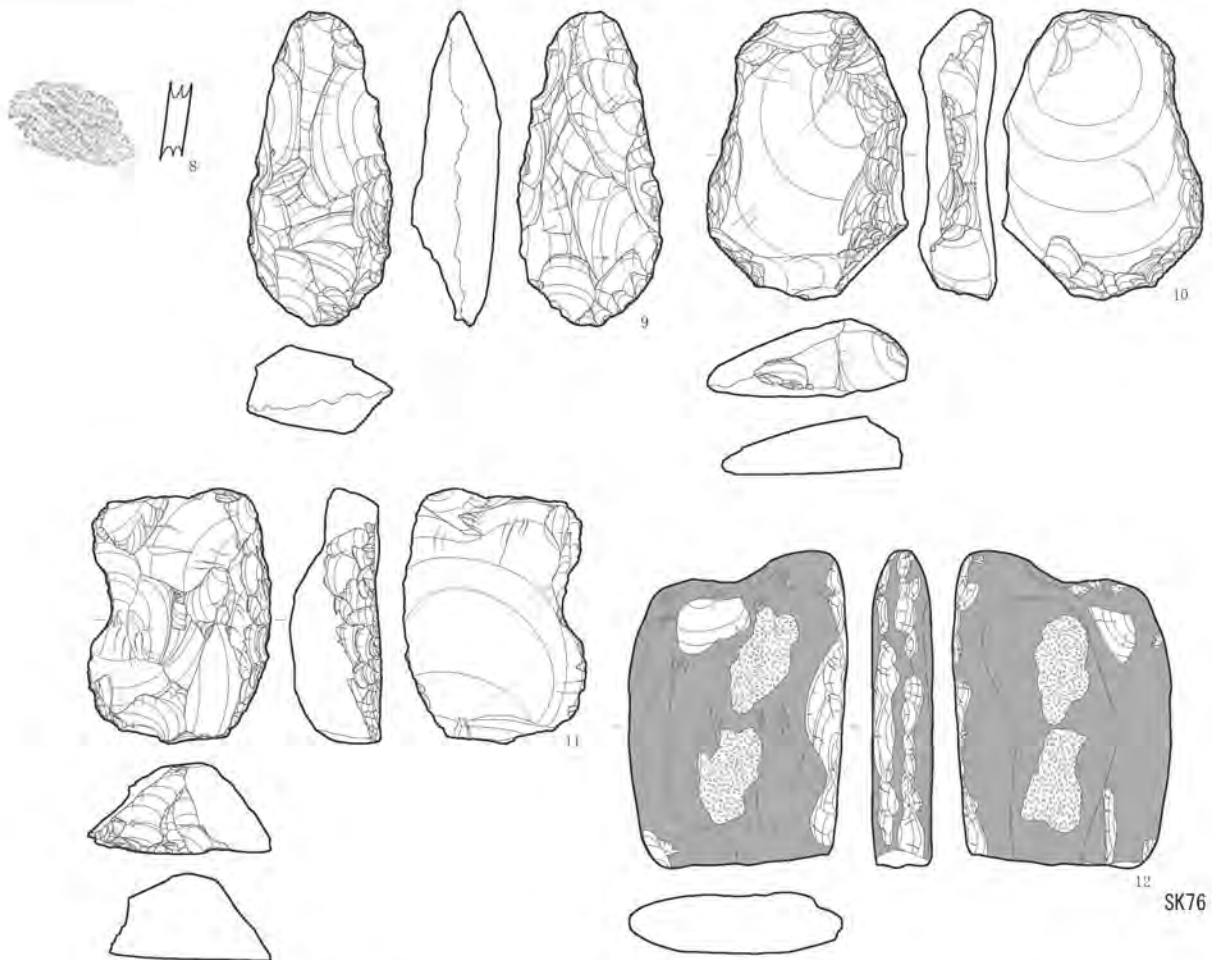
第140図 遺構内出土遺物80 (SK54, SK55, SK57, SK59, SK62)



第141図 遺構内出土遺物81 (SK63, SK64, SK67, SK70, SK71)



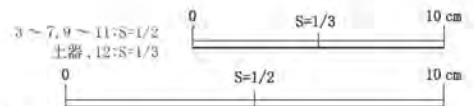
SK72



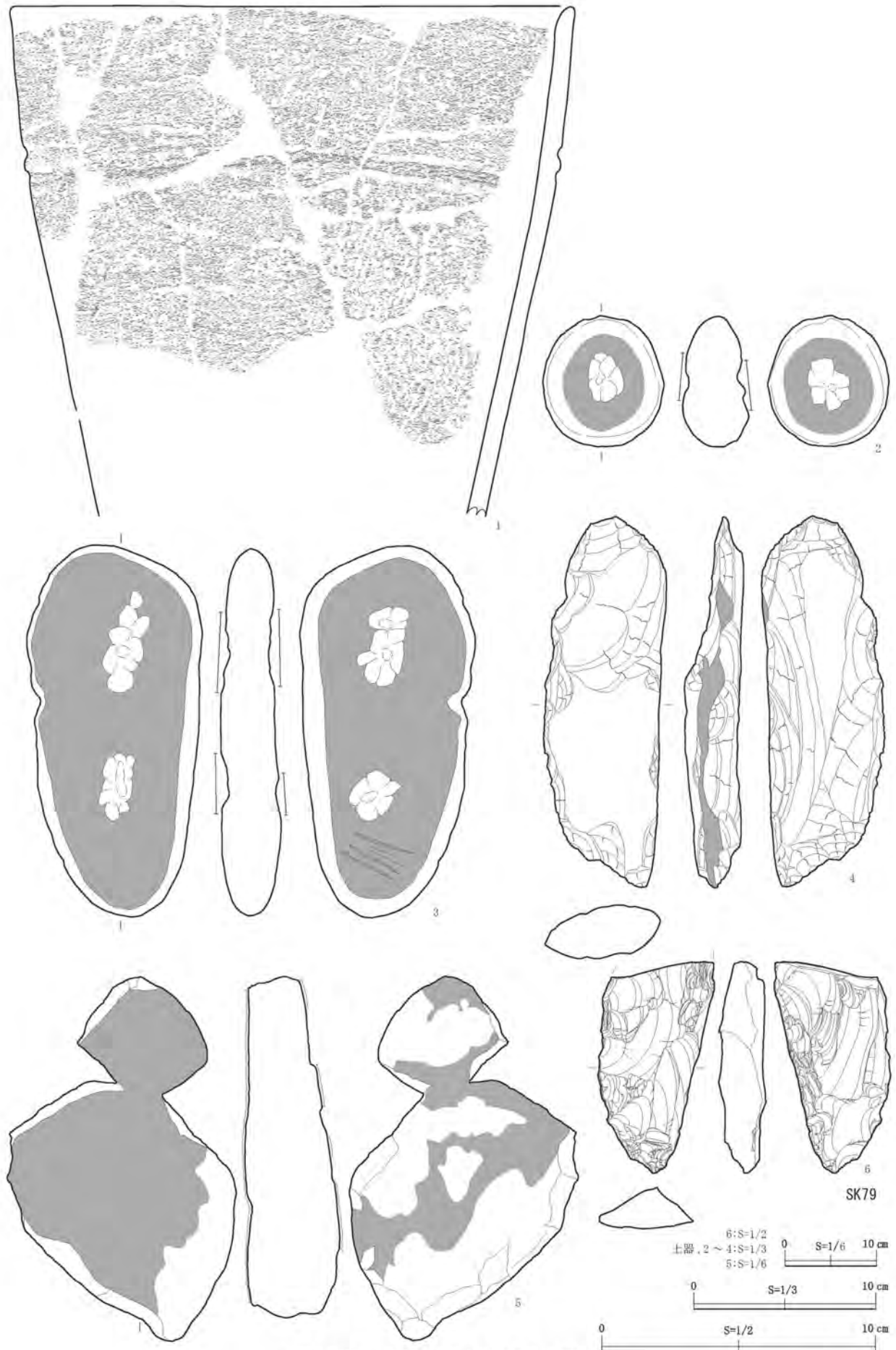
SK76



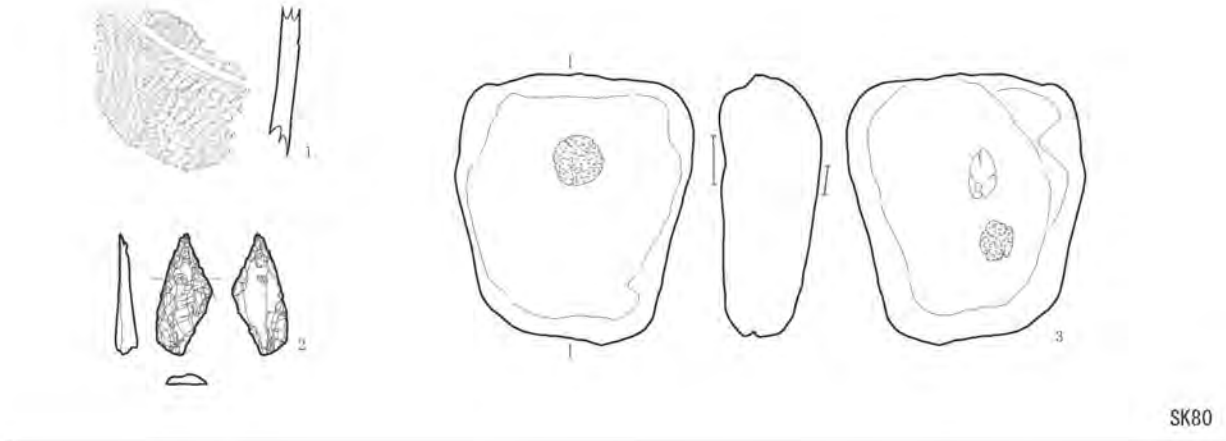
SK77



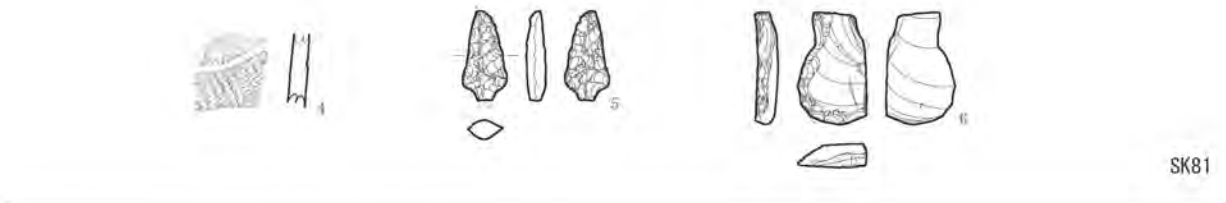
第142図 遺構内出土遺物82 (SK72, SK76, SK77)



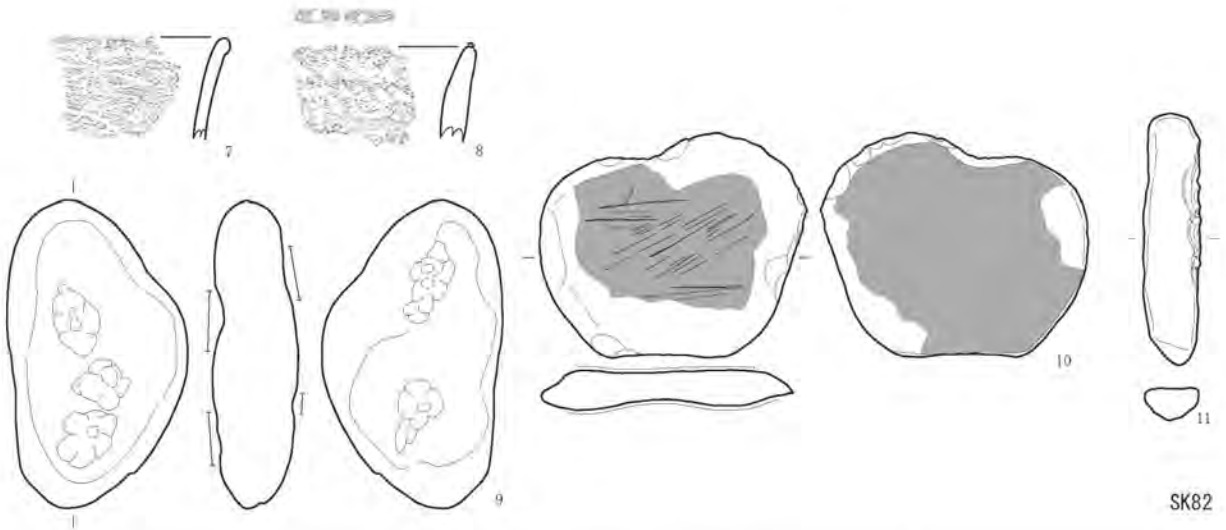
第143図 遺構内出土遺物83 (SK79)



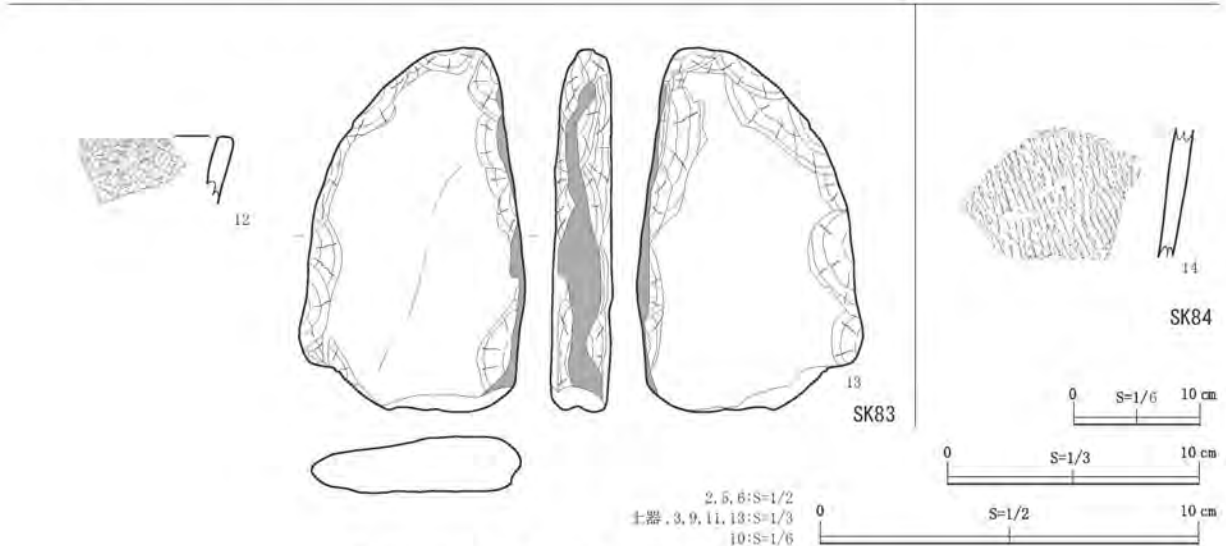
SK80



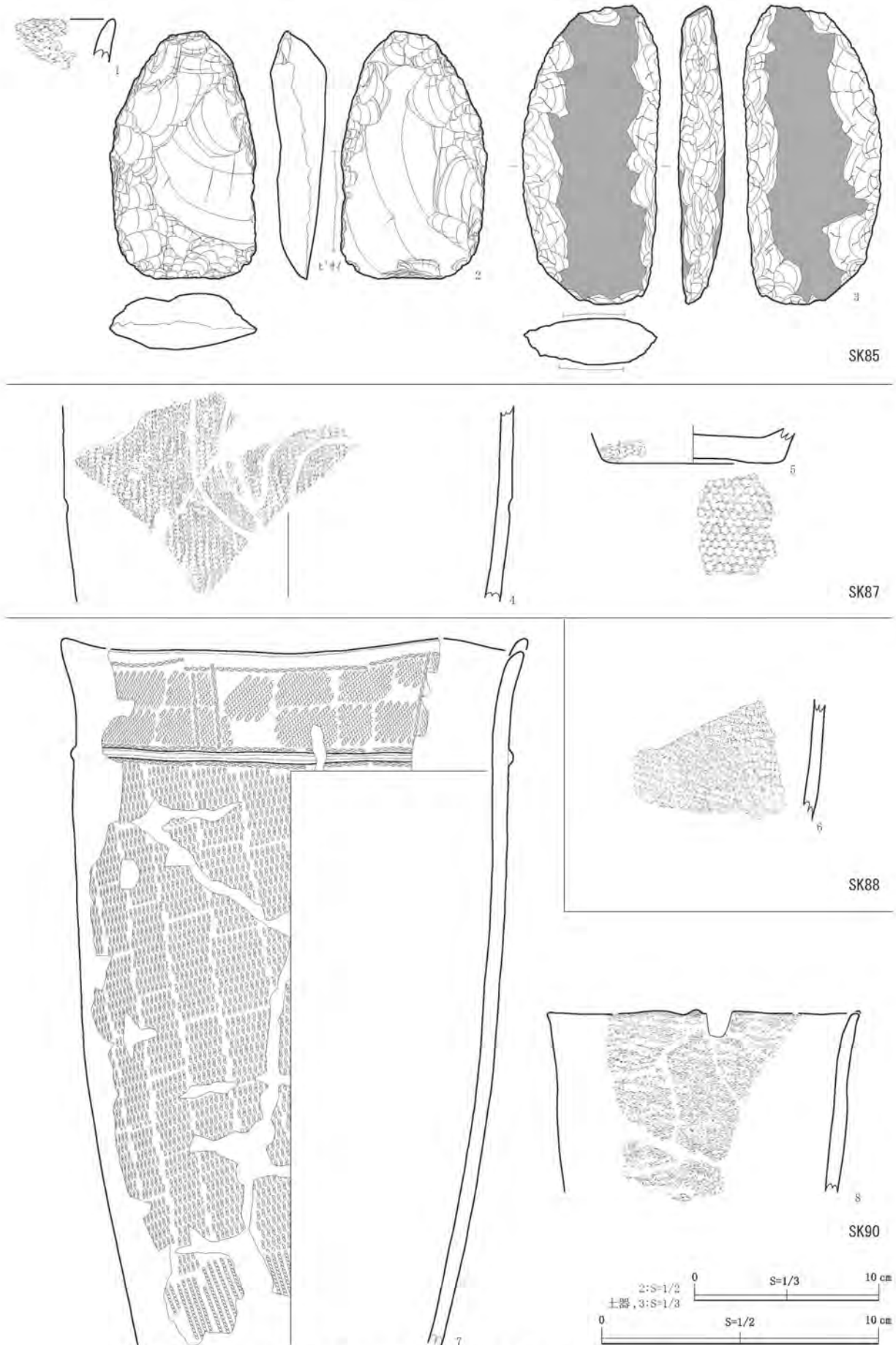
SK81



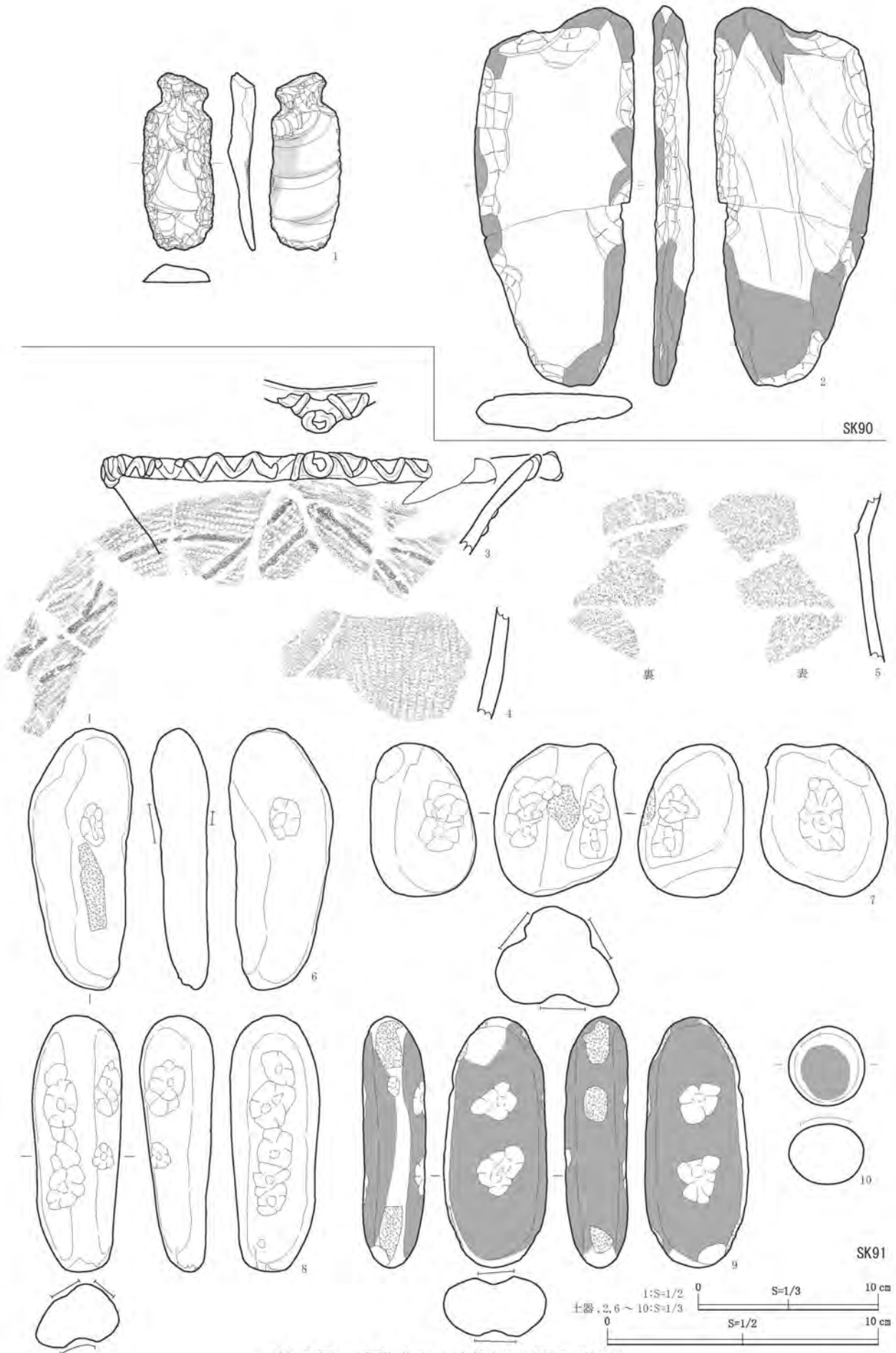
SK82



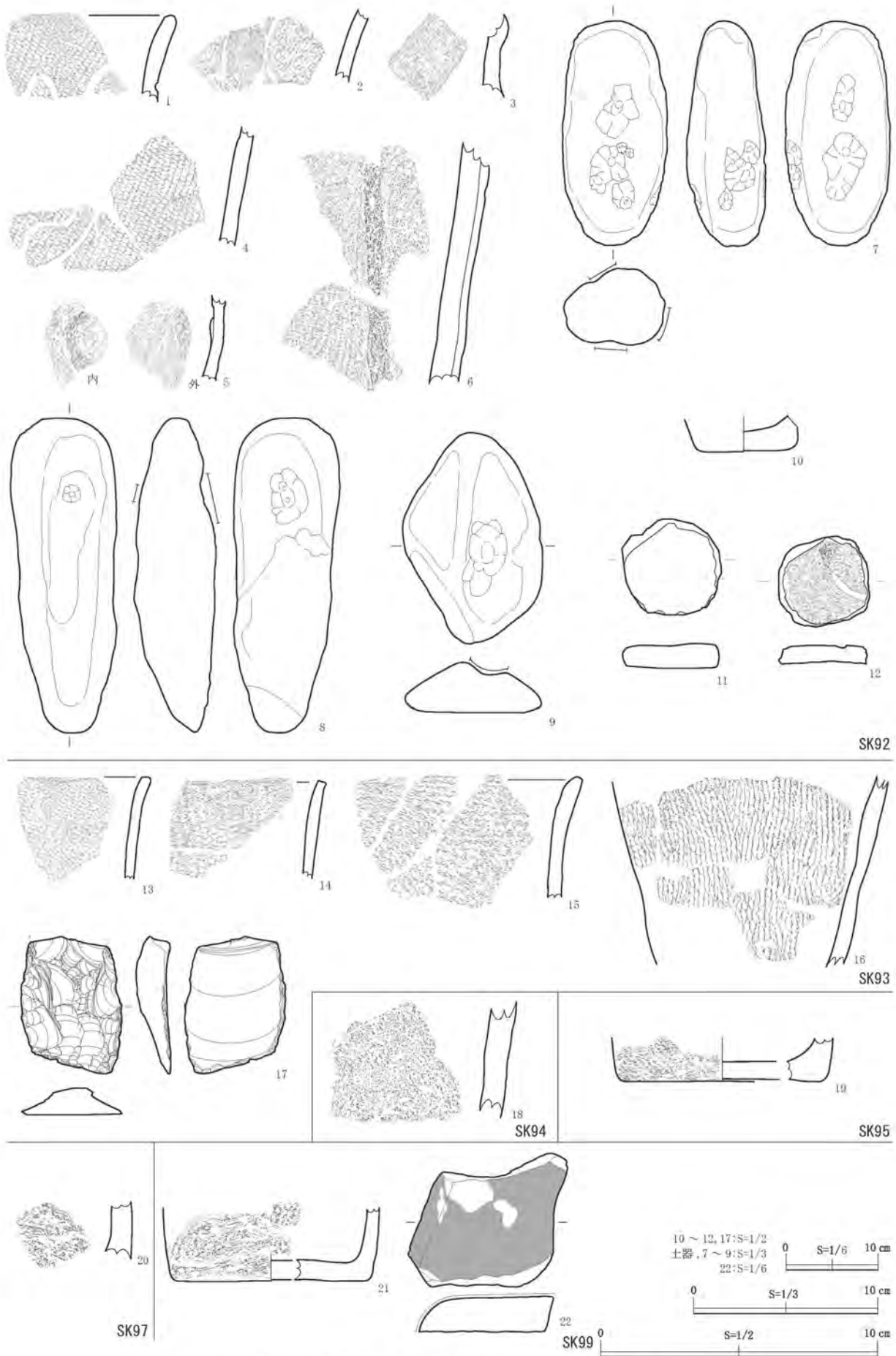
第144図 遺構内出土遺物84 (SK80~SK84)



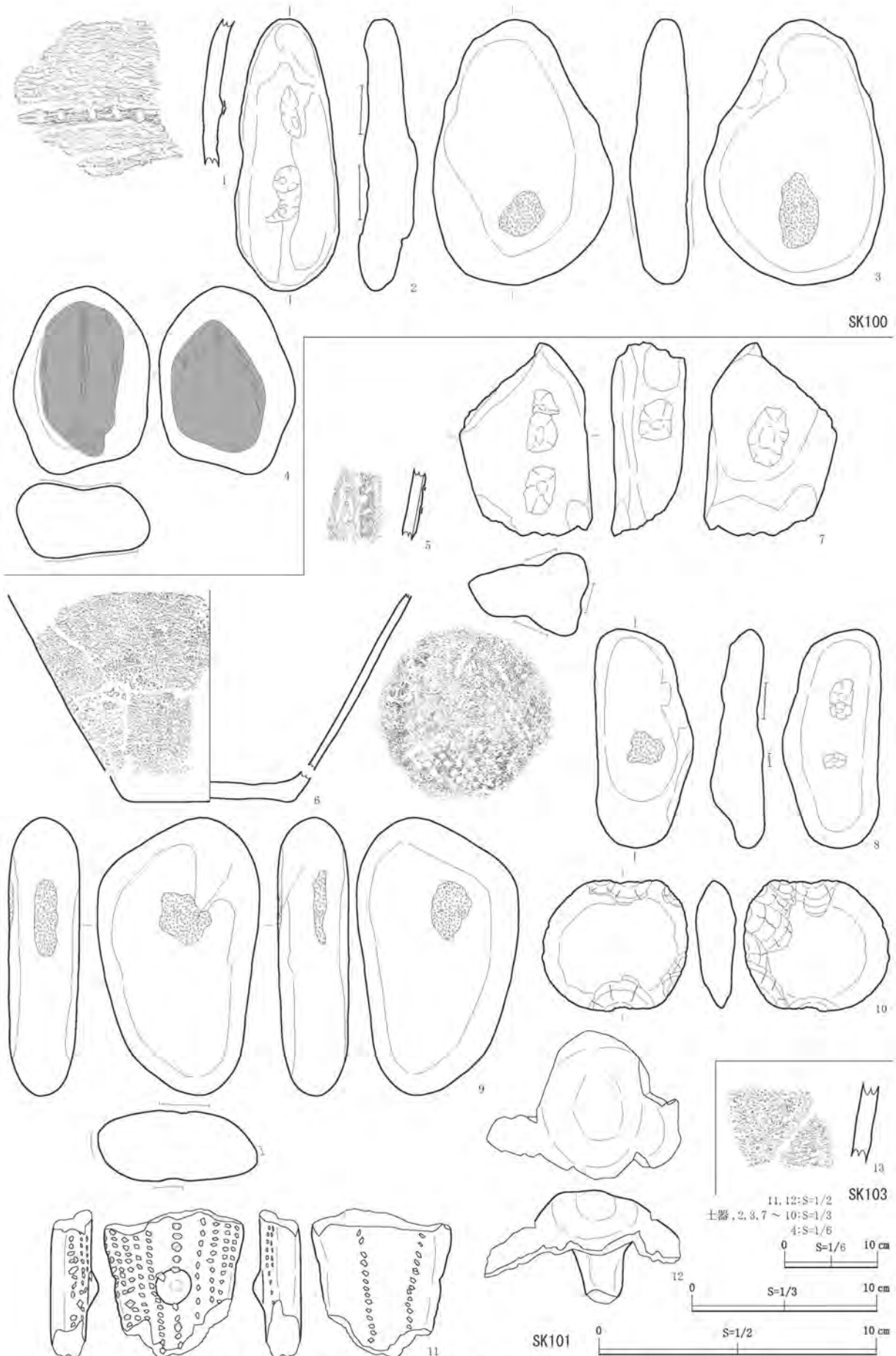
第145図 遺構内出土遺物85 (SK85, SK87, SK88, SK90)



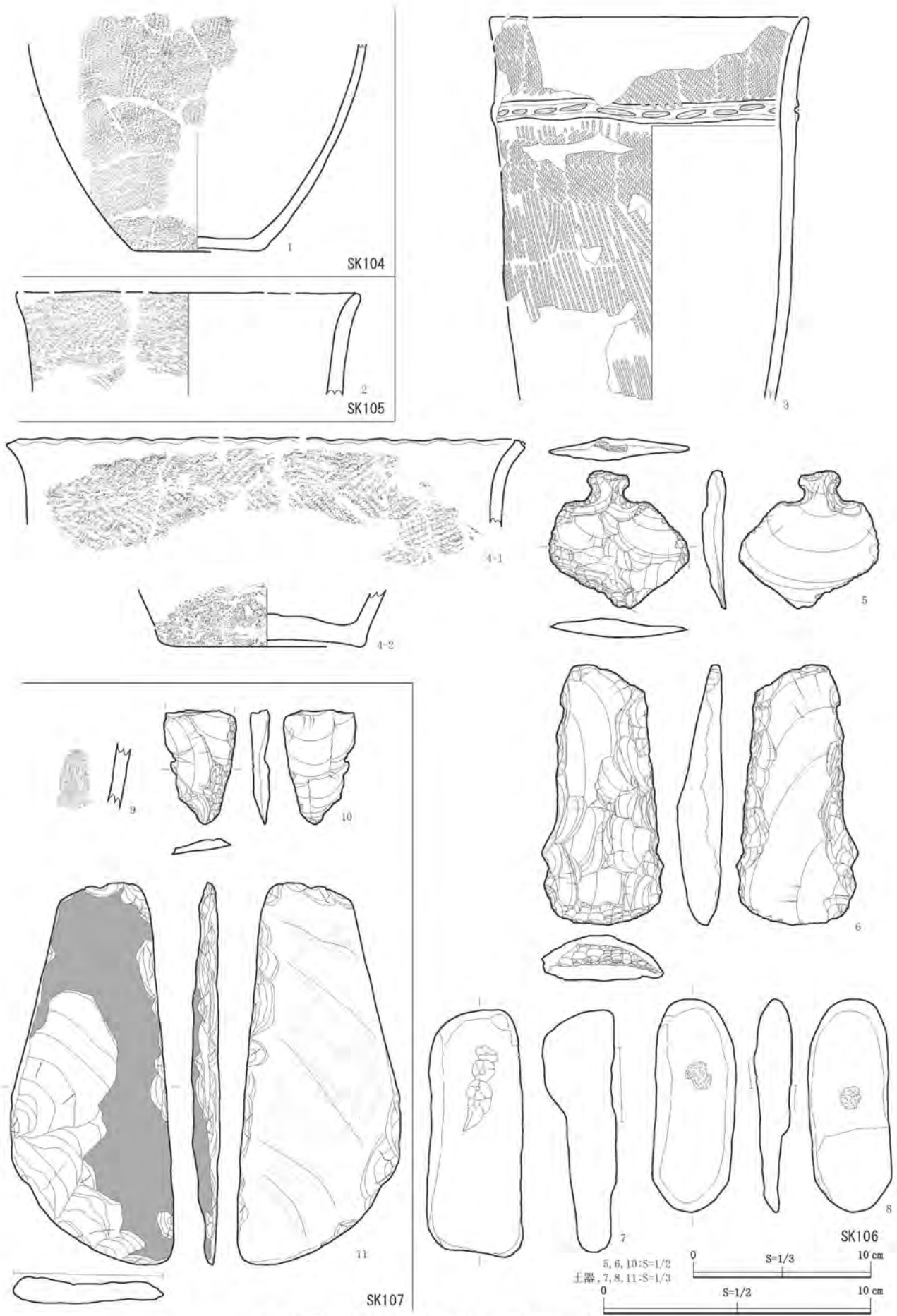
第146図 遺構内出土遺物86 (SK90, SK91)



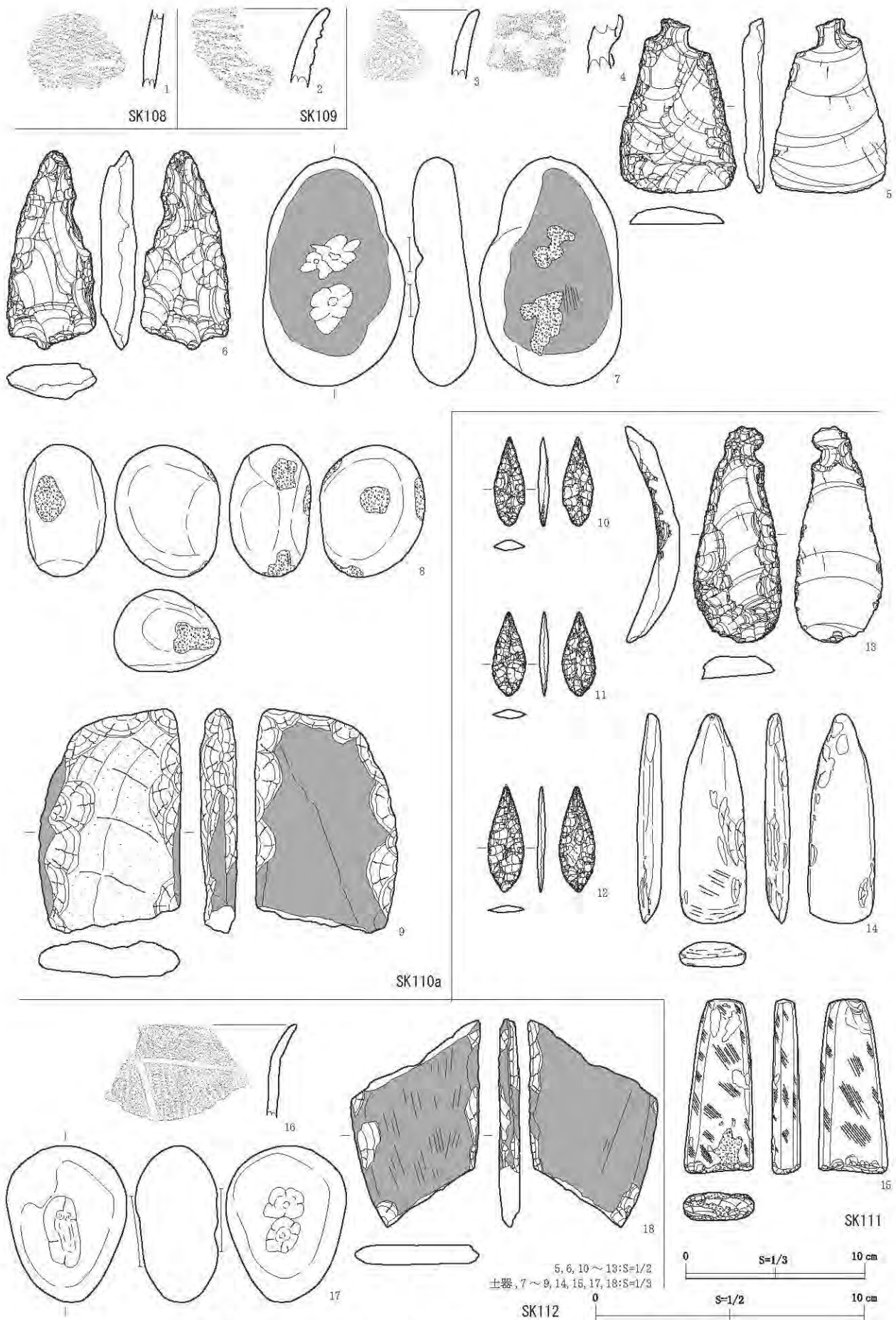
第147図 遺構内出土遺物87 (SK92~SK95, SK97, SK99)



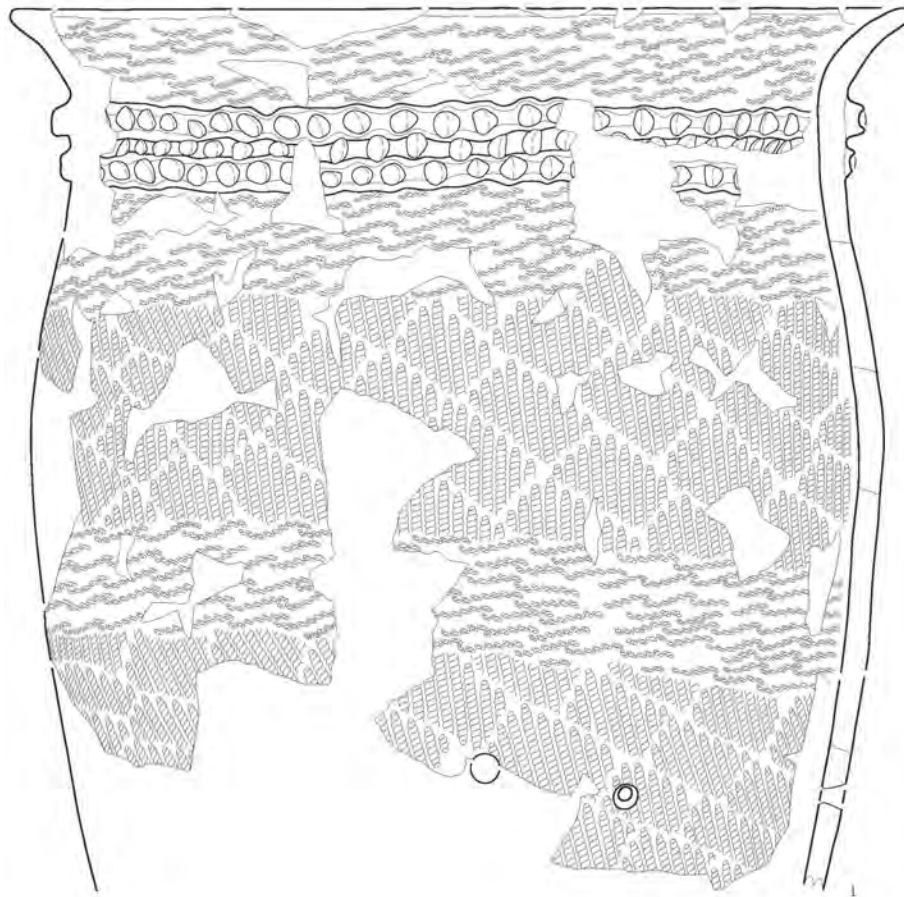
第148図 遺構内出土遺物88 (SK100, SK101, SK103)



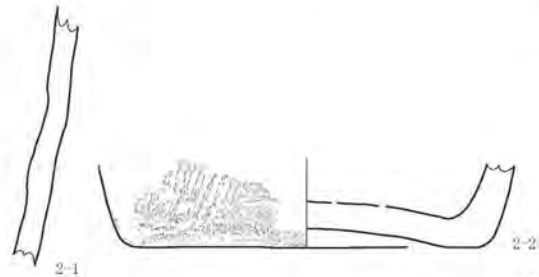
第149図 遺構内出土遺物89 (SK104~SK107)



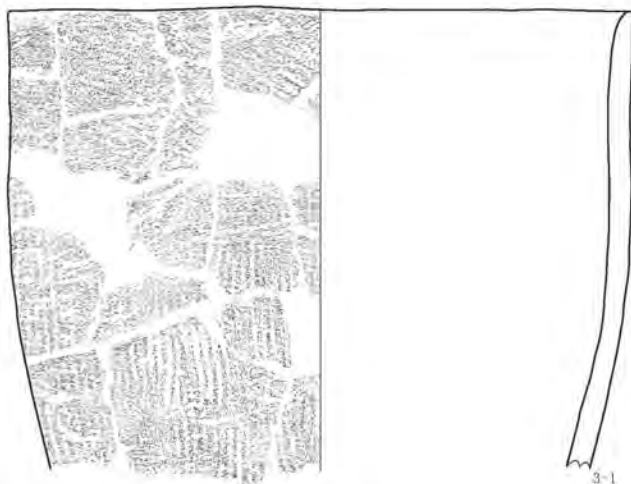
第150図 遺構内出土遺物90 (SK108, SK109, SK110a~SK112)



SN16



SR2



3-1

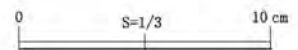


SR11

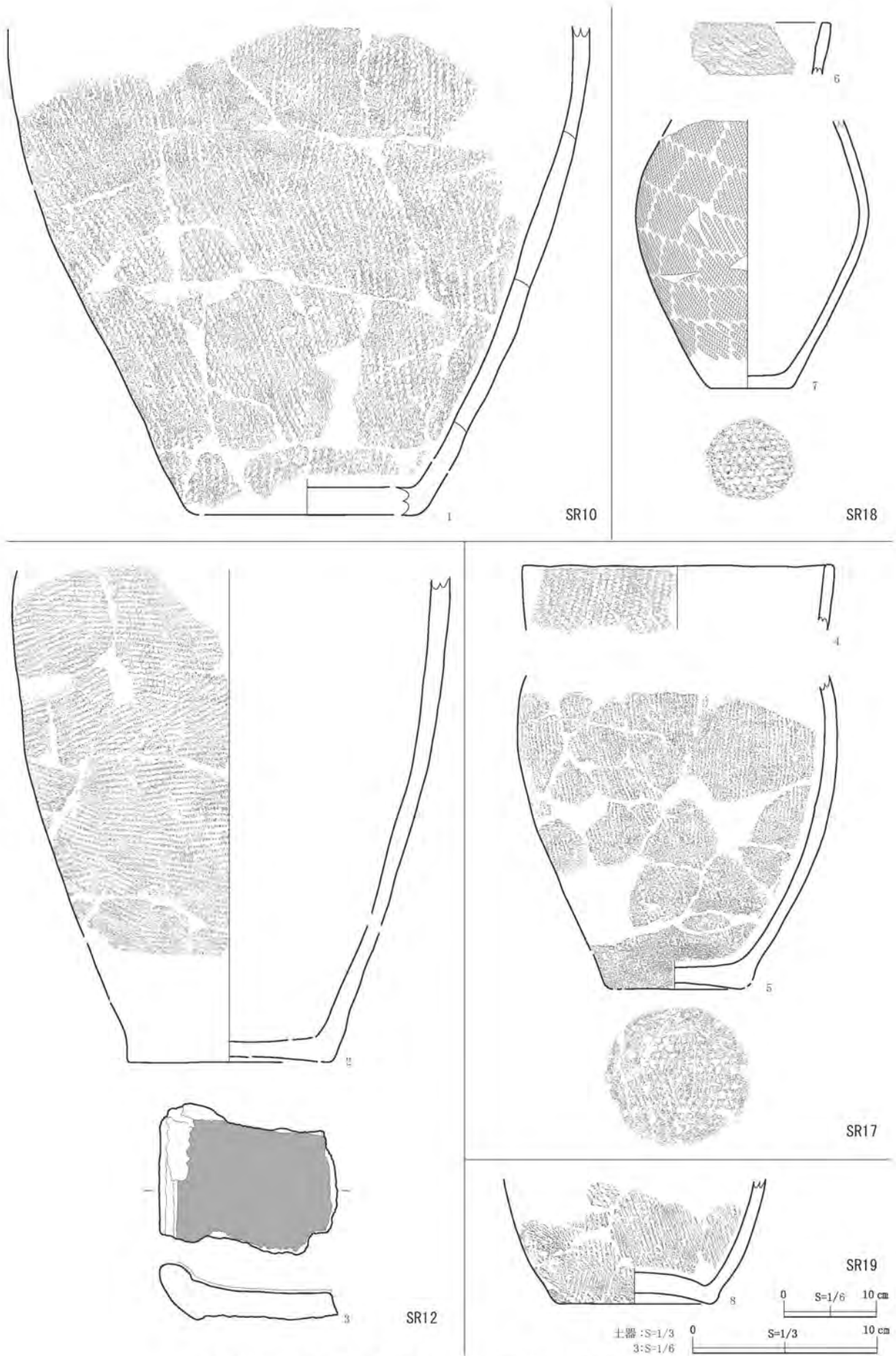


3-2

SR6



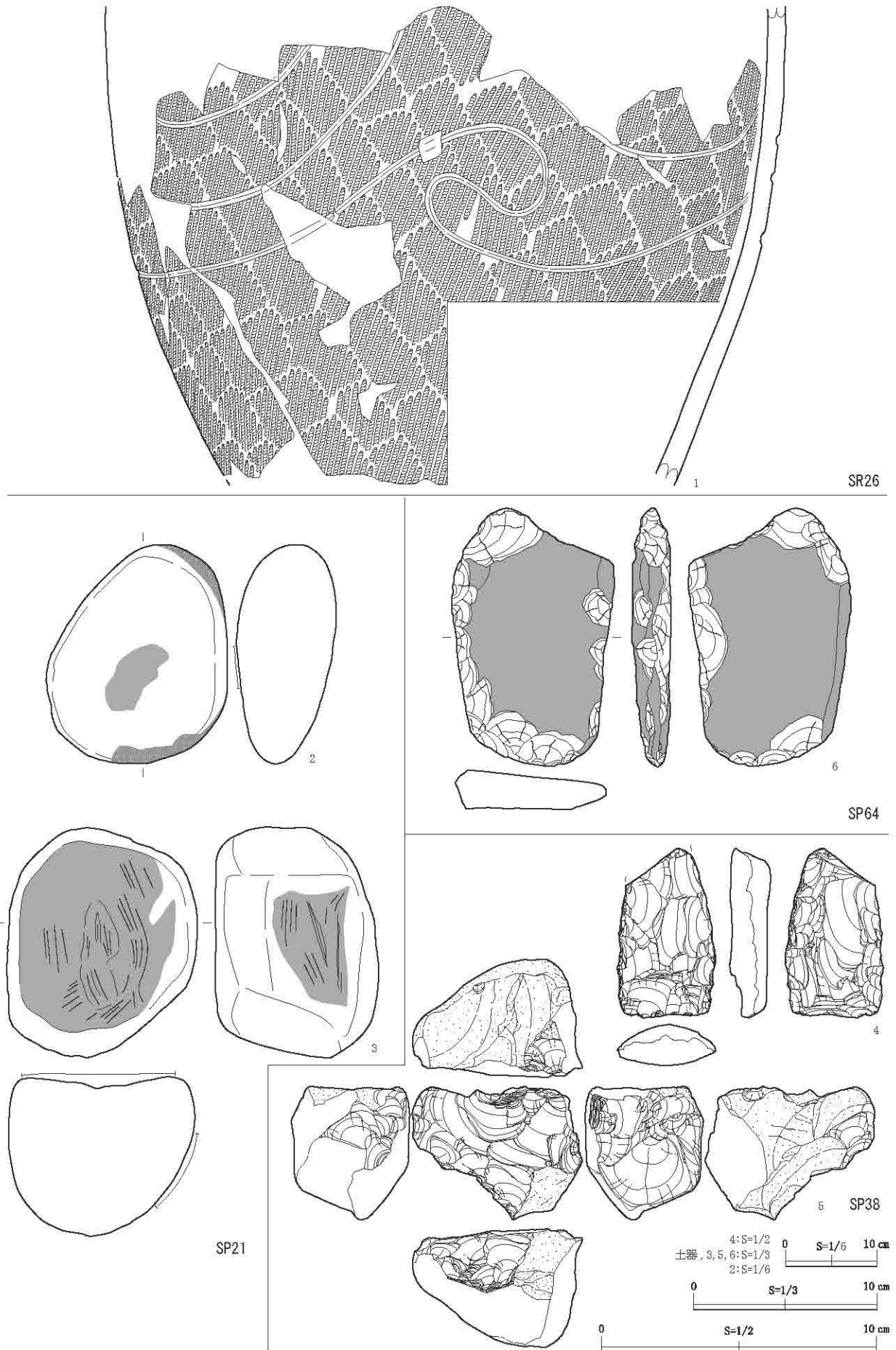
第151図 遺構内出土遺物91 (SN16, SR2, SR6, SR11)



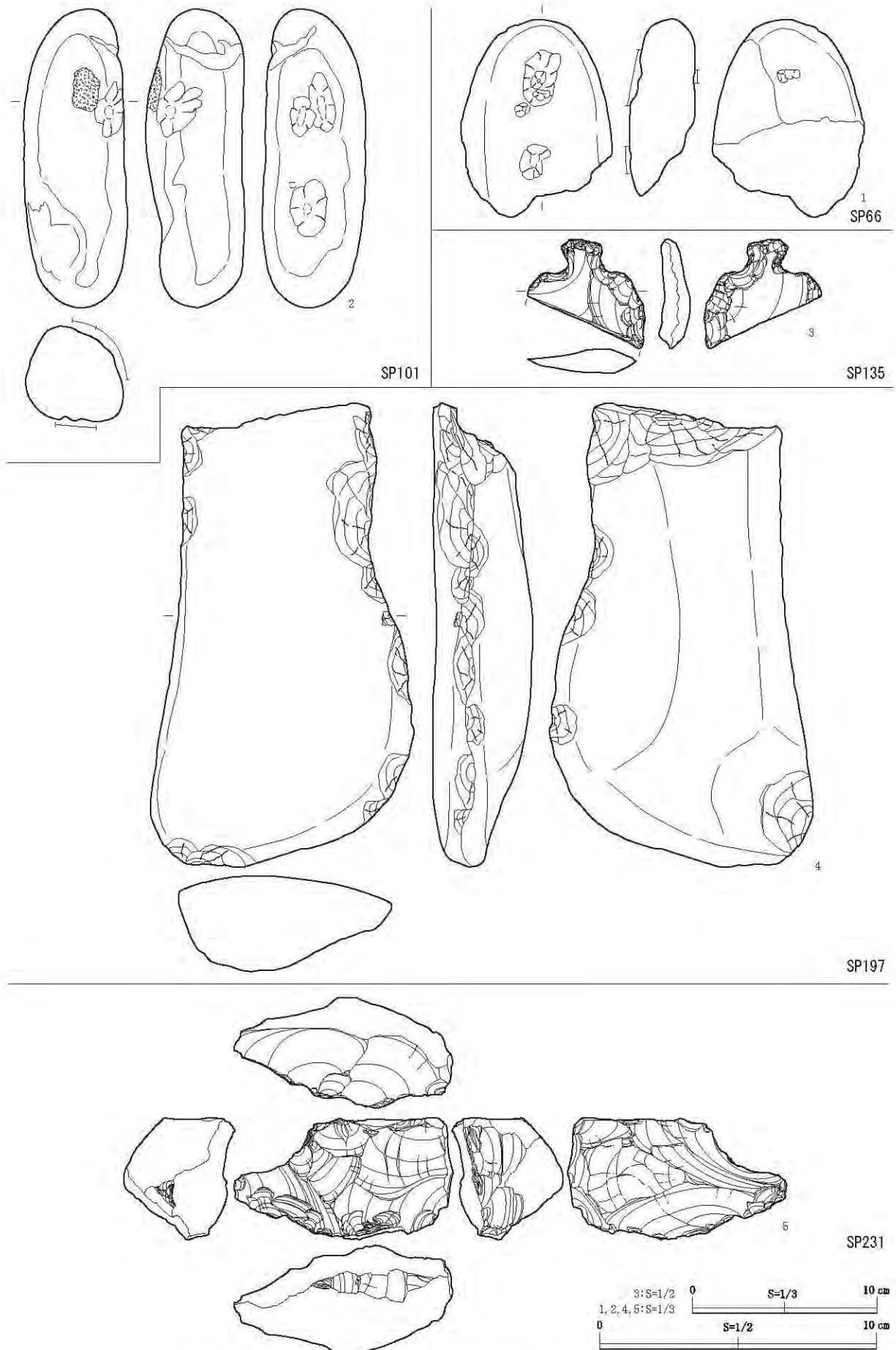
第152図 遺構内出土遺物92 (SR10, SR12, SR17~SR19)



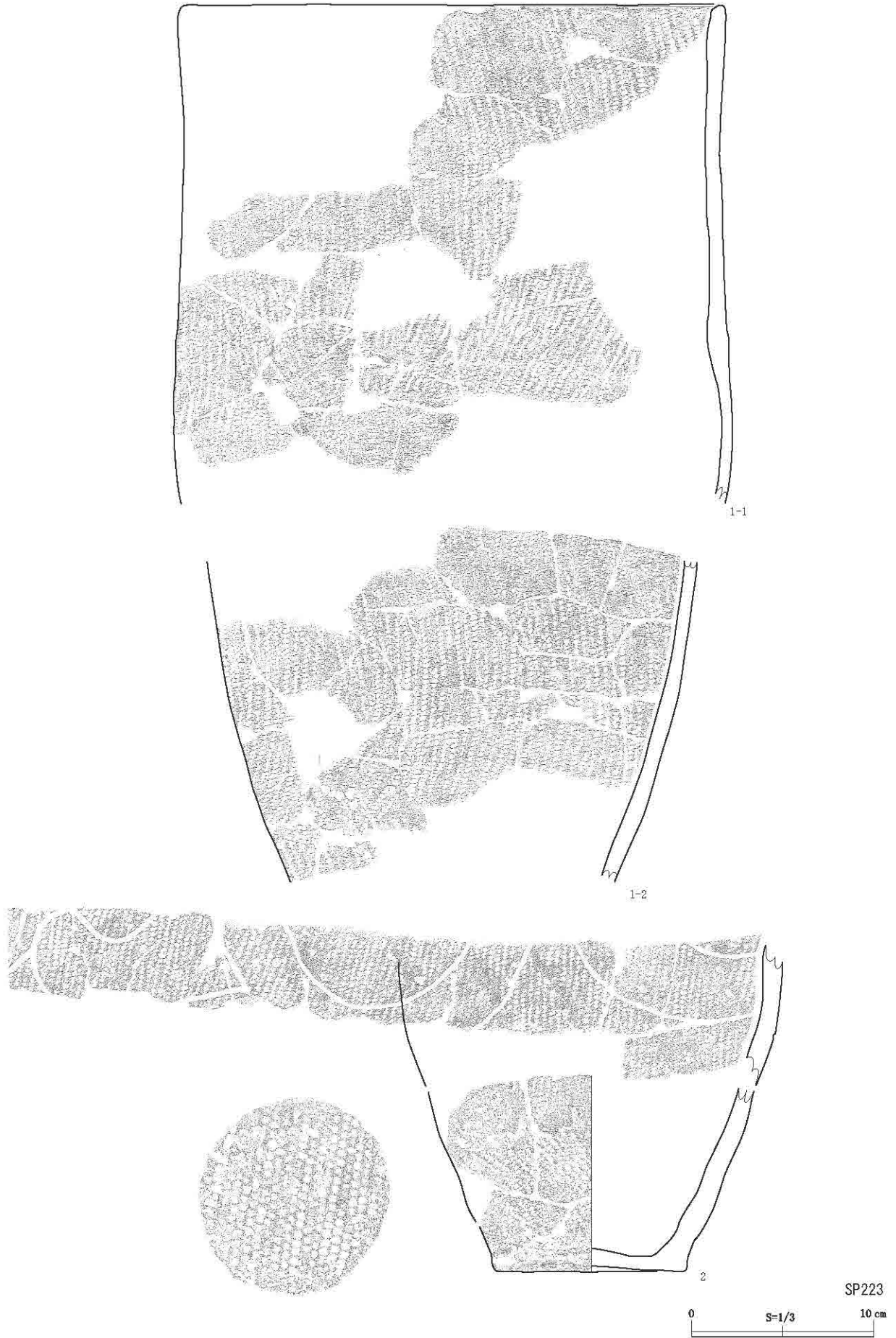
第153図 遺構内出土遺物93 (SR22, SR24, SR25, SR27)



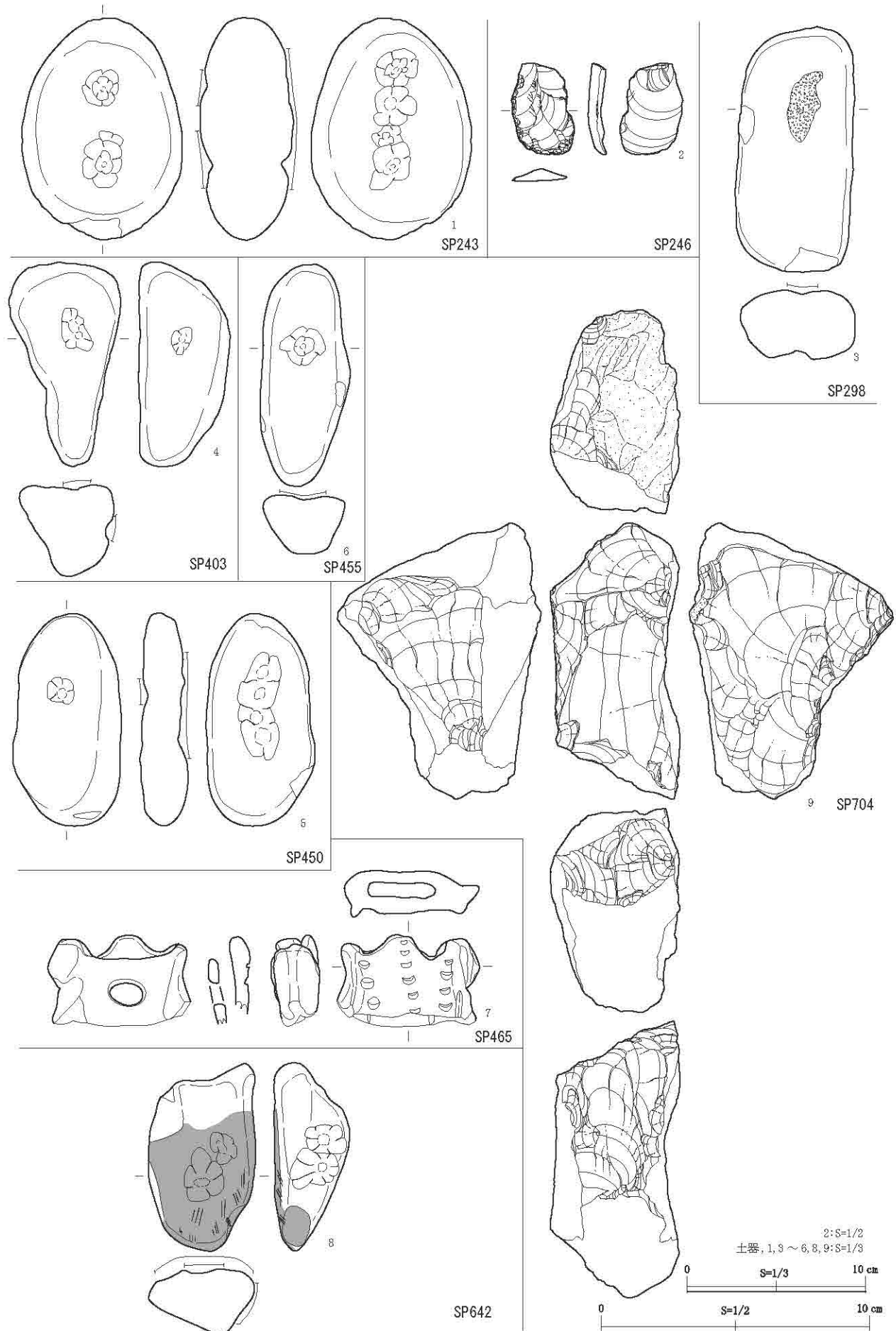
第154図 遺構内出土遺物94 (SR26, SP21, SP38, SP64)



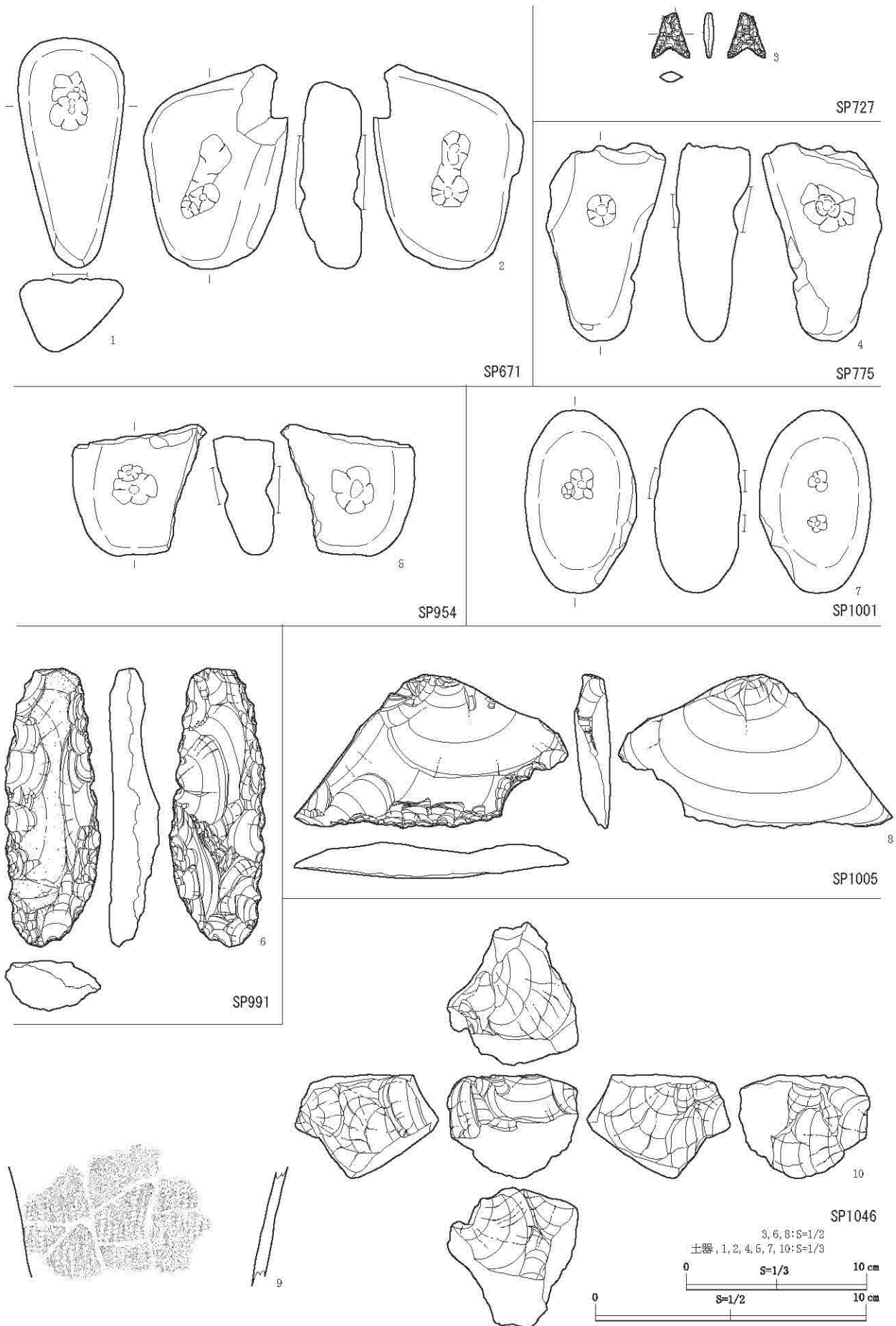
第155図 遺構内出土遺物95 (SP66, SP101, SP135, SP197, SP231)



第156図 遺構内出土遺物96 (SP223)



第157図 遺構内出土遺物97 (SP243, SP246, SP298, SP403, SP450, SP455, SP465, SP642, SP704)



第158図 遺構内出土遺物98 (SP671, SP727, SP775, SP954, SP991, SP1001, SP1005, SP1046)

7 捨場

(遺構第159～161図、遺物第162～235図、遺構写真93～96、遺物写真130～155)

[位置] IIIH～III V74～79グリッド付近に位置する。調査区南部の尾根状地形から、調査区北～中央部の緩斜面に変換する北東向きの斜面に形成される。斜面の高低差は約6m、斜度は約20°である。

[確認状況] 表土除去の際に表土直下より遺物の出土が多く、捨場の存在を想定しながら包含層を掘り下げたところ、多量の遺物が出土したことから、捨場と認定した。調査時には、遺物の出土が顕著なIIIH～III N76～79グリッド付近を限定的に捨場と捉えていたが、遺物整理時にグリッド毎の土器出土量を検討したところ、上記のグリッドの他にもIII U77 (SI22 上面) 付近に小規模なピークがあることが明らかとなった。この地点は、遺物の出土状況や堆積土の様相が捨場と類似することが、調査時点で既に把握されており、改めて斜面全体の土器出土量を検討した結果、調査時に捨場と捉えていたIIIH～III N76～79グリッド付近と、小規模なピークであるIII U77グリッドの間でも比較的土器の出土量が多いことから、最終的に1グリッドあたり10kgを超える土器が出土した範囲を捨場と認定した。

なお、捨場と認定した範囲内には、近現代と思われる攪乱が複数存在する。これらの攪乱については、現地の土が攪拌・造成されたものと判断されたことから、攪乱から出土した出土遺物についても、本来は捨場に属するものと捉え、捨場出土遺物として扱っている。ただし、捨場の形成時期が縄文時代前期と推定されることから、攪乱出土の中期の土器は遺構外出土とした。

[重複関係] 縄文時代前期中葉の竪穴建物跡であるSI22、SI59、SI60、SI66は、上面に捨場形成土が堆積することから、捨場より古い。捨場と同時期に捨場内に構築される遺構は認められない。

[規模] 捨場はIII HラインからIII Vラインの間に形成されるが、前述のとおり、III H～III N76～79グリッド付近と、III U77グリッドにピークがあることから、前者を捨場南部、後者を捨場北部とする。

捨場南部は約550㎡で、南北幅は約50mにわたる。土器出土量のピークが調査区際であり、斜面地形が調査区外に続くことから、捨場は南方向に一定程度の範囲で広がるものと推定される。遺物はIII M77、III L78、III K～III I77グリッドで顕著に出土し、1グリッドあたりの土器出土量は120kgを超える。その周囲でも土器出土量が60kgを越えるグリッドが多く、多量の遺物が捨てられた状況が看取できる。III Pラインより以北は遺物の出土が減少するものの、捨場北部に連続して遺物の出土が認められる。捨場北部は約220㎡で、南北幅は約10mである。捨場南部と比較して遺物出土量は少なく、最も多く土器が出土したIII U77グリッドで80kgである。

[堆積土] 堆積土は概ねIII Oラインを境に様相が異なる。III Oライン以南の堆積層はI層、II層、II a層、II b層、III-1層、III-2層、IV層、V層に分層される(第161図土層断面A～D)。I層は表土、II層は斜面肩部に堆積する黒褐色土、II a層とII b層は捨場堆積土である。III-1層とIII-2層は縄文時代早期の土器を含む均質な黒色土、IV～V層は地山漸移層である。

捨場堆積層であるII a層は、VII層土を基質とする暗褐色土である。III J～III N77～79グリッド付近の約100㎡の範囲に堆積する(第159図)。なお、調査時にはIII H・III I77・78のII a層類似層についてもII a層として遺物を取り上げたが、III J～III N77～79グリッド付近のII a層と比較して、黒味が強いなど、層相が異なる。このためIII J～III N77～79グリッド付近のII a層と区別し、III H・III I77・78グリッドのII a層についてはII a'層として報告する。出土遺物の時期を勘案すれば、II a'層の様相はII a層よりもむしろII b層に近い。II a層の層厚は最大で50cm程度である。遺物を多く含むが、II b層と比較し

て残存状況が悪い傾向がある。炭化物や焼土ブロックも含まれる。Ⅱa'層はⅡa層に比較してやや黒味が強い。層厚は20cm弱であり、遺物残存状況は比較的良好である。Ⅱb層はⅢ～Ⅶ層土を基質とする暗褐色土であるが、Ⅱa層と比較して色相が暗い。ⅢHグリッド付近からⅢNグリッドにかけて認められ、ⅢOグリッドでも部分的に確認できる。層厚は最大で35cm程度であるが、15cm前後が主体である。遺物は比較的良好である。

ⅢOライン以北の堆積層はⅠ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層に分層される。これはそれぞれ基本層序の層位に対応する。遺物が多く出土するのはⅡ層からⅢ層にかけてであり、これらの層中に捨場が形成されていたものと推定される。この範囲はⅢOライン以南に比べ遺物量が少なく、遺物の遺存状態もよくない。なおⅢT75、ⅢU75付近のSI22上面には、Ⅱa層に類似する暗褐色土が部分的に堆積する(Ⅱa類似層)。

ⅢOライン以南で認められるⅡa・Ⅱb層と、以北で認められるⅡ～Ⅲ層は、ⅢOライン付近で漸移的に変化することから、その対応関係は厳密には特定しがたい。

[出土遺物]捨場からは、土器・石器・土製品・石製品が出土した。捨場は斜面に形成されるため、下方への流出などの影響を受けていると考えられ、廃棄単位を詳細に抽出することはできなかった。以下、種別毎に記述する。

1. 土器

土器は総量2,400kgが出土した。破片の状態出土したものが多いが、個体そのまま潰れた状態で出土したものもある。調査時に個体が特定できた土器については、取り上げラベルに「個」と記載し、一括で取り上げた。接合・復元は、グリッド単位で行い、異なる層や隣接するグリッド間との接合も確認した。掲載遺物は、復元状況が良好なものを優先的に抽出し、他に類例の少ない土器片を加えて掲載した。廃棄単位は明確には捉えられなかったものの、近接して出土した遺物同士は、同時性をもつ可能性があることから、掲載は層位毎、グリッドごととした。なお、異なるグリッド・層間で接合したものは、占める率の大きい方へ帰属させている。以下、層毎に出土土器を概観する。

(1) Ⅱa層出土土器(168-2～172-4)

Ⅱa層からは約500kgの土器が出土した。円筒下層b1～b2式土器を主体とし、円筒下層a式や円筒下層c式の可能性のある土器が若干含まれる。なお、円筒下層b2式に比定される土器は78ライン以東で多く出土する傾向が見受けられる。

円筒下層a～b1式に比定される土器は168-2、168-4、169-5、170-4がある。168-2はⅢ層から出土した土器片と接合したことから、攪乱を受けている可能性もある。円筒下層b1式に比定される土器は169-4、170-3、171-1・3～5、172-1がある。ⅢN78グリッド出土の171-5・172-1はⅡb層出土土器と接合している。171-3の口縁部文様は、L原体を横位に3条巡らせ、条間にR単軸絡条体第1類の側面を押圧する。頸部に隆帯は伴わない。円筒下層b1～b2式に比定される土器は168-3、169-7、170-1がある。168-3は口縁部にL単軸絡条体第1類を横位に施文した後に、2条一組の沈線が格子目状に施文される。169-1は頸部にR単軸絡条体第1類を斜位に施文した後に、4条の横位沈線を巡らせ、沈線間に半截竹管状の刺突列を施す。円筒下層b2式に比定される土器は、169-1・2、170-2・5、171-2、172-2～4などがある。169-2、172-2・4は平口縁に頂部が丸みを帯びる山形突起を伴う。円筒下層b2～c式に比定される土器は169-6の1点である。

(2) II a' 層出土土器(167-1~168-1, 173-1)

II a' 層からは約100kgの土器が出土した。円筒下層a~b1式土器を主体とする。167-1・2・4、168-1、173-1は円筒下層a~b1式、167-3は円筒下層b1式に比定される。167-4は口唇部に指頭圧痕が施され、頸部には上向きに張り出す隆帯が1条巡る。隆帯の頂部には刻目を伴う。口縁部と底部直上にはR単軸絡条体第1類が横位施文され、胴部には縦位施文される。胴部の上位と中位には結節回転文が横位に施される。胴部には2個一組の補修孔が2か所に穿たれている。173-1は器高約60cm、口径約40cmを測る大形の深鉢である。結節回転文が口縁部のほか胴部中位にも横位施文され、胴部上半と下半にL単軸絡条体第1類の縦位回転文が施される。頸部には隆帯が巡り、隆帯上にはL単軸絡条体第1類の側面が斜位に押圧される。II層出土土器片と接合している。

(3) II b層出土土器(174-1~196-6)

II b層からは約600kgの土器が出土した。円筒下層a~b1式土器を主体とする。特にIII I77・78、III J76・77グリッドでは円筒下層a式土器がまとまって出土した。円筒下層b1式に比定できる土器はIII Kライン以北に多い傾向が看取される。III J78~III M78グリッドでは円筒下層b2式に比定される土器が見受けられる。III J78グリッド出土の2点(185-2・3)は共にII a層出土土器と接合していることから、本来はII a層に属する可能性もある。III M78グリッドでは調査時に層の解釈に齟齬があり、II a層の一部をII b層として取り上げた経緯が反映された可能性が高い。また、III J77グリッド出土の184-5や、III I78グリッド出土の173-1などはII a・II b層間で出土しており、他のグリッドと比較して層間接同例が多い傾向がある。他に大木10式併行に比定される土器1点(185-1)が含まれるが、表土直下であるII層出土土器と接合しており、周囲にはSI35やSI65などの大木10式併行期の住居が営まれることから、混入と考えられる。

円筒下層a式に比定される土器は174-1~175-2、175-4~7、176-4、177-3、178-1・2、179-3~181-1がある。178-1・2、179-3~181-1はIII J76・77グリッドで出土した遺存状態の良好な一群である。口径に対する器高の比率が1~1.2程度で、底部から口縁部にかけて開く。178-2を除き、頸部には指頭圧痕を伴う隆帯が1条巡る。

円筒下層a~b1式に比定される土器は176-1・2、176-5~177-2、179-1・2、182-1~184-3、184-5・6、185-4~186-3などである。183-1は口径が14cmの比較的小形の深鉢である。口縁端部が短く外反し肥厚する。183-2は口径と底径がほぼ同じ深鉢である。底部から頸部にかけてやや内傾し、頸部で括れ口縁は外反する。186-2は器高が約15cmの小形の深鉢である。底部から口縁にかけてやや丸みを帯び直線的に立ち上がる。196-1は口縁部と胴部中位に結節回転文が施される。結節の原体は1回潜りで結ぶのが一般的だが、本例は2回潜りで結び目を作成している。

円筒下層b1式に比定される土器は175-3、176-3、186-4、187-1・3・4、188-1~3などである。187-3は2単位の波状口縁である。二山一組の波頂部に指頭圧痕が施される。頸部がやや括れ、胴部下半で膨らむ。189-3は口縁部にLR単軸絡条体第1類の側面押圧が2条巡る。191-4は頸部が比較的強く括れ、胴部下半で膨らむ。頸部には爪形刺突を伴う低い隆帯が巡る。192-1は口縁部に結節回転文を横位施文した後、大振りな鋸歯状の沈線文を施す。頸部には3条の横位沈線が巡り、沈線間には竹管状の刺突列を伴う。胴上部にも横位沈線が1条巡り、結節回転文が区画される。192-5は口縁部と胴部中位に単軸絡条体第5類が回転施文される。頸部には刺突を伴う隆帯が2条巡り、隆帯間には何らかの圧

痕が施されるが、原体は特定できない。

円筒下層 b1～b2式に比定される土器は、184-4と191-2がある。184-4は土器内に長さ約5.5cm、幅約3.5cm、厚さ約2cmのアスファルト塊を包蔵していた(巻頭写真)。アスファルト塊は除去した土器内覆土から発見されたため包蔵状態は定かではないものの、アスファルト塊の形状と土器底面の形状が対応する可能性が高いこと、その面には土があまり付着していないことから、土器内面底部に張り付いた状態だったと推測される。土器内面にはアスファルトと思われる黒色物質が薄く付着し、外面には2か所の液垂れが見受けられる。上端の欠損部にも付着が認められることから、口縁部から胴部上半が欠損した状態で使用されたものと推定される。

円筒下層b2式に比定される土器は、185-2・3、189-1、192-6、193-1・4、194-2がある。185-3は頸部が強く括れる深鉢である。頸部は2条一組の横位沈線で区画され、区画内に爪形刺突を伴う低い隆帯が2条巡る。193-1は頸部に低い隆帯が巡り、隆帯上にLR原体が鋸歯状に押圧される。185-2、194-2は口縁部にR単軸絡条体第2類が横位施文される。

(4) II層出土土器(162-3～166-6)

II層からは約800kgの土器が出土した。円筒下層 a～b2式土器が出土しており、円筒下層b1～b2式を主体とする。特にIII U77・78グリッドでは円筒下層b2式土器がまとまって出土した。他に円筒下層b2～c式土器が1点出土している。

円筒下層 a～b1式に比定される土器は162-3～163-1・4、164-1・5、165-3がある。163-4は軸繩LRの結節回転文を横位施文している。円筒下層b1式に比定される土器は、164-2、165-4がある。164-2は口縁部に比較的太い原体による結節回転文が施される。円筒下層b1～b2に比定される土器は、163-2、164-3、165-1、165-7～9、166-4がある。165-8・9は口縁部に単軸絡条体第1類が縦位施文されるが、口縁端部の狭い範囲のみ横位に施文される。166-4は低平な波状口縁であり、波頂部は二山状に押圧される。円筒下層b2式に比定される土器は、163-3・5、164-4・6、165-2・5・6、166-1～3がある。163-3は口縁部にR単軸絡条体第2類が横位に、胴部に多軸絡条体が縦位に施文される。165-6は口縁部にR単軸絡条体第6A類が横位施文される。166-1は頸部に隆帯が1条巡り、隆帯上には2条の沈線を巡らせた後、R単軸絡条体第1類の側面が斜位に押圧される。166-3は粗雑な単軸絡条体第5類を横位施文した後、2条一組のLR原体側面押圧により、大振りな鋸歯状の文様を描出する。胴部は多軸絡条体が縦位に施文される。166-5は円筒下層b2～c式に比定される土器である。2～3条一組のR原体側面を縦位に3本押圧し、その間に刺突列を施す。

(5) I層、I～II層、II～III層、III層、III～IV層など出土土器(162-1・2、197-1～198-5)

各層の出土土器は出土量が比較的少なく、掲載土器も少数である。ここでは特徴的な土器について概観する。

162-2はI～II層で出土した円筒下層b1式に比定される口縁部片である。口縁端部に爪形の刺突が巡る。162-1-1と162-1-2は原体の施文方向が異なるものの、同一個体片と推定される。162-1-2は隆帯が剥離しており、剥離部分に単軸絡条体の施文が認められることから、施文後に隆帯が貼り付けられたことがわかる。197-1・2はII～III層から出土した。197-1は口縁部に竹管状刺突を1条、爪形刺突を2条巡らす。円筒下層 a～b1式に比定される可能性が高い。197-2は低い波状口縁であり、波頂部は二山状を呈する。口縁部にはR単軸絡条体第6A類が横位施文される。円筒下層b2式に比定さ

れる。197-4はⅢ層から出土した底部である。高台状を呈する。円筒下層b1式に比定される可能性がある。198-2はⅢH77の攪乱で出土した。全面に結節回転文が横位施文され、胴部中位にキズ状の縦位の短沈線が認められる。円筒下層a～b1式に比定される。

(岩井)

2. 石器

石鏃(199-1～11)

199-1～7は概ね二等辺三角形の無茎鏃であり、僅かに内湾する凹基、外湾する円基が多い。199-10は細長く柳葉形の有茎尖基鏃である。

石匙(199-12～200-16)

199-13・14のように明瞭な光沢が観察できるものがありトーンで図示した。石匙では他にも刃部付近に光沢が観察できるものがある。良質な珪質頁岩では石質自体の光沢や、埋没中の自然的な営為による光沢も存在しうるため、不確実な要素のある物は観察表にのみ「刃部に弱い光沢」と記載した。200-3・5は両面加工の小形品である。黒曜石製であり、産地分析の結果、200-3は木造出来島群、200-5は男鹿金ヶ崎群と推定された。200-15は裏面の光沢よりも、つまみ部の作り出しと刃部の細部加工が新しい。つまみ部は左右に幅広い。縦長石匙の上部折損の対処として器体を変形させて、かつての刃部(光沢部分)につまみ部を作り出した可能性がある。

石錐(200-17～201-1)

棒状に近い形の物(200-17・18)と尖端部分を中心に加工したもの(200-19～201-1)がある。

石篋(201-2～202-3)

201-3・13のように中～大形品では、両面に礫面が残るものがある。礫面の多くは器表面が滑らかで201-2・12は節理面や剥離面に近い。剥片素材の物では、201-5・8・9・12のように横長剥片素材のものが多いが201-4・7のように縦長剥片を素材とする物もある。

両面調整石器(202-4・5)

両面に剥離加工が施されるが、202-4のように刃部が未形成なものがある。202-5は厚みがあるが縁辺の剥離面が小さく、二次加工とも石核ともしがたく本類とした。

スクレイパー類(202-6～203-11)

円筒土器文化のスクレイパーは刃部の位置・形状や厚みなどの点で削器と搔器の区分が難しいものが一定量出土する。そのためスクレイパー類として一括したうえで、細分した。削器が多い。202-11は石槍・石篋・石匙・両面加工のスクレイパー類の破片の可能性がある。

異形石器(204-1～3)

突起や挟りで対称性をもたせる等形状を意識したと判断されるものに色を加味して抽出した。204-1は灰白色(10YR7/1)の玉髄質の珪質頁岩製である。204-3は刃部となりうる辺が未形成である。

ピエス・エスキーユ(204-4)

204-4は上下左右の2方向に両極打法の痕跡がみられ、四角形状となっている。

石核(204-5～207-2)

礫面が一部に残るものが多い。縁辺から求心的に剥片を剥離するのを基本とし、打面転移を繰り返すものが多い。残核が棒状となる物など最終形状をもとに細分した。縦長石匙に対応するような長さ

のある縦長剥片を採取したものはないため、消費された可能性がある。

磨製石斧(207-3~208-15)

緑色岩製を主体とし、緑色凝灰岩・粘板岩製のもの等を含む。207-8は楕円礫素材で軟質の凝灰岩製である。正面左側中央は礫面が未加工で残る。全体的にみて研磨は粗く、線状に整形痕跡が残る。一方で正面左上などは特に滑らかに研磨されており、トーンで示している。208-12は折面を打面として剥離が加えられており、再加工による刃部の作り出しを目指した可能性がある。

凹石・敲石・磨石(209-1~217-11)

凹痕と磨面など使用痕跡が複合するものもあるが、主要な使用痕をもとに振り分けした。石質は凝灰岩・安山岩・デイサイト・流紋岩などである。凹石は209-2のように凹痕が中央部に直線的に連続するもの、209-7のように上下で計2か所にみられるもの、213-3のように比較的小形で中央に1か所みられるもの等がある。両面に使用痕跡を持つものが多く、3面のものもある。

敲石の敲打痕は、中央部に連続するものなど凹石に類似した部位に形成される物のほかに、214-3・4のように端部に形成されるもの、215-1・2のように側面に形成されるものがある。磨石は楕円礫の中央部分に磨面が形成される物が多い。217-10は珪質泥岩を素材とし、全面が磨面となっている。器表面には横方向に細い線状の痕跡が多数残り、減耗していると考えられる。そのため手に持って使用する砥石の可能性もある。端部に、敲打痕が形成され、剥落が生じている。

半円状扁平打製石器(218-1~223-5)

扁平な形状であるため、素材礫は板状に節理の入るデイサイトや安山岩製のものが多数をしめる。磨面は刃部に細長く形成されているものが多い。正裏面の礫面に整形もしくは磨れがあり、磨面とした物がある。

挟入扁平磨製石器(223-6)

正裏ともに節理面に軽く研磨を加えている。一端に挟りを大きく作り出し、全体的に細長い形状である。刃部は摩耗しており、中央部の断面はU字形となっている。

その他の礫石器(224-1~225-1)

224-1~3は加工礫である。剥離加工があるが、途中で終わっている。敲石に含められる可能性があるが、半円状扁平打製石器の未成品の可能性もある。224-4は両端に挟りを作り出した磨石である。224-5は石錘、224-6~225-1は砥石である。

石皿・台石(225-2~226-4)

デイサイトと(緑色)凝灰岩製のものが多数を占める。225-3・226-4は黒色付着物がみられる。

その他の石器(226-5~14、写真151-①・②)

巻頭写真に淡緑色の珪質頁岩製の石器を掲載した。ⅢN78の32点の出土品と隣接グリッドのⅢM78の5点、ⅢM77の1点、Ⅲ078の2点を加えた40点である。器種は石核17点、スクレイパー類3点、石鏃1点、石匙2点、両面調整石器1点、ピエス・エスキーユ1点、二次加工剥片10点、剥片5点である。これらの色は淡緑色が中心であるが、色の濃淡や珪化の強弱などの個体差がある。珪化の度合いは弱いものから強いものまであり、質は不均一である。この中で最大の石核は2,094gである。珪化が強く全体が良質なものは打面転移を行いながら、剥片を採取し続けるため小形の石核となる傾向にある。珪化の状況などが不均質な石核では、原石の形状と珪化の強弱にあわせて、良質な部分を

中心に剥片を採取している。そのため、珪化の弱い部分を多く含む石核は不整形の大形品となる傾向がある。攪乱出土品を除く定形石器や剥片の一部を図化した。226-5は周辺加工で石鏃の形に整えている。

写真151-①は3点の、②は2点の剥片の接合資料である。ⅢI・ⅢJ78のⅡa層から近接した日時に取り上げられた同一個体の7点の剥片から接合した。いずれも打面転移が行われており、本遺跡の石核が求心的な剥離が多く、打面を転移するものが多い事と合致する。

(齋藤・久保)

3. 土製品

捨場から出土した土製品は20点である。

I層からは1点出土している。227-3は刺突を有するものである。

I～II層からは1点出土している。227-5はキノコ形土製品で傘裏にひだは作出していない。

Ⅱa層からは3点出土している。228-4は土偶頭部の可能性があり、首部から折損しているものとみられる。側面が加撃されている。228-5は深鉢形の底部である。

Ⅱa'層からは2点出土している。227-7は側面をやや荒く整形している。228-2は深鉢形の底部である。

Ⅱb層からは1点出土している。230-5は深鉢形の口縁部である。

II層からは9点出土している。231-3は頭部を簡略化し、仮面状に前方に肥厚する形態のものである。231-2は土偶とみられるが部位が判然としない。233-6は深鉢形の底部である。234-1は深鉢形であるが底面形状が丸いため、自立しないものである。234-2は厚さは均一ではなく、耳飾りの可能性もある。233-5は側面を丁寧に加工している。235-1は側面全面を平滑になるよう念入りに擦っている。234-6は両面にクルミ押圧痕が観察される。

焼成粘土塊は、IVJライン以南全域から出土し、総出土量は遺物保管箱(56 cm×35 cm×15 cm)2分の1程度である。住居跡や土坑の堆積土からも出土するが、出土の主体はⅢF～ⅢW・73～80の捨場からの出土が比較的多い。

形状は、直径2～3cmの塊が殆どで、粘土を揉み込んだり折りたたむ様な形状を残すものがある。ごく少数、草本類を噛み込むものがある。黒色で重量感がある。外面に構築物の痕跡を残すものは認められない。

以上のことから、本遺跡から出土した焼成粘土塊は、住居内の構築物の固定用や屋根に使用したものとは考えがたく、土器製作時の粘土の一部が焼成され、廃棄された結果、捨場に濃密な出土状況がみられる結果となったと考えられる(写真162①参照)。

4. 石製品

捨場から出土した石製品は61点である。

I層からは7点出土している。うち3点を図示した。いずれも円盤状石製品で、板状の石材を円形に加工したもので、円礫の両面に面を作出し、側面も平坦な屈曲となるよう整形を加えたものである。

I～II層は有孔石製品1点の出土である。

II～III層からは3点出土している。うち1点を図示した。235-5は棒状礫に鋭角の石材で刻みを入

れるものである。

Ⅱa層からは8点出土し、5点を図示した。228-1は円礫の表面に擦痕が入るものである。228-6、228-8、229-1は石棒であり、概して整形が弱い。228-7～229-1は捨場中腹に横並びで出土した(写真96)。

Ⅱa'層からは1点出土し、図示した。227-8は母材を削り出し、刻みを入れて円形の頭部を作出するものである。

Ⅱb層からは13点出土し、6点を図示した。230-2は鋭角の刻みを入れるものである。意図的に円形に整形している。229-2は肩パット状の突起を沈線状に作出し、片面にクボミが確認される。頭部が破損している。230-4は亜円礫の中央部に鋭角の刻みを入れるものである。

Ⅱ層からは24点出土し、14点を図示した。235-2は自然円礫の両面から回転工具により穿孔したもので、貫通はしていない。233-2は板状礫の端部に両面から回転技法で穿孔させ貫通させたものである。235-4は亜円礫の長軸両側から穿孔したものであり、貫通させていない。一部面を取っている。231-1は板状の石材を円形に加工し、全体を擦って仕上げている。233-4は棒状礫を裁断し基石状に加工したものである。234-4は板状の石材を楕円形～方形に加工しているものである。232-2は塊状の石材の両面を作出し側面を削り、大型の基石状に加工したものである。231-5は板状石材を楕円形に加工しているものである。232-1、233-1・3、234-5はスリによる整形が弱い石棒である。石棒の出土地点は集中している。

Ⅱ～Ⅲ層からは4点出土し、1点図示した。235-5は棒状礫に鋭角の石材で刻みを入れるものである。

Ⅲ層からは1点出土している。不明石製品で、板状の石材を楕円形に加工しているものである。図示はしていない。

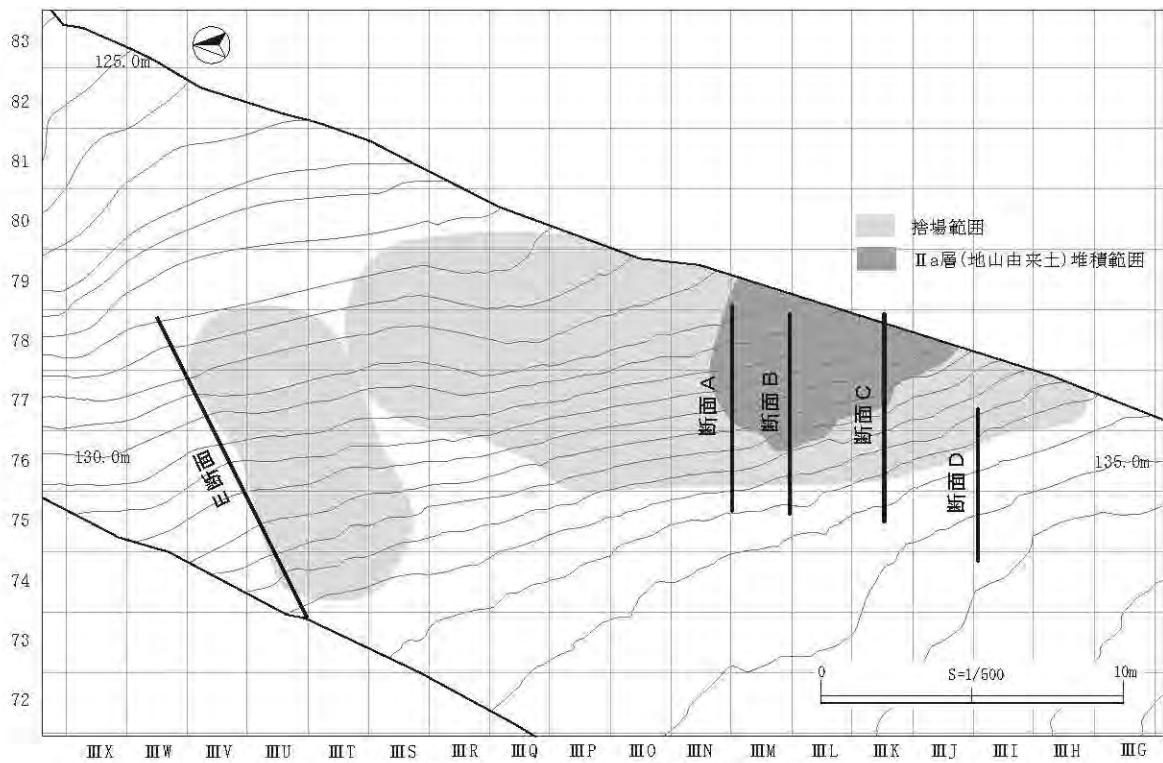
(工藤)

[時期・所見] 出土土器から、本捨場は円筒下層a～b2式期に形成されたと考えられる。遺物の出土量から捨場の主体はⅢ0ライン以南と考えられ、Ⅲ0ライン以北は捨場の縁辺部と捉えられる。

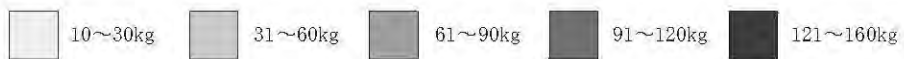
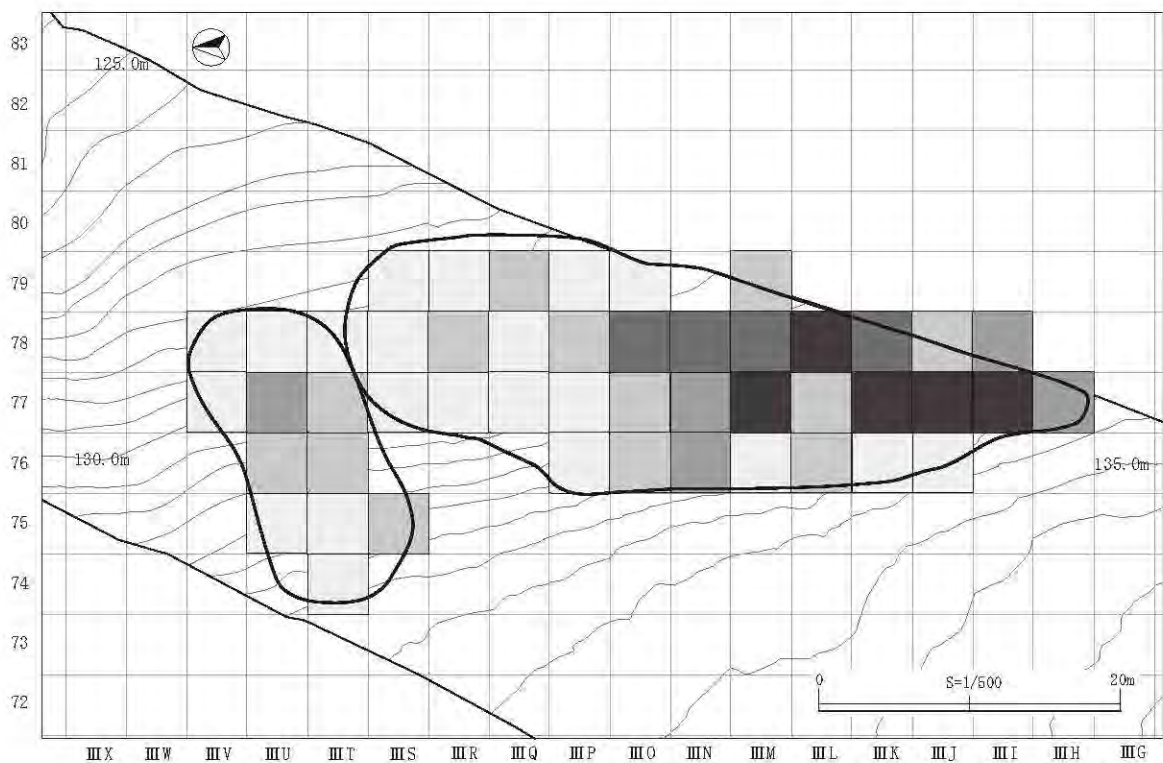
捨場の形成過程については遺物の出土状況などから次のような変遷が想定される。捨場南部で円筒下層a式期に遺物の廃棄が始まり(ⅢH・ⅢI77・78グリッド付近Ⅱb層)、その後円筒下層a～b1式期にかけて、捨場の広い範囲に遺物が廃棄される。捨場の主体は捨場南半(Ⅲ0ライン以南)であるが、捨場北部(ⅢT・ⅢU75～77)にも遺物が廃棄され、捨場北部にはあわせてⅦ層土を基質とする暗褐色土(SI22Ⅲ層)の廃棄も認められる。円筒下層b1～b2式期にはⅢJ～ⅢN77～79グリッド付近に遺物に加えⅦ層土が多量に廃棄され(Ⅱa層)、その後遺物等の廃棄の痕跡は認められなくなる。

なおⅡa層については、下位層であるⅡb層との層界が明瞭であり、比較的純粋なⅦ層由来土であることから、Ⅶ層土が短期間に集中して廃棄されたと推定される。また、調査範囲内のⅡa層の土量は概算で25m³程度であり、遺構掘削土としては量が多い。さらに尾根上に構築される縄文時代前期中葉のフラスコ状土坑の覆土に黒色土が含まれないことも勘案すれば、円筒下層b1～b2式期に尾根上で地山土を削平するような土地改変が行われたと想定され、Ⅱa層はその際の廃棄土と考えられる。

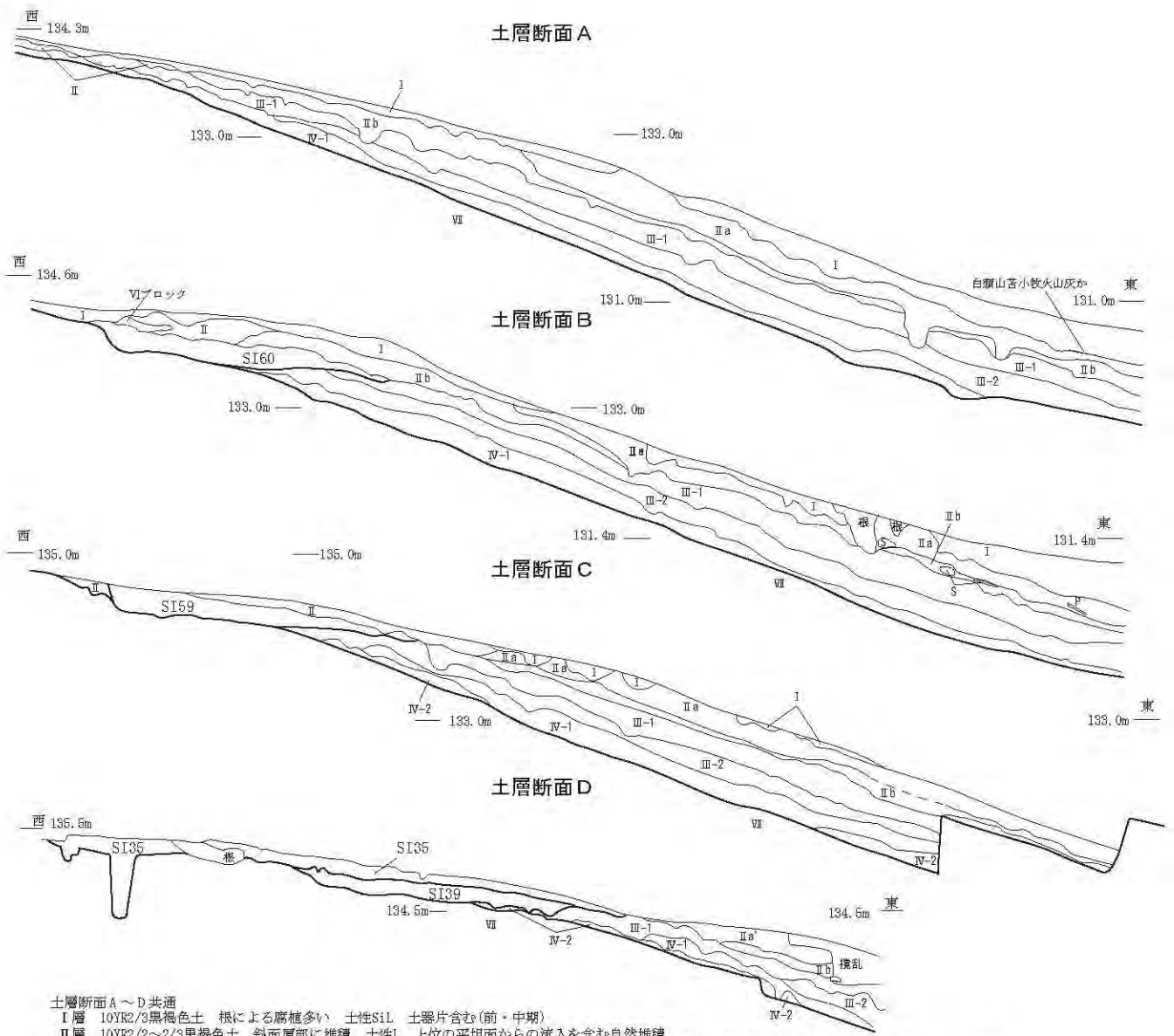
(岩井)



第159図 捨場範囲図・層序作成位置図

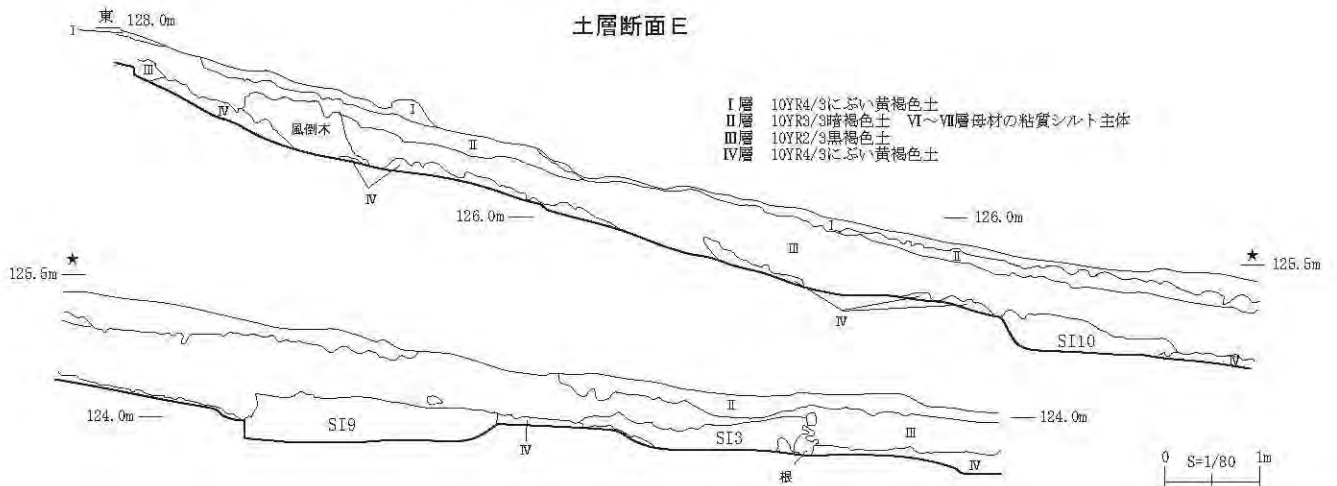


第160図 捨場出土土器重量分布図

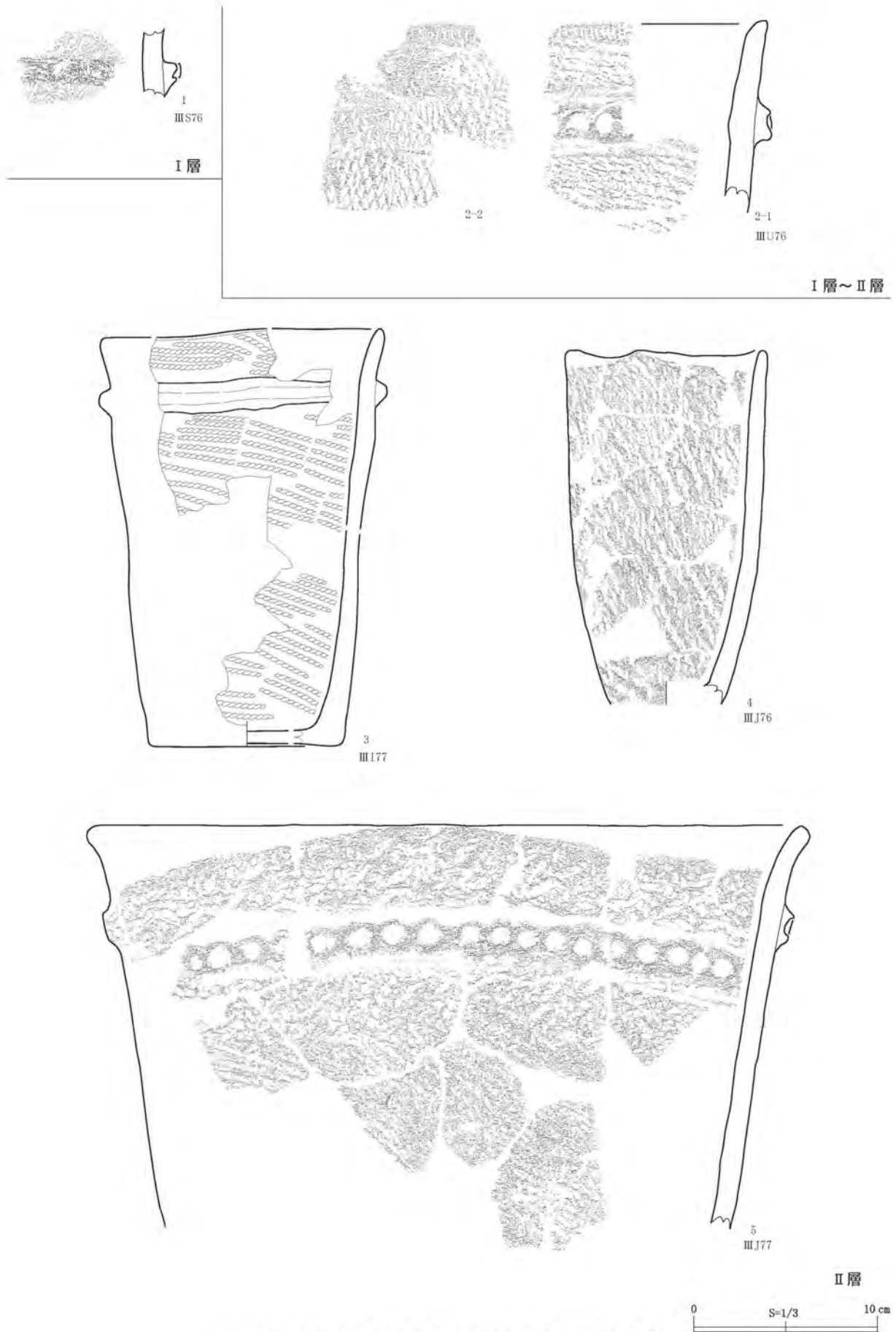


土層断面A～D共通

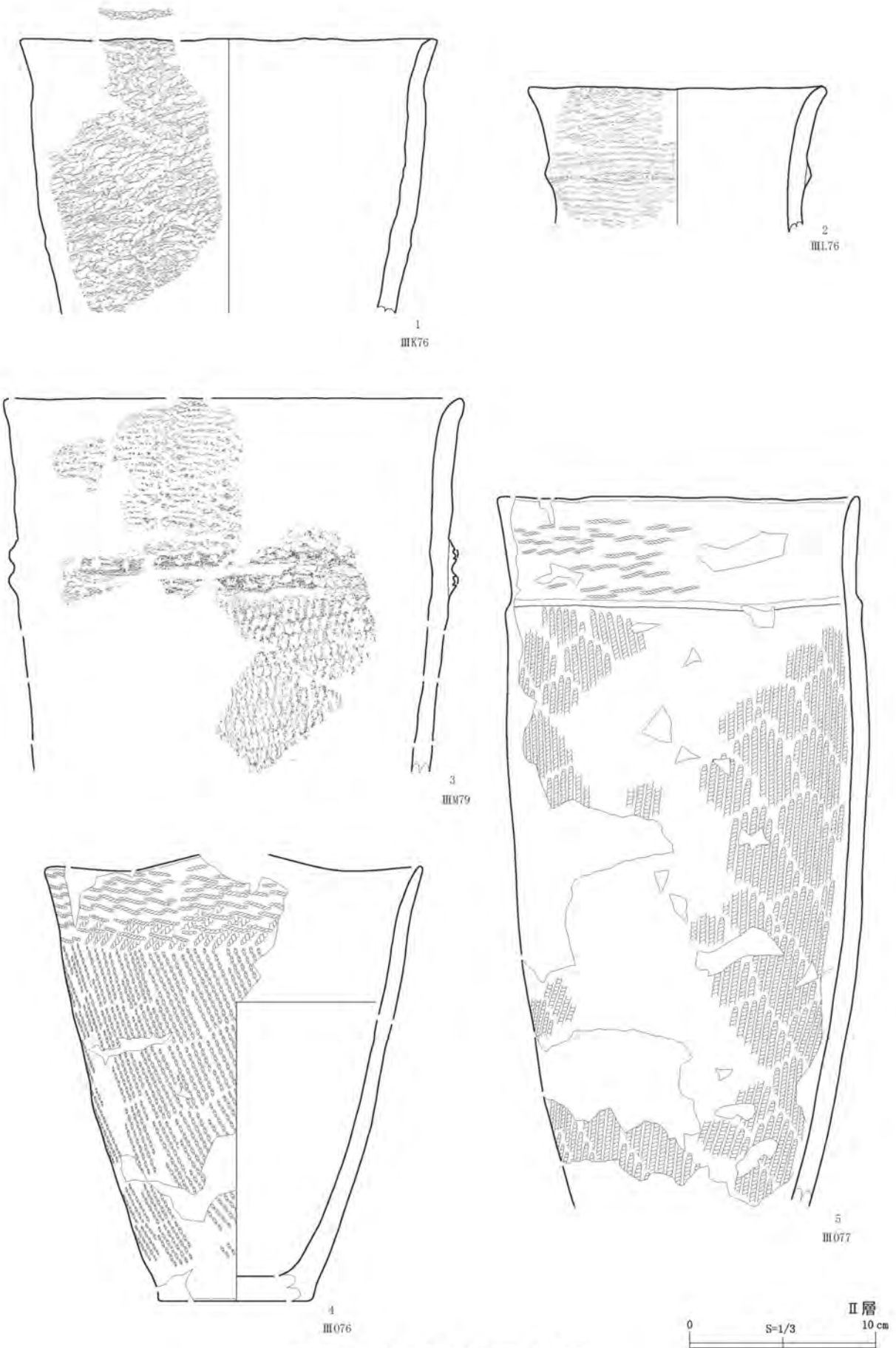
- I層 10YR2/3黒褐色土 根による腐植多い 土性SiL 土器片含む(前・中期)
- II層 10YR2/2～2/3黒褐色土 斜面肩部に堆積 土性L 上位の平坦面からの流入を含む自然堆積
- IIa層 10YR3/3～3/4暗褐色土 斜面に堆積 土性CL 遺物・殊を多量に含む、VII層由来土を基質とする 炭化物、焼土塊を部分的に含む
- IIb層 10YR3/3～3/4暗褐色土 斜面に堆積 土性CL～L 遺物・殊を多量に含む、比較的土器の残存状態がよい VII層由来土であるものの、若干色調が暗い、炭化物、焼土塊を部分的に含む。
- III-1層 10YR2/1～2/2黒～黒褐色土 比較的均質な黒色土 土性SL しまりがやや弱い 軽石を含む
- III-2層 10YR1.7/1～2/1黒色土 均質な黒褐色土 土性SiL III-1層よりしまりが弱い 軽石を含む
- IV-1層 10YR2/2黒色土 下位のVII層にかけて 土性SiL 漸移的に変化
- IV-2層 10YR2/2～2/3黒褐色土



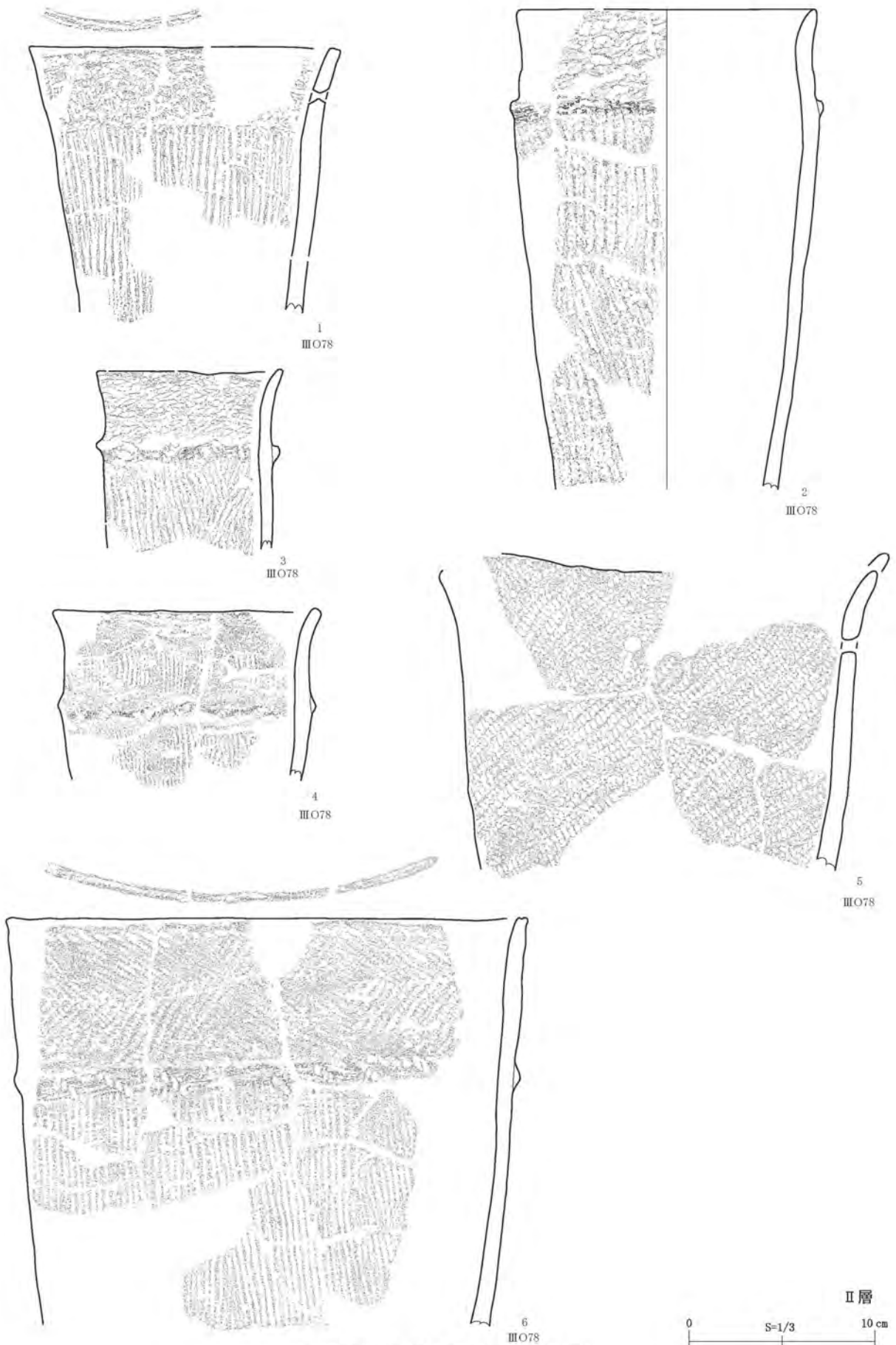
第161図 捨場土層断面図



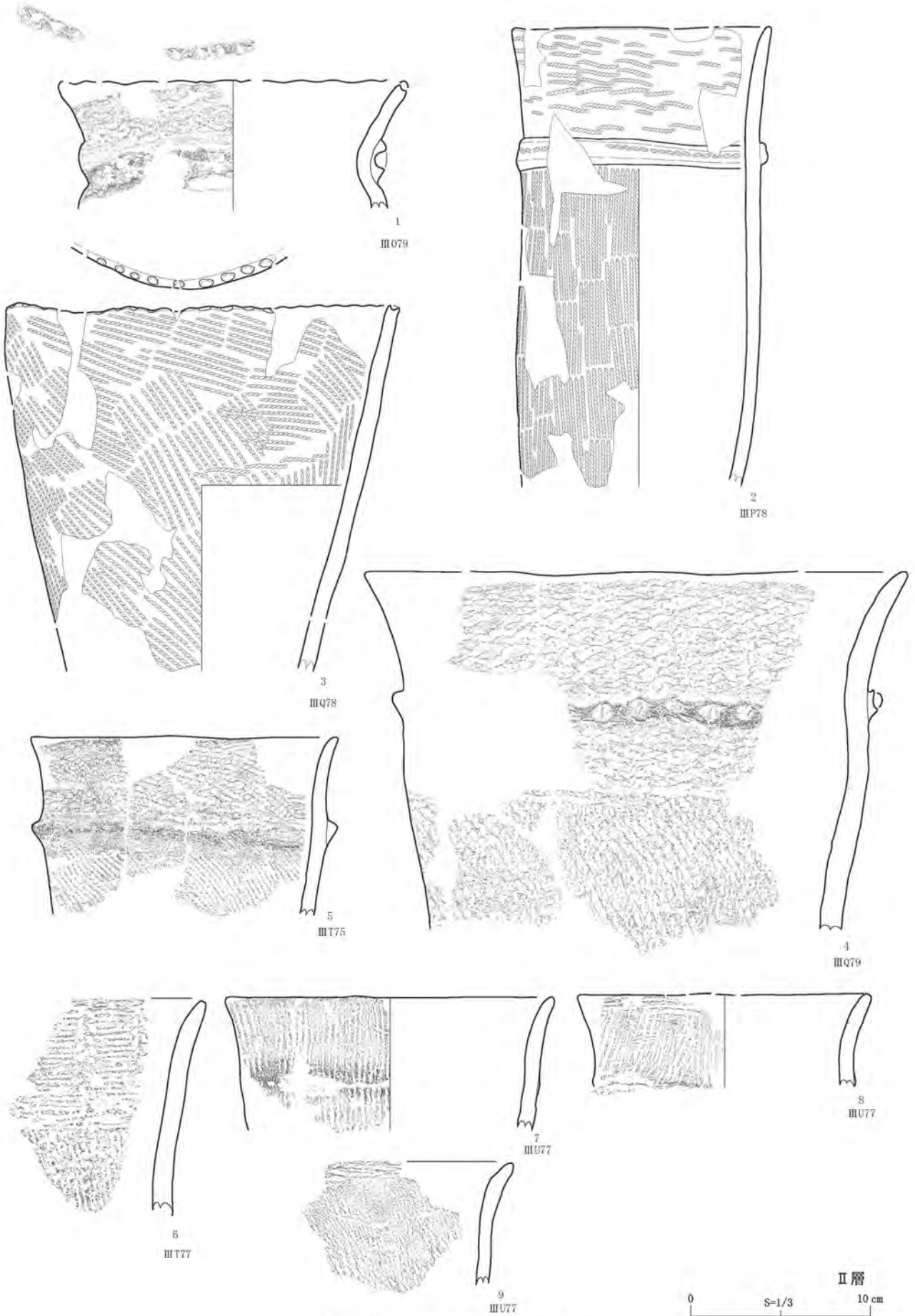
第162図 捨場出土土器 1 (I層, I層~II層, II層)



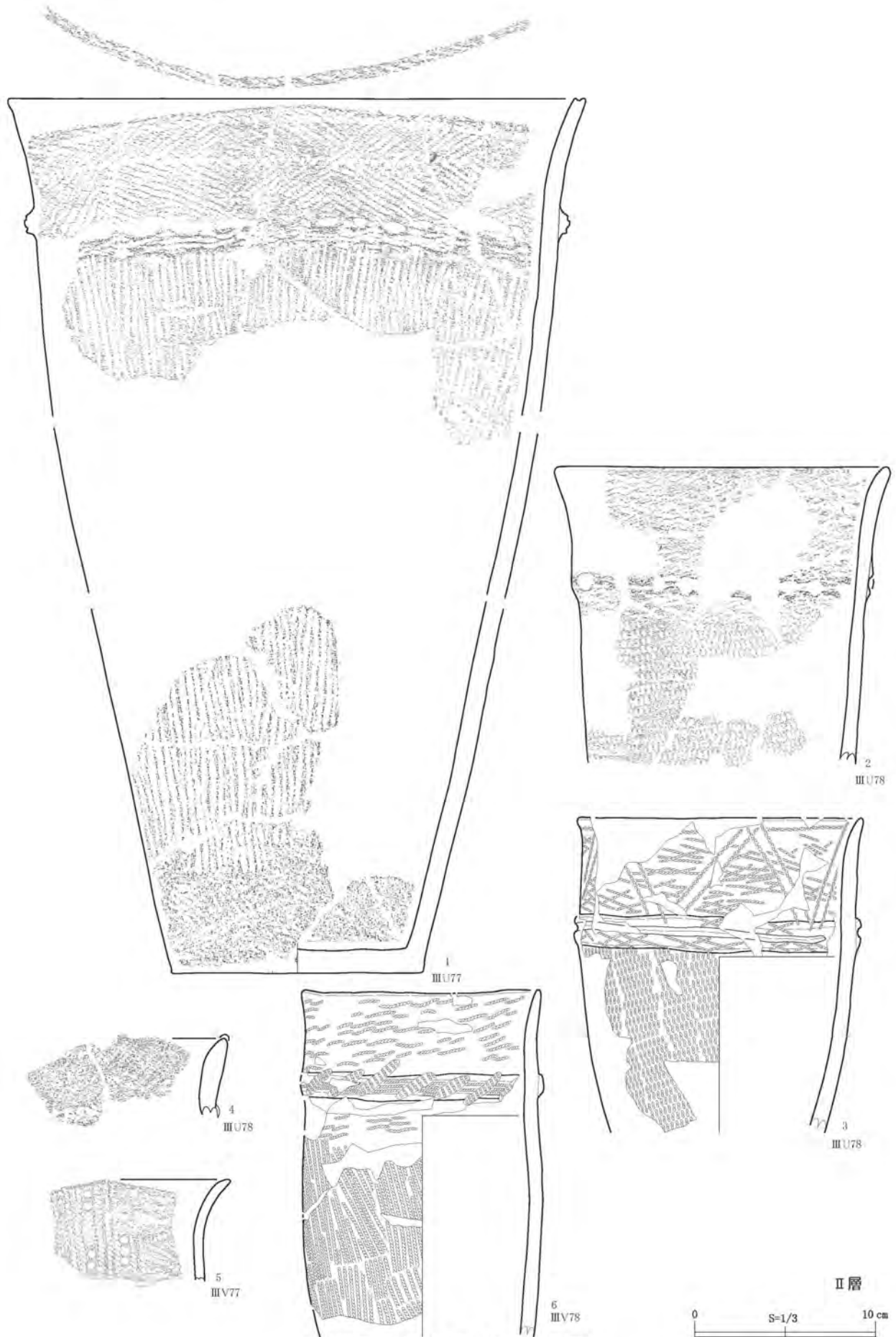
第163図 捨場出土土器2 (II層)



第164図 捨場出土土器3 (II層)



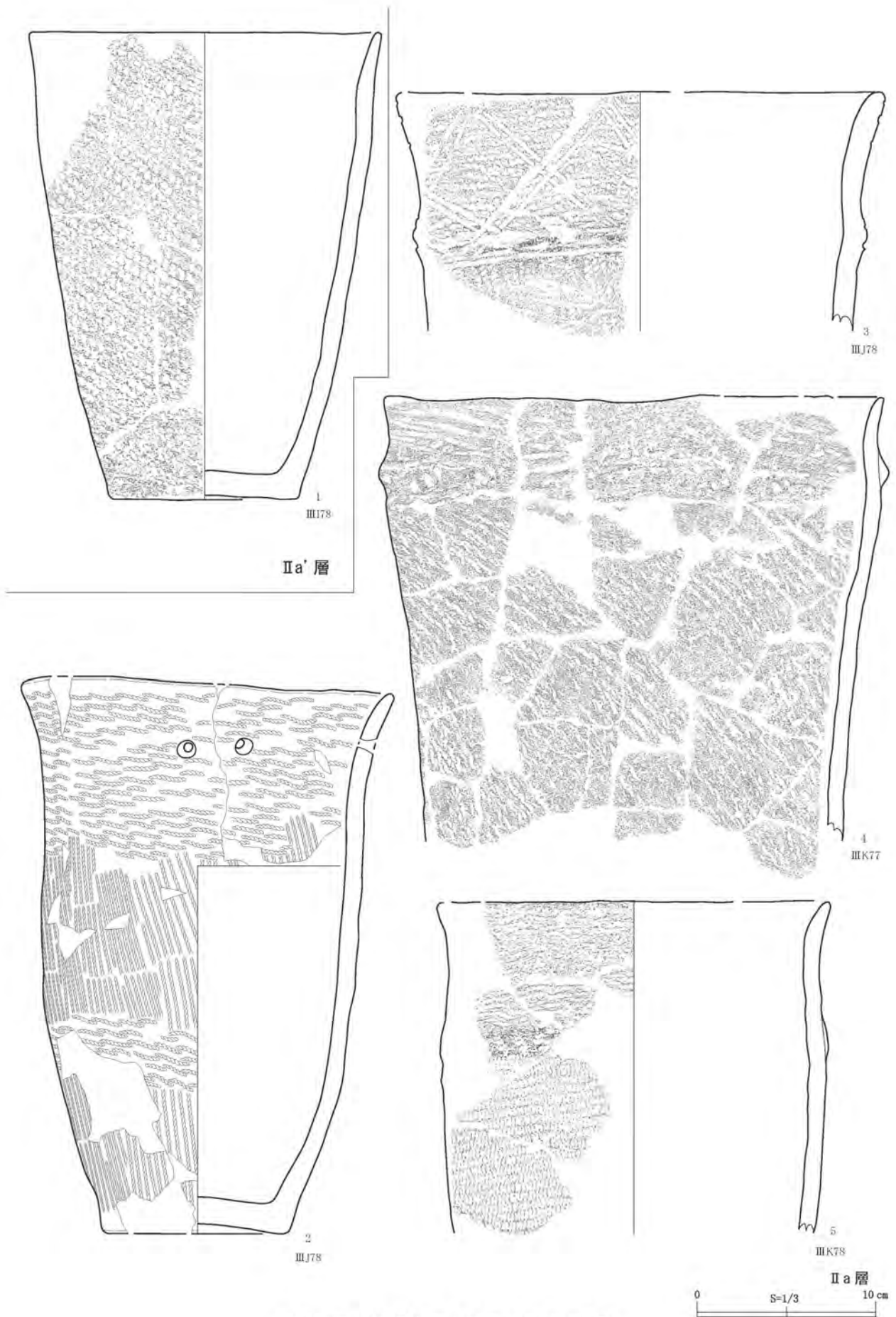
第165図 捨場出土土器4 (II層)



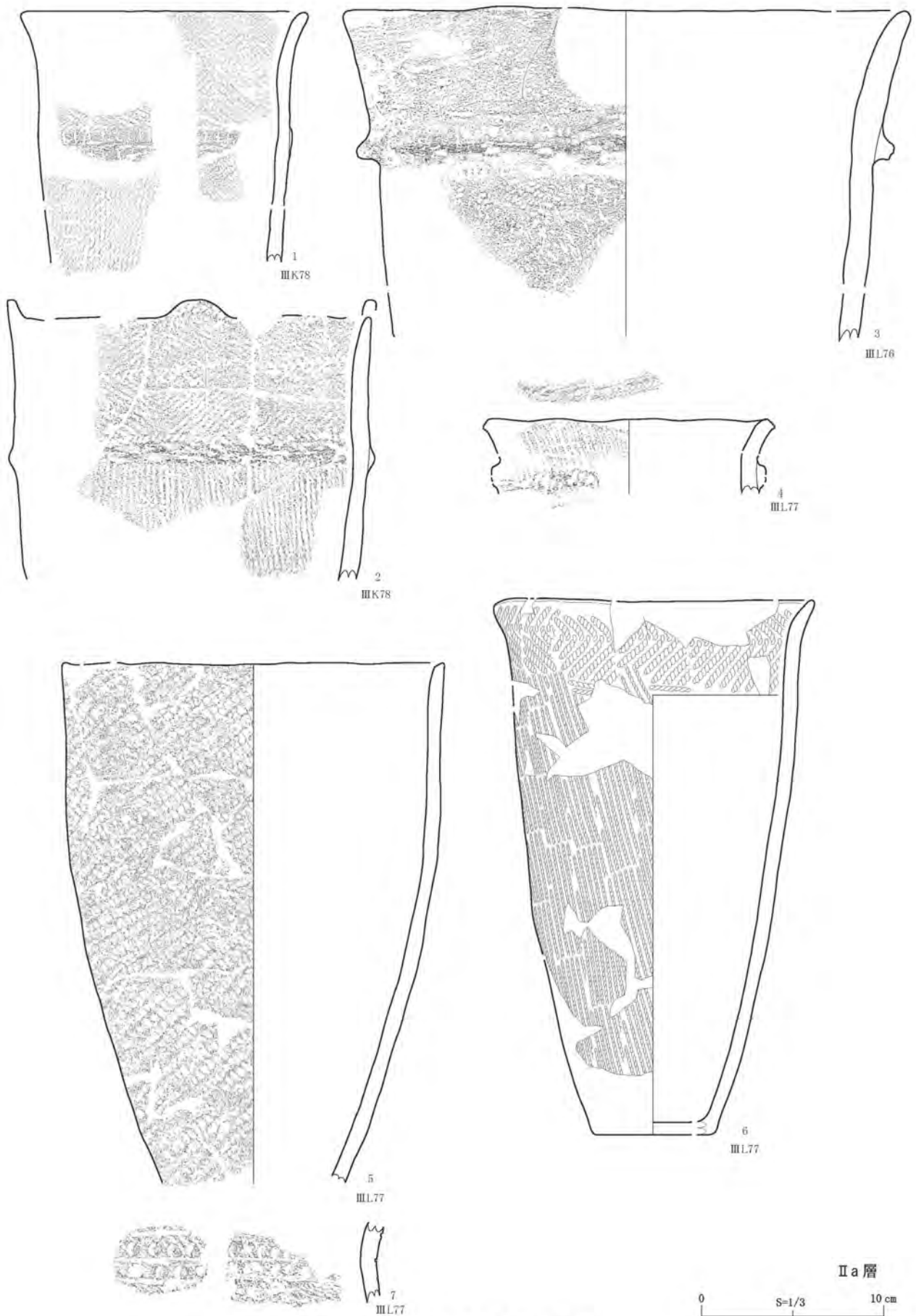
第166図 捨場出土土器5 (II層)



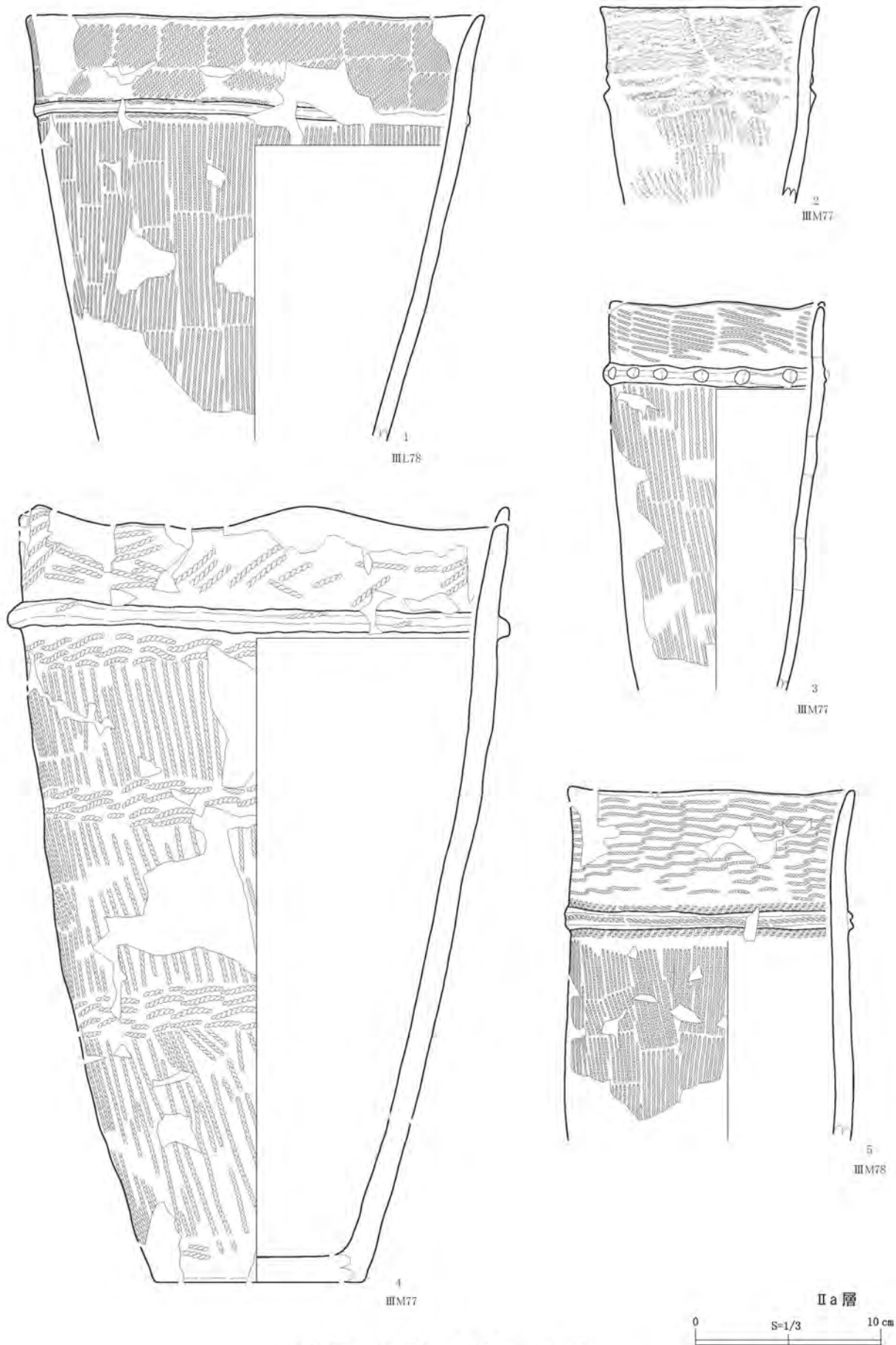
第167図 捨場出土土器6 (II a' 層)



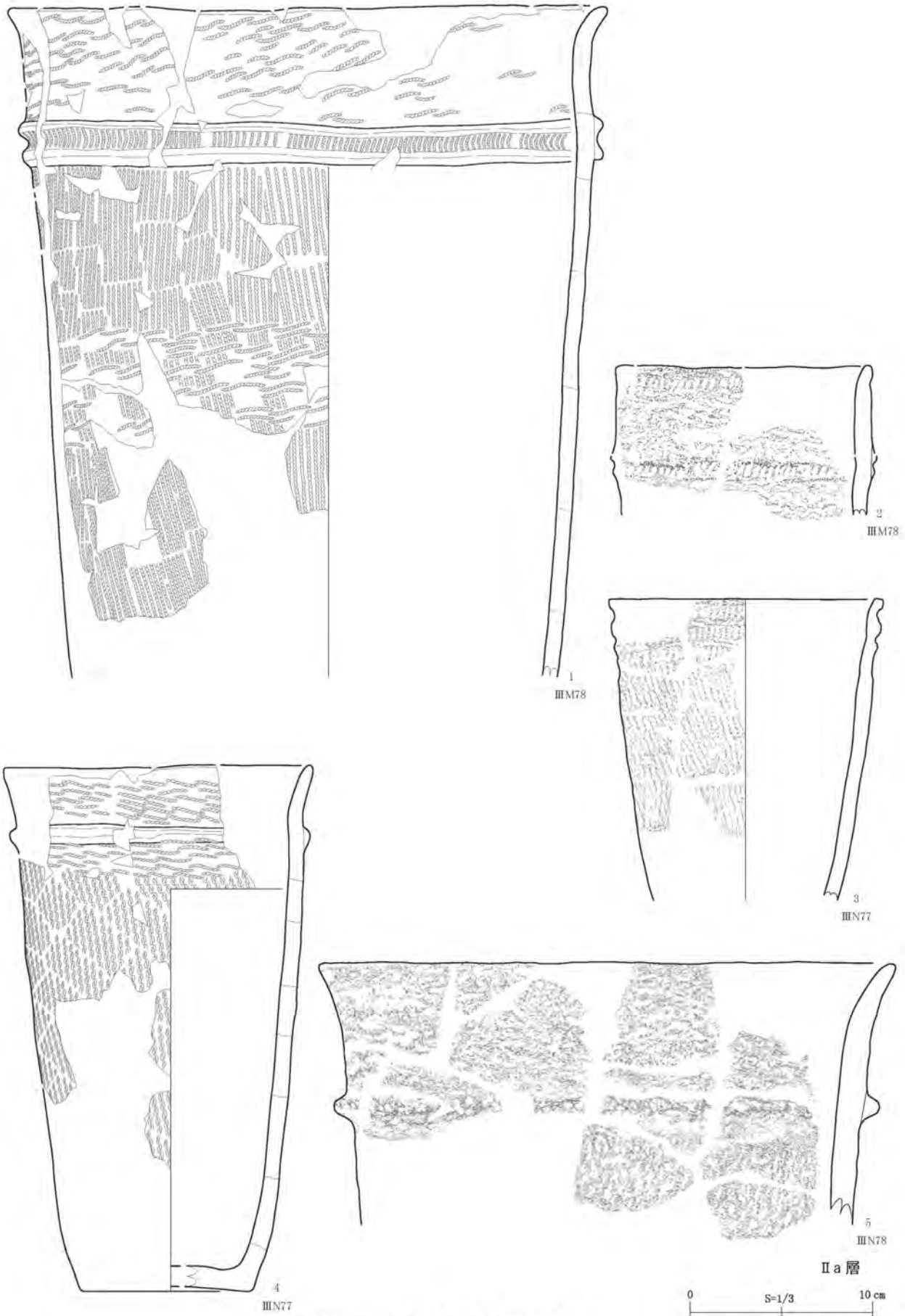
第168図 捨場出土土器 7 (II a', II a層)



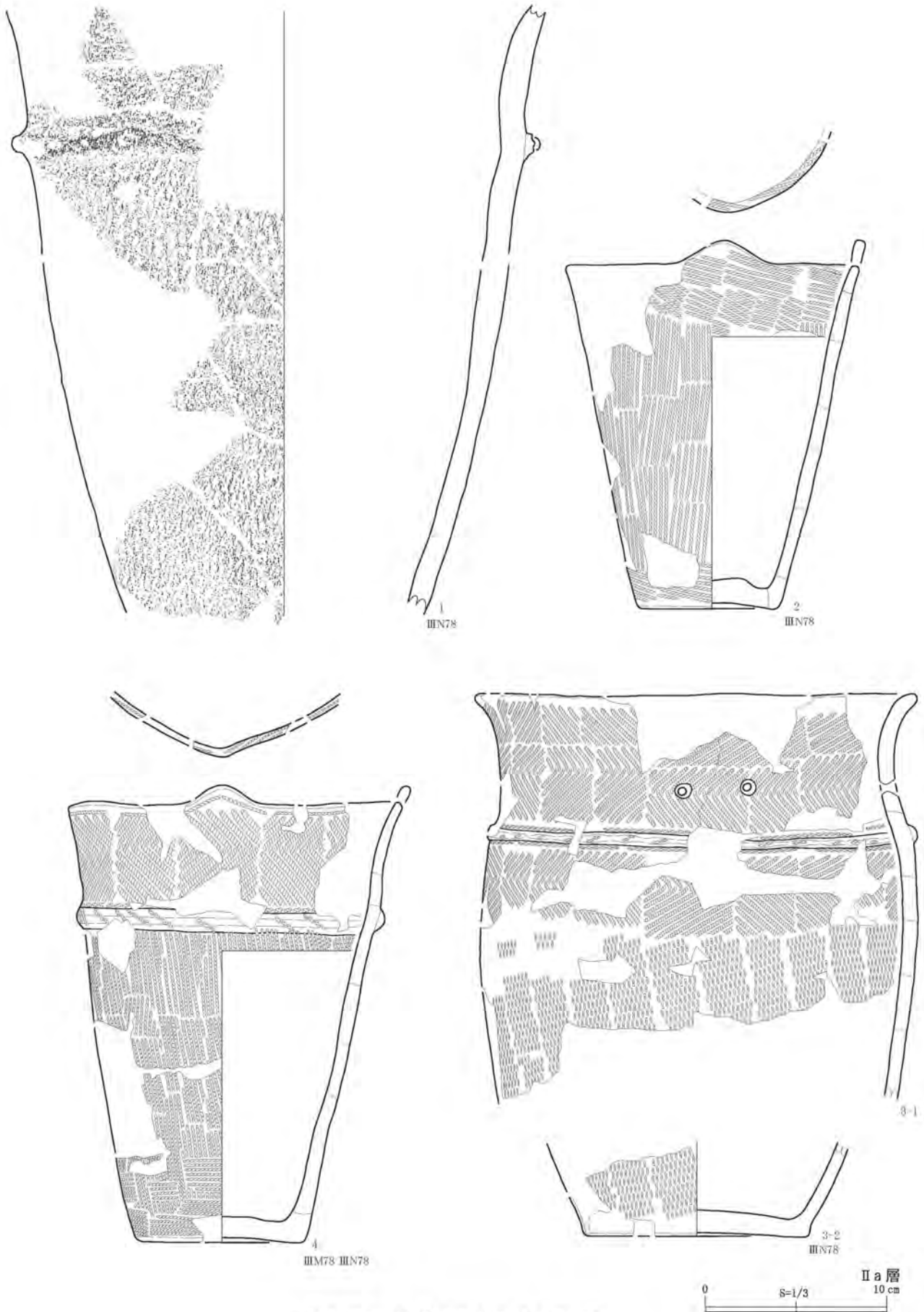
第169図 捨場出土土器8 (II a層)



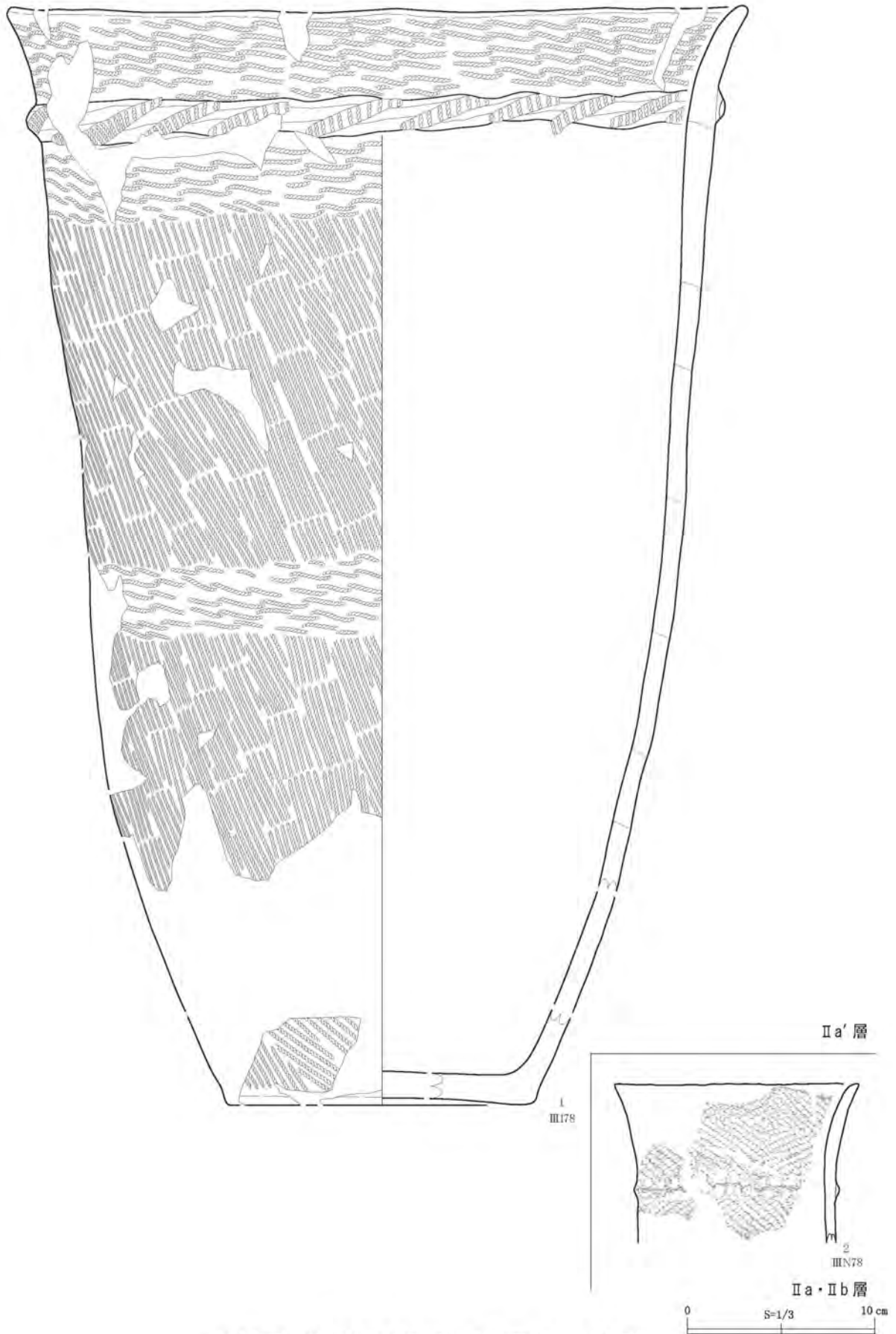
第170図 捨場出土土器9 (II a層)



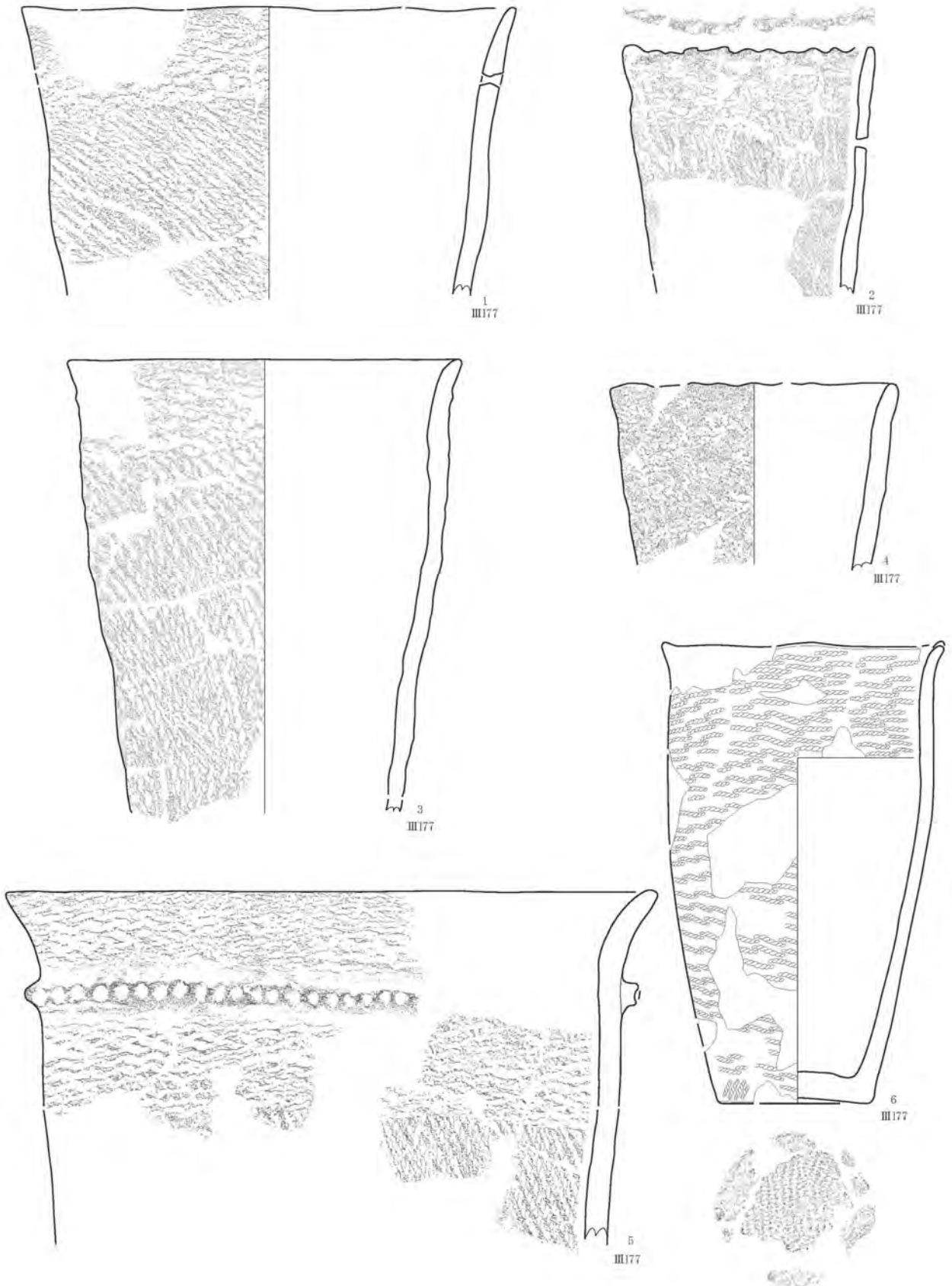
第171図 捨場出土土器10 (IIa層)



第172図 捨場出土土器11 (II a層)



第173図 捨場出土土器12 (II a' 層, II a · II b 層)



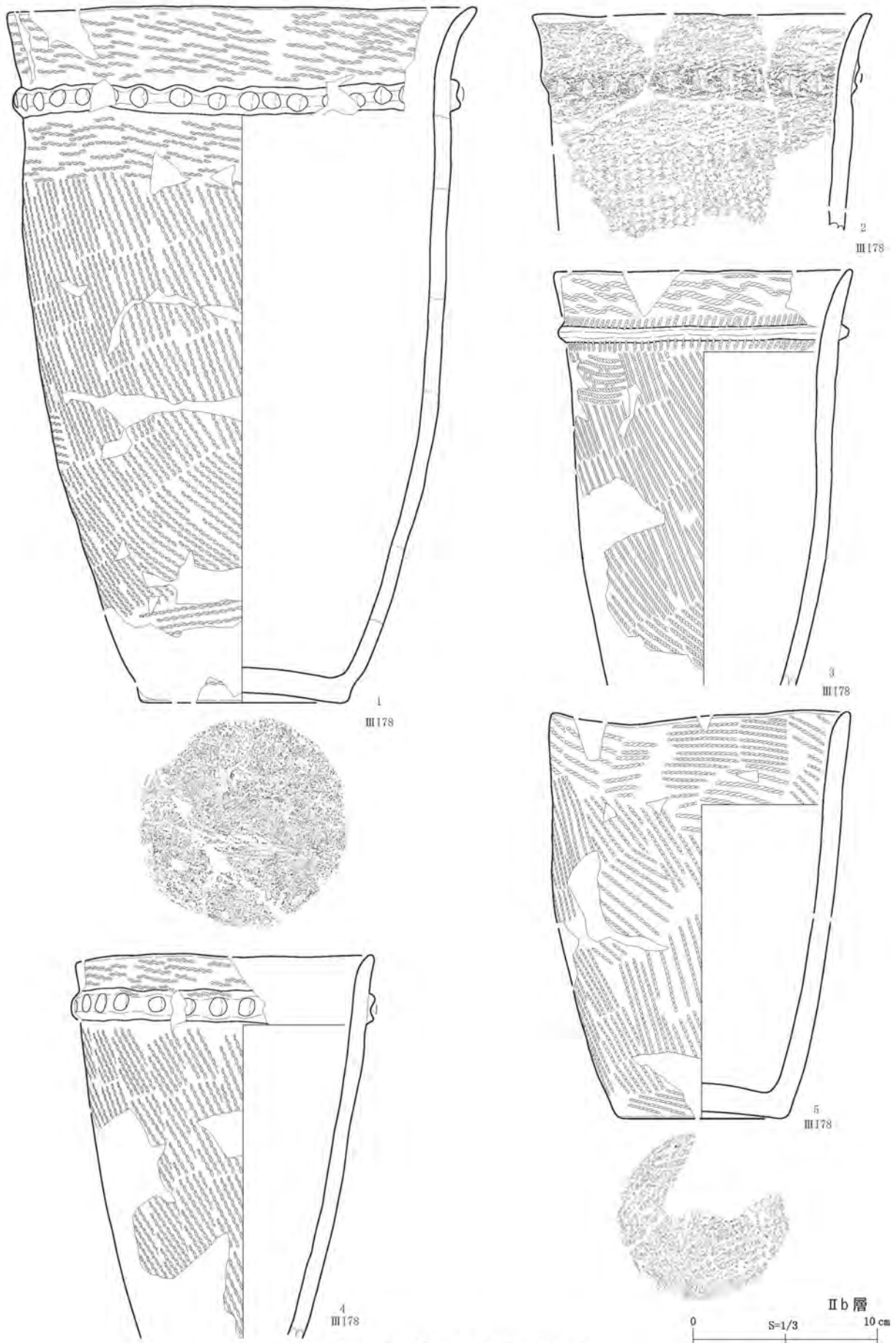
IIb層

0 S=1/3 10 cm

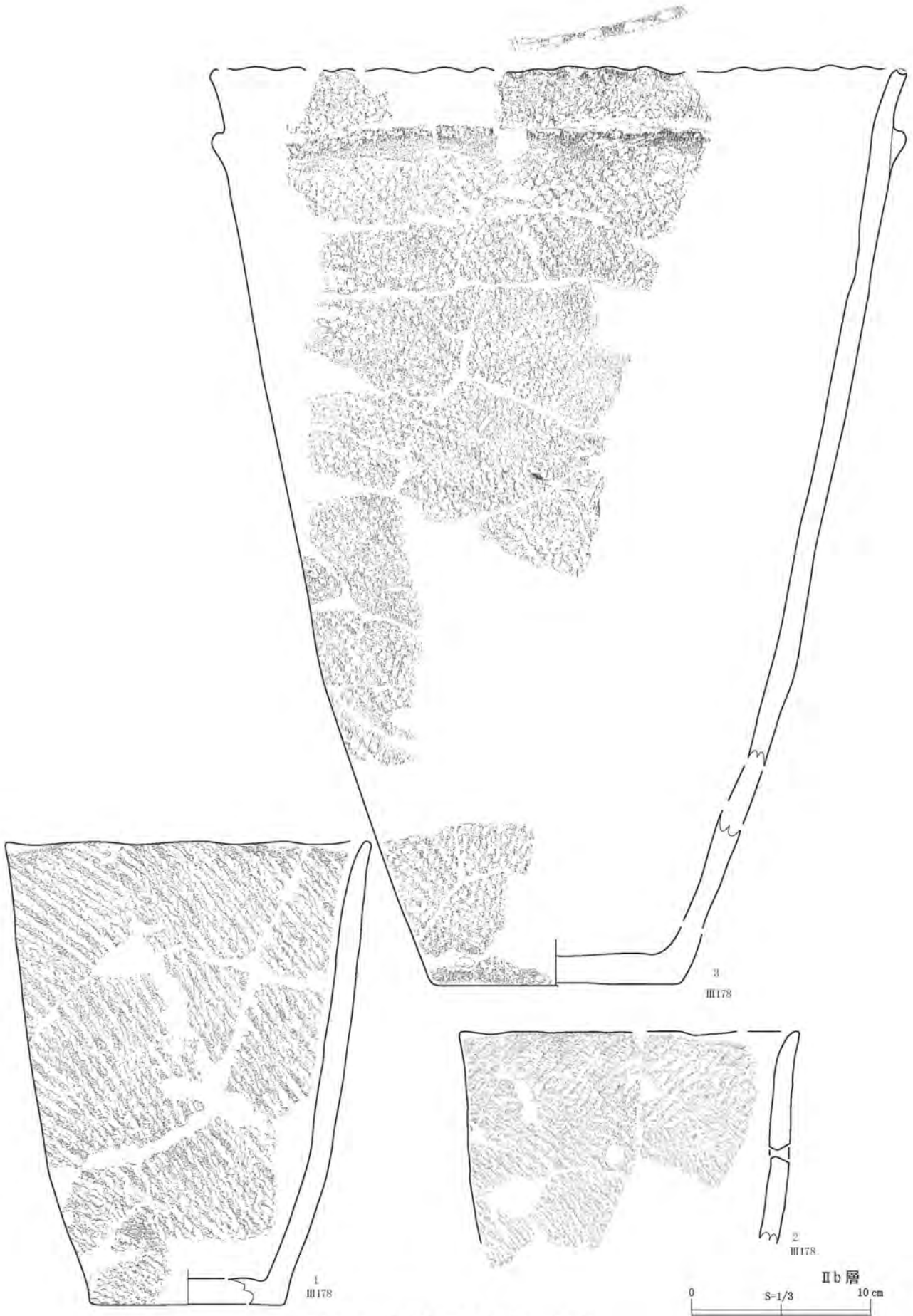
第174図 捨場出土土器13 (IIb層)



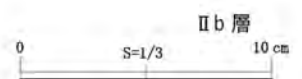
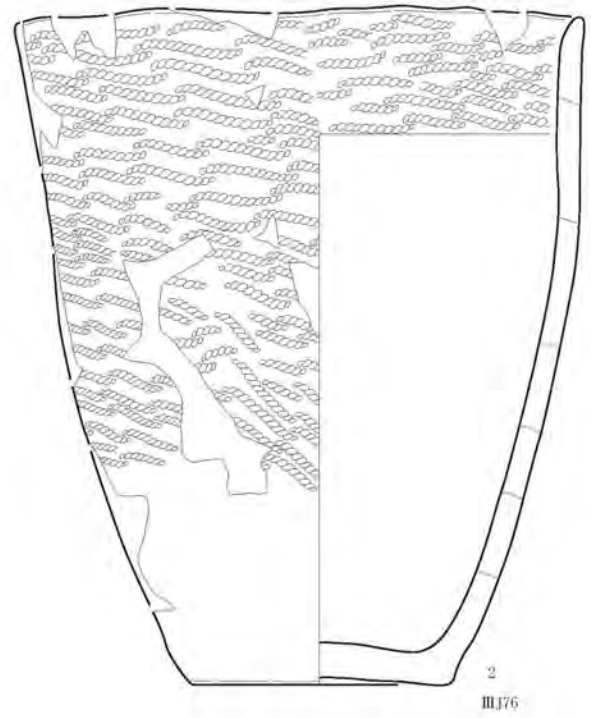
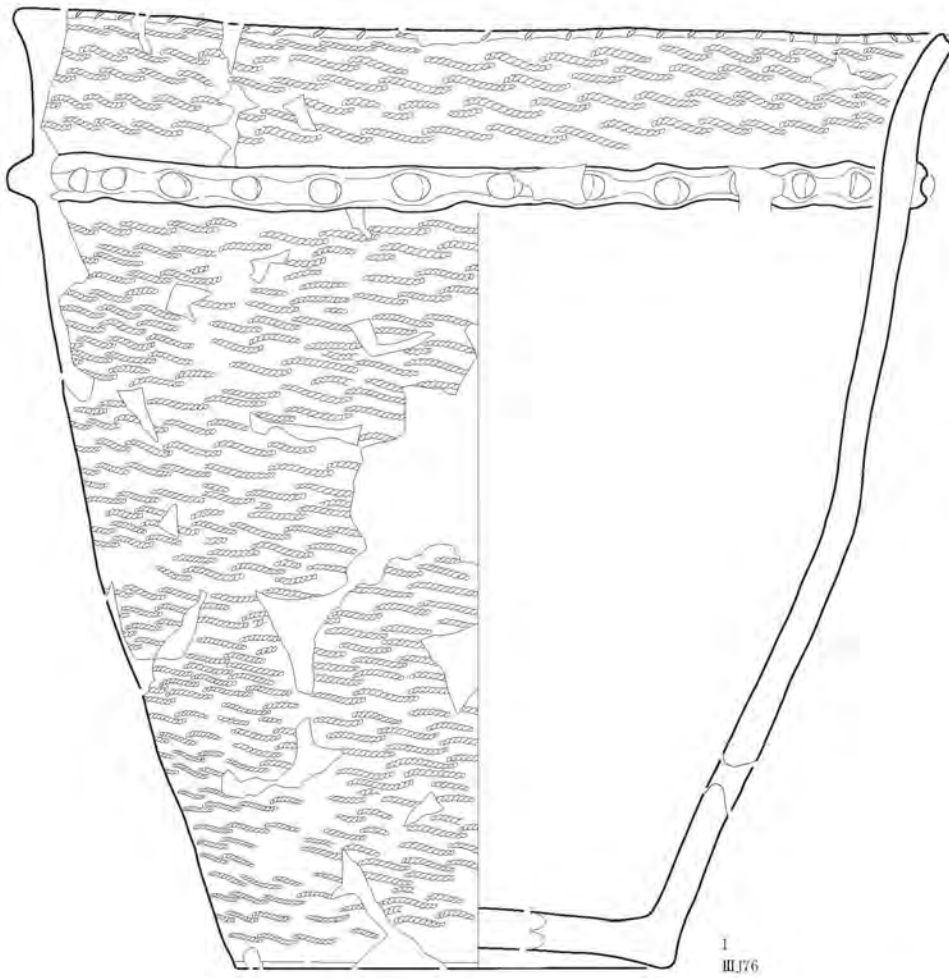
第175図 捨場出土土器14 (IIb層)



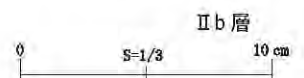
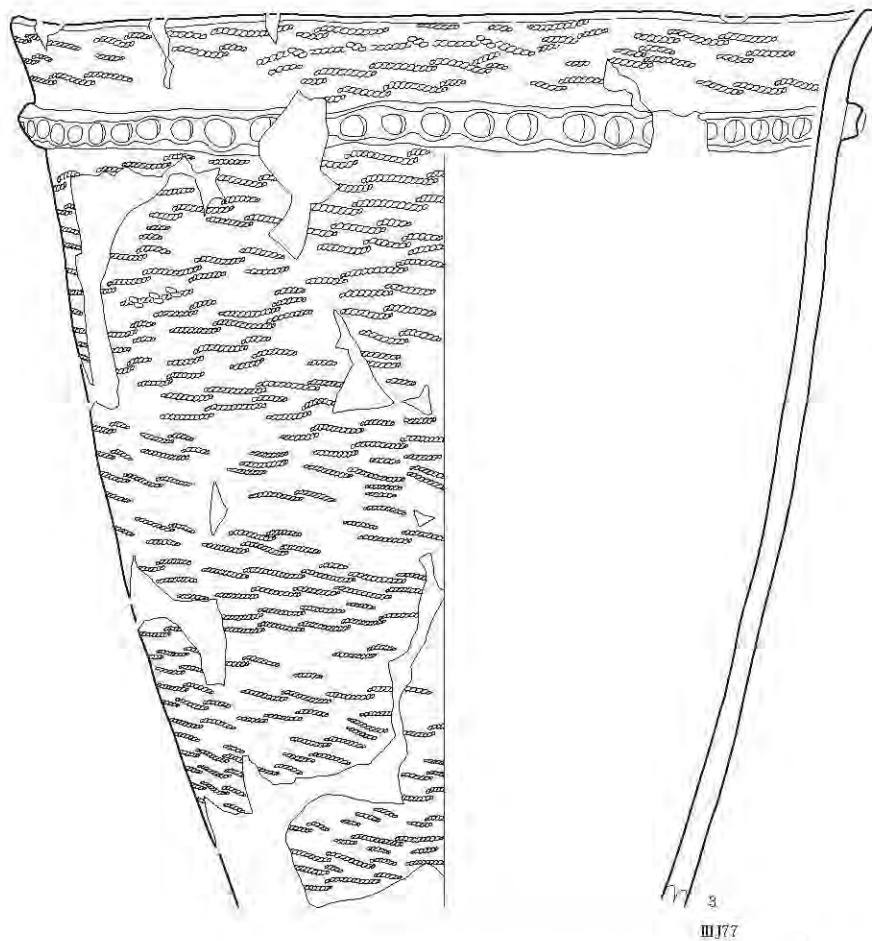
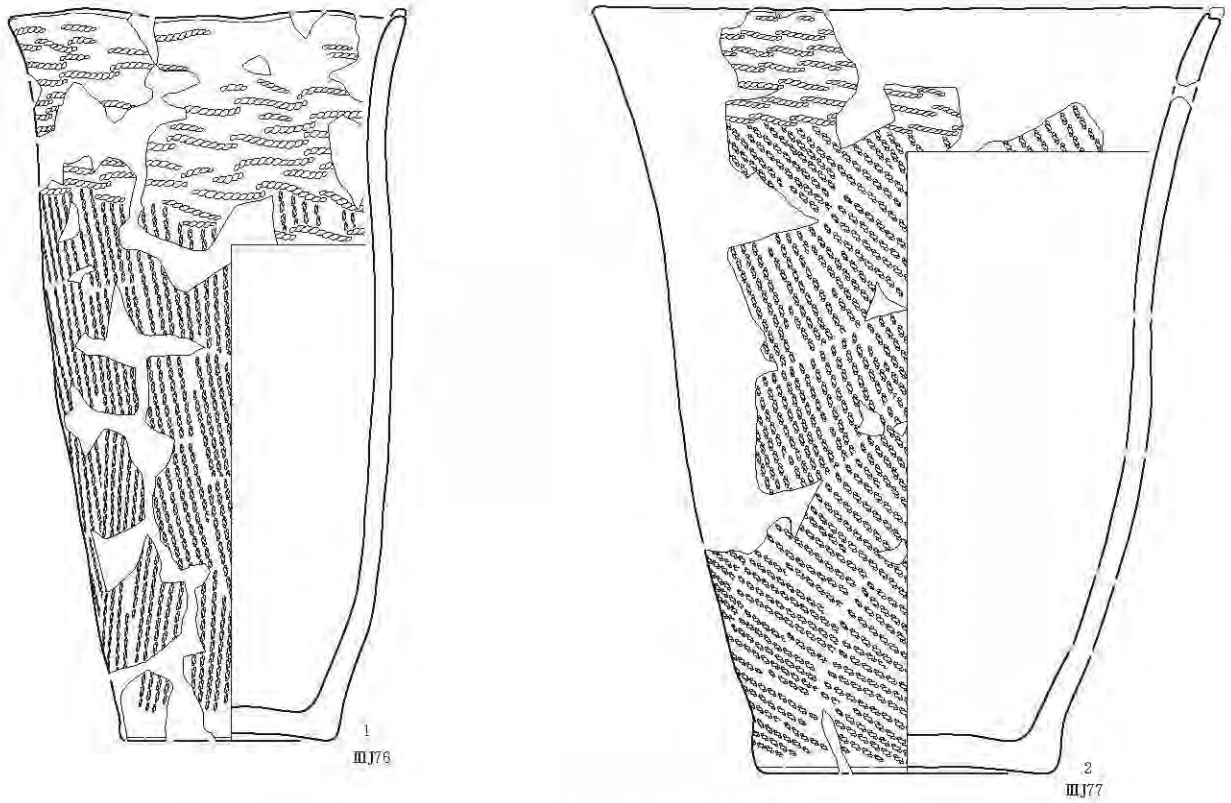
第176図 捨場出土土器15 (IIb層)



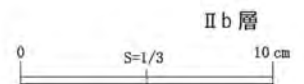
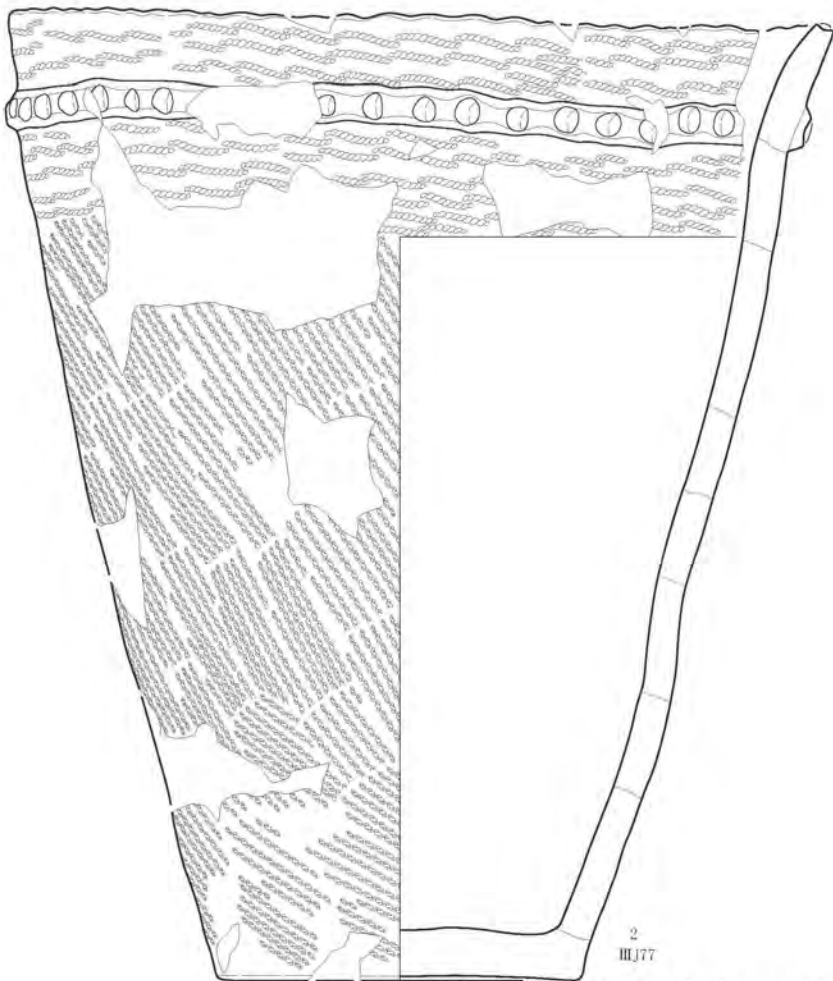
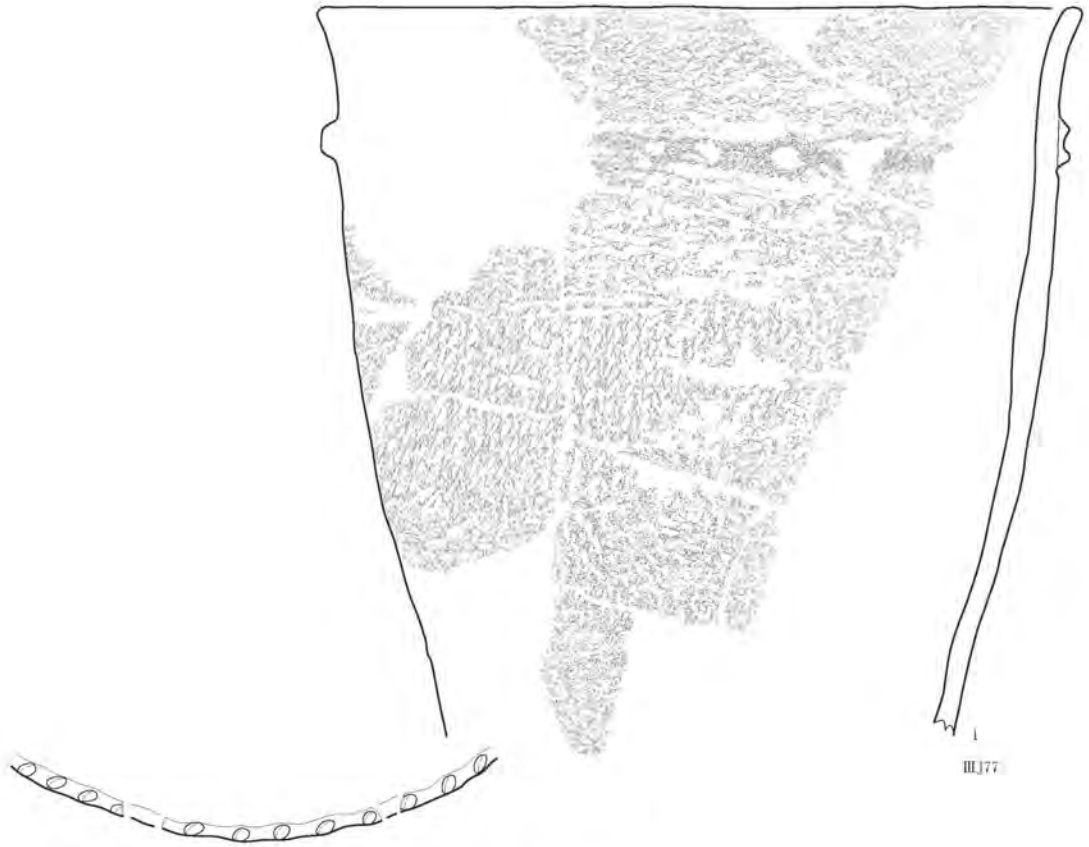
第177図 捨場出土土器16 (II b層)



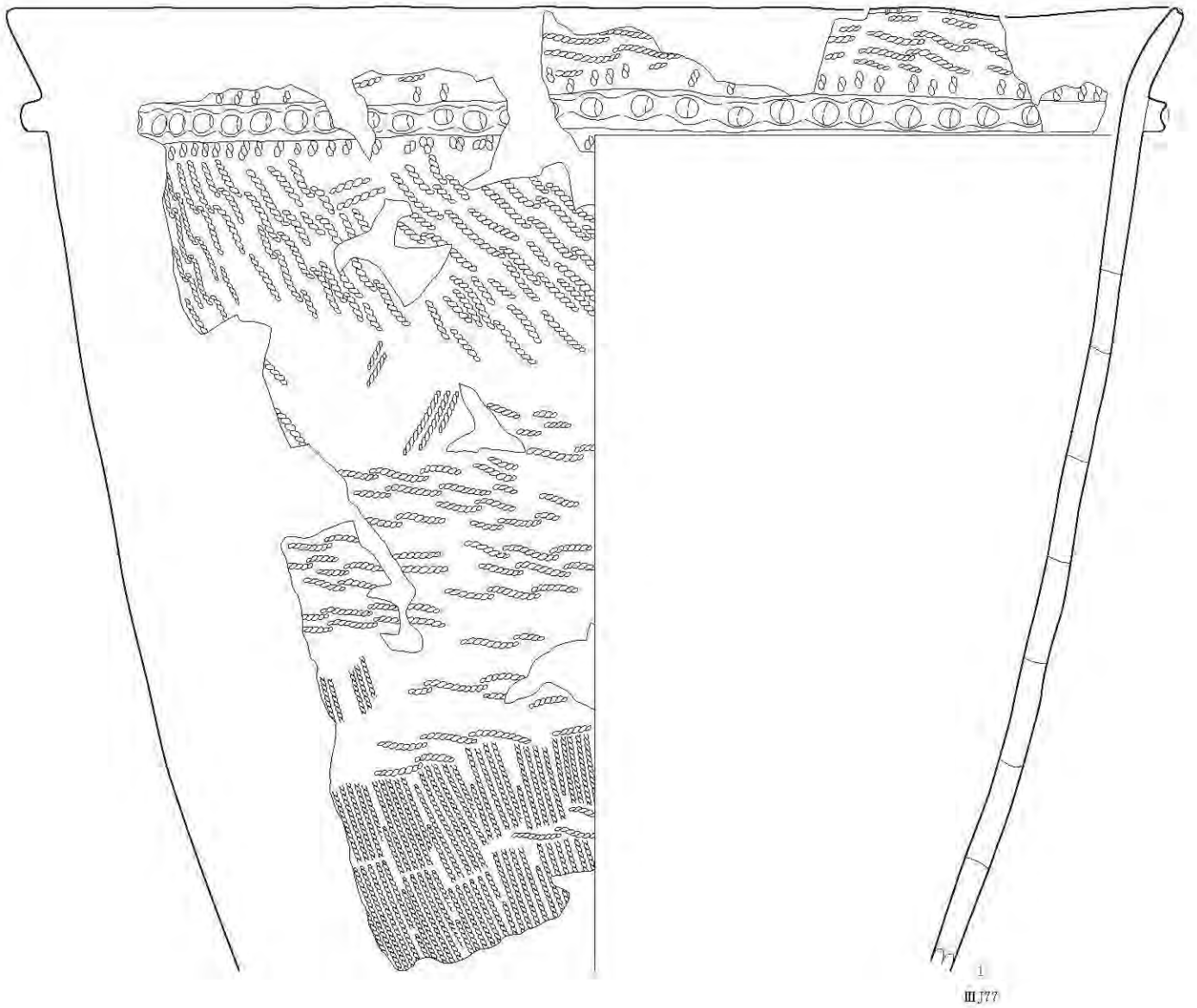
第178図 捨場出土土器17 (IIb層)



第179図 捨場出土土器18 (IIb層)

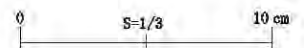


第180図 捨場出土土器19 (IIb層)

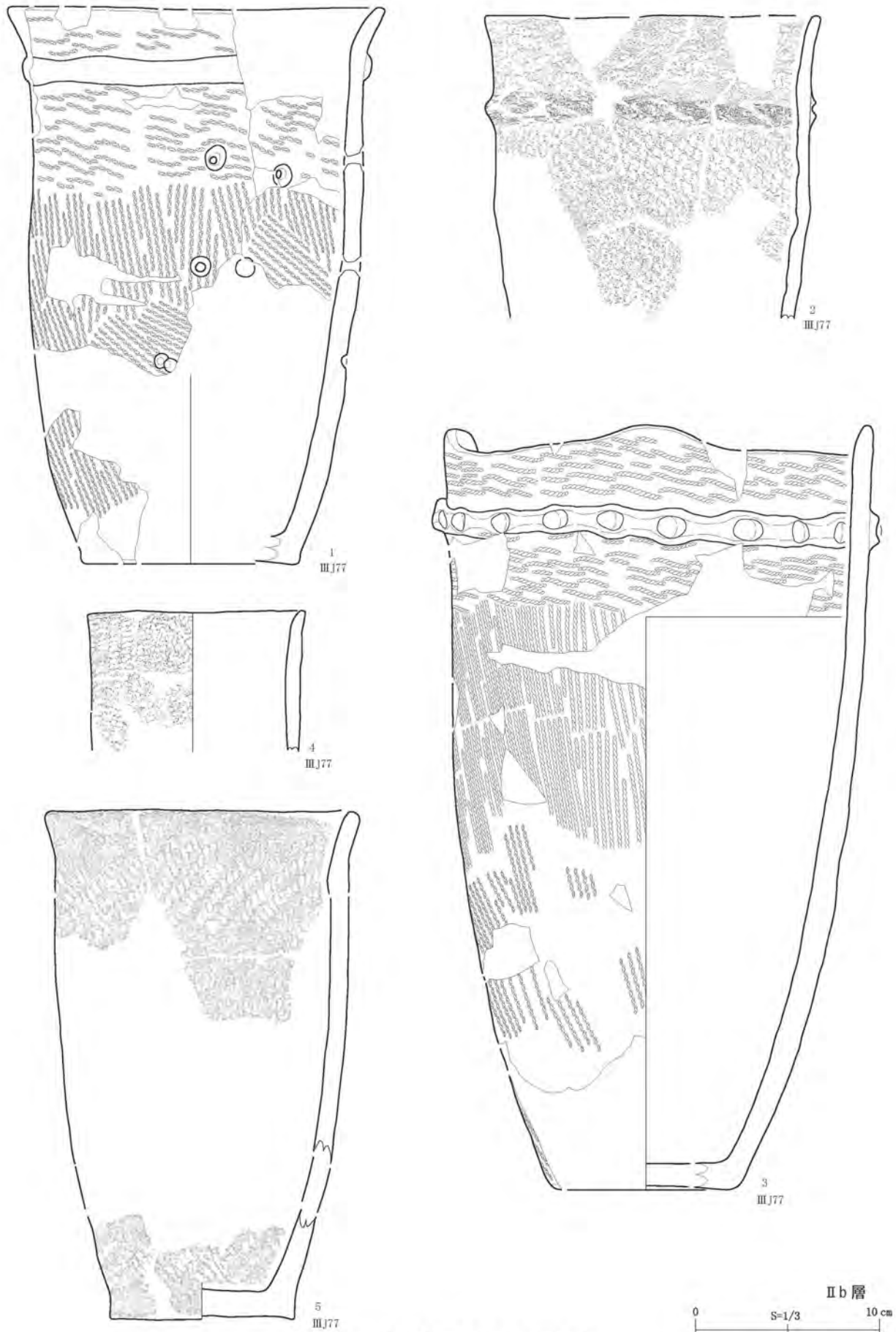


IIIJ77

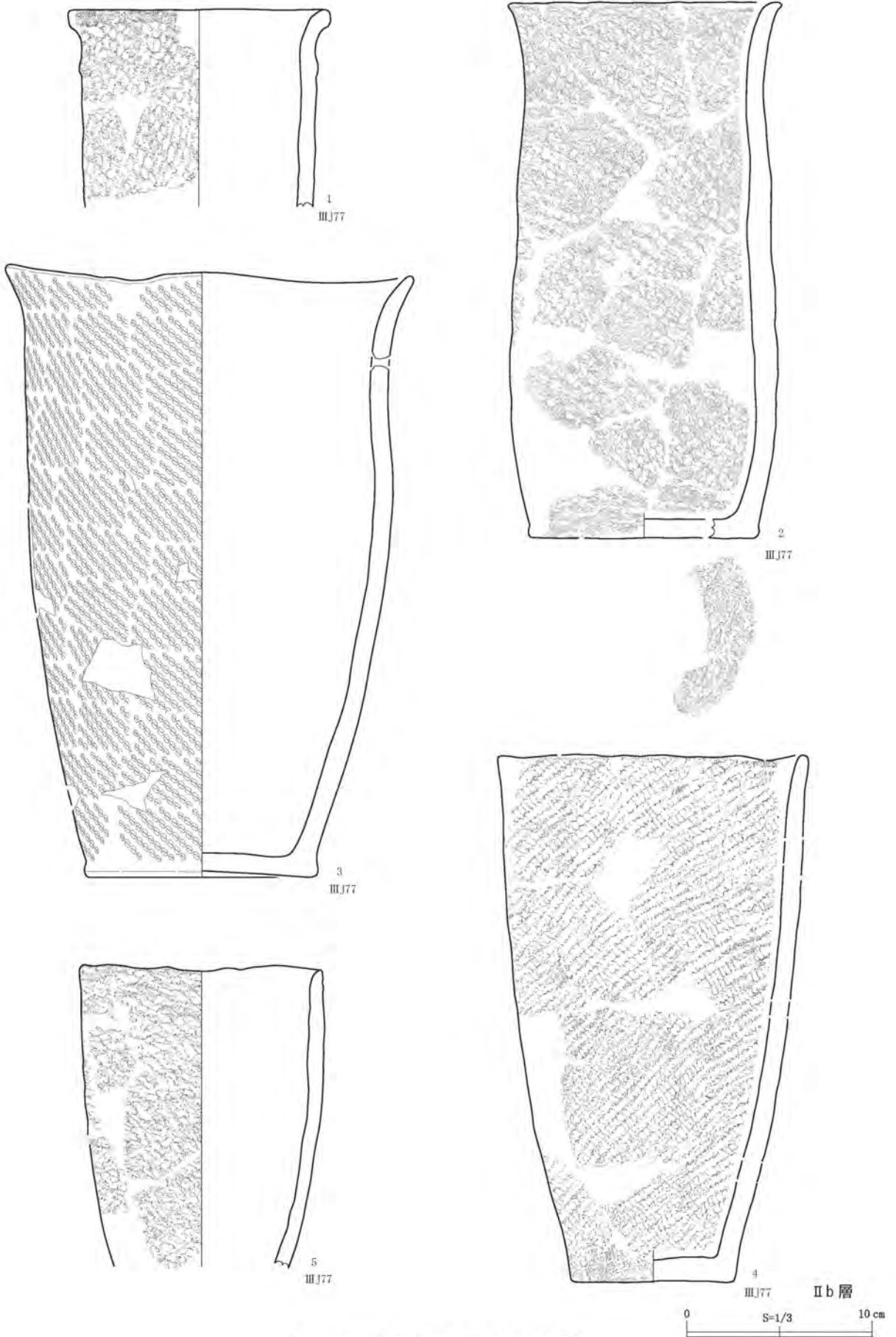
II b 層



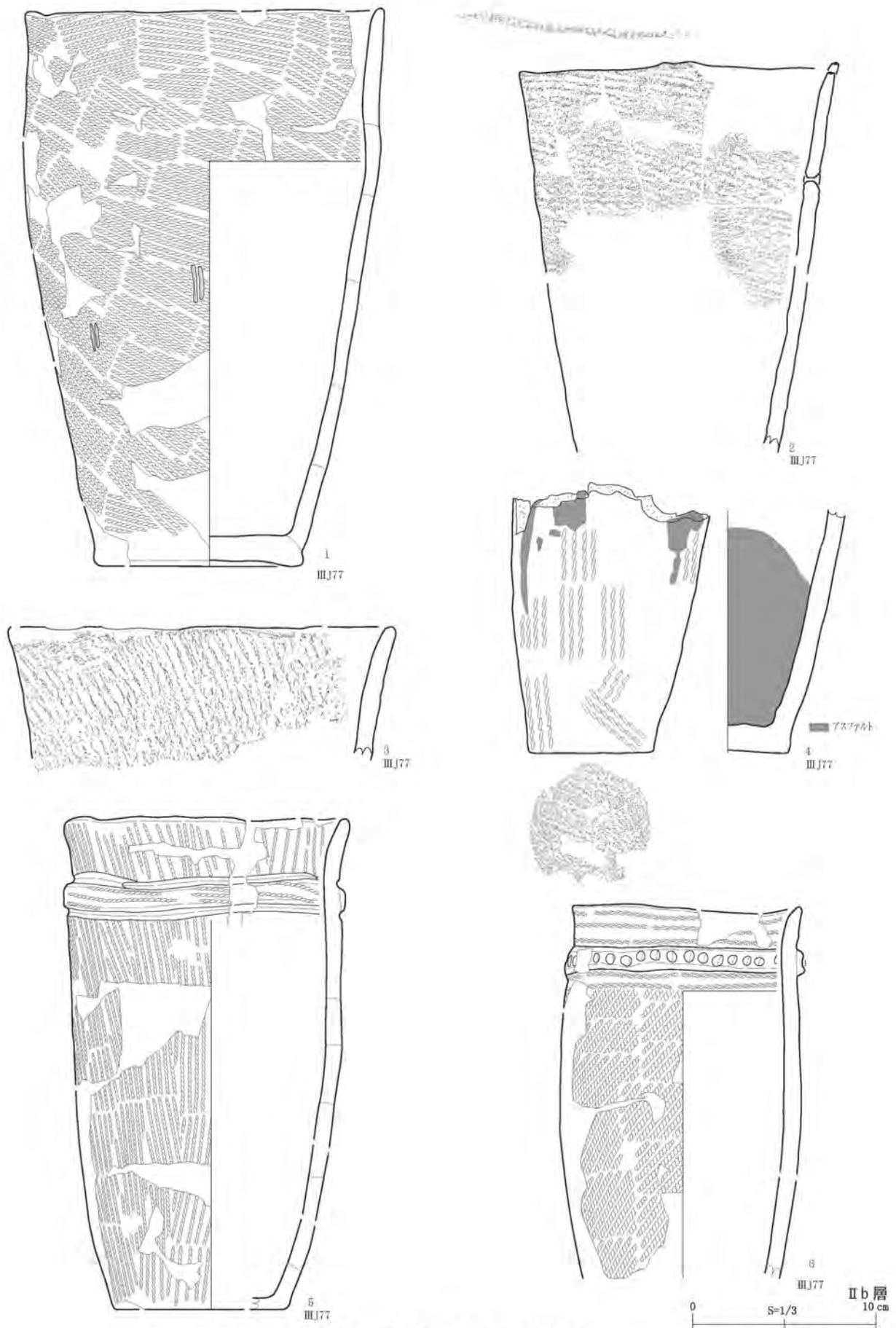
第181図 捨場出土土器20 (II b層)



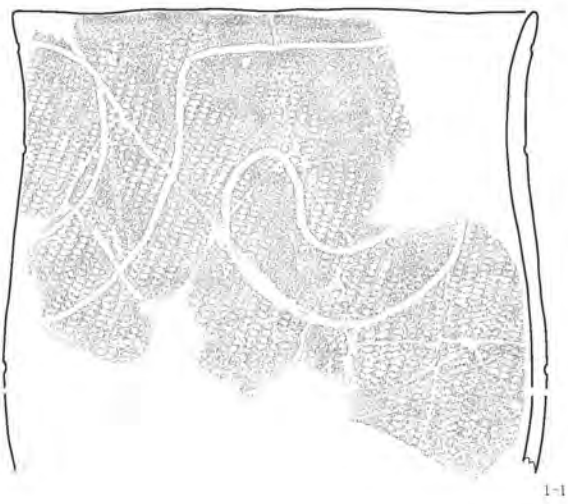
第182図 捨場出土土器21 (IIb層)



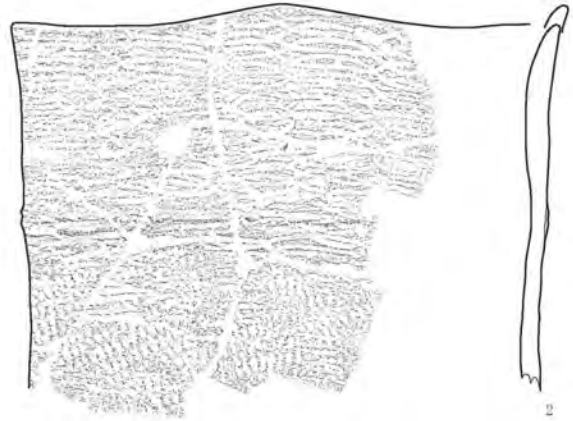
第183図 捨場出土土器22 (II b層)



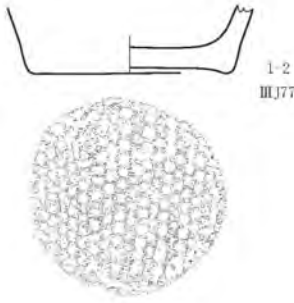
第184図 捨場出土土器23 (IIb層)



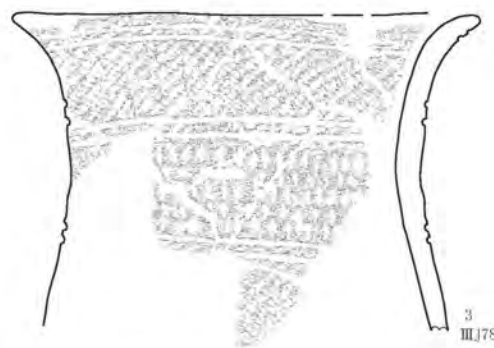
1-1



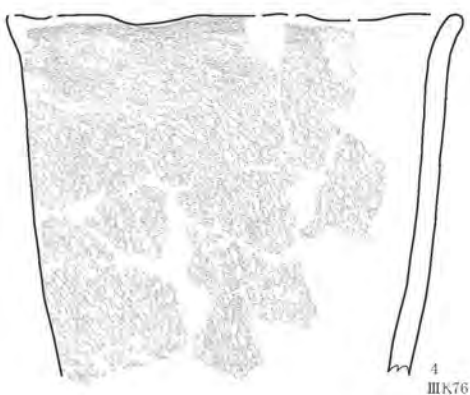
2
IIIJ78



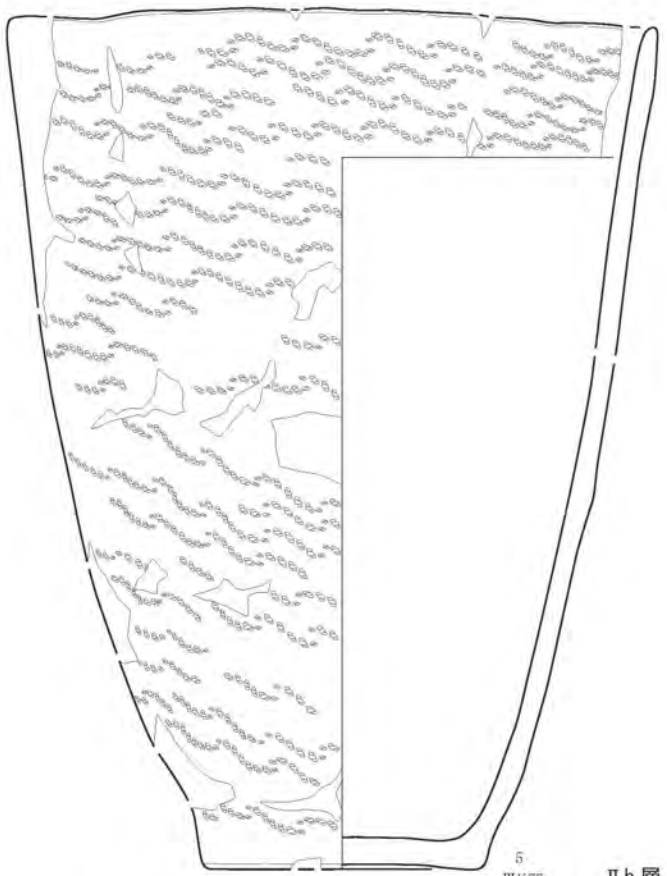
1-2
IIIJ77



3
IIIJ78

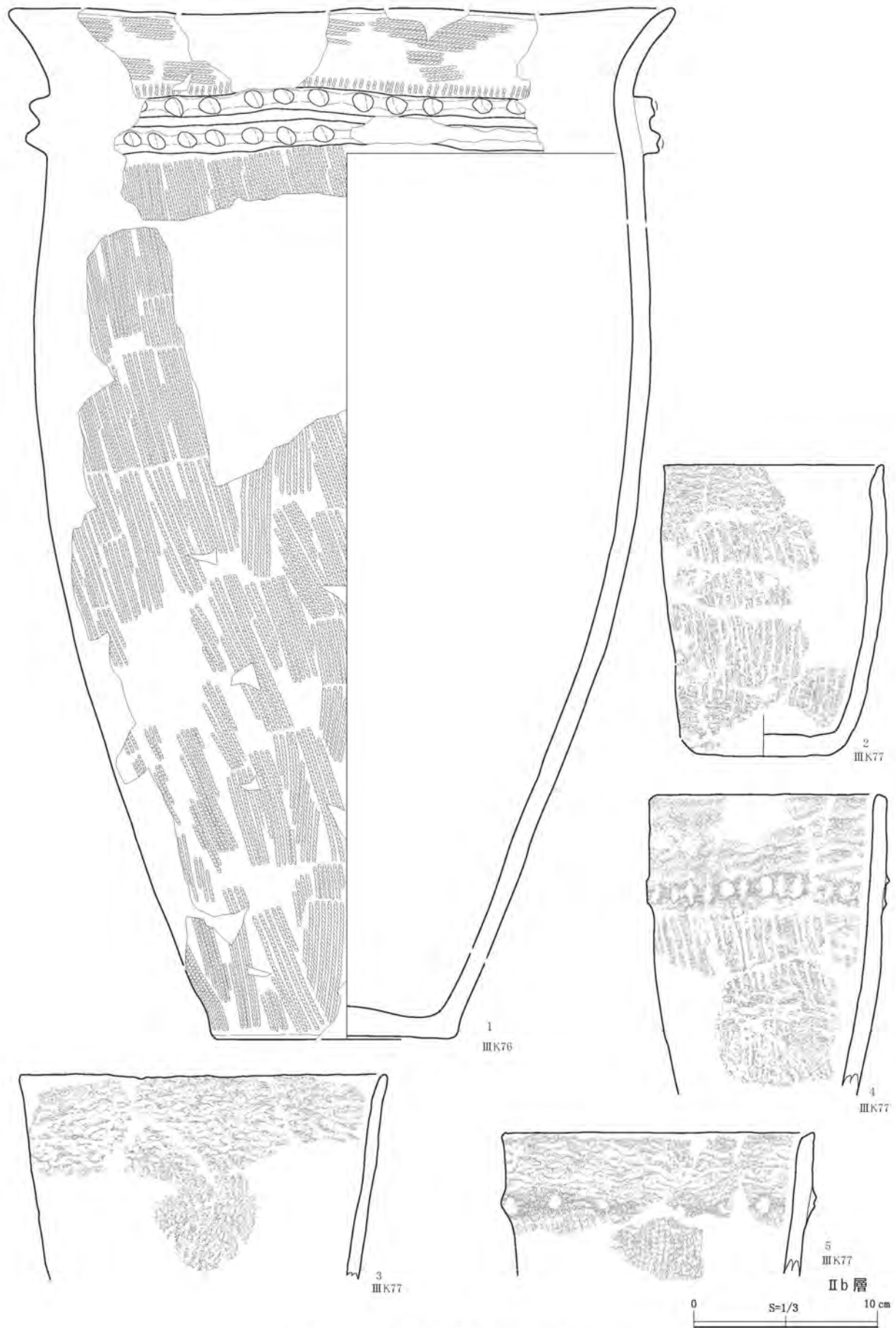


4
IIIK76

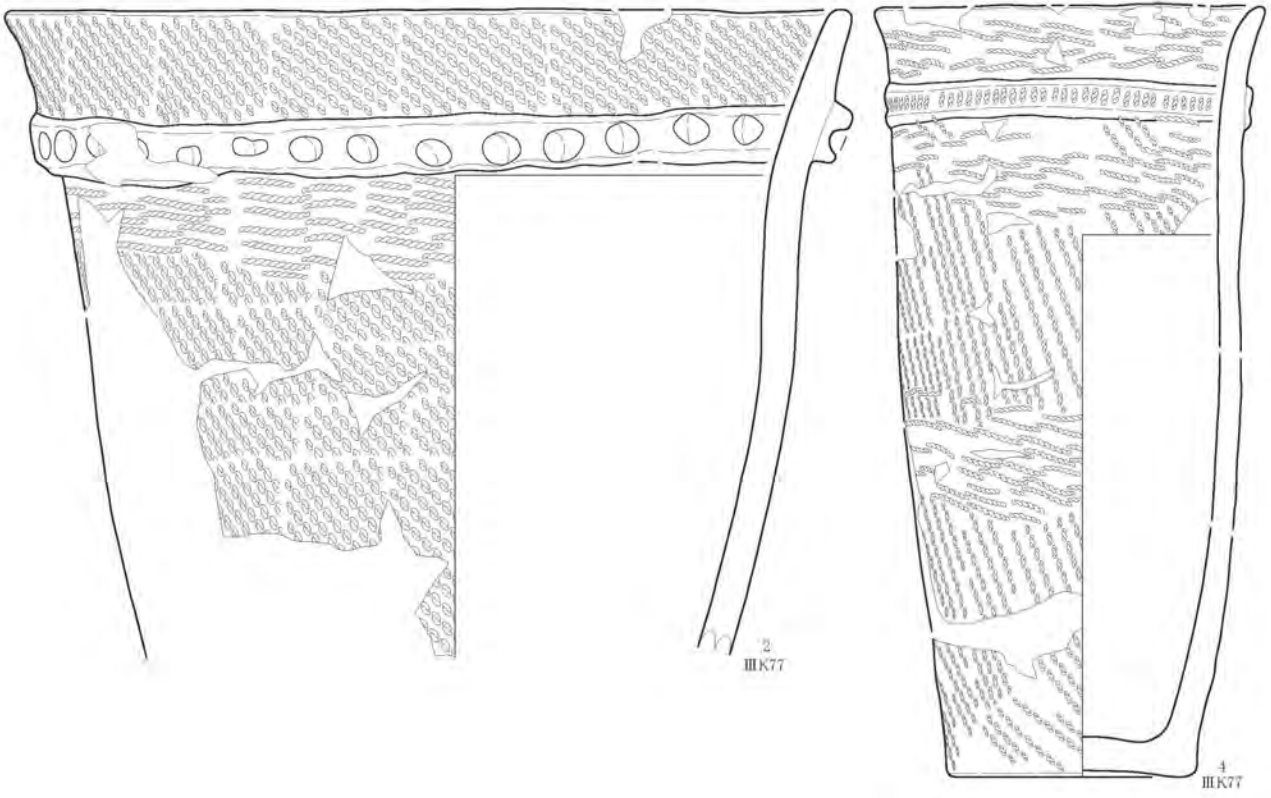
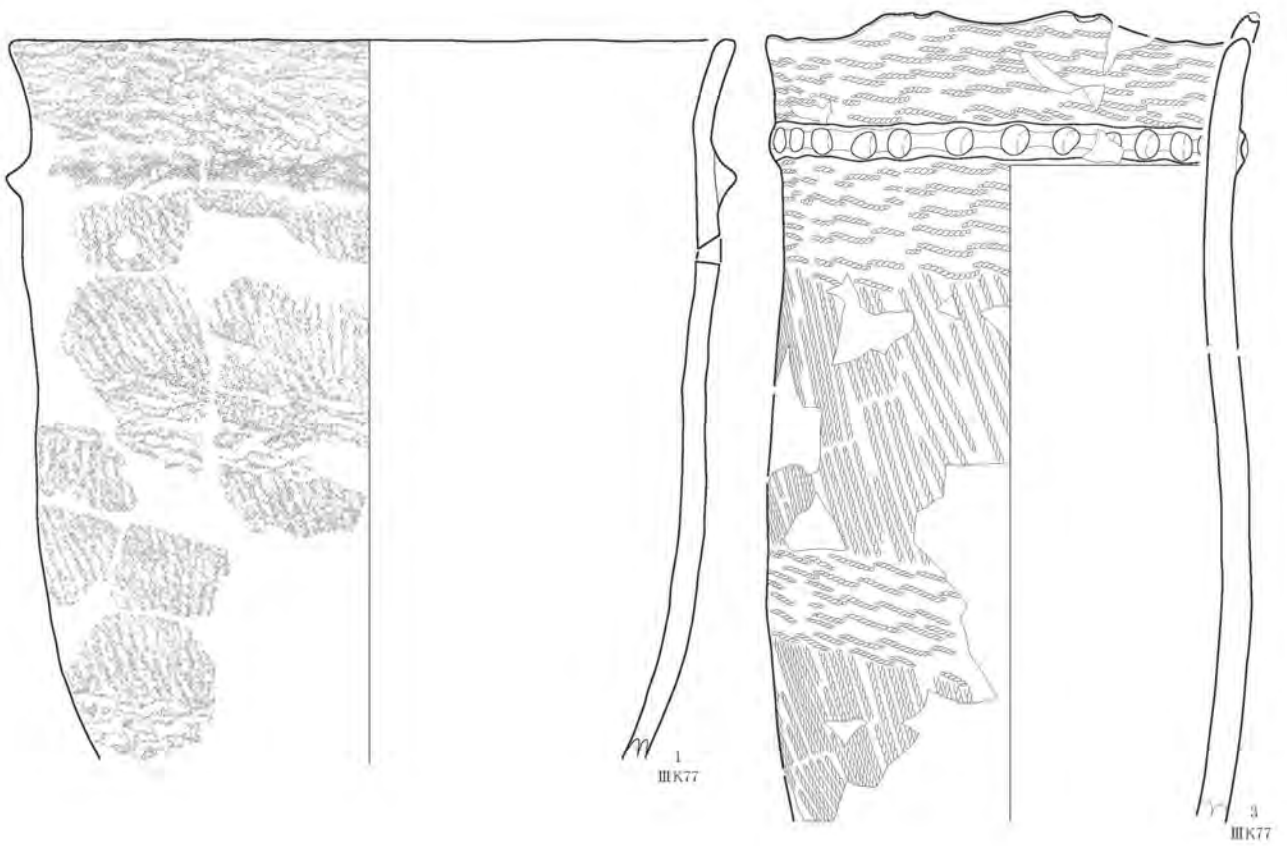


5
IIIK77
S=1/3
II b 層
10 cm

第185図 捨場出土土器24 (II b層)

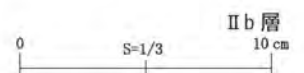
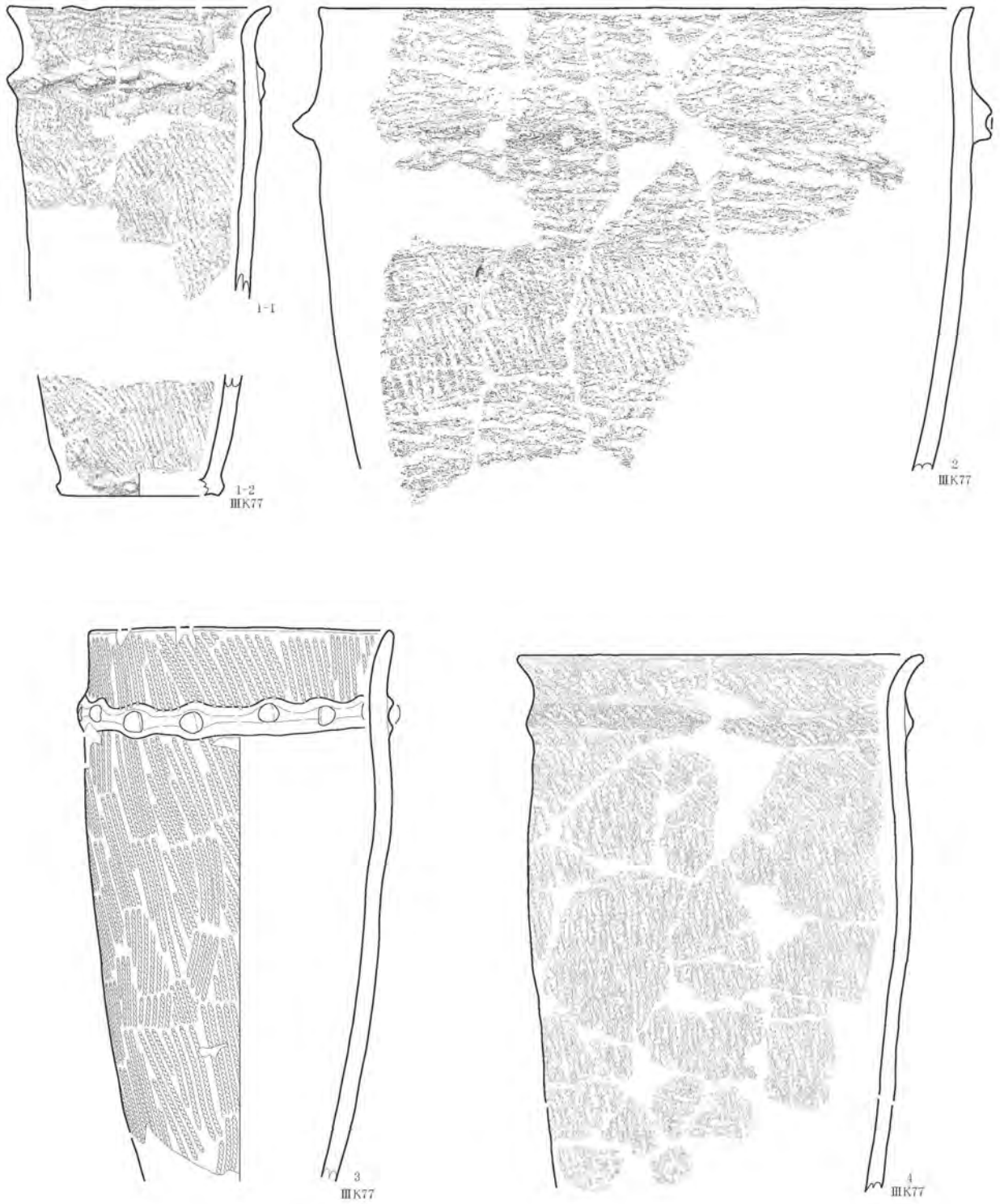


第186図 捨場出土土器25 (IIb層)

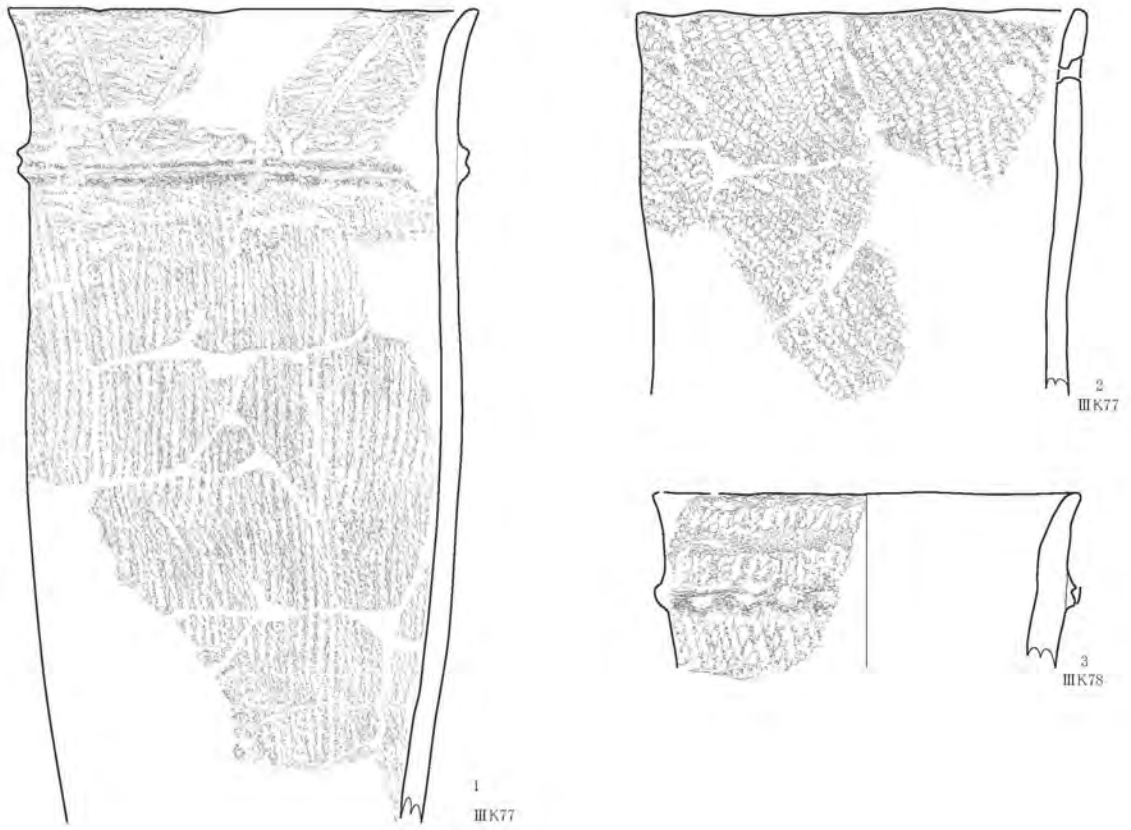


II b 層
0 S=1/3 10 cm

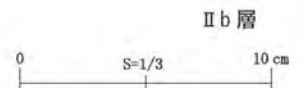
第187図 捨場出土土器26 (II b層)



第188図 捨場出土土器27 (II b層)

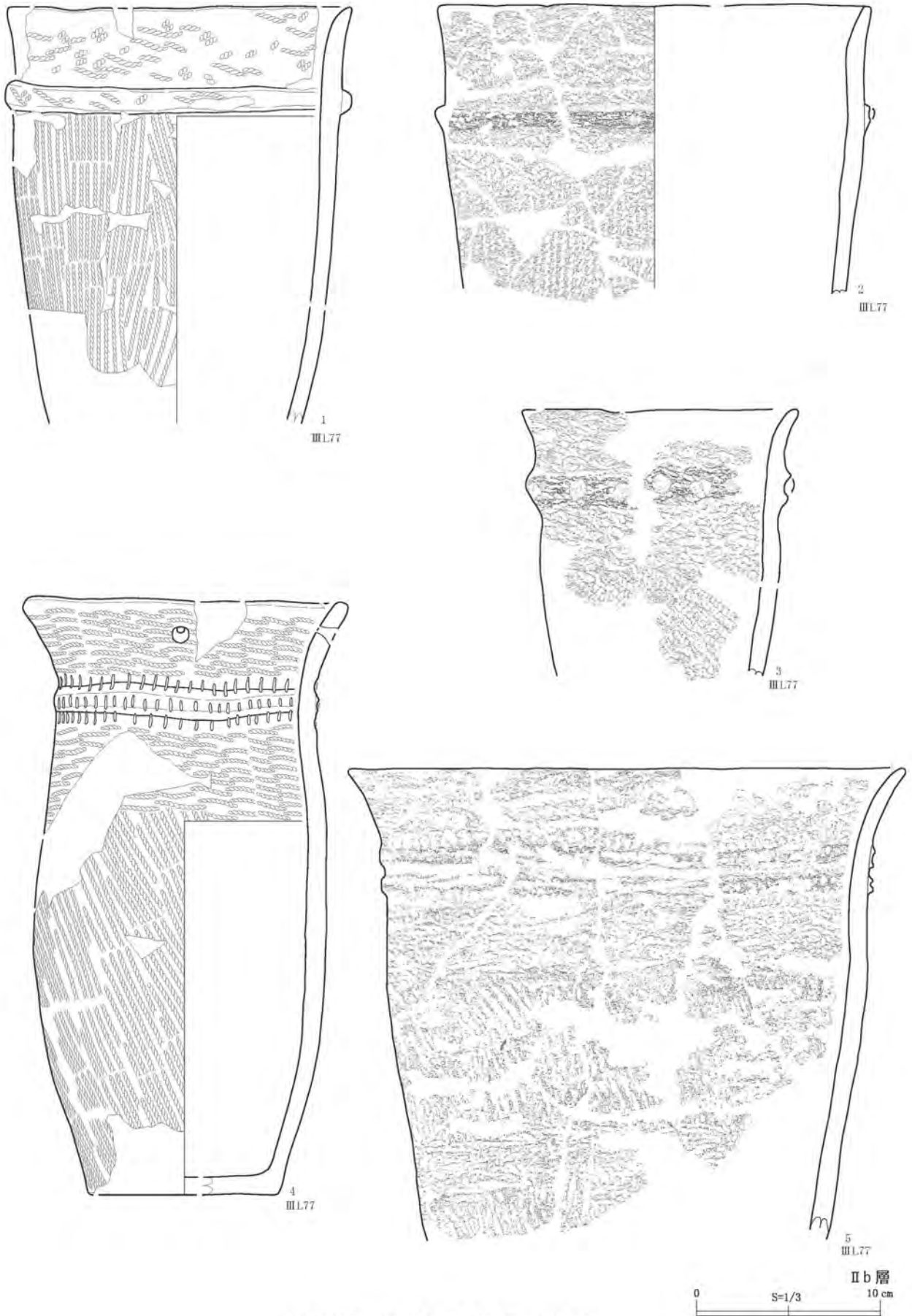


第189図 捨場出土土器28 (IIb層)

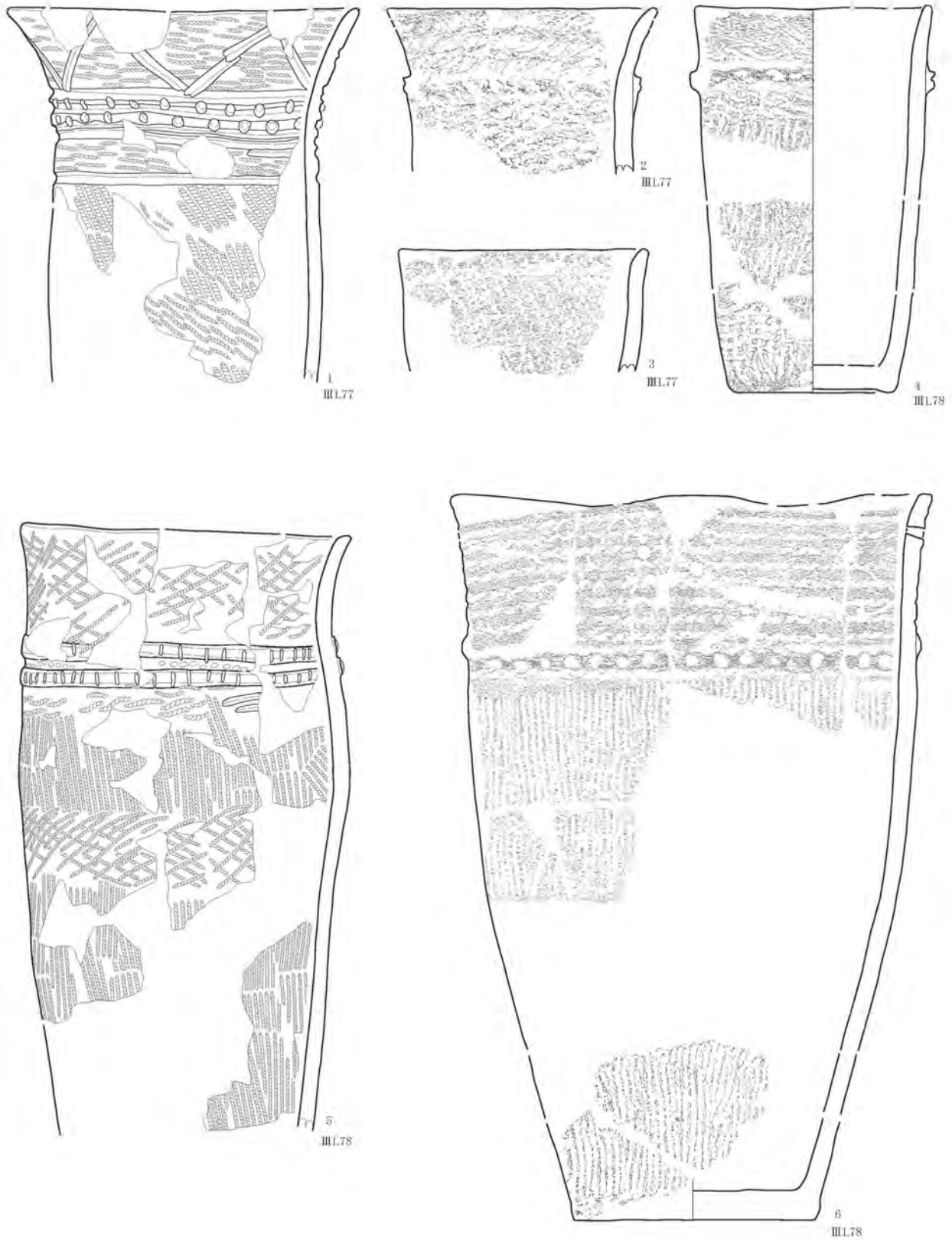




第190図 捨場出土土器29 (IIb層)



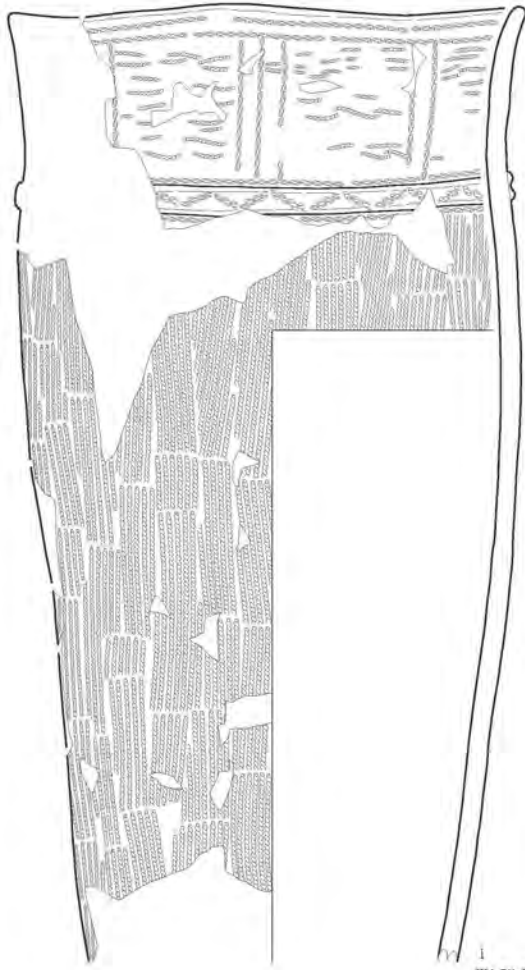
第191図 捨場出土土器30 (IIb層)



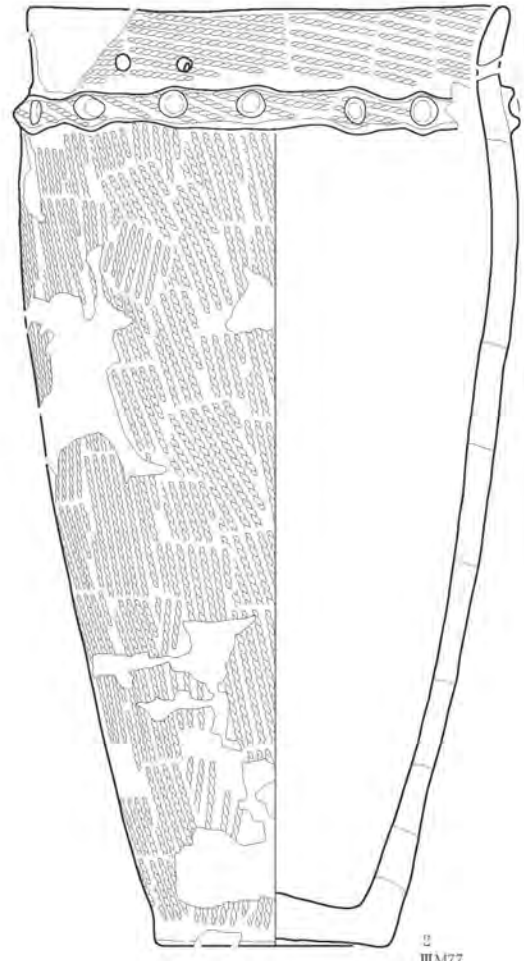
IIb層

0 S=1/3 10 cm

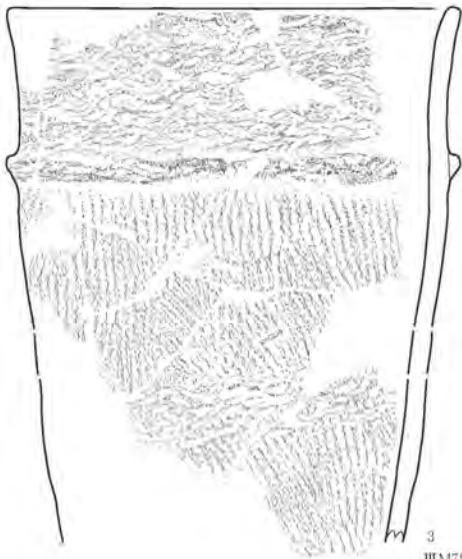
第192図 捨場出土土器31 (IIb層)



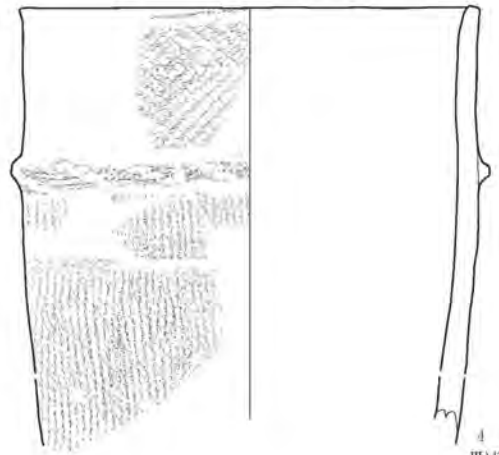
i
III.78 III M78



ii
III M77

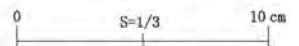


3
III M78

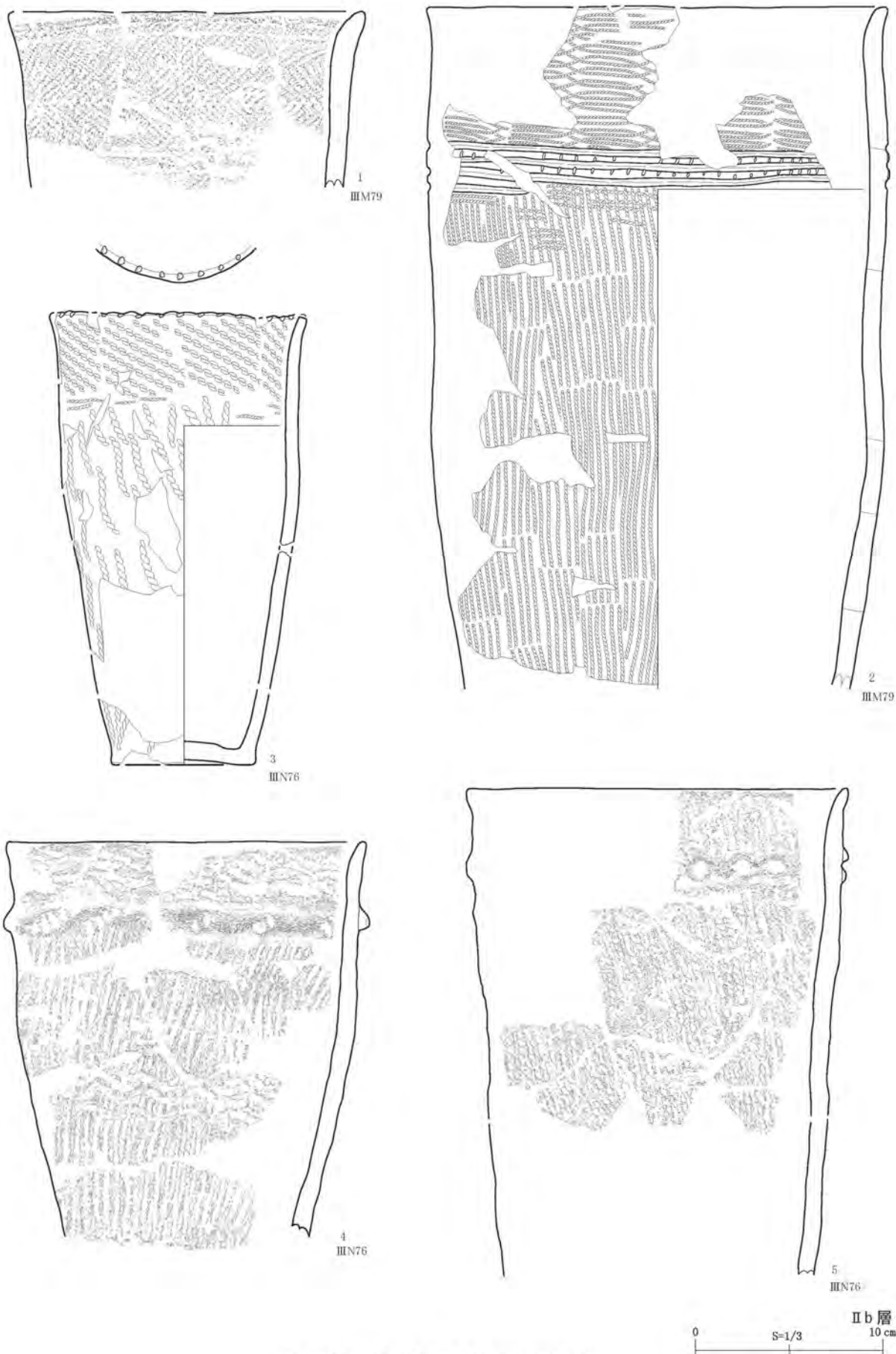


4
III M79

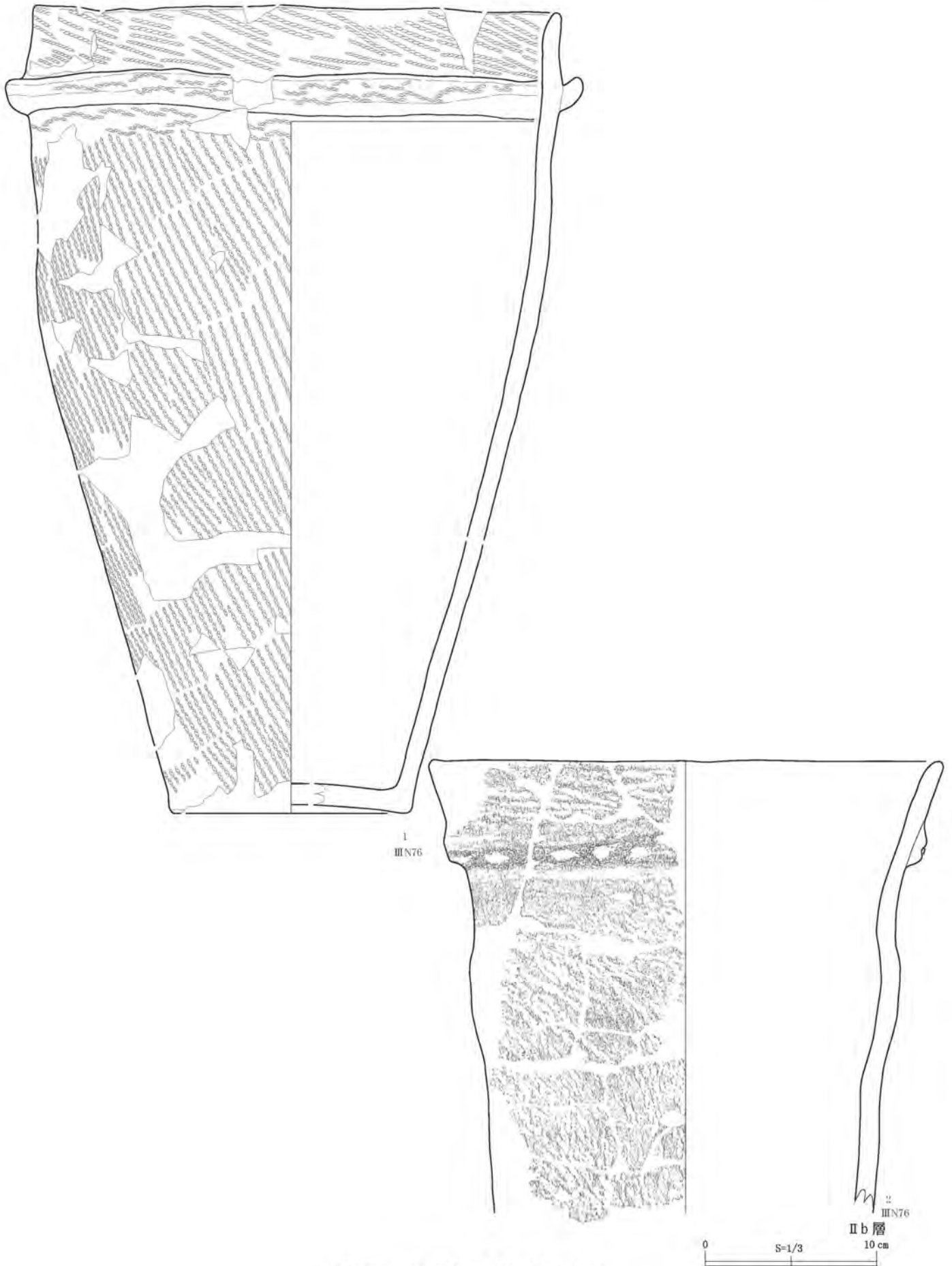
II b 層



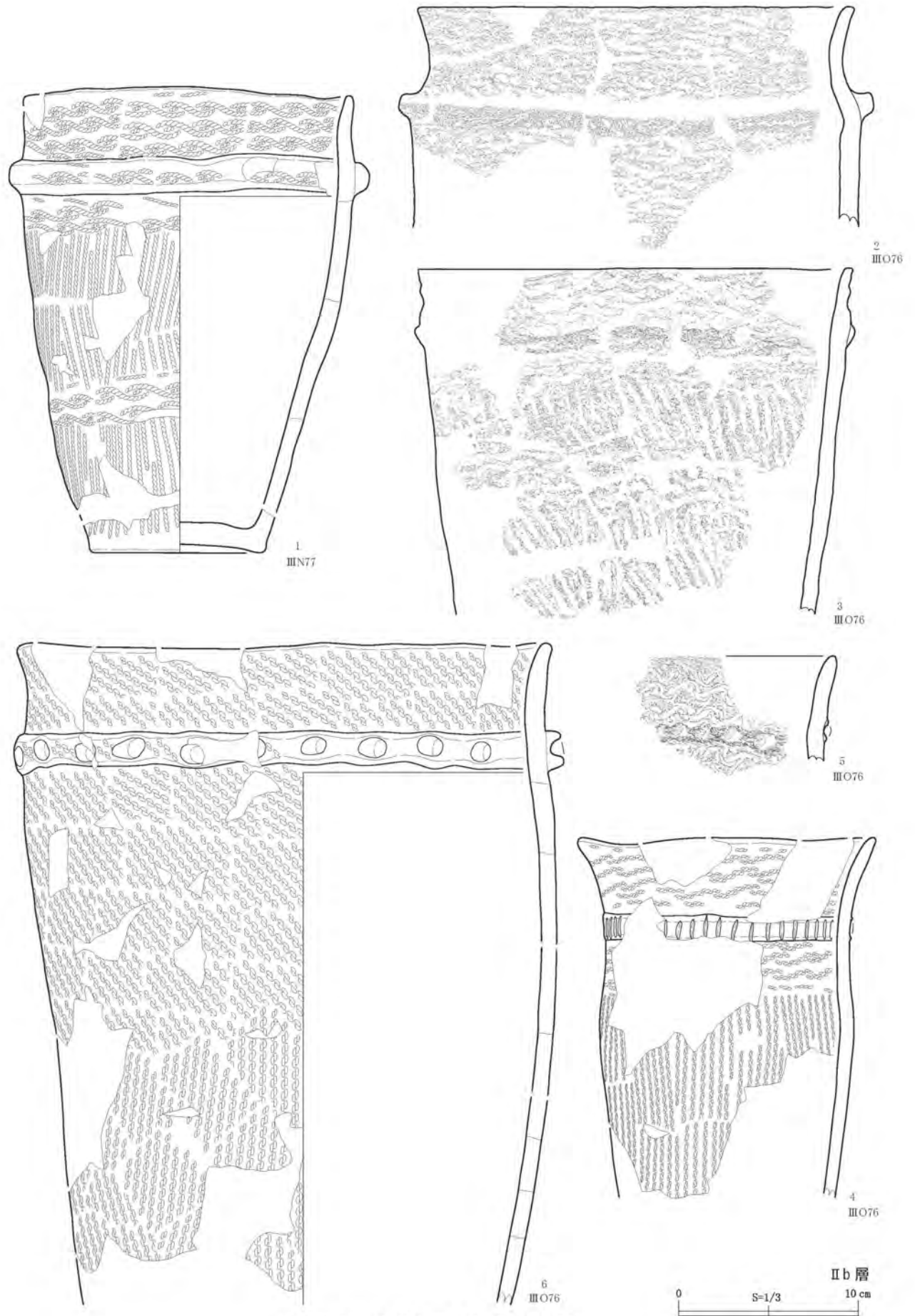
第193図 捨場出土土器32 (II b層)



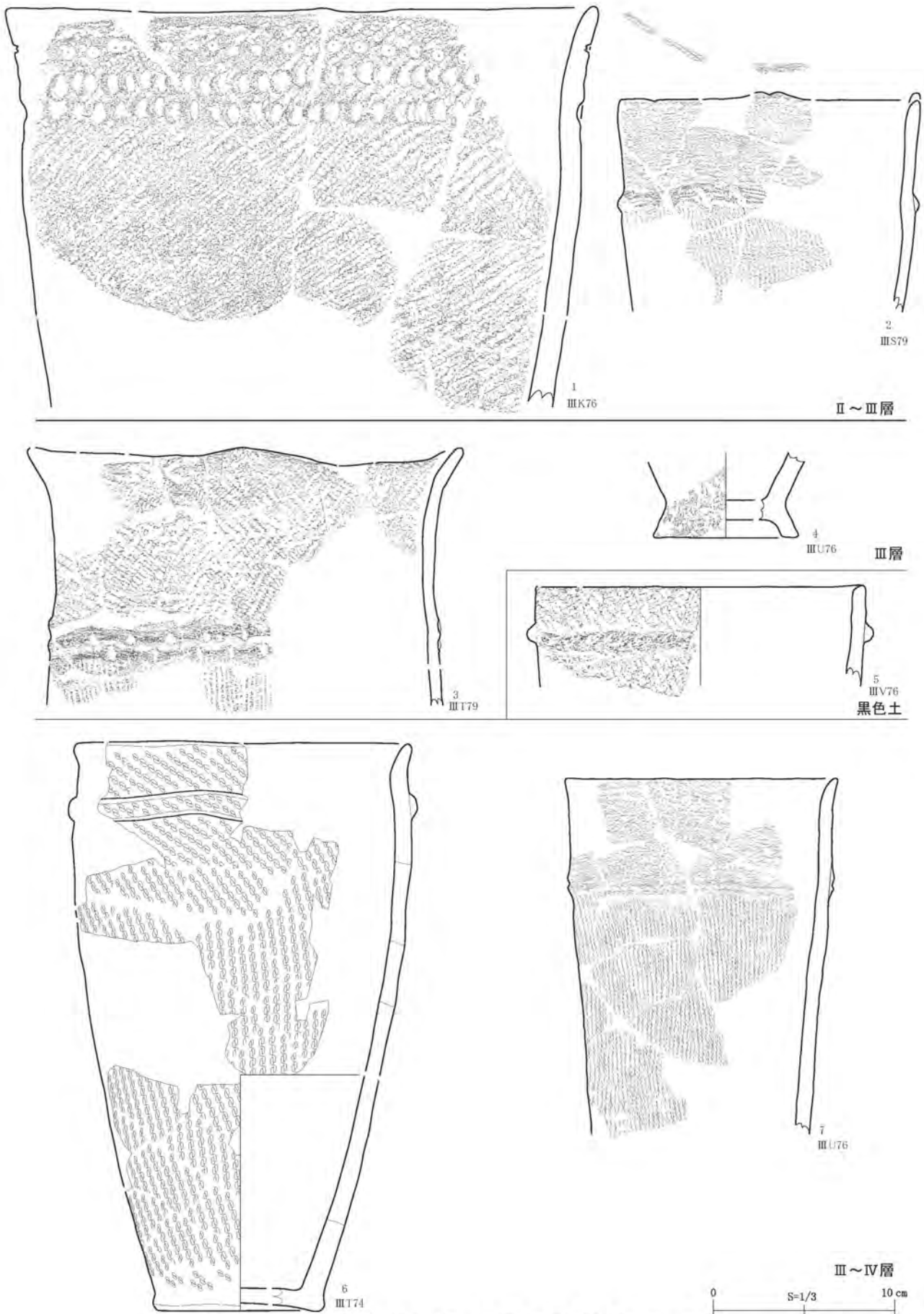
第194図 捨場出土土器33 (IIb層)



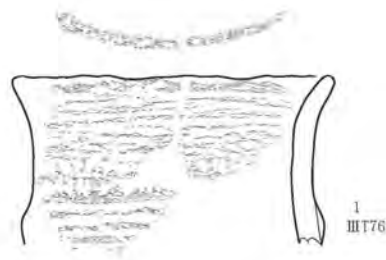
第195図 捨場出土土器34 (IIb層)



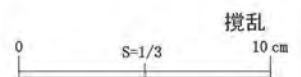
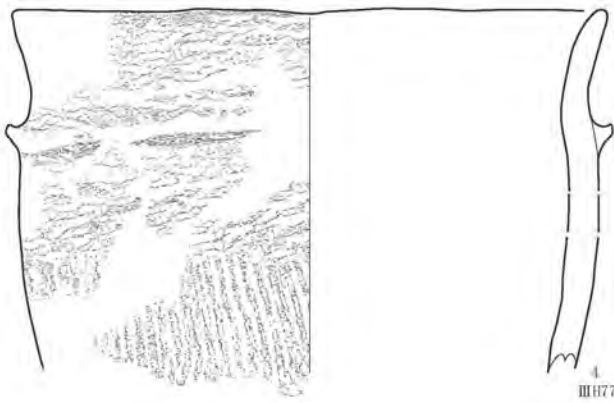
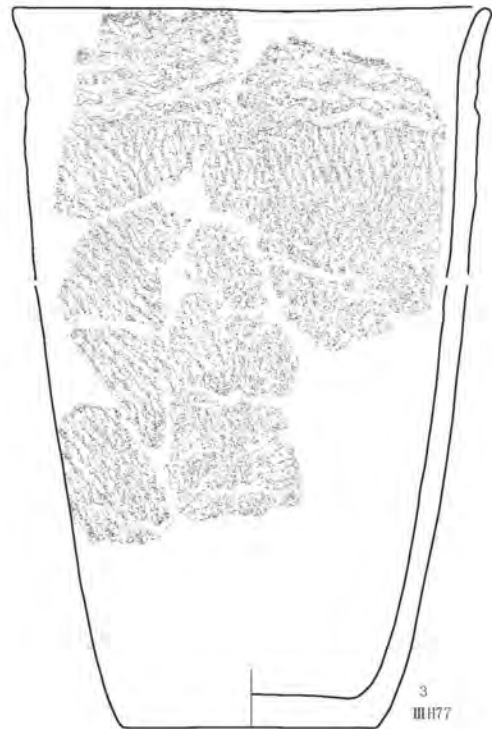
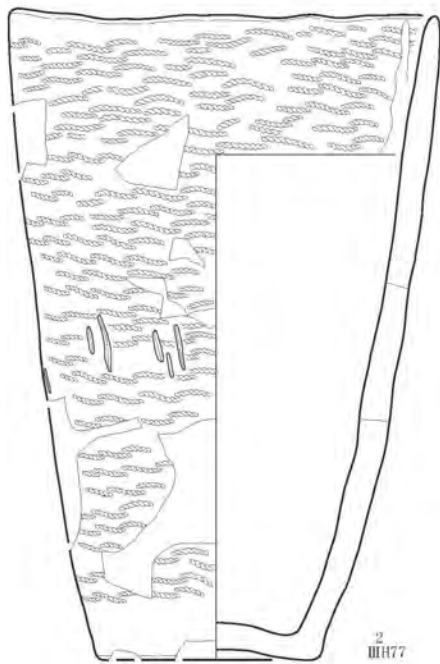
第196図 捨場出土土器35 (IIb層)



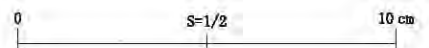
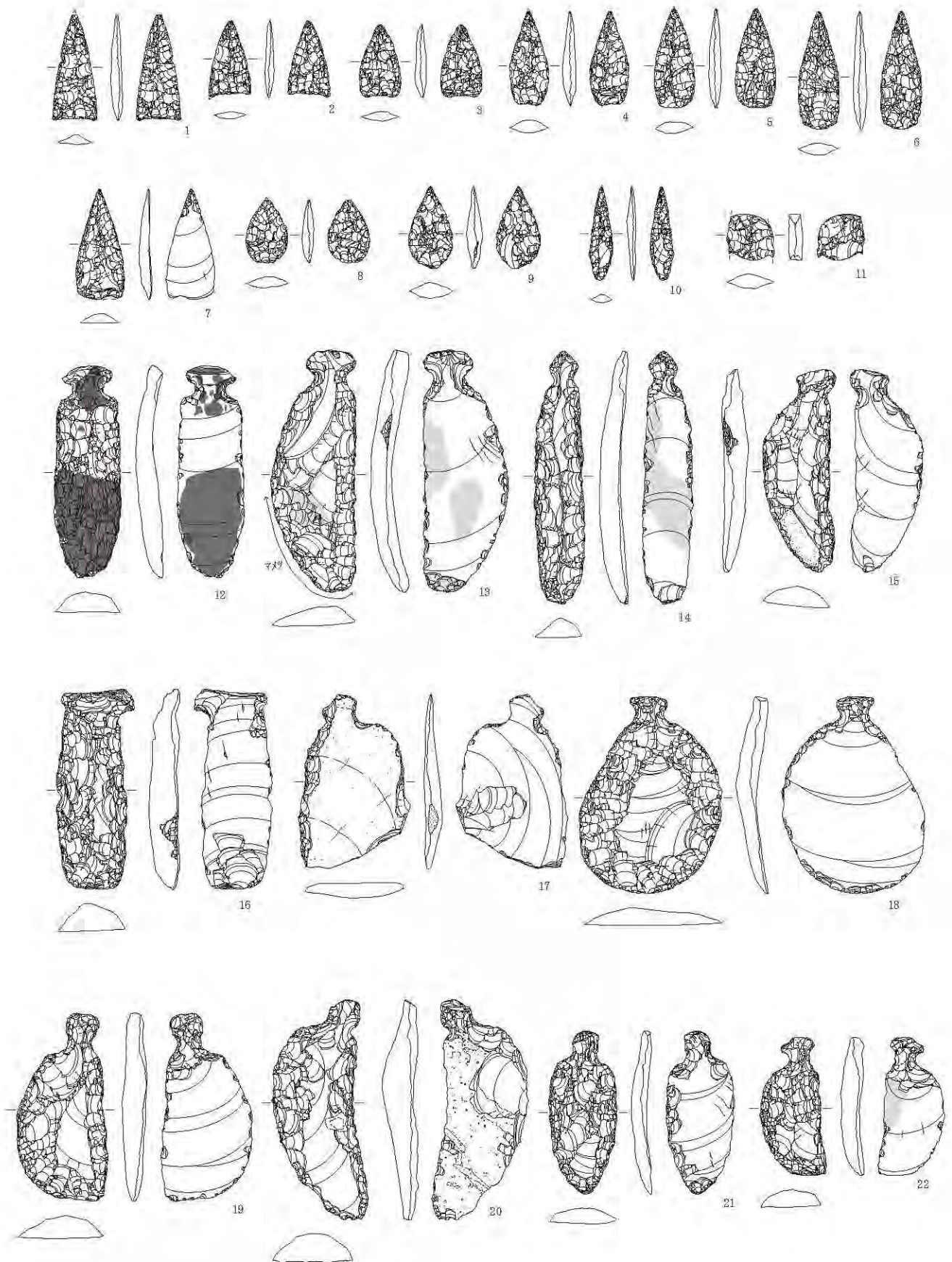
第197図 捨場出土土器36 (II~III層, III層, 黑色土, III~IV層)



トレンチ



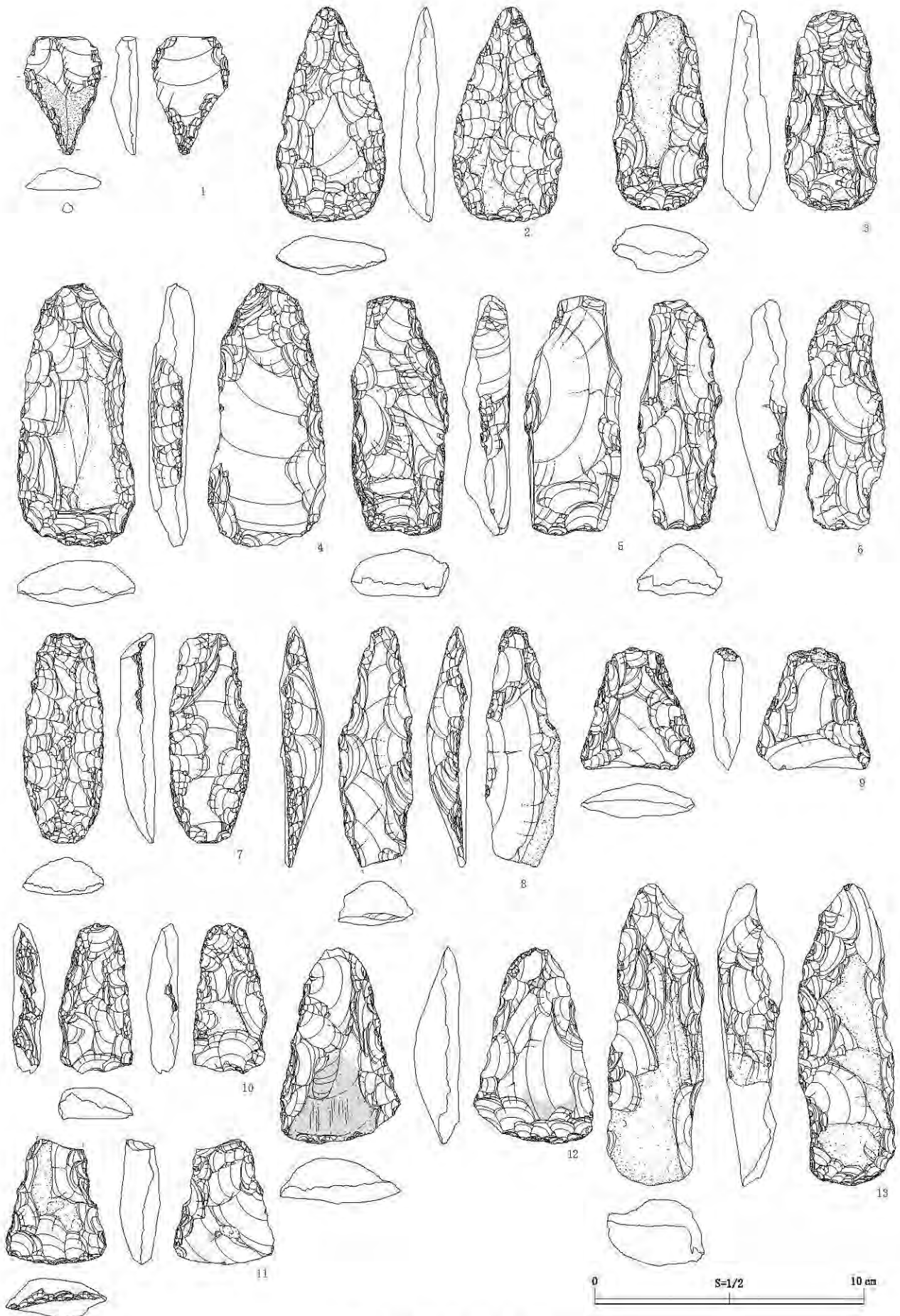
第198図 捨場出土土器37 (トレンチ, 攪乱)



第199図 捨場出土石器 1



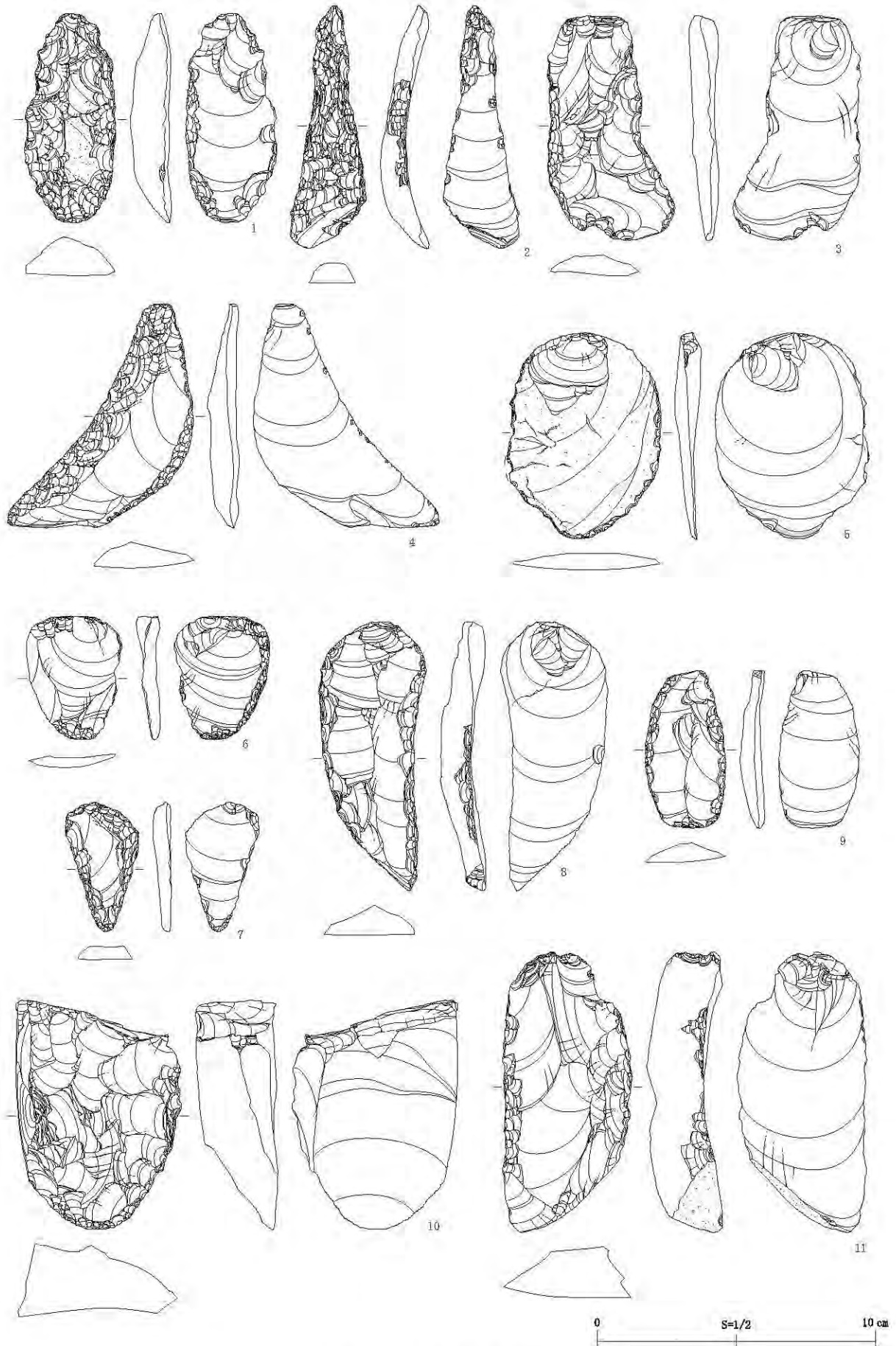
第200図 捨場出土石器 2



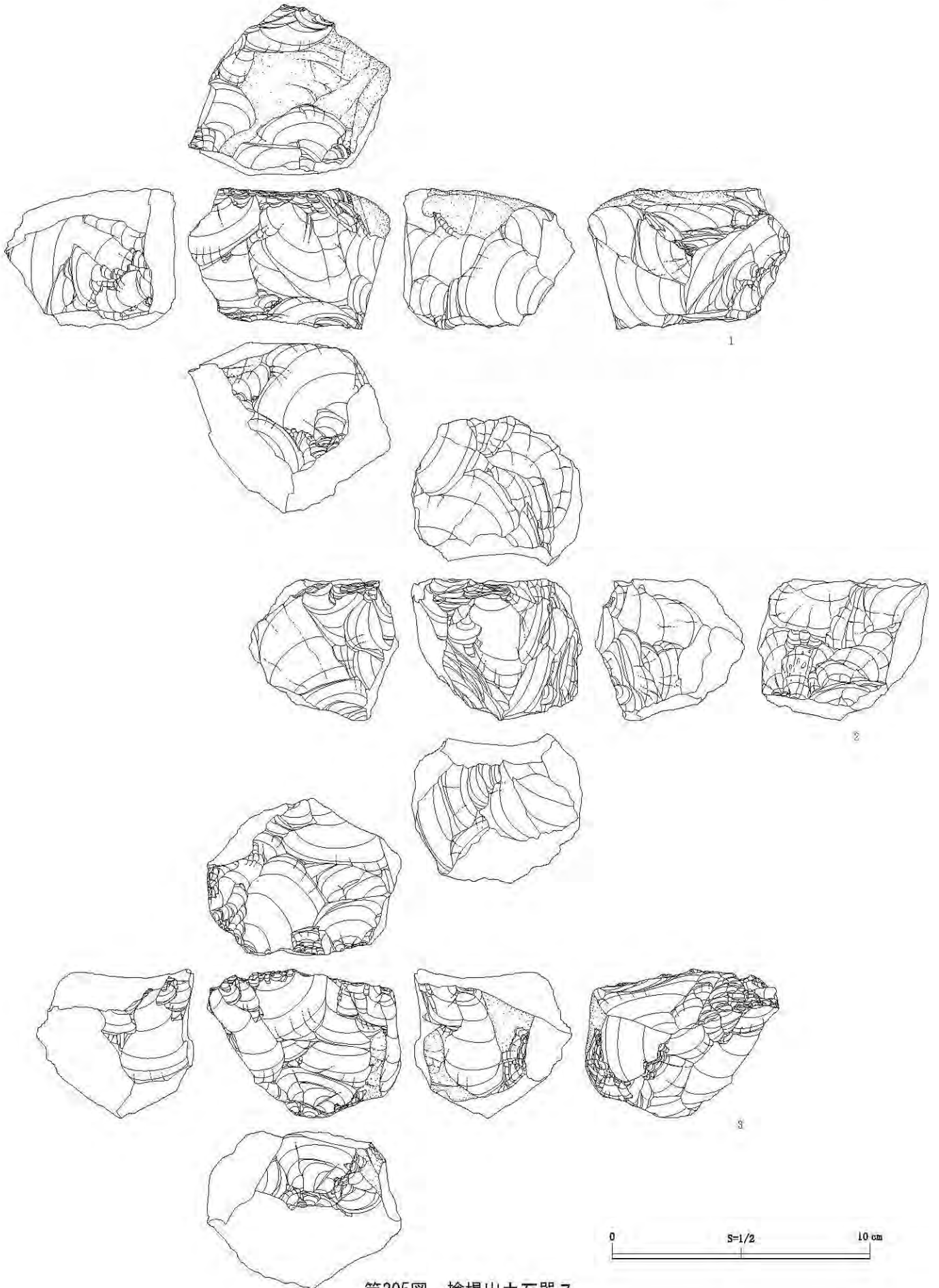
第201図 捨場出土石器 3



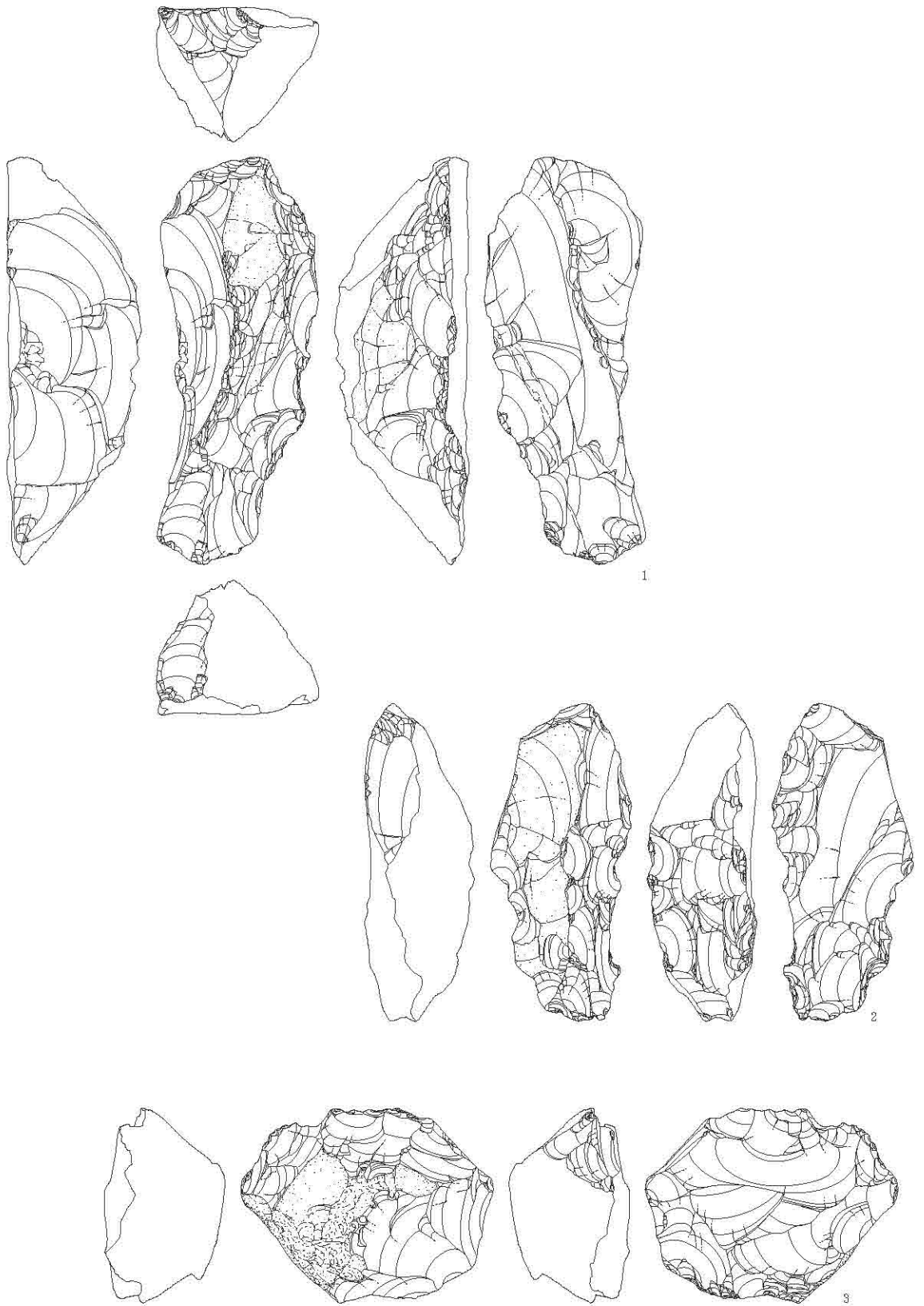
第202図 捨場出土石器 4



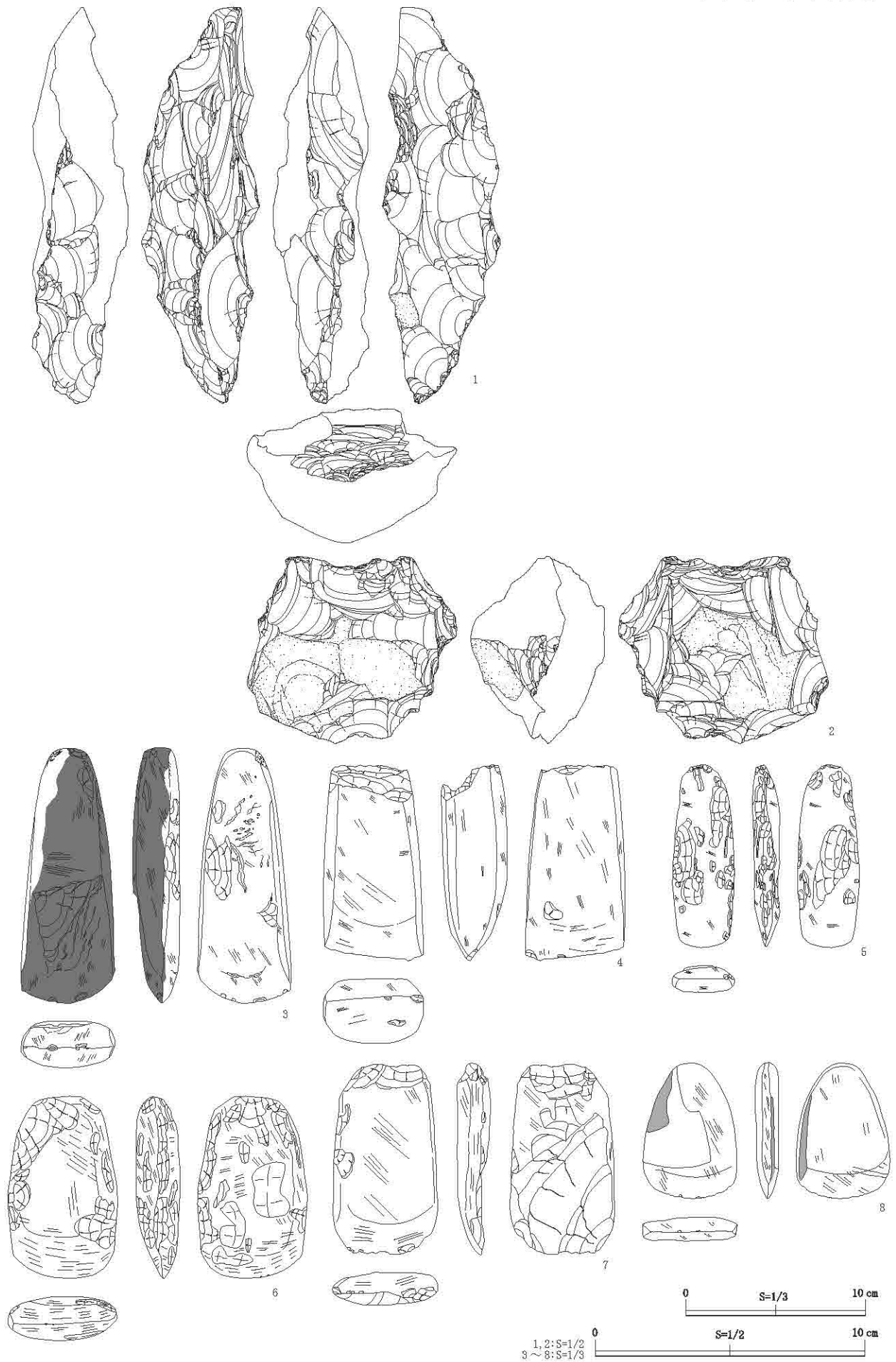
第203図 捨場出土石器 5



第205図 捨場出土石器 7



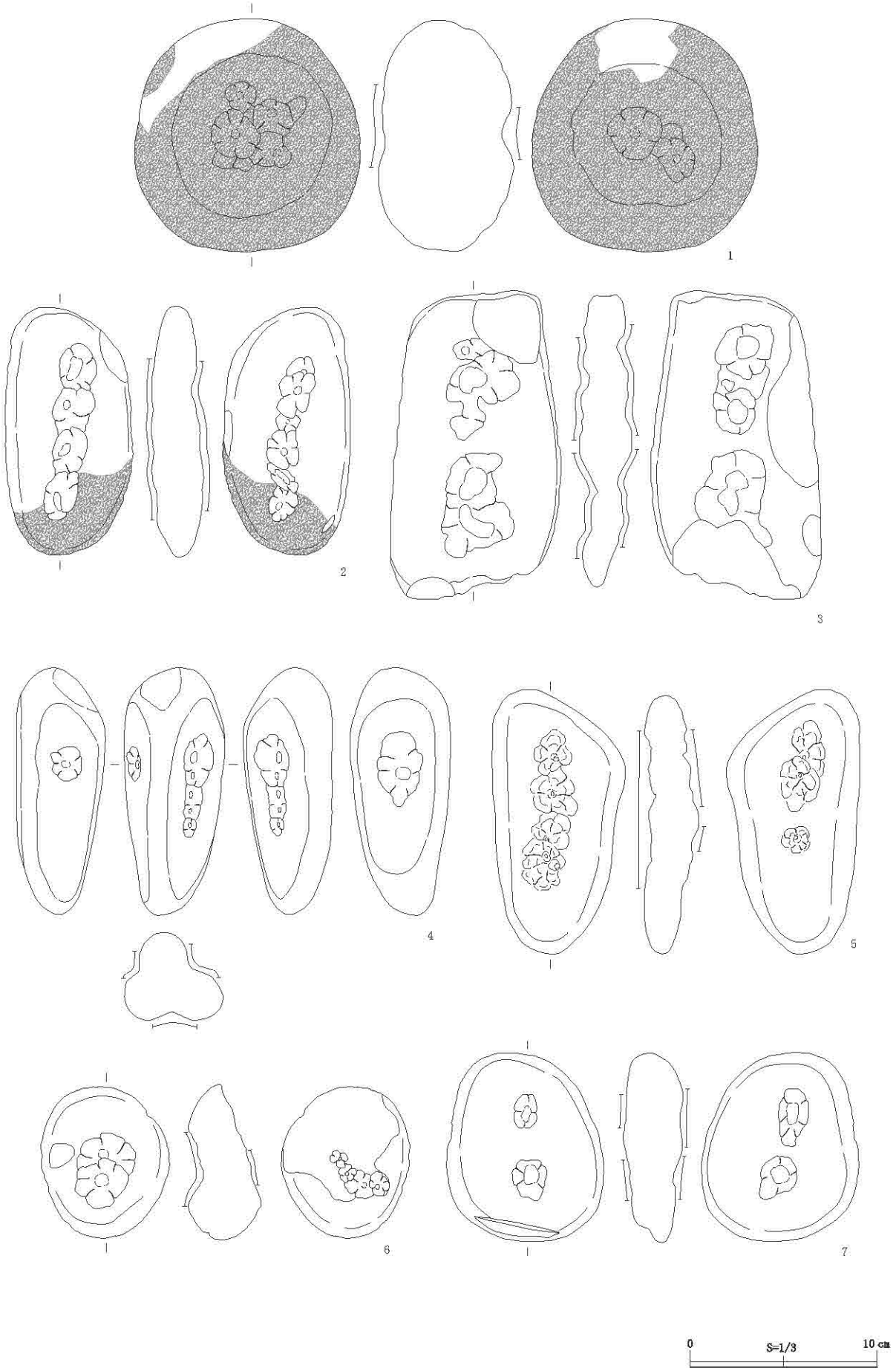
第206図 捨場出土石器 8



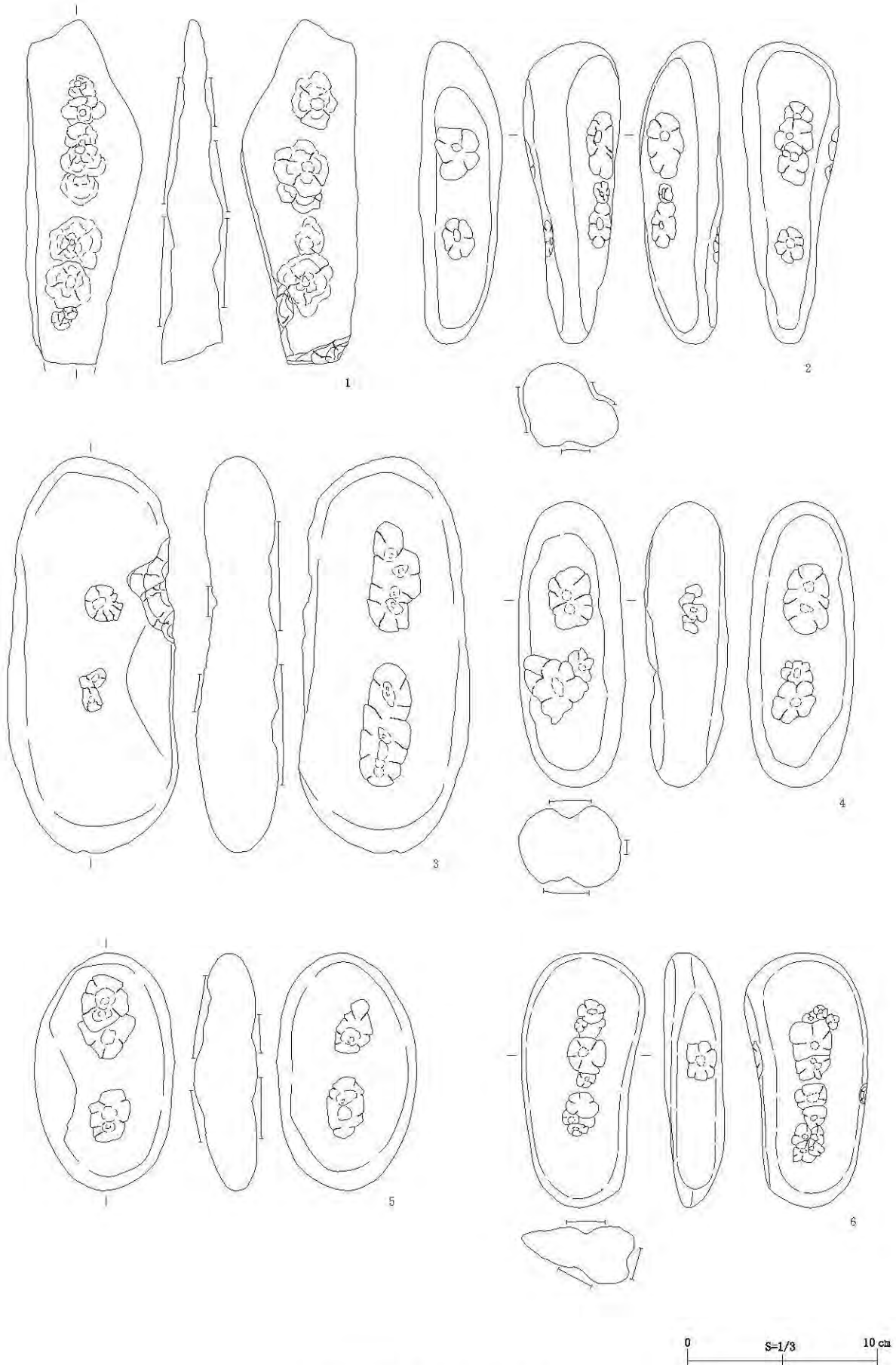
第207図 捨場出土石器 9



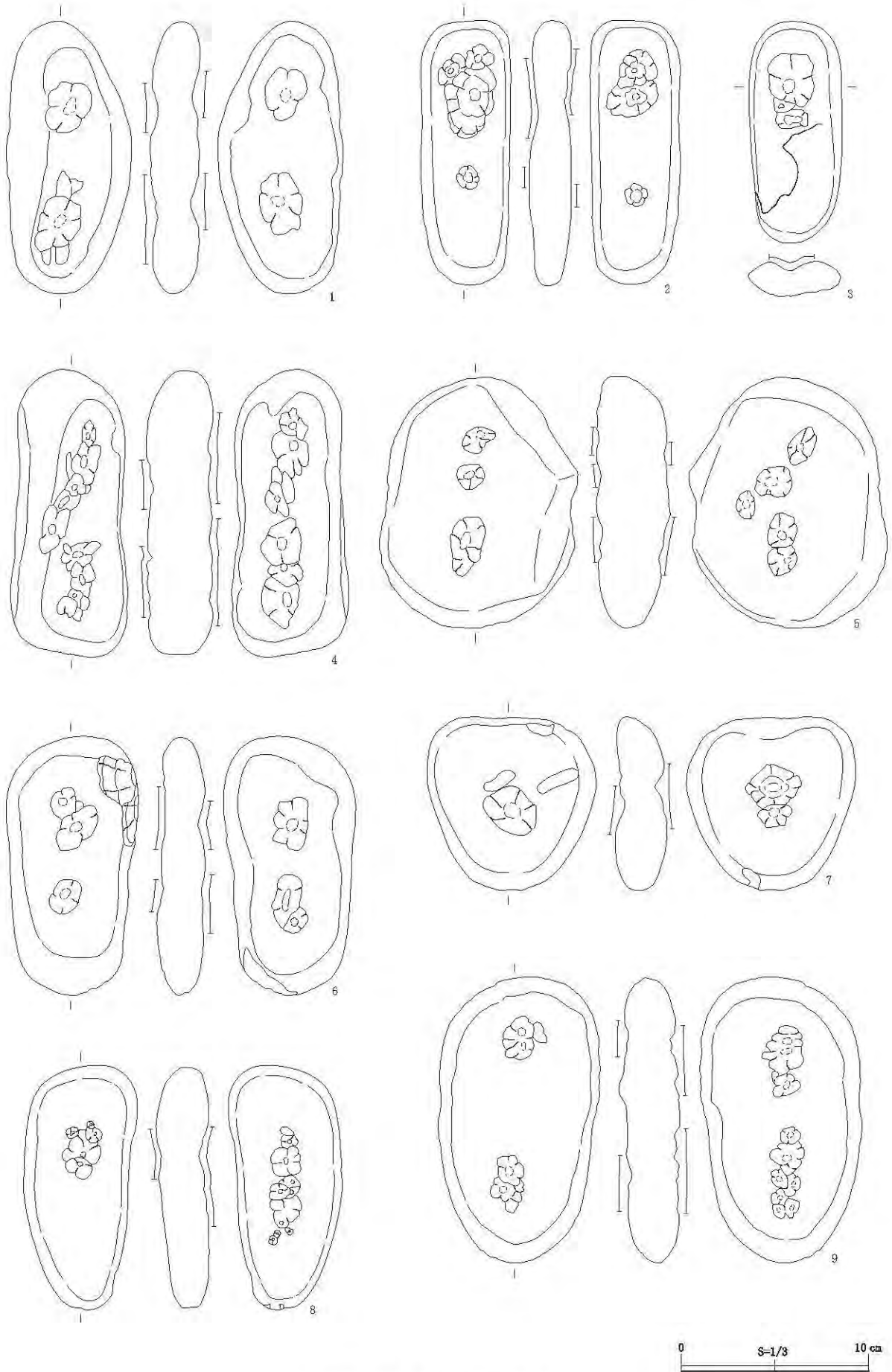
第208図 捨場出土石器10



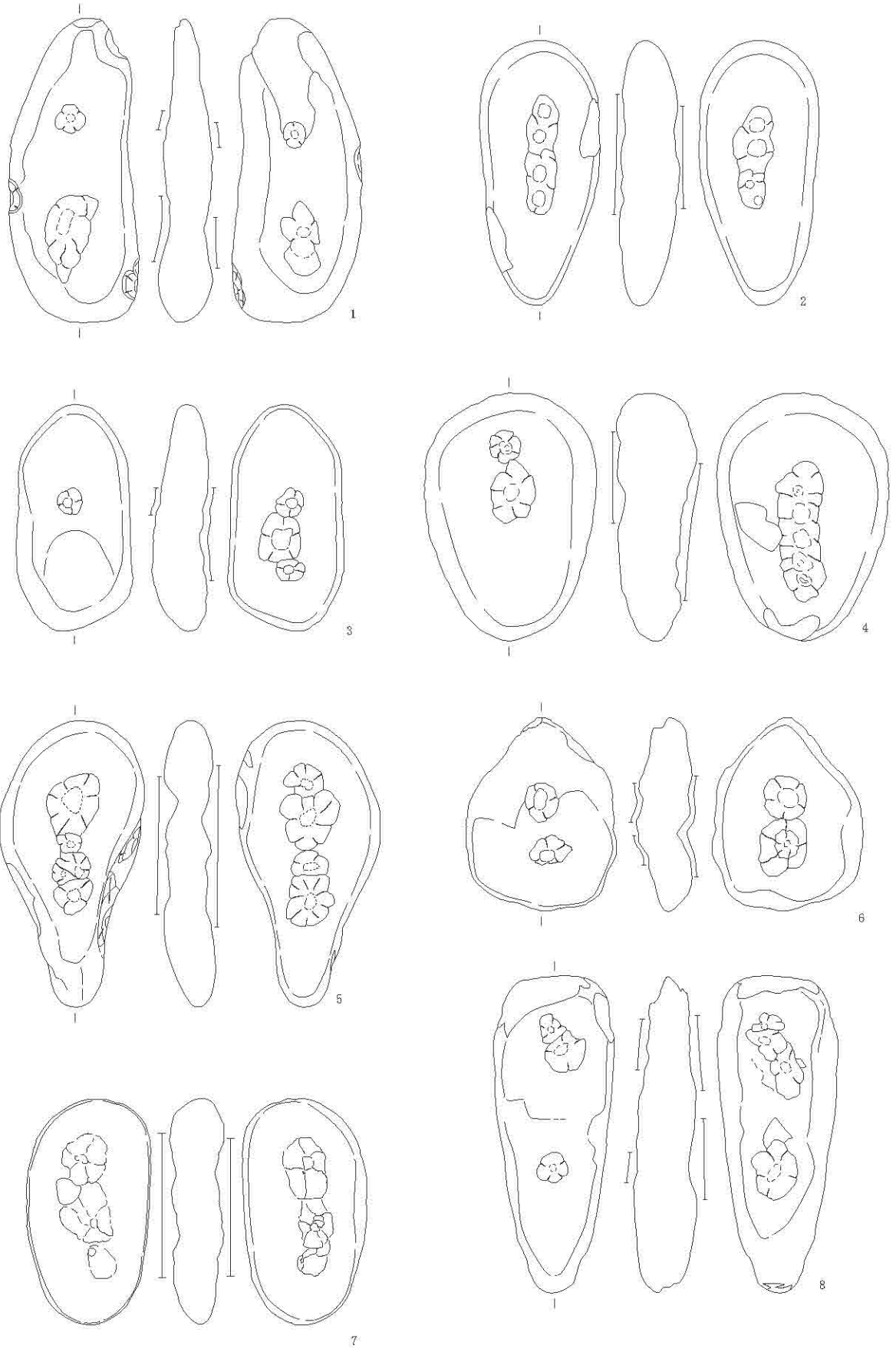
第209図 捨場出土石器11



第210図 捨場出土石器12



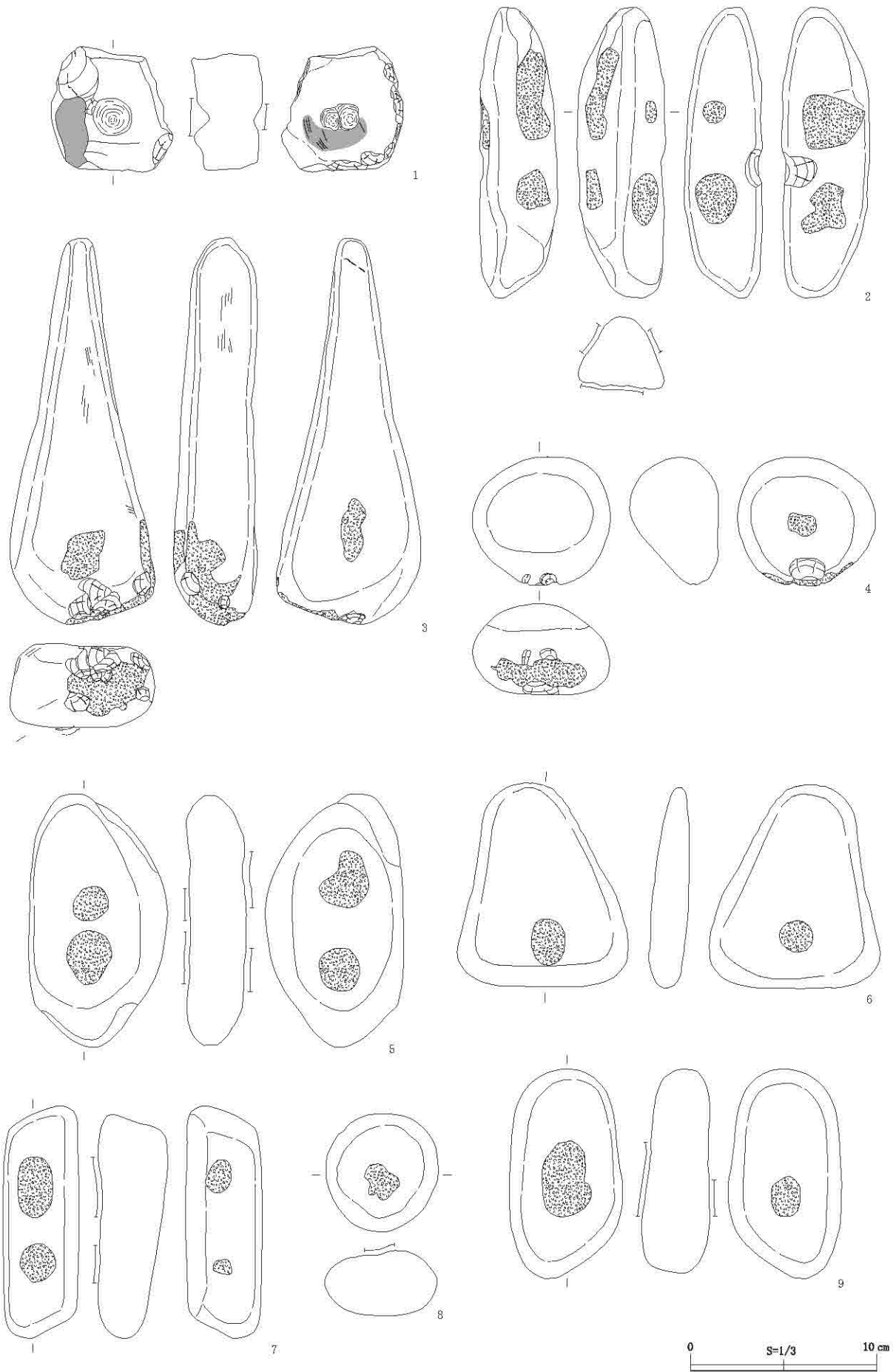
第211図 捨場出土石器13



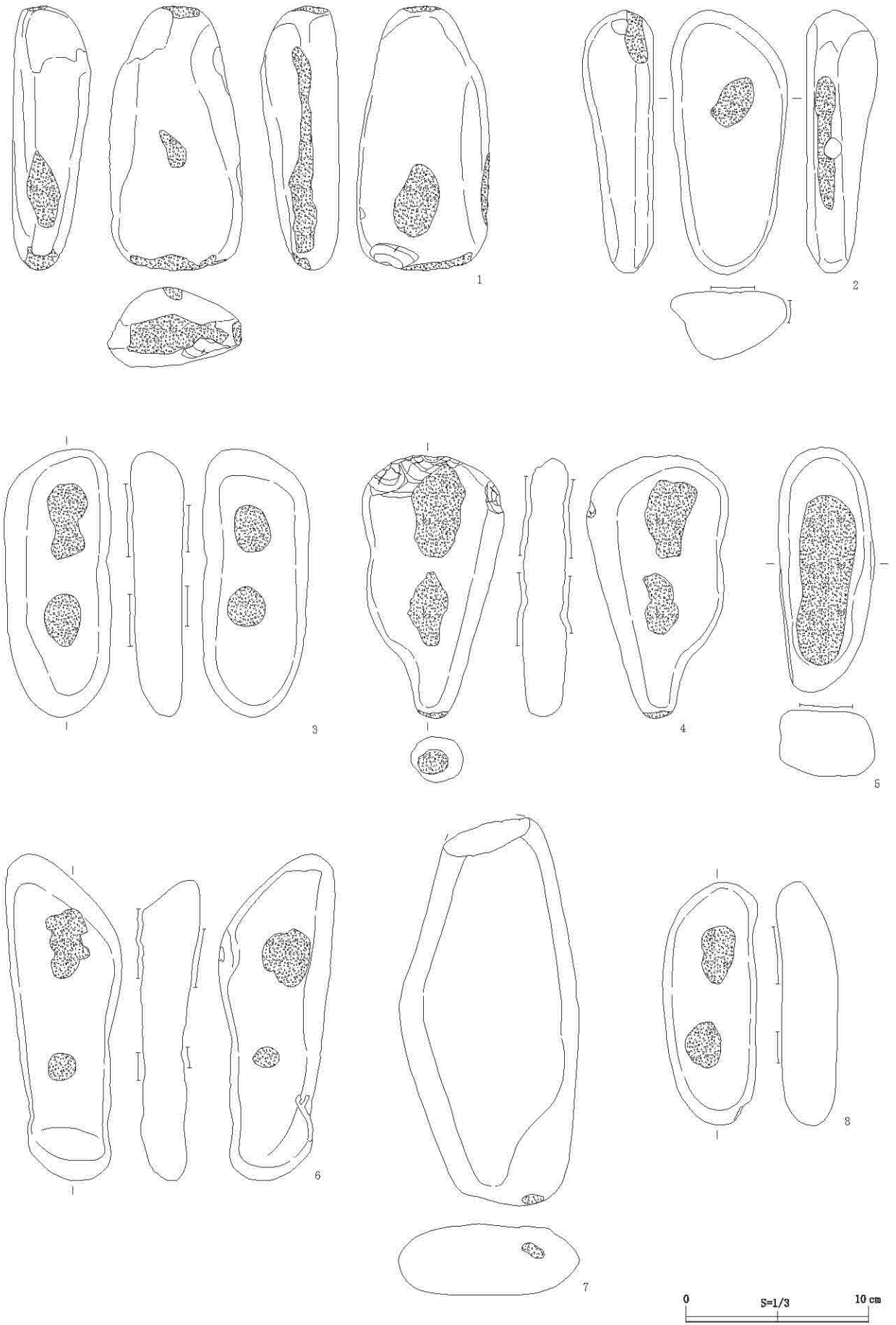
第212図 捨場出土石器14



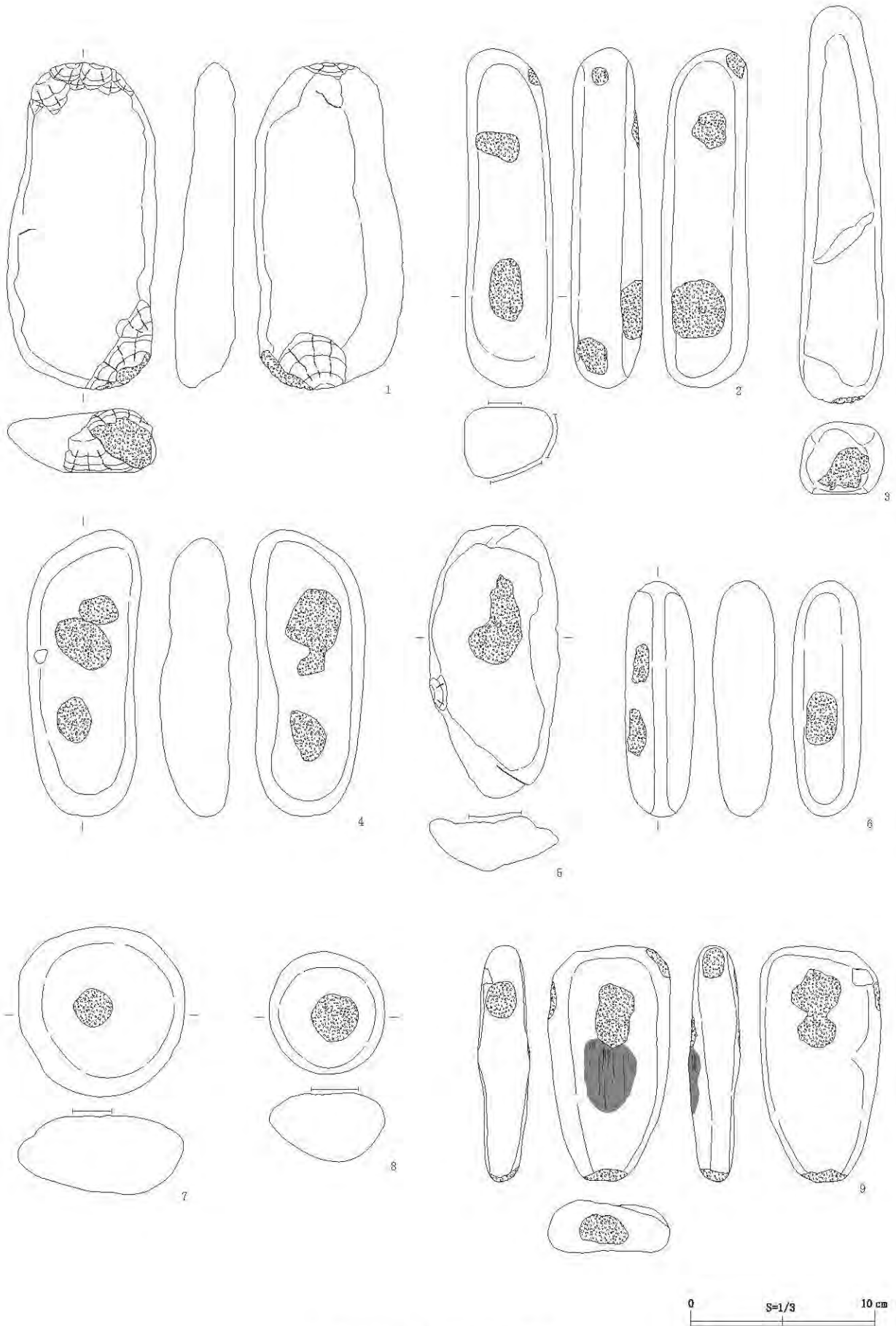
第213図 捨場出土石器15



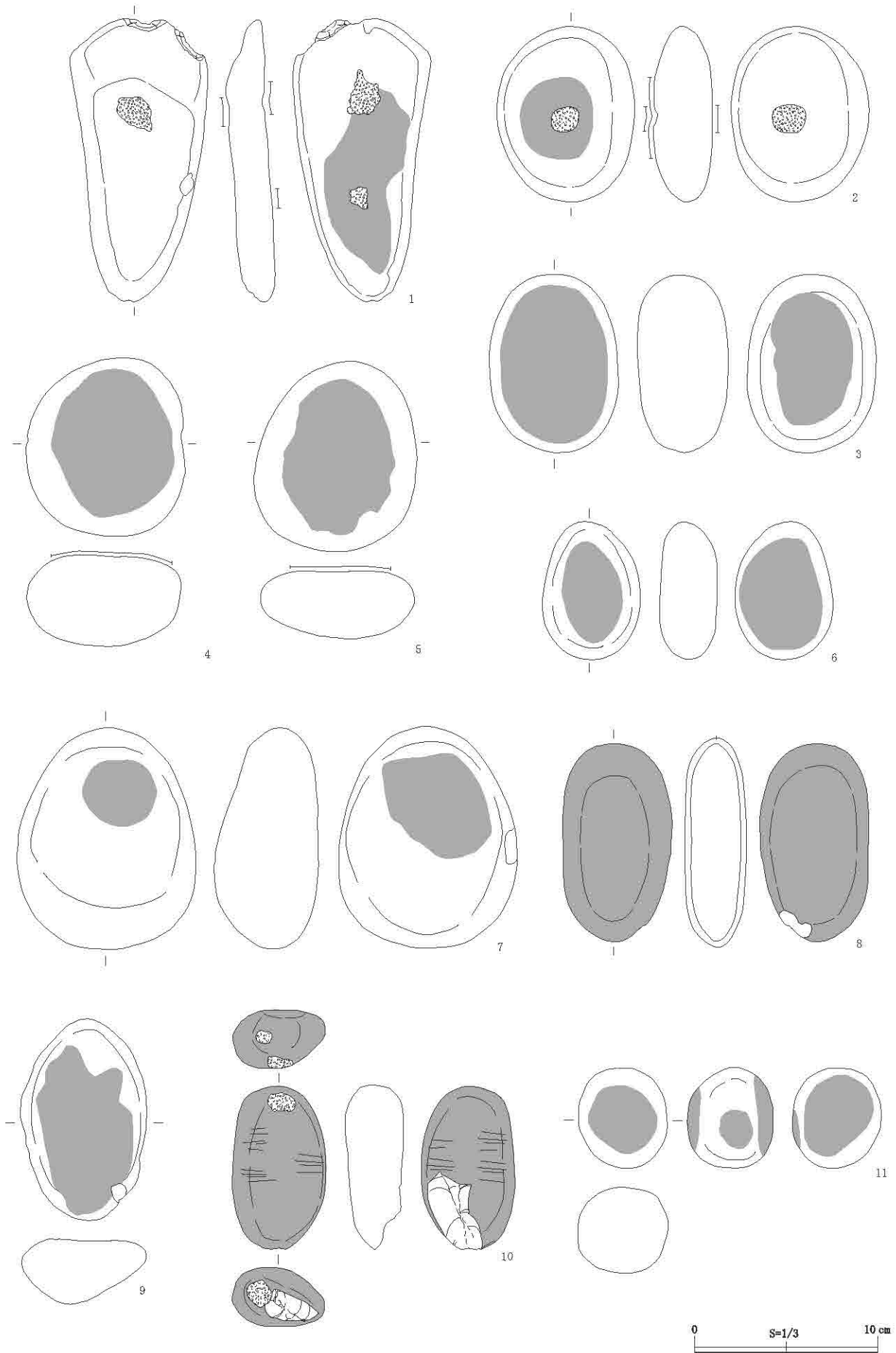
第214図 捨場出土石器16



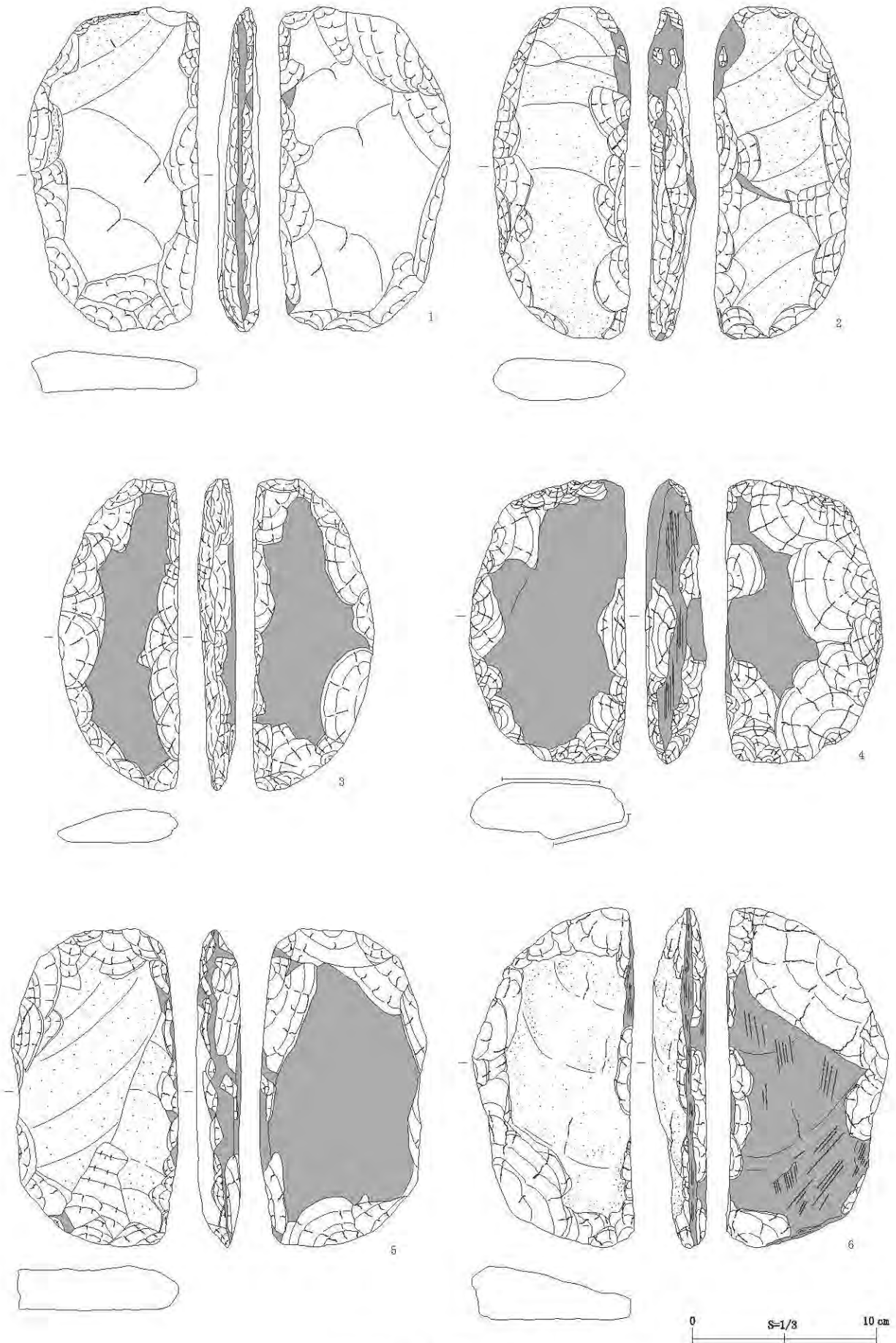
第215図 捨場出土石器17



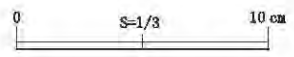
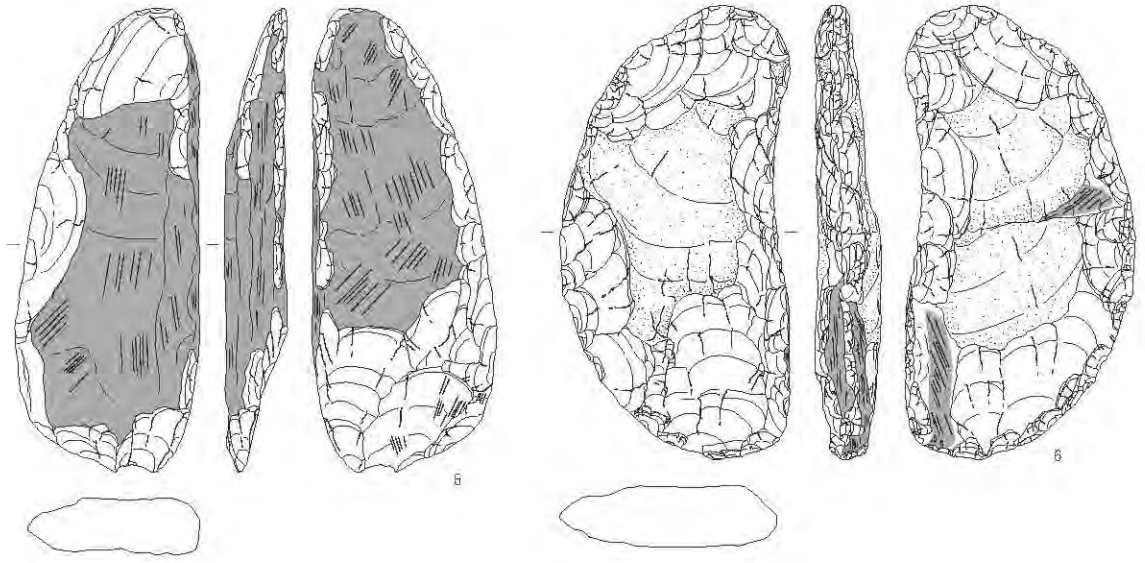
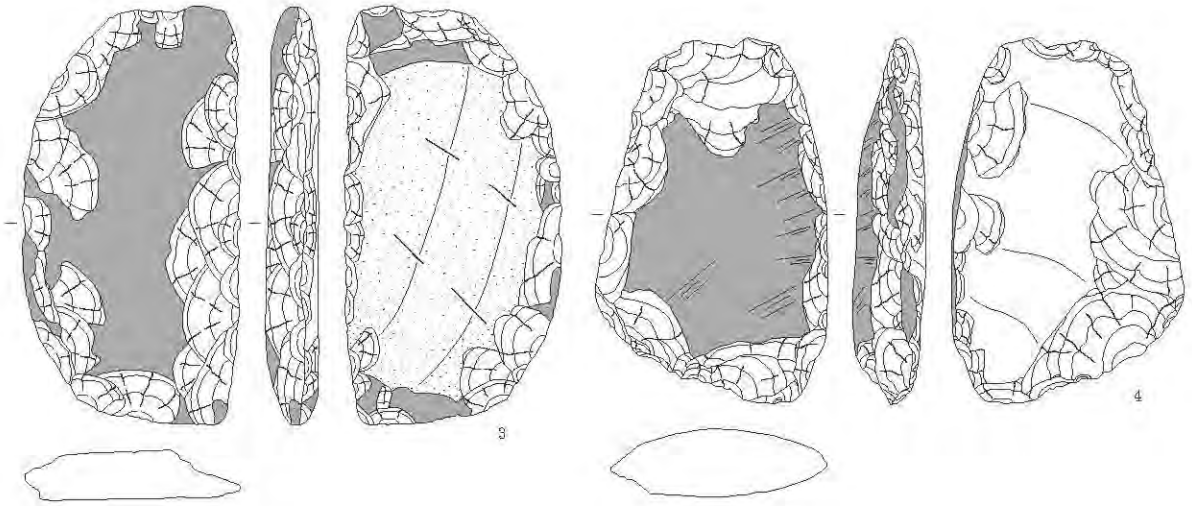
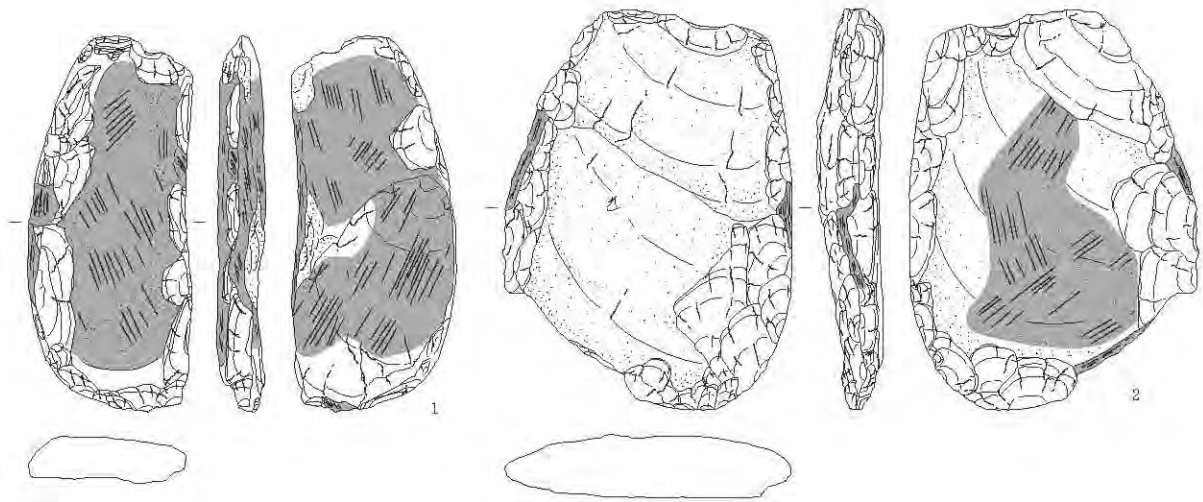
第216図 捨場出土石器18



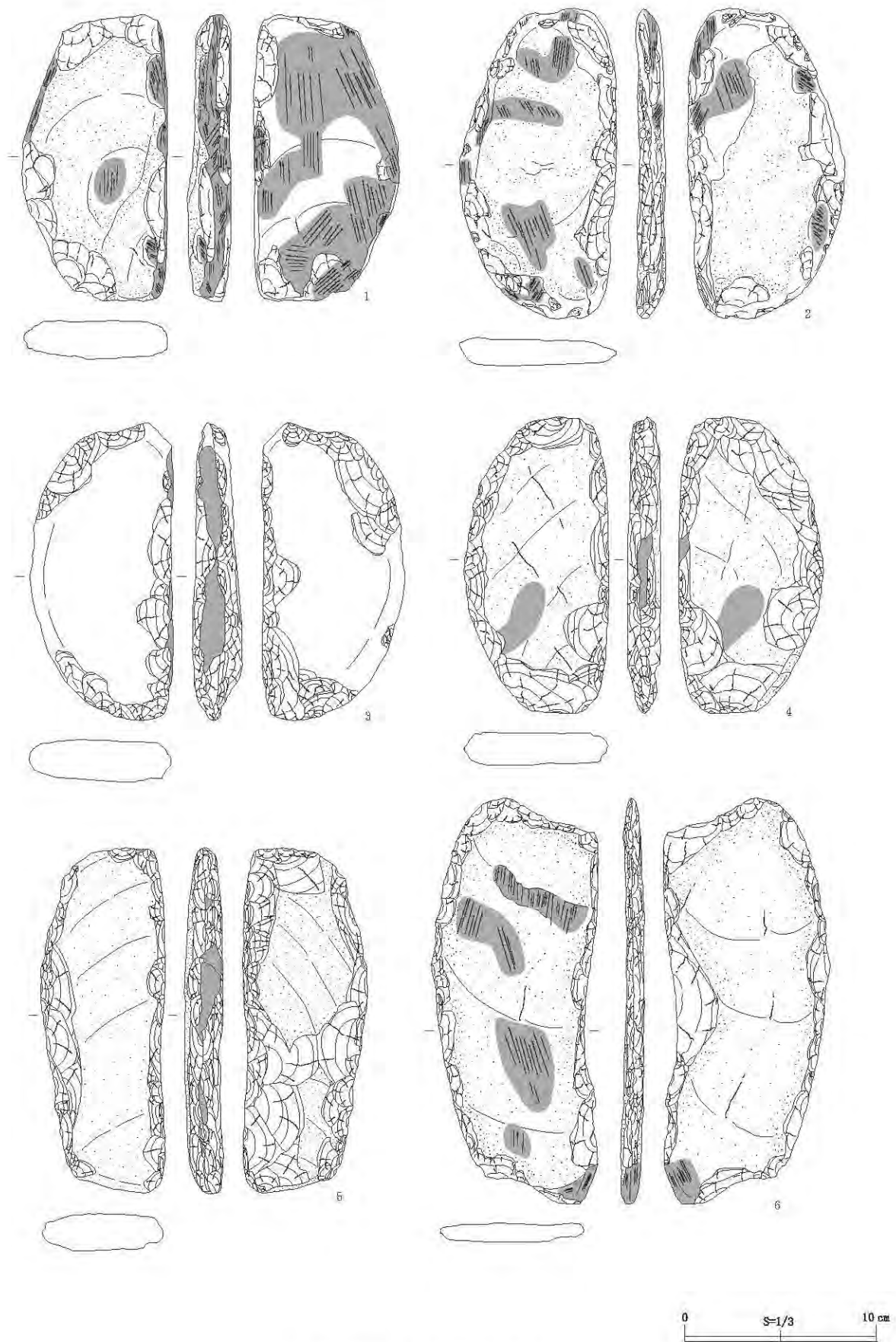
第217図 捨場出土石器19



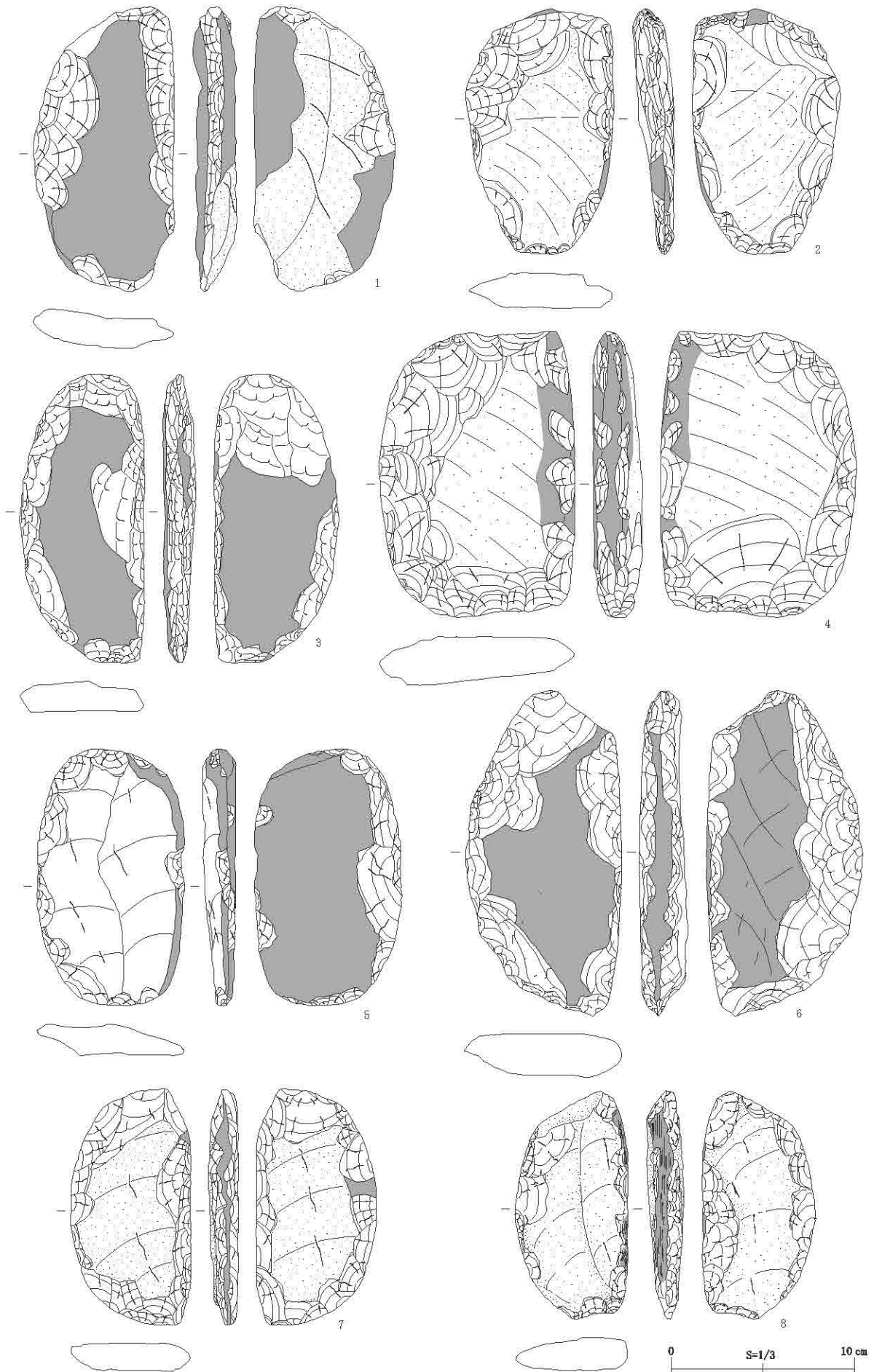
第218図 捨場出土石器20



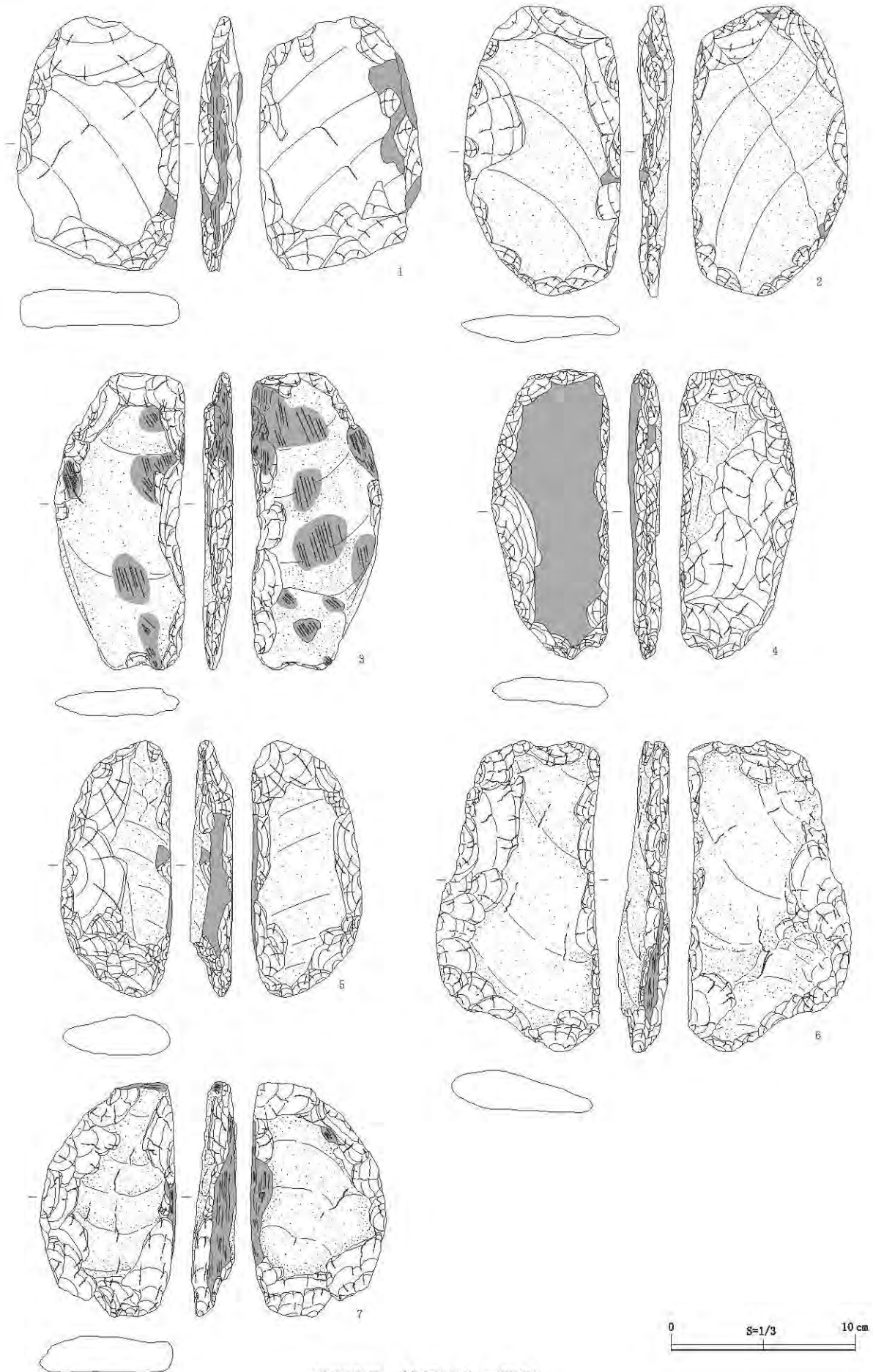
第219図 捨場出土石器21



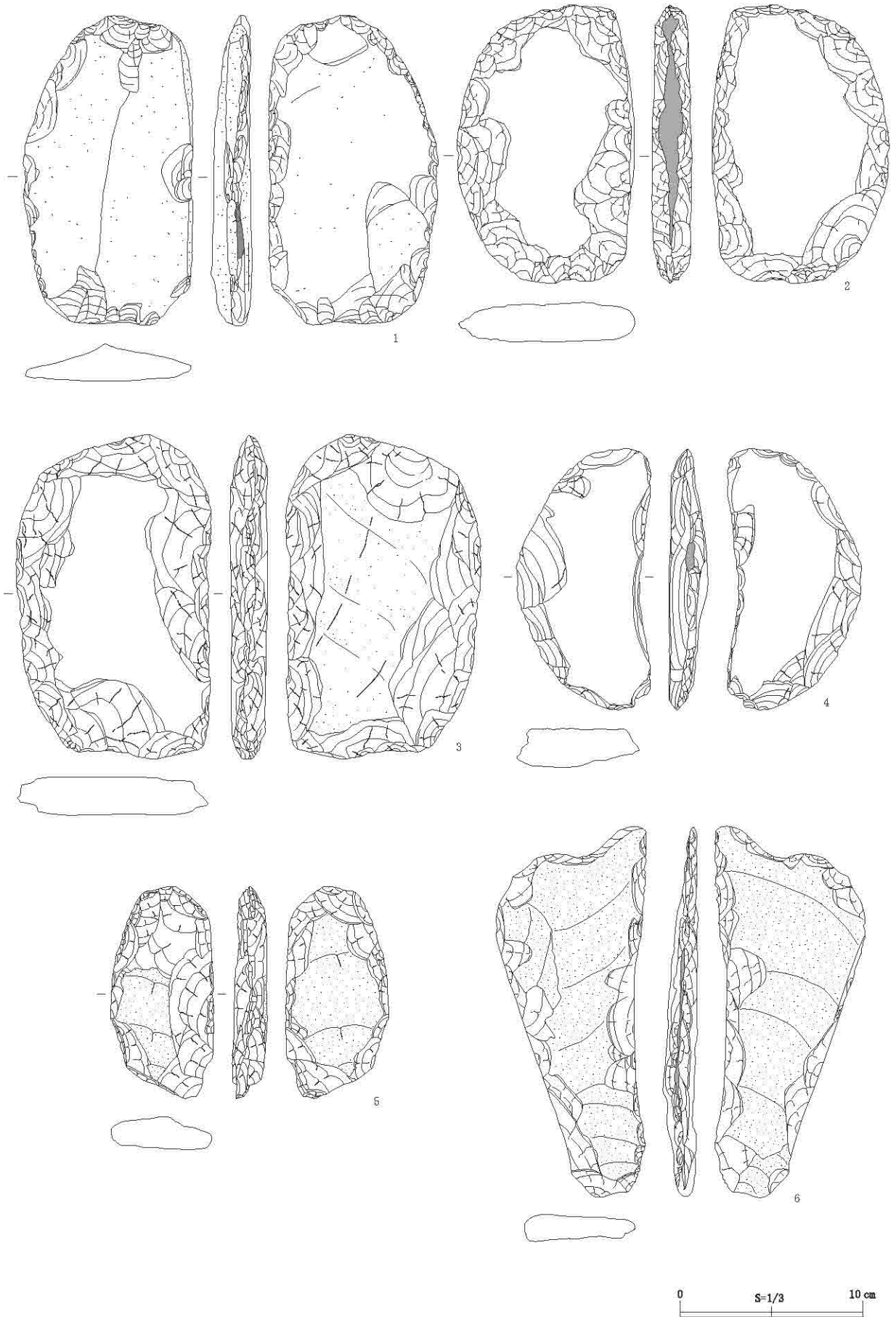
第220図 捨場出土石器22



第221図 捨場出土石器23



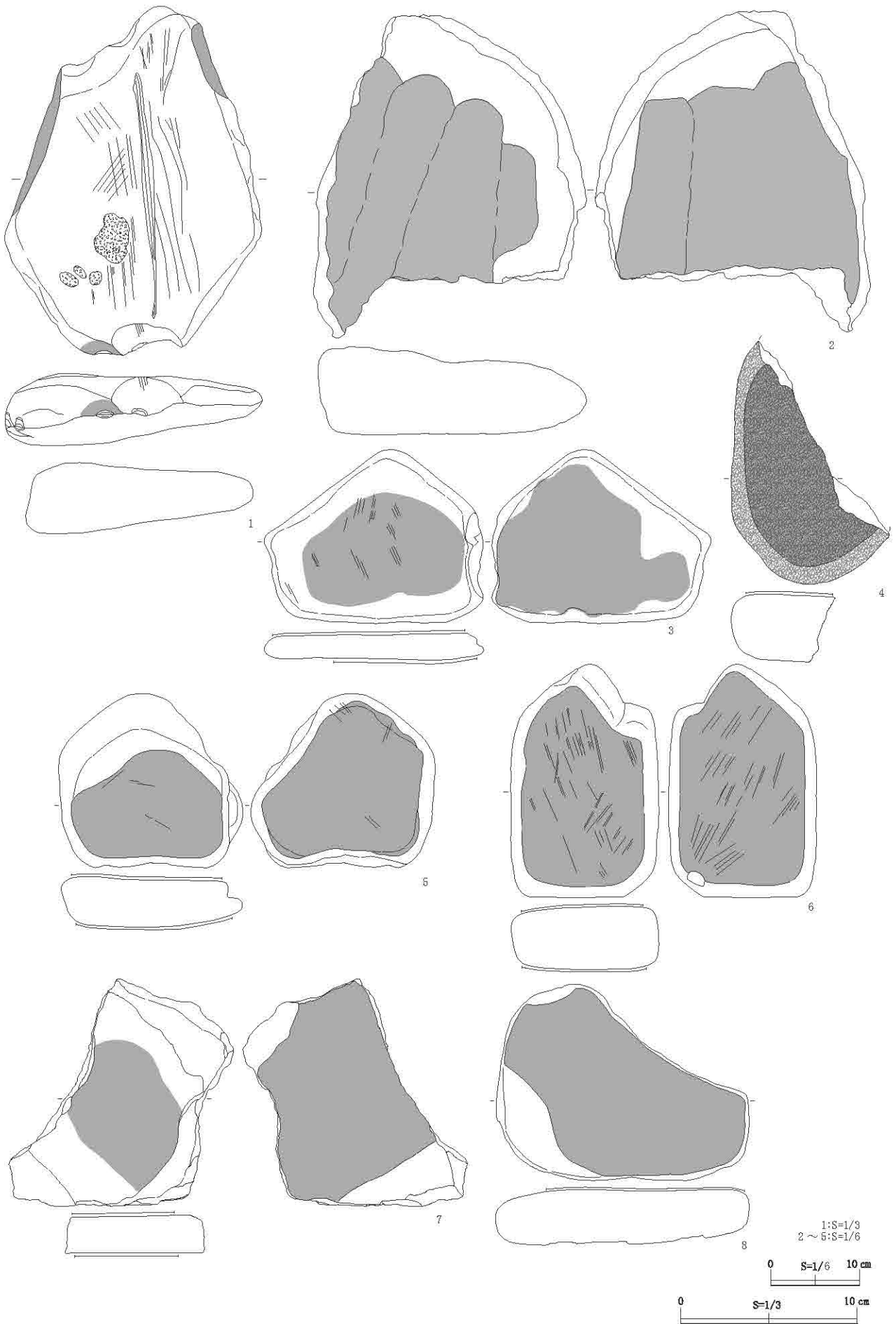
第222図 捨場出土石器24



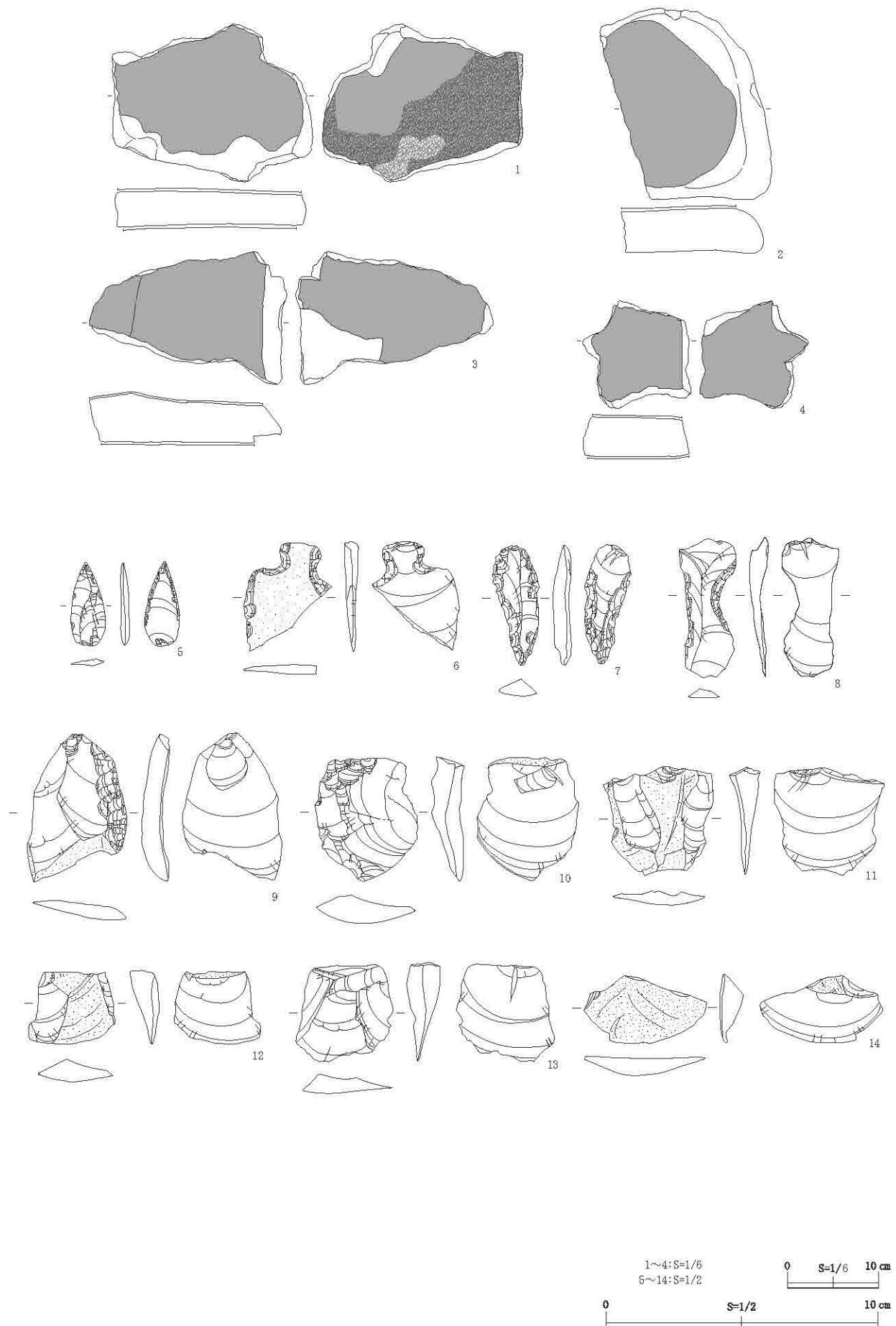
第223図 捨場出土石器25



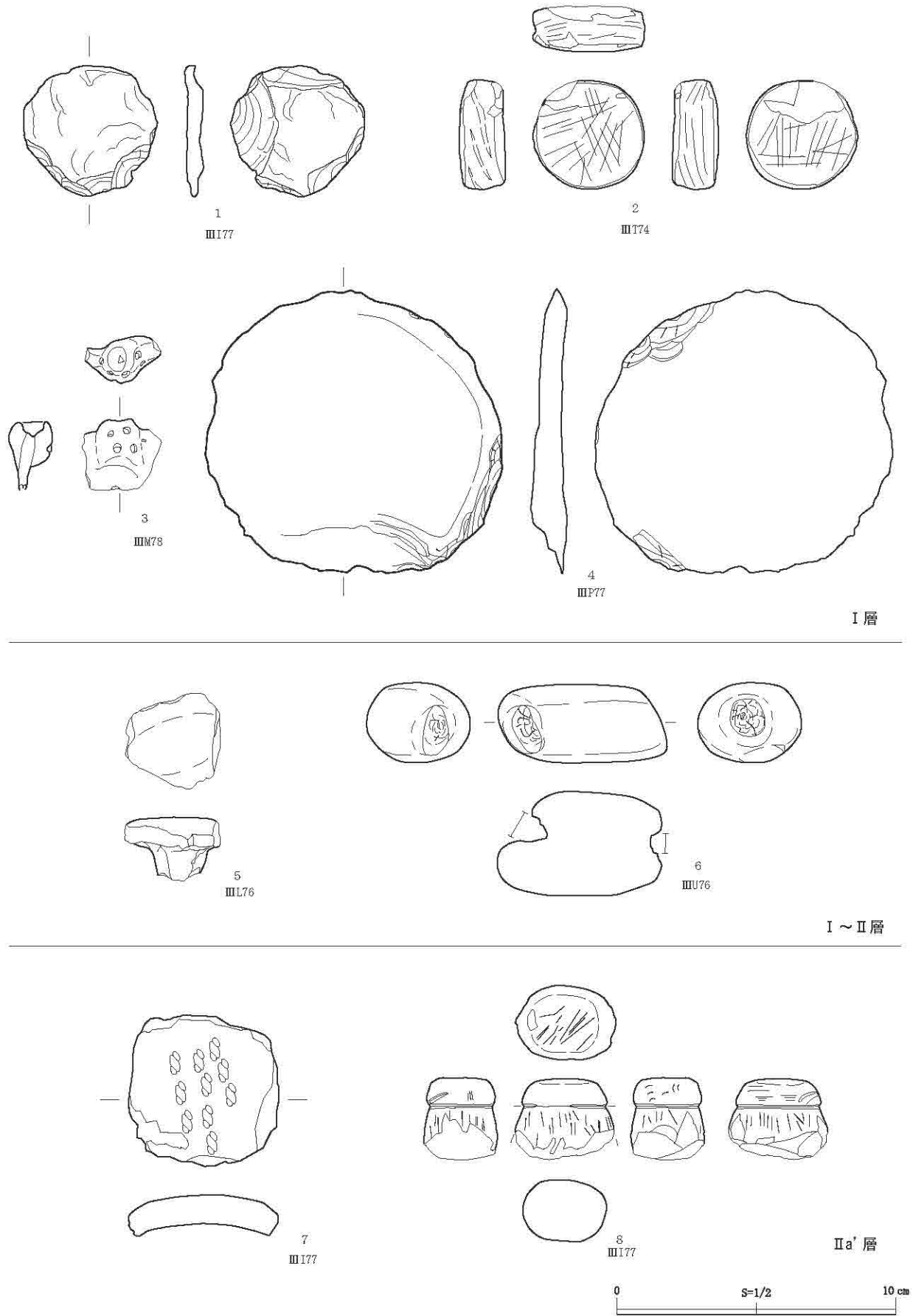
第224図 捨場出土石器26



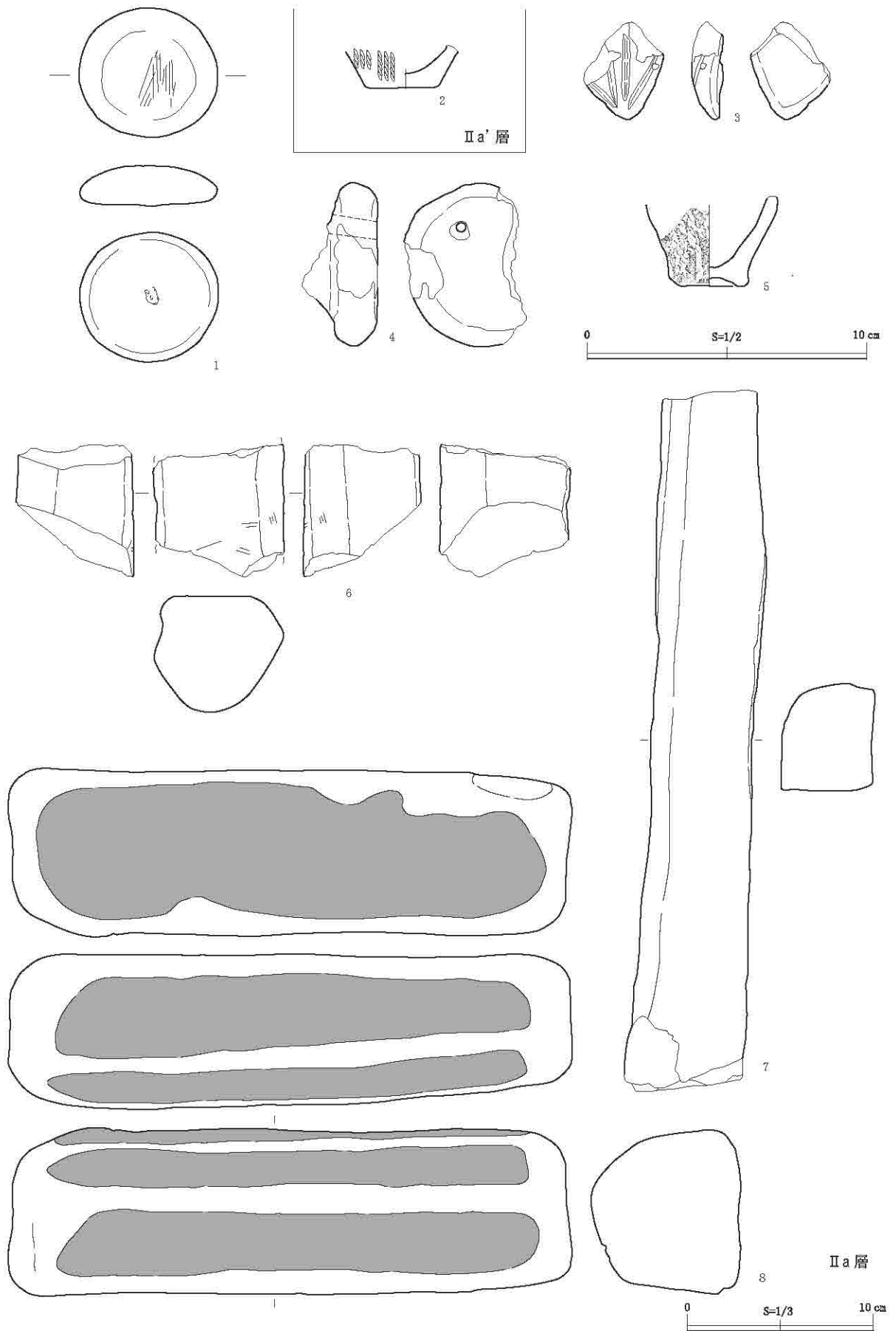
第225図 捨場出土石器27



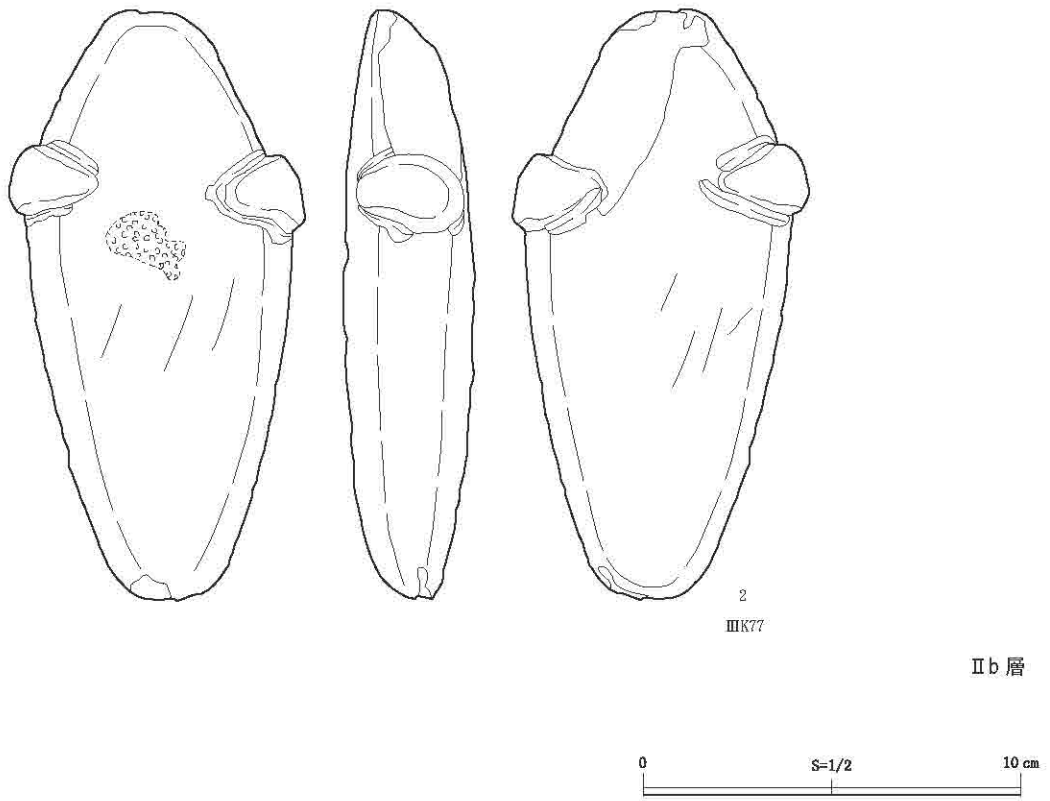
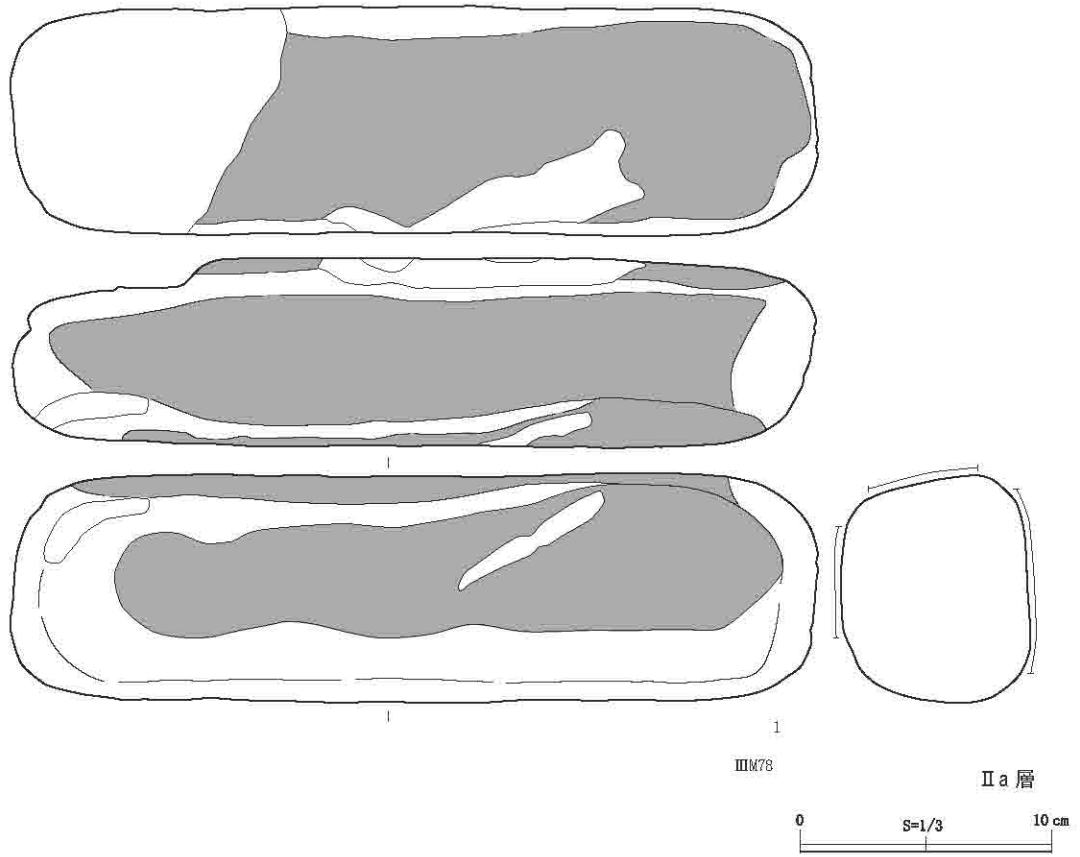
第226図 捨場出土石器28



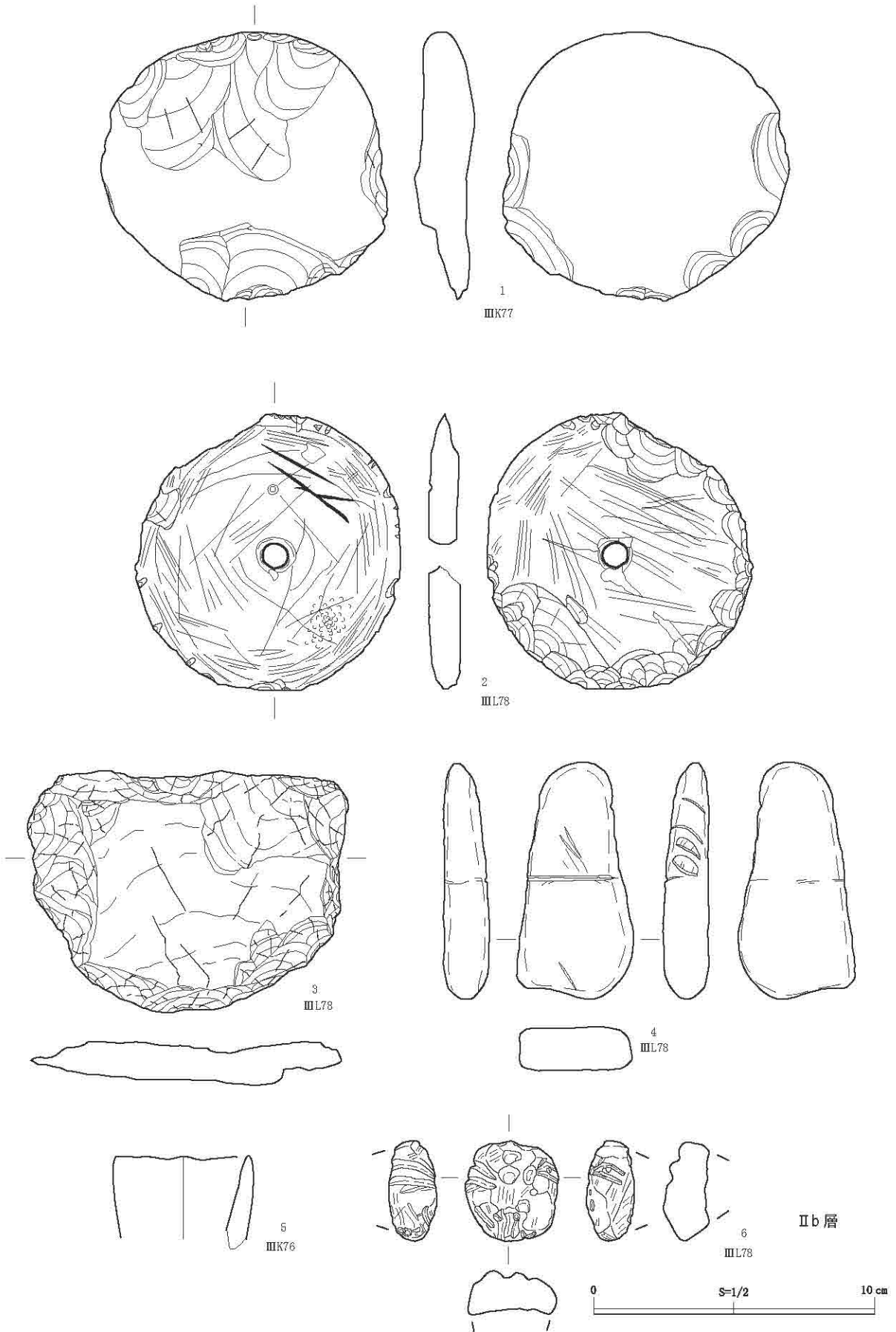
第227図 捨場出土土製品・石製品 1 (I層, I~II層, IIa'層)



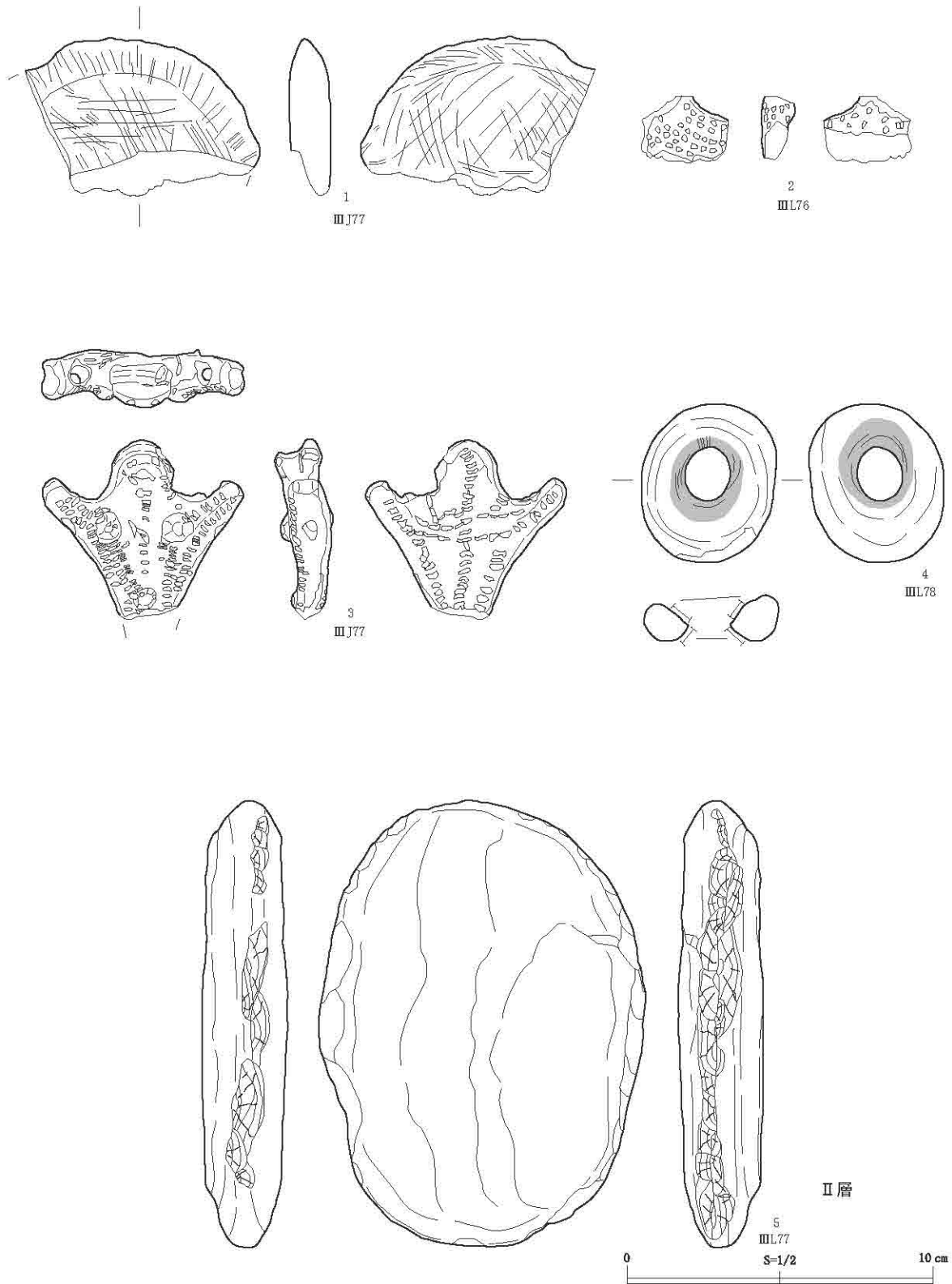
第228図 捨場出土土製品・石製品2 (II a' 層, II a層)



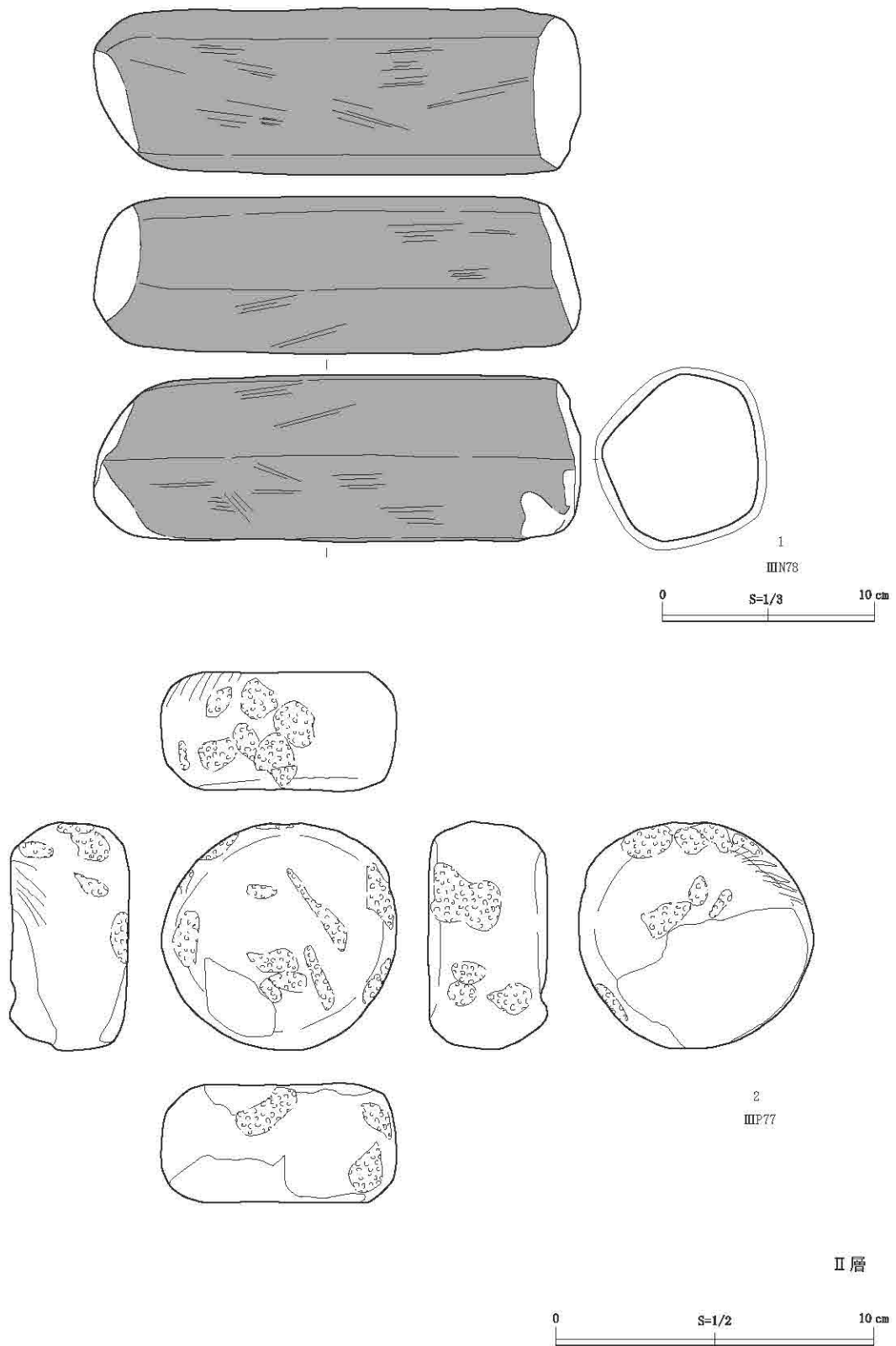
第229図 捨場出土土製品・石製品3 (II a層, II b層)



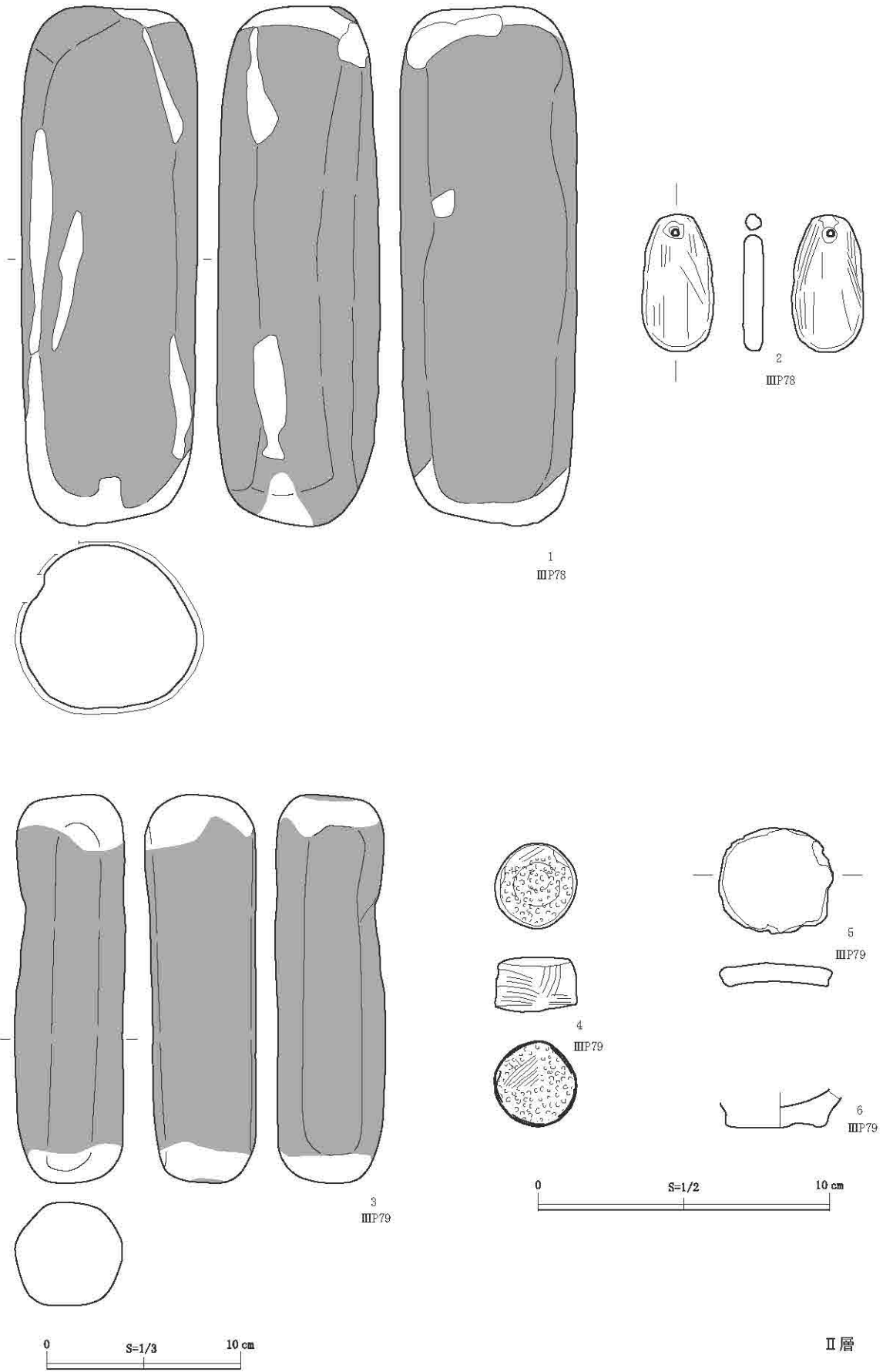
第230図 捨場出土土製品・石製品4 (IIb層)



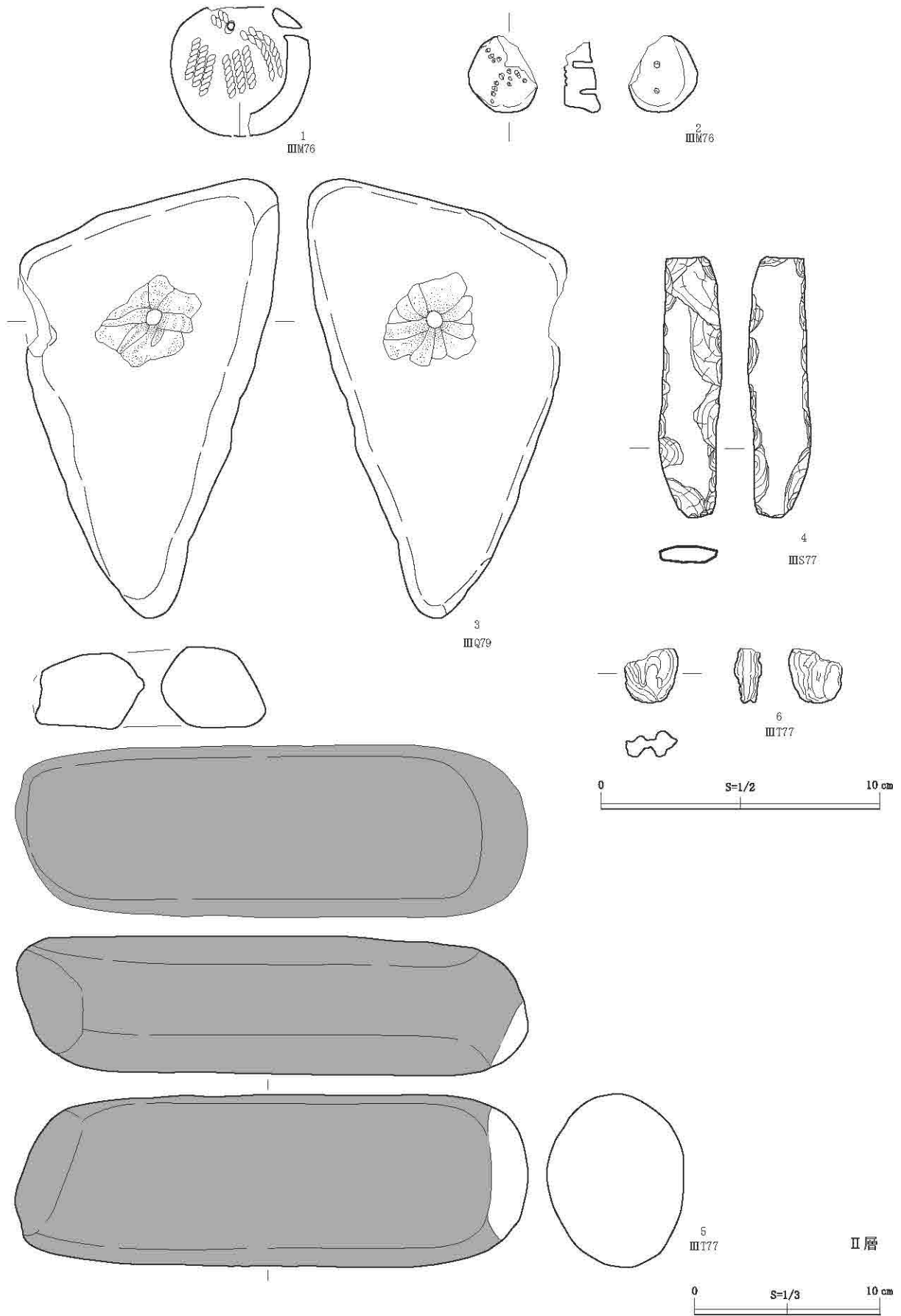
第231図 捨場出土土製品・石製品5 (II層)



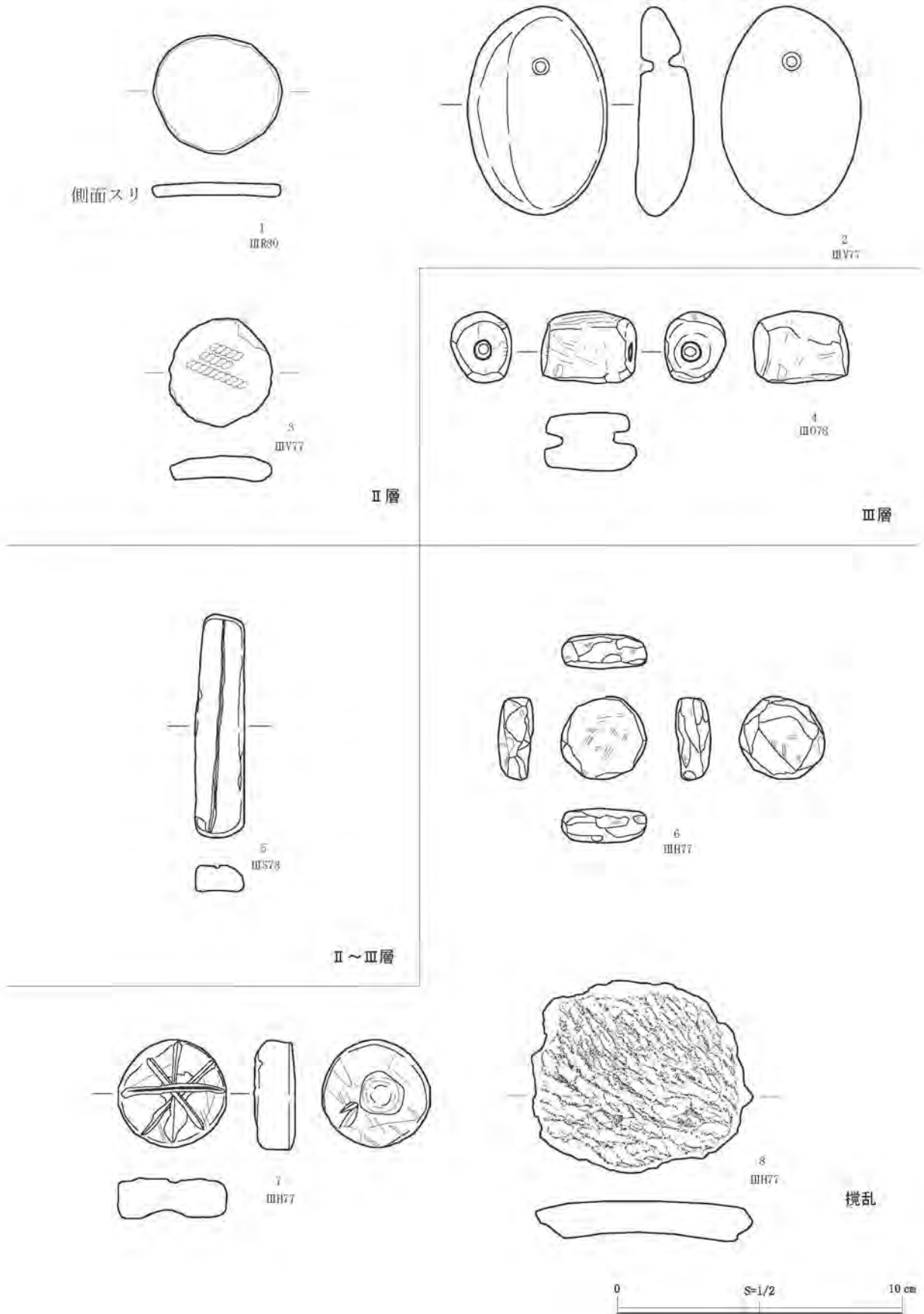
第232図 捨場出土土製品・石製品6 (II層)



第233図 捨場出土土製品・石製品7 (II層)



第234図 捨場出土土製品・石製品8 (II層)



第235図 捨場出土土製品・石製品9 (Ⅱ層, Ⅱ～Ⅲ層, Ⅲ層, 攪乱)

第4節 遺構外出土遺物

1 土器(第236～241図)

遺構外からは様々な時期の土器が出土しており、縄文時代早期、前期前葉、前期中葉～後葉、中期末葉～後期前葉、弥生土器、土師器を図示した。掲載遺物のほかに、縄文時代中期後半(円筒上層c式土器、榎林式)、後期末葉～晩期初頭の土器なども数点出土している。

(1) 縄文時代早期の土器

早期の土器は調査区南部の尾根上地形から中央部の斜面にかけての広い範囲で、散発的に出土した。ⅢH～ⅢN76～78グリッドでの出土が比較的多く、出土層位はⅢ～V層を主体とする。貝殻沈線文系の小破片が大多数を占め、出土点数は約250点である。76点を図示したほか、31点については写真のみ掲載した。

文様要素は貝殻腹縁圧痕文(以下貝殻腹縁文)、沈線文、刺突文、貝殻腹縁押引文(以下貝殻押引文)、貝殻腹縁条痕文(以下貝殻条痕文)があり、そのうち貝殻腹縁文、刺突文、貝殻押引文は施文方法により、次のとおり2種類に細分表記した。貝殻腹縁文A:貝殻の腹縁を器面に対して垂直に押圧したもの。貝殻腹縁文B:貝殻の腹縁を器面に対して斜め方向に押圧したもの。刺突文A:工具を器面に対して垂直に刺突したもの。刺突文B:工具を器面に対して斜めに刺突したもの。貝殻押引文A:押引が密なもの。貝殻押引文B:押引が間延びしているもの。以下、型式ごとに分類し、特徴を述べる。

A. 鳥木沢式に類するもの(236-2～237-39、写真158-①～㉞)

本遺跡で出土した早期の土器のうち大部分を占める。文様要素により細分した。

a. 口縁部文様が貝殻腹縁文で構成されるもの(236-2～22、写真158-①など)

口縁形状は波状が多く、波頂部が二山状となる例もある(236-2・13)。口縁部と胴部の境には段を有するもの(236-2～236-14、写真158-㉞など)と、有しないもの(236-15～22、写真158-①など)があり、前者は頸部に低い隆帯を伴うことに起因するもの(236-3など)と、口縁部が受口状となるもの(236-2など)、両者を合わせ持つもの(236-14など)があり、その差は明瞭ではない。口唇部は平坦に作出される例が多く、口唇の施文例はない。口縁部と胴部の境に段を有するものの口縁部文様は、横位に密に施文される例(236-2～6・8～12など)を主体とし、縦位や斜位(236-13・14)のほか菱形に施文されるもの(236-7)が少数ある。一方、口縁部と胴部の境に段を有しないものでは施文方向に優位性はなく、鋸歯状を呈する例(236-22)もある。どちらも刺突文が半数程度に見受けられ、貝殻腹縁文上に散発的に加えられるほか、口縁部と胴部の境に段を有しないものでは口縁部文様帯の下端を区画する例(236-21・22)もある。胴部上位には、貝殻押引文や貝殻条痕文が横位に数段施されるものも多く、条痕文が鋸歯状を呈する例(236-7・16など)が一定数存在する。その他に、貝殻腹縁文(236-4・20・23)や貝殻連続波状文(236-10・11・13)を伴うものが少数見受けられる。胴部の中位以下は残存する例が少ないものの、無文(236-14)と有文(236-2)があり、掲載外の土器片には無文の胴部片が多く存在することから、無文が主流と推定される。施文方法は、貝殻腹縁文・刺突文ともに斜め方向から施文するB類が優勢である。内面に貝殻条痕文が認められるのは約4割であり、半数程度は極めて浅い。

b. 口縁部文様が貝殻腹縁文と沈線で構成されるもの(236-24～237-6、写真158-③など)

小破片が多いため平口縁と特定できる例はない。いずれも口縁部と胴部の境には段を有する。口唇

部は平坦なものが多く、口唇部文様を伴う例(236-24・237-2、写真158-⑱)が僅かに存在する。口縁部文様は、密に施文された複数条の横位沈線間に横位の貝殻腹縁文が施されるもの(236-25～29)や、2～3条の横位沈線間に斜位・縦位・羽状の貝殻腹縁文が一定間隔で施されるもの(237-1～6)などがあり、鋸歯状沈線が僅かに存在する(237-3、写真158-⑱)。どちらにも刺突文が半数程度に伴い、前者は刺突文A・Bが散発的に(236-24・25など)、後者は刺突文Aが列状に(237-5・6など)施される傾向がある。胴部は残存例が少なく、無文(236-26)や貝殻条痕文(236-28)、上位のみに貝殻腹縁文などの文様が施されるもの(237-2)がある。用いられる貝殻腹縁文はB類が多数を占める。内面に貝殻条痕文が認められるのは1点のみである。

c. 口縁部文様が沈線で構成されるもの(237-7～12、写真158-⑲など)

小破片が多いため口縁形態が特定できる例は少なく、波状口縁である237-12は波頂部が丸みを帯びる。口縁部と胴部の境は段を有するもの(237-11など)と有しないもの(237-12)がある。口唇部は半数程度が平坦であり、口唇部に文様を伴う例はない。口縁部に施される文様は、鋸歯状の沈線が主体であり、多くに刺突文を伴う。刺突文はA類が優勢である。胴部が残存する237-12の胴部文様は貝殻条痕文Bであり、不規則な大振りの波状文様が描出される。内面に貝殻条痕文が認められる例はない。

d. 貝殻押引文もしくは貝殻押引文と貝殻条痕文で構成されるもの(237-13～27、写真158-⑳など)

口縁形状はいずれも波状と推定される。237-21は波頂部が小突起状となる。237-27はやや不均衡な波状である。口縁部と胴部の境には段を有するもの(237-13～19)と、段を有しないもの(237-22～27など)がある。237-26は口縁部が外反する。口唇部は平坦なものも多く、外削ぎ状のもの(237-27など)も見受けられる。口唇部の文様は認められない。口縁部に施される貝殻押引文および貝殻条痕文は、3～5条を一組とし、横位に施文されるもの(237-19など)や鋸歯状や波状のもの(237-13・20など)がある。貝殻条痕文は、施文が浅く一見条痕に見えるものも多い。貝殻条痕文と貝殻押引文が同一工具と思われる例が多く、部分的に条痕文が押引文になる例が見受けられるなど、貝殻押引文と貝殻条痕文は、明確に使い分けがなされていない様相が看取される。胴部上位は無文のもの(237-23など)と横位の貝殻押引文が施されるもの(237-18など)がある。胴部が下位まで残存する例がないため、下半の様相は定かではない。内面に貝殻条痕文が認められるのは4割程度である。

e. 貝殻条痕文のもの(237-28～37、写真158-㉑など)

口縁形状は波状(237-32など)と平口縁(237-29など)があり、237-30は棒状工具による押圧により小波状を呈する。口唇部が平坦なものは少ない。口縁部と胴部の境に段を有するものはなく、いずれも直線的に立ち上がる。貝殻条痕文は3～5条を一組とし、横位(237-30など)のほか、格子状を呈する例(237-29)もある。口縁部文様帯が分離されない例(237-29・30)が多い。内面に貝殻条痕文が認められる例は少数である。

次に本類土器の特徴をまとめる。

【口縁形状】波状が多く、波頂部は一山状が主流であり、二山状、小突起を伴うもの、丸みを帯びるものなどが僅かに認められる。貝殻条痕文を主文様とする土器には、平口縁が一定数見受けられる。【口唇】平坦に面取されるものが多数を占める。口唇に文様が施される例は稀である。【器形】口縁部と胴部の境に段を持つものが2/3程度見受けられる。頸部に低い隆帯を伴うものと口縁部が受口状のも

のがあるが、両者の特徴を弱く合わせ持つものが最も多い。段を持たず、直線的に立ち上がる例は、貝殻押引文や貝殻条痕文が施される土器に比較的多く見受けられる。【文様】口縁部文様は、貝殻腹縁文Bを用いるものが多数を占める。横位に密に施すものが多く、縦位、斜位、羽状は少ない。沈線文を伴う例もある。沈線文を主体とするものも若干量見受けられ、それらには鋸歯状沈線が用いられる傾向がある。そのほか半数程度に刺突文が認められる。貝殻腹縁文が横位に施文されるものには、刺突文Bが散発的に加えられ、貝殻腹縁文が縦位に施文されるものや沈線文が主体のものには刺突文Aが列状に施される傾向が看取される。貝殻押引文と貝殻条痕文は、共に3～5条程度を一組とし、浅く施文される例が多い。貝殻条痕文が部分的に貝殻押引文となるなど、明確に使い分けがなされていない様相が看取される。口縁部文様として一定数見受けられるほか、特に胴部上位に施文される例が多く、鋸歯状を呈するものが特徴的に認められる。胴部は残存していないものが多いため胴部文様の傾向は判然としないが、上位に貝殻押引文や貝殻条痕文が施される例が主流となり、無文となる例は僅かである。胴部中位については、無文のものと、条痕が認められるものがある。また、胴部文様として密な貝殻腹縁連続波状文が2点ある。【内面】貝殻条痕文が1/3に認められる。極めて浅いものもあり、単位は表面文様と同じく3～5条程度を一組とするものが多い。

以上、本類土器は鳥木沢式に類する要素が多く、総体として鳥木沢式に比定されるが、これまで確認されている鳥木沢式とは異なる要素もある。本遺跡で特徴的に認められる要素は次のとおりである。

1. 鳥木沢式では口唇部に刺突を伴う例が多いが、本遺跡例では少数である。2. 貝殻腹縁文の多用は共通の要素であるが、鳥木沢式では縦位・斜位・鋸歯状の施文が主流であるのに対し、本遺跡例では横位施文が主流である。3. 鳥木沢式では特徴のひとつとして胴部の無文化が見られるが、本遺跡出土土器では小片が多く胴部全体の様相は不明であるが、口縁部直下に限って言えば貝殻条痕文や貝殻押引文が伴う例が多数を占める。4. 鋸歯状を呈する貝殻条痕文が特徴的に見受けられ、口縁部直下に施文されるほか、口縁部文様としても用いられる。

2の貝殻腹縁文の横位施文については、蛭沢AⅡ式に特徴的に見られる要素であり(青森市蛭沢遺跡発掘調査団1979)、3については、蛭沢AⅡ式や住吉町下層式で胴部に貝殻条痕文が施される例があることから、これらに類する要素と捉えることができる。これら2点については、鳥木沢式と蛭沢AⅡ式・住吉町下層とが近接した関係にあることが指摘されており(八戸市1986、青森県1999)、その範疇で捉えることが可能である。現状では、1・4の2点についてが、本遺跡土器群の特徴として抽出される。

B. 物見台式に類するもの(237-38・39)

口縁部はやや内湾し、口唇部は平坦なものとそうでないものがある。幾何学的な沈線文の上から、貝殻腹縁文Bを施す。文様の屈曲部には刺突文Aが伴う。237-39-2は幅狭な2条の沈線間に横位の貝殻腹縁文が充填され、小突起が伴う。また貝殻腹縁文Aにより幾何学文が描出される。237-39は内面に貝殻条痕文が認められる。

C. ムシリⅠ式に類するもの(237-40・41、写真158-㉔～㉖)

いずれも矢羽状の短い沈線が数段施文される。237-40・41、写真158-㉖は口唇部に刺突が施され、237-40、写真158-㉔の内面には貝殻条痕文が認められる。

D. 型式を特定しがたいもの(237-42, 238-1)

237-42は内湾する波状口縁である。口縁部が肥厚し、波頂部に対応して短い微隆線が縦位に施さ

れる。肥厚部には縦位の貝殻腹縁文Bが密に施文され、肥厚部下端には刺突文Aが列状に施される。その下には貝殻押引文が口縁形状に沿って施文される。口縁形状や縦位の隆線など、吹切沢式に近い要素も認められるものの、文様要素に大きな隔たりがあることから、特定の型式を与えがたい。

238-1は結節回転文が胴部及び底部直上に施される。縄文は綾杉状縄文と思われる。黄褐色を呈し、焼成は良好である。表館(1)遺跡(青森県教委1989)でまとまって出土している第VI群土器に類する。
E. 底部(237-44~46、写真158-㉑)

いずれも尖底と推定される。237-44は深い貝殻条痕文が施される。237-45・46、写真158-㉑は無文であり、237-45と写真158-㉑はやや乳房状を呈する。

(2) 縄文時代前期前葉の土器(238-2~5・7~9)

238-2・3の口縁部文様はヘラ状工具による連続刺突文であり、238-3には胴部にコンパス文とループ文、238-4・5は口縁部に半截竹管状工具による連続刺突文が施される。238-8は底面にヘラ状工具による同心円状の連続刺突文が施される。238-9は連続押引文により口縁部文様が描出される。胎土に繊維が含まれるのは238-6のみであり、焼成が比較的良好的なものが多い。文様の特徴より238-2~6・8は表館式、238-9は早稲田6類に比定される。

(3) 縄文時代前期中葉~後葉の土器(238-6・10~16)

238-10は口縁部に結節回転文が施され、頸部には隆帯が1条巡る。胴部は単軸絡条体第1類が縦位に施され、底部直上のみ横位である。238-11は口縁部が外反し、胴部下半で窄まる。口縁部にはLRが横位に押圧され、波頂部下には縦位に押圧される。胴部には単軸絡条体第1類と結束第1種羽状縄文が交互に施文される。238-12はRL斜縄文が全面に施文される。238-13は頸部に隆帯が巡り、隆帯上には単軸絡条体第1類が斜位に押圧される。胴部には単軸絡条体第1類が施される。238-6・15・16は枝回転文の可能性のある竹管状刺突が施される個体である。写真158-①は単軸絡条体第1類の押圧により、大振りな鋸歯状文を描出する。238-10・13は円筒下層b1式、238-11は円筒下層c~d1式、238-12は円筒下層a~b1式、238-14は円筒下層b1~b2式、238-15・16は円筒下層a式、写真158-①は円筒下層b1式に比定される。

(4) 縄文時代中期末葉~後期の土器(239-1~241-4)

中期末葉の土器は、深鉢と鉢がある(239-1~241-2)。頸部が括れるものが主流であり、口縁部が内湾するものが1点(240-2)見受けられる。平口縁と波状口縁があり、波状口縁の頂部が捻りのある把手状となるものが一定数見受けられる(239-4・5、写真159-①~④など)。239-1~4・6、240-1・3には沈線で文様が施され、239-3・4・6には鰭状隆帯を伴う。地文縄文と充填縄文があり、縄文原体は単軸絡条体第1類と単節縄文が用いられる。どちらも縦位施文が主流である。その他、短沈線状の刺突が充填される例(239-4・6)もある。底部には笹痕(239-4)や網代痕(241-2)が認められるものが多い。239-7は上面に刺突を伴うボタン状貼り付けが付される。

241-3は後期初頭の壺である。体部と底部は接合せず、図上で復元した。体部には穿孔を伴う把手が2単位付される。器面は丁寧に磨かれ、沈線文が施される。241-4は蓋である。つまみ部が剥離する。後期前葉と推定される。

(5) 弥生時代・続縄文時代の土器(241-4~14)

241-5は壺の体部上位に沈線と列点文が施され、中位以下には丁寧なミガキが施される。弥生時代

中期中葉と考えられる。241-6～11は交互刺突文や沈線による連弧文が施され、単軸絡条体第1類が縦位に施文されるものや沈線内に充填されるものがある。天王山系土器に属する。241-13は高坏、241-14は蓋である。どちらも沈線文であり、241-14には赤彩が施される。これら2点は弥生時代中期と考えられる。241-12は微隆起線と刺突列が施文される。後北C₂・D式に比定される。

(6) 古代の土器(241-15)

241-15は土師器甕の底部である。底面に簾状の圧痕が認められる。

(岩井)

2 石器(第242～246図)

242-1～244-2は剥片石器と石核で、珪質頁岩製のものがほとんどである。黒曜石製の石鏃は産地分析を行った。242-3が深浦八森山群、7が赤井川群と推定された。

244-3～5の磨製石斧は緑色岩製である。245-1～246-2は凹石、敲石、磨石である。245-1の凹石は長さ25.8cmの大形品であり、台石として下に置いて使用された可能性がある。246-5の半円状扁平打製石器は図の上部に挟り部分が形成され、その部分から器表面にかけて黒色付着物が観察できる。246-8～9は石皿であり、9は両面が機能面となっている。

(齋藤・久保)

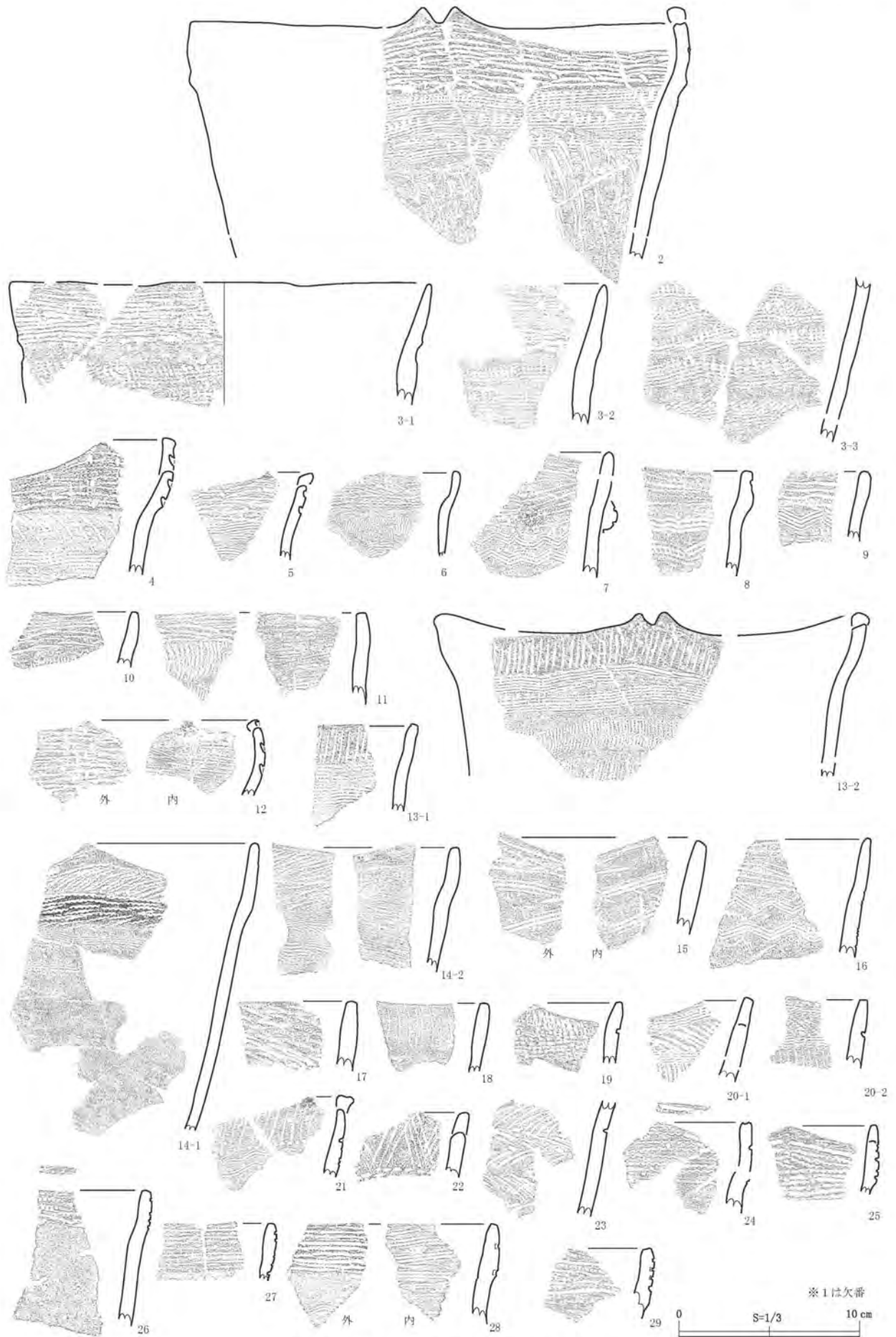
3 土製品(第247図)

遺構外から出土した土製品は19点である。ⅢC～ⅢM・64～77グリッドに集中して出土している。土偶は3点出土し全て図示した。247-1は仮面状に顔が突き出している土偶である。後頭部に棒状工具による横方向の穿孔がある。247-2は脚部である。247-3は手か脚部である。円盤状土製品は6点出土し図示した。247-4・6～9は側面の調整がやや荒く、247-5は丁寧に整形している。三角形土製品は2点出土し全て図示した。247-10は鋭角工具の先端部で、同じ箇所を繰り返し施文している。247-11は一端に穿孔があり、垂飾品の可能性がある。ミニチュア土器は8点出土し5点図示した。247-14は深鉢の底部付近の破片である。247-15は深鉢である。口縁は凹凸がある。247-12は浅鉢である。胎土の収縮劣化が著しい。247-13は深鉢の底部破片である。247-16は脚付である。不明土製品は2点出土し全て図示した。247-17は片面に木葉痕が残存するものである。

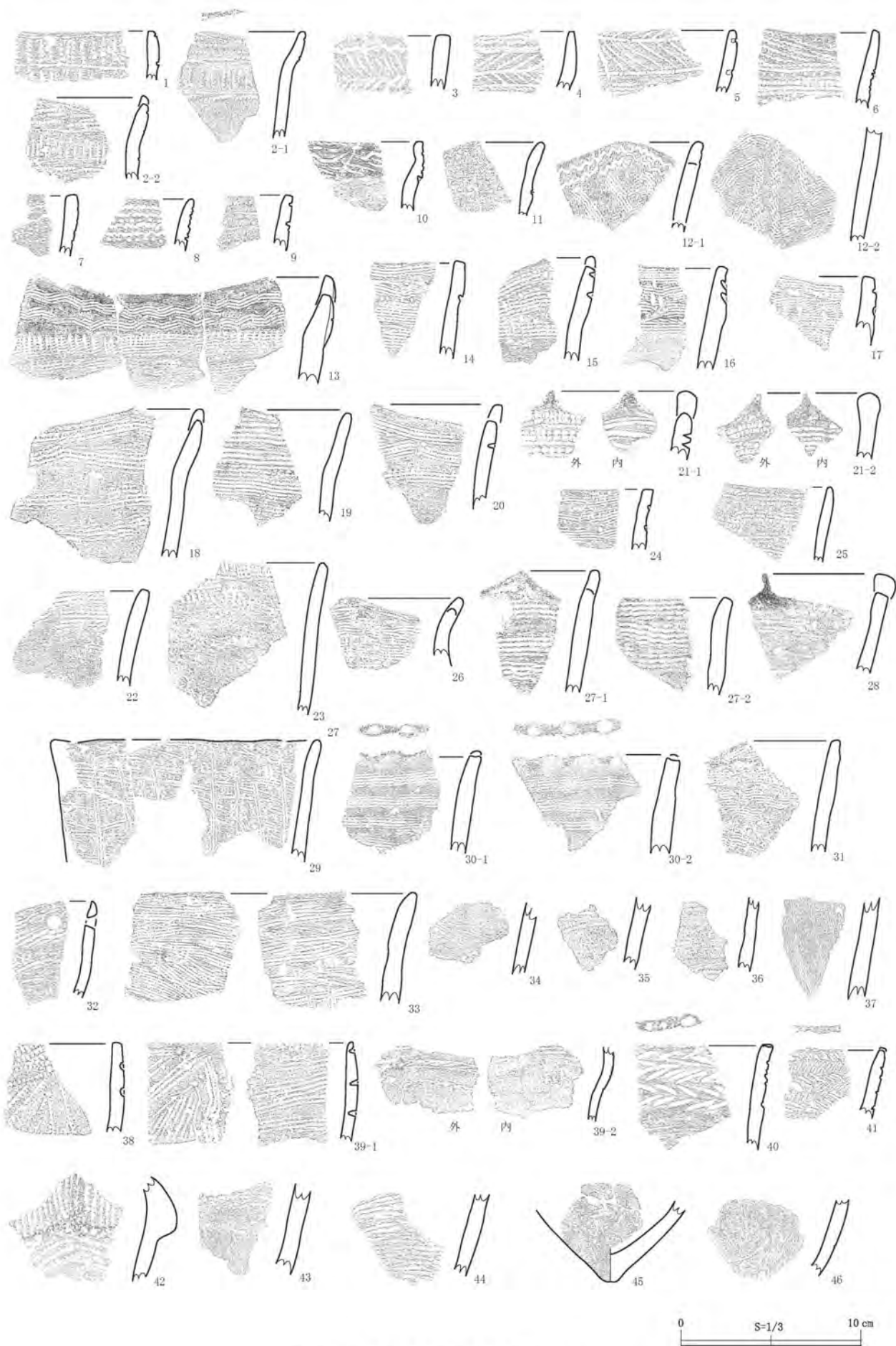
4 石製品(第248・249図)

遺構外から出土した石製品は29点である。ほとんどが調査区南半部からの出土である。うちⅢR～IVB・73～82グリッドに集中する傾向がみられる。石棒は1点出土した。全体が平滑で磨かれており、敲打痕などは観察できなかった。円盤状石製品は8点出土し6点を図示した。ⅢS～IVB・79～82に集中し出土した。248-3は側面をやや丁寧に調整し、円形を作り出している。248-5は全体を荒く打ち欠き整形している。248-1・2・3は板状の石材を円形に加工している。垂飾品は1点出土し図示した。249-1は穿孔部が2か所あり、1か所は未穿孔である。不明石製品は17点出土し、3点図示した。249-2は磨製石斧の転用であり、249-3は拳大の原石に表裏面を作出し、側面を荒く仕上げたものである。249-4は楕円礫を板状に加工し、その一端を鋭角に作出しているものである。他に、図示はしていないが、板状の石材を加工し長方形や楕円形に加工したものがある。

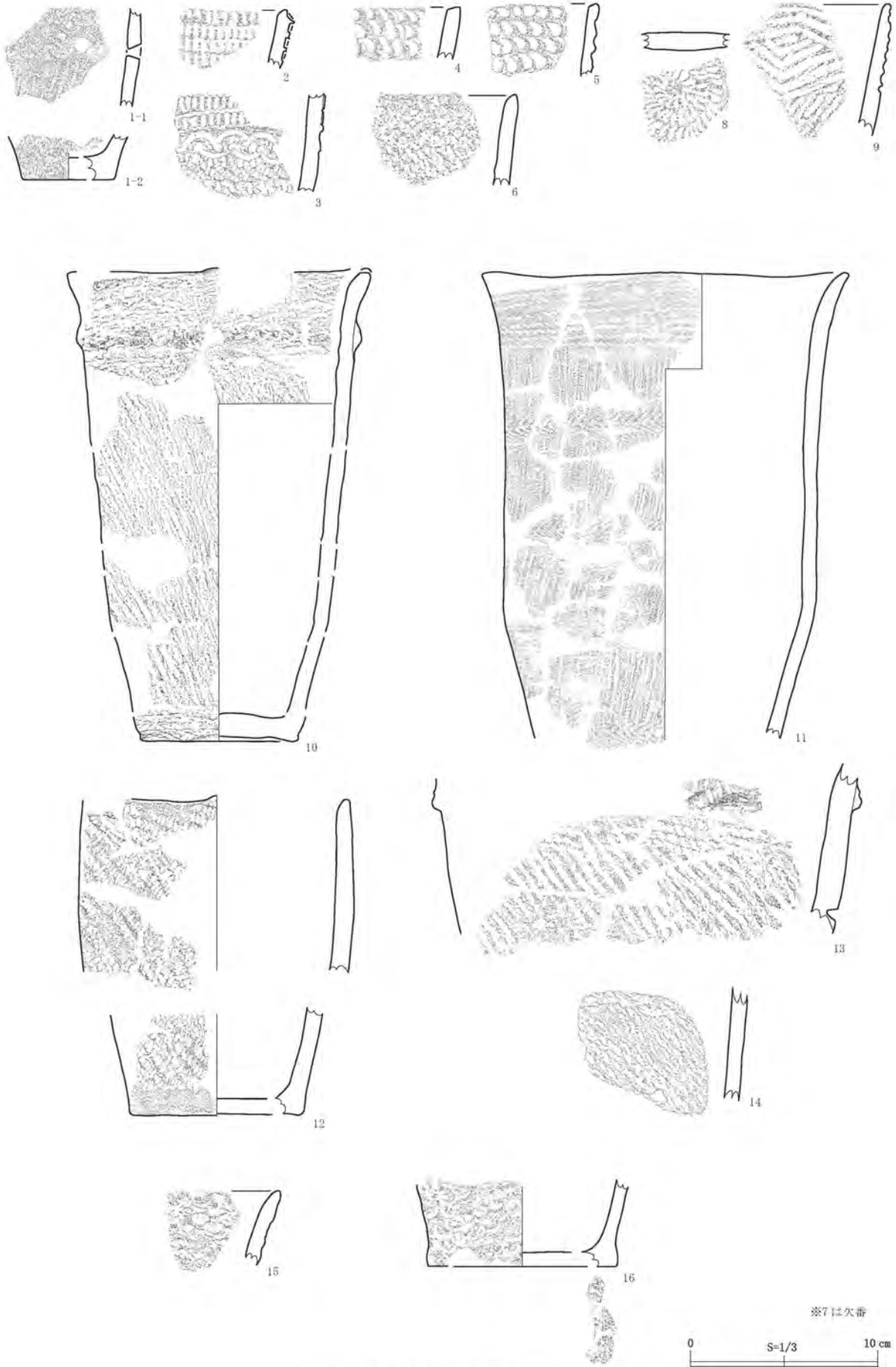
(工藤)



第236図 遺構外出土遺物1 (早期)



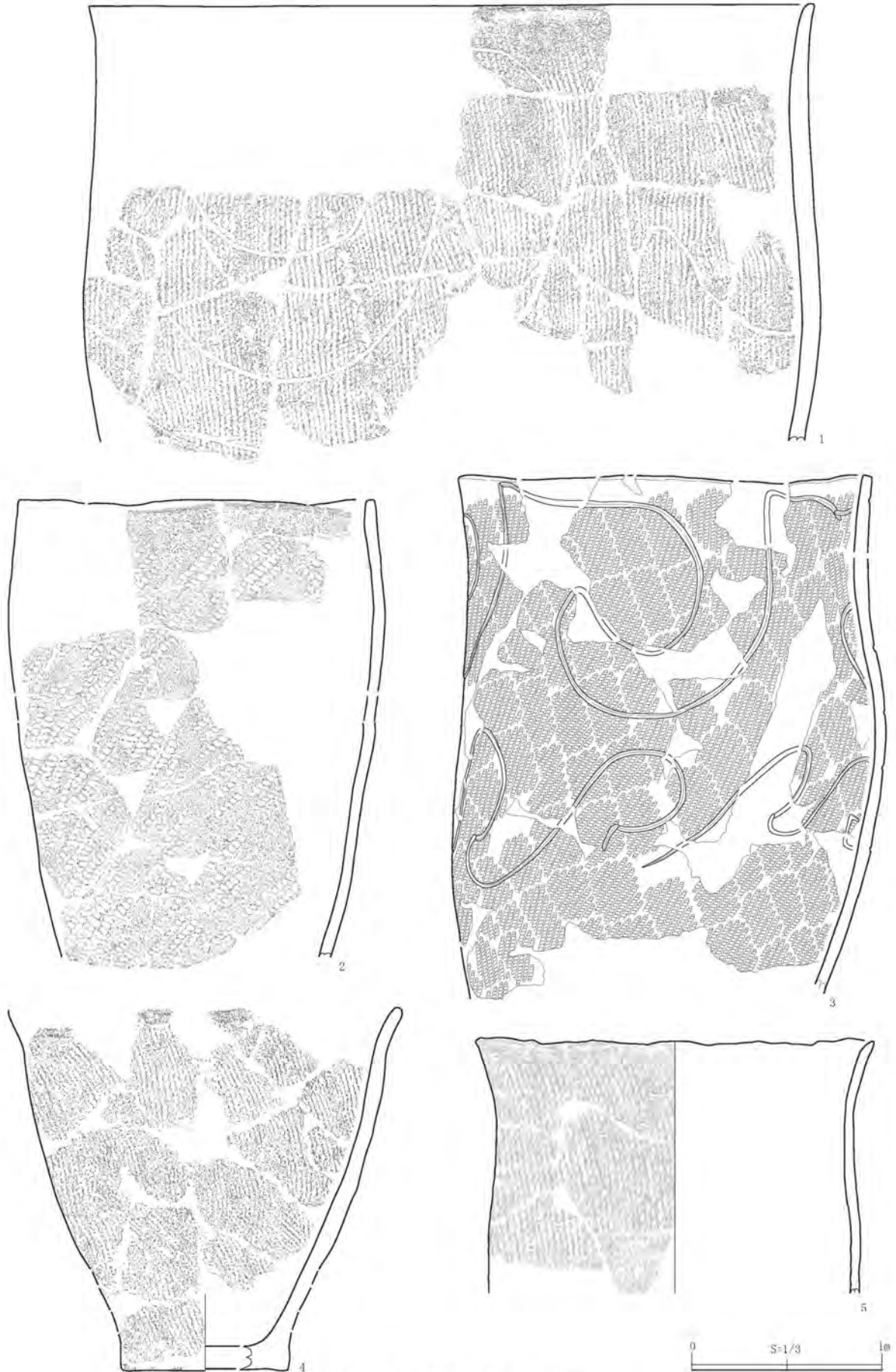
第237図 遺構外出土遺物2 (早期)



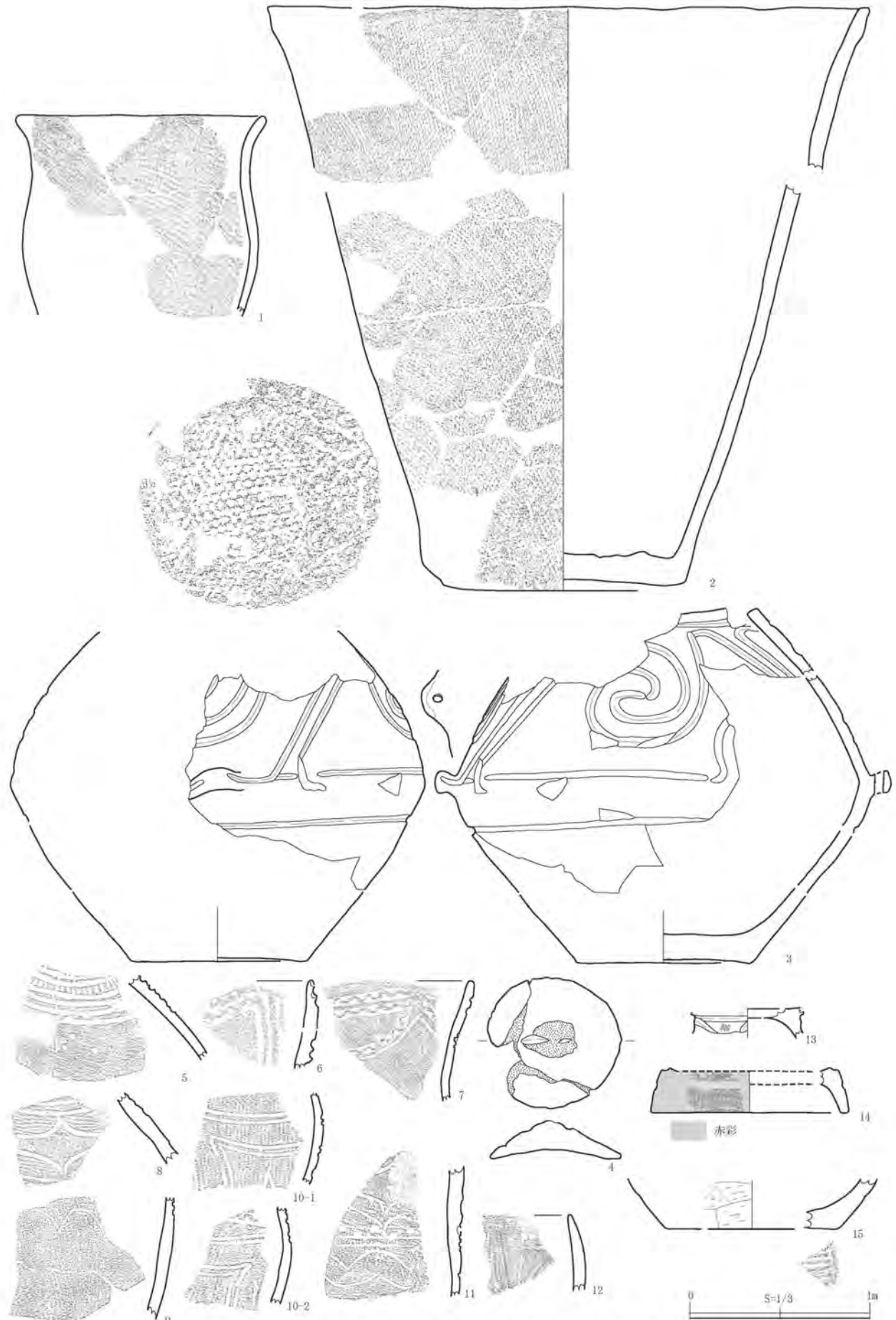
第238図 遺構外出土遺物3 (前期)



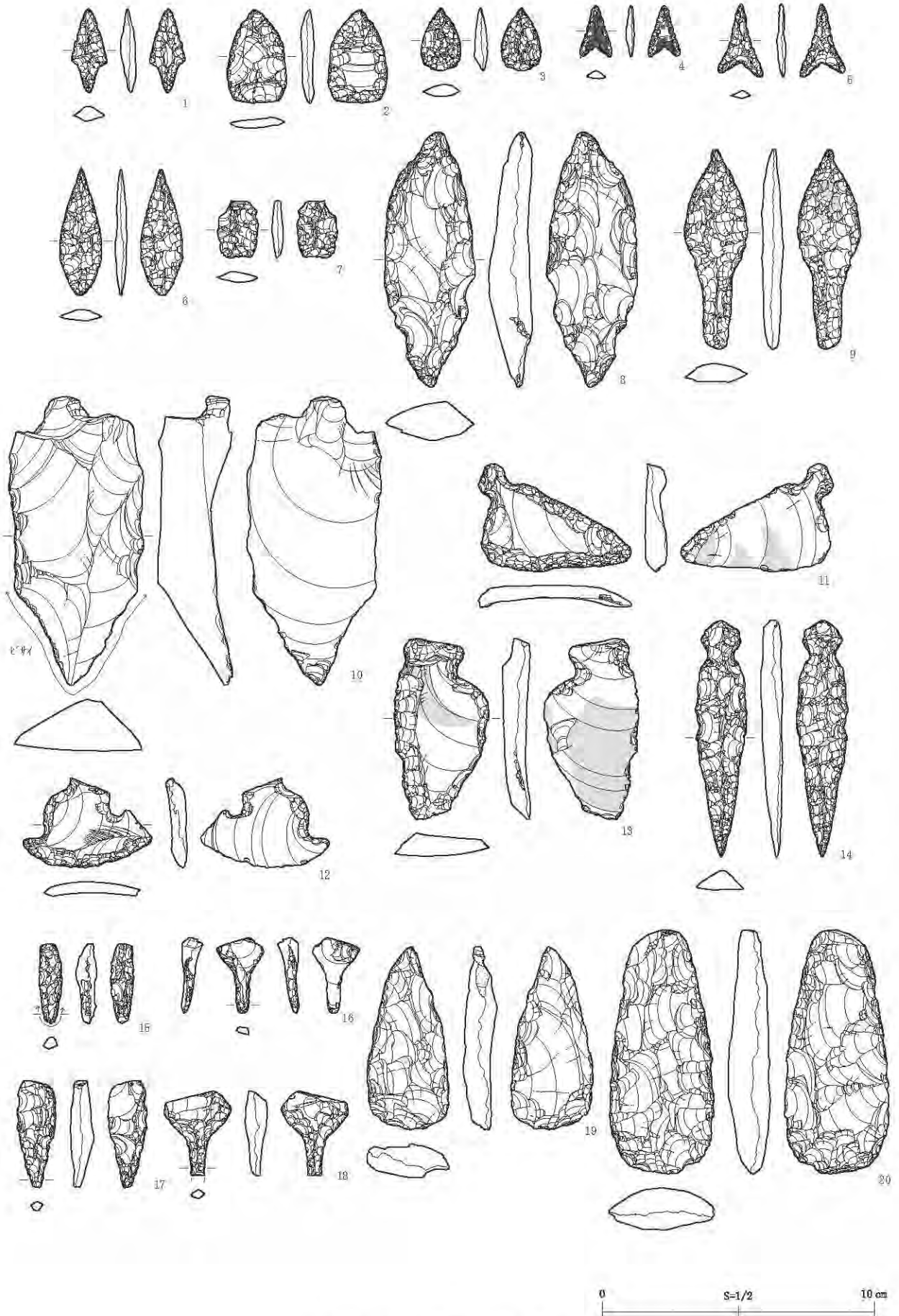
第239図 遺構外出土土器4(中期)



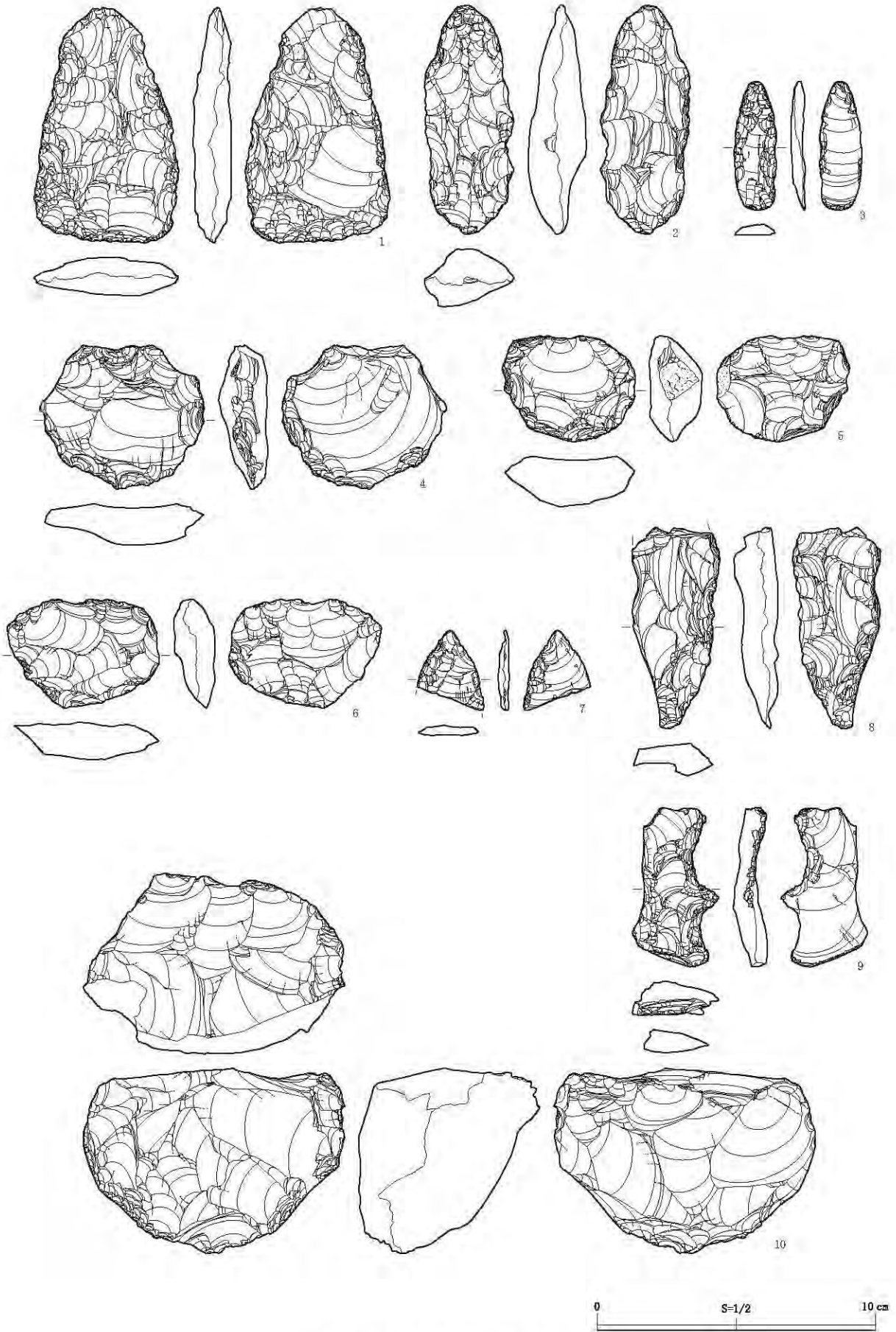
第240図 遺構外出土土器5(中期)



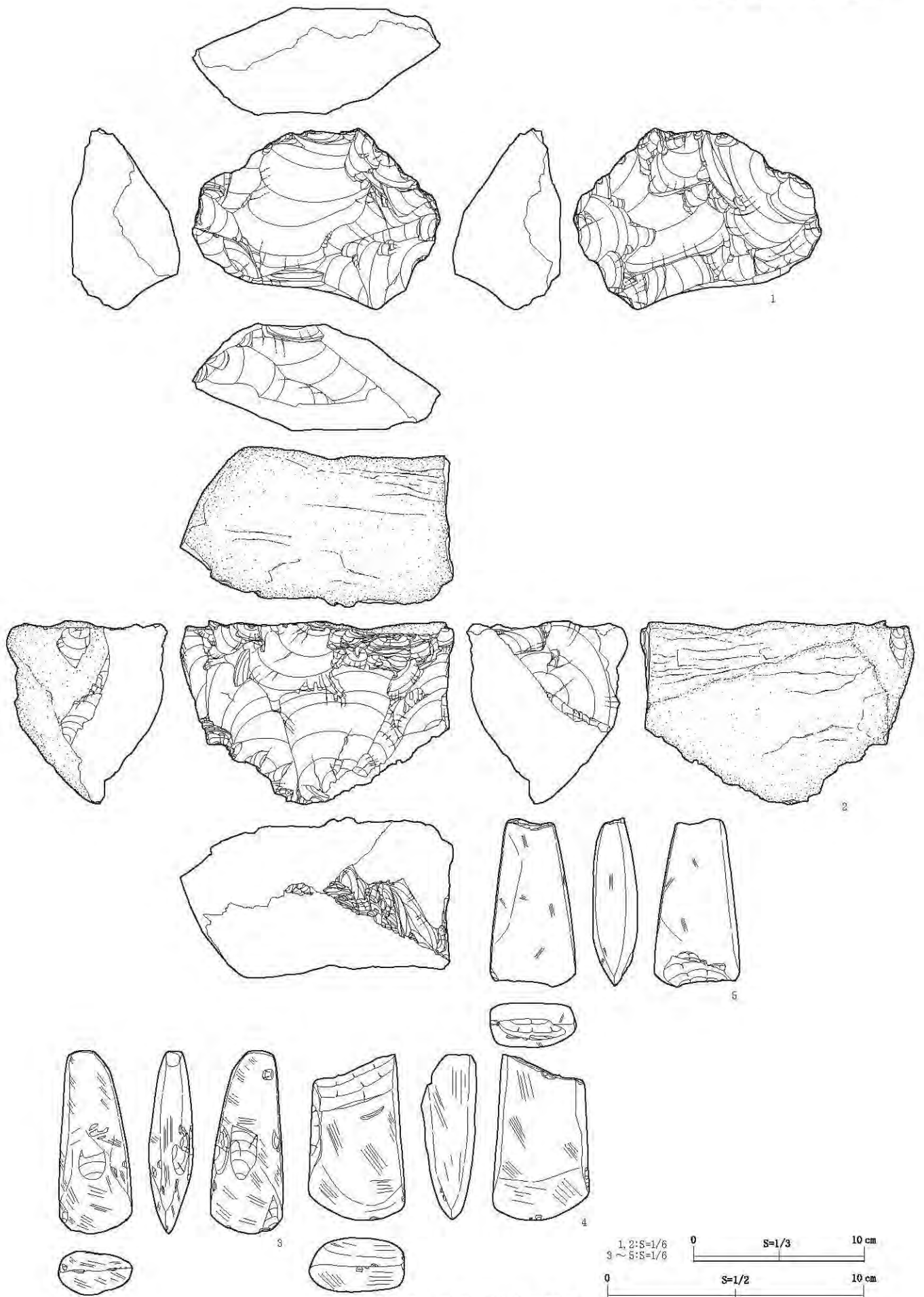
第241図 遺構外出土土器6 (中期, 後期, 弥生, 続縄文, 古代)



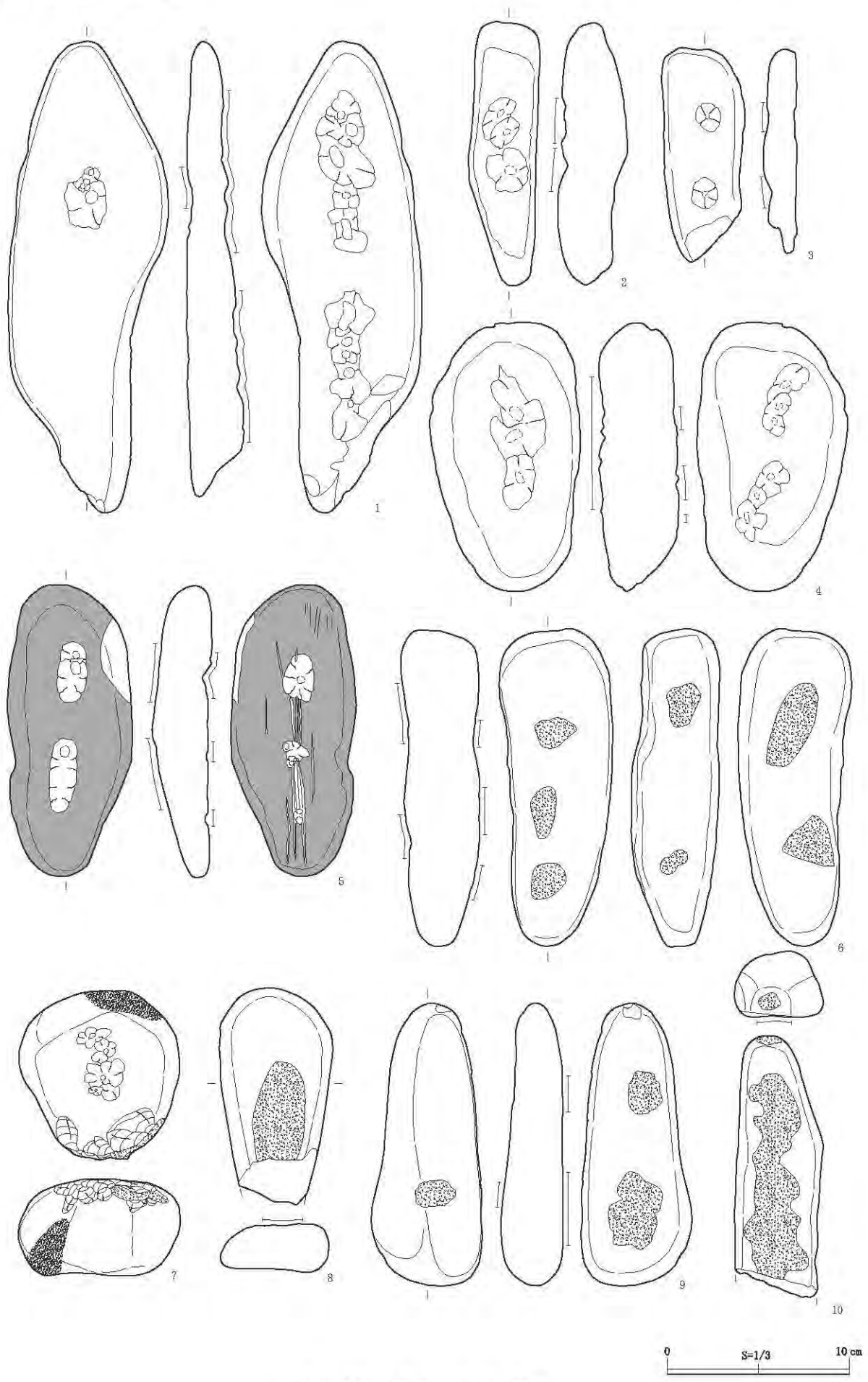
第242図 遺構外出土石器 1



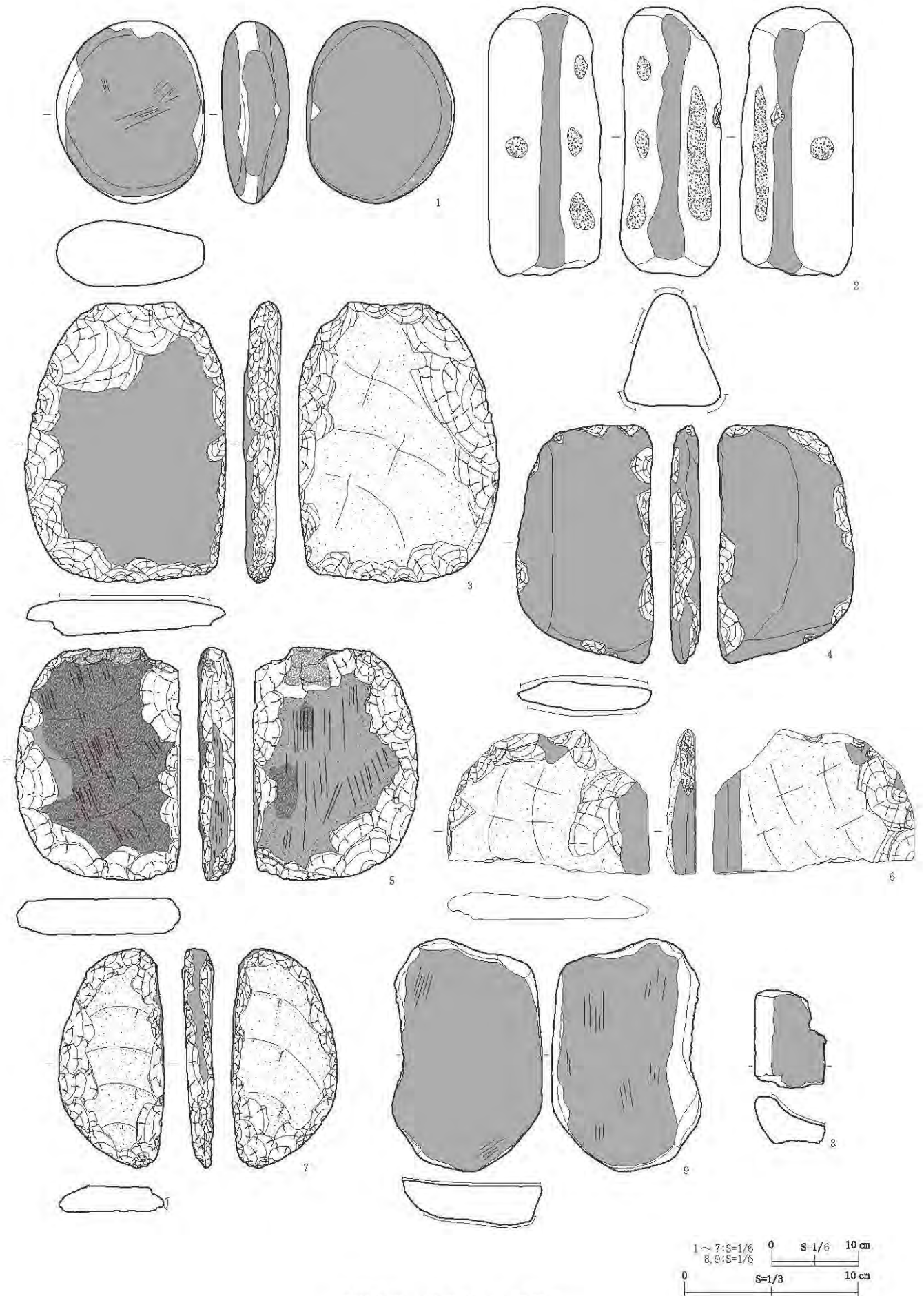
第243図 遺構外出土石器 2



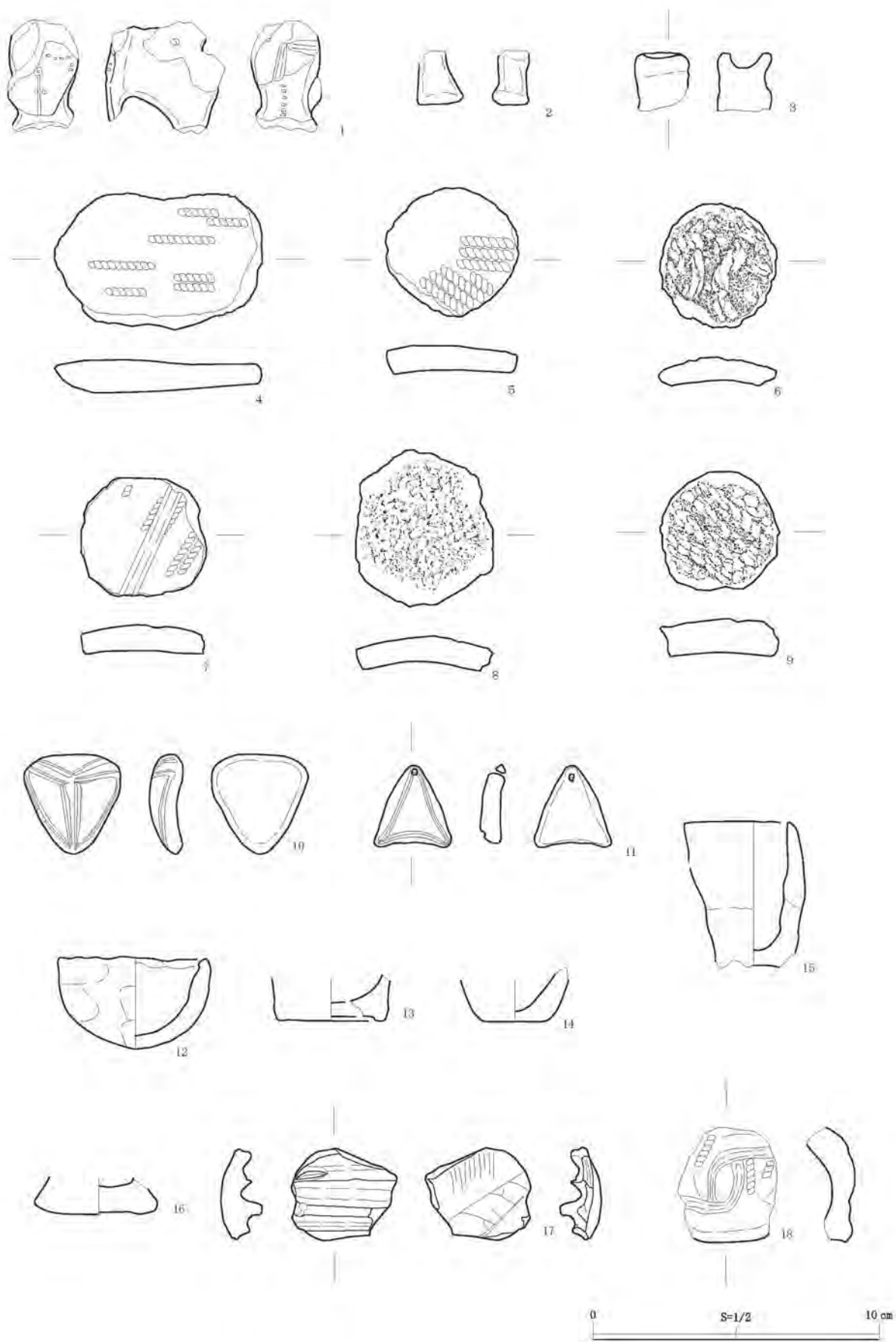
第244図 遺構外出土石器 3



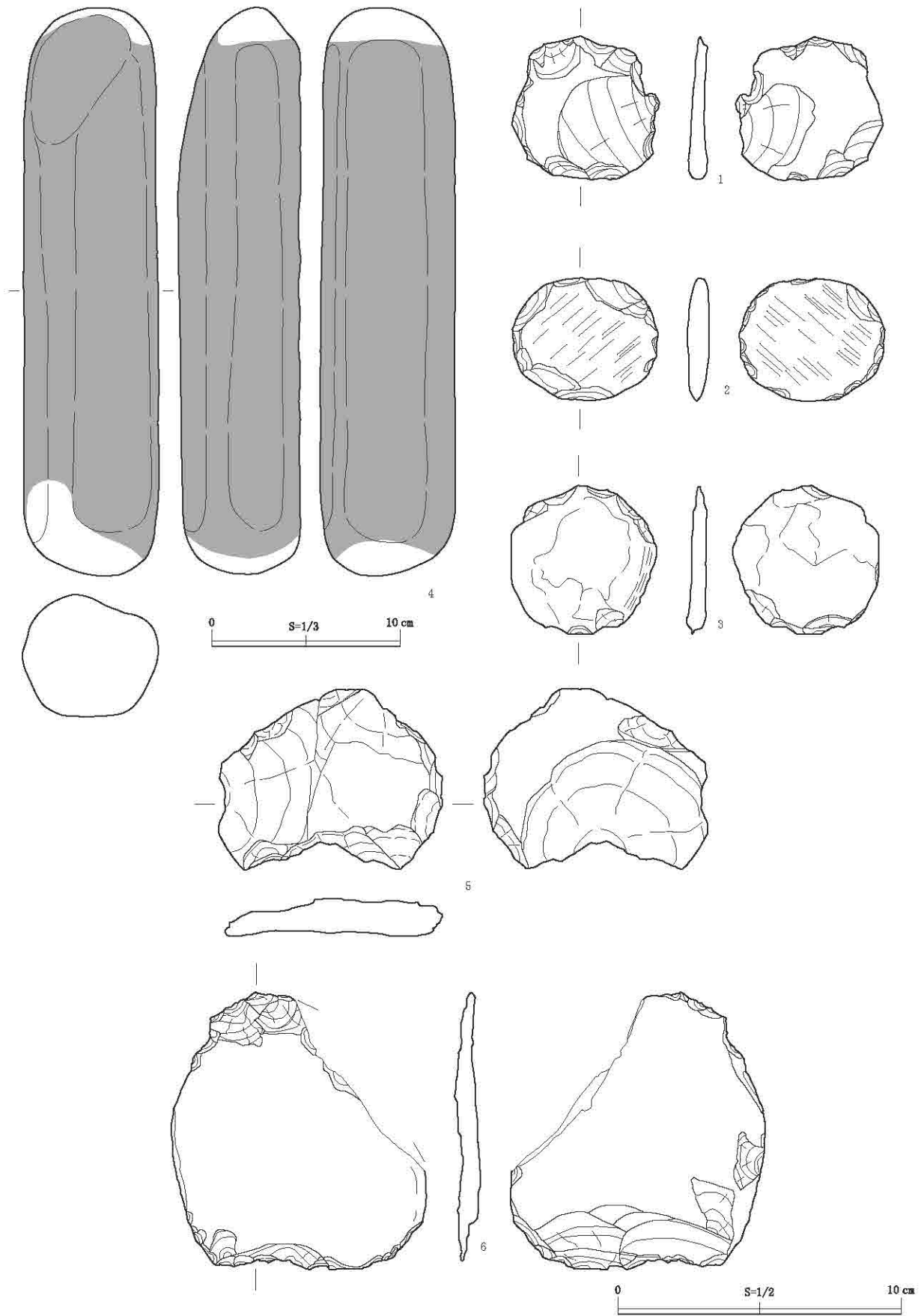
第245図 遺構外出土石器 4



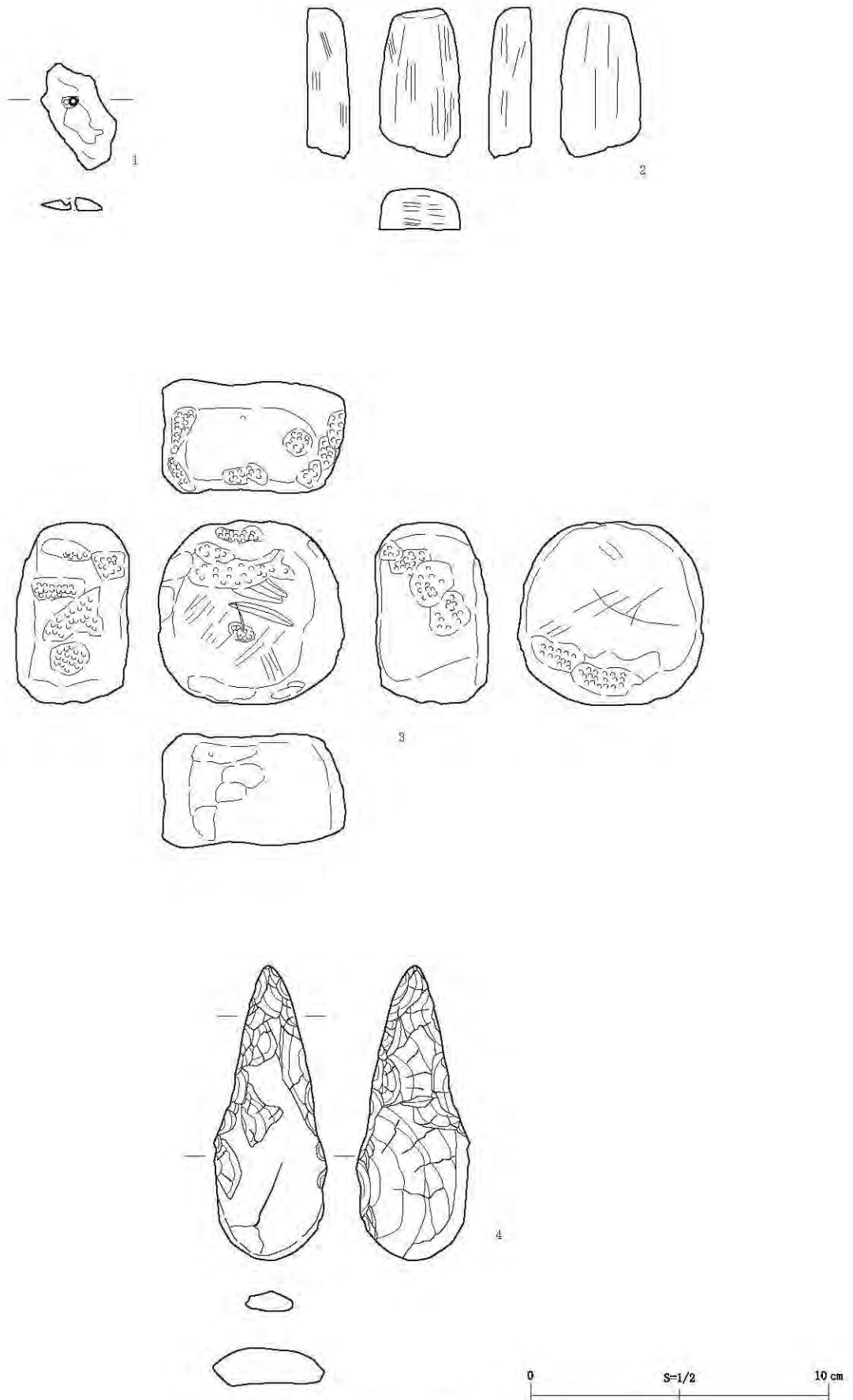
第246図 遺構外出土石器 5



第247図 遺構外出土土製品



第248図 遺構外出土石製品 1



第249図 遺構外出土石製品 2